

深田古墳群 深田遺跡（第2・3次）
双ツ塚西方遺跡 中島遺跡 双ツ塚遺跡（第3次）
金沢川遺跡（第1・2次） 発掘調査報告
～鈴鹿市東玉垣町・柳町・岸岡町所在～

2023（令和5）年3月

三重県埋蔵文化財センター



双ツ塚遺跡（第3次）出土遺物



金沢川遺跡（第2次）S X 80出土遺物

例 言

1. 本書は、平成30年度から令和2年度に実施した農地整備事業（経営体育成型）鈴鹿川沿岸6期地区に伴う深田古墳群・深田遺跡（第2・3次）・双ツ塚西方遺跡・中島遺跡・双ツ塚遺跡（第3次）・金沢川遺跡（第1・2次）の発掘調査報告書である。
2. 調査地は、三重県鈴鹿市東玉垣町・柳町・岸岡町に所在する。
3. 本遺跡の調査は、三重県教育委員会が三重県農林水産部から依頼を受けて労務提供による工事立会として実施した。施工業者は、下記のとおりである。発掘調査及び整理作業の経費は、三重県農林水産部から執行委任を受けて作業を実施した。
〔平成30年度〕 有限会社磯部組 〔平成31（令和元）年度〕 有限会社磯部組、衣笠土木有限会社
〔令和2年度〕 有限会社磯部組、衣笠土木有限会社
4. 各遺跡の発掘調査期間及び面積は、以下のとおりである。
深田1・2号墳、深田遺跡（第2次） 平成30年10月15日～平成30年12月18日 740m²
深田遺跡（第3次） 令和元年11月5日～令和2年1月10日 525m²
双ツ塚西方遺跡 平成30年12月19日～平成31年2月22日 504m²
中島遺跡 令和元年9月2日～令和2年1月20日 1,890m²
双ツ塚遺跡（第3次） 令和2年1月14日～令和2年1月27日 228.06m²
金沢川遺跡（第1次） 令和元年7月16日～令和元年9月3日 343m²
金沢川遺跡（第2次） 令和2年8月4日～令和3年2月4日 2,367m²
5. 調査及び整理作業・報告書作成の体制は、以下のとおりである。
調査主体 三重県教育委員会 調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査研究1課
〔平成30年度〕 深田古墳群、深田遺跡（第2次）、双ツ塚西方遺跡
課長 竹内英昭、主幹兼課長代理 穂積裕昌、課長代理 伊藤文彦、主幹 中井英幸 中村法道、
主査 倉野雅文
〔平成31（令和元）年度〕 深田遺跡（第3次）、中島遺跡、双ツ塚遺跡（第3次）、金沢川遺跡（第1次）
課長 穂積裕昌、主幹兼課長代理 原田恵理子 角正芳浩、主幹 中村法道、主査 倉野雅文、
主任 元座範子、技師 水谷侃司、主事 若井啓熒、研修員 山西隆治
〔令和2年度〕 金沢川遺跡（第2次）
課長 穂積裕昌、主幹兼課長代理 角正芳浩、主幹 中川 明、主査 櫻井拓馬、主任 元座範子、
技師 土橋明梨紗 樋口太地
〔令和3年度〕 整理作業
課長 小濱 学、主幹兼課長代理 原田恵理子、課長代理 櫻井拓馬、主幹 萩原義彦
技師 土橋明梨紗 樋口太地
〔令和4年度〕 整理作業・報告書作成
課長 小濱 学、主幹兼課長代理 原田恵理子、課長代理 櫻井拓馬、主幹 萩原義彦 佐藤嘉晃、
主査 田中久生、主任 長谷川市太郎、技師 土橋明梨紗
6. 当報告書の作成事務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究1課が担当し、本書の執筆は穂積、原田、土橋が行い、文責は目次及び文中に記した。編集は原田・土橋が担当した。遺構の写真撮影は各調査担当が、出土遺物の写真撮影は田中が行った。また、出土遺物の集合写真撮影は田中が行い、佐藤・長谷川・土橋が補佐した。
7. 調査図面・写真・出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターにて保管している。

凡 例

1. 本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1:25,000数値地図「鈴鹿」、三重県共有デジタル図などの地図類を用いている。なお、三重県共有デジタル地図は、三重県市町総合事務組合管理者の承認を得て使用している（令和4年4月6日付三総合地第1号）。範囲確認調査坑位置図及び調査区位置図に使用した事業計画図は三重県農林水産部の提供による。
2. 本書で用いた座標は世界測地系に基づくものである。方位は第VI座標系の座標北で示した。
3. 標高は東京湾平均海面（T.P.）を基準とした。
4. 本書で用いる遺構略号は以下のとおりである。
SA：柱列・柵列 SD：溝・周溝 SE：井戸 SF：カマド SH：堅穴建物
SK：土坑 SR：流路 SX：墓 SZ：落ち込み・不明遺構 Pit：柱穴
5. 土色の表記は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1967年初版）に拠った。
6. 遺物実測図の縮尺は基本的に1：4とした。それ以外の縮尺の場合は、別途明記した。
7. 註は各章の文末に付し、参考文献も註に記した。
8. 写真図版中の遺物に付した番号は、各遺物の報告番号と対応する。遺物写真は縮尺不同である。

目次

第Ⅰ章	前言	……………	(原田恵理子)	…	1
第1節	調査の経緯と経過				
第2節	調査の方法				
第Ⅱ章	位置と環境	……………	(穂積 裕昌)	…	5
第1節	地理的環境				
第2節	歴史的環境				
第Ⅲ章	深田古墳群、深田遺跡 (第2・3次)	……………	(穂積裕昌・原田恵理子)	…	11
第1節	調査の概要				
第2節	遺構				
第3節	遺物				
第4節	小結				
第Ⅳ章	双ツ塚西方遺跡	……………	(穂積 裕昌)	…	84
第1節	調査の概要				
第2節	遺構				
第3節	遺物				
第4節	小結				
第Ⅴ章	中島遺跡	……………	(原田恵理子)	…	96
第1節	調査の概要				
第2節	遺構				
第3節	遺物				
第4節	小結				
第Ⅵ章	双ツ塚遺跡 (第3次)	……………	(原田恵理子)	…	176
第1節	調査の概要				
第2節	遺構				
第3節	遺物				
第4節	小結				
第Ⅶ章	金沢川遺跡 (第1・2次)	……………	(土橋明梨紗)	…	194
第1節	調査の概要				
第2節	遺構				
第3節	遺物				
第4節	小結				
第Ⅷ章	自然科学分析	……………			241
第1節	中島遺跡・深田遺跡 (第3次) にかかる微化石分析 (一般社団法人 文化財科学研究センター)				
第2節	金沢川遺跡 (第1次) ・中島遺跡における樹種同定・昆虫同定 (バリノ・サーヴェイ株式会社)				
第3節	金沢川遺跡 (第2次) における樹種同定及び植物遺体同定 (一般社団法人 文化財科学研究センター)				
第4節	金沢川遺跡 (第2次) 出土鉄滓の調査 (日鉄テクノロジー株式会社 九州営業所)				
第Ⅸ章	総括	……………	(原田恵理子)	…	263

挿図目次

第 I-1 図 調査区位置図1	・・・	1	第Ⅲ-45 図 深田遺跡(第3次)D区遺物実測図3	・・・	63
第 I-2 図 調査区位置図2	・・・	1	第Ⅲ-46 図 深田遺跡(第3次)D区遺物実測図4	・・・	64
第 I-3 図 範囲確認調査坑位置図1	・・・	3	第Ⅲ-47 図 深田古墳群の古墳想定復元	・・・	68
第 I-4 図 範囲確認調査坑位置図2	・・・	3	第Ⅲ-48 図 参考；寺谷古墳群の古墳配置	・・・	68
第Ⅱ-1 図 土地条件図	・・・	6	第Ⅳ-1 図 双ツ塚西方遺跡平面図1	・・・	85
第Ⅱ-2 図 遺跡位置図	・・・	8	第Ⅳ-2 図 双ツ塚西方遺跡平面図2	・・・	86
第Ⅲ-1 図 深田遺跡(第2次)A区平面図1	・・・	12	第Ⅳ-3 図 双ツ塚西方遺跡平面図3	・・・	87
第Ⅲ-2 図 深田遺跡(第2次)A区平面図2	・・・	13	第Ⅳ-4 図 双ツ塚西方遺跡平面図4	・・・	88
第Ⅲ-3 図 深田遺跡(第2次)A区平面図3	・・・	14	第Ⅳ-5 図 双ツ塚西方遺跡土層断面図1	・・・	89
第Ⅲ-4 図 深田遺跡(第2次)A区土層断面図1	・・・	15	第Ⅳ-6 図 双ツ塚西方遺跡土層断面図2	・・・	90
第Ⅲ-5 図 深田遺跡(第2次)A区土層断面図2	・・・	16	第Ⅳ-7 図 双ツ塚西方遺跡 S Z 2, S K 3~7 平面図・断面図	・・・	91
第Ⅲ-6 図 深田遺跡(第2次)A区 S D 8 平面図・断面図・土層断面図	・・・	17	第Ⅳ-8 図 双ツ塚西方遺跡遺物実測図	・・・	92
第Ⅲ-7 図 深田遺跡(第2次)A区 S D 7・8 平面図・土層断面図	・・・	18	第Ⅴ-1 図 中島遺跡A区平面図	・・・	97
第Ⅲ-8 図 深田遺跡(第2次)A区 S K 10・S D 9 平面図・土層断面図	・・・	19	第Ⅴ-2 図 中島遺跡A区土層断面図1	・・・	98
第Ⅲ-9 図 深田遺跡(第2次)B区平面図1	・・・	20	第Ⅴ-3 図 中島遺跡A区土層断面図2	・・・	99
第Ⅲ-10 図 深田遺跡(第2次)B区平面図2、S K 24, S D 21・22, B 7 Pit 1 平面図・土層断面図	・・・	21	第Ⅴ-4 図 中島遺跡B区平面図1	・・・	100
第Ⅲ-11 図 深田遺跡(第2次)B区土層断面図1	・・・	22	第Ⅴ-5 図 中島遺跡B区平面図2	・・・	101
第Ⅲ-12 図 深田遺跡(第2次)B区土層断面図2	・・・	23	第Ⅴ-6 図 中島遺跡B区土層断面図1	・・・	102
第Ⅲ-13 図 深田遺跡(第2次)C区平面図1	・・・	24	第Ⅴ-7 図 中島遺跡B区土層断面図2	・・・	103
第Ⅲ-14 図 深田遺跡(第2次)C区平面図2、S K 27 平面図・土層断面図	・・・	25	第Ⅴ-8 図 中島遺跡B区 S F 137 周辺図	・・・	104
第Ⅲ-15 図 深田遺跡(第2次)C区土層断面図1	・・・	26	第Ⅴ-9 図 中島遺跡C区平面図1	・・・	105
第Ⅲ-16 図 深田遺跡(第2次)C区土層断面図2	・・・	27	第Ⅴ-10 図 中島遺跡C区平面図2、S K 204・211, S D 209 平面図・断面図	・・・	106
第Ⅲ-17 図 深田遺跡(第3次)D区平面図1	・・・	30	第Ⅴ-11 図 中島遺跡C区土層断面図1	・・・	107
第Ⅲ-18 図 深田遺跡(第3次)D区平面図2	・・・	31	第Ⅴ-12 図 中島遺跡C区土層断面図2	・・・	108
第Ⅲ-19 図 深田遺跡(第3次)D区平面図3	・・・	32	第Ⅴ-13 図 中島遺跡D区平面図1	・・・	109
第Ⅲ-20 図 深田遺跡(第3次)D区平面図4	・・・	33	第Ⅴ-14 図 中島遺跡D区平面図2	・・・	110
第Ⅲ-21 図 深田遺跡(第3次)D区土層断面図1	・・・	34	第Ⅴ-15 図 中島遺跡D区土層断面図1	・・・	111
第Ⅲ-22 図 深田遺跡(第3次)D区土層断面図2	・・・	35	第Ⅴ-16 図 中島遺跡D区土層断面図2	・・・	112
第Ⅲ-23 図 深田遺跡(第3次)D区土層断面図3	・・・	36	第Ⅴ-17 図 中島遺跡D区 S H 330, S E 322, S K 323 平面図・断面図	・・・	113
第Ⅲ-24 図 深田遺跡(第3次)D区 S H 41・49・58・75, S K 57 平面図、S K 57 遺物出土状況図	・・・	37	第Ⅴ-18 図 中島遺跡E区平面図1	・・・	115
第Ⅲ-25 図 深田遺跡(第3次)D区 S H 61・66, S K 64, S Z 67 平面図・断面図	・・・	38	第Ⅴ-19 図 中島遺跡E区平面図2	・・・	116
第Ⅲ-26 図 深田遺跡(第3次)D区 S H 68・76 平面図・断面図	・・・	39	第Ⅴ-20 図 中島遺跡E区土層断面図1	・・・	117
第Ⅲ-27 図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図1	・・・	41	第Ⅴ-21 図 中島遺跡E区土層断面図2	・・・	118
第Ⅲ-28 図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図2	・・・	42	第Ⅴ-22 図 中島遺跡E区 S K 406・420・421・423 平面図・断面図	・・・	119
第Ⅲ-29 図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図3	・・・	43	第Ⅴ-23 図 中島遺跡F区平面図・土層断面図	・・・	120
第Ⅲ-30 図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図4	・・・	44	第Ⅴ-24 図 中島遺跡G区平面図1	・・・	121
第Ⅲ-31 図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図5	・・・	46	第Ⅴ-25 図 中島遺跡G区平面図2	・・・	122
第Ⅲ-32 図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図6	・・・	47	第Ⅴ-26 図 中島遺跡G区平面図3	・・・	123
第Ⅲ-33 図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図7	・・・	48	第Ⅴ-27 図 中島遺跡G区土層断面図1	・・・	124
第Ⅲ-34 図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図8	・・・	50	第Ⅴ-28 図 中島遺跡G区土層断面図2	・・・	125
第Ⅲ-35 図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図9	・・・	51	第Ⅴ-29 図 中島遺跡G区 S E 613, S K 607~611 平面図・断面図	・・・	126
第Ⅲ-36 図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図10	・・・	52	第Ⅴ-30 図 中島遺跡H区平面図1	・・・	127
第Ⅲ-37 図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図11	・・・	53	第Ⅴ-31 図 中島遺跡H区平面図2	・・・	128
第Ⅲ-38 図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図12	・・・	55	第Ⅴ-32 図 中島遺跡H区平面図3	・・・	129
第Ⅲ-39 図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図13	・・・	56	第Ⅴ-33 図 中島遺跡H区土層断面図1	・・・	130
第Ⅲ-40 図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図14	・・・	58	第Ⅴ-34 図 中島遺跡H区土層断面図2	・・・	131
第Ⅲ-41 図 深田遺跡(第2次)B区遺物実測図	・・・	59	第Ⅴ-35 図 中島遺跡A区遺物実測図	・・・	132
第Ⅲ-42 図 深田遺跡(第2次)C区遺物実測図	・・・	60	第Ⅴ-36 図 中島遺跡B区遺物実測図1	・・・	133
第Ⅲ-43 図 深田遺跡(第3次)D区遺物実測図1	・・・	61	第Ⅴ-37 図 中島遺跡B区遺物実測図2	・・・	134
第Ⅲ-44 図 深田遺跡(第3次)D区遺物実測図2	・・・	62	第Ⅴ-38 図 中島遺跡B区遺物実測図3	・・・	135
			第Ⅴ-39 図 中島遺跡B区遺物実測図4	・・・	136
			第Ⅴ-40 図 中島遺跡C区遺物実測図1	・・・	137
			第Ⅴ-41 図 中島遺跡C区遺物実測図2	・・・	138

第V-42図	中島遺跡C区遺物実測図3	・・・	139	・・・	211		
第V-43図	中島遺跡D区遺物実測図1	・・・	141	第VII-16図	金沢川遺跡(第2次)3区土層断面図2・柱状図	・・・	212
第V-44図	中島遺跡D区遺物実測図2	・・・	142	第VII-17図	金沢川遺跡(第2次)3区S X80平面図・土層断面図	・・・	213
第V-45図	中島遺跡D区遺物実測図3	・・・	143	第VII-18図	金沢川遺跡(第2次)4区平面図1・土層断面図1	・・・	214
第V-46図	中島遺跡D区遺物実測図4	・・・	144	第VII-19図	金沢川遺跡(第2次)4区平面図2・土層断面図2	・・・	215
第V-47図	中島遺跡D区遺物実測図5	・・・	145	第VII-20図	金沢川遺跡(第2次)5区平面図・柱状図	・・・	216
第V-48図	中島遺跡D区遺物実測図6	・・・	146	第VII-21図	金沢川遺跡(第2次)6区平面図1	・・・	218
第V-49図	中島遺跡D区遺物実測図7	・・・	147	第VII-22図	金沢川遺跡(第2次)6区平面図2・土層断面図1	・・・	219
第V-50図	中島遺跡D区遺物実測図8	・・・	148	第VII-23図	金沢川遺跡(第2次)6区土層断面図2	・・・	220
第V-51図	中島遺跡E区遺物実測図1	・・・	149	第VII-24図	金沢川遺跡(第2次)7区平面図	・・・	221
第V-52図	中島遺跡E区遺物実測図2	・・・	150	第VII-25図	金沢川遺跡(第2次)7区土層断面図	・・・	222
第V-53図	中島遺跡E区遺物実測図3	・・・	151	第VII-26図	金沢川遺跡(第2次)8区平面図・柱状図	・・・	223
第V-54図	中島遺跡E区遺物実測図4	・・・	152	第VII-27図	金沢川遺跡範囲確認調査遺物実測図	・・・	225
第V-55図	中島遺跡F区遺物実測図	・・・	153	第VII-28図	金沢川遺跡(第1次)遺物実測図1	・・・	226
第V-56図	中島遺跡G区遺物実測図	・・・	154	第VII-29図	金沢川遺跡(第1次)遺物実測図2	・・・	227
第V-57図	中島遺跡H区遺物実測図	・・・	156	第VII-30図	金沢川遺跡(第1次)遺物実測図3	・・・	228
第VI-1図	双ツ塚遺跡(第3次) a区平面図1	・・・	177	第VII-31図	金沢川遺跡(第2次)遺物実測図1	・・・	229
第VI-2図	双ツ塚遺跡(第3次) a区平面図2	・・・	178	第VII-32図	金沢川遺跡(第2次)遺物実測図2	・・・	230
第VI-3図	双ツ塚遺跡(第3次) a区土層断面図	・・・	179	第VII-33図	金沢川遺跡(第2次)遺物実測図3	・・・	231
第VI-4図	双ツ塚遺跡(第3次) a区S K5平面図・断面図	・・・	180	第VII-34図	金沢川遺跡(第2次)遺物実測図4	・・・	232
第VI-5図	双ツ塚遺跡(第3次) b区平面図・土層断面図	・・・	181	第VII-35図	金沢川遺跡(第2次)6区周辺表採遺物	・・・	232
第VI-6図	双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測図1	・・・	182	第VIII-1図	中島遺跡・深田遺跡(第3次)における花粉ダイアグラム	・・・	243
第VI-7図	双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測図2	・・・	183	第VIII-2図	中島遺跡・深田遺跡(第3次)における樹木花粉ダイアグラム	・・・	243
第VI-8図	双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測図3	・・・	184	第VIII-3図	中島遺跡・深田遺跡(第3次)の花粉	・・・	244
第VI-9図	双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測図4	・・・	185	第VIII-4図	中島遺跡・深田遺跡(第3次)における植物珪酸体分析結果	・・・	246
第VI-10図	双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測図5	・・・	186	第VIII-5図	中島遺跡・深田遺跡(第3次)における植物珪酸体(プラント・オパール)	・・・	247
第VI-11図	双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測図6	・・・	187	第VIII-6図	中島遺跡・深田遺跡(第3次)における主要珪藻ダイアグラム	・・・	251
第VI-12図	双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測図7	・・・	188	第VIII-7図	中島遺跡・深田遺跡(第3次)の珪藻	・・・	251
第VI-13図	双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測図8	・・・	189	第VIII-8図	金沢川遺跡(第1次)の木材	・・・	255
第VII-1図	金沢川遺跡(第1次) A区平面図・土層断面図	・・・	195	第VIII-9図	中島遺跡の木材	・・・	255
第VII-2図	金沢川遺跡(第1次) S K1・12平面図・土層断面図	・・・	196	第VIII-10図	中島遺跡の炭化材	・・・	255
第VII-3図	金沢川遺跡(第1次) B区平面図	・・・	197	第VIII-11図	中島遺跡の昆虫	・・・	255
第VII-4図	金沢川遺跡(第1次) B区土層断面図	・・・	198	第VIII-12図	金沢川遺跡(第2次)の木材	・・・	257
第VII-5図	金沢川遺跡(第1次) C区平面図・土層断面図	・・・	199	第VIII-13図	金沢川遺跡(第2次)の植物遺体	・・・	257
第VII-6図	金沢川遺跡(第2次) 1区平面図・柱状図	・・・	201	第VIII-14図	金沢川遺跡(第2次)の椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査1	・・・	260
第VII-7図	金沢川遺跡(第2次) 1・2区平面図1	・・・	202	第VIII-15図	金沢川遺跡(第2次)の椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査2	・・・	260
第VII-8図	金沢川遺跡(第2次) 1・2区平面図2	・・・	203	第IX-1図	各遺跡調査概略図1	・・・	264
第VII-9図	金沢川遺跡(第2次) 1・2区平面図3・土層断面図1	・・・	204	第IX-2図	各遺跡調査概略図2	・・・	265
第VII-10図	金沢川遺跡(第2次) 1・2区土層断面図2	・・・	205				
第VII-11図	金沢川遺跡(第2次) 2区平面図1	・・・	206				
第VII-12図	金沢川遺跡(第2次) 2区平面図2・柱状図	・・・	207				
第VII-13図	金沢川遺跡(第2次) 3区平面図1	・・・	209				
第VII-14図	金沢川遺跡(第2次) 3区平面図2	・・・	210				
第VII-15図	金沢川遺跡(第2次) 3区平面図3・土層断面図1	・・・	211				

写真図版目次

巻頭写真図版	上、双ツ塚遺跡(第3次)出土遺物			写真図版4	深田遺跡(第2次) S D2, S D3, S D4, S D6, S D12, S D13	・・・	270
	下、金沢川遺跡(第2次) S X80出土遺物			写真図版5	深田遺跡(第2次) B4-7, B8-9, S D17, S Z16遺物出土状況, S Z16	・・・	271
写真図版1	深田遺跡(第2次) A区全景, A区全景, S D8, S D8	・・・	267	写真図版6	深田遺跡(第2次) S D18・B7Pit1, S D18・B7Pit1, S D19, S D20, S D21, S D21	・・・	272
写真図版2	深田遺跡(第2次) S D8遺物出土状況, S D8遺物出土状況	・・・	268	写真図版7	深田遺跡(第2次) S D21・22, S K24, S K24, S Z23	・・・	273
写真図版3	深田遺跡(第2次) S D8完掘状況, S D9, S K10検出状況, S D9遺物出土状況, S K10	・・・	269				

写真図版8 深田遺跡(第2次) C5-12, C14-17, C21-25, S D25・S Z 26	・ ・ ・ 274	写真図版44 中島遺跡F区全景, F区全景	・ ・ ・ 310
写真図版9 深田遺跡(第2次) S D25, S K27, S R28, S K27, S R28	・ ・ ・ 275	写真図版45 中島遺跡G1-2, G2-3, G3-5, G5-8	・ ・ ・ 311
写真図版10 深田遺跡(第3次) d1-4, d5-9, d10-15, d16-22	・ ・ ・ 276	写真図版46 中島遺跡G8-10, G11-14, G14-18, G14-18	・ ・ ・ 312
写真図版11 深田遺跡(第3次) d28-32, d31-32, d33-36	・ ・ ・ 277	写真図版47 中島遺跡G19-24, G19-24, G23・24	・ ・ ・ 313
写真図版12 深田遺跡(第3次) d37-38, d39-41, d41-44, d45-46, d47-48, d49-50, d50-51	・ ・ ・ 278	写真図版48 中島遺跡S D601, S D602, S D603・604, S K605, S D606, S K605, S K607	・ ・ ・ 314
写真図版13 深田遺跡(第3次) S D31, S Z33, S D31, S Z33土壌試料採集状況, S D37, S K39, S D37, S D43・45	・ ・ ・ 279	写真図版49 中島遺跡S K608, S K609, S K608, S K609, S K610, S K612, S K611, S E613	・ ・ ・ 315
写真図版14 深田遺跡(第3次) S H49, S H76, S D55・56, S H53, S K57, S H58	・ ・ ・ 280	写真図版50 中島遺跡H1・2, H3-5, H5-7, H9・10	・ ・ ・ 316
写真図版15 深田遺跡(第3次) S H61, S H66, S H58, d21Pit3, S H66炉跡, S Z67	・ ・ ・ 281	写真図版51 中島遺跡H10・11, H11・12, H11-13, H16-18	・ ・ ・ 317
写真図版16 深田遺跡(第3次) S Z67・S D69, S H68, S H68, S H68, S H68, S D72, S Z71, S D73	・ ・ ・ 282	写真図版52 中島遺跡H18-21, H21-24, H26-28, H29・30	・ ・ ・ 318
写真図版17 深田遺跡(第2次)A区出土遺物1	・ ・ ・ 283	写真図版53 中島遺跡H30-32, H33-35, S D707, S D708, S D708	・ ・ ・ 319
写真図版18 深田遺跡(第2次)A区出土遺物2	・ ・ ・ 284	写真図版54 中島遺跡A・B区出土遺物	・ ・ ・ 320
写真図版19 深田遺跡(第2次)A区出土遺物3	・ ・ ・ 285	写真図版55 中島遺跡B・C区出土遺物	・ ・ ・ 321
写真図版20 深田遺跡(第2次)A区出土遺物4	・ ・ ・ 286	写真図版56 中島遺跡C区出土遺物	・ ・ ・ 322
写真図版21 深田遺跡(第2次)A~C区出土遺物	・ ・ ・ 287	写真図版57 中島遺跡C・D区出土遺物	・ ・ ・ 323
写真図版22 深田遺跡(第3次)D区出土遺物1	・ ・ ・ 288	写真図版58 中島遺跡D区出土遺物1	・ ・ ・ 324
写真図版23 深田遺跡(第3次)D区出土遺物2	・ ・ ・ 289	写真図版59 中島遺跡D区出土遺物2	・ ・ ・ 325
写真図版24 双ツ塚西方遺跡A2-5, A2-7, A9-18, A18-24	・ ・ ・ 290	写真図版60 中島遺跡D・E区出土遺物	・ ・ ・ 326
写真図版25 双ツ塚西方遺跡A25-37, A37-49, S D1, S Z2, S D1, S K3	・ ・ ・ 291	写真図版61 中島遺跡E・F区出土遺物	・ ・ ・ 327
写真図版26 双ツ塚西方遺跡S K4, S K4・5, S K4, S K6, S K6・7, S K7, A48・49Pit	・ ・ ・ 292	写真図版62 中島遺跡F~H区出土遺物	・ ・ ・ 328
写真図版27 双ツ塚西方遺跡出土遺物	・ ・ ・ 293	写真図版63 双ツ塚遺跡(第3次)a1-6, a5-13, a13-18	・ ・ ・ 329
写真図版28 中島遺跡 A6・7, 作業風景, S D2付近土層, A11, A6-10	・ ・ ・ 294	写真図版64 双ツ塚遺跡(第3次)S D2・3, S K4, S K4, S K4, S K4	・ ・ ・ 330
写真図版29 中島遺跡調査前風景, B4-6, B1-3, B1-6, B7-10	・ ・ ・ 295	写真図版65 双ツ塚遺跡(第3次)S K4~7, S Z9, allpit, b区全景	・ ・ ・ 331
写真図版30 中島遺跡B11-16, B11-20, B16-21, S K101, S D102, S F136, S F137下土坑	・ ・ ・ 296	写真図版66 双ツ塚遺跡(第3次)a区出土遺物1	・ ・ ・ 332
写真図版31 中島遺跡S F137, S H115, 土壌サンプル採取状況, C3・4, C5・6	・ ・ ・ 297	写真図版67 双ツ塚遺跡(第3次)a区出土遺物2	・ ・ ・ 333
写真図版32 中島遺跡C8-11, C11-15, C19・20, C4木出土状況, S K208	・ ・ ・ 298	写真図版68 双ツ塚遺跡(第3次)a区出土遺物3	・ ・ ・ 334
写真図版33 中島遺跡S K214, S K215, S K218, S K215, S K217	・ ・ ・ 299	写真図版69 金沢川遺跡(第1次)A1区全景, A1区S K1断面, A2区全景, A3区全景, A4・5区全景, A6区全景, A7区全景, A8区全景	・ ・ ・ 335
写真図版34 中島遺跡D1-3, D2	・ ・ ・ 300	写真図版70 金沢川遺跡(第1次)A9区全景, B1区全景, B2区全景, B3区全景, B4・5区全景, B6・7区全景, B8区全景, B9・10区全景	・ ・ ・ 336
写真図版35 中島遺跡D15-17, D17-21, S E322, S E322, S D311	・ ・ ・ 301	写真図版71 金沢川遺跡(第1次)B11・12区全景, B13・14区全景, B15区全景, B16・17区全景, B16区S F26断面	・ ・ ・ 337
写真図版36 中島遺跡S K323, S K323, S K323, S D325, D15Pit8	・ ・ ・ 302	写真図版72 金沢川遺跡(第1次)B16区S F26, B18・19区全景, S K28, C1~5区全景, C1~5区全景, C1区S D30・S K32, C1区S K31, C1区S K32南側断面, C3区S K29南側断面	・ ・ ・ 338
写真図版37 中島遺跡S H330, S D335・336	・ ・ ・ 303	写真図版73 金沢川遺跡(第2次)1-1区全景, 1-3区全景, 1-5区全景, 1-9区全景	・ ・ ・ 339
写真図版38 中島遺跡E1, E2-4, E4-6, E9-11	・ ・ ・ 304	写真図版74 金沢川遺跡(第2次)1-10区全景, 1-12区全景, 1-14区S K48遺物出土状況, 1-16区全景	・ ・ ・ 340
写真図版39 中島遺跡E11・12, E13・14, E15・16, E17	・ ・ ・ 305	写真図版75 金沢川遺跡(第2次)1-19区全景, 1-24区全景, 1-25区全景, 1-26区全景	・ ・ ・ 341
写真図版40 中島遺跡E17・18, E18・19, E19-22, S K403	・ ・ ・ 306	写真図版76 金沢川遺跡(第2次)1-28区全景, 2-1区全景, 2-2区全景, 2-3区全景, 2-5区全景, 2-6区全景	・ ・ ・ 342
写真図版41 中島遺跡S K404, S K406, S K404, S K406, S D407, S D408, S D407, S K409	・ ・ ・ 307	写真図版77 金沢川遺跡(第2次)2-4区全景, 2-8区全景, 2-11区全景, 2-7区全景, 2-12区全景, 2-13区全景	・ ・ ・ 343
写真図版42 中島遺跡S D410, S D410, S D411, S D411, S D411, S D412	・ ・ ・ 308	写真図版78 金沢川遺跡(第2次)2-21区全景, 2-22区全景, 2-24区全景, 2-25区全景	・ ・ ・ 344
写真図版43 中島遺跡E18包含層遺物出土状況, S D416, S D415, S D417, S D419, S K420, S K421, S K422	・ ・ ・ 309	写真図版79 金沢川遺跡(第2次)3-9区全景, 3-10区全景, 3-11区全景, 3-12区全景	・ ・ ・ 345
		写真図版80 金沢川遺跡(第2次)3区S X80遺物出土状況, 3区S X80, 3区S K86遺物出土状況, 3区S K89, 3-16区全景, 3-17区全景	・ ・ ・ 346

写真図版81 金沢川遺跡(第2次)4-10区全景, 5-1区全景, 5-2区東半全景, 5-2区西半全景, 6-0区Pit2円面硯出土状況, 6-3区Pit32柱根出土状況, 6区S K108, 6-3区全景	・ ・ ・ 347
写真図版82 金沢川遺跡(第2次)6-2区全景, 6-4区全景, 6-5区全景, 6-6区全景	・ ・ ・ 348
写真図版83 金沢川遺跡(第2次)7-1区全景, 7-3区全景, 7-4区全景, 8-5区全景, 8-6区全景	・ ・ ・ 349
写真図版84 金沢川遺跡(範囲確認調査)出土遺物1	・ ・ ・ 350
写真図版85 金沢川遺跡(第1次)出土遺物2	・ ・ ・ 351
写真図版86 金沢川遺跡(第1次)出土遺物3	・ ・ ・ 352

写真図版87 金沢川遺跡(第1次)出土遺物4	・ ・ ・ 353
写真図版88 金沢川遺跡(第1・2次)出土遺物5・出土遺物6	・ ・ ・ 354
写真図版89 金沢川遺跡(第2次)出土遺物7	・ ・ ・ 355
写真図版90 金沢川遺跡(第2次)出土遺物8	・ ・ ・ 356
写真図版91 金沢川遺跡(第2次)出土遺物9	・ ・ ・ 357
写真図版92 金沢川遺跡(第2次)出土遺物10	・ ・ ・ 358
写真図版93 金沢川遺跡(第2次)出土遺物11	・ ・ ・ 359
写真図版94 金沢川遺跡(第2次)出土遺物12	・ ・ ・ 360
写真図版95 金沢川遺跡(第2次)出土遺物13	・ ・ ・ 361

目 次

第Ⅲ-1表 深田古墳群・深田遺跡(第2・3次)遺構一覧表1	・ ・ ・ 71	第Ⅴ-8表 中島遺跡遺物観察表6	・ ・ ・ 166
第Ⅲ-2表 深田古墳群・深田遺跡(第2・3次)遺構一覧表2	・ ・ ・ 72	第Ⅴ-9表 中島遺跡遺物観察表7	・ ・ ・ 167
第Ⅲ-3表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表1	・ ・ ・ 72	第Ⅴ-10表 中島遺跡遺物観察表8	・ ・ ・ 168
第Ⅲ-4表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表2	・ ・ ・ 73	第Ⅴ-11表 中島遺跡遺物観察表9	・ ・ ・ 169
第Ⅲ-5表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表3	・ ・ ・ 74	第Ⅴ-12表 中島遺跡遺物観察表10	・ ・ ・ 170
第Ⅲ-6表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表4	・ ・ ・ 75	第Ⅴ-13表 中島遺跡遺物観察表11	・ ・ ・ 171
第Ⅲ-7表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表5	・ ・ ・ 76	第Ⅴ-14表 中島遺跡遺物観察表12	・ ・ ・ 172
第Ⅲ-8表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表6	・ ・ ・ 77	第Ⅴ-15表 中島遺跡遺物観察表13	・ ・ ・ 173
第Ⅲ-9表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表7	・ ・ ・ 78	第Ⅴ-16表 中島遺跡遺物観察表14	・ ・ ・ 174
第Ⅲ-10表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表8	・ ・ ・ 79	第Ⅴ-17表 中島遺跡遺物観察表15	・ ・ ・ 175
第Ⅲ-11表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)石製品観察表	・ ・ ・ 79	第Ⅴ-18表 中島遺跡石製品観察表	・ ・ ・ 175
第Ⅲ-12表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)木製品観察表	・ ・ ・ 79	第Ⅴ-19表 中島遺跡木製品観察表	・ ・ ・ 175
第Ⅲ-13表 深田遺跡(第3次)遺物観察表1	・ ・ ・ 80	第Ⅵ-1表 双ツ塚遺跡(第3次)遺構一覧表	・ ・ ・ 191
第Ⅲ-14表 深田遺跡(第3次)遺物観察表2	・ ・ ・ 81	第Ⅵ-2表 双ツ塚遺跡(第3次)遺物観察表1	・ ・ ・ 191
第Ⅲ-15表 深田遺跡(第3次)遺物観察表3	・ ・ ・ 82	第Ⅵ-3表 双ツ塚遺跡(第3次)遺物観察表2	・ ・ ・ 192
第Ⅲ-16表 深田遺跡(第3次)遺物観察表4	・ ・ ・ 83	第Ⅵ-4表 双ツ塚遺跡(第3次)遺物観察表3	・ ・ ・ 193
第Ⅲ-17表 深田遺跡(第3次)石製品観察表	・ ・ ・ 83	第Ⅵ-5表 双ツ塚遺跡(第3次)石製品観察表	・ ・ ・ 193
第Ⅳ-1表 双ツ塚西方遺跡遺物観察表1	・ ・ ・ 94	第Ⅶ-1表 金沢川遺跡(第1次)遺構一覧表	・ ・ ・ 235
第Ⅳ-2表 双ツ塚西方遺跡遺物観察表2	・ ・ ・ 95	第Ⅶ-2表 金沢川遺跡(第2次)遺構一覧表1	・ ・ ・ 236
第Ⅳ-2表 双ツ塚西方遺跡金属製品観察表	・ ・ ・ 95	第Ⅶ-3表 金沢川遺跡(第2次)遺構一覧表2	・ ・ ・ 236
第Ⅴ-1表 中島遺跡遺構一覧表1	・ ・ ・ 159	第Ⅶ-4表 金沢川遺跡(第2次)遺構一覧表2	・ ・ ・ 236
第Ⅴ-2表 中島遺跡遺構一覧表2	・ ・ ・ 160	第Ⅶ-5表 金沢川遺跡(第2次)遺物観察表	・ ・ ・ 236
第Ⅴ-3表 中島遺跡遺物観察表1	・ ・ ・ 161	第Ⅶ-6表 金沢川遺跡(第1次)遺物観察表	・ ・ ・ 237
第Ⅴ-4表 中島遺跡遺物観察表2	・ ・ ・ 162	第Ⅶ-7表 金沢川遺跡(第2次)遺物観察表1	・ ・ ・ 238
第Ⅴ-5表 中島遺跡遺物観察表3	・ ・ ・ 163	第Ⅶ-8表 金沢川遺跡(第2次)遺物観察表2	・ ・ ・ 239
第Ⅴ-6表 中島遺跡遺物観察表4	・ ・ ・ 164	第Ⅶ-9表 金沢川遺跡(第2次)遺物観察表3	・ ・ ・ 240
第Ⅴ-7表 中島遺跡遺物観察表5	・ ・ ・ 165	第Ⅷ-1表 中島遺跡・深田遺跡(第3次)分析資料	・ ・ 241
		第Ⅷ-2表 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における花粉分析結果	・ ・ ・ 242
		第Ⅷ-3表 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における植物珪酸体分析結果	・ ・ ・ 246
		第Ⅷ-4表 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における珪藻分析結果	・ ・ ・ 249
		第Ⅷ-5表 金沢川遺跡(第1次)・中島遺跡樹種同定結果	・ ・ ・ 253
		第Ⅷ-6表 中島遺跡昆虫同定結果	・ ・ ・ 255
		第Ⅷ-7表 金沢川遺跡(第2次)樹種同定結果	・ ・ ・ 257
		第Ⅷ-8表 金沢川遺跡(第2次)供試材の化学組成	・ ・ 260

第I章 前 言

第1節 調査の経緯と経過

1. 調査に至る経緯

鈴鹿市玉垣町、柳町、岸岡町が所在する金沢川右岸は、昭和52・53年度に県営圃場整備事業が実施された。これは、地区内の用排水路並びに道路の整備・区画整理を行い近代農業経営の安定を図ることを目的としたものである。

この事業から約40年が経過し、地域農業の経営のあり方も、個別経営・担い手農業から生産組織中心の農業へ移行する転換期となっている。このような状況のなか、平成28年度に、三重県農林水産部基盤整備課から「鈴鹿川沿岸6期地区農業競争力強化基盤整備事業」（平成30年度以降、「農地整備事業（経営体育成型）鈴鹿川沿岸6期地区」）の計画がもち

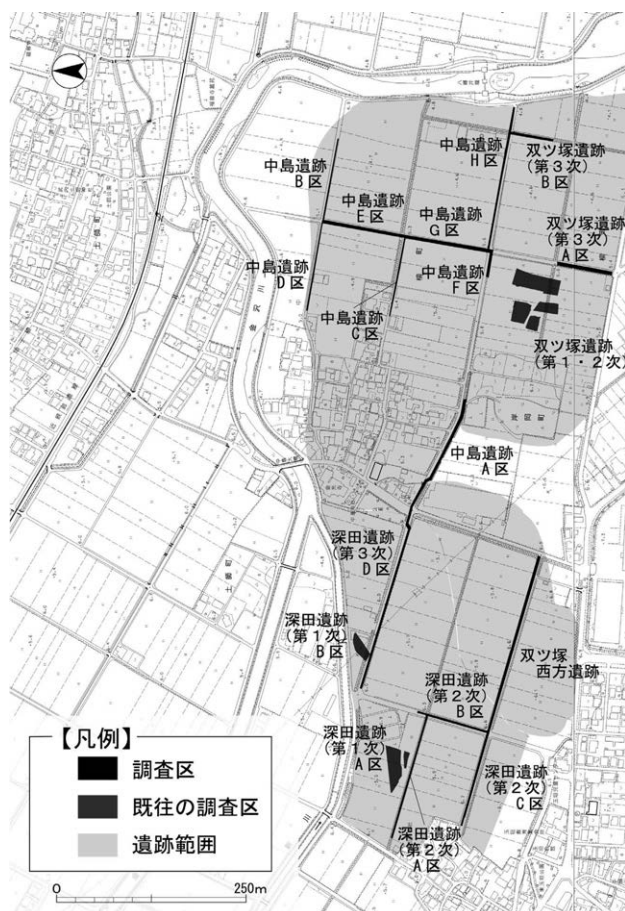
あがった。農業用水施設を現在の開水路からパイプライン（暗渠）化し、開水路部分だった箇所は農道に拡幅するものである。

工事施工箇所のうち埋蔵文化財包蔵地内は、範囲確認調査を行い、記録保存調査対象範囲の絞り込みを進めた。その範囲が確定した箇所及び施工場所の状況により、事前調査をすることが困難な箇所は労務提供の形で工事時に立会調査を実施した。（原田）

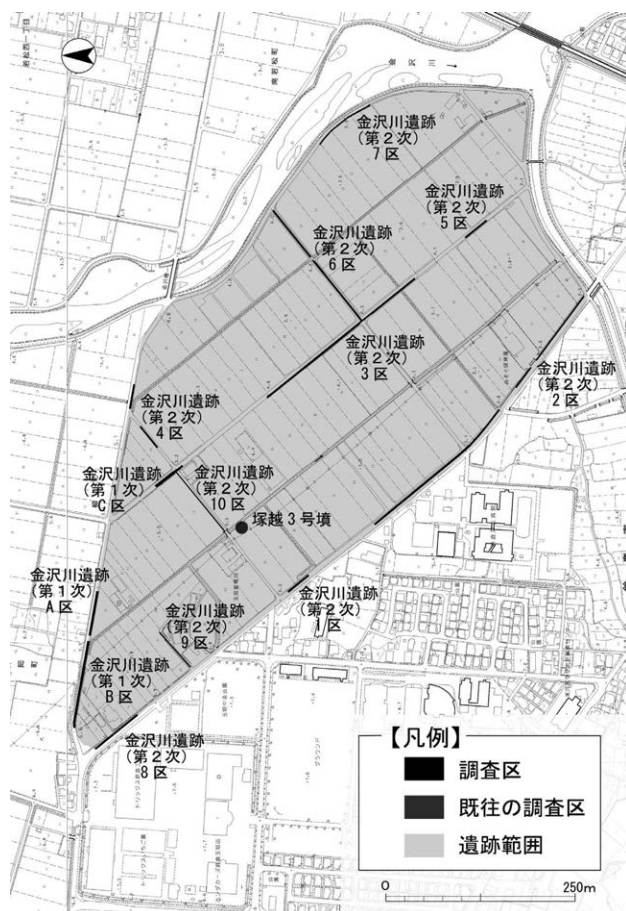
2. 既往の調査

昭和52年度・53年度の県営圃場整備事業に伴い、深田遺跡・双ツ塚遺跡・塚越3号墳は発掘調査が実施された。各調査概要は以下のとおりである。

深田遺跡（第1次） 昭和53年11～12月に1,400㎡



第I-1図 調査区位置図1 (1:10,000)



第I-2図 調査区位置図2 (1:10,000)

が調査された。調査区は遺跡西寄りのA区と北東側のB区に分かれる。A区は弥生時代中期後葉の土坑1基、古墳時代の溝3条・土坑1基、奈良時代の掘立柱建物1棟を確認した。古墳時代の溝からは円筒埴輪や形象埴輪片の出土が多数認められ、古墳の周溝である可能性も示唆される。B区は弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての竪穴建物5棟、時期不明の柵列状遺構等を確認した。遺物は、古式土師器のほか土師器・須恵器・土錘・砥石・鉄製品などが出土した。

双ツ塚遺跡（第1次） 昭和53年3月に1,500㎡調査された。A～C区に分かれており、竪穴建物4棟、溝2条、円形素掘りの井戸4基、掘立柱建物3棟を確認した。竪穴建物は弥生時代終末期から古墳時代後期に属するとみられている。溝1条と井戸2基は弥生時代終末期から古墳時代前期に限定される。掘立柱建物は南と北の2群にまとまる。掘立柱建物の中には2間×4間及び3間×3間の総柱建物も確認し、柱穴からは平安時代後期の遺物が出土している。建物の棟方向は付近一帯の条理地割の方向と相当異なっている。

双ツ塚遺跡（第2次） 昭和53年6月に1,000㎡調査された。D区は約350㎡、E区は約650㎡である。

D区は、2間×2間、3間×6間の掘立柱建物2棟を確認した。遺物は、灰釉陶器、須恵器、土師器、平瓦片がある。

E地区は弥生時代終末から古墳時代前半の溝1条、平安時代の掘立柱建物4棟があり、そのうち1棟は東柱をもつ2間×2間の倉庫とみられる。このほか平安時代から鎌倉時代の井戸2基を確認した。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗が出土した。

塚越3号墳 昭和52年10月に調査が行われた。長径8.5m、短径6m、高さ1.5m以上の墳丘をもつ古墳である。周溝は、幅0.9～1.4m、深さ30cmで、古墳の西側から南側にかけて確認された。主体部は墳丘のほぼ中央現存墳丘下約40cmで認められ、長さ3.85m、幅1.15m、深さ50cmの墓壇内に長さ3.2m、幅0.7m、深さ15cmの木棺を直葬したと推定されている。時期は6世紀中頃である。 (原田)

3. 調査の経過

経過は以下のとおりである。

深田古墳群・深田遺跡（第2・3次） 第2次調査は、平成30年に鈴鹿市東玉垣町の事業地内において実施した。調査地点は、昭和53年度に実施した第1次調査A地区の南側にあたる。調査区は、A区、B区、C区の3箇所ある。A区の調査過程で、古墳の周溝を確認した。調査の成果を基に、深田古墳群1号墳・2号墳・3号墳として把握することとなった。古墳以外にも、古墳時代から中世にかけての溝・土坑・自然流路等を調査区内で確認した。狭小な調査区であったが、新たな成果を得られた。

第3次調査は、令和元年から令和2年にかけて鈴鹿市東玉垣町の事業地内において実施した。昭和53年度に実施した深田遺跡第1次調査B地区の南側にあたり、調査区の東側は中島遺跡A区に隣接する。標高の高い調査区中央東寄りの地点で古墳時代の竪穴建物9棟以上を確認した。これ以外の地点は標高が低くなり、遺構は希薄となるようである。弥生時代から中世にかけて、土坑や溝を調査区内で確認した。狭小な調査区であったが新たな成果を得ることができた。

双ツ塚西方遺跡 鈴鹿市東玉垣町の事業地内において、平成30年から平成31年にかけて実施した。調査地点は、深田遺跡の東南側に隣接し、双ツ塚遺跡の西方に位置する。既設の道路内に新たに埋置する水路部分のみを対象とした。調査地点が既設の道路部分であった関係上、遺構検出面も含め、後世の造成によって削平された状態にある。このため、遺構密度は非常に疎らで、溝2条、土坑5基、浅い落ち込み1箇所のみを確認した。

中島遺跡 鈴鹿市柳町中島の事業地内において、令和元年から令和2年にかけて実施した。調査地点は、深田遺跡の東側に隣接し、双ツ塚遺跡の北方に位置する。既設の道路内に新たに埋置する水路部分を対象とした。弥生時代から中世にかけての竪穴建物・土坑・溝を確認した。調査区は幅が狭いものの遺跡内を縦断・横断しており、地点によって微高地・微凹地などの地形の変化を確認することができた。

双ツ塚遺跡（第3次） 鈴鹿市柳町双ツ塚の事業地内において、令和2年に実施した。調査地点は、中島遺跡と金沢川遺跡の間に位置する。昭和52・53年

度に実施した双ツ塚（第1・2次）調査区は、A区の北西側に位置している。弥生時代から中世にかけての遺構を確認した。（原田）

金沢川遺跡 本遺跡においては、平成31年3月～5月、令和2年2月に136箇所調査坑を設けて範囲確認調査を行った。その結果、土師器・須恵器・山茶碗・陶器が出土したほか、溝やPitなどの遺構を確認した。そこで、平成31年度・令和2年度に労務提供による金沢川遺跡（第1・2次）発掘調査を実施した。第1次調査区は大きく3箇所に分け、A区、B区、C区として設定した。第2次調査区は大きく8箇所に分け、1～8区として設定した。この他、令和2年12月～令和3年1月に2箇所工事立会を行った。（第2次調査区9・10区として設定）。（土橋）

4. 文化財保護法にかかる諸手続

- ・ 県埋蔵文化財保護条例第48条第1項「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」

（県教育長あて三重県知事通知）

平成28年4月15日付け四農第3012号

- ・ 文化財保護法第97条第1項に基づく遺跡の発見にかかる通知（県教育長あて三重県埋蔵文化財センター所長通知）

深田遺跡:平成30年4月6日付け教埋第10号

金沢川遺跡:令和2年3月27日付け教埋第447号

深田古墳群:令和4年5月24日付け教埋第46号

- ・ 文化財保護法第100号第2号「埋蔵文化財の発見・認定について」（鈴鹿警察署長あて県教育委員会教育長通知）

深田遺跡(第2次)、双ツ塚西方遺跡:平成31年3月22日付け教委12-4428号

深田遺跡(第3次):令和2年4月30日付け教委12-4405号

中島遺跡:令和2年4月21日付け教委12-4404号

双ツ塚遺跡:令和2年6月22日付け教委12-4409号

金沢川遺跡:令和2年4月21日付け教委12-4403号



第 I - 3 図 範囲確認調査坑位置図 1 (1:10,000)



第 I - 4 図 範囲確認調査坑位置図 2 (1:10,000)

金沢川遺跡(第2次)：令和3年2月18日付け教委
12-4428号

5. 普及公開

発掘調査が終了した所から工事に入っていったた

め、現地説明会は実施していない。代替として、三重県埋蔵文化財センターホームページやFacebookでの、遺跡情報の公開を行った。(原田)

第2節 調査の方法

1. 調査区の設定

基本的に幅1～3m弱、延長が50m～100mを越すような細長い調査区となるため、起点から5m単位で小地区の設定、あるいは1日の掘削延長にあわせた設定を行った場合もある。各遺跡及び調査区により名称の付与が異なるため、以下に記載する。

深田古墳群・深田遺跡(第2・3次) 平成30年調査を深田遺跡(第2次)、令和元年調査を深田遺跡(第3次)とした。調査区は第2次調査においてA～C区を設定した。調査開始の始点から5m毎に小地区を設定した。小地区の名称は調査区のアルファベットと算用数字の組み合わせでA1、A2…と付している。第3次調査区は1地区のみである。調査年度は異なるが一連の調査であるためD区とし、小地区は調査開始の始点からd1、d2…と付している。

双ツ塚西方遺跡 既設道路内に幅2m、延長252mのほぼ東西方向に伸びる調査区を設定した。西端は深田遺跡(第2次)B区に接する。小地区は西をA1としてそこから順に付している。

中島遺跡 発掘調査は令和元年から令和2年にかけて実施し、A～H区の調査区を設定した。A区は東西方向に伸び西端は深田遺跡(第3次)D区東端に接し、B・D区は金沢川寄りに位置する東西方向に伸びB区西端がD区東端と接する。B区とD区が接する箇所から南へ南北方向に伸びるE区、E区南端の南につながるG区、E区・G区の境界から西で伸びるのがC区、G区南端から西へ伸びるのがF区、東へ伸びるのがH区である。小地区は、A区がA1

から、B区がB1から、C区がC1からというように調査区を前に表示し順に付している。

双ツ塚遺跡 発掘調査は、令和2年に実施した。調査区は、遺跡のほぼ中央南半部を縦断するa区、遺跡東部北半部を縦断するb区を設定した。a区北端から約78m北にいくと中島遺跡G区南端となる。b区北端は、中島遺跡H区西端から約150mで接する。小地区は、a区がa1から、b区がb1からというように調査区を前に表示し順に付している。

金沢川遺跡(第1・2次) 発掘調査は、令和元年に第1次調査、令和2年に第2次調査を実施した。調査区は、第1次調査はA区、B区、C区、第2次調査は1～8区を設定した。小地区は、調査区を前に表示し順に付している。

2. 表土掘削、遺構検出・掘削

表土及び遺構検出面以上まで、重機による掘削を行った。その後、人力により遺構検出と掘削を行った。

3. 記録・図化

記録及び図化は、遺構検出状況・土層の堆積状況・遺構の掘削や遺物出土状況等を把握するため、遺構カードや土層断面図、遺構平面図を適宜作成した。

4. 出土遺物の整理

各遺跡からの出土遺物は、埋蔵文化財センターに搬入後、洗浄・注記・接合を行った。それらから実測可能な遺物を選別し、人の手による実測を行った。実測図を精査の後、発掘調査報告書の文章や版下作成等を各担当により行った。なお、脆弱な遺物は、外部委託による保存処理を実施し、破損の防止に万全を期した。(原田)

第Ⅱ章 位置と環境

第1節 地理的環境

今回報告する遺跡は、金沢川の南岸から西岸に広がっており、北西側から南東側に向けて、深田遺跡・深田古墳群（1）、双ツ塚西方遺跡（2）、中島遺跡（3）、双ツ塚遺跡（4）、それに金沢川遺跡（5）と並んでいる。

二級河川金沢川は、鈴鹿市柳町の中島橋から鈴鹿市南若松町で伊勢湾に注ぐ総延長2.57kmの河川である。河口から0.6km上流で西南西方面から流れてきた田古知川が合流する。ただし、三重県が管理する二級河川としての金沢川は、中島橋から下流だけを二級河川として把握しており、中島橋から上流は鈴鹿市が管理する普通河川となる。

上流部は、大きく南北2系統に分かれている。

南側の水系は、更新世段丘である神戸段丘^①の縁辺に端を発する流路である。神戸段丘は、鈴鹿市住吉から東北東側へ三日市、平田、西条、神戸、須賀へと舌状に延びる北段丘と、途中開析谷を挟んで東南側の道伯、三日市南、末広、野町、桜島、西玉垣、東玉垣へと舌状に延びる南段丘に分岐するが、南段丘北麓に国天然記念物・金生水沼沢植物群落があるなど末端部は湧水豊富で、この水系は北段丘南斜面と、南段丘北斜面からの水を集め、鈴鹿川の水流に拠らない金沢川の一支流を形成する。

一方、北側の水系は、鈴鹿市庄野羽山で一級河川・鈴鹿川から分流して段丘末端を横断し、東南方向へ抜ける現在の六郷川の水系で、こちらが主流路だったとみられる。鈴鹿川は、鈴鹿市庄野羽山で神戸段丘に遮られて流路を北東方面に転じ、北側の高岡丘陵との間を抜けて伊勢湾に注ぐが、ある時期、洪水で神戸段丘の末端を切って南東側へ溢れたことがあったとみられる。

国土地理院の治水・地形分類図^②によると、六郷川の水路にほぼ沿うかたちで旧河道があり、金沢川よりも北方を蛇行しながら若松で伊勢湾に注ぐ。現在の六郷川は、鈴鹿市神戸で鋭く屈折し、一端南流してから流れを東側に転じ、東南東方向に流れて金

沢川に合流するが、これは戦国期の神戸城東側の護りとして、堀としての機能を負わすための改変とみられ、この屈折点が旧河道との分岐となる。つまり、神戸城に伴う六郷川の流路変更がなければ、旧河道がそのまま流路として機能していたのであろう。

南側水系と、北側水系の六郷川の合流地点が深田遺跡と中島遺跡が接する北側で、ここから下流が二級河川金沢川となる。金沢川は、ここから少し北東側へ流れた後、中島遺跡の北方で流路を南東側に転ずるが、ここに流路変更する以前の六郷川とみられる旧河道が接してくる。つまり、六郷川は、現在の流路となる以前に、中島遺跡北方で金沢川（南側水系）と合流したか、合流せずに東流し（旧河道痕跡）、おそらく今の若松港あたりへ抜けた時期があったとみられる。なお、旧河道痕跡は他にもあり、金沢川河口部はかなり分流していたとみてよからう。

支流の田古知川についても、二級河川としての田古知川は金沢川との合流部から遡ること1.275kmまでで、そこより上流は普通河川の扱いとなる。田古知川は、神戸段丘の南段丘を開析して発し、南段丘南麓と海岸沿いの独立丘陵である岸岡山の間の狭隙地を東北東に流れ、金沢川に注ぐ。

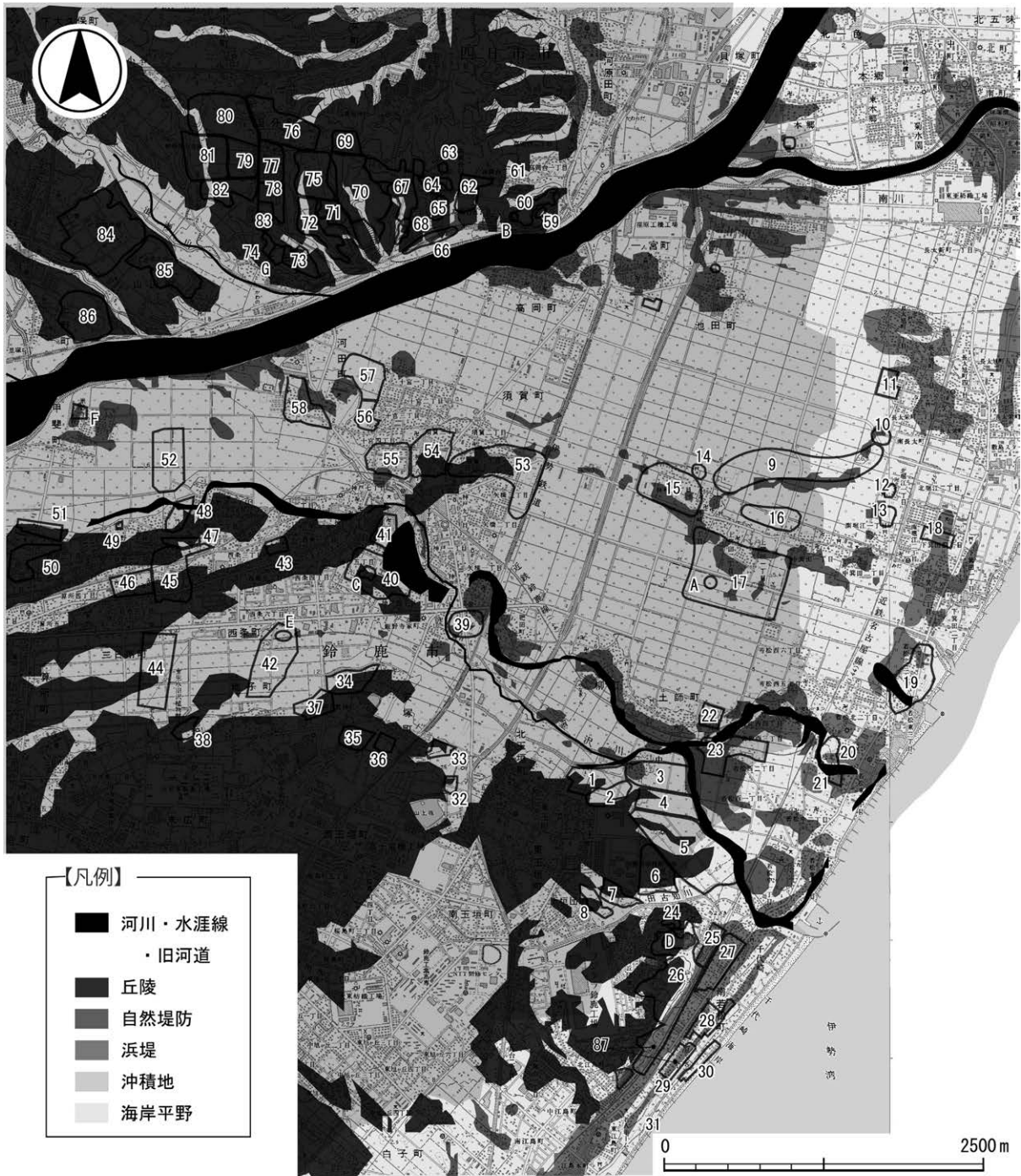
今回発掘調査を実施した各遺跡は、巨視的にみれば神戸段丘の南段丘末端にのる鈴鹿川右岸の氾濫平野に所在している。しかし、微視的にみると、もう少し細かく土地条件に差があることがわかる^③。

まず、中島遺跡は、金沢川2水系の合流点南側に所在するが、西側は円形の自然堤防上の上のっていることがわかる。今回発掘した遺跡の中では、最も集落立地としては好条件を揃えているといつてよい。

一方、深田遺跡・双ツ塚西方遺跡・双ツ塚遺跡・金沢川遺跡には、神戸段丘末端が4条の細長い支尾根状となって入り込んでおり、小さな埋積谷と支尾根が交互に連続する地形を基底としている。当然、支尾根部分の地盤が安定していたとみられる。

集落形成にあたっては、以上のような土地条件に

規定されて展開していたとみられる。



- | | | | | | | |
|-----------|-------------|------------|------------|------------|-----------|--------------|
| 1 深田遺跡 | 13 市ノ坪遺跡 | 27 砂山遺跡 | 40 本多町遺跡 | 54 萱町遺跡 | 67 寺山遺跡 | 81 伊勢国分寺跡 |
| ・深田古墳群 | 14 大塚神社遺跡 | 41 龍光寺遺跡 | 41 龍光寺遺跡 | 55 十宮古里遺跡 | 68 寺田山1号墳 | 82 狐塚遺跡 |
| 2 双ツ塚西方遺跡 | 15 林崎遺跡 | 28 原永遺跡 | 42 沢遺跡 | 56 宮ノ前遺跡 | 69 富士山越遺跡 | 83 南浦遺跡 |
| 3 中島遺跡 | 16 上箕田北遺跡 | 29 南原永I遺跡 | 43 狐穴遺跡 | 57 八重垣神社遺跡 | 70 境谷遺跡 | 84 石薬師東遺跡 |
| 4 双ツ塚遺跡 | 17 上箕田北遺跡 | 30 南原永II遺跡 | 44 三日月南遺跡 | 58 河田宮ノ北遺跡 | 71 中尾山遺跡 | ・石薬師東古墳群 |
| 5 金沢川遺跡 | 18 下箕田遺跡 | 31 和豊田遺跡 | 45 三日月東遺跡 | 59 高岡中世墓 | 72 沖ノ坂遺跡 | 85 添遺跡 |
| ・塚越古墳群 | 19 上箕田城跡 | 46 飯野神社遺跡 | 46 飯野神社遺跡 | 60 茶山遺跡 | 73 盤城山遺跡 | 86 一反通遺跡 |
| 6 天王遺跡 | 20 北若松遺跡 | 47 竹野1丁目遺跡 | 47 竹野1丁目遺跡 | ・高岡山古墳群 | 74 木田板上遺跡 | 87 岸岡山窯跡群 |
| 7 天王屋敷遺跡 | 21 若松遺跡 | 48 竹野遺跡 | 48 竹野遺跡 | 61 青谷遺跡 | 75 国分東遺跡 | A 上箕田城跡 |
| 8 大口野遺跡 | 22 土師北方遺跡 | 49 竹野神社遺跡 | 49 竹野神社遺跡 | 62 東ノ岡遺跡 | 76 国分北遺跡 | B 高岡城跡 |
| 9 大木ノ輪遺跡 | 23 土師南方遺跡 | 50 岡田南遺跡 | 50 岡田南遺跡 | 63 扇広遺跡 | 77 国分遺跡 | C 神戸城跡 |
| 10 天ノ宮遺跡 | 24 岸岡山I遺跡 | 51 岡田遺跡 | 51 岡田遺跡 | 64 西ノ岡A遺跡 | 78 国分南遺跡 | D 岸岡城跡 |
| 11 南長太遺跡 | 25 岸岡山II遺跡 | 52 野辺遺跡 | 52 野辺遺跡 | 65 西ノ岡B遺跡 | 79 国分西遺跡 | E 沢城跡 G 木田城跡 |
| 12 神大寺遺跡 | 26 岸岡山III遺跡 | 53 須賀遺跡 | 53 須賀遺跡 | 66 寺田山遺跡 | 80 国分寺北遺跡 | F 岡部氏館跡 |

第II-1図 土地条件図(1:50,000)

第2節 歴史的環境

今回報告する遺跡が所在する金沢川流域は、巨視的には前述のように一級河川鈴鹿川が分流を繰り返した下流右岸域に相当している。古代の国郡制では、伊勢国河曲郡に相当する⁴⁾。

当地域の歴史的な発展は、立地基盤としての完新世段丘の存在と、鈴鹿川の氾濫と分流水路の形成、それに伴う自然堤防の形成などと密接に連動しており、遺跡分布をみると、立地基盤としての地形に規定された帯状の分布を示す。すなわち、北から

- ①高岡丘陵を東辺とする鈴鹿川左岸（北岸）の中位段丘面
- ②鈴鹿市河田町で鈴鹿川から分流する旧河道痕跡（現在の二本木川が名残）沿いの自然堤防及び沖積地
- ③鈴鹿市庄野周辺で鈴鹿川から分流した旧河道痕跡（≒神戸城に伴う流路変更以前の六郷川水系）沿いの自然堤防及び沖積地
- ④神戸段丘北段丘の低位段丘面
- ⑤金沢川南側水系沿いの自然堤防及び沖積地
- ⑥神戸段丘南段丘の低位段丘末端と岸岡山丘陵

である。これらは、隣接していたり、相互に入り混じったりする場合もあるため単純ではないが、当地域の遺跡形成はこの地形区分で把握すると概ね理解しやすい。

このうち、①の鈴鹿川北岸中位段丘面は、旧石器時代から中世の高岡城跡まで多くの遺跡が分布する鈴鹿市域でも屈指の遺跡密集地帯である。

旧石器時代では、遺跡数は少ないが、西ノ岡A遺跡⁵⁾（64）でナイフ形石器やチャート製の縦長剥片、祓山遺跡でナイフ形石器など注目すべき遺物の出土がある。重要な遺跡が集中するのは弥生時代で、県内最古となる菱環鈕付式銅鐸片が採集された東ノ岡遺跡（62）をはじめ、遺構密度の濃い中～後期の集落である中尾山遺跡（71）や多数の方形周溝墓群が確認された墓域である扇広遺跡（63）など多数の集落が形成された。ここで特筆すべきは、発掘調査による出土は少ないものの、弥生時代の玉作関係遺物が複数の遺跡で確認されていることである。なかでも、太平洋側の弥生集落では珍しい水晶製玉類の玉

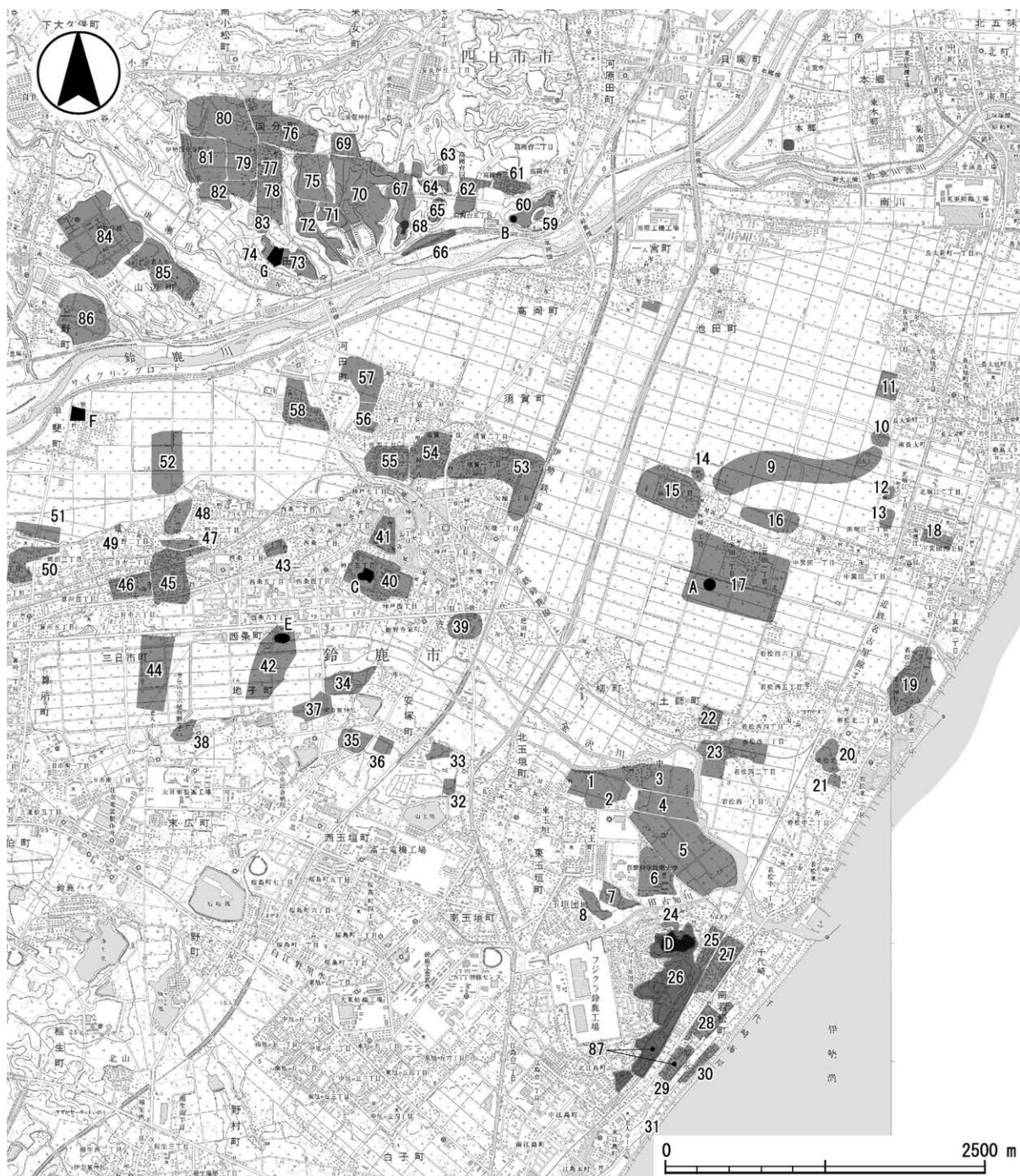
作関係遺物が茶山遺跡（60）（管玉未成品・剥片）、一反通遺跡（86）（剥片・筋砥石）、東ノ岡遺跡（62）（原石・紅簾岩製石鋸片）、磐城山遺跡（73）（原石）で確認されているのははじめ、碧玉製の関係遺物が茶山遺跡、一反通遺跡、青谷遺跡（61）で採集されている⁶⁾。このうち段丘の南縁部に所在する一反通遺跡は、突線鈕式銅鐸片や多数の磨製石鏃をはじめとする豊富な石器類が出土しており、当地を代表する拠点遺跡だったとみられる。

古墳時代以降、鈴鹿川北岸の丘陵・段丘部での集落形成は若干低調となるが、全長80mの前期の前方後円墳である寺田山1号墳（68）が築造されたのははじめ、安定した基盤のもと、伊勢国分寺・国分尼寺や河曲郡家の正倉とみられる狐塚遺跡（82）など重要遺跡が造られた。また、戦国期には、信長の北伊勢侵攻に対する抵抗拠点のひとつである高岡城（B）が存在した。

②の河田町分流の旧河道沿いの地域では、上流部の八重垣神社遺跡（57）で弥生時代前期の流路群が確認されたのははじめ、縄文時代晩期に出現し、北伊勢を代表する弥生遺跡のひとつとなる上箕田遺跡（17）が海岸線より2km上流に形成された。また、この旧河道からさらに分流路とみられる旧河道沿いの大木ノ輪遺跡（9）でも弥生前期に集落形成される。北伊勢地域において、遠賀川系文化が定着する過程を土地利用も含めて如実に示す一帯とみてよからう。

上箕田遺跡の環境考古学的分析⁷⁾によれば、弥生前期の上箕田遺跡は暗青色細砂からなる微高地上に集落が形成されたが、中期初頭以降の洪水で褐色の砂礫堆が集落を覆い、弥生後期はこの砂礫堆上が生活面となるという。さらに、弥生時代後期後半から7～8世紀までに引き起こされた洪水氾濫によって、比高70cmに及ぶ自然堤防が形成されたとされる。つまり、現在残る自然堤防は集落形成当初からのものでなく、その後に形成されたものとなる。集落の盛衰と自然環境の変化が密接に関係したことを如実に示す事例といえよう。

古墳時代では、本水系の上流左岸に中期後半から



- | | | | | | | |
|-----------|-------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|
| 1 深田遺跡 | 13 市ノ坪遺跡 | 27 砂山遺跡 | 40 本多町遺跡 | 54 萱町遺跡 | 67 寺山遺跡 | 81 伊勢国分寺跡 |
| ・深田古墳群 | 14 大塚神社遺跡 | 28 原永遺跡 | 41 龍光寺遺跡 | 55 十宮古里遺跡 | 68 寺田山1号墳 | 82 狐塚遺跡 |
| 2 双ツ塚西方遺跡 | 15 林崎遺跡 | 29 南原永I遺跡 | 42 沢遺跡 | 56 宮ノ前遺跡 | 69 富士山越遺跡 | 83 南浦遺跡 |
| 3 中島遺跡 | 16 上箕田北遺跡 | 30 南原永II遺跡 | 43 狐穴遺跡 | 57 八重垣神社遺跡 | 70 境谷遺跡 | 84 石薬師東遺跡 |
| 4 双ツ塚遺跡 | 17 上箕田遺跡 | 31 和豊田遺跡 | 44 三田市南遺跡 | 58 河田宮ノ北遺跡 | 71 中尾山遺跡 | ・石薬師東古墳群 |
| 5 金沢川遺跡 | 18 下箕田遺跡 | 32 小塚遺跡 | 45 三田市東遺跡 | 59 高岡中世墓 | 72 沖ノ坂遺跡 | 85 添遺跡 |
| ・塚越古墳群 | 19 上箕田城跡 | 33 北ノ添遺跡 | 46 飯野神社遺跡 | 60 茶山遺跡 | 73 盤城山遺跡 | 86 一反通遺跡 |
| 6 天王遺跡 | 20 北若松遺跡 | 34 起A遺跡 | 47 竹野1丁目遺跡 | ・高岡山古墳群 | 74 木田坂上遺跡 | 87 岸岡山窯跡群 |
| 7 天王屋敷遺跡 | 21 若松遺跡 | 35 起B遺跡 | 48 竹野遺跡 | 61 青谷遺跡 | 75 国分東遺跡 | A 上箕田城跡 |
| 8 大口野遺跡 | 22 土師北方遺跡 | 36 起C遺跡 | 49 竹野神社遺跡 | 62 東ノ岡遺跡 | 76 国分北遺跡 | B 高岡城跡 |
| 9 大木ノ輪遺跡 | 23 土師南方遺跡 | 37 起西遺跡 | 50 岡田南遺跡 | 63 扇広遺跡 | 77 国分遺跡 | C 神戸城跡 |
| 10 天ノ宮遺跡 | 24 岸岡山I遺跡 | 38 金生水遺跡 | 51 岡田遺跡 | 64 西ノ岡A遺跡 | 78 国分南遺跡 | D 岸岡城跡 |
| 11 南長太遺跡 | 25 岸岡山II遺跡 | 39 高田遺跡 | 52 野辺遺跡 | 65 西ノ岡B遺跡 | 79 国分西遺跡 | E 沢城跡 |
| 12 神大寺遺跡 | 26 岸岡山III遺跡 | | 53 須賀遺跡 | 66 寺田山遺跡 | 80 国分寺北遺跡 | G 木田城跡 |
| | | | | | | F 岡部氏館跡 |

第II-2図 遺跡位置図(1:50,000)

後期の土器と木製品が多数出土した河田宮ノ北遺跡(58)、右岸に前期初頭の包含層と後期の溝が確認された宮ノ前遺跡(56)がある。このうち河田宮ノ北遺跡では、古墳以外からの出土例としては珍しい頭椎大刀頭椎部が出土している⁶⁾。

室町時代には、上箕田遺跡東辺に伊勢守護の土岐氏による守護所が置かれた上箕田城(A)があったとされているが、現在までの上箕田遺跡の調査において関連の遺構・遺物は全く確認されておらず、比定地の再検討が必要である。

③の旧六郷川水系の自然堤防では、左岸の土師北方遺跡(22)、右岸の土師南方遺跡(23)が重要である。特に、土師南方遺跡では、古墳時代中期から古代の遺物とともに、単弁八弁蓮華文軒丸瓦の出土があり⁹⁾、注目できる。前述のように、旧六郷川は神戸城(C)築城に伴い流路変更があったとみられ、この影響もあってか中世期以降の遺跡分布は比較的疎らである。

④の神戸段丘北段丘は、末端部がある時期に前述の六郷川により分断されたが、安定した地盤のもと、多くの集落が形成された。代表的な遺跡には、西から平田遺跡(古代)、岡太神社遺跡(中世)、天神遺跡(古墳時代)、岡田南遺跡(50:古代)、竹野遺跡(48)、末端部では旧六郷川に分断された左岸側に十宮古里遺跡(55:旧称 神戸中学校遺跡、弥生~中近世)や須賀遺跡(53:弥生~古代)、萱町遺跡(54:弥生~中世)、右岸側に本多町遺跡(40:≡神戸城跡)がある。

このうち平田遺跡は、旧の鈴鹿郡と河曲郡の境界に相当し、ここから以東が河曲郡となる。

⑤の金沢川南側水系は、深田遺跡や中島遺跡など今回報告する諸遺跡を含む水系である。

上流部は、神戸段丘の北段丘と南段丘に挟まれた低湿な沖積地に相当している。神戸城以前に国人領主・関氏が拠点を置いた沢城跡(E)を含む沢遺跡(42)が代表的存在で、遺跡形成の主体は高燥化が進む中世期以降に属するとみられるが、沢城跡からは縄文土器(後期)や弥生前期の土器片も出土している¹⁰⁾。

下流部は、南岸に深田遺跡、中島遺跡、双ツ塚西方遺跡、双ツ塚遺跡、それに金沢川遺跡が集中する。

これらの遺跡は、金沢川が北へ蛇行する内側に相当しており、このうち深田遺跡と双ツ塚西方遺跡、金沢川遺跡では南側の神戸丘陵南段丘から派生した舌状の小支尾根が沖積地の下部へ潜り込んでいる状況にある。一方、中島遺跡と双ツ塚遺跡の主要部は、金沢川が形成した自然堤防上に立地しており、遺跡の立地条件は良かった。

なお、金沢川遺跡と重なるように、5世紀中葉以降に群形成を開始した塚越古墳群が散在しており、このうち1号墳からは画文帯神獸鏡が出土している。こうした古墳群は、深田遺跡にも所在しており、昭和53年の県営圃場整備に伴う発掘調査で埴輪が出土する溝は確認されていたが¹¹⁾、今回の調査成果と合わせ、深田古墳群として把握・登録した。埴輪片は、深田遺跡以外でも点々と出土しており、古墳時代中期後葉以降、当地には疎らながら古墳が広く散在していた可能性がある。

⑥の神戸丘陵南段丘と岸岡山丘陵は、途中いくつか開析谷が入り込んでいるが、末端部を中心に集落や古墳が多数形成されている。

金沢川上流域にある神戸段丘南段丘の北部末端に位置する起A遺跡(34)では、弥生時代中期を中心とした集落遺跡で、縄文時代や室町時代の遺物も出土している。

神戸段丘南段丘と岸岡山丘陵は、伊勢湾に臨む海浜部の段丘及び丘陵で、多数の遺跡や古墳が形成された。なかでも、田古知川北岸の神戸段丘南段丘末端に位置する天王遺跡(6)と天王屋敷遺跡(7)は、古代における当地域の中心的な遺跡であり、天王屋敷遺跡では白鳳期に遡る伊勢でも最古級となる軒丸瓦が出土しているほか、天王遺跡では大型掘立柱建物を中心とした規則的な建物配置の掘立柱建物群が確認されている¹²⁾。両遺跡は、金沢川・田古知川を利用した古代河曲郡海部郷の港湾施設的な機能も担ったのではないかと推定される。ただし天王屋敷遺跡は、戦前の海軍施設の影響で、多くが改変されたことが惜まれる。

海岸線に屹立する岸岡山丘陵には、弥生後期の集落である岸岡山Ⅲ遺跡(26)があり、ここでも水晶製玉作関係遺物が出土している。また、重複するかたちで全長55mの前方後円墳・岸岡山2号墳を盟主

墳とする岸岡山古墳群（26）があり、22号墳と21号墳（全長53mの前方後円墳）の被葬者は当地の支配者層だったとみられる。

なお、岸岡山と伊勢湾海岸線の間には、金沢川河口部から南に延びる帯状潟の痕跡が認められ、この帯状潟に沿うかたちで南原永Ⅰ遺跡（29）など古墳時代遺物が出土した遺跡が立地している。田古知川の水運と合わせ、こちらも海部郷の港湾機能を担う

集落群だったとみてよかろう。岸岡山南東麓には、6世紀の須恵器窯である岸岡山窯跡群（87）があり、ここで生産された脚付短頸壺は「伊勢湾型」とも呼ばれ、対岸の知多半島や渥美半島の横穴式石室墳などへも副葬されていることが判明している⁽¹³⁾。当地が伊勢湾海運の交流拠点のひとつだったことを如実に示すものといえよう。（穂積）

註

- (1) 片岡香子・吉川周作1997「三重県鈴鹿川流域の段丘構成層の層序・編年—火山灰稀産地域での段丘編年の試み—」『第四紀研究』36-4 pp.263-276
- (2) 国土地理院のホームページから治水地形分類図（更新版）2007～2019「鈴鹿川水系」を参照した。
- (3) 国土地理院のホームページから「数値地図25000（土地条件）」（平成28年度版）を参照。
- (4) 平凡社1983『三重県の地名』
- (5) 三重県2005『三重県史 資料編考古1』。以下、特に註を付さない限り、本章の遺跡情報は本書に拠る。
- (6) 岡田登2001「三重県下出土の玉作り関係資料について」『史料』173（皇学館大学史料編纂所所報）。以下、玉作関係の記述は本文献による。
- (7) 安田喜憲 1973「三重県上箕田遺跡における弥生時代の自然環境の変遷と人類」『人文地理』第25巻第2号 人文地理学会

- (8) 三重県埋蔵文化財センター2004『河曲の遺跡』
- (9) 三重県教育委員会1973「鈴鹿市土師町・土師南方遺跡」『昭和47年度県営圃場整備地域埋蔵文化財調査報告』
- (10) 鈴鹿市考古博物館2009『沢城跡第1次発掘調査報告書』
- (11) 三重県教育委員会1979「鈴鹿市東玉垣町 深田遺跡」『昭和53年度県営圃場整備地域埋蔵文化財調査報告2』
- (12) 鈴鹿市2002『天王遺跡（第5次）発掘調査報告』
- (13) 中野晴久1993「脚付扁平広口埴考～須恵器における地域性の考察～」『知多古文化研究』7

【参考文献】

- ・鈴鹿市1980『鈴鹿市史』
- ・新田剛2005「銅鐸」『三重県史 資料編考古1』 三重県

第Ⅲ章 深田古墳群、深田遺跡（第2・3次）

第1節 調査の概要

1. 深田古墳群

深田遺跡（第2次）A区の調査過程で、古墳の周溝とみられる埴輪を大量に含む溝を確認した。当該地は、昭和53年度に発掘調査した深田遺跡第1次調査A地区の南側にあたり、1次調査でも埴輪を含む溝を確認している⁽¹⁾。

以上のことから、深田遺跡の包蔵地範囲内には、複数の古墳が存在することが明らかとなった。三重県では、包蔵地範囲内に、集落遺跡と古墳が併存する場合、それぞれ包蔵地を個別把握することが基本である。そこで、深田遺跡第2次調査で確認したSD7・SD8・SK9・SD10の4遺構は、古墳に伴う周溝と判断し、深田古墳群1号墳・2号墳として把握・登録することとした。さらに、北接する昭和53年深田遺跡第1次調査A区のSD2も周溝とみられることから、これを3号墳として把握する。

ただし、すでに実施した遺物注記などは深田遺跡として行っているため、遺構名称および注記はそのままとし、それぞれの遺構と古墳との対応関係は本書の本文及び遺物観察表等で行うこととする。トレンチ全体の土層は、深田遺跡第2次調査の成果を参照されたい。

なお、今回の調査（第2次調査）で深田古墳群として把握した範囲は、幅2m×長さ26mの52m²だが、深田遺跡とも重複しているため、深田遺跡の調査面積から深田古墳群の相当部分を総面積から減じる対応はしていない。（穂積）

2. 深田遺跡（第2次）

深田遺跡第2次調査は、昭和53年度に実施した深田遺跡第1次調査A地区の南側にあたる幅約2m×延長158mの東西トレンチであるA区、その東端部

に直交する幅約2m×延長95mの南北トレンチであるB区、それにA区の南側約80mにA区とほぼ平行した幅1.8m×延長124mの東西トレンチであるC区の3箇所に分かれる。

このうち、A区SD7～SD9・SK10については、埴輪の出土などから古墳に伴う周溝などであることが判明し、深田古墳群として報告する。総面積は、深田古墳群部分も含んで740m²である。

基本層序は、上から造成土又は耕作土、旧耕作土、中世の氾濫層とみられる灰黄褐色シルト～極細粒砂、地山（灰色シルト、褐灰色シルト、にぶい黄褐色極細砂～シルト）となる。凹地となる箇所は、包含層となる極暗褐色シルトが堆積している。（原田）

3. 深田遺跡（第3次）

深田遺跡第3次調査は、第2次調査B区北端より約80m北の交差点を西端とする幅2.2～2.5m×延長252.4mの東西に細長い調査区で、面積は525m²である。昭和53年度に実施した深田遺跡第1次調査B地区の南側にあたり、調査区の東側は中島遺跡A区に接している⁽²⁾。

調査区中央東寄りのd10～d23地区は検出面が5.4～5.6mで高く、堅穴建物9棟以上を確認した。d10地区以西、d24地区以東は低くなり、遺構は希薄となる。基本層序は、上から表土、造成土直下で地山に至る。凹地となる箇所は、西側（SZ33）は造成土の下に黒褐色粘土、灰オリーブ色シルト、黒褐色粘質シルト、黒色粘土となる。自然科学分析の結果、灰オリーブ色シルトで、アブラナ科の花粉が卓越して認められ、近世以降の層序とみられる。

東側（SZ71付近）は暗褐色粘土、オリーブ褐色粘土、黒褐色粘土が堆積している。（原田）

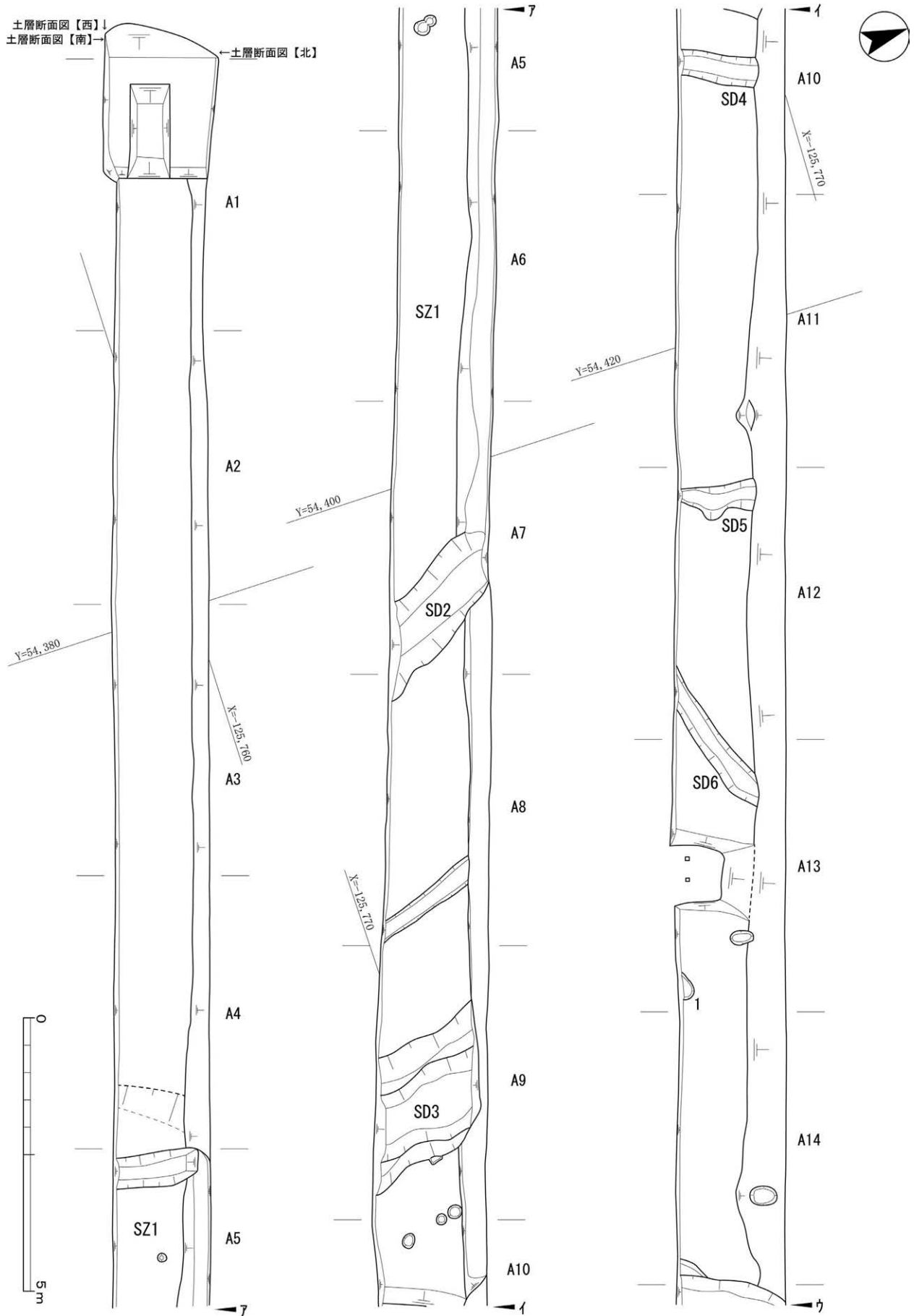
第2節 遺 構

1. 深田古墳群（第Ⅲ-2、6～8図）

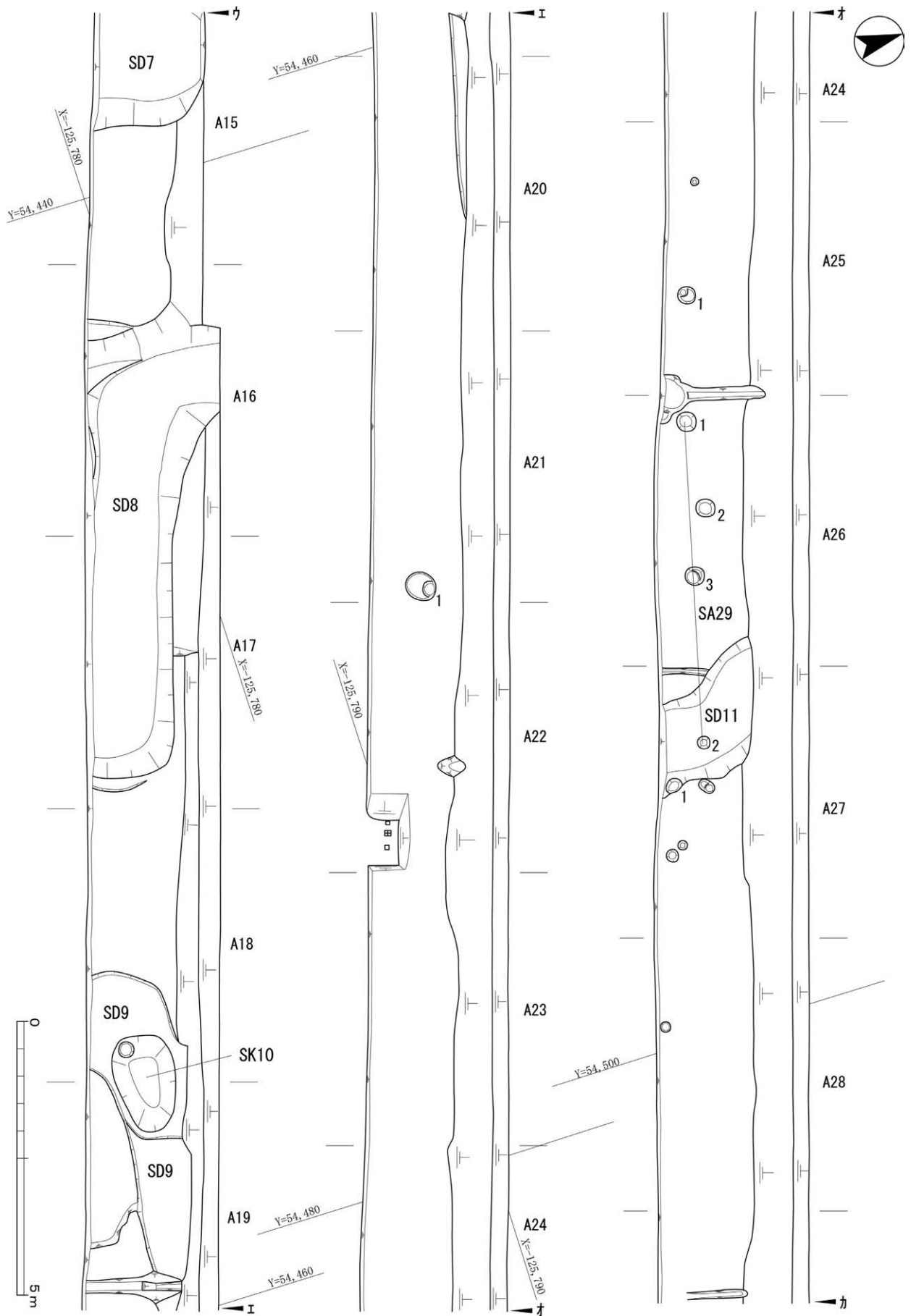
（1）深田1号墳（SD7・8）

墳形と規模 全体のごく一部を確認しただけである

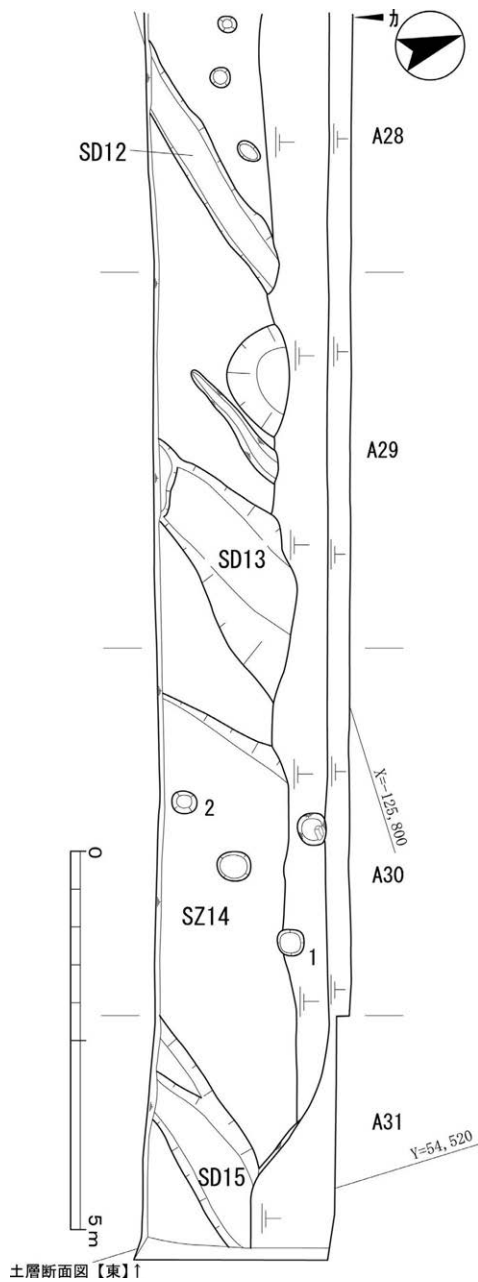
が、発掘調査でSD8とした北側に屈折するL字状の溝から大量の円筒埴輪・形象埴輪と若干の須恵器・土師器類が出土したことから、これを古墳周溝と判



第Ⅲ-1图 深田遺跡(第2次)A区平面图1(1:100)



第Ⅲ-2図 深田遺跡(第2次)A区平面図2(1:100) * 深田古墳群を含む



第Ⅲ-3図 深田遺跡(第2次)A区平面図3(1:100)

断した。SD8は、現況で東西8.4m、南北1.5m以上、検出面からの深さ0.43mを測る。

幅2mという調査区上の制約から南側の状況は不明だが、北側に所在する昭和53年度深田遺跡第1次調査A地区には直接SD8に対応しうる周溝は存在せず(これとは別の周溝状の溝は存在)、またSD8東側も南側へ屈折していく状況を呈する。このことから、SD8は南側の調査区外に主体部等をもった方墳の北東部周溝と判断した。

さらに、SD8の西側には、検出面で幅2.6mほ

どの南北溝があり、ここからも、ごく少量の同時期の須恵器、埴輪片が出土している。SD7とSD8の屈折部以北の部分は3.6mほどの間隔を空けて相対している。以上のことから、この部分は方墳に付設した小さな造出状の突出部と判断した。後述するSD7とSD8の堆積状況の照応性と、SD8西端部はやや西側に、SD7東端部はやや東側に屈曲し、両溝は相互に対応した状況を示している。

ただし、SD8を古墳周溝とみた場合、その主軸は調査区の主軸から僅かながら北に振っているため、SD7・8を突出部のある北周溝とすると、その北西側は調査区外となる。つまり、唯一遺存した北辺ですら周溝全体の形状には及んでいない。しかし、SD8については、その東端部から8.4mと確認できる。ここに、突出部幅3.6mの中軸1.8mを加えると、10.2mとなる。この数値を南側に折り返すと、一応20.4mの東西幅数値が得られる。

つまり、1号墳は、東西長と南北長を同じとみた場合、一辺20.4m(周溝含)の方墳であり、その北側に小さな造出状の突出部をもった墳形として復元できるであろう。

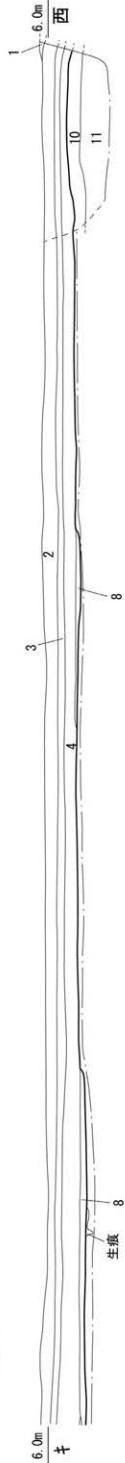
周溝堆積状況 SD7・SD8ともに、周溝埋土直上には中世の遺物を包含した灰黄褐色シルト層に上部を削平された状態で存在している。

SD7は、上層から、1層；黒色シルト(幅薄)、2層；暗褐色シルト、3層；黒褐色シルト、4層；暗褐色シルト(一部のみ、幅薄)を経て、地山の黄褐色シルトに至る。

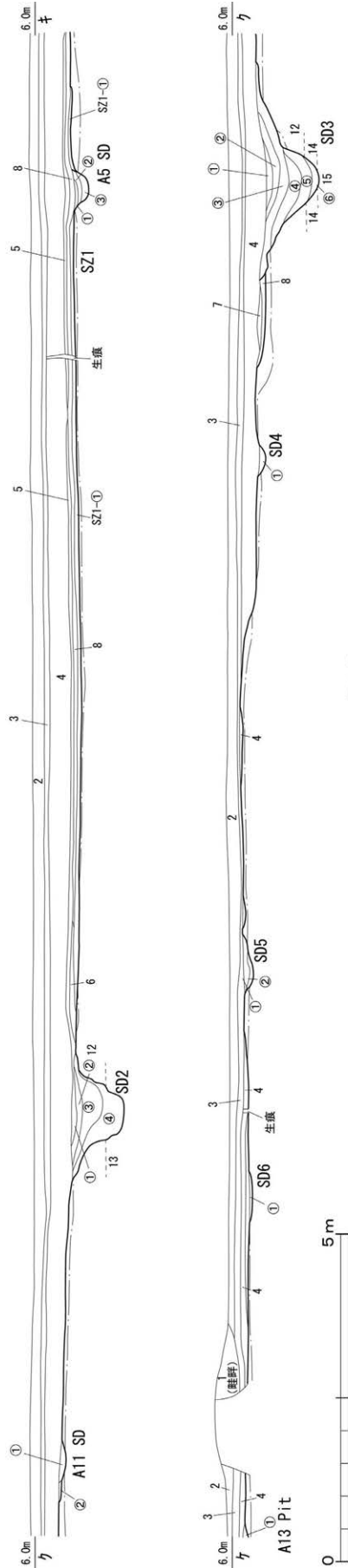
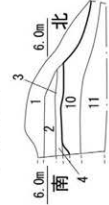
一方、SD8は、上層から、1層；黒色シルト(幅薄)、2層；黒褐色シルト、3層；黒色シルト、4層；暗褐色シルト(一部のみ)、5層；礫混じりにぶい黄褐色シルトを経て、地山の黄褐色シルトに至る。埴輪・土器の出土は2層と3層に集中し、4層と5層は基本的に遺物を含まない。また、5層は、色調・粒度ともに地山に近く、若干地山を汚した土質状況をとる。

SD7とSD8の土層状況は、まったく同じではないが、1層～4層までは若干の土色の差はあるものの礫混じりの粒度状況など基本的に照応しており、1層と4層の状況は全く同じである。このことから、両溝は基本的に同じ堆積過程を経てきたとみられ、

A区南壁



A区西壁



- 1 造成土
- 2 耕作土
- 3 旧耕作土
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト～極細粒砂、径2～4mmの礫を2%含む(中世の記層層分)
- 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト～極細粒砂、径2～4mmの礫を1%未満含む、4層とほぼ同一だが鉄分沈着の度合い異なる
- 6 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルトと10YR4/4 褐色シルト～極細粒砂が同程度、径5～10cmの塊状に混じる
- 7 10YR3/4 暗褐色極細粒砂～極粗粒砂、径2～8mmの礫を50%含む
- 8 7.5YR2/3 極暗褐色シルト(包含層)
- 9 10YR2/1 黒色シルトに径5cmの10YR3/2 黒褐色シルトブロックを含む
- 10 10YR5/6 黄褐色シルト～極細粒砂、径2～4mmの礫を5%含む(地山)
- 11 10YR6/6 明黄褐色～10YR6/4 に近い黄褐色極粗粒砂～細粒砂、径2～20mmの礫を20%含む、締まり弱い(地山)
- 12 10YR4/4 褐色シルト～極細粒砂、径2～4mmの鉄分礫を10%含む(地山)
- 13 10YR4/1 褐色シルト、径2mm程度の鉄分礫を5%含む(地山)
- 14 7.5YR7/1 明視灰色極粗粒砂～中粒砂、径2～12mmの礫を50%含む、締まり弱く湧水あり(地山)
- 15 5Y6/1 灰色シルト(地山)

A11 SD

- ① 10YR3/4 暗褐色極細粒砂～シルト、径2～6mmの礫を1%含む
- ② 10YR4/4 褐色極細粒砂～シルト

SD2

- ① 7.5Y4/1 褐灰色シルト～極細粒砂、径4mm以下の鉄分礫を15%含む
- ② 7.5YR2/3 極暗褐色シルト～極細粒砂と10YR2/2 黒褐色シルトが同程度塊状に混じる
- ③ 10YR2/1 黒色シルト、径2～10mmの鉄分を2%含む
- ④ 10YR2/3 黒褐色シルト、径2～20mmの鉄分を5%含む

SD3

- ① 7.5YR 褐灰色シルト～極細粒砂、径4mm以下の鉄分礫を15%含む
- ② 7.5YR 褐灰色シルト～極細粒砂、径4mm以下の鉄分礫を5%含む
- ③ 10YR3/4 暗褐色シルト～極細粒砂、径2～6mmの礫を5%含む
- ④ 10YR2/1 黒色シルト、径2～8mmの礫を5%含む
- ⑤ 10YR2/3 黒褐色シルト～極細粒砂、径2～10mmの礫を3%含む
- ⑥ 10YR2/3 黒褐色シルト～粗粒砂、径2～10mmの礫を20%含む

SD4

- ① 10YR3/3 暗褐色極細粒砂～シルト、径2mmの礫を2%含む

SD5

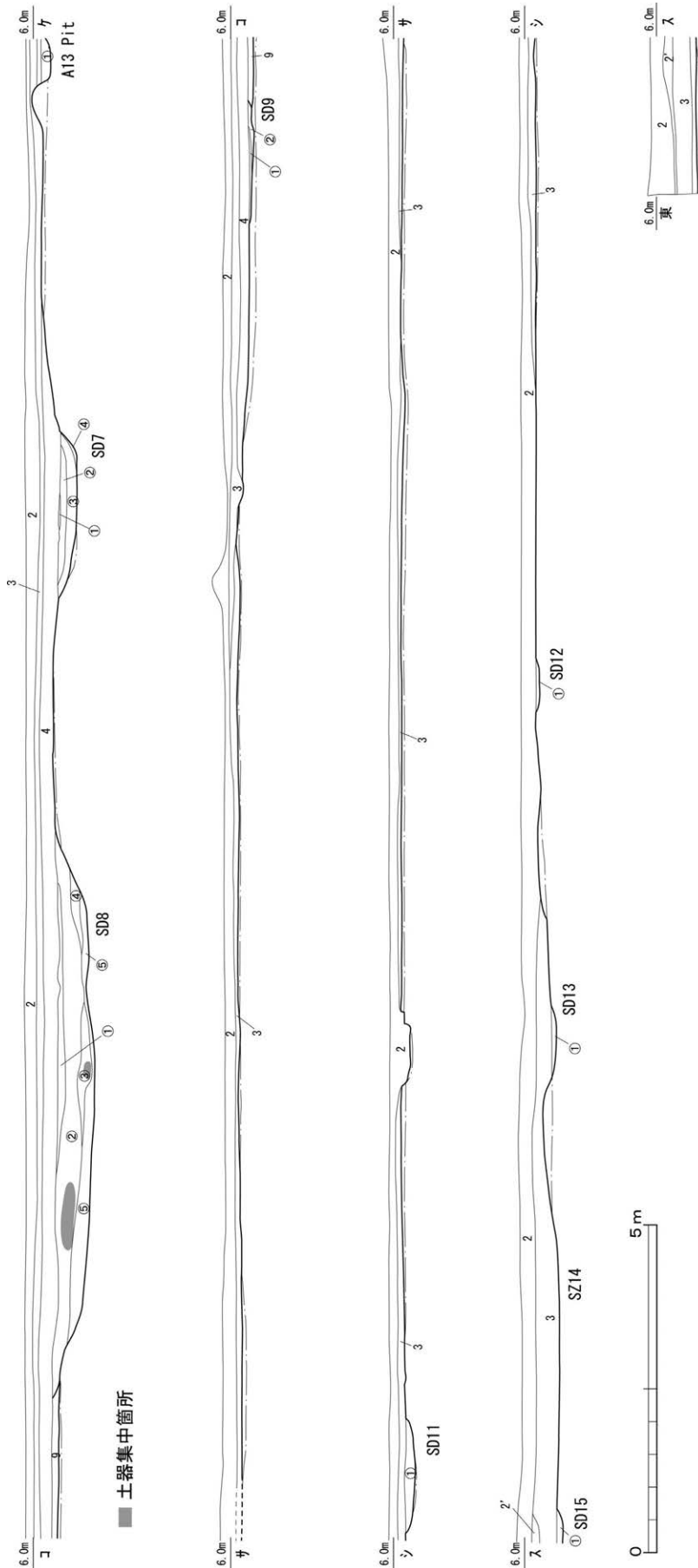
- ① 10YR3/4 暗褐色極細粒砂～シルト、径2～10mmの礫を5%含む

SD6

- ① 10YR4/4 褐色シルト～極細粒砂、径2～4mmの礫を5%、径6～12mmの木炭粒を1%未満含む

第III-4図 深田遺跡(第2次)A区土層断面図1(1:100)

第三-5図 深田遺跡(第2次)A区土層断面図2(1:100)



A13 Pit

① 10VR3/3 暗褐色シルト～細粒砂

SD7

- ① 10VR2/1 黒色シルト
- ② 10VR3/4 暗褐色シルト～細粒砂、径2～5mmの礫を2%含む
- ③ 10VR2/3 黒褐色シルト～極細粒砂、径2～5mmの礫を2%含む
- ④ 10VR3/4 暗褐色極細粒砂～シルト

SD8

- ① 10VR2/1 黒色シルト
- ② 10VR2/3 黒褐色極細粒砂～シルト、径2～8mmの礫を2%含む、局部的に埴輪を多量に含む
- ③ 10VR2/1 黒色シルト、径2～20mmの礫を5%含む、下位に埴輪片が集中する箇所あり
- ④ 10VR3/4 暗褐色シルト～中粒砂、径2～6mmの礫を10%含む
- ⑤ 10VR3/4 にぶい黄褐色極細粒砂～中粒砂、径2～8mmの礫を30%含む

SD9

- ① 10VR2/3 暗褐色シルト～極細粒砂、土器片を含む
- ② 10VR3/4 暗褐色シルト～細粒砂、径2～4mmの礫を2%含む

SD11

- ① 10VR3/4 暗褐色極細粒砂～中粒砂、径2～6mmの礫20%含む

SD12

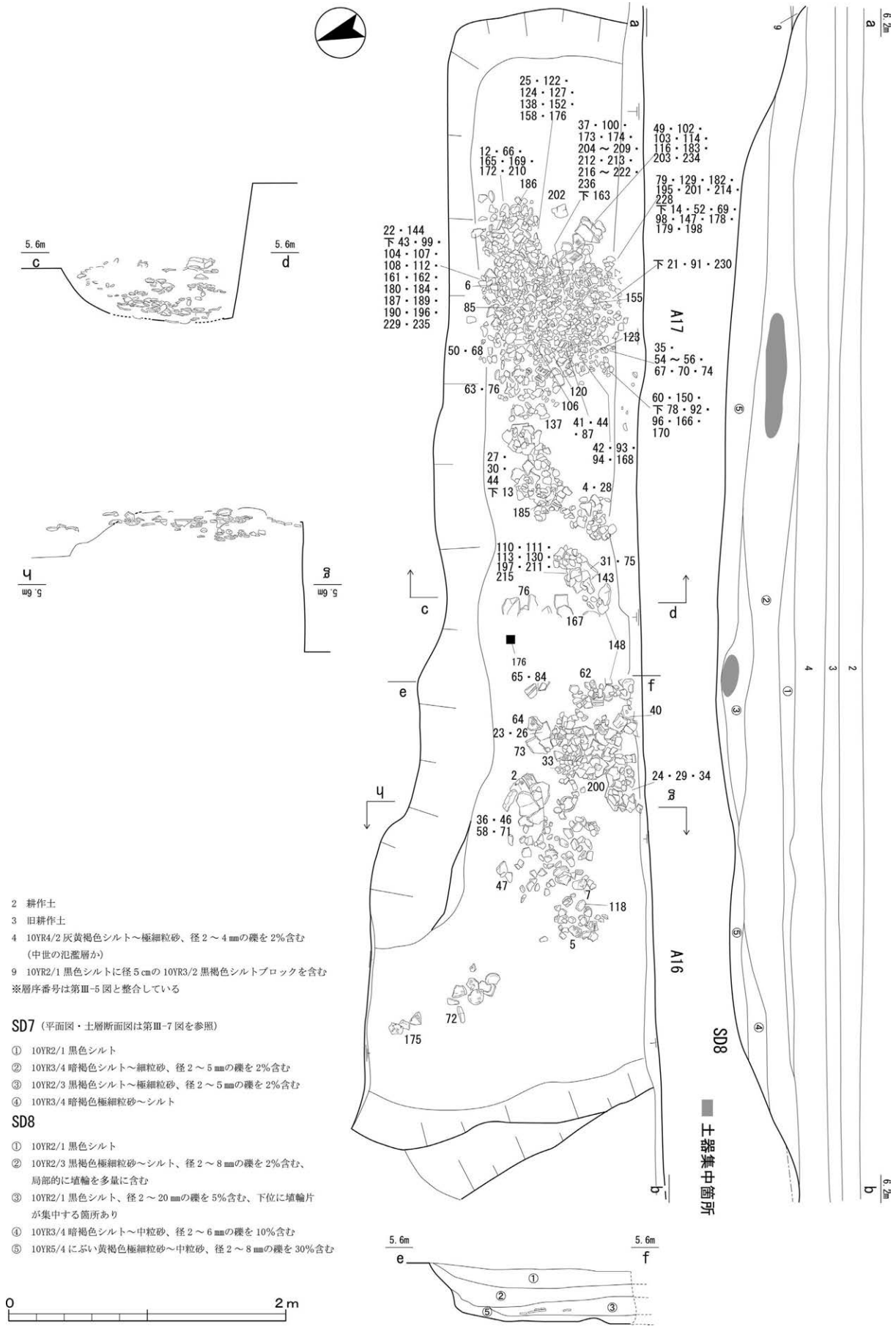
- ① 10VR3/3 暗褐色シルト～細粒砂、径2～4mmの礫5%含む

SD13

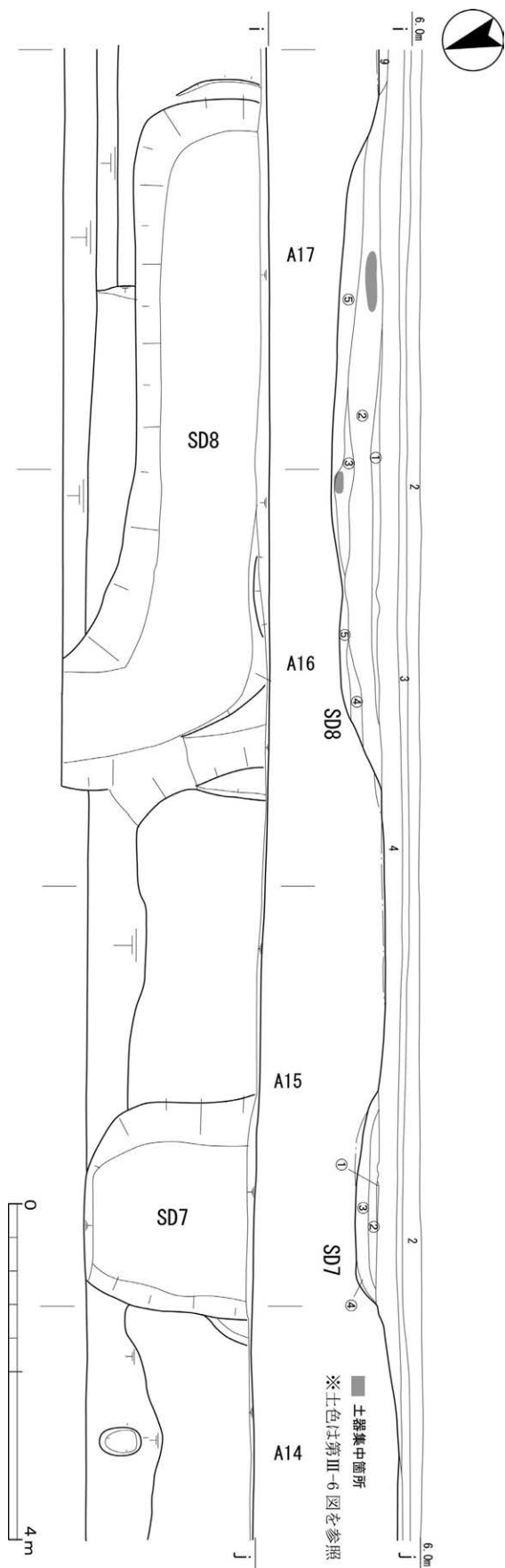
- ① 10VR3/3 暗褐色シルト～極細粒砂、径2～3mmの礫を2%含む

SD15

- ① 10VR2/1 黒色シルト～極細粒砂、径2～6mmの礫を3%含む



第Ⅲ-6図 深田遺跡(第2次)A区SD8平面図・断面図・土層断面図(1:40)



第Ⅲ-7図 深田遺跡(第2次)A区SD7・8平面図・土層断面図(1:80)

2層・3層における土色の若干の差異は、SD8の2層・3層に遺物を大量に含む(残存してなかったが有機質のものも存在した可能性がある)ことによる土壌の還元作用などによる差異と考えられよう。
遺物出土状況 SD7は、最下層から須恵器杯身が出土した。埴輪については、細片のみで図示しうるものはなかった。

SD8は、2層と3層に土器を若干含みつつ円筒埴輪と形象埴輪が大量に含まれていた。ただし、原位置を留めるものは1点もなく、すべて2次的に堆積した状況を示していた。3層最下部から男性人物頭部(175)が出土したが、これ自体、原位置を留めるものではない。また、円筒埴輪・形象埴輪ともに、基部に相当する破片が少なく、円筒では口縁部片も多い。このことは、古墳への埴輪樹立にあたって、円筒・形象ともに基部を若干墳丘に埋めて樹立したが、何らかの理由で地表付近から削平され、基部を残して周溝に転落した埴輪が多かったものと推察される。

なお、須恵器については、SD8がL字状に屈折するあたり(いわゆるくびれ部)の周溝中央下部に比較的大型の破片が集中する傾向が認められた。

(2) 深田2号墳(SD9・SK10)

墳形と規模 2号墳は、1号墳の東側に所在する。ただし、1号墳から2号墳に向かって若干微高地となり、さらに東に向かって上がっていく。そのため、後世の削平により遺構の残りは悪い。

かろうじて検出できたのは、調査区外の南側から回り込んで東側へ向かう幅1.52m、延長10m以上の東西溝であるSD9で、検出面から最も深いところでも6cmしか残存していなかった。調査区際ではあるが西側がL字状に屈折もしくは屈折して南側へ伸びていくらしい溝形状から、一辺内法で8m以上の方墳の可能性はあるが、東側周溝に相当する溝は確認できず、削平のため検出できなかったものと判断した。

溝の床面に長さ1.76m×幅1.16m、深さ22cmの卵形を呈した土坑SK10があり、円筒埴輪片と須恵器杯蓋が出土した。周溝内に掘り込まれた、2号墳に付属する埴輪棺と推定した。

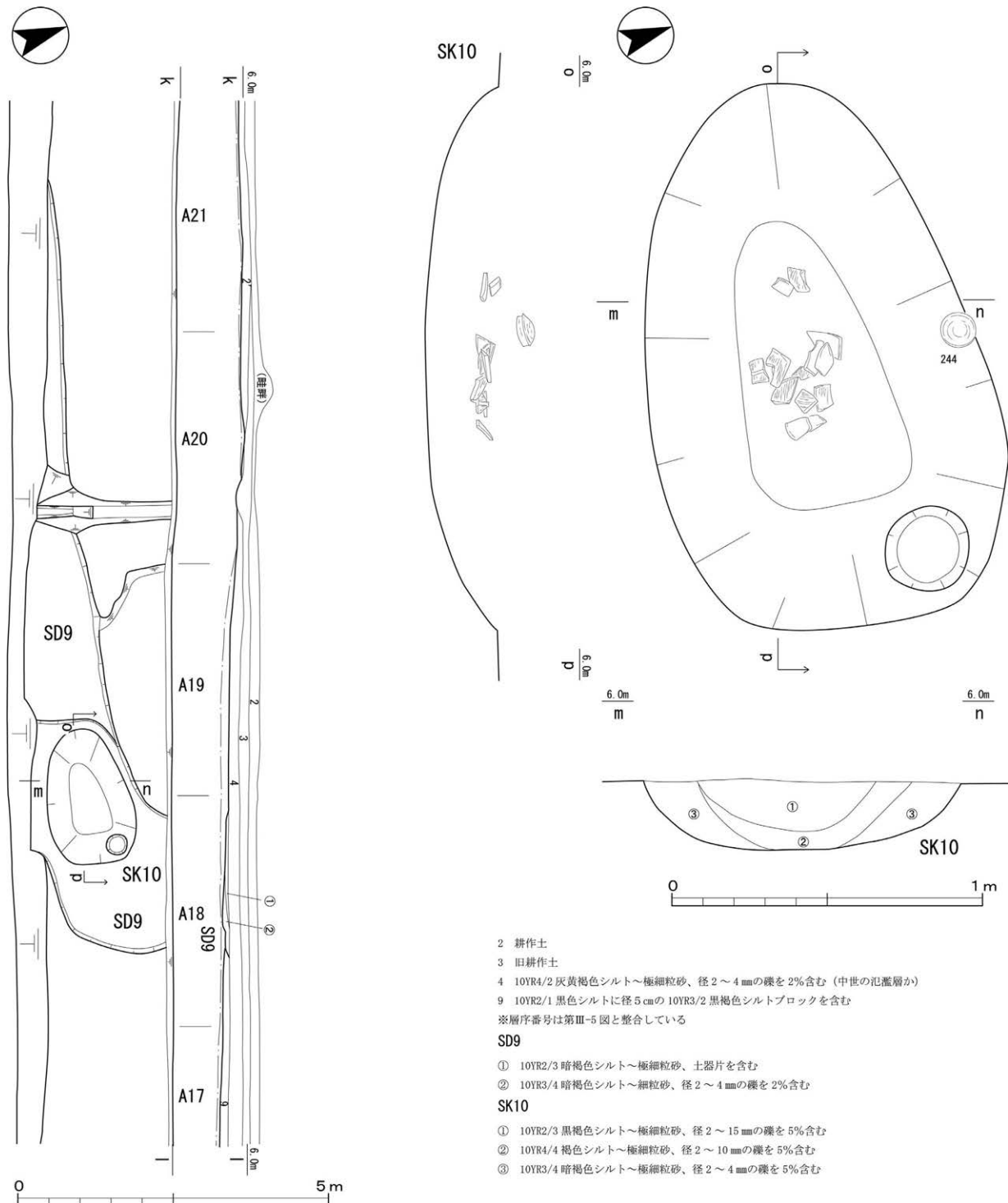
周溝堆積状況 SD9は上部が削平されていたため、確認できたのは遺構底だけである。埋土は、2層に

分層したが、上層ともに暗褐色シルトで、色調の濃淡と粒度で若干の差が存在した（第Ⅲ-8図参照）。

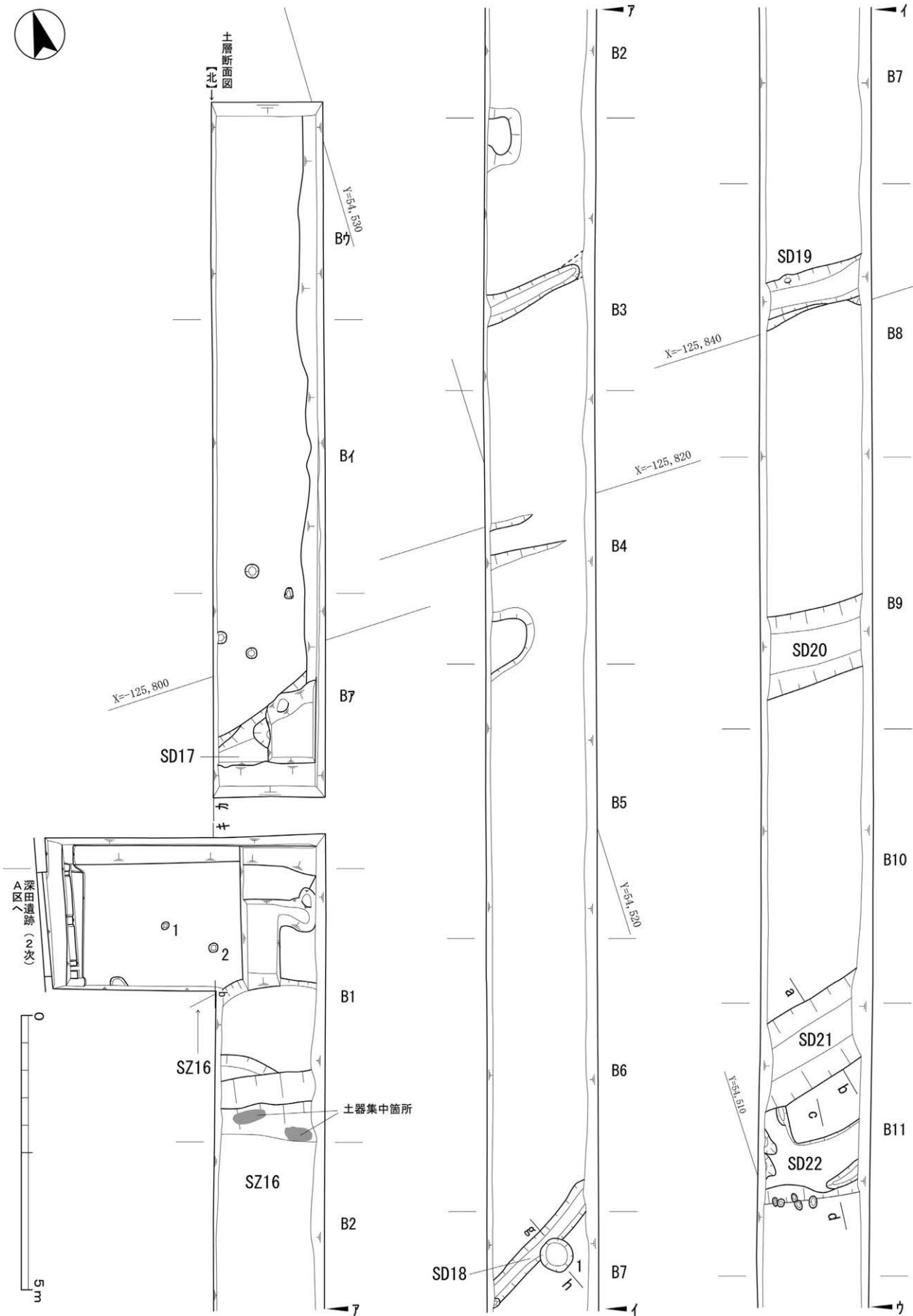
SK10は、上層より1層；黒褐色シルト、2層；褐色シルト、3層；暗褐色シルトで地山に至る。3層をベースに2層が緩いU字形に掘り込まれ、その

内側に1層が堆積した状況を呈する。

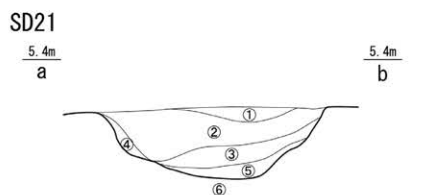
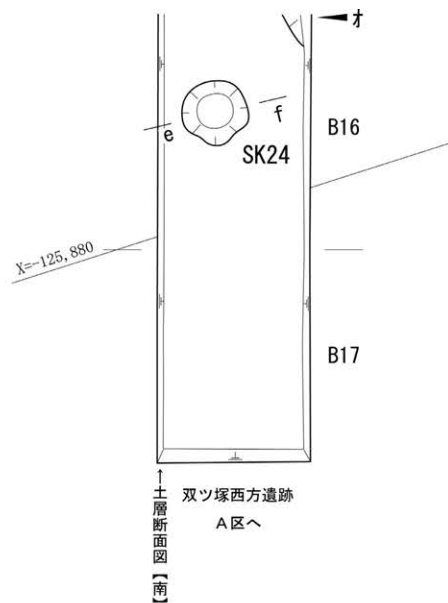
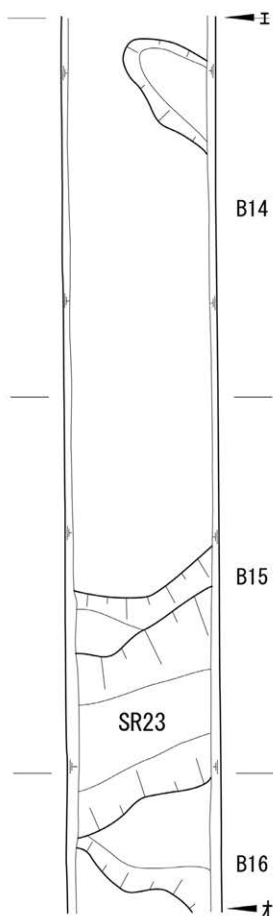
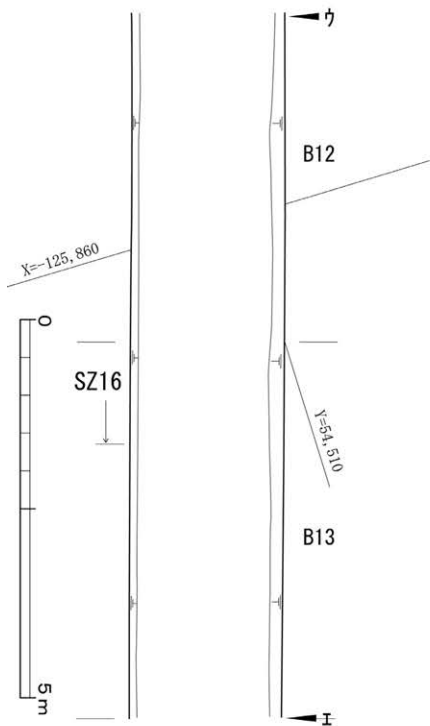
遺物出土状況 SD9は、円筒埴輪と朝顔形埴輪、土師器、須恵器の破片が散在して出土した。原位置を示すものはない。多くがSK10周辺から出土しており、SK10に伴っていたものが周辺に散らばった



第Ⅲ-8図 深田遺跡(第2次)A区SK10・SD9平面図・土層断面図(1:20, 1:100)



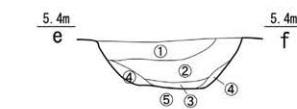
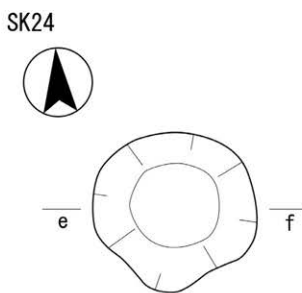
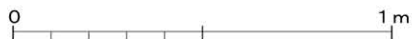
第Ⅲ-9図 深田遺跡(第2次)B区平面図1 (1:100)



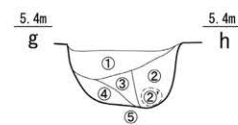
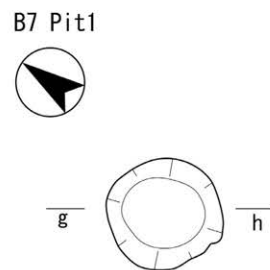
- ① 10YR1.7/1 黒色シルト
- ② 10YR2/2 黒褐色シルト～極細粒砂、径2mmまでのマンガン粒を0～5%含む
- ③ 10YR2/2 黒褐色極細粒砂～シルト
- ④ 10YR2/2 黒褐色シルト～粗粒砂、径2～6mmの礫を10%含む
- ⑤ 4層とほぼ同じ
- ⑥ 6N/ 灰色極粗粒砂～細粒砂、径2～20mmの礫を50%含む（地山）



- ① 10YR1.7/1 黒色シルト
- ② 10YR6/1 褐色シルト、径2～4mmの礫を0～20%含む（地山）



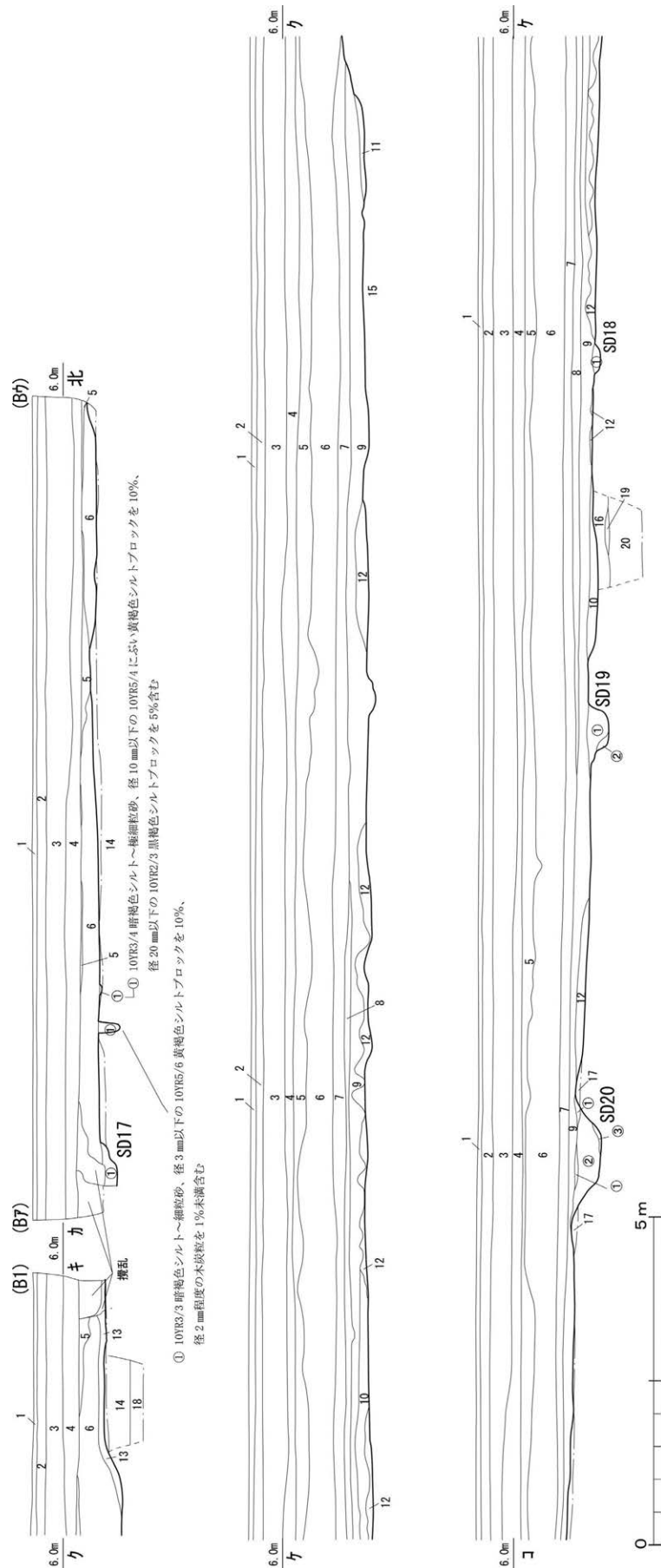
- ① 10YR1.7/1 黒色シルト、径2～4mmの礫を5%含む
- ② 10YR2/2 黒褐色シルト～極細粒砂、径2～30mmの礫を20%、鉄分の滲み多く含む
- ③ 10YR4/1 褐色シルト
- ④ 7.5YR3/1 黒褐色極細粒砂～中粒砂、径2～6mmの礫を10%含む
- ⑤ 2.5Y5/1 黄灰色極粗粒砂～細粒砂、径2～30mmの礫を30%含む（地山）



- ① 10YR2/1 黒色シルト
- ② 10YR2/1 黒色シルトと 10YR4/1 褐色シルト、10YR1.7/1 黒色シルトが径5cm大のブロック状に混じる
- ②' 10YR1.7/1 黒色より黒いシルト
- ③ 10YR1.7/1 黒色シルト
- ④ 2.5Y3/1 黒褐色シルト～細粒砂
- ⑤ 2.5Y3/2 黒褐色極粗粒砂～細粒砂、径2～30mmの礫を50%含む（地山）

第三-10図 深田遺跡(第2次)B区平面図2(1:100)、SK24,SD21・22,B7Pit1平面図・土層断面図(1:20)

第Ⅲ-11図 深田遺跡(第2次)B区土層断面図1(1:100)



① 10YR3/3 暗褐色シルト～細粒砂、径3mm以下の10YR5/6黄褐色シルトプロットを1%未混含む
径2mm程度の木炭粒を1%未混含む

① 10YR3/4 暗褐色シルト～極細粒砂、径10mm以下の10YR5/4に黄褐色シルトプロットを10%、
径20mm以下の10YR2/3黒褐色シルトプロットを5%含む

1 アスファルト

2 砂石

3 造成土1

4 造成土2

5 造成土3

6 10YR4/2 灰黄褐色シルト～極細粒砂、径2～4mmの礫を20%含む(中世瓦器層、深田遺跡2次A区4層に相当)

7 10YR3/4 暗褐色～10YR2/2 黒褐色シルト～極細粒砂、下位にいく程漸移的に黒化する、垂直方向に礫分の増み
20%あり、古代～中世の土器が出土(SZ16 上面)

8 10YR2/1 黒色シルト～極細粒砂

9 10YR2/1 黒色シルト、径10～30mmの礫を1～5%含む、径2mmの脆弱な鉄分粒を3%含む(SZ16埋土)

10 10YR2/1 黒色シルト、局部的にやや暗灰色に近い箇所あり

11 10YR4/1 褐灰色極細粒砂～極粒砂、径2～30mmの礫を50%含む(SZ16埋土)

12 10YR2/1 黒色シルトと10YR4/1 褐灰色シルトが同程度、径10～20cmの礫を50%含む(SZ16埋土)

13 7.5YR2/3 暗褐色シルト(包含層、深田遺跡2次A区8層に相当)

14 10YR3/4 暗褐色シルト～極細粒砂、径2～6mmの礫を5%含む(地山)

15 7.5YR1/1 灰色～2.5Y4/2 暗灰黄色極粗粒砂～細粒砂、径2～30mmの礫を50%含む(地山)

16 2.5Y3/2 黒褐色極粗粒砂～細粒砂、径2～30mmの礫を50%含む(地山)

17 10YR4/1 褐灰色シルト(地山)

18 10YR6/6 明褐色～10YR6/4に黄褐色極粗粒砂～極細粒砂、径2～8mmの礫を20%含む(地山)

19 N6/ 灰色極細粒砂と10YR6/6明黄褐色極細粒砂が球状に混じる(地山)

20 N6/ 灰色極細粒砂～細粒砂、径2～30mmの礫を50%含む(地山)

SD17

① 10YR2/3 暗褐色シルト～極細粒砂、径2～4mmの礫を3%、径5mm以下の脆弱鉄分粒を5%含む

SD18

① 10YR1.7/1 黒色シルト

SD19

① 10YR2/1 黒色極細粒砂～中粒砂、径2～5mmの礫を10%含む

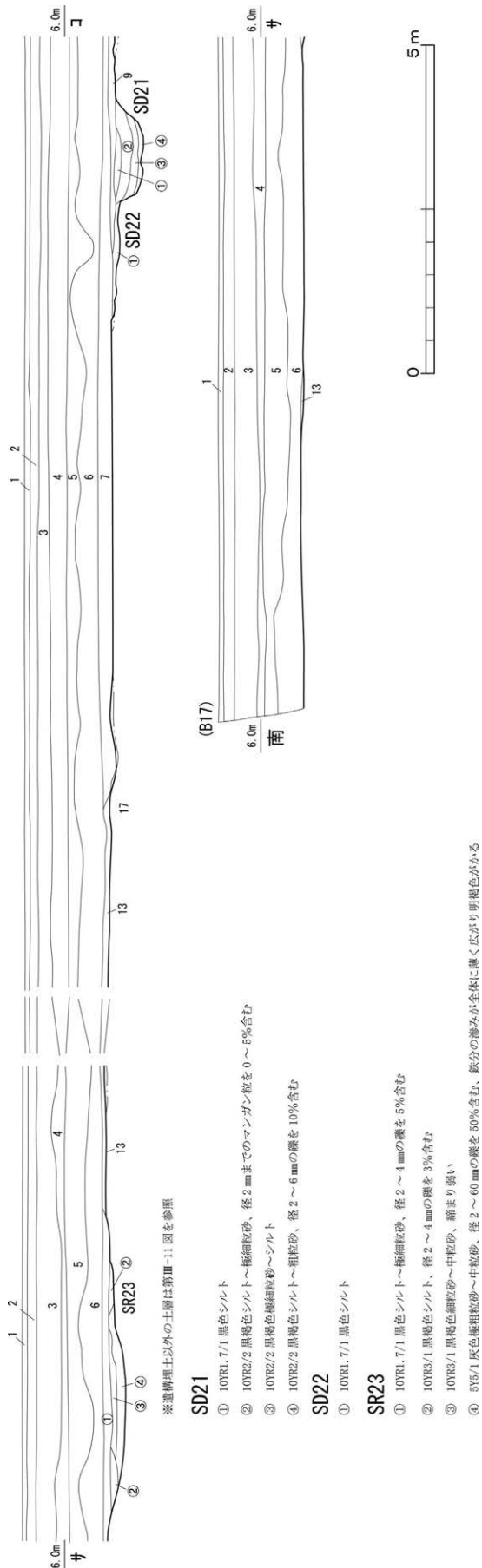
② 10YR2/1 黒色極細粒砂～中粒砂とN6/ 灰褐色極細粒砂～中粒砂が同程度、径5mm程度のブロック状に混じる

SD20

① 10YR1.7/1 黒色シルト～極細粒砂

② 10YR2/1 黒色極細粒砂～シルト、径2～4mmの礫を2%含む

③ 10YR2/1 黒色極細粒砂～細粒砂、径2～10mmの礫を50%含む



第Ⅲ-12図 深田遺跡(第2次)B区土層断面図2(1:100)

ものも含まれている可能性がある。円筒埴輪はSK10出土の246とは分量・調整が明らかに異なる237～242、それに朝顔形埴輪片の243などはSD9に伴うものであろう。ただし、須恵器杯蓋(244)は、SK10の検出面直上から出土しており、SK10に伴う遺物だった可能性が高い。

SK10は、1層を中心に円筒埴輪片が壊れた状態だった。口縁部・底部を欠くが、いずれも外面タテハケ調整を施した円筒であり、本来同一個体の埴輪だった可能性がある。他に土師器・高杯が出土した。

(3) 深田3号墳

墳形と規模 昭和53年度深田遺跡第1次調査A区の西南端で確認されたSD2を方墳の北側周溝と判断し、これを3号墳とした。南側は調査区外に延び、南側の平成30年度深田遺跡(第2次)調査区には延長が出てこないことから、平成30年度調査区よりも北側で完結するとみられる。現況で幅4m以上×長さ14m以上、深さ1.3mを測り、復元すると一辺15m程度(周溝含む)の小さな方墳だったとみられる。埴輪を含む古墳時代遺物が出土したが、図示しうるものはなかった。

(4) 昭和53年度深田遺跡第1次調査A区SK7

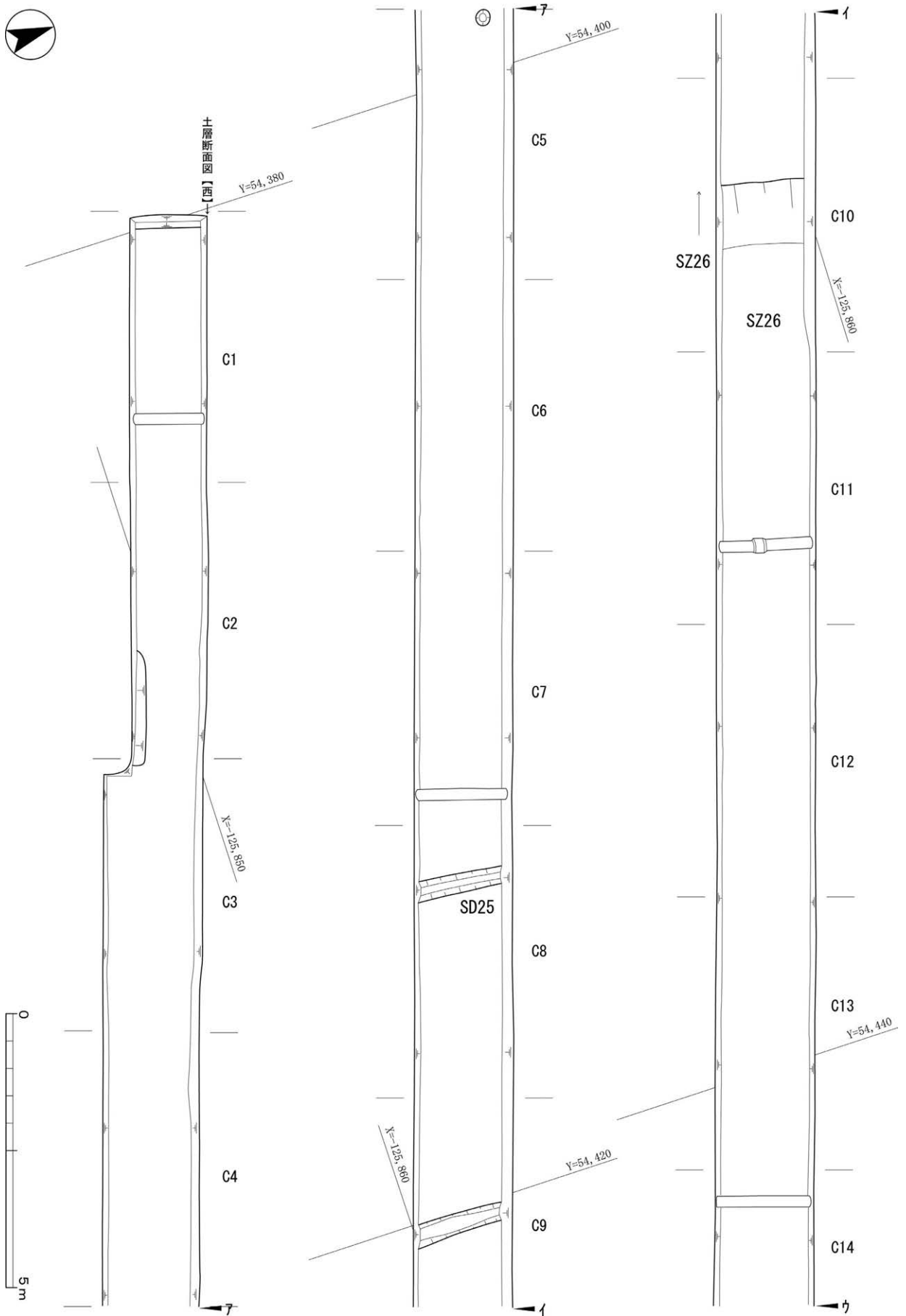
深田3号墳の東側に存在する幅7.5m×長さ2.5m、深さ20～60cmの細長い形状の土坑で、西側が深くなっている。埴輪を大量に含んでおり、周溝の可能性もあるが、南側への延長が確認できず、昭和53年度調査時点では溝と考えられているが、周辺の発掘調査成果を加味して同時期の土坑と判断した。複数の円筒埴輪と朝顔形埴輪による埴輪棺の可能性もあるが、家形埴輪も出土していることから、現時点で埴輪棺と確定することは難しい。(穂積)

2. 深田遺跡(第2次、第Ⅲ-1～5,9～16図)

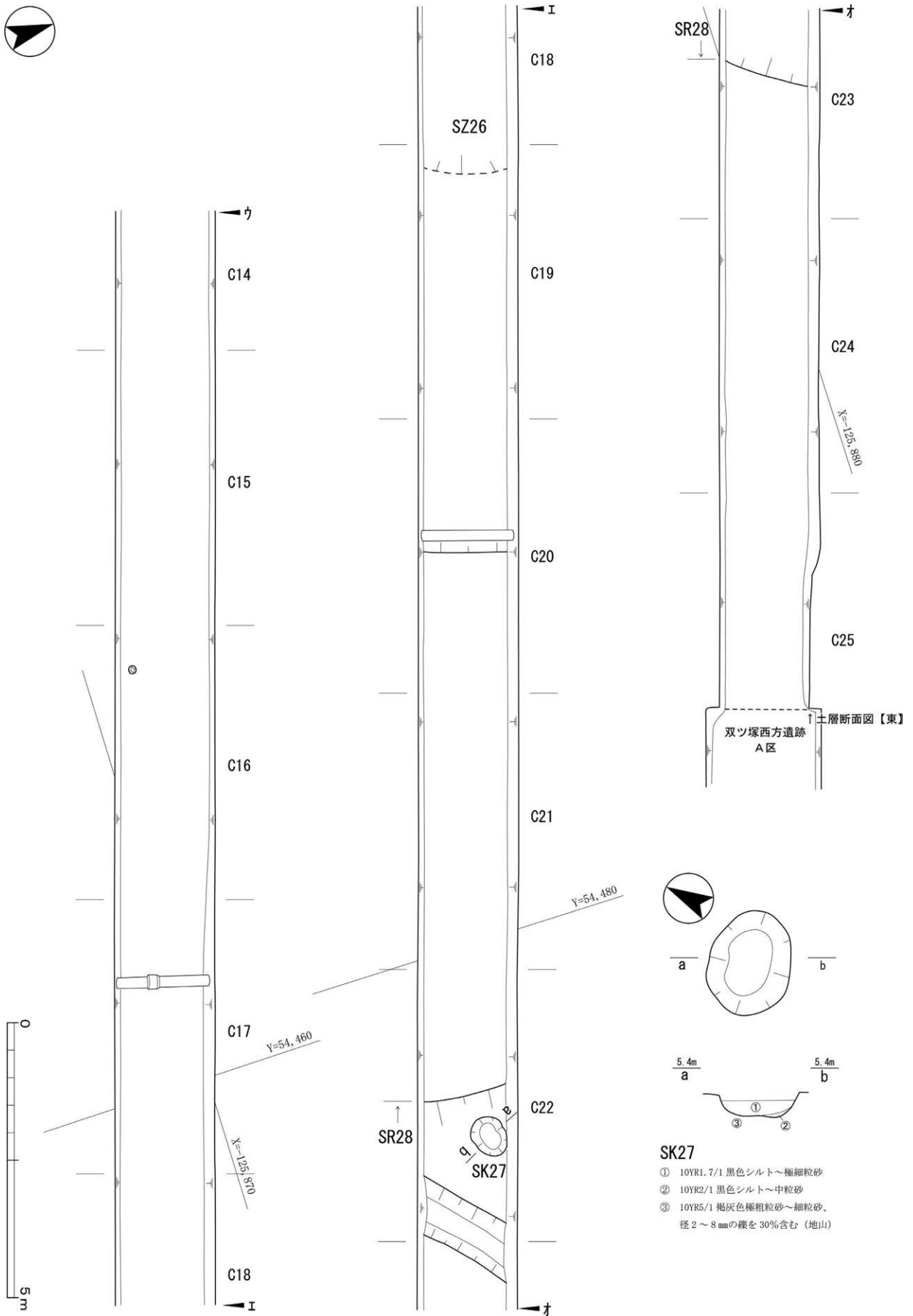
SZ1 A5～7に位置し、幅約27m、検出面からの深さ16cmの落ち込み状となる。暗褐色極細粒砂～シルトが堆積した後にA5の溝が掘削されている。埋土から古代～中世の遺物が少量出土した。

SD2 A7・8で検出した幅1.1m、深さ71cm、断面U字形の溝である。向きはN25°Wである。埋土から土師器片が出土したが、小片で時期は判断できない。

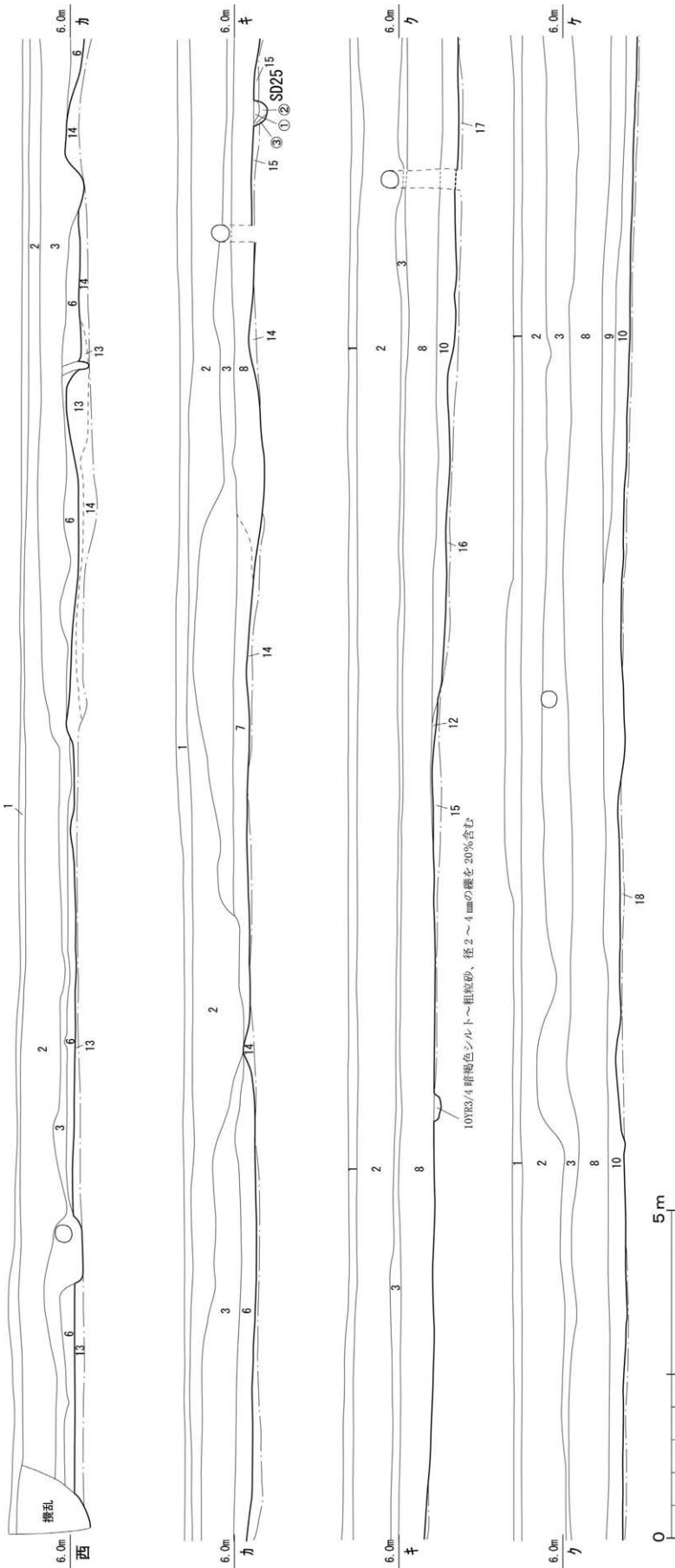
SD3 A9で検出した幅2.1m、深さ88cmの溝で



第Ⅲ-13図 深田遺跡(第2次)C区平面図1(1:100)

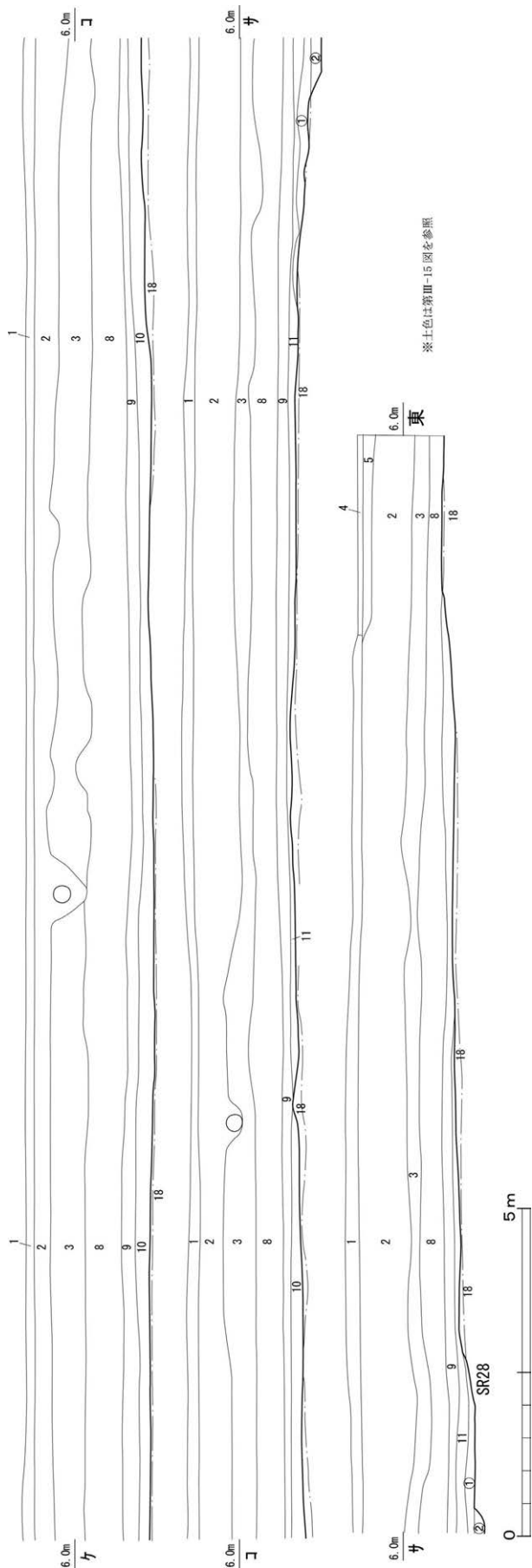


第Ⅲ-14図 深田遺跡(第2次)C区平面図2(1:100)、SK27平面図・土層断面図(1:40)



第Ⅲ-15図 深田遺跡(第2次)C区土層断面図1(1:100)

- 1 表土
 - 2 造成土1
 - 3 造成土2
 - 4 アスファルト
 - 5 礫石
 - 6 10YR4/2 灰黄褐色シルト～極細粒砂、径2～4mmの礫を2%含む(中世記産層)
 - 7 汚染強く暗オリーブ化。2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト～極細粒砂、径2～5mmの礫を5%、径5mm以下の木炭粒を部分的に少量含む(中世記産層)
 - 8 10YR4/2 灰黄褐色シルト～極細粒砂、径2～5mmの礫を5%、径5mm以下の木炭粒を部分的に少量含む(中世記産層)
 - 9 10YR3/1 黒褐色シルト、径2mm程度の礫を2%含む(SZ26 上面)
 - 10 10YR1.7/4 黒色シルト(SZ26 埋土)
 - 11 10YR2/3 黒褐色シルト～極細粒、下位には10YR4/6 褐色シルトブロックを含む(包含層)
 - 12 10YR3/4 暗褐色シルト～極細粒砂(包含層)
 - 13 5Y4/3 暗オリーブ色極細粒砂～シルト(造成土による汚染でオリーブ色化している)(地山)
 - 14 10YR5/6 黄褐色極細粒砂～シルト、径1mm以下のマンガン粒を2%、径10mm以下の散乱な鉄分粒を1%含む(地山)
 - 15 10YR5/4 に近い黄褐色極細粒砂～シルト、径2～8mmの礫を20%含む(地山)
 - 16 N6/ 灰色極粗粒砂～細粒砂、径2～15mmの礫を30%含む、しまりやや弱くグライ化(包含層)
 - 17 N6/1 灰色シルト、径10mm未満の鉄分の滲みが10%あり(地山)
 - 18 N6/ 灰色シルト(地山)
- SD25**
- ① 10YR4/4 褐色極細粒砂～シルト、径2mmの礫を3%含む
 - ② 10YR4/3 に近い黄褐色シルト～極細粒砂、径2～6mmの礫を1%含む
 - ③ 10YR4/3 に近い黄褐色中粒砂～シルト、径2～4mmの礫を10%含む
- SR28**
- ① 10YR2/1 黒色細粒砂～シルト、径5mm以下の散乱鉄分粒が10%混じる、径2～6mmの礫を20%含む
 - ② 10YR2/3 黒褐色細粒砂～中粒砂、径2～10mmの礫を5%含む



第III-16図 深田遺跡(第2次)C区土層断面図2(1:100)

ある。底付近の断面はU字形であるが、上面の幅が広がっている。向きはN5°Wである。埋土から、中世の遺物が出土した。

SD4 A10で検出した幅0.5m、深さ11cmの溝である。向きはN25°Eである。埋土から土師器片が出土したが、小片で時期不明である。

SD5 A12で検出した断面形が不整形の溝である。出土遺物から、近代以降のかく乱とみられる。

SD6 A12・13で検出した幅0.44m、深さ4cmの溝で、上部は大きく削平されている。向きはN70°Eである。埋土から中世の遺物が少量出土した。

SD11 A27で検出した幅1.72m、深さ16cmの溝である。幅の割に浅く、断面形は皿状である。向きはN10°Wである。埋土から山茶碗、土師器が多く出土しており、中世の溝とみられる。

SD12 A29で検出した幅0.48m、深さ4cmの溝で上部は大きく削平されている。向きはN75°Eである。埋土から近世の磁器片が少量出土した。

SD13 A29・30で検出した幅0.88～1.4m、深さ13cmの溝である。幅は南側で狭くなり、1段下がる。向きはN60°Eである。埋土から古墳時代後期の遺物が出土した。

SZ14 A30以東で検出した幅7m以上、深さ14cmの凹地状を呈する。しかし、埋土が旧耕作土であり、中世氾濫層が堆積した後の段階の地形と思われる。SZ14の掘削後、SD13・15を検出している。埋土から古式土師器や須恵器、山茶碗片など幅広い時期の遺物を含む。

SD15 A区東端で検出した幅94cm、深さ14cmの溝である。向きはN70°Eで、B区で検出したSD17と繋がる可能性が高い。埋土からの出土遺物はなく、時期不明である。

SZ16 B1～13で検出した幅56.7m、深さ24cmの凹地状を呈する。埋土は上から、暗褐色～黒褐色シルト～極細砂、黒色シルト～極細砂、黒色シルトとなる。B4～7では最下層で、黒色シルトと褐灰色シルトが凸凹した堆積がみられ、畔の可能性も考えられる。SZ16の掘削後、SD18～22を検出している。層序からみても、SD18～22の堆積後、SZ16埋土が堆積していることがわかる。北側の肩で土器が集中して出土した。埋土から古式土師器や須恵器、

山茶椀片など幅広い時期の遺物を含む。

SD17 B1の北側(Bア)で検出した幅1.65m以上、深さ17cmの溝である。向きは概ねN70°Eで、A区で検出したSD15に繋がる可能性が高い。埋土から土師器、山茶椀等が出土した。

SD18 B7で検出した幅0.37m、深さ5cmの溝で、向きはN60°Eである。出土遺物がなく時期は判然としないが、第2次調査SD19・20の方向とほぼ同一で、隣接する双ツ塚西方遺跡SD8の方向とほぼ直交する。このことから、古代の地割に沿った溝であった可能性がある⁽³⁾。

SD19 B8で検出した幅0.7m、深さ27cmの溝である。埋土から土師器小片が出土した。

SD20 B9で検出した幅1.3m、深さ28cmの溝である。出土遺物がなく時期不明だが、SD18と同様、古代の地割に沿った溝であった可能性がある。

SD21 B10で検出した幅1.44m、深さ33cmの溝で向きはN75°Eである。土層から、前後関係はSD22よりも新しい。埋土から、斎串、砥石のほか、小片であるが須恵器、土師器、山茶椀が出土した。

SD22 B10で検出した幅1.1m、深さ9cmの溝で、L字状に屈曲している。上部が大きく削平されており、土層から、前後関係はSD21よりも古い。埋土から、朝顔形埴輪、土師器片が出土した。

SR23 B14・15で検出し、規模は幅2.6m、深さ31cmである。埋土は上から黒色シルト～極細粒砂、黒色シルト、黒褐色細粒砂～中粒砂、灰色極粗粒砂～中粒砂で、底にいくに従い粒子が粗くなる。山茶椀片が出土した。

SK24 B16で検出した南北0.88m×東西0.88mの土坑で、不整円形を呈する。埋土からの出土遺物はなく、時期不明である。

SD25 C8で検出した幅0.37m、深さ14cmの溝で向きはN7°Eである。出土遺物がなく時期不明である。

SZ26 C10以東で検出した幅43.4m、深さ16cmの凹地状を呈する。埋土は黒色シルトである。東側の肩が不明瞭だが、土層からC19まで広がっているとみられる。埋土から古式土師器を含む土師器や山茶椀、陶器など幅広い時期の遺物を含む。

SK27 C22で検出した南北0.78m×東西0.6mの

土坑で、不整円形を呈する。SR28の掘削後に検出した。埋土からの出土遺物はなく、時期不明である。

SR28 C22・23で検出し、規模は幅5.1m、深さ30cmである。埋土は上から黒色細粒砂～シルト、黒褐色細粒砂～中粒砂で、底にいくに従い粒子が粗くなる。土師器片が出土した。

SA29 A26・27で検出した柱列である。柱間3m、2間確認した。方向はN10°Wである。調査区が狭小であるため、柱の並びが南北に広がる可能性がある。埋土から、土師器片が出土した。(原田)

3. 深田遺跡(第3次、第Ⅲ-17～26図)

SD30 d2で検出した幅0.3m、検出面からの深さ18cmの溝である。向きはN17°Eである。SK31より新しい。古墳時代の遺物が少量出土した。

SK31 d2で検出した南北0.35m以上×東西0.45m以上の土坑である。西側はSD30が重複し、調査区外まで広がるため、全体の形状は不明である。埋土からは古墳時代の土師器が少量出土した。

SD32 d3で検出した幅0.54m、深さ52cmの溝である。向きはSD30とあう。SK34より新しい。埋土から、古墳時代の土師器が出土した。

SZ33 d3～5で検出した幅7.5m、深さ13cmの凹地状を呈する。埋土は上から、黒褐色粘質シルト、黒色粘土、黒褐色粘土となる。SZ33を掘削した後、SK35・36を確認した。埋土から弥生土器、土師器等が出土した。

SK34 d3で検出した南北0.74m以上×東西0.8m以上の土坑である。SD32より新しい。調査区外まで広がる。残存部の形状は隅丸方形を呈す。埋土からは古墳時代の土師器が少量出土した。

SK35 d3・4で検出した南北0.56m×東西0.7m、不整円形である。SK35が堆積した後、SZ33埋土が堆積している。埋土からは古墳時代の土師器が少量出土した。

SK36 d4・5のSZ33東肩で検出した南北1.1m×東西1.13m、不整円形である。SK36が堆積した後、SZ33埋土が堆積している。埋土からは古式土師器が少量出土した。

SD37 d5で検出した幅0.54m、深さ17cmの溝である。向きはN10°Eである。埋土から古墳時代の土師器片が一定量出土した。

SK39 d 7で検出した南北1.14m×東西0.95m、不整形である。埋土からは弥生土器、土師器が一定量出土した。

SK40 d 9で検出した南北0.4m以上×東西0.48m以上の土坑である。南側は調査区外で、東側はかく乱で削平されている。残存部の形状は隅丸方形を呈す。

SH41 d 11で検出した。多くは調査区外で南隅のみを確認したが、部分的に壁周溝も認められる。SK42より古い。出土遺物がなく、時期不明である。

SK42 d 11で検出した南北0.6m以上×東西0.78m、調査区外まで広がるが残存部の形状は楕円形である。SH41より新しく、SD43より古い。埋土からは古式土師器片や壁土片が少量出土した。

SD43 d 11・12で検出した幅0.34m、深さ11cmの溝で、向きはN30°Wである。SK42より新しい。埋土から古墳時代の土師器が出土した。

SD44 d 12で検出した幅0.3m、深さ8cmの溝である。SD45より新しい。埋土から土師器小片が出土した。

SD45 d 11・12で検出した幅0.33m、深さ18cmの溝である。SD44より古い。埋土から土師器、砥石が出土した。

SK46 d 12で検出した南北0.32m以上×東西0.88m、調査区外まで広がる。埋土から遺物が認められず、時期不明である。

SK47 d 13で検出した南北1.24m以上×東西0.52m、調査区外まで広がる。SK50・SH49より新しい。埋土からは土師器が出土した。

SK48 d 13で検出した南北0.37m以上×東西0.74m、調査区外まで広がる。埋土からは土師器が出土した。

SH49 d 12・13で検出した。南北1.1m以上×東西4.6m以上で、多くは調査区外となる。残存部はやや歪であるが隅丸方形に近い。SK47より古く、SK50・51より新しい。埋土から、須恵器、土師器等が出土した。

SK50 d 13で検出した南北1.38m以上×東西1.18mの楕円形を呈する。SH49より古く、SD52より新しい。埋土からは土師器が出土した。

SK51 d 13で検出した南北0.72m×東西0.46m以

上の不整形を呈する。SH49より新しい。埋土からは土師器小片が出土した。

SD52 d 13・14で検出した幅0.33m、深さ13cmの溝である。出土遺物がなく時期不明である。

SH53 d 14で検出した。南北2.1m以上×東西2.1m以上で、多くは調査区外となる。残存部はやや歪であるが隅丸方形に近い。削平されたのか東側が不整形であるが、本来は隅丸方形を呈していたと思われる。SK54より古い。埋土から、弥生土器、古式土師器等が出土した。

SK54 d 15で検出した南北1.25m以上×東西2.13m、残存部から楕円形とみられる。SH53・76より新しい。埋土からは土師器小片が出土した。

SD55 d 15で検出した幅0.18～0.55m、深さ10cmの溝で、幅は南半が狭く北半が広い。向きは概ねN15°Eである。SD56に対応する竪穴建物の壁周溝の可能性ある。埋土から土師器が出土した。

SD56 d 15・16で検出した幅0.28m、深さ13cmの溝である。向きはSD55と揃う。SD55に対応する竪穴建物の壁周溝の可能性ある。埋土から土師器が出土した。

SK57 d 16で検出した南北0.35m以上×東西0.68mの不整形を呈する。埋土からは土師器片、壁土とみられる小片が出土した。

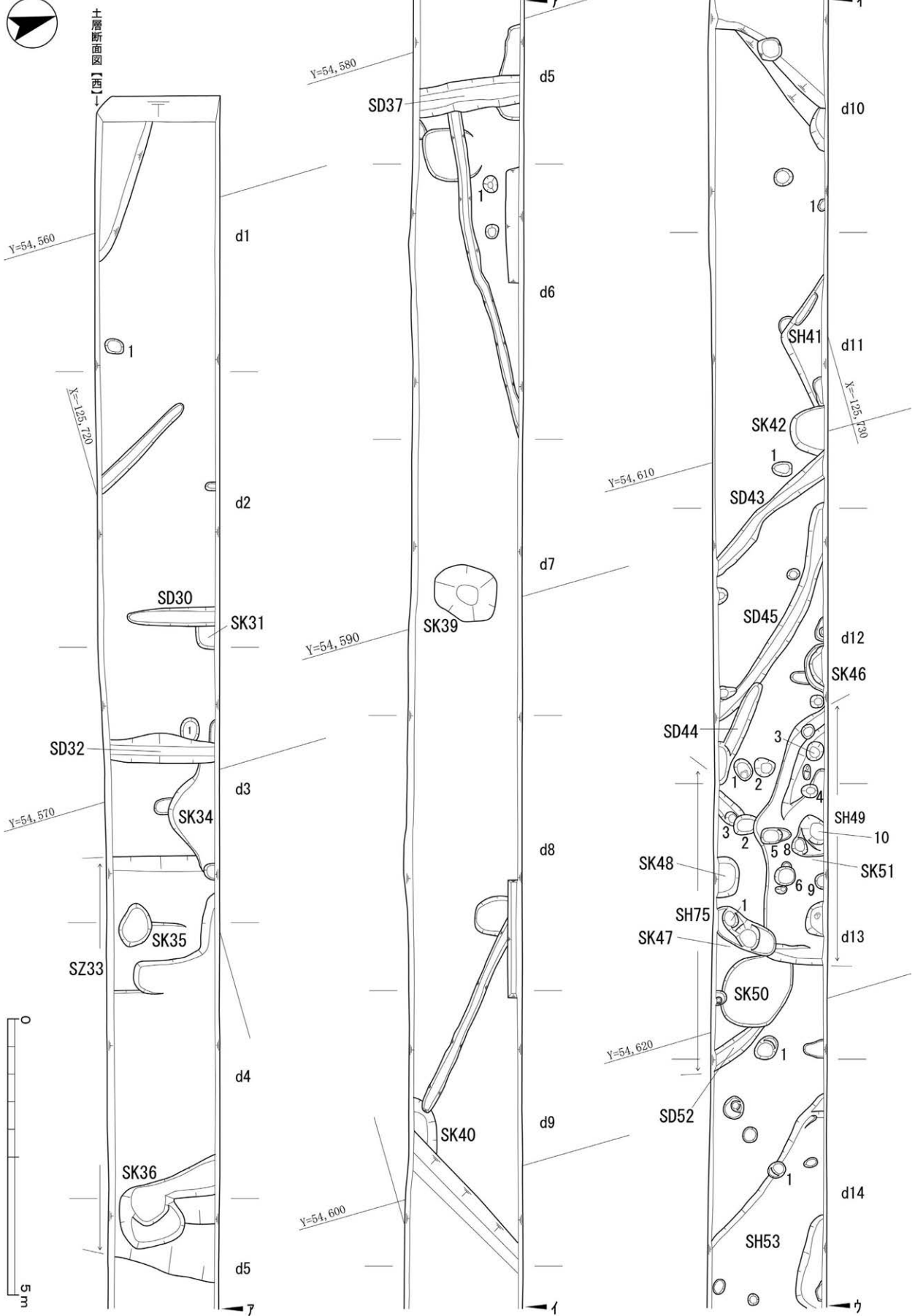
SH58 d 16・17で検出した。南北2.1m以上×東西5.3m以上で、一部調査区外となる。残存部から隅丸方形で、主軸はN47°Wである。壁周溝が比較的良好に残存しており、西側は壁柱穴も認められる。調査区幅が狭く、支柱穴や貼床は不明である。SK59より新しい。埋土から、土師器片が出土した。

SK59 d 16で検出した南北0.52m×東西1.5mの長楕円形を呈する。SH58より古い。埋土からは土師器小片が出土した。

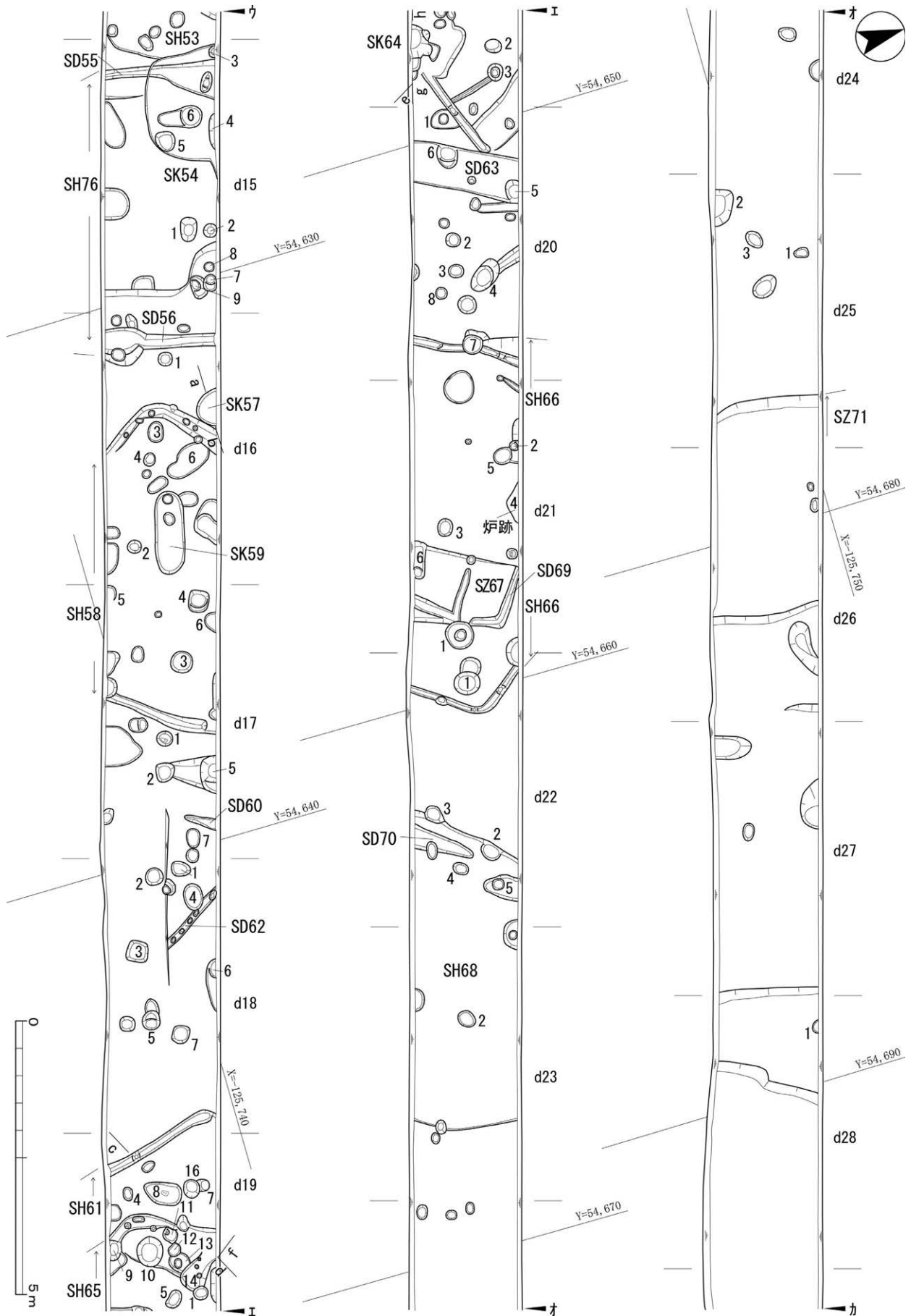
SD60 d 17で検出した幅0.18m、深さ5cmの溝である。埋土からは土師器が出土した。

SH61 d 18～20で検出した。南北2.1m以上×東西2.9m以上である。残存部から隅丸方形とみられ、主軸はN15°Eである。壁周溝、支柱穴が認められる。SH65より新しい。埋土から、土師器、須恵器が出土した。

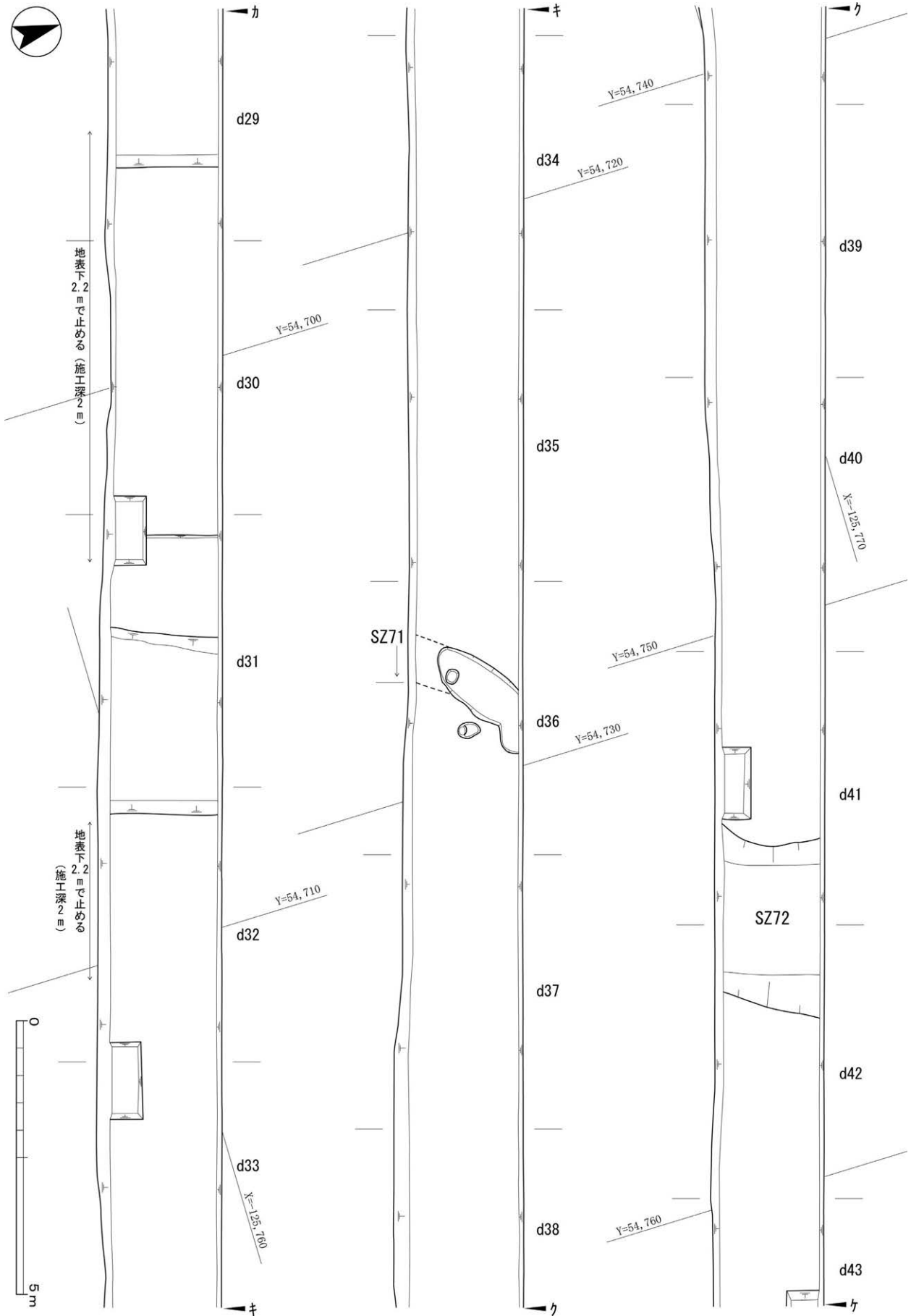
SD62 d 18で検出した幅0.14m、深さ5cmである。



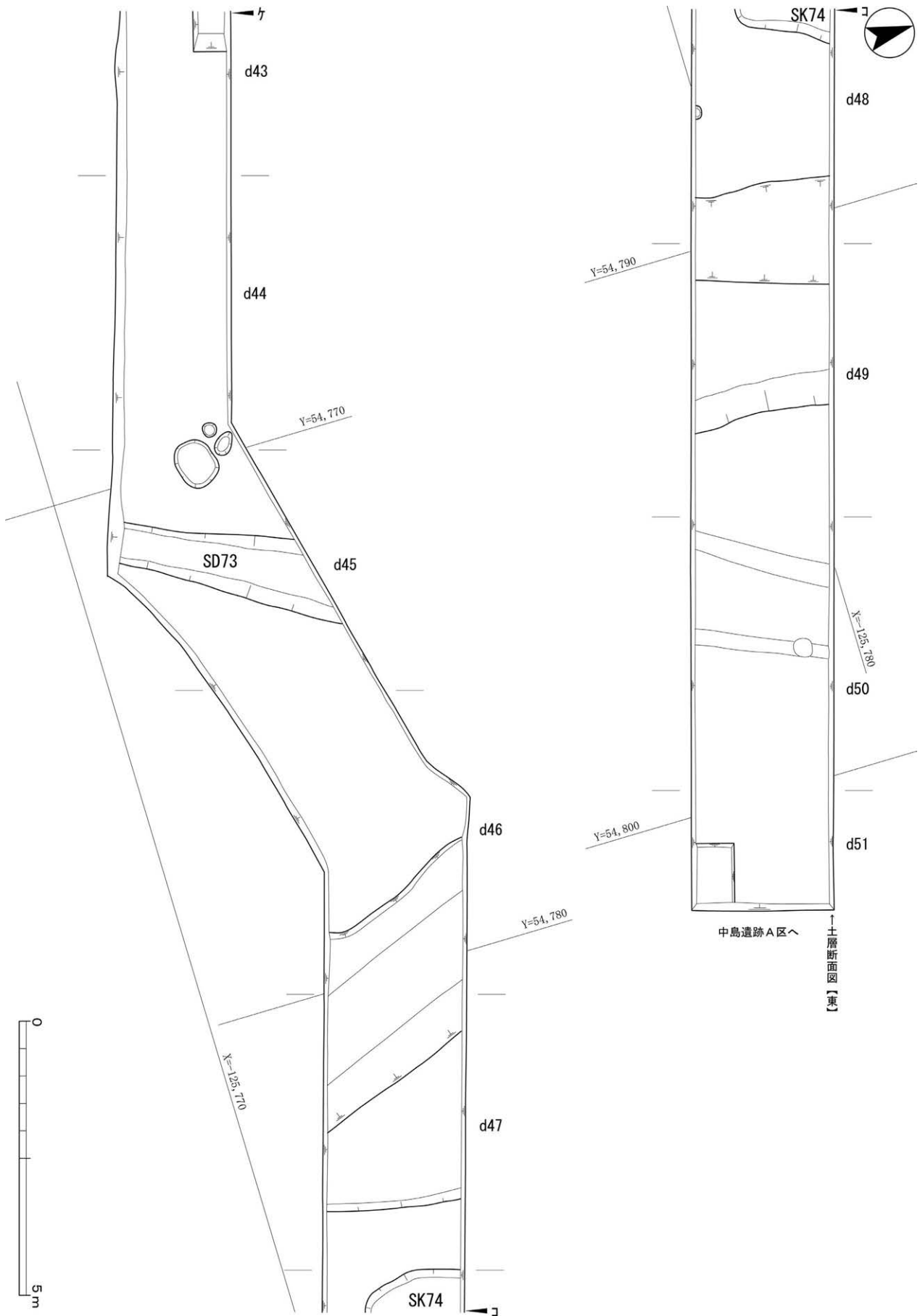
第Ⅲ-17図 深田遺跡(第3次)D区平面図1(1:100)



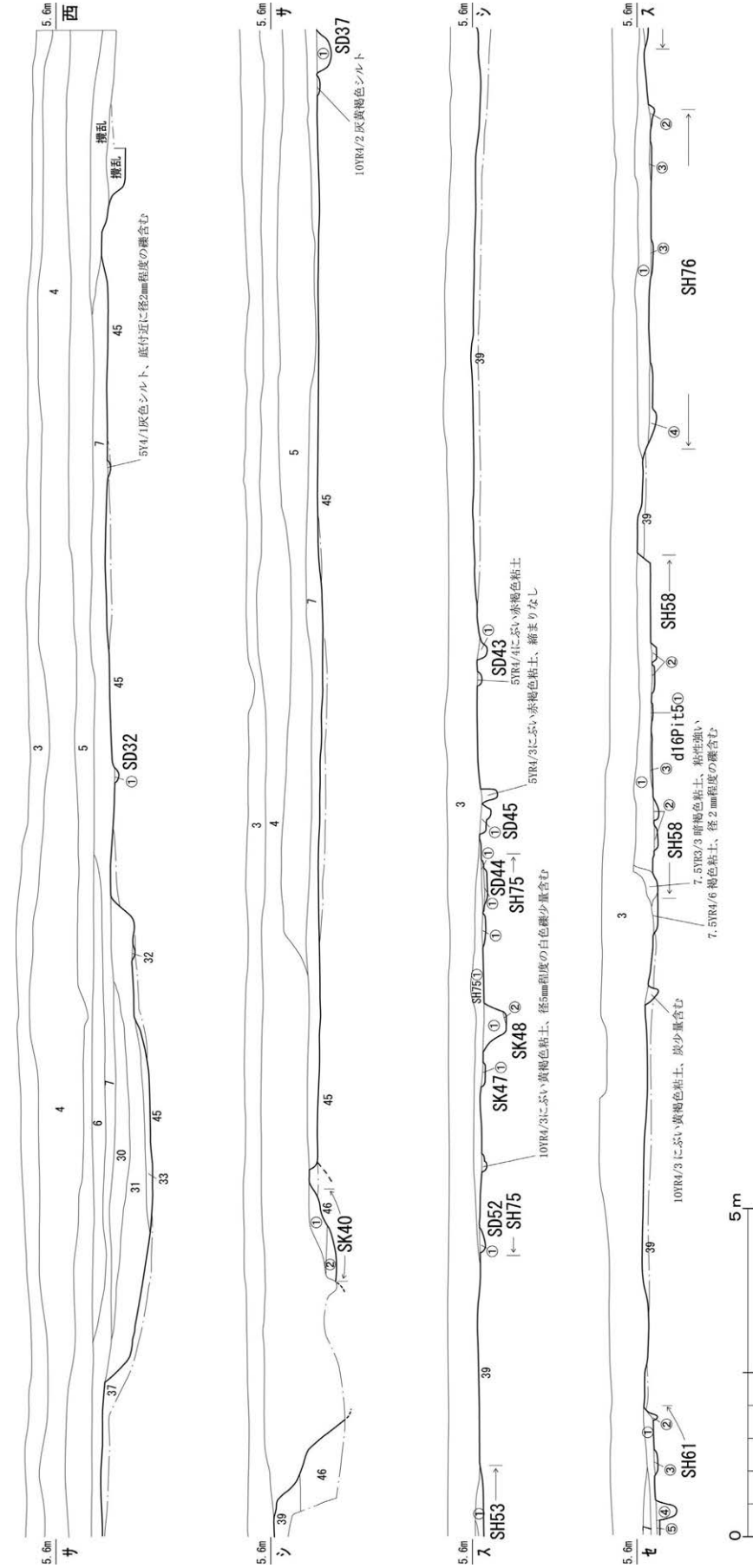
第Ⅲ-18図 深田遺跡(第3次)D区平面図2 (1:100)



第Ⅲ-19図 深田遺跡(第3次)D区平面図3(1:100)



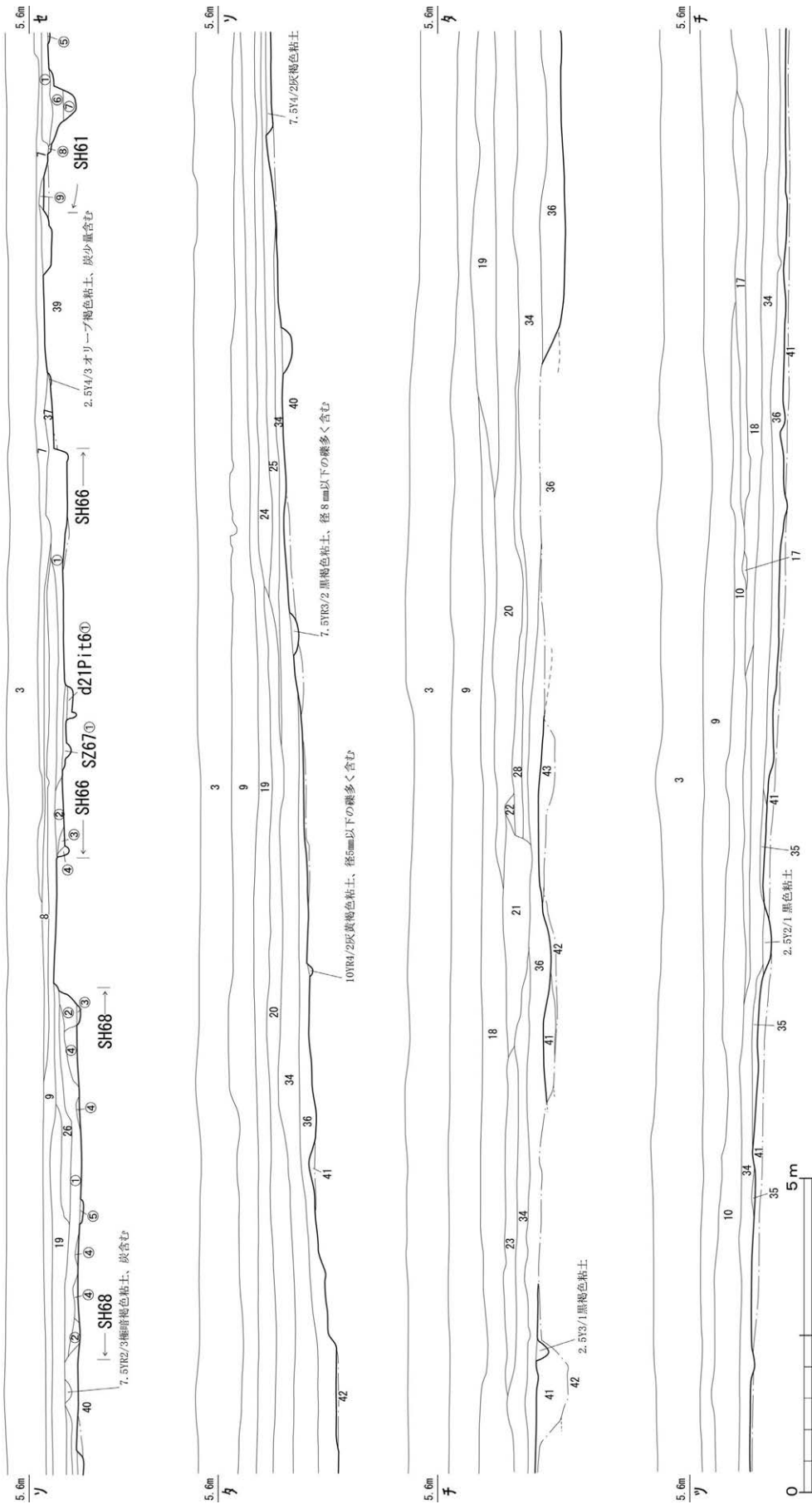
第Ⅲ-20図 深田遺跡(第3次)D区平面図4 (1:100)

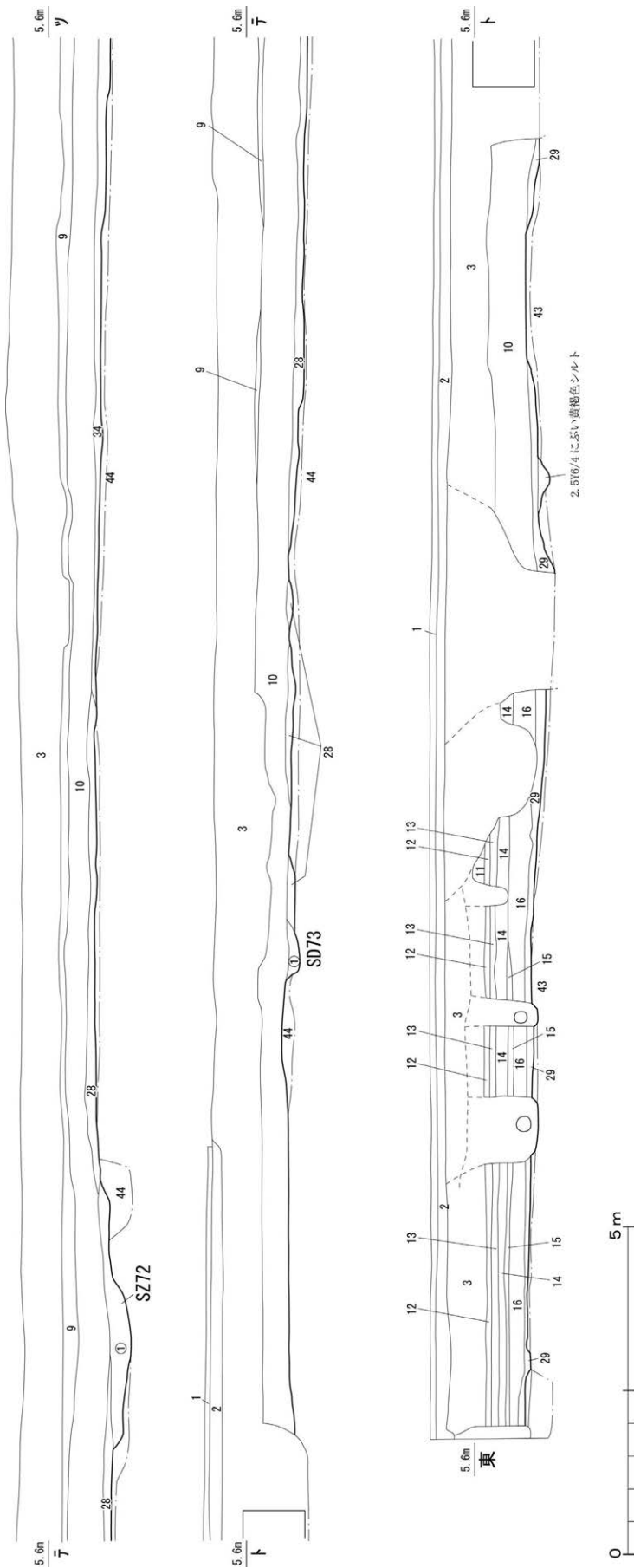


第Ⅲ-21図 深田遺跡(第3次)D区土層断面図1(1:100)

- | | | | |
|---|--|---|--|
| <p>1 アスファルト</p> <p>2 砕石</p> <p>3 表土・造成土</p> <p>4 造成土1</p> <p>5 造成土2</p> <p>6 2.5V3/1 黒褐色粘土に細砂少量含む</p> <p>7 5V4/2 灰オリーブ色シルトに粗砂多く含む(包含層)</p> <p>8 2.5V4/4 オリーブ褐色粘土</p> <p>9 10VR3/4 暗褐色粘土、径5mm以下の礫多く含む</p> <p>10 10VR4/1 褐色粘土、2.5V3/1 黒褐色粘土がマーブル状に混じる</p> <p>11 2.5V4/3 オリーブ褐色粘土、同色シルト・径3mm以下の礫少量含む(マンガン含む)</p> <p>12 10VR4/2 黄褐色粘土</p> <p>13 25VR4/3 オリーブ褐色粘土</p> <p>14 10VR4/3 におい黄褐色シルト(マンガン多く含む)</p> <p>15 2.5V5/2 暗灰黄色粘土</p> <p>16 2.5V4/1 黄灰色粘土</p> | <p>17 10VR4/1 褐灰色粘土、細砂少量、径30~100mm程度の10VR3/1 黒褐色粘土アロロック多く含む</p> <p>18 5V4/1 灰色粘土、マンガン沈着</p> <p>19 2.5V4/3 オリーブ褐色粘土</p> <p>20 10VR2/2 黒褐色粘土、マンガン沈着</p> <p>21 5V4/1 灰色粘土、36土径30mm程度のブロック状に少々混じる</p> <p>22 2.5V3/1 黒褐色シルトに23土少量、細砂・雲母片多く含む</p> <p>23 5V2/2 オリーブ褐色粘質土、腐植土(植物片多く縮まり弱い)</p> <p>24 7.5VR2/3 暗褐色粘土、灰含む</p> <p>25 7.5VR2/2 黒褐色粘土(落込上層)</p> <p>26 10VR2/3 黒褐色粘土、径2mm以下の砂礫少々含む</p> <p>27 2.5V3/1 黒褐色粘土、2.5V4/2 暗灰色シルトがマーブル状に多く混じる</p> <p>28 10VR4/2 灰黄褐色粘土、同色シルト少量含む</p> <p>29 10VR3/1 黒褐色粘土</p> <p>30 10VR3/2 黒褐色粘質シルト(SZ33 埋土)</p> <p>31 10VR1.7/1 黒色粘土(SZ33 埋土)</p> <p>32 2.5V3/2 黒褐色粘土上に地山土がマーブル状に混入(SZ33 埋土)</p> | <p>33 32より多く地山土がマーブル状に混入(SZ33 埋土)</p> <p>34 7.5VR2/2 黒褐色粘土、灰多く含む(落込埋土)</p> <p>35 7.5VR1.7/1 黒色粘土、炭化物・植物、径2mm大の礫多く混じる(SZ71 埋土)</p> <p>36 7.5VR1.7/1 黒色粘土、炭化物・植物多く混じる(SZ71 埋土)</p> <p>37 2.5V4/3 オリーブ褐色粘土</p> <p>38 7.5VR2/1 黒色粘土(粘性強い)(SZ72 埋土)</p> <p>39 7.5VR4/6 褐色粘土、径2~5mmの礫多く含む(地山)</p> <p>40 7.5VR5/6 明褐色粘質シルト→粘土(地山)</p> <p>41 10VR4/1 褐色粘質シルト→粘土(40層地山がグライ化したもの)</p> <p>42 2.5V4/2 暗灰黄色粗砂(地山)</p> <p>43 2.5V5/1 黄灰色粘土(粘性強い)(地山)</p> <p>44 7.5VR4/6 褐色粘土、径2mm以下の礫多く含む(地山)</p> <p>45 5V5/1 灰色粘土に径2mm程度の礫少量含む(地山)</p> <p>46 10V5/6 黄褐色粗砂、径50mm大の礫混入(地山)</p> | <p>SD32</p> <p>① 2.5V3/2 黒褐色粘土</p> <p>SD37</p> <p>① 25V4/2 暗灰黄色シルト</p> |
|---|--|---|--|

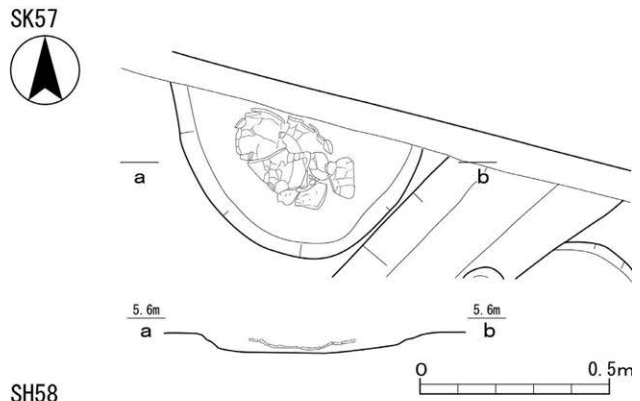
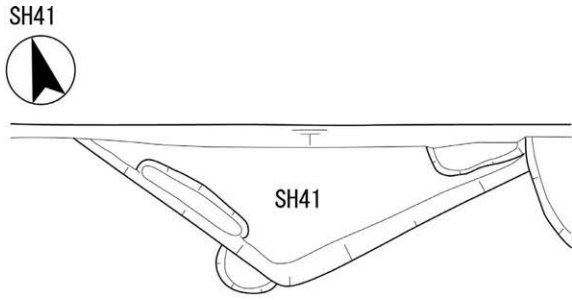
第Ⅲ-22図 柴田遺跡(第3次)D区土層断面図2(1:100)



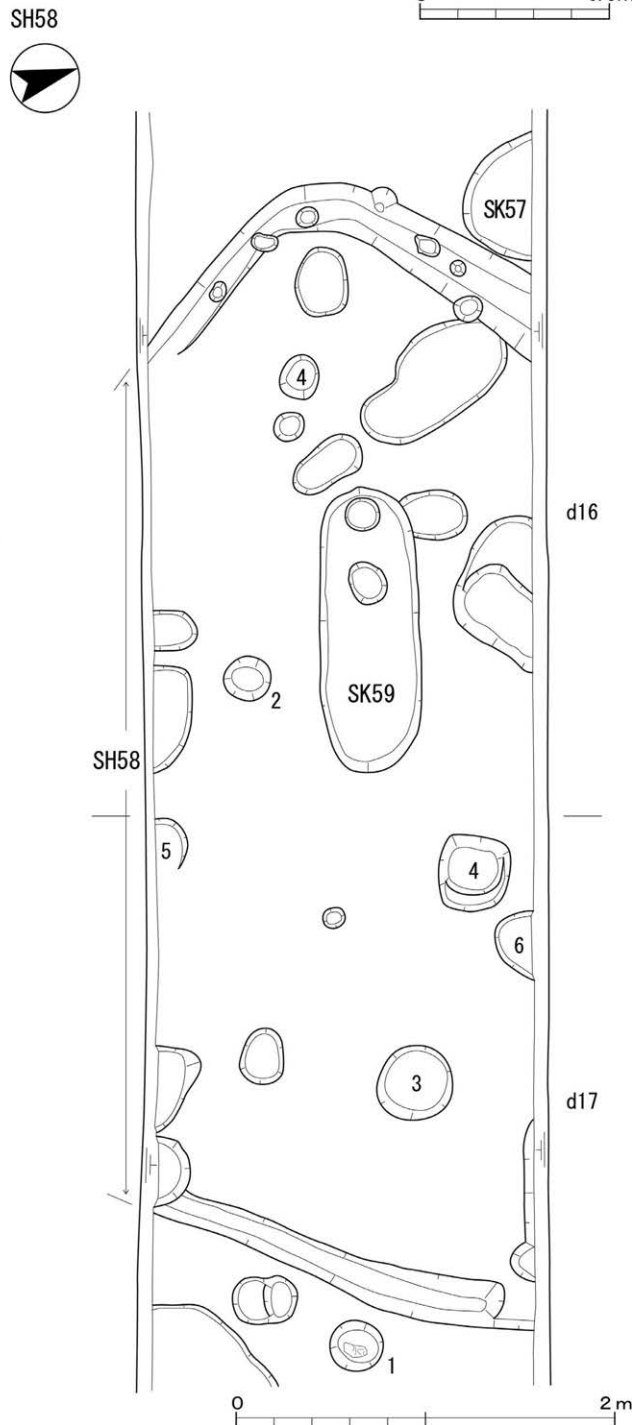
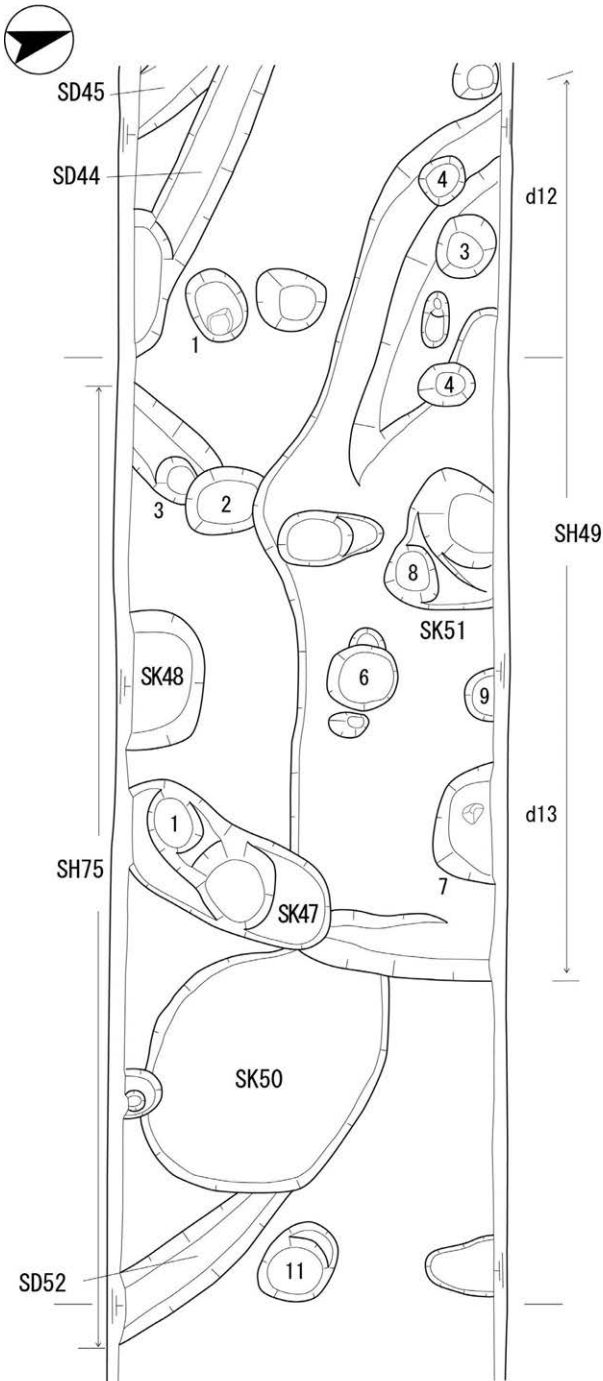


第三-23図 深田遺跡(第3次)D区土層断面面図3(1:100)

- SK48**
- ① 10YR3/3 暗褐色粘土、炭含む
 - ② 10YR5/2 灰黄褐色粘土、径5mm以下の礫多く含む
- SZ67**
- ① 7.5YR3/2 黒色粘土、炭・焼土多く含む
- SZ72**
- ① 7.5YR2/1 黒色粘土 (粘性強い)
- SD73**
- ① 10YR4/2 灰黄褐色粘土に10YR5/6 黄褐色粘土 (径3~7cm次の礫が少量含む)
- d16Pit5**
- ① 7.5YR4/6 褐色粘土
- d21Pit6**
- ① 7.5YR3/4 暗褐色粘土
- d25Pit2**
- ① 7.5YR3/3 暗褐色粘土
- SH68**
- ① 7.5YR2/1 黒色粘土、炭含む
 - ② 7.5YR2/3 暗褐色粘土、炭含む
 - ③ 7.5YR4/3 褐色粘土、径5mm以下の礫多く含む
 - ④ 10YR3/3 暗褐色粘土、径2mm以下の礫多く含む
 - ⑤ 10YR3/1 黒褐色粘土、地山土多く含む
- SH75**
- ① 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘質土、径8mm程度の白色礫多く含む
- SH76**
- ① 7.5YR3/4 暗褐色粘土、炭含む
 - ② 10YR3/3 暗褐色粘土、10YR4/3 に近い黄褐色粘土ブロック・炭少量混じる (壁間溝 S165)
 - ③ 7.5YR3/3 暗褐色粘土
 - ④ 7.5YR3/3 暗褐色粘土、径2mm程度の礫・炭を多く含む (壁間溝 S156)
- SK40**
- ① 10YR3/2 黒褐色粘土に粗砂少量含む
 - ② 10YR2/2 黒褐色粘土 (①より粘性強い) に粗砂・炭少量含む
- SK47**
- ① 7.5YR3/3 暗褐色粘土
- SH61**
- ① 10YR3/2 黒褐色粘土、炭・焼土少量含む (マンガン花着顕著)
 - ② 10YR4/2 灰黄褐色粘土 (壁間溝)
 - ③ 7.5YR4/4 褐色粘土
 - ④ 7.5YR3/3 暗褐色粘土、径2mm程度の礫多く含む (d19Pit9)
 - ⑤ ④に径2mm程度の焼土が粒状に少量混じる
 - ⑥ 7.5YR4/3 褐色粘土、炭少量含む (貯蔵穴 SK64)
 - ⑦ 7.5YR3/3 暗褐色粘土 (⑥より粘性強い) (貯蔵穴 SK64)
 - ⑧ 7.5YR4/2 灰褐色粘土
 - ⑨ 7.5YR4/1 褐色粘土
- SH66**
- ① 10YR3/2 黒褐色粘土、炭・焼土ごく少量含む
 - ② 7.5YR3/2 黒色粘土、径20mm程度の7.5YR4/3 褐色粘土が粒状に少量含む
 - ③ 5YR3/4 暗赤褐色粘土、焼土・炭少量含む
 - ④ 7.5YR4/4 褐色粘土

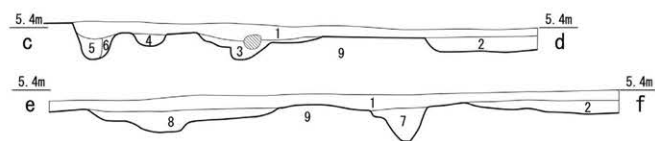
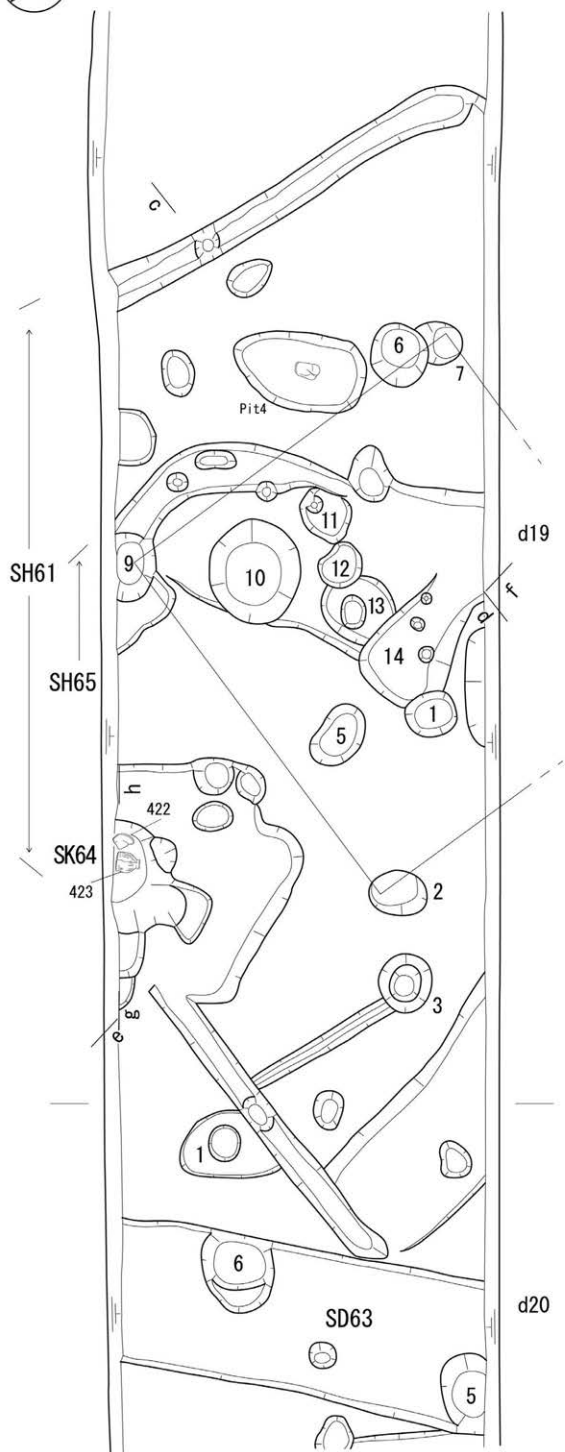


SH49・SH75周辺

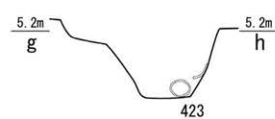
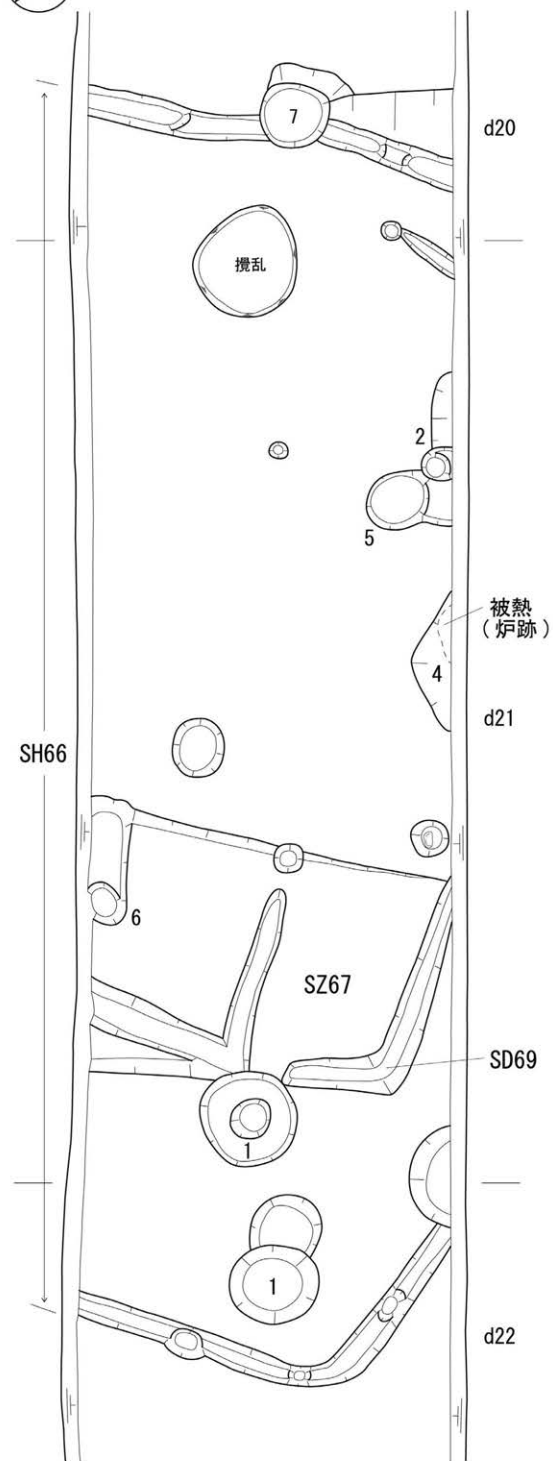


第Ⅲ-24図 深田遺跡(第3次)D区SH41・49・58・75, SK57平面図(1:40)、SK57遺物出土状況図(1:20)

SH61・SH65・SK64

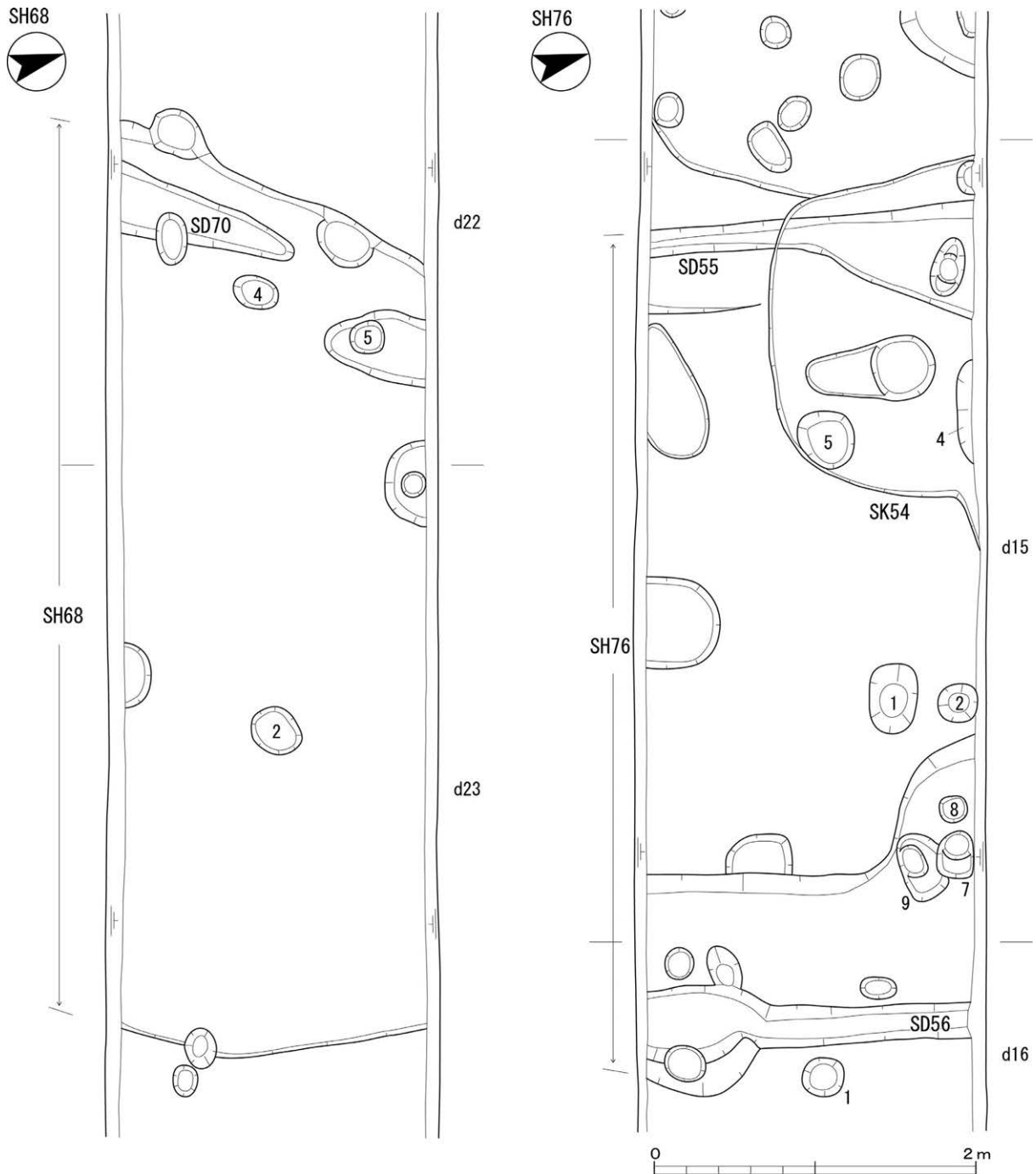


SH66・SZ67



- | | |
|----------------------------|---------------------------------------|
| 1 7.5YR3/2 黒褐色粘土 (鉄分沈着) | 5 10YR3/4 暗褐色粘土 (粘性弱い) |
| 2 7.5YR3/3 暗褐色粘土 (1より粘性強い) | 6 4と同じ |
| 3 7.5YR3/2 黒褐色粘土に8地山土少々混 | 7 7.5YR3/3 暗褐色粘土に炭・焼土少々混 (d19Pit5埋土) |
| 4 5YR4/3 にぶい赤褐色粘土 | 8 7.5YR3/3 暗褐色粘土に炭少々混 (粘性強い) (SK64埋土) |
| | 9 7.5YR4/6 褐色粘土に径2~5mmの礫多く混 (地山) |

第Ⅲ-25図 深田遺跡(第3次)D区SH61・66, SK64, SZ67平面図・断面図(1:40)



第Ⅲ-26図 深田遺跡(第3次)D区SH68・76平面図・断面図(1:40)

向きはSH58の主軸とほぼ揃う。底部に小穴が複数あり、竪穴建物の壁周溝と考えられる。埋土からは土師器が出土した。

SD63 d20で検出した幅0.75m、深さ6cmの溝である。向きは、N28°Eである。埋土から土師器が出土した。

SK64 d19で検出した南北0.40m×東西0.58mの土坑で、不整円を呈する。土坑の北側に浅い平坦面がある。SH65の貯蔵穴とみられる。底付近から台

付甕(423)が横倒しの状態で、椀形高杯(422)が若干上面で出土した。

SH65 d19で検出した。東側は削平されたのか認められず、西端のみ確認した。残存部から隅丸方形であろう。僅かに壁周溝が認められる。SH61より時期が古い。埋土から、土師器が出土した。

SH66 d20~22で検出した。南北2.1m以上×東西6.3mと規模が大きい。当初、第Ⅲ-25図の範囲をSH66として調査を進め出土遺物の取り上げも行っ

ているが、2棟の建物が重複し、S Z 67・S D 69がS H 66の北側・東側の肩であった可能性がある。その場合、東西の規模は5.2mである。平面形は隅丸方形である。壁周溝・壁柱穴が認められるが、主柱穴や貼床は確認できなかった。埋土から、土師器、須恵器が出土した。

S Z 67 d 21、S H 66の床面掘削後に検出した。南北1.68m以上×東西1.2mの長方形である。S H 66床面から遺構の底に向けて段状に下がる。埋土から、土師器が出土した。

S H 68 d 22・23で検出した。南北1.9m以上×東西5.3mである。微高地の西端にあり、S H 68以東は徐々に検出面のレベルが下がるため、平面プランの西側は不明瞭であった。他の堅穴建物と比較すると平面形がやや不定形で、明確な主柱穴などが確認できず、土坑とする方がよいのかもしれない。埋土から、土師器、須恵器が出土した。

S D 69 d 21、S H 66の床面掘削後に検出した。幅0.2m、深さ10cmの溝でL字状に屈曲する。埋土から土師器が出土した。

S D 70 d 22、S H 68の西側の肩付近で検出した幅

0.25m、深さ4cmの溝で向きはS H 68の西側の掘形に沿う。埋土から土師器が出土した。

S Z 71 d 25～35で検出した幅54m、深さ78cmの凹地状を呈する。埋土は黒色粘土である。遺物は認められなかった。

S Z 72 d 41・42で検出した幅2.9m、深さ42cmの凹地状を呈する。埋土は黒色粘土である。埋土から土師器が出土した。

S D 73 d 45で検出した幅1.16m、深さ13cmの溝で、向きはN28° Eである。埋土から土師器が出土した。

S K 74 d 48で検出した南北1.70m以上×東西1.26mの長楕円形を呈する。埋土からは土師器が出土した。

S H 75 d 13で検出した。d 13 Pit 3が北側壁周溝、S D 52が東側壁周溝となる可能性がある。堅穴建物の床面が削平され、壁周溝のみ遺存した可能性は否定できない。

S H 76 d 15・16で検出した。S D 55が西側壁周溝、S D 56が東側壁周溝となる可能性がある。S K 54より時期が古い。向きはN75° Wである。（原田）

第3節 遺物

1. 深田古墳群(第Ⅲ-27～39図)

(1) 深田1号墳

S D 7 出土遺物 (1)

須恵器杯身である。口縁部はシャープに高く立ち上がり、底部全体に回転ヘラケズリが及ぶ丁寧な作りである。5世紀末～6世紀初頭の所産であろう⁴⁾。

S D 8 出土遺物 (2～236)

須恵器(2～11)、土師器(12～20)、円筒埴輪(21～82)、朝顔形埴輪(83～118)、形象埴輪(家・馬・鳥?・人物、119～236)がある。

埴輪と土師器は表面の劣化が非常に激しかった。このため、器面保護として、埴輪と土師器のすべてに新成田総合社の土器用器面コーティング剤(ナチュラルコート)を塗布した。

以下、種類別に概観しておこう。

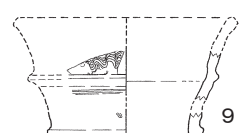
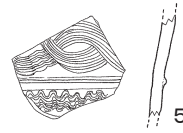
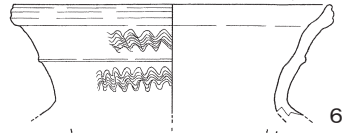
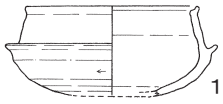
須恵器(2～11) 杯蓋(2)、杯身(3・4)、器台(5)、壺(6・7)、直口壺もしくは長頸壺(8)、樽形甕(9・10)、提瓶(11)がある。

杯身(3・4)は、ともに口縁部がシャープに立ち上がり、底部全体に回転ヘラケズリが及ぶ丁寧な作りである。一方、杯蓋(2)は口径が大きく、天井部外面の回転ヘラケズリも全体の1/2程と狭く、シャープさに欠ける。前者が5世紀末～6世紀初頭、後者は6世紀前葉～中葉頃の所産か。

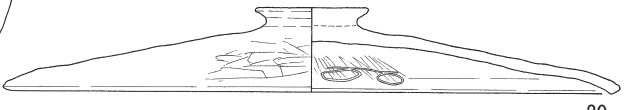
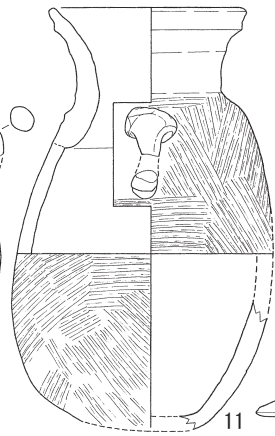
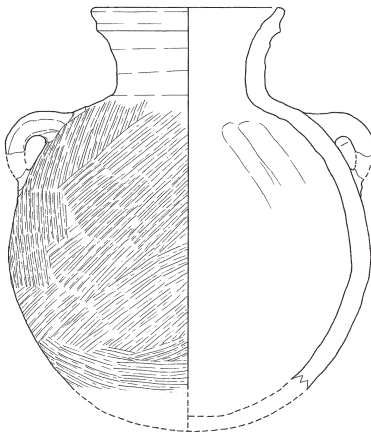
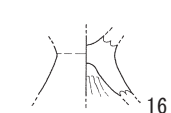
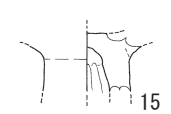
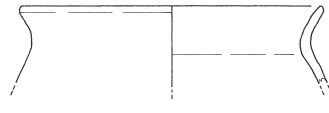
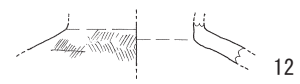
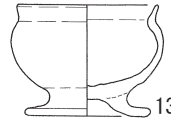
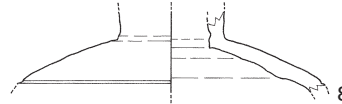
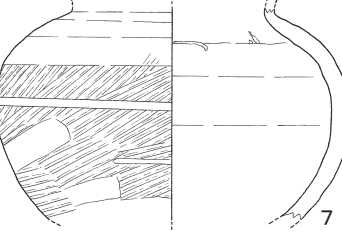
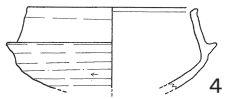
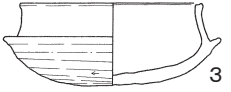
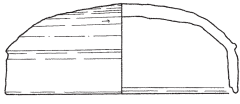
5は、組紐文が施された須恵器である。組紐文をもつ須恵器には器台と直口壺が想定されるが、直口壺とするには法量が大きく、器台と考えた。現在の知見による限り、組紐文をもつ須恵器は初期須恵器に限られ、所属時期も5世紀前半頃までの所産である。S D 8出土の他の須恵器より時期的に遡るものといえよう。

壺は、口縁部の6と、体部の7があるが、法量が合わず、別個体である。6は口縁部を2段に区画して波状文を配し、口縁端部を上方につまみ上げている。5世紀末から6世紀初頭の所産であろう。7は、タタキによる成形痕が残る。

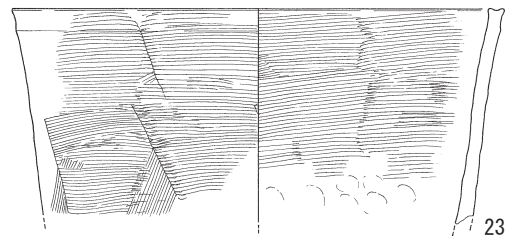
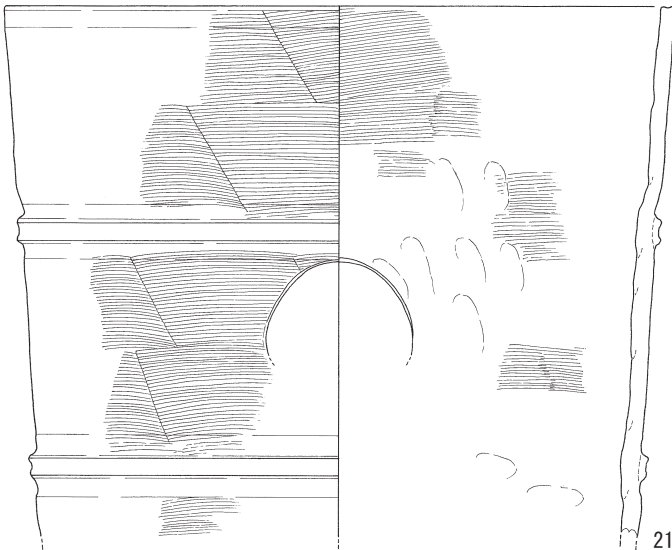
SD 7 (1)



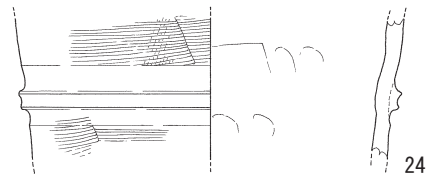
SD 8 (2~236)



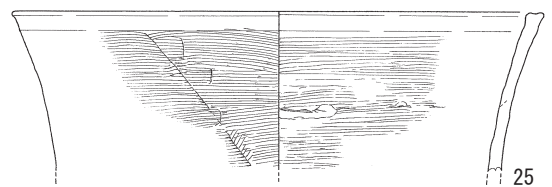
20



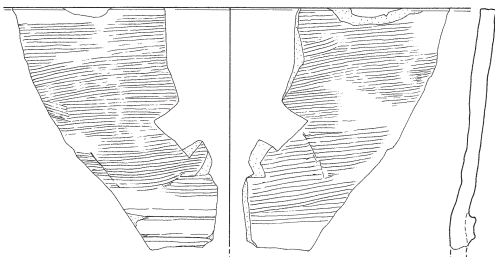
23



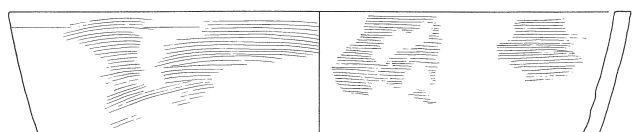
24



25



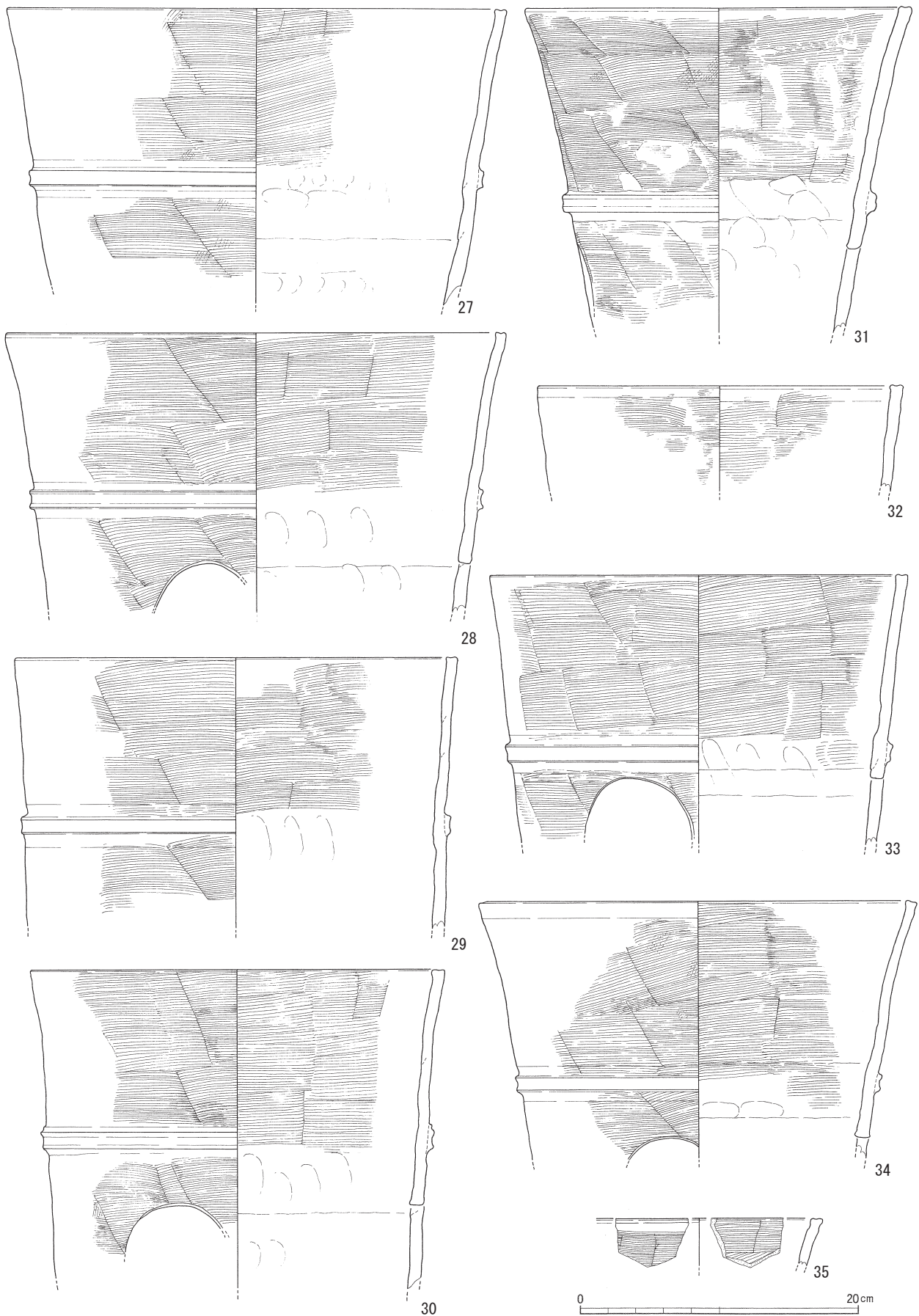
22



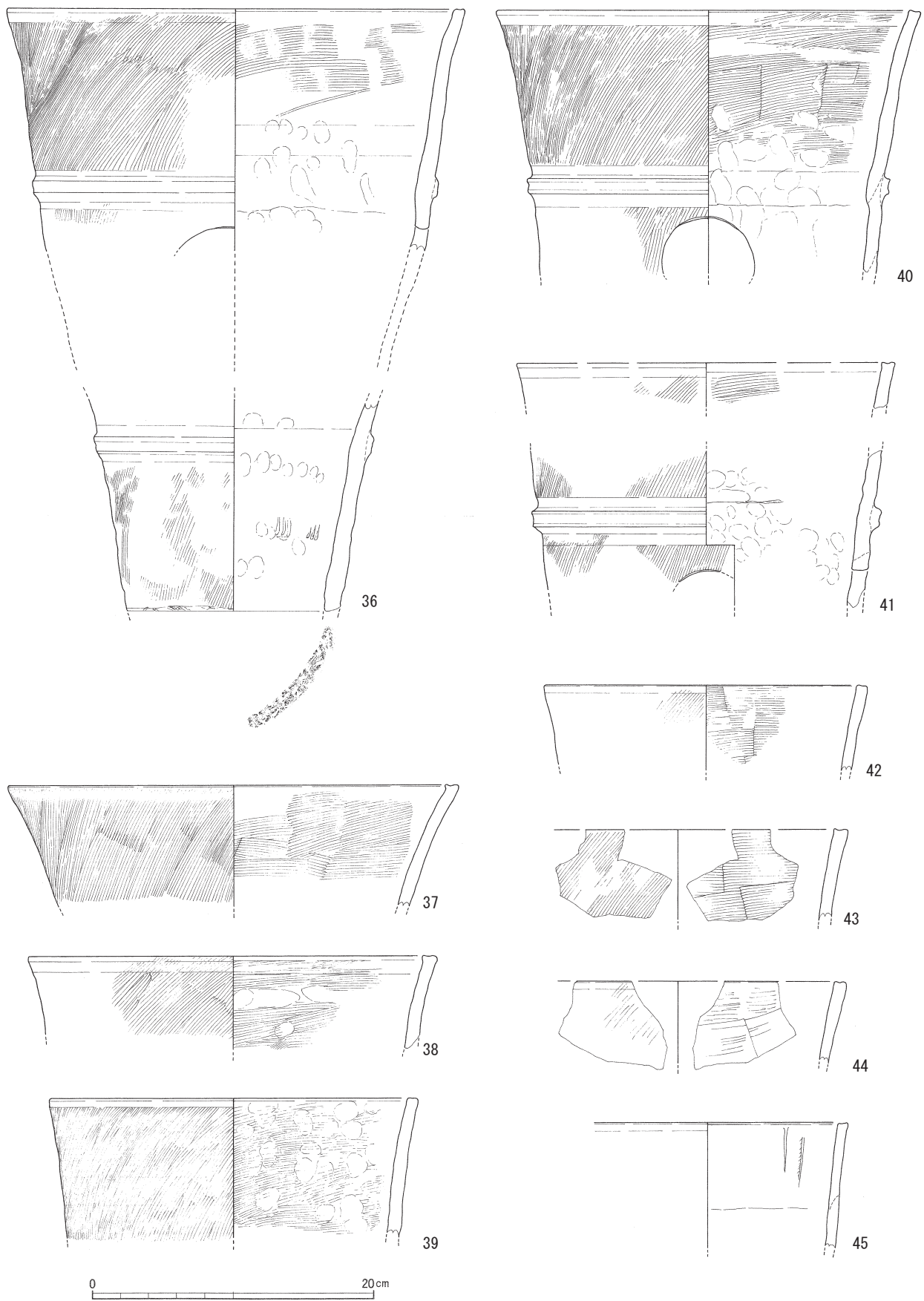
26

0 20cm

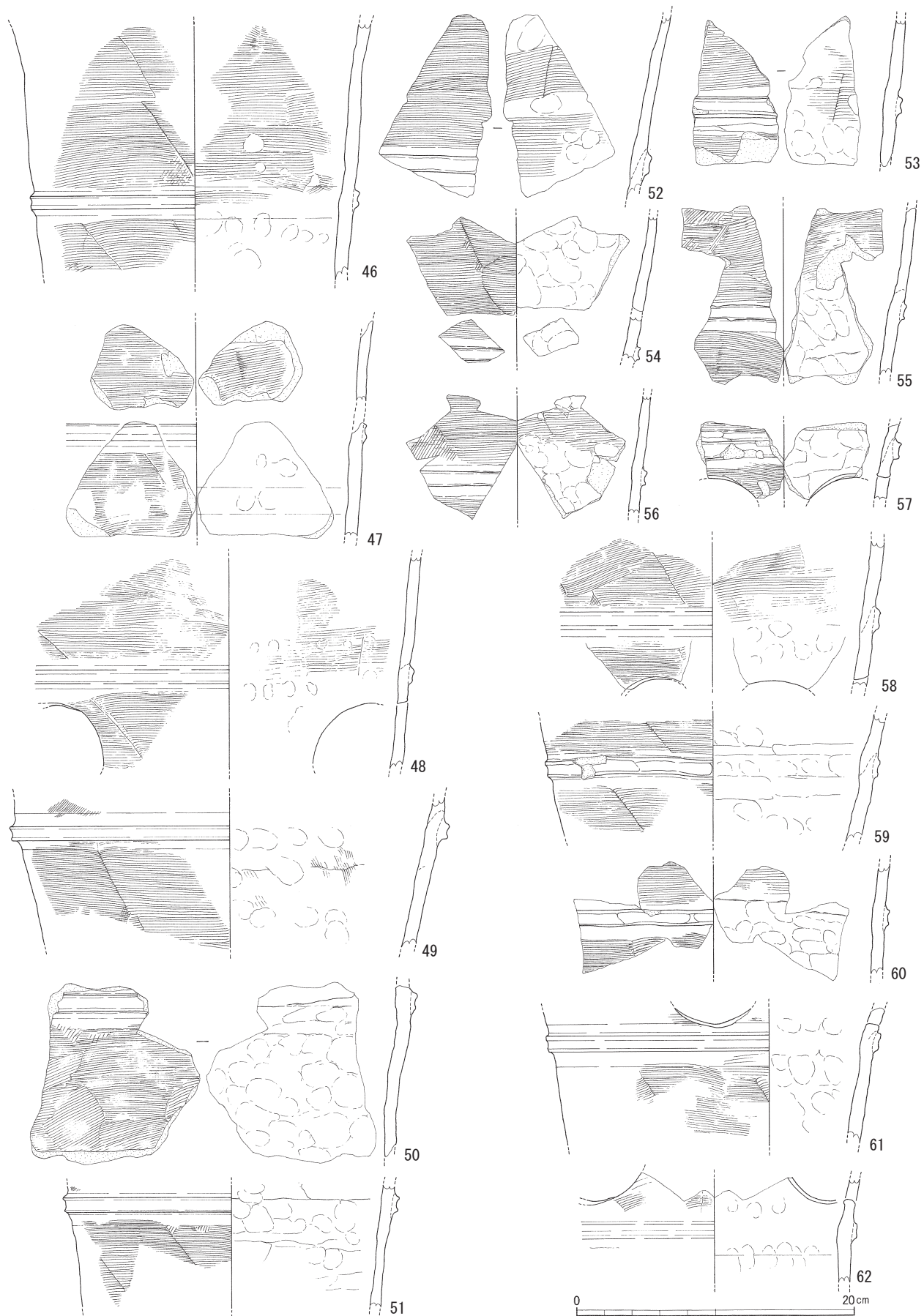
第Ⅲ-27図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図1(1:4)



第Ⅲ-28図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図2(1:4)



第Ⅲ-29図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図3(1:4)



第Ⅲ-30図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図4(1:4)

8は、短頸壺であるが、頸部が細く、体部の沈線を境に内側に屈折する気配がある。他の須恵器より新しく、7世紀頃の所産か。

10は、残りは悪いが、縦方向に施された波状文とカキメから樽形甕の頸部から体上部片であろう。口縁部片の9は小片だが、突線で2段に分けた区画内に繊細な波状文を施しており、焼成具合も含めて10と同一個体の可能性がある。

11は、提瓶である。体部は外面にタタキ痕が顕著に残る。

全体に5世紀末～6世紀初頭頃のものが多いが、若干その前後の時期の遺物も含んでいる。

土師器 (12～20) 小形壺 (12)、小形台付埴 (13)、高杯 (14～16)、壺もしくは甕底部 (17)、甕 (18・19)、蓋 (20) がある。

小形壺 (12) は、体部にハケを残し、口縁部は欠損するが頸部立ち上がり具合から直口壺とみられる。

13は、小形丸底壺である。鉢状の底部に外に開く脚を付けたものである。

高杯は、いずれも脚部片である。円孔が穿たれた14はやや古相を示し、古墳前期に遡るものが混じった可能性がある。

20は天井部をヘラミガキした蓋で、律令期まで下るものであろう。

円筒埴輪 (21～82) 口縁部から底部まで完存した個体はないが、いずれも黒斑のない還元焰焼成で、2突帯3段構成で中段に円形透孔をもつ円筒埴輪とみられる。前述のように、口縁部片は多いが底部片は僅少で、古墳の削平過程が出土量に影響している可能性がある。調整の特徴から大きく2類に分けることができる。

1類 外面に1次調整のタテハケ後、2次調整のB種ヨコハケ⁶⁾をもつもの。B種ヨコハケは、いずれもストロークを止めた際の静止痕が右下がりりで傾くBd種で⁶⁾、上段と中段にそれぞれ2段ないし3段に施している。ただし、下段はせいぜい1段施すか、省略する。底部から最上段に向けて外傾していくものと、あまり開かず、立直に近いものがある。内面は、上段のみヨコハケをもつ。口径は、大きいもので約36cm、小さいもので約26cmあり、法量の偏差が大きい。器形が立直するものは概して法量が大きく、

外傾が強いものは法量が小さい傾向にある。突帯は低く、中央がヨコナデにより凹み、結果として低いM字形を呈するものが多い。

2類 外面は、2次調整のB種ヨコハケが省略され、1次調整のタテハケないしナナメハケだけが施されたもの。内面は上段のみヨコハケを残す。本類も、37のような外傾の強い個体と、口縁部があまり開かず、上方へ立ち上がる39のような個体がある。口径は、大きいもので約32cm、小さいものでは約23cmで、A類に比べると若干小さい傾向にある。突帯は、台形もしくはM字形を呈するが、概してA類よりは若干高めである。

以下、特徴的なものを中心に概観しておく。

上段を含む破片 (21～23・25～35) は、1類でも上段を含んだ破片である。口縁端部は、いずれも上端部にヨコナデによる平坦面をもつ。

21は、口径36cmで、1号墳出土の円筒埴輪中、最大の法量をもつ。上段と中段の高さはともに12cmで、Bd種ヨコハケをそれぞれ2段ずつ施している。

31は、器形の外傾が強く、上段のB種ヨコハケは3段を数え、突帯も他のA類よりは高い。

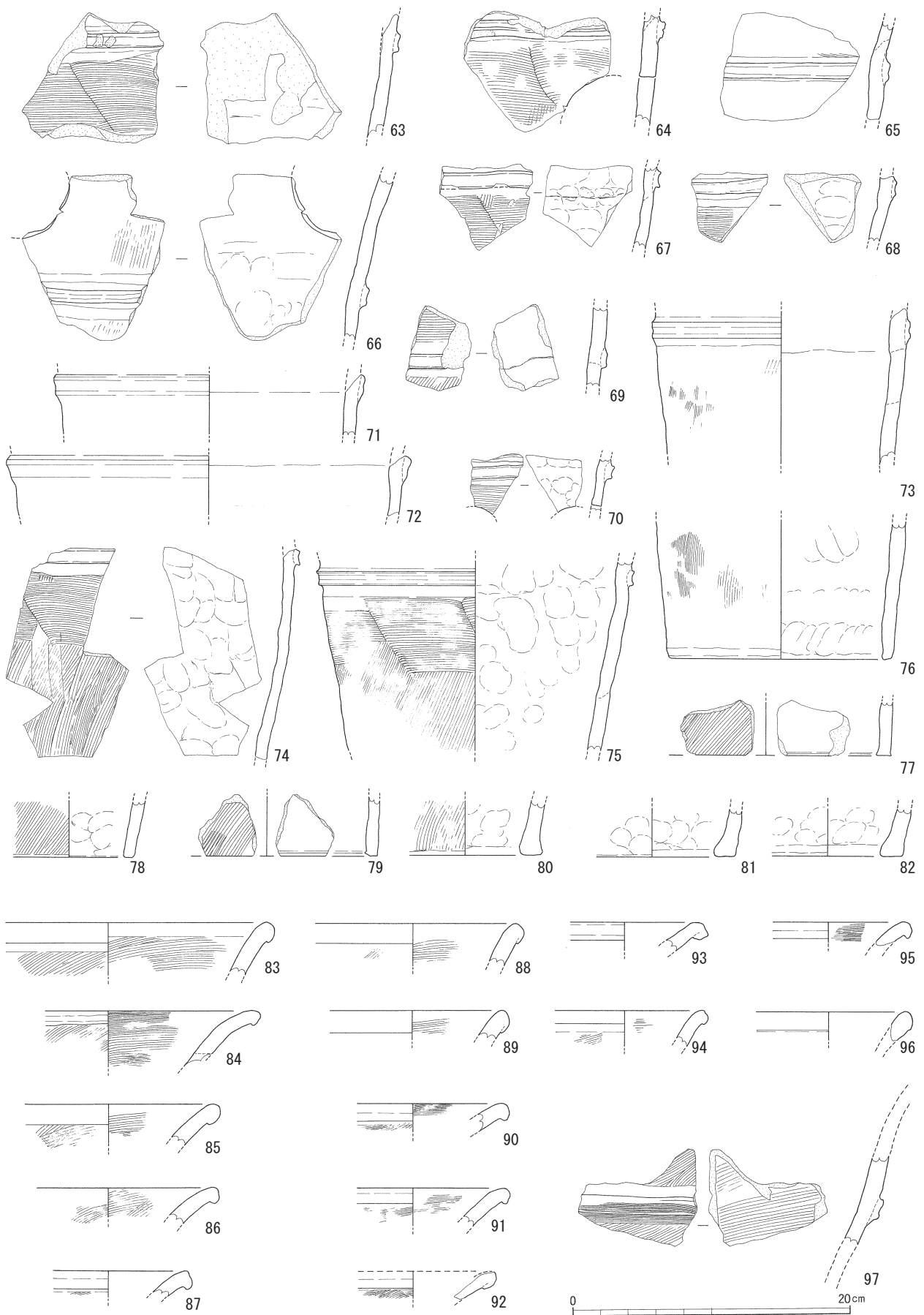
35は、小片であるが、他の1類とは異なってBd種ヨコハケの静止痕がやや左下がりりで、口縁内面も1次調整のナナメハケの後、口唇直下から1段だけBd種ヨコハケを施す。焼成はよく、特に外面は灰白色に焼き上げられている。

36～45は、上段を含む2類の破片である。1類同様、口唇部はヨコナデによる平坦面を形成する。

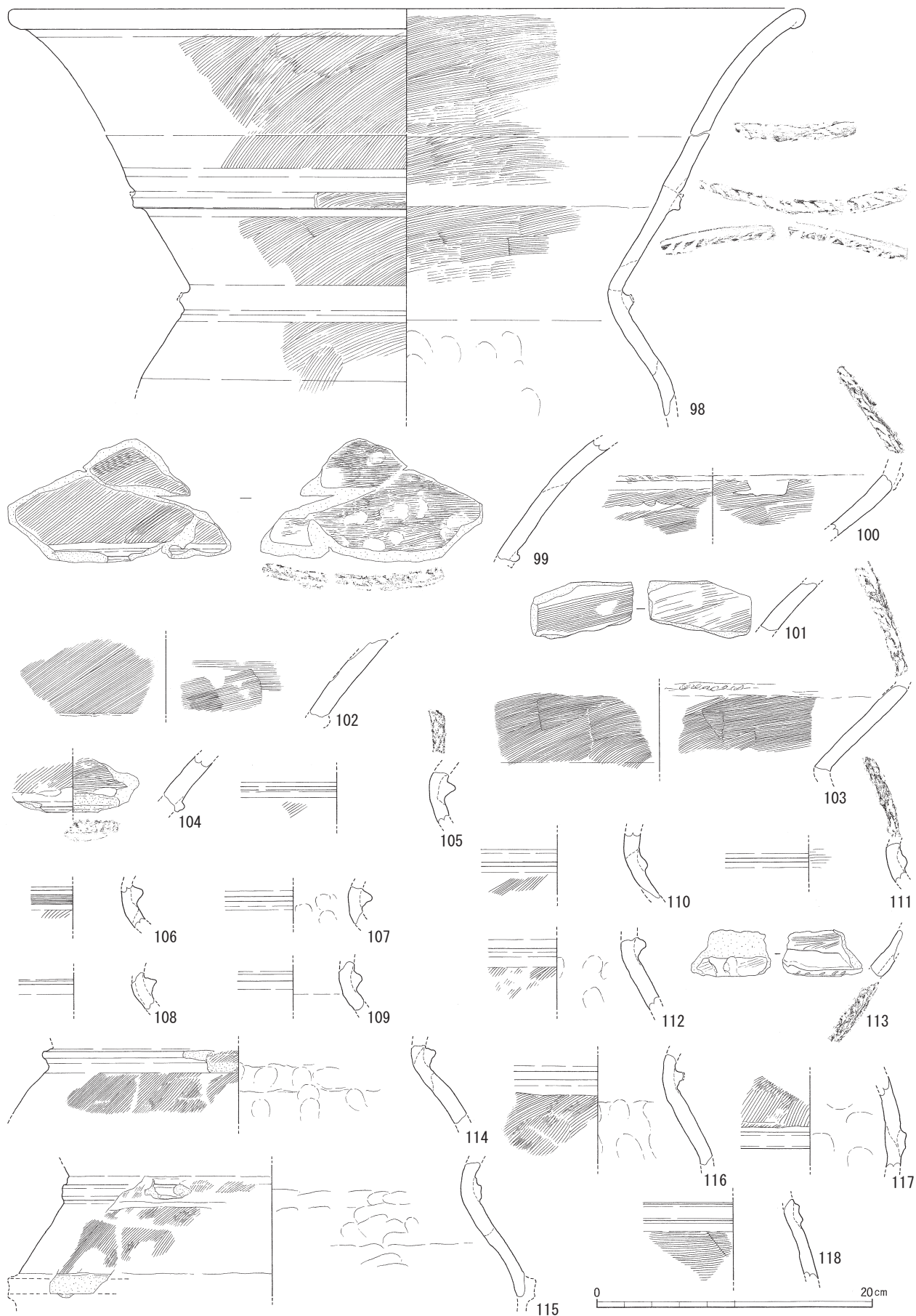
36は、中段の多くを欠くが、同一地点から出土しており、同一個体と判断している。口径32cmに対して底部径16cmと小さく、底部から大きく外傾し、欠損しているが中段の途中で立直気味に一旦角度を変えてから、上段で再び外反する形状をとる。器壁厚は1.2cm前後と比較的厚い。底部底には繊維痕があり、葦などの敷物の上で製作したとみられる。

42は、外面は1次調整のナナメハケだが、口縁内面のハケがB種ヨコハケ状の静止痕が残る。

24・46～70は、口縁端部を欠く上段と、中段を含む個体を一括した。総じて、内面にヨコハケ、あるいはB種ヨコハケが残るものは上段の破片とみられ、中段より下位はオサエを中心とした粗い調整痕を残



第Ⅲ-31図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図5(1:4)



第Ⅲ-32図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図6(1:4)



第Ⅲ-33图 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図7(1:4)

すだけとなる。

このうち46は、上段と透孔部は欠くものの中段の上半部が残るもので、上段内側だけにヨコハケが施され、中段より下位はナデ・オサエ調整となる。突帯は低いM字形である。

71～82は、下段の破片で、このうち77～82は底部段部が残る。いわゆる淡輪系の有段底部はなく、いずれも通有の底部である。

72は風化が大きく、詳細な調整不明だが、74・75は1次調整のナナメハケ後に突帯下部にBd種ヨコハケが施されている。

底部は、前述の36を含めても少量だが、大きく3つの形態に分けられる。

76は、底部内面にユビオサエが残る一方、外面は1次調整のタテハケが底部付近のみ消えた、いわゆる畿内型の底部調整⁷⁾に類似し、この調整の結果、底端部の器壁厚も若干細くなっている。なお、いわゆる畿内型底部調整は、後述するがより典型的なものが昭和53年度深田遺跡第1次調査A区のSK7から出土している。

77～79は、外面のナナメハケが最下部まで残り、底端部を角頭状としたものである。形状的には口縁端部と同様の仕上げとなっているが、内面にハケがなく、ナデやオサエのみである点で口縁部と区別可能である。

80～82は、自重を受けるため、あるいは自重の結果として底部端を厚くしたもの（厚くなった）もので、器壁も厚い。前述の端部に繊維痕が入る36も、器壁の厚さなどは本例と共通する。

朝顔形埴輪 (83～118) 概して、円筒埴輪より大型に作られている。口縁内面はハケ、壺部内面はナデ・オサエ調整である。

83～104・113は、朝顔形埴輪の壺部で、83～96・98は口縁部を残す。最も残りの良い98は、赤彩も顕著な口径約58cmの大型品で、1次口縁の外傾は比較的緩やかで、1次口縁と2次口縁はあまり角度を変えずに立ち上がる。2次口縁の途中と、1次口縁上端部には接合痕が明瞭に残り、拓本で示したように刻みを入れて接合部の連結を強化する工夫がみられる。同様の接合痕は、99や100・103・105・111・113などにもみられ、1号墳出土の朝顔形埴輪のひとつ

の特徴となっている。また、99～104は、98に比べて1次口縁立ち上がりの外傾が急角度で、2次口縁はそれより角度を緩めて立ち上がったとみられる。

105～112・114～118は、朝顔形埴輪の肩部である。いずれも膨らみに乏しく、朝顔形埴輪の終焉時の様相の一端を示すものであろう。外面調整は、ナナメハケが基本だが、118のように円筒埴輪同様のBd種ヨコハケを施したものもある。

家形埴輪 (119～142) いずれも破片資料で、単体で原形が復原できるものはない。

119・121～132は、屋根に関わる部材である。119は、鯉木である。断面隅丸三角形を呈し、底辺部に接合痕をもつ。

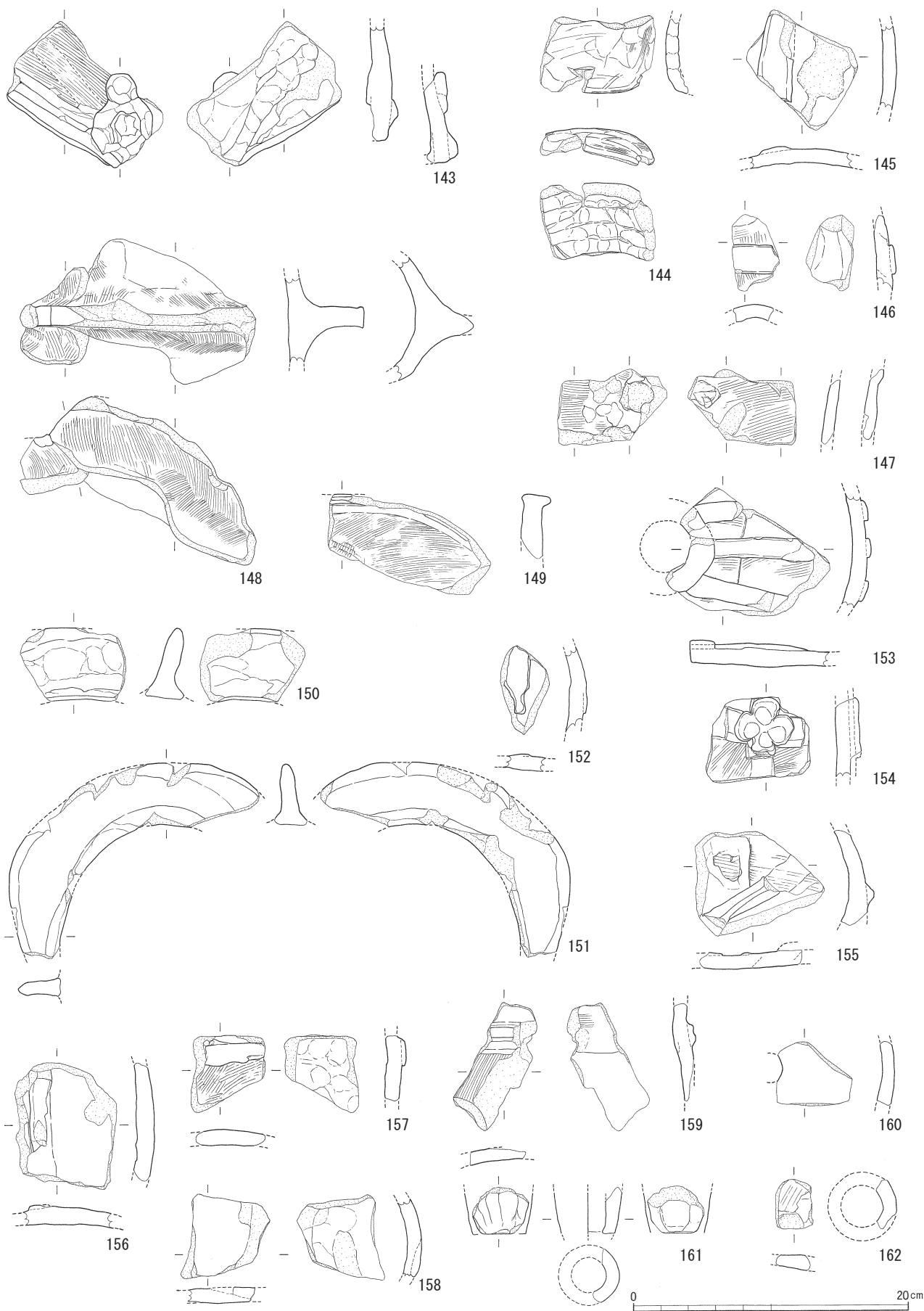
121～129は、大屋根の平側ないしは妻側の破片である。121・122・125は隅部の破片で、軒下部の破片である125も含めて平側⇄妻側の屈折は鈍く、結果として屋根形状の平面形は隅丸方形を呈していたとみられる。128は壁部との接合部の破片である。いずれも寄棟の特徴をもつ。

120・130～142は、家形埴輪の壁部ないしは底部とみられる破片である。130や132は円形透孔をもっており、このうち130は水平の剥離痕より上位にヨコハケ、下位にナナメハケが残る。ともに妻側の壁とみられる。130や131は、外傾接合である。135～142は、曲線のない形状から家形埴輪に指定したが、盾や靱などの他の形象埴輪の可能性もある。ただし、人物埴輪が背負う靱はあるものの、器財埴輪としての盾や靱は未確認で、積極的に他の形象埴輪を想定しうるほどではない。

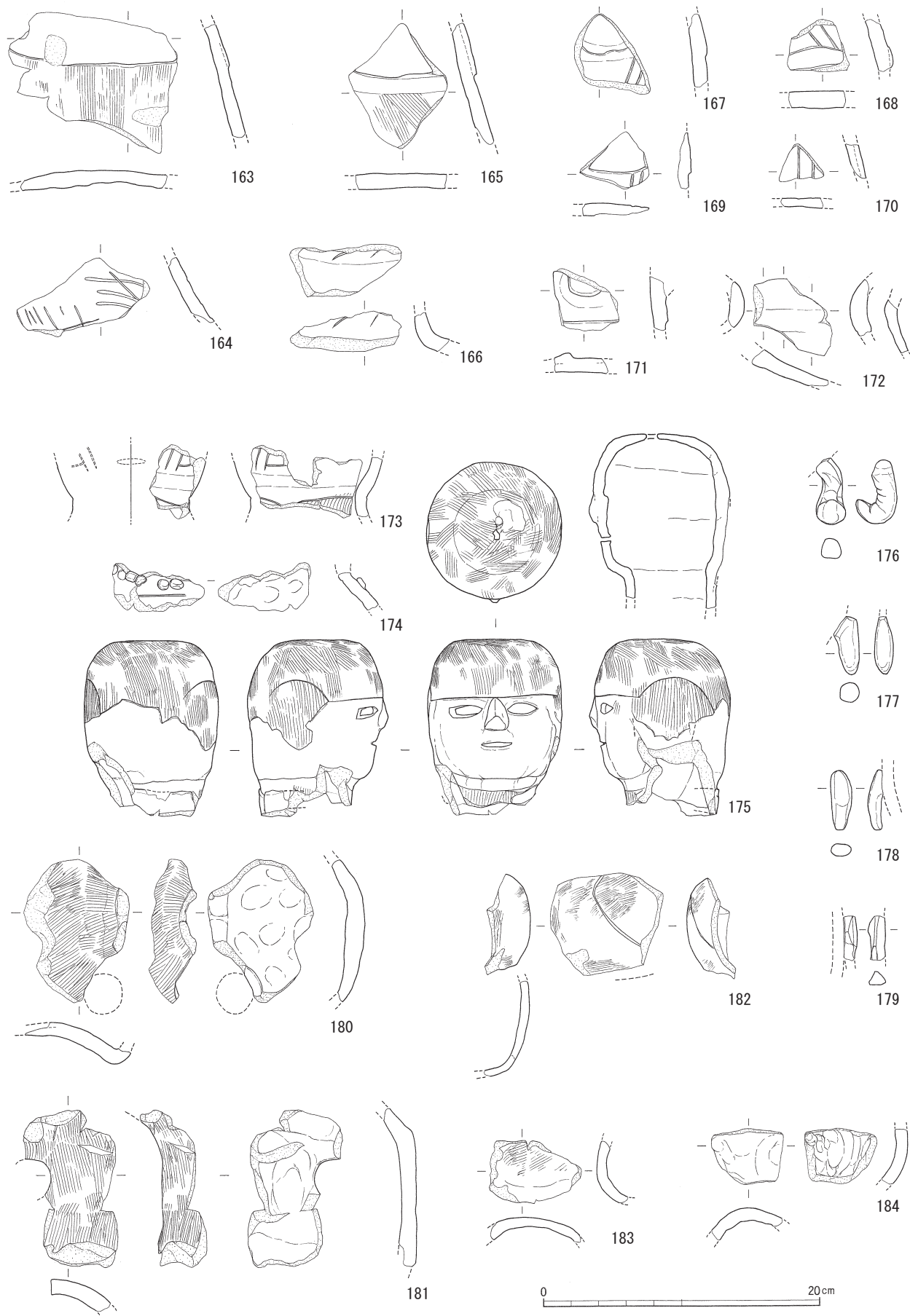
馬形埴輪 (143～162) いずれも破片資料である。全体に焼成が甘く、橙色に焼き上がっているものが多い。

143～144・146は、頭部破片とみられる。143は、面繫の部分で、鈴付きの鏡板に2本の革帯（1本は脱落し痕跡のみ）が連結している。また、頭部下部は粘土板で閉じられておらず、開放されたままである。

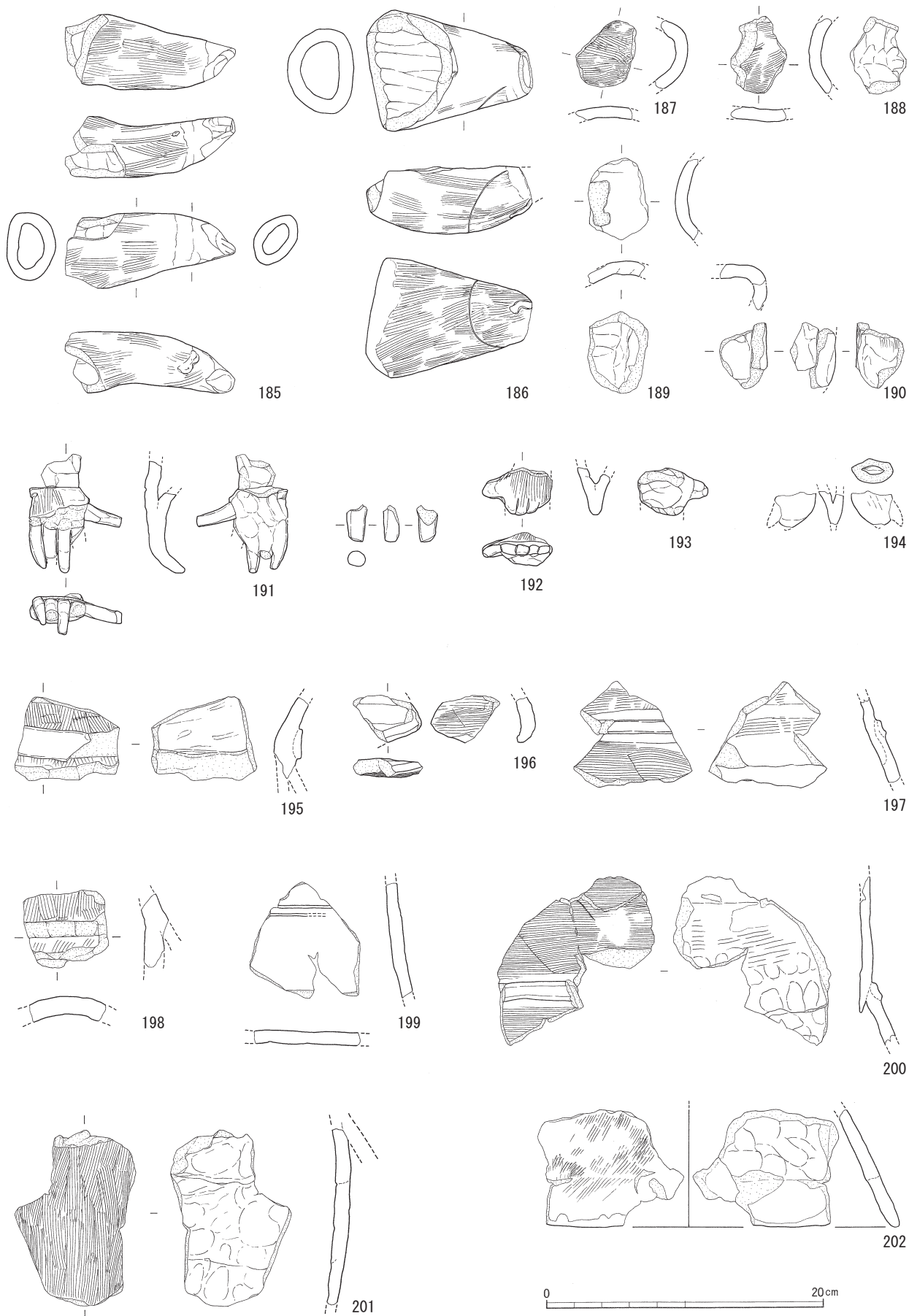
144は、明確な部位は不明だが、曲面の状況から頭部の破片と判断した。146は、円柱状の破片に扁平な粘土帯が貼付されており、面繫を構成する革帯と思われる。



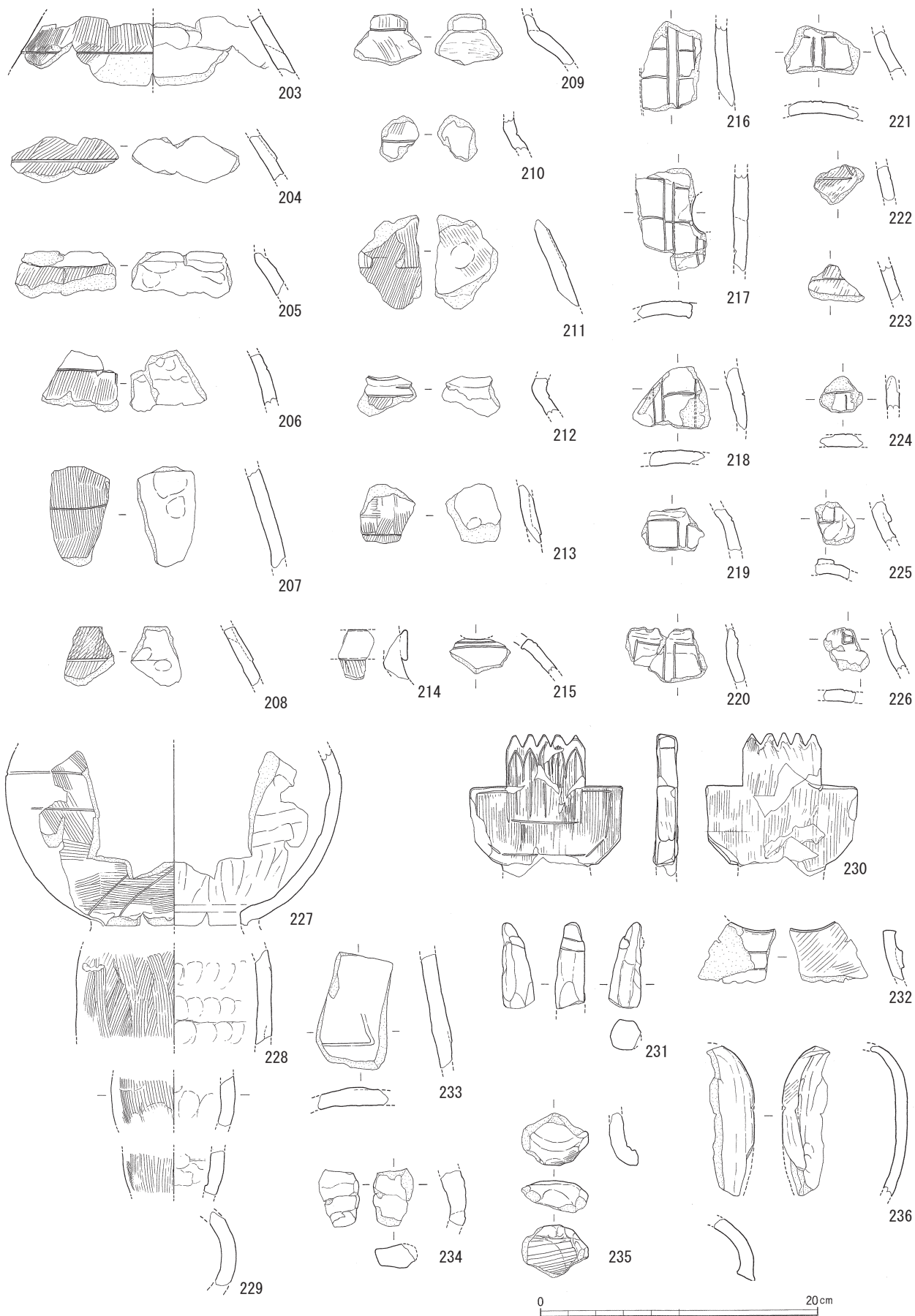
第Ⅲ-34图 深田遺跡(第2次)A区遺物実測图8(1:4)



第Ⅲ-35图 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図9(1:4)



第Ⅲ-36图 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図10(1:4)



第Ⅲ-37图 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図11(1:4)

147は、内外ともにハケを残し、外面には剥落痕がみられる。面繫もしくは障泥の破片であろうか。

145・152は、粘土板に革帯が貼付されたもので、鏡もしくは障泥を吊るすための革帯の部分とみられる。

148・149は、タテガミの破片である。148はタテガミから頭部が断面凸形を呈し、タテハケによりタテガミが表現されている。149は、タテガミが断面T字形で表現されており、石薬師東26号墳出土の馬形埴輪⁶⁾と共通する。

150・151は、鞍の破片である。装飾等は施されていない。

153は、尻繫の破片である。頂部に穿った円孔に沿って隆帯を貼り付け、そこから3方向に延びる革帯が粘土帯により表現されている。

154は、花形の辻金具を表現したものである。

155は、曲面に革帯の表現とみられる断面三角形の粘土帯を貼り付けたものである。面繫もしくは尻繫を表現した破片とみられる。

156～160は、詳細な部位は不明だが、粘土帯貼付の特徴や、器壁、色調などから馬形埴輪の破片とみられる。

161・162は、脚部の破片である。底部が残る161は、わずかに裾窄まりで仕上げられている。

総じて、あまり破片数は多くないが、タテガミの表現方法に2種が認められることから、2体存在したと推定できる。

鳥形埴輪 (163～172) 頭部や明確な頸部はないので不確定要素が残るが、沈線やハケの特徴から、鳥形埴輪の羽根の部分と判断した。166～170が沈線、163～165はそれをハケに置き換えたもので、頸部から体部にかかる部分に羽根の部分が付加し、立体的に表現する。172は窄まり具合から尾にかかる部分であろう。

人物埴輪 (173～236) 複数の人物があるが、明確に女性人物埴輪と判断できる破片はない。

173～179は頭部から頸部にかかる破片である。173は、左口元の破片で、線刻による刺青表現をもち、頸部との境に沈線を施す。174は頸部から胸部にかかる破片で、首周りに円形の珠文を貼り付けている。首飾りの表現であろう。175は、ほぼ頭部の全体像

がわかる破片である。水平に切り揃えた前髪など頭髮部をハケで表現し、顔部との境界を沈線で区画する。目・口はヘラ状工具で切り抜き、鼻は△状に粘土を貼付する。耳の部分は頭髮が下部に垂れ、欠損するが美豆良に続いていくとみられる。176～179は美豆良で、176は振れた表現をとるほか、円形断面もしくは楕円形断面の177・178、断面三角形の179と断面形にバリエーションがあり、美豆良から類推する限り、最低3体の人物埴輪が存在したとみられる。

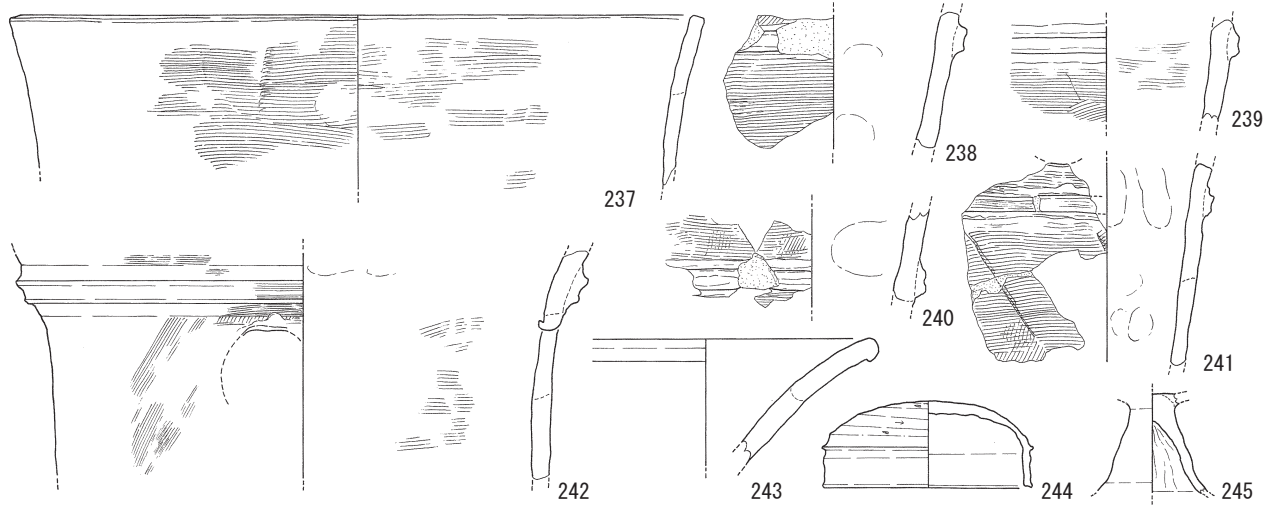
180～184は、肩部の破片である。180と181は脇下の円孔部を含むが、上衣の表現はない。一方、182は、肩甲骨周りに沈線があり、不明確ながら襷を表現したものかもしれない。

185～194は、腕から掌にかけての破片である。このうち、191は右掌で、手甲を付けて指先を出し、人差し指と薬指は一部欠損するものの、5本指がリアルに表現されている。192は指の破片、193は左掌で、191よりは小さいものの指表現が認められる。194は、指表現はないが掌の破片とみられ、手袋状の被物をはめた表現とみられる。

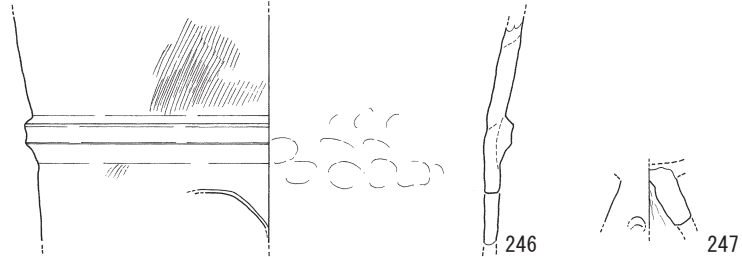
195～226は、衣装表現も含めて人物の胸から腰にかけての胴部破片を一括した。このうち195・198は、人物埴輪の器台部（円筒部）との接合部、196は、袈裟状衣などの上衣の端の部分、201は人物埴輪を支える器台部で、人物部を受けるため上端をやや内側に曲げたもの、197・199・202は上衣ないしは下衣部の破片とみられる。200は、胴部と下衣もしくは裳との接合部と考えたが、B種ヨコハケが入っており、疑問も残る。203～213・215は、裳ないしは下衣の部分で、横沈線が入る。214は、ハ字形に広がっていく部分に帯状の粘土を貼付したもので、腰に廻された帯状のものを示した可能性がある。216～221は、縦方向の2条沈線と横方向の緩やかな弧状沈線を組み合わせたもので、草摺を表現したものである可能性がある。224～226は、小さな方形を陽出したものである。

227～229は、両脚表現をもつ人物の脚部とみられるものである。227は、いわゆる盛装人物の太股部とみられる破片、228・229は膝より下位の部分であろう。

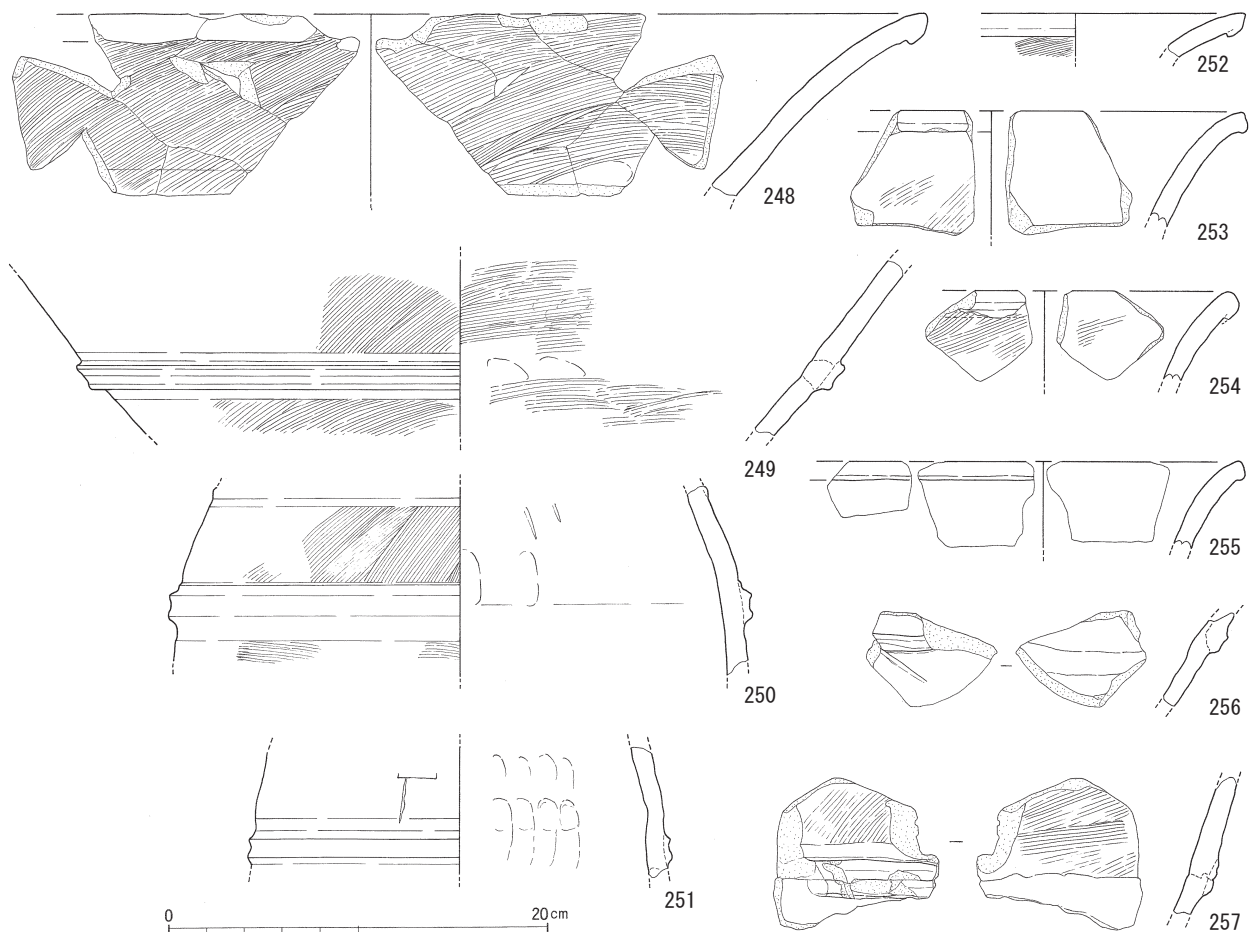
SD9 (237~245)



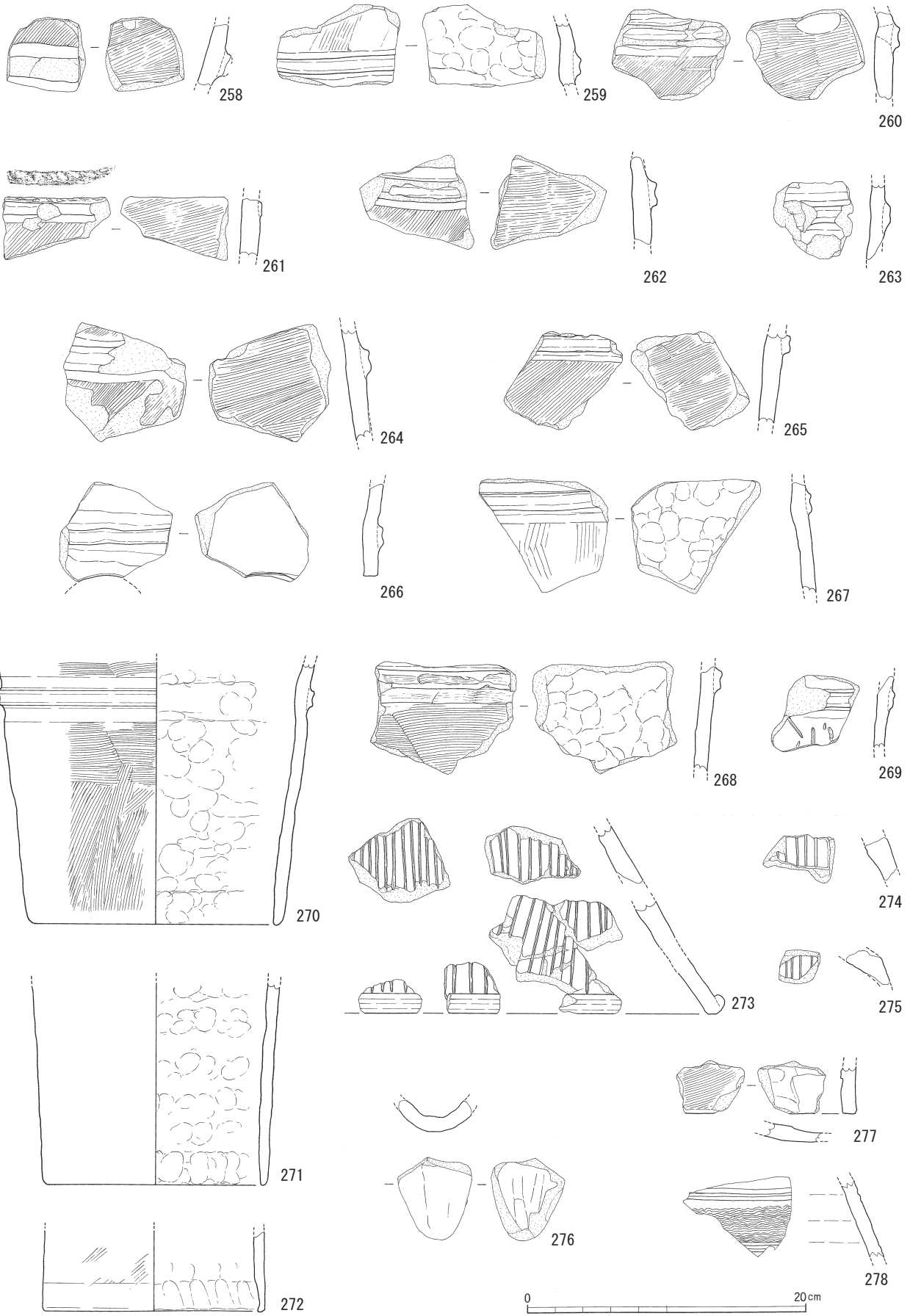
SK10 (246~247)



第1次調査 SK7 (248~278)



第Ⅲ-38図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図12(1:4)



第Ⅲ-39図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図13(1:4)

230は、人物埴輪が背負う鞆である。いわゆる奴
扇形の鞆で、切先を上にした鎬の明瞭な鎌を5本表
現している。231は、人物埴輪がもつ弓の弓筈部分
で、弓本体部には樋状の溝も残る。これらは、とも
にいわゆる「軽武装の人物」を構成する付属品であ
ろう。

不明形象埴輪 (232~236) いずれも形象埴輪の破
片ではあるが、いまひとつ種類や部位を特定できな
いものを一括した。

このうち232は、天地不明だが図示した上部が生
きており、冑や短甲の可能性はある。236は、薄手
の破片で、女性人物の髻の一部や、盛装人物の靴な
どの可能性があるが、確証はない。

(2) 深田2号墳

S D 9 出土遺物 (237~245)

円筒埴輪 (237~242)、朝顔形埴輪 (243)、須恵
器坏蓋 (244)、土師器高杯 (245) がある。

円筒埴輪は、いずれもB種ヨコハケを施した1類
で、下段が残る242では下段のヨコハケが省略され
ている。241ではBd種ヨコハケが顕著だが、237は
右下がりの特徴があまり目立たず、Bb種に近い様
相をとる。

朝顔形埴輪 (243) は、壺部口縁部の破片である
が、残りが悪く、調整は明瞭でない。

須恵器杯蓋 (244) は、天井部のほぼ全域にわたっ
て回転ヘラケズリが施されるが、口縁部との境界の
稜線は沈線化し、シャープさに欠ける。なお、前述
のように本品はSK10の上部から出土しており、SK
10に伴う遺物であった可能性がある。

土師器高杯 (245) は、脚部片で、裾広がりの方
柱形態をとる。

S K 10 出土遺物 (246~247)

円筒埴輪 (246) と土師器高杯 (247) がある。円
筒は1次調整のナナメハケだけの2類、高杯は脚部
に円孔が穿たれている。

第1次調査SK7出土遺物 (248~278)

朝顔形埴輪 (248~265)、円筒埴輪 (266~272)、
家形埴輪 (273~275)、不明形象埴輪 (276~277)、
須恵器器台 (278) を図示した。

朝顔形埴輪は、250・251や259など、肩部の膨ら
みが非常に乏しい。257は、朝顔形埴輪に措定して

いるが、突帯中央に沈線が入っており、人物埴輪の
帯の部分の可能性もある。260~265は、立直気味の
器形は円筒埴輪を想起させるが、外面の突帯よりも
下位まで内面のヨコハケ・ナナメハケが及んでおり、
朝顔形埴輪になる可能性が高いと判断した。

円筒埴輪は、2号墳と異なって、良好な口縁部破
片がない一方、底部破片に良好な破片がある。270
~272は、いずれも底部先端が尖る下段部で、底部
外面のタテハケが消失し、内面にユビオサエ痕が顕
著ないわゆる畿内型底部調整の適応を示す。270や
268では、Bd種ヨコハケが顕著に残る。269は、線
刻の入った円筒埴輪とみたが、形象埴輪の可能性も
残る。273~275は、家形埴輪の屋根破片である。軒
先に向かってタテ沈線を充填する。隅部等の破片は
ないが、寄棟屋根だったとみられる。(穂積)

2. 深田遺跡(第2次、第Ⅲ-40~42区)

279~306はA区、307~342はB区、343~354はC
区から出土した。ここでは概要を記し、詳細は遺構
観察表を参照されたい⁹⁾。

S D 3 出土遺物 (281)

山茶碗で、第5型式に比定される。

S D 5 出土遺物 (288・289)

288は瀬戸美濃産端反碗の小片である。289は瀬戸
美濃産陶胎染付の広東碗で、見込みに薄く五弁花の
模様がみられる。

S D 11 出土遺物 (282~284)

282は高杯、283は甕台部、284は中北勢系の羽釜
片とみられる。

S D 12 出土遺物 (290~292)

290は肥前産磁器の皿である。291は瀬戸美濃産磁
器碗である。外面に青色と褐色の2種類の釉で絵付
けしている。292は肥前産磁器皿である。

S Z 14 出土遺物 (293~301)

293は土師器高杯、294・295は砥石である。296~
298は山茶碗で、時期は概ね第6型式に比定される。
299は南伊勢系鍋で第3段階b型式に相当するか。
300は中北勢系羽釜、301は南伊勢系羽釜である。

S D 15 出土遺物 (285~287)

285は古式土師器壺である。口縁部にキザミを施
す。286は山茶碗で、第6型式に比定される。287は
常滑産陶器甕の底部である。

S A29出土遺物 (279)

A26Pit3 出土遺物で、土師器高杯の杯部である。

A区包含層等出土遺物 (302~306)

302は須恵器横瓶である。303は南伊勢系鍋で第3段階b型式に相当するか。304は茶釜の把手部分で、305は瀬戸美濃産播鉢である。306は排土からの出土で、円筒埴輪である。

S D19出土遺物 (307)

土師器高杯の脚部である。

S D22出土遺物 (308・309)

308は土師器高杯脚部、309は朝顔形埴輪の口縁部である。

S R23出土遺物 (313)

山茶碗で、第6型式に比定される。

S D21出土遺物 (310~312)

310・311は斎串である。いずれも上端部を丁寧に加工し、310は中央やや上部に切り込みが入る。312は軽石で、6面において擦痕が認められる。

S Z16出土遺物 (314~340)

314~326は古式土師器である。314・315は壺である。いずれも広口壺で314は口縁部に綾杉文、315は円形浮文を施す。316~322は甕である。316はS字甕A類古段階に属す。317は受口甕、318はくの字甕である。319~322は底部・台部で、平底、僅かに底が凹むもの、低脚の台部となるものなど多彩である。323~326は高杯である。326は長脚の様相を呈する。

327は朝顔形埴輪口縁部である。器壁が薄く、端部の横ナデが明瞭である。

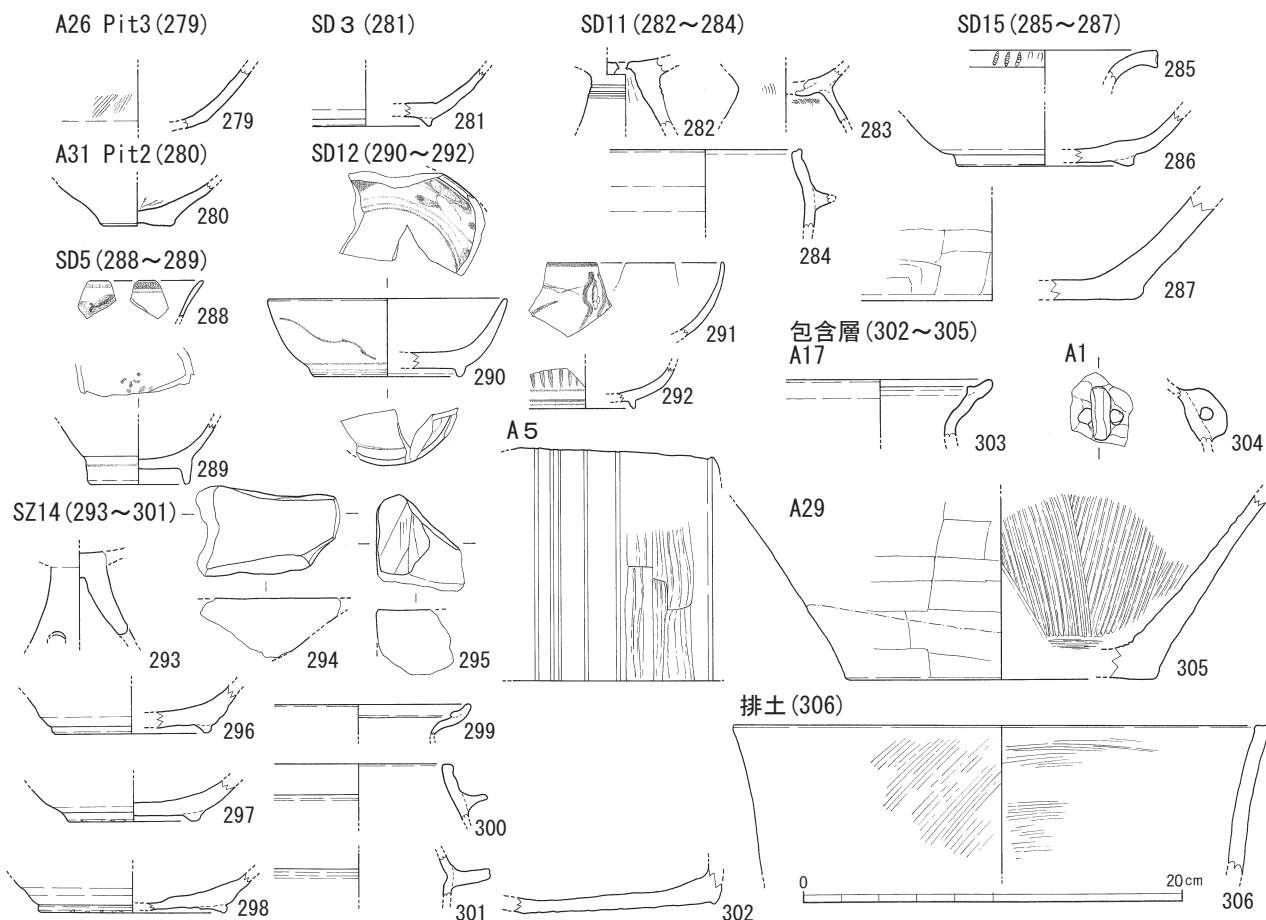
328~331は須恵器である。328は杯蓋、329は杯身、330は埴、331は高杯である。概ねTK217型式併行とみられる。

332・333は土師器で332は甕、333は鍋・甑などの把手である。

334は平瓦で内面に布目痕がみられる。

335は土師器皿である。内面は工具でナデられている。336~338は山茶碗である。

339は軽石、340は砥石で、刃を砥いだ痕が残る。



第Ⅲ-40図 深田遺跡(第2次) A区遺物実測図14(1:4)

S R23出土遺物 (313)

山茶椀である。第5型式に比定される。

B区包含層出土遺物 (341・342)

341は土師器壺あるいは甕底部、342は山茶椀で第6型式に比定される。底部外面に墨書がある。

S D25出土遺物 (343)

須恵器甕の肩部である。

S Z26出土遺物 (346~352)

346は須恵器杯蓋、347は土師器甕である。348・349は山茶椀、350は陶器壺、351は捏鉢である。352は内外面がナデ調整で、口縁部外面直下に突帯状のものを貼付けた痕跡がある。器種は不明である。

S K27出土遺物 (344)

砥石である。

S R28出土遺物 (345)

南伊勢系鍋である。口縁部を内側に折り返している。小形のもので第3段階に比定されるものであろうか。

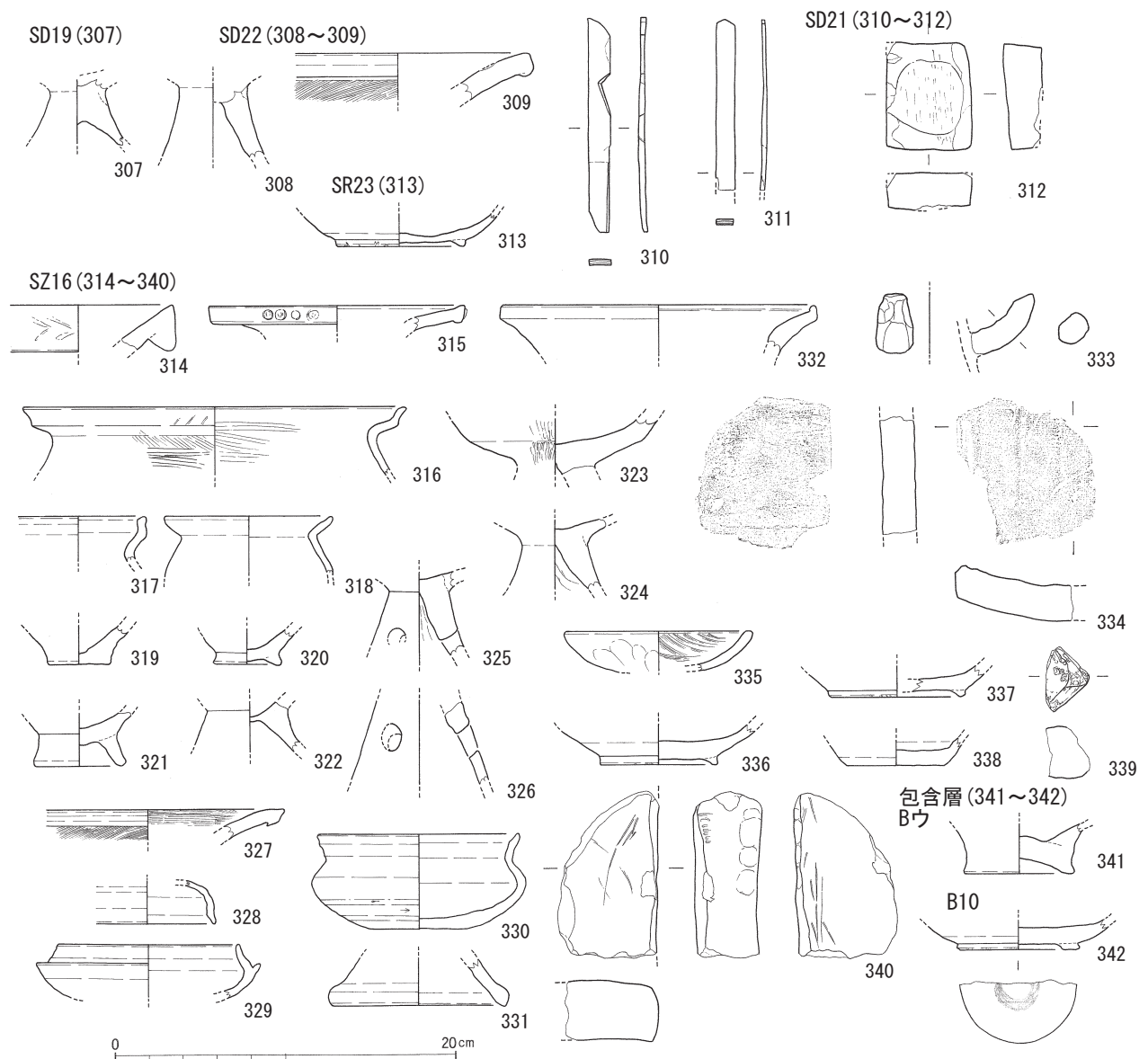
C区包含層出土遺物 (353・354)

353は陶器皿で、内外面に灰釉を施釉している。354は中北勢系羽釜である。(原田)

3. 深田遺跡(第3次、第Ⅲ-43~46図)

S D30出土遺物 (355~357)

355・356は土師器甕、357は土師器杯である。



第Ⅲ-41図 深田遺跡(第2次)B区遺物実測図(1:4)

S D32出土遺物 (358~366)

358~360は土師器の壺底部である。361はS字甕で、B類古段階である。362~365は土師器の高杯である。365は杯部が直線的に開き、やや新しい傾向を示す。366は土師器甕体部である。

S Z33出土遺物 (367~369)

367は土師器高杯で小さい円形透孔がある。368・369は須恵器杯蓋で、TK10型式併行である。

S D37出土遺物 (370~381)

370~375は土師器壺である。375は粗製の小型壺である。376~379は土師器甕である。376は頸部が緩やかで口唇部に刻みをもつ。377はS字甕である。380・381は土師器高杯である。

S K39出土遺物 (382~393)

382・383は弥生土器もしくは土師器壺である。383底部外面は木葉痕がつく。384~388は土師器甕である。384はミニチュア品である。385~388はS字甕で、A類に比定される。389・390は土師器高杯である。389は器壁が薄く、口縁部へ直線的に広がり、浅くなるものとみられる。390は残存部から透し孔が2段あるのがわかる。391はスサを含む不定形の粘土塊である。壁土であろうか。392・393は石製品である。393は2面において擦痕が認められる。

S K40出土遺物 (394)

中北勢系土師器羽釜である。16世紀代であろうか。

S K42出土遺物 (395)

不整形のもので胎土中にスサ・小石を一定量含む。壁土の一部であろうか。

S D45出土遺物 (396)

砥石である。2面において砥いだ痕が認められる。

S K47出土遺物 (397)

土師器高杯である。短脚で透し孔が認められず、裾部が広がるものである。

S K48出土遺物 (398・399)

398は土師器壺底部、399は土師器甕口縁部である。頸部から口縁部にかけて直線的に広がり、口縁端部をつまみ上げたような形状となっている。丸底の底部をもつ甕になるであろう。

S H53出土遺物 (400~402)

400・401は土師器壺である。401は底部外面に木葉痕がつく。402は土師器台付甕である。

S D55出土遺物 (403)

弥生土器もしくは土師器の壺あるいは鉢の底部である。焼成後に13箇所穿孔している。

S K57出土遺物 (404)

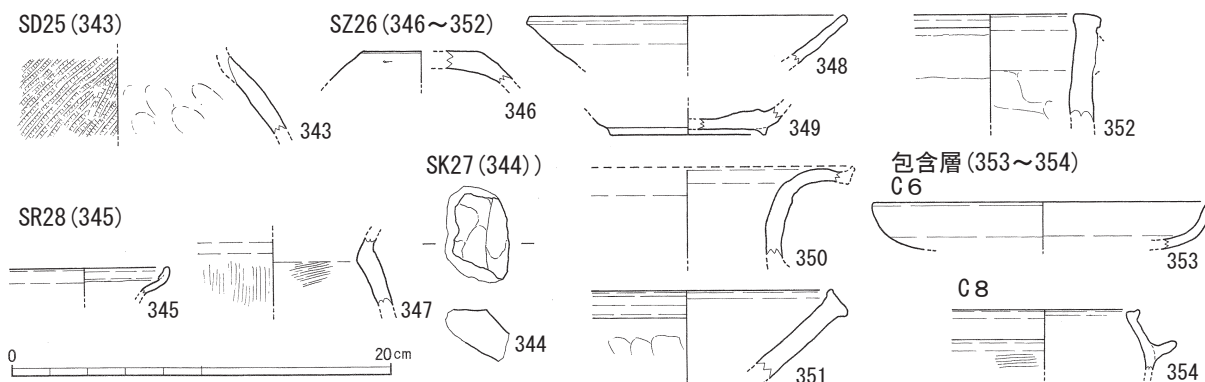
不整形でスサ等が認められる。395と同様の壁土だと思われる。

S H58出土遺物 (405~408)

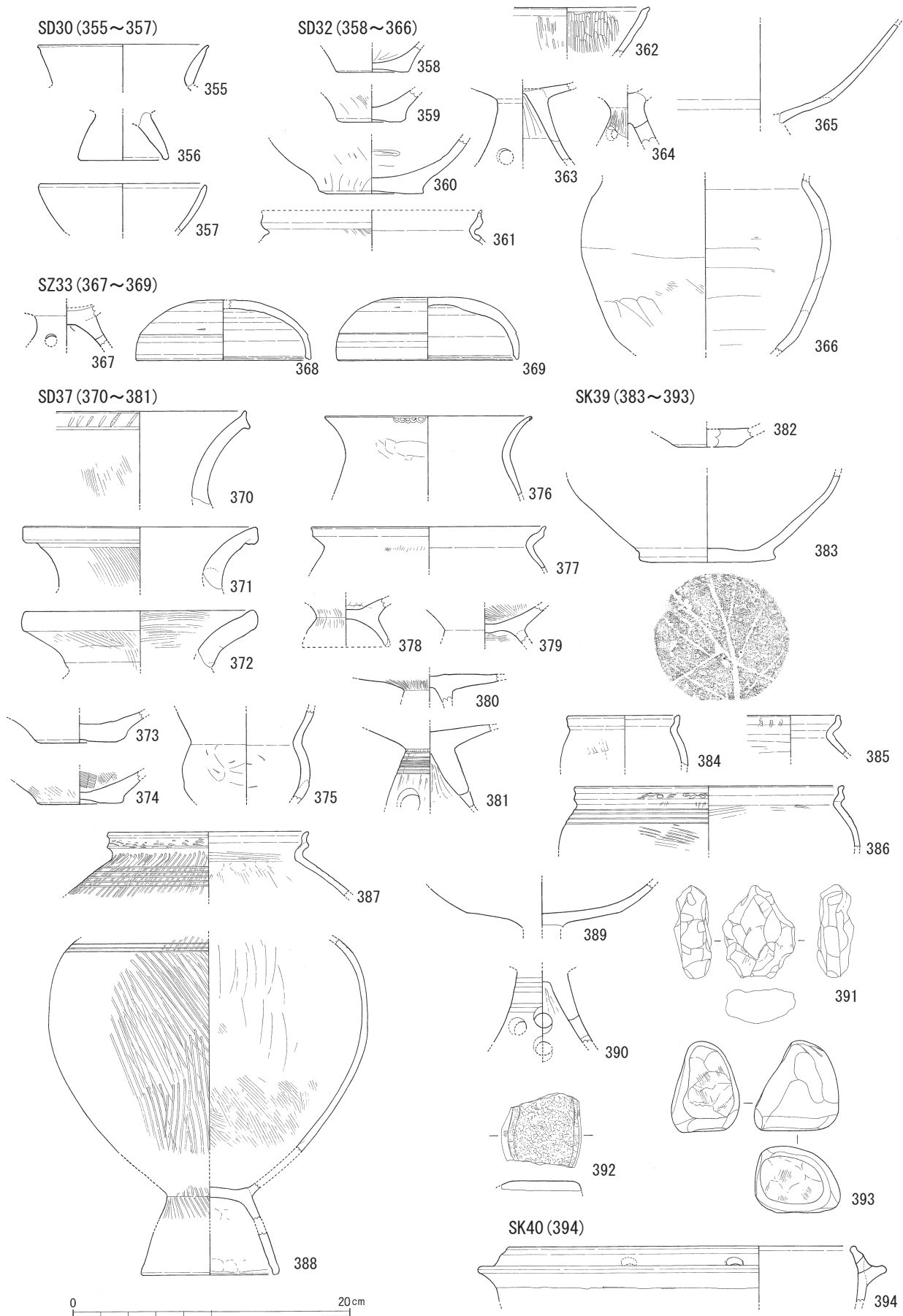
405・406は土師器甕口縁部、407は弥生土器もしくは土師器甕台部、408は須恵器短頸壺である。

S H61出土遺物 (409~421)

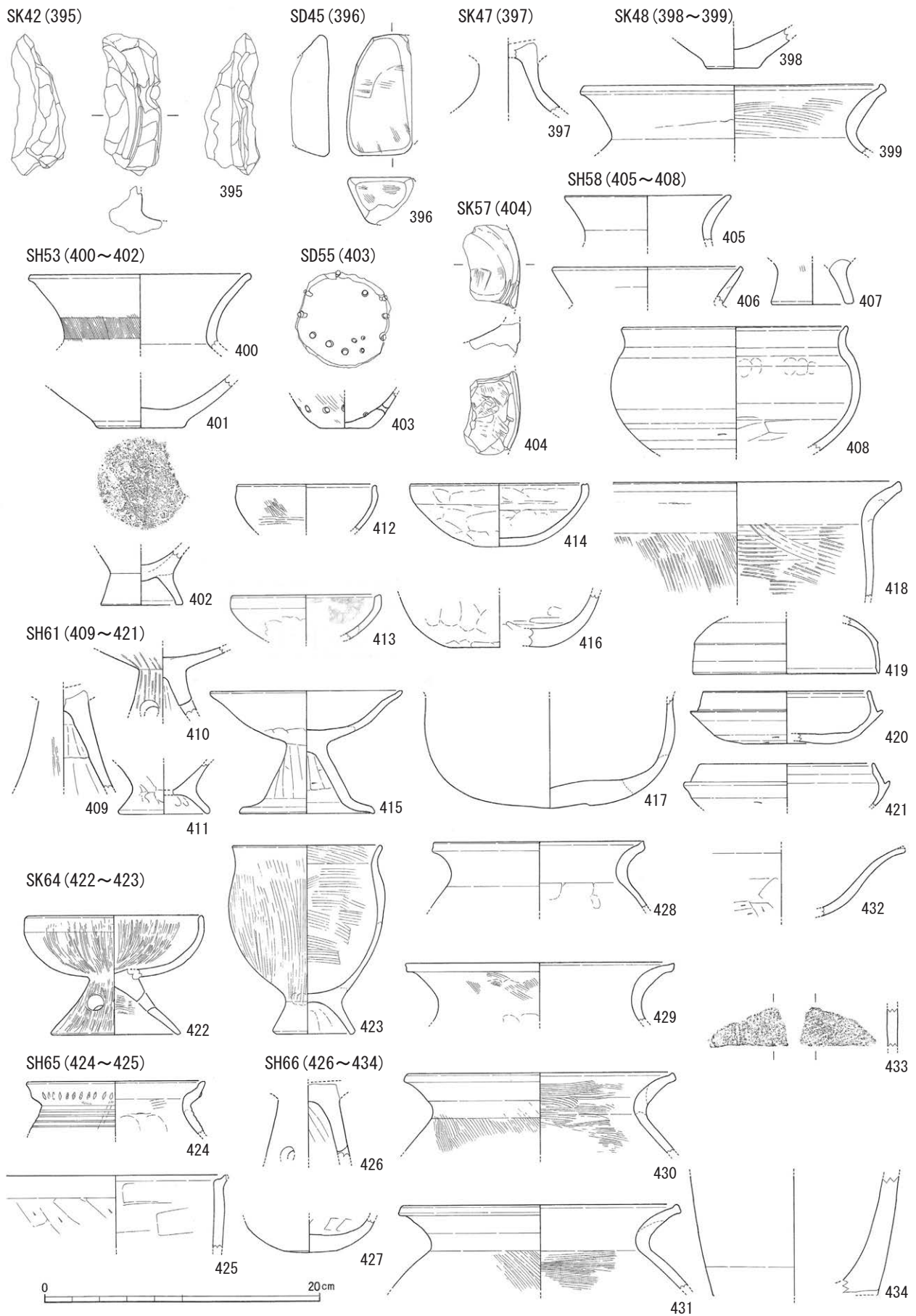
大きく弥生時代終末期~古墳時代初頭のもの(409~411)、古墳時代後期(412~421)のものに分けられる。409・410は土師器高杯である。411は土師器甕台部である。比較的器壁が薄く、器高の低い台部である。412~414は土師器杯である。口縁端部がやや内弯し、面をもつ。いずれもナデによる調整を基本とした粗製のものである。415は土師器高杯、418は土師器甕である。419は須恵器杯蓋、420・421は須恵器杯身である。概ねTK10型式併行か。



第Ⅲ-42図 深田遺跡(第2次)C区遺物実測図(1:4)

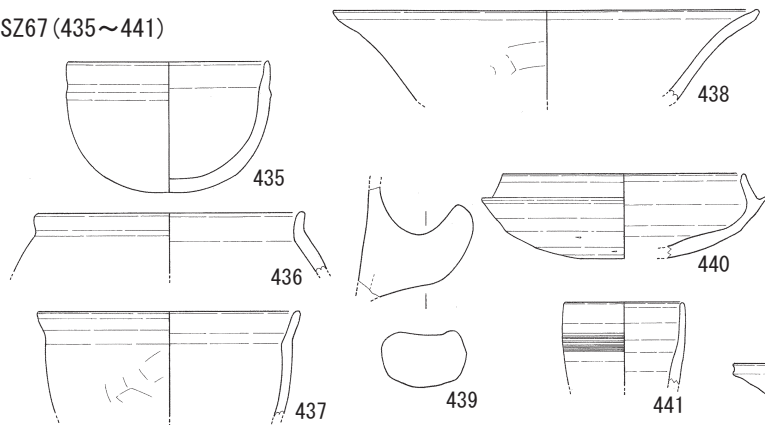


第Ⅲ-43图 深田遺跡(第3次)D区遺物実測図1(1:4)

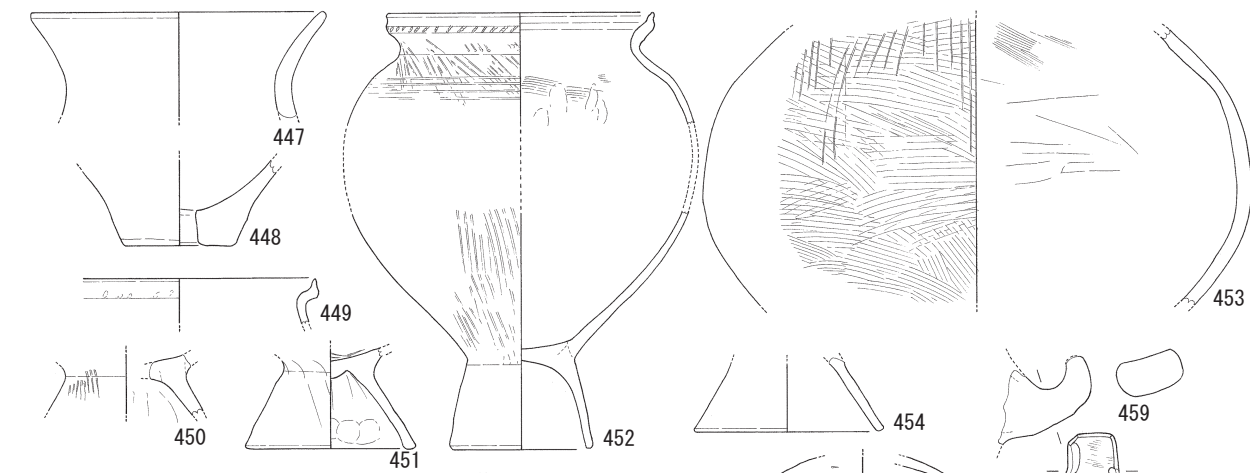
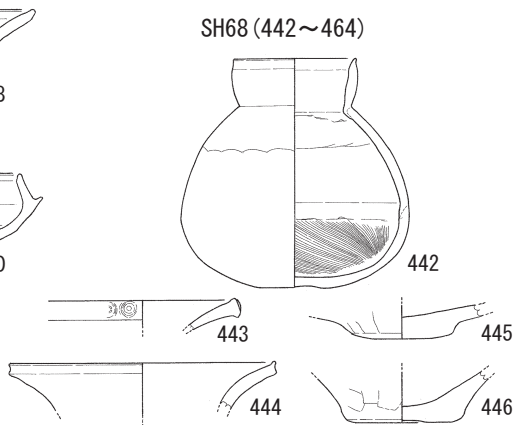


第Ⅲ-44図 深田遺跡(第3次)D区遺物実測図2(1:4)

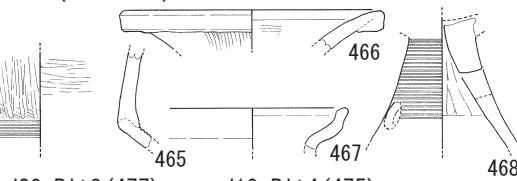
SZ67 (435~441)



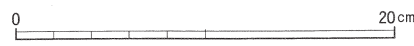
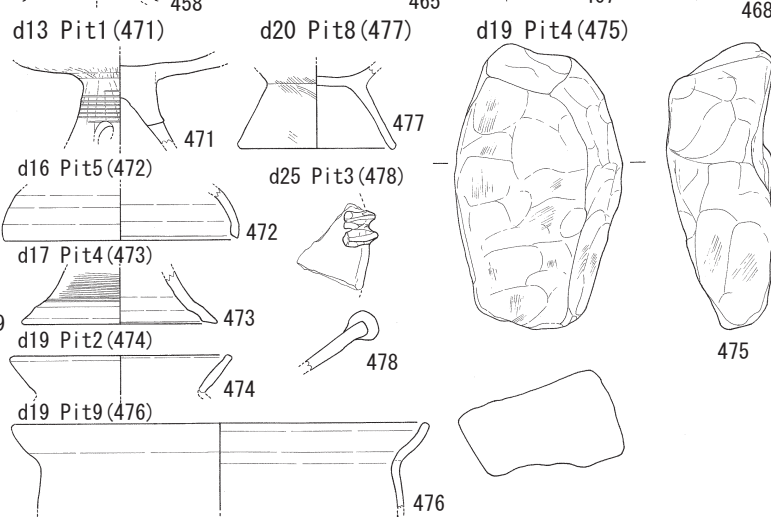
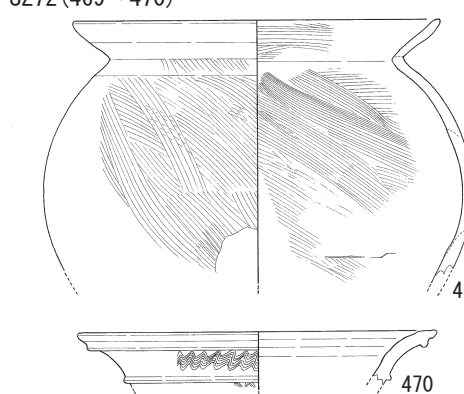
SH68 (442~464)



SZ71 (465~468)

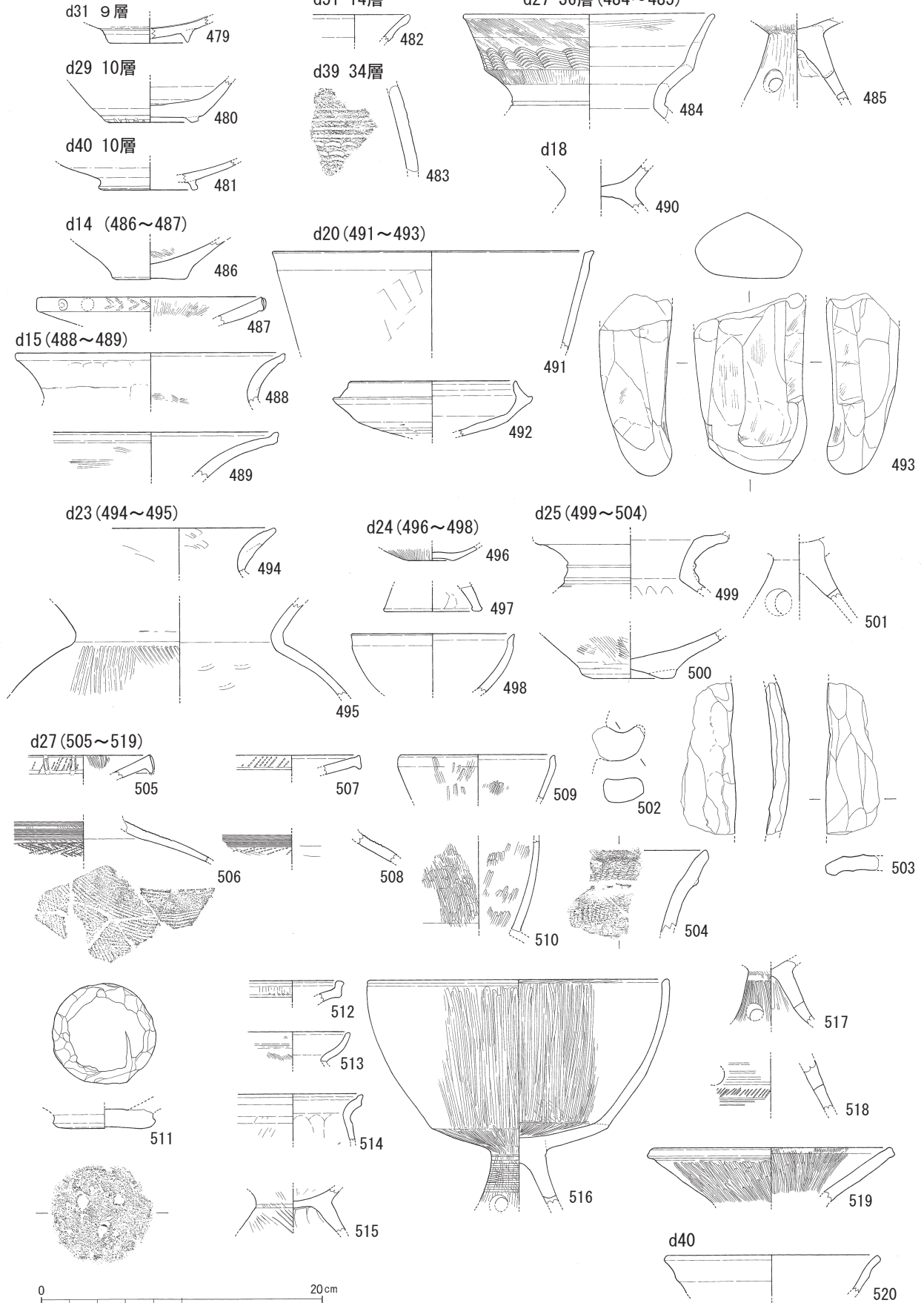


SZ72 (469~470)



第Ⅲ-45図 深田遺跡(第3次)D区遺物実測図3(1:4)

包含層 (479~520)



第Ⅲ-46図 深田遺跡(第3次)D区遺物実測図4(1:4)

S K64出土遺物 (422・423)

422は弥生土器椀形高杯、423は弥生土器の小型の台付甕である。

S H65出土遺物 (424・425)

424は弥生時代終末期～古墳時代初頭の受口甕、425は古墳時代後期の甑口縁部とみられる。

S H66出土遺物 (426～434)

426は弥生土器高杯、427～431は土師器甕、433は韓式系土器である。甕は、頸部から口縁部にかけて外反し、端部をつまみ上げたような形状である。丸底の甕の口縁部と思われる。

S Z67出土遺物 (435～441)

435～439は土師器で、435・437は鉢、438は高杯、である。外反し端部をつまみ上げている。439は鍋の把手か。440・441は須恵器である。440は杯身でTK43型式併行である。

S H68出土遺物 (442～464)

442～447は土師器壺である。442はいわゆるヒサゴ壺で体部上半を貝殻刺突で施文している。443は口縁部外面に円形浮文が2箇所ある。448は有孔鉢である。449～453は土師器甕である。452はS字甕A類、453は外面のハケ調整はS字甕と類似するが、器壁が厚く時期は下る。454～458は土師器高杯である。455は杯部が浅くなり、端部にかけて直線的に広がる形状から、廻間Ⅱ式後半～Ⅲ式期併行に比定される。457・458は器壁が厚くなり、脚裾部で屈曲するものである。460は須恵器杯蓋である。462～464は、軽石である。いずれも扁平で463は部分的に擦痕が認められる。

S Z71出土遺物 (465～471)

465・466は土師器壺である。466は口縁端部を外側へ折りこみ、当地では普遍的でない手法である。467は土師器甕、468は土師器高杯脚部である。

S Z72出土遺物 (469・470)

469は土師器甕である。口縁部がやや内弯している。470は須恵器壺である。

D区Pit出土遺物 (471～476)

471は土師器高杯である。472は須恵器杯蓋でTK217型式併行である。473は短脚の須恵器高杯で外面はカキメが施されている。475は砥石である。477はS字甕の台部、478は土師器器台の可能性もあるが、口縁部上端を覆うような棒状浮文が付くこと、内面が直線的であることから、加飾壺の口縁部としておく。

D区包含層・範囲確認調査出土遺物 (479～520)

479は近世陶器皿である。480は山茶椀で、第6型式併行とみられる。481は灰釉陶器皿でK-14号窯式併行である。483は土師器片で、外面に同一施文具で直線と円弧を描いている。484は土師器有段口縁壺である。形状は柳ヶ坪型壺に近い。口縁部外面上段に波状文、頸部に櫛描直線文がある。487は土師器器台である。口縁部外面に綾杉文を施し、円形浮文が剥離したものも含め2箇所確認できる。489は高杯で、大きく反る形状から古墳時代中期～後期のものとみられる。492は須恵器杯身でTK209型式併行である。499は土師器加飾壺である。外面の突帯部分及び頸部内面を赤彩している。503は移動式竈の焚口付近とみられる。504は韓式系土器壺か。外面はタタキで調整し、突帯が1条つく。(原田)

第4節 小 結

1. 深田古墳群

(1) 遺構について

a 深田古墳群の把握

今回の調査は、調査区の幅が2mと狭かったため、古墳の形状や規模の想定については不確定要素が大きいことは否めない。しかし、埴輪を大量に含むSD8とSD9は、古墳周溝であった可能性が大きく、北接する昭和53年度深田遺跡第1次調査A区に対応する周溝が存在しなかったことから、これらはともに方墳の北周溝の一部と判断した。つまり、SD7・8で造出付方墳とみられる1号墳の北周溝と造出部、SD9とSK10で2号墳の北周溝と周溝内埋葬土坑と推定した。

一方、これらの溝(=周溝)とは別に、昭和53年度深田遺跡第1次調査A区にも埴輪を含む古墳時代の溝と土坑がある。このうち、西側の昭和53年度深田遺跡SD2は形状的にも古墳周溝であった可能性が高く、これを3号墳として位置付ける。隅部は丸いものの、全体としてみた場合は方墳の北周溝が出ていると思われる。ただし、南側の平成30年度深田遺跡調査区には対応する溝が出ておらず、そこにかかる前に南周溝があったと判断される。この場合、3号墳は、一辺15m程度(周溝含む)の小さな方墳だったと推定される。

今回多数の埴輪を報告した昭和53年度深田遺跡SK7については、古墳周溝の可能性も考えたが、南側の調査区に対応する溝がなく、単独の土坑と判断した。

以上をまとめると、現時点の知見による限り、深田古墳群は、

1号墳；一辺20.4m(周溝含む)の造出付方墳

2号墳；一辺8m以上(内法)の方墳(周溝内埋葬あり)

3号墳；一辺15m程度(周溝含む)の方墳

という3基の方墳を中心に、土坑1基(昭和53年度深田遺跡SK7)で構成された古墳群だった。確認数は少ないものの、狭い範囲に比較的密集した状態で存在した古墳群とみてよからう。

ただし、平成30年度深田遺跡調査区の南側は未調

査であり、南側にさらに古墳が存在していた可能性は排除できない。さらに、深田古墳群から未調査部分を挟んで90mほど南東側となる平成30年度深田遺跡SD22や、さらに南東側となる双ツ塚西方遺跡SZ2などでも、他の時期の遺物と混在する状況ではあるが、あまりローリングを受けていない円筒埴輪や朝顔形埴輪片が出土している。これらの出土遺構は、現時点では古墳周溝とは確定できないものの、周辺には古墳が存在した可能性は高いとみられる。

以上のことから、深田古墳群は、今回把握した部分以外にも、広範囲にわたって古墳が散在していた可能性があり、今後、隣接・周辺地の調査状況の進展を見守っていく必要がある。

b 深田古墳群の特質

確認数こそ少ないものの、深田古墳群は、下記のような特徴を指摘することができる。

- ・群構成の開始は、5世紀末ないしは6世紀初頭前後
- ・いずれも小規模な方墳で構成されている
- ・1号墳では小さな突出部を伴う
- ・2号墳では埴輪棺とみられる周溝内埋葬を伴う
- ・墳丘を伴わない単独土坑(埴輪棺の可能性もある)による埋葬と併存した可能性がある
- ・古墳群は、さらに南側に散在していた可能性がある
- ・形象を含む埴輪をもつ

以上の諸特徴を、これまで調査された鈴鹿市域及びその周辺の古墳群⁽¹⁰⁾と比べると、群構成の中心を方墳が占める古墳群として、鈴鹿市寺谷古墳群と寺田山古墳群があり(ともに一部に円墳含む)、また群構成の一画が方墳で構成される古墳群(円墳主体の区域と方墳主体の区域がある)として、鈴鹿市保子里古墳群と石薬師東古墳群がある。

墳丘を伴わない単独埋葬の埴輪棺は、保子里古墳群と寺谷古墳群に類例があり、津市大里西沖遺跡⁽¹¹⁾でも円墳の近傍に土坑による埋葬事例がある。小さな突出部を伴う墳丘は、寺谷15号墳と石薬師東49号墳・56号墳が相当する。

このうち寺谷15号墳は、円墳である16号墳と周溝を共有しており、直ちに深田古墳群と対比すること

は躊躇されるが、石薬師東49号墳・56号墳が幅広の周溝内に突出部が包含され、突出部形状に沿って周溝形状も屈折することはないが、寺谷15号墳では突出部形状に沿って周溝も屈折し、深田1号墳の周溝のあり方とも親和性がある。

深田古墳群の実態はまだ不明な部分が多いが、現況の資料による限り、寺谷古墳群と同じような階層構成をもつ古墳群であった可能性がある。

(2) 遺物について

深田古墳群は墳丘が削平を受けていたため、出土遺物としては周溝から出土した埴輪と土器類が存在するだけである。

a 深田古墳群出土の埴輪群の特徴

以下、出土遺物の主体を占める埴輪を中心に、深田古墳群出土遺物の特徴を抽出してみよう。

- ・円筒埴輪は2突帯3段構成で、いわゆる淡輪技法をもつ淡輪系の円筒埴輪は含まない
- ・一方で、円筒埴輪の底部に底部調整をもつものがある(昭和53年度調査SK7に顕著)
- ・円筒埴輪には、2次調整にBd種ヨコハケを施した1類と、2次調整を省略して1次調整のタテハケ(もしくはナナメハケ)のみを残す2類の2形態が認められる
- ・肩部の膨らみが退化した朝顔形埴輪をもつが、赤色かつ大型のものを含んでおり、これらは形象埴輪とも遜色しない大きさをもつ(⇒形象埴輪的な扱いであった可能性がある)
- ・円筒・朝顔形埴輪に赤彩を伴うものが多い
- ・形象埴輪には、家・馬・鶏・人物があり、明確な器財埴輪を含まない(靱は人物埴輪に伴う附属品とみられる)
- ・人物埴輪は、明確な女性人物埴輪は未確認で、武装人物と顔に線刻による刺青表現をもつ男子(=馬曳人物?)など複数個体が存在し、両脚表現の2足歩行形態をとるいわゆる盛装男子が存在した可能性もある

このうち、男性人物中心の組成は、津市稲葉古墳群⁽¹²⁾のあり方と共通し、形象埴輪の全体的な構成では石薬師東古墳群と親和性がある。特に、227などを両脚表現の盛装男子とみてよければ、靱を背負う軽武装の男子の存在とあわせ、石薬師東古墳群の形

象埴輪とかなり親和性が強い。また、216などに典型的な線刻表現を、甲冑の草摺を模したものと解してよければ、津市藤谷窯の出土品⁽¹³⁾と親和性をもつものといえる。

以上のように、深田古墳群出土の埴輪は、決して地域内で孤立的な存在ではなく、類例を鈴鹿市内あるいは三重県内の古墳群や埴輪窯に見出しうるものといえよう。

b 金沢川水系の埴輪需給

石薬師東古墳群と藤谷窯は、ともに淡輪系埴輪を基本的に含まず(石薬師東古墳群では一部に客体的に含まれる古墳はある)、在来系の円筒で占められることも深田古墳群と共通する。

ただし、深田古墳群から東南側へ1.7kmと近く、同じ金沢川・田古知川水系の旧河曲郡海部郷にあるとみられる岸岡山古墳群では、深田古墳群では未確認の淡輪系埴輪の出土が知られており⁽¹⁴⁾、深田古墳群とは埴輪群の構成が異なることは注意してよい。つまり、同じ地域内の近傍の古墳群ではあっても、埴輪供給は郡内の統一的な需給関係はまだ未成立であり、古墳群ごとに(築造集団ごとに)埴輪供給の体制を個別に構築していたことが想定される。

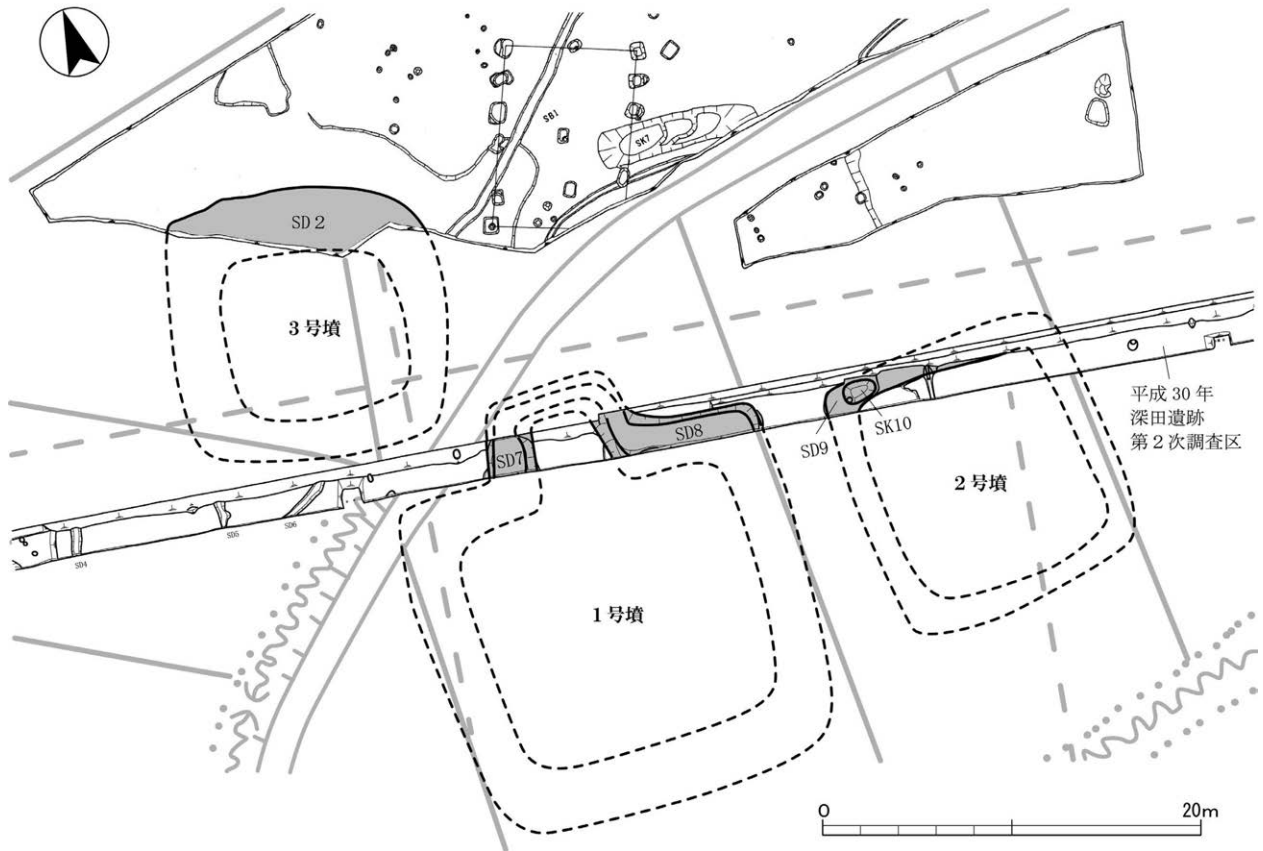
(3) 金沢川下流域沖積部の古墳

深田古墳群は、金沢川下流右岸の沖積地に所在する古墳群で、金沢川下流域右岸(支流の田古知川水系も含む)は他に塚越古墳群が知られている。また、古墳として把握するまでには至らなかったが、今回の深田遺跡の調査でも他に円筒埴輪片や朝顔形埴輪が出土した遺構や地点があり、双ツ塚西方遺跡でも戦国期の遺物と混在する状況ながらSZ2から朝顔形埴輪や形象埴輪の可能性のある埴輪片、須恵器などが出土している。

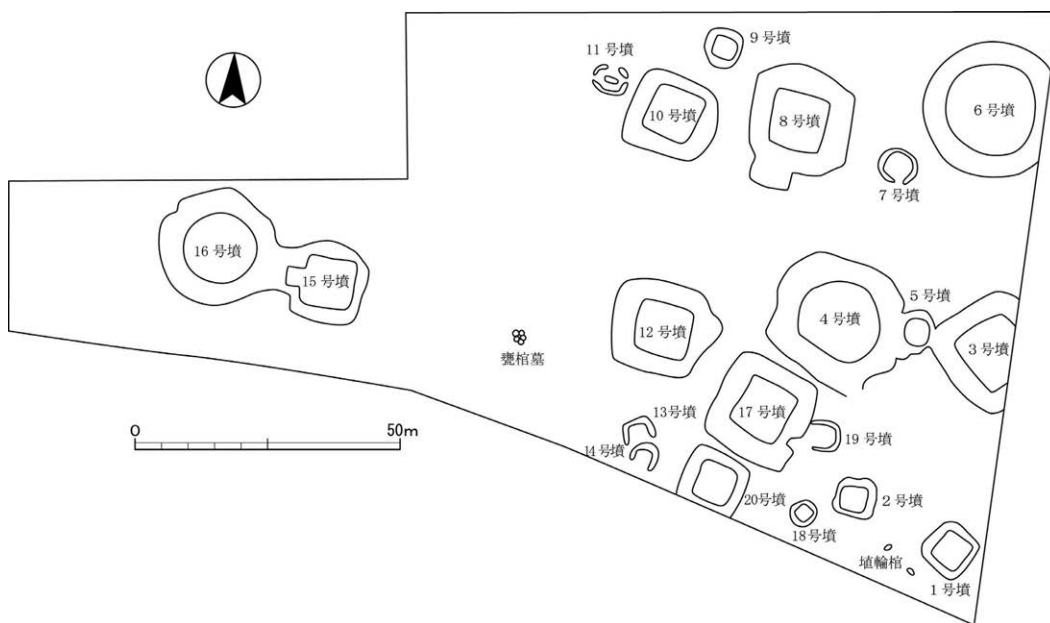
このうち塚越古墳群は、金沢川遺跡と重複する古墳群で、1号墳と3号墳の2基が把握されているだけだが、非常に疎らながら古墳群として把握することができるだろう。塚越3号墳は6世紀中葉頃にやや時期が下るが⁽¹⁵⁾、1号墳は画文帯神獸鏡や振文鏡が出土した6世紀前後の古墳で、深田古墳群と相前後する時期の古墳である⁽¹⁶⁾。

つまり、金沢川下流域の右岸部には、6世紀初頭前後を盛期とする小規模な古墳群が散在しながら存

昭和53年度深田遺跡第1次調査A区



第Ⅲ-47図 深田古墳群の古墳想定復元



第Ⅲ-48図 参考；寺谷古墳群の古墳配置
 (鈴鹿市考古博物館2016年『企画展「鈴鹿の古墳Ⅰ-ちいさなちいさな古墳たち-」』を一部改)

在していたとみられる。金沢川の南側の岸岡山には、前方後円墳2基を盟主とする岸岡山古墳群があり⁽¹⁷⁾、前述のように金沢川流域の古墳群とは埴輪の様相が若干異なる。同一地域といってよい地に併存するので、金沢川流域の古墳被葬者は基本的には岸岡山古墳群被葬者の膝下にあったとみられるが、造墓や埴輪導入などに関しては独自性を発揮した存在だったといえるであろう。(穂積)

2. 深田遺跡(第2次)

(1) 遺構配置について

調査はA～C区に分けて実施した。いずれも幅の狭い調査区であるが、A・C区は東西、B区は南北に長い調査区となっており、コの字状の配置となる。

A区検出面は西が標高5.8m、東が5.5mである。検出面はSZ1で一旦5.5mまで下がるものの、その東の深田古墳群のエリアでは5.6～5.8mとなり、調査区東端のSZ14以东で5.5mとなる。

B区検出面は西が5.9m、東が5.3mで、遺構面は東へ徐々に下がり、SZ26で5.6mから5.1mまで下がる。SR28以东で5.3mとなる。

A区東端とB区東端を南北に繋ぐC区の検出面は、北が5.5m、南が5.3mとなる。遺構面は、SZ16で4.85mまで下がる。

A区SZ1とB区SZ16の間の微高地では、古墳2基の他に古墳時代後期の溝SD13、鎌倉時代の溝SD3・6・11・15・17を確認した。SD15と17は調査区が異なるものの遺構配置や時期から同一の溝となる可能性が高い。溝の方位から、SD3と6、SD11と15・17はそれぞれ直交するとみられる。何らかの区画溝であった可能性が高いと考えられる。

B区SZ26より東側の微高地は、遺構が希薄で、標高が高いため、後世に削平されたと想定される。

比較的広い範囲で凹地となるSZ1・16は古代～中世の遺物を、SZ26は古墳時代初頭～中世の遺物をそれぞれ包含しており、長い期間をかけて堆積していたことがわかる。SZ1・16・26などの凹地状部分は埋土から湿地状であったとみられる。中でもSZ16は、古代の溝とみられるSD18～21の堆積後に堆積している。SZ16最下層で細かい凹凸が確認でき、畔の可能性はある。SD18～21の堆積後には、生産域として利用された可能性が考えられる。

(2) 斎串の出土について

B区SD21から斎串が2点出土した。斎串は、6世紀後半以降に出現し、8世紀後半に増加したもので、「神聖な木」としての祭りの場の結果として地上などに挿し立てて用いたとされる⁽¹⁸⁾。

鈴鹿市内での斎串の出土は、国府町所在の三宅神社遺跡に続き2例目である。三宅神社遺跡は奈良時代後期～平安時代にかけてコの字型に配置された建物群や斎串の他、瓦や墨書土器も出土している。中でも奈良時代中期～平安時代初頭の前期伊勢国府と判明している長者屋敷遺跡で出土した瓦と同文の瓦の出土から、移転先の後期伊勢国府である可能性が指摘されている⁽¹⁹⁾。

SD21出土遺物は斎串、砥石の他は図示しうるものが無く、祭祀要素のある遺物は斎串に限られるが、金沢川遺跡第2次調査では円面硯や大型食器暗文土師器などが出土しており、隣接する天王遺跡に関連する官衙域であった可能性を指摘している⁽²⁰⁾。

宮都や国府における祭祀の場として、境界は空間的象徴をあらわし、祭祀は時空間の境界の場で行われたという指摘があり、天王遺跡を中心とする官衙域の境界がSD21辺りであった可能性が考えられる⁽²¹⁾。(原田)

3. 深田遺跡(第3次)

調査の結果、遺構面はSZ33とSZ71に挟まれた箇所が標高5.4～5.6mと微高地となり、深田遺跡(第2次)A区より若干低い程度である。微高地では、弥生時代終末～古墳時代初頭の堅穴建物を7棟以上(SH41・51・53・58・65・75・76)、古墳時代後期の堅穴建物を2棟(SH61・66)確認した。弥生時代終末～古墳時代初頭の堅穴建物は、調査区の北側に位置する昭和53年度深田遺跡第1次調査B区でも当該期の堅穴建物を5棟確認しており、今回の調査でさらに居住域の広がりが認められた⁽²²⁾。

また、古墳時代後期の堅穴建物については、今回の調査で新たに確認した。ただ、古墳時代初頭とした堅穴建物の埋土や包含層中にも古墳時代後期の遺物を一定量含むことから、当該期の居住域が古墳時代初頭の居住域に重複し広がっていたと想定される。

建物の時期は概ね6世紀後半～末頃で、深田古墳群の築造時期より新しい段階に位置付けられる。た

だ、金沢川下流域の右岸部には、6世紀初頭前後を盛期とする小規模な古墳群が散在しながら存在して

いたとみられ、それらの古墳群を形成した集団の居住地域であったと推察される。(原田)

註

- (1) 三重県教育委員会1979「鈴鹿市東玉垣町 深田遺跡」『昭和53年度県営圃場整備地域埋蔵文化財調査報告2』
- (2) 前掲註(1)文献
- (3) 鈴鹿市教育委員会1980『鈴鹿市史』第一巻
- (4) 出土須恵器については、下記文献参照。田辺昭三1966『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古クラブ
- (5) 川西宏幸1978「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻第2号
- (6) 以下、B種ヨコハケの細分は下記文献参照。一瀬和夫1988「古市古墳群における大型古墳埴輪集成」『大水川改修にともなう発掘調査概要・Ⅴ 応神陵古墳外堤・Ⅰ古室遺跡・Ⅲ』大阪府教育委員会
- (7) 前掲註(5)文献
- (8) 三重県埋蔵文化財センター2000『石薬師東古墳群・石薬師東遺跡』
- (9) 土器等の分類・編年については以下の文献による。
弥生土器：上村安生2002「伊勢・伊賀地域」『弥生土器の様式と編年』東海編、木耳社
古式土師器：愛知県埋蔵文化財センター1990『廻間遺跡』
古墳時代の土師器：三重県埋蔵文化財センター 2004『河曲の遺跡河田宮ノ北遺跡・宮ノ前遺跡・八重垣神社遺跡(第1～3次)発掘調査報告』
古代の土師器：斎宮歴史博物館2001『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』
須恵器：田辺昭三1966『陶邑古窯址群Ⅰ』平安 学園考古クラブ
灰釉陶器：榑崎彰一1983「猿投窯の編年について」『愛知県古窯跡群分布調査報告』Ⅲ、愛知県教育委員会
中世土器：伊藤裕偉1992「南伊勢系土師器の展開と中世土器工人」『研究紀要』第1号、三重県埋蔵文化財センター／伊藤裕偉1996「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」『鍋と甕そのデザイン』第4回考古学フォーラム
山茶碗：藤沢良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター
古瀬戸・瀬戸美濃大窯：藤沢良祐2002「瀬戸美濃大釜編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯／藤沢良祐2005「施釉陶器生産技術の伝播」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)／藤沢良祐2008「古瀬戸前期・中期・後期様式の編年」『中世瀬戸窯の研究』高志書院
常滑：中野晴久2005「渥美・常滑」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)
- (10) 以下、寺谷古墳群や保子里古墳群など鈴鹿市域の古墳群については、下記文献参照。鈴鹿市考古博物館2016『企画展「鈴鹿の古墳Ⅰ—ちいさなちいさな古墳たち—』
- (11) 三重県埋蔵文化財センター1994『大里西沖遺跡(2次)』
- (12) 津市埋蔵文化財センター2005『稲葉古墳群・鎌切古墳群発掘調査報告』
- (13) 津市埋蔵文化財センター2000「藤谷窯発掘調査報告」『津市埋蔵文化財センター年報』4
- (14) 鈴鹿市考古博物館1995『海の考古学』
- (15) 三重県教育委員会1978「鈴鹿市岸岡町 塚越3号墳」『昭和52年度県営圃場整備地域埋蔵文化財調査報告1』
- (16) 三重県埋蔵文化財センター1990『三重の古鏡』
- (17) 藤原秀樹2005「岸岡山古墳群」『三重県史資料編考古1』三重県
- (18) 黒崎直1977「斎参考」『古代研究』10、早稲田古代研究会
- (19) 鈴鹿市教育委員会他2001『天王山西遺跡 三宅神社遺跡 梅田遺跡』
- (20) 本報告書第Ⅷ章参照
- (21) 鬼塚久美子1995「古代の宮都・国府における祭祀の場—境界性との関連について—」『人文地理』第47巻第1号、人文地理学会
- (22) 前掲註(1)文献

調査 次数	調査区	遺構 番号	地区	性格	時代	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	出土遺物	備考 (前後関係、特徴等)
2	A	SZ1	A5~7	落ち込み	奈良~中世	—	27.00	0.16	土師器、山茶碗	
2	A	SD2	A7・8	溝	不明	—	1.10	0.71	土師器	
2	A	SD3	A9	溝	中世	—	2.10	0.88	土師器、山茶碗	
2	A	SD4	A10	溝	不明	—	0.50	0.11	土師器	
2	A	SD5	A12	溝	近代以降	—	0.44	0.14	陶器、瓦	
2	A	SD6	A12・13	溝	中世	—	0.44	0.04	土師器、陶器	ほ場整備前の道路側溝か
2	A	SD7	A15	古墳周溝	古墳後期	—	2.60	0.28		深田1号墳周溝
2	A	SD8	A16・17	古墳周溝	古墳後期	8.40	1.50+	0.43	円筒埴輪・形象埴輪・須恵器・土師器等	深田1号墳周溝
2	A	SD9	A18~20	古墳周溝	古墳後期	10.00+	1.52	0.06	円筒埴輪・須恵器等	深田2号墳周溝
2	A	SK10	A18	周溝内土坑	古墳後期	1.76	1.16	0.22		深田2号墳周溝(SD9)内土坑
2	A	SD11	A27	溝	中世	—	1.72	0.16	土師器、須恵器、山茶碗	A27Pit1・A31Pit1→SD11
2	A	SD12	A29	溝	近世	—	0.48	0.04	磁器	
2	A	SD13	A29・30	溝	古墳後期	—	0.88~ 1.40	0.13	土師器、須恵器	
2	A	SZ14	A30・31	落ち込み	中世以降か	—	7.00+	0.14	土師器、須恵器、山茶碗、陶器	A31Pit1・SD15→SZ14
2	A	SD15	A31	溝	中世か	—	0.94	0.14	土師器、山茶碗、陶器	SZ14の下層で検出SD17に繋がる可能性が高い
2	B	SZ16	B1~13	落ち込み	古代~中世	—	56.70	0.24	土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗	SD18~22→SZ16
2	B	SD17	Bア	溝	中世	—	1.65+	0.17	土師器、山茶碗	SD15に繋がる可能性が高い
2	B	SD18	B7	溝	古代か	—	0.37	0.05	なし	SD18とB7Pit1の前後関係不明
2	B	SD19	B8	溝	古代か	—	0.70	0.27	土師器	
2	B	SD20	B9	溝	古代か	—	1.30	0.28	なし	
2	B	SD21	B10	溝	古代~中世	—	1.44	0.33	須恵器、土師器、山茶碗、斎串	SD22→SD21
2	B	SD22	B10	溝	古墳後期	—	1.10	0.09	土師器、朝顔形埴輪、山茶碗	SD22→SD21溝は折れ曲がる。底部のみ確認
2	B	SR23	B14・15	自然流路	中世	—	2.60	0.31	山茶碗	
2	B	SK24	B16	土坑	不明	0.88	0.88	0.25	なし	
2	C	SD25	C8	溝	不明	—	0.37	0.14	なし	
2	C	SZ26	C10~19	落ち込み	古墳初頭~中世	—	43.40	0.16	土師器、山茶碗、陶器	低湿地か沼沢地か水田か、底部から竹出土
2	C	SK27	C22	土坑	不明	0.78	0.60	0.19	砥石	
2	C	SR28	C22・23	自然流路	古代	—	5.10	0.3	土師器	
2	A	SA29	A26・27	柱列	古墳後期か				土師器	柱間3m、2間分確認
3	D	SD30	d2	溝	古墳初頭~古墳後期	—	0.30	0.18	土師器	SK31→SD30
3	D	SK31	d2	土坑	古墳初頭~古墳前期	0.45+	0.35+	0.02	土師器	SK31→SD30
3	D	SD32	d3	溝	古墳前期~古墳後期	—	0.54	0.13	土師器	SK34→SD32
3	D	SZ33	d3~5	落ち込み	弥生終末~奈良	—	7.50	0.52	弥生土器、土師器	SK35・36→SZ33
3	D	SK34	d3	土坑	古墳初頭~古墳後期	0.80+	0.74+	0.13	土師器	SK34→SD32
3	D	SK35	d3・4	土坑	古墳初頭	0.70	0.56	0.10	土師器	SK35→SZ33
3	D	SK36	d4・5	土坑	古墳初頭	1.13	1.10	0.39	土師器	SK36→SZ33
3	D	SD37	d5	溝	古墳前期	—	0.54	0.17	土師器	
3	D	SK38								欠番
3	D	SK39	d7	土坑	弥生終末~古墳後期	1.14	0.95	0.42	弥生土器、土師器	
3	D	SK40	d9	土坑	中世	0.48+	0.40+	0.32	土師器	
3	D	SH41	d11	竪穴建物	古墳初頭か	1.30+	0.70+	0.07	なし	SH41→SK42、一部壁周溝あり
3	D	SK42	d11	土坑	古墳初頭	0.60+	0.78	0.02	土師器、壁土か	SH41→SK42→SD43
3	D	SD43	d11・12	溝	古墳後期	—	0.34	0.11	土師器	SK42→SD43
3	D	SD44	d12	溝	不明	—	0.30	0.08	土師器	SD45→SD44
3	D	SD45	d11・12	溝	古墳後期	—	0.33	0.18	土師器、砥石	SD45→SD44
3	D	SK46	d12	土坑	不明	0.88	0.32+	0.16	なし	
3	D	SK47	d13	土坑	奈良か	1.24+	0.52	0.05	土師器	SK50→SH49→SK47
3	D	SK48	d13	土坑	古墳後期~古代	0.37+	0.74	0.35	土師器	
3	D	SH49	d12・13	竪穴建物	古墳後期	4.60+	1.10+	0.08	土師器、須恵器	SK50・51→SH49→SK47
3	D	SK50	d13	土坑	不明	1.38+	1.18	0.05	土師器	SD52→SK50→SH49
3	D	SK51	d13	土坑	不明	0.72	0.46+	0.06	土師器	SK51→SH49

第Ⅲ-1表 深田古墳群・深田遺跡(第2・3次)遺構一覧表1

*「+」付の数字は以上であることを表す

調査 回数	調査区	遺構 番号	地区	性格	時代	長さ (m)	幅 (m)	高さ (m)	出土遺物	備考(前後関係、特徴等)
3	D	SD52	d13・14	竪穴建物の 壁周溝か	不明	—	0.33	0.13	土師器	SD52→SK50竪穴建物の東側壁周溝の 可能性あり
3	D	SH53	d14	竪穴建物	弥生終末～古墳初頭	2.10+	2.10+	0.07	弥生土器、土師器	SH53→SK54
3	D	SK54	d15	土坑	古墳初頭～古墳後期	1.25+	2.13	0.06	土師器	SH53・76→SK54
3	D	SD55	d15	竪穴建物の 壁周溝か	不明	—	0.18～ 0.55	0.10	土師器	SD56に対応する西側壁周溝の可能性 あり
3	D	SD56	d15・16	竪穴建物の 壁周溝か	古墳初頭～古墳後期	—	0.28	0.13	土師器	SD55に対応する東側壁周溝の可能性 あり
3	D	SK57	d16	土坑	不明	0.35+	0.68	0.05	土師器、壁土か	
3	D	SH58	d16・17	竪穴建物	古墳後期か	5.30+	2.10+	0.08	土師器、須恵器	SK59→SH58、壁周溝あり
3	D	SK59	d16	土坑	不明	1.50	0.52	0.02	土師器	SK59→SH58
3	D	SD60	d17	溝	古墳	—	0.18	0.05	土師器	
3	D	SH61	d18～20	竪穴建物	古墳後期か	2.90+	2.10+	0.07	土師器、須恵器	SH65→SH61
3	D	SD62	d18	溝	不明	—	0.14	0.05	土師器	竪穴建物の壁周溝の可能性あり
3	D	SD63	d20	溝	不明	—	0.75	0.06	土師器	SH65→SH61→SD63
3	D	SK64	d19	竪穴建物の 貯蔵穴	古墳初頭	0.58	0.40	0.36	土師器	SH65の貯蔵穴
3	D	SH65	d19	竪穴建物	古墳初頭か	2.80+	2.10+	0.01	土師器	SH65→SH61西端のみ確認、SK64が貯 蔵穴
3	D	SH66	d20～22	竪穴建物	古墳後期か	6.30	2.10+	0.10	土師器、須恵器	
3	D	SZ67	d21	不明遺構	古墳前期～古墳後期	1.68+	1.20	0.06	土師器	
3	D	SH68	d22・23	竪穴建物	古墳初頭か	5.30	1.90+	0.28	土師器	最終埋没時期は古墳後期
3	D	SD69	d21	溝	古墳後期	—	0.20	0.10	土師器	L字状に曲がる
3	D	SD70	d22	竪穴建物の 壁周溝か	古墳初頭か	—	0.25	0.04	土師器	SH68の壁周溝か
3	D	SZ71	d25～35	落ち込み	古墳初頭～中世	—	54.00	0.78	なし	
3	D	SZ72	d41・42	落ち込み	古墳初頭～中世	—	2.90	0.42	土師器	
3	D	SD73	d45	溝	不明	—	1.16	0.13	土師器	
3	D	SK74	d48	土坑	古墳初頭	1.70+	1.26	0.24	土師器	
3	D	SH75	d13	竪穴建物か	不明	1.20+	1.90+	0.13	土師器	d13Pit3が北側壁周溝、SD52が東側 壁周溝となる可能性あり。壁周溝のみ 残るか。
3	D	SH76	d15・16	竪穴建物か	古墳初頭～古墳後期	5.10	1.90+	0.13	土師器	SD55が西側壁周溝、SD56が東側壁周 溝となる可能性あり。壁周溝のみ残 るか。SH76→SK54

第三-2表 深田古墳群・深田遺跡(第2・3次)遺構一覧表2 *「+」付の数字は以上であることを表す

報告 番号	実測 番号	種類	器種	地区	遺構 層位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土 素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
1	014-05	須恵器	杯身	A15	SD7 最下層	口縁 2/12	9.0	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクログズリ	密(～1.0mm の砂粒含)	良	内:灰N6/1 外:オリブ黒7.5Y3/1	1号墳
2	016-02	須恵器	杯蓋	A15- 17	SD8	完形	12.1	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクログズリ	密	良	灰白N7/0	1号墳, No.16
3	016-04	須恵器	杯身	A15- 17	SD8	口縁 6/12	9.5	-	4.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクログズリ	密	良	灰白N7/0, 暗灰N3/0	1号墳, No.5へ ラ記号
4	016-03	須恵器	杯身	A17	SD8	口縁 6/12	8.8	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクログズリ	密	良	暗灰N3/0	1号墳, No.28
5	017-04	須恵器	器台	A17	SD8	-	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・波状文	密	良	内:灰白N7/0 外:灰N5/0	1号墳
6	017-03	須恵器	壺	A15- 17	SD8	口縁 1/12	16.6	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・波状文	密	良	灰白N7/0	1号墳No.37・5 7自然種
7	016-01	須恵器	壺	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・タタキ・ケズリか	密	良	灰白N6/0	1号墳No.6・9
8	017-02	須恵器	壺	A16	SD8	-	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰白N7/0	1号墳
9	018-01	須恵器	樽形磁	A17	SD8	-	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・波状文	密(～1.0mm の砂粒含)	良	灰N5/0	1号墳
10	017-01	須恵器	樽形磁	A16	SD8	-	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・波状文・カキメ	密	良	内:灰白N7/0 外:暗灰N3/0	1号墳
11	015-01	須恵器	提瓶	A16	SD8	口縁 9/12	9.7	-	-	内:ナデ・ロクロナデ 外:ロクロナデ・タタキ・把手貼り付け後 ナデ	密	良	灰白N8/0	1号墳自然種
12	019-01	土師器	壺	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ヨコナデ 外:ハケメ	密(～1.5mm の砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.37
13	018-04	土師器	罎	A15- 17	SD8	口縁 2/12	7.4	5.9	6.1	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ	密(～2.0mm の砂粒含)	-	にぶい橙7.5YR6/4	1号墳No.26下 32
14	019-02	土師器	高杯	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	密(～3.5mm の砂粒多含)	-	にぶい黄橙10YR7/3	1号墳No.60下 透孔3個
15	019-03	土師器	高杯	A16	SD8 東半	-	-	-	-	内:シボリ・調整不明 外:調整不明	密(～1.5mm の砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/3	1号墳
16	019-04	土師器	高杯	A16	SD8	-	-	-	-	内:シボリ 外:調整不明	密(～1.5mm の砂粒含)	-	橙7.5YR6/6	1号墳
17	019-05	土師器	壺又は 甕	A17	SD8	底部 3/12	-	4.8	-	内:調整不明 外:調整不明	密(～2.5mm の砂粒含) (～5.0mmの 大砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR6/4	1号墳
18	018-05	土師器	甕	A17	SD8	口縁 3/12	-	-	-	内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・調整不明	密(～2.5mm の砂粒含)	-	にぶい橙7.5YR5/4	1号墳
19	018-03	土師器	長胴甕	A16	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・調整不明 外:ハケメ	密(～3.0mm の砂粒含)	-	浅黄橙10YR8/4	1号墳

第三-3表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表1

報告 番号	実測 番号	種類	器種	地区	遺構 層位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土 素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
20	018-02	土師器	蓋	A17	SD8	口縁 1/12	31.6	つまみ 5.6	4.5	内:ヨコナデ・暗文・ミガキ 外:ミガキ・ケズリク・ヨコナデ	密 (~1.5mm の砂粒含)	-	にぶい橙7.5YR6/4	1号墳
21	038-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 1/12	35.4	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ 外:ナデ・ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナ デ	密	-	橙5YR7/6	1号墳, No.47下 赤彩(赤10R5/ 8)
22	043-03	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・突帯貼り付け後ヨ コナデ	密 (~2.0mm の砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, Na.53赤 彩
23	032-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 2/12	25.8	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ 外:ハケメ・ナデ	密	-	にぶい橙7.5YR7/4	1号墳, Na.22赤 彩(赤10R5/8)
24	032-02	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ・工具ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密	-	にぶい橙7.5YR7/4	1号墳, Na.20
25	041-01	埴輪	円筒	A16・ 17	SD8	口縁 3/12	28.0	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (~2.0mm の砂粒含)	-	橙5YR6/6	1号墳, Na.49・5 6
26	027-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 2/12	32.8	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (~4.0mm の砂粒含)	-	橙5YR6/8	1号墳, Na.22
27	022-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 1/12	35.8	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密	-	橙5YR6/6	1号墳, Na.26赤 彩
28	021-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 1/12	35.8	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密	-	橙5YR6/6	1号墳, Na.28赤 彩(赤10R5/8), 透孔1個
29	034-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 1/12	31.6	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ 外:ナデ・ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナ デ	密	-	にぶい橙7.5YR7/4	1号墳, Na.20 赤彩(赤10R5/ 8)
30	023-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 1/12	29.6	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密	-	橙7.5YR7/6	1号墳, Na.26
31	028-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 3/12	27.4	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~2.0mm の砂粒含)	-	橙7.5YR7/6	1号墳, Na.31赤 彩, 透孔1個
32	043-01	埴輪	円筒	A17	SD8	口縁 1/12	26.0	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (~2.0mm の砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳
33	031-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 4/12	29.8	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密	-	橙5YR7/6	1号墳, Na.22赤 彩 透孔1個
34	033-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 1/12	30.2	-	-	内:オサエ・ナデ・工具ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密	-	にぶい橙7.5YR7/4	1号墳, Na.20 透孔1個
35	051-06	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ 外:ナデ・ハケメ	密 (~3.0mm の砂粒含)	-	内:橙7.5YR6/6外:灰 白2.5Y7/1	1号墳, Na.41
36	024-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 2/12	32.4	-	-	内:オサエ・ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・突帯貼り付け後ヨ コナデ	密 (~5.0mm の砂粒含)	-	橙7.5YR6/8	1号墳, Na.13赤 彩(赤10R4/6)
37	039-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 1/12	31.8	-	-	内:ハケメ 外:ナデ・ハケメ	密	-	浅黄橙10YR8/3	1号墳, Na.62赤 彩(赤10R5/8)
38	042-01	埴輪	円筒	A16	SD8	口縁 1/12	29.0	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (~2.0mm の砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, 赤彩
39	036-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 2/12	26.0	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (~1.0mm の砂粒含)	-	内:明黄橙10YR7/6 外:橙7.5YR6/4	1号墳
40	035-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 4/12	30.0	-	-	内:オサエ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・突帯貼り付け後ヨ コナデ	密 (~5.0mm の砂粒含)	-	内:浅黄2.5Y7/3 外:にぶい黄橙10YR6/4	1号墳, Na.24透 孔2個
41	042-02	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・突帯貼り付け後ヨ コナデ	密 (~2.0mm の砂粒含)	-	橙7.5YR7/6	1号墳, Na.56赤 彩 透孔1個
42	050-02	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ 外:ナデ・ハケメ	密 (~3.0mm の砂粒含)	-	明黄橙10YR7/6	1号墳, Na.63
43	050-03	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ナデ・ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, Na.53
44	051-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ナデ・ハケメ	密 (~4.0mm の小石含)	-	浅黄2.5Y7/4	1号墳, Na.26
45	027-02	埴輪	円筒	A16	SD8	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	密 (~5.0mm の砂粒, 赤色 粒含)	-	浅黄橙10YR8/4	1号墳
46	025-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~4.0mm の砂粒含)	-	橙7.5YR7/6	1号墳, Na.13
47	027-03	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~3.0mm の砂粒, 赤色 粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, Na.11
48	026-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~4.0mm の砂粒, 赤色 粒含)	-	浅黄橙10YR8/4	1号墳, Na.8赤 彩
49	029-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ・未調整 外:ハケメ・突帯貼り付け後上下ナデ	密 (~5.0mm の小石含)	-	橙5YR6/6	1号墳, Na.36赤 彩
50	043-02	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~2.0mm の砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, Na.59赤 彩
51	037-01	埴輪	円筒	A17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~1.5mm の砂粒含)	-	橙7.5YR6/6	1号墳
52	050-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	密 (~2.0mm の砂粒含)	-	橙7.5YR6/6	1号墳, Na.60下
53	037-03	埴輪	円筒	A17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~3.0mm の砂粒含)	-	橙7.5YR6/6	1号墳
54	020-03	埴輪	円筒	A17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~2.0mm の砂粒含)	-	内:橙7.5YR6/6 外:にぶい黄橙10YR6/4	1号墳, Na.41
55	020-02	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~3.0mm の砂粒含)	-	内:橙7.5YR6/6 外:にぶい黄橙10YR6/3	1号墳, Na.41
56	020-01	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~3.5mm の砂粒含)	-	内:橙7.5YR6/6 外:にぶい黄橙10YR6/4	1号墳, Na.41
57	041-04	埴輪	円筒	A16	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~1.0mm の砂粒含)	-	明黄橙10YR6/6	1号墳透孔1個
58	026-03	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~3.0mm の砂粒含)	-	橙7.5YR6/8	1号墳, Na.13
59	041-02	埴輪	円筒	A17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~3.0mm の砂粒含)	-	内:にぶい黄橙10YR7/3 外:にぶい橙7.5YR6/4	1号墳
60	037-02	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~1.0mm の砂粒含)	-	橙7.5YR6/6	1号墳, Na.52
61	042-03	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~2.0mm の砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳
62	026-02	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~1.0mm の砂粒, 赤色 粒含)	-	橙7.5YR7/6	1号墳, Na.23透 孔
63	040-02	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密	-	にぶい橙7.5YR7/4	1号墳, Na.59赤 彩(赤10R5/8)
64	030-02	埴輪	円筒	A15- 17	SD8	-	-	-	-	内:調整不明 外:ハケメ・突帯貼り付け後上下ナデ	密 (~5.5mm の小石含)	-	橙5YR7/6	1号墳, Na.17透 孔1個

第三-4表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表2

報告 番号	実測 番号	種類	器種	地区	遺構 層位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土 素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
65	029-03	埴輪	円筒	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:調整不明 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	-	浅黄橙10YR8/4	1号墳, No.18	
66	039-02	埴輪	円筒	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ 外:ナデ・ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	-	浅黄橙10YR8/3	1号墳, No.37	
67	020-04	埴輪	円筒	A17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	-	内:橙7.5YR6/6 外:明黄袍10YR6/6	1号墳, No.41	
68	040-03	埴輪	円筒	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	-	橙5YR7/6	1号墳, No.46	
69	051-02	埴輪	円筒	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.60下, 赤彩(赤10R4/6)	
70	020-05	埴輪	円筒	A17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	-	内:橙7.5YR7/6 外:灰516/1	1号墳, No.41	
71	025-03	埴輪	円筒	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	-	黄橙7.5YR7/8	1号墳, No.13	
72	025-02	埴輪	円筒	A16	SD8	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	-	浅黄橙10YR8/4	1号墳, No.2	
73	030-03	埴輪	円筒	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:調整不明 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	-	明黄袍10YR7/6	1号墳, No.19	
74	019-06	埴輪	円筒	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	-	橙7.5YR6/6	1号墳, No.41	
75	036-02	埴輪	円筒	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	-	内:にぶい黄橙10YR7/4 外:橙7.5YR6/4	1号墳, No.31・34	
76	030-01	埴輪	円筒	A15-17	SD8	底部 3/12	-	15	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・ナデ	-	橙5YR6/6	1号墳, No.33・34, 底部調整「蔵内型」	
77	051-04	埴輪	円筒	A15-17	SD8	底部 小片	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ	-	橙7.5YR6/6	1号墳, No.59	
78	035-02	埴輪	円筒	A15-17	SD8	底部 小片	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ・ケズリ	-	にぶい黄橙7.5YR6/4	1号墳, No.52下	
79	051-03	埴輪	円筒	A15-17	SD8	底部 小片	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ	-	明黄袍10YR6/6	1号墳, No.60	
80	041-03	埴輪	円筒	A17	SD8	底部 小片	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ	-	にぶい黄橙7.5YR6/4	1号墳	
81	035-03	埴輪	円筒	A16	SD8	底部 小片	-	-	-	内:オサエ 外:オサエ・調整不明	-	明黄袍10YR6/6	1号墳	
82	035-04	埴輪	円筒	A15-17	SD8	底部 小片	-	-	-	内:オサエ 外:オサエ・調整不明	-	密(～3.0mmの砂粒含)	にぶい黄橙10YR7/4	
83	045-01	埴輪	朝顔形	A17	SD8	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	浅黄橙10YR8/3	1号墳	
84	048-03	埴輪	朝顔形	A16	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	明黄袍10YR7/6	1号墳	
85	045-07	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	浅黄橙7.5YR8/4	1号墳, No.50	
86	045-06	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	橙5YR7/6	1号墳, No.62	
87	048-06	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	密(～1.5mmの砂粒,赤色粒含)	橙5YR6/6	
88	045-02	埴輪	朝顔形	A17	SD8	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	浅黄橙10YR8/4	1号墳	
89	045-03	埴輪	朝顔形	A17	SD8	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ	-	浅黄橙7.5YR8/4	1号墳	
90	049-01	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	密(～1.0mmの砂粒,赤色粒含)	橙5YR7/6	
91	048-05	埴輪	朝顔形	A17	SD8	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	密(～4.5mmの砂粒,赤色粒含)	橙5YR6/6	
92	049-03	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	口縁 小片	-	-	-	内:ケズリ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	密(～2.0mmの砂粒含) (赤色粒含)	にぶい黄橙7.5YR7/4	
93	049-02	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	-	密(～1.0mmの砂粒,赤色粒含)	橙5YR7/6	
94	045-04	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	密	橙5YR7/6	
95	048-04	埴輪	朝顔形	A17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ	-	密(～2.5mmの砂粒含)	橙5YR7/6	
96	045-05	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	-	密	橙7.5YR7/6	
97	052-01	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	-	密(～5.0mmの小石含)	橙7.5YR6/6	
98	040-02	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	口縁 2/12	57.0	-	-	内:オサエ・ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・突帯貼付後ヨコナデ	-	浅黄橙10YR8/3	1号墳, No.60・60下・63赤彩	
99	046-01	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	-	密(～3.0mmの小石含)	橙7.5YR6/6	
100	054-01	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ・ナデ 外:ハケメ・ナデ	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.36赤彩	
101	052-04	埴輪	朝顔形	A17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ	-	密(～3.0mmの砂粒含)	にぶい黄橙10YR7/4	
102	054-03	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ	-	密(～3.0mmの砂粒含)	にぶい黄橙10YR7/4	
103	053-03	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ・ナデ 外:ハケメ	-	密(～4.0mmの小石含)	にぶい黄橙10YR7/4	
104	046-02	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	-	密(～4.0mmの小石含)	橙5YR7/6	
105	052-06	埴輪	朝顔形	A16	SD8	-	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	-	密	明黄袍10YR7/6	
106	052-02	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:突帯貼り付け後ナデ	-	密(～2.0mmの砂粒含)	明黄袍10YR7/6	
107	047-05	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:突帯貼り付け後ナデ	-	密(～2.5mmの砂粒含)	橙7.5YR6/6	
108	047-04	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:未調整 外:突帯貼り付け後ナデ	-	密(～2.5mmの砂粒含)	橙5YR7/6	
109	048-02	埴輪	朝顔形	A16	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:突帯貼り付け後ナデ	-	密(～2.0mmの砂粒含)	橙7.5YR7/6	
110	052-05	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	-	密(～3.0mmの小石含)	明黄袍10YR7/6	
111	053-02	埴輪	朝顔形	A16	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:突帯貼り付け後ナデ	-	密(～2.0mmの砂粒含)	明黄袍10YR7/6	

第Ⅲ-5表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表3

報告 番号	実測 番号	種類	器種	地区	遺構 層位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土 素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
112	048-01	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ	密(〜1.0mm の砂粒含)	-	橙7.5YR7/6	1号墳, No.53, 赤彩(明赤袍2. 5YR5/6)
113	054-02	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:突帯貼り付け後ナデ	密	-	明黄袍10YR7/6	1号墳, No.30
114	047-01	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	密(〜2.0mm の砂粒含)	-	浅黄橙7.5YR8/6	1号墳, No.36・5 2
115	046-03	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	密(〜6.0mm の小石含)	-	橙7.5YR7/6	1号墳, No.30 赤彩
116	047-02	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	密(〜7.0mm の小石含)	-	橙7.5YR7/6	1号墳, No.36赤 彩(赤10R4/6)
117	047-03	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	密(〜3.0mm の砂粒含)	-	橙7.5YR7/6	1号墳, No.43赤 彩(赤10R5/6)
118	051-05	埴輪	朝顔形	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	密(〜2.0mm の砂粒含)	-	浅黄2.5Y7/4	1号墳, No.7
119	065-03	埴輪	家	A17	SD8	-	-	-	-	内:工具ナデか 外:ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳
120	065-04	埴輪	家	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:工具ナデ・ハケメ	密	-	明黄袍10YR7/6	1号墳, No.61
121	064-01	埴輪	家	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:調整不明 外:沈線	密	-	橙7.5YR7/6	1号墳
122	064-03	埴輪	家	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ・沈線	密	-	橙7.5YR7/6	1号墳, No.49
123	063-05	埴輪	家	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデか 外:ハケメ・沈線	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.54
124	063-06	埴輪	家	A17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.49
125	064-02	埴輪	家	A17	SD8	-	-	-	-	内:工具ナデ 外:ナデ?・沈線・ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳
126	063-02	埴輪	家	A17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ・ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳
127	063-01	埴輪	家	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密	-	橙7.5YR6/6	1号墳, No.37・4 9
128	063-03	埴輪	家	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.44
129	057-05	埴輪	家	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ・ハケメ・貼り付け後ナデ	密	-	橙5YR7/8	1号墳, No.60
130	053-01	埴輪	家	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ	密	-	明黄袍10YR7/6	1号墳, No.30
131	064-04	埴輪	家	A18	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ	密	-	外:にぶい黄橙10YR7/4 内:橙7.5YR7/6	1号墳
132	058-01	埴輪	家	A17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・線刻・貼り付け後ナデ	密	-	橙5YR7/8	1号墳
133	063-04	埴輪	家	A17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳
134	064-05	埴輪	家	A17	SD8	-	-	-	-	内:工具ナデか 外:ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳
135	067-03	埴輪	家	A17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメか 外:ハケメ・貼り付け後ナデ	密	-	内:にぶい黄橙10YR7/4 外:橙7.5YR7/4	1号墳赤彩
136	075-02	埴輪	家	A17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ハケメ 外:ハケメ・貼り付け後ナデ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳
137	056-01	埴輪	家	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	密	-	橙5YR7/6	1号墳, No.42
138	040-01	埴輪	家	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ナデ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密	-	浅黄橙10YR8/3	1号墳, No.49
139	058-05	埴輪	家	A17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ナデ・ハケメか	密	-	橙5YR6/8	1号墳
140	052-03	埴輪	家	A17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	密(〜3.0mm の小石含)	-	明黄袍10YR7/6	1号墳
141	058-04	埴輪	家	A17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ナデ・ハケメか	密	-	橙5YR6/8	1号墳
142	055-01	埴輪	家	A17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	密	-	浅黄橙7.5YR8/4	1号墳, 赤彩
143	061-01	埴輪	馬	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・貼り付け後ナデ・オサエ・ナ デ	密(〜3.0mm の砂粒含)	-	橙7.5YR6/6	1号墳, No.29
144	073-03	埴輪	馬	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・オサエ 外:ハケメ・ナデ	密(〜2.0mm の砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/3	1号墳, No.50
145	060-03	埴輪	馬	A17	SD8	-	-	-	-	内:調整不明 外:貼り付け後ナデ	密(〜2.0mm の砂粒含)	-	橙5YR6/6	1号墳
146	055-02	埴輪	馬	A17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	密	-	橙5YR7/6	1号墳
147	059-04	埴輪	馬	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ	密(〜1.5mm の砂粒含)	-	橙7.5YR6/6	1号墳, No.60下
148	062-01	埴輪	馬	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ナデ・ハケメ	密(〜1.5mm の砂粒含)	-	橙7.5YR6/8	1号墳, No.23・2 9
149	059-01	埴輪	馬	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密(〜2.0mm の砂粒含)	-	橙5YR6/6	1号墳, No.56
150	060-02	埴輪	馬	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:調整不明 外:オサエ・ナデ	密(〜1.5mm の砂粒含)	-	橙5YR6/6	1号墳, No.52
151	060-01	埴輪	馬	A17	SD8	-	-	-	-	内:調整不明 外:オサエ・ナデ	密(〜1.5mm の砂粒含)	-	橙5YR6/8	1号墳
152	062-03	埴輪	馬	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	密(〜2.0mm の砂粒含)	-	橙5YR6/8	1号墳, No.49
153	061-02	埴輪	馬	A17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:貼り付け後ナデ・ハケメ	密(〜2.5mm の砂粒含)	-	橙5YR6/8	1号墳
154	062-02	埴輪	馬	A17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ・貼り付け後ナデ	密(〜2.0mm の砂粒含)	-	橙5YR6/8	1号墳, 赤彩
155	059-02	埴輪	馬	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:調整不明	密(〜2.0mm の砂粒含)	-	橙7.5YR6/6	1号墳, No.38
156	059-05	埴輪	馬	A17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:磨減	密(〜3.0mm の砂粒含)	-	橙5YR6/6	1号墳
157	059-03	埴輪	馬	A17	SD8	-	-	-	-	内:調整不明 外:ハケメ・貼り付け後ナデ	密(〜3.0mm の砂粒含)	-	橙5YR6/6	1号墳
158	061-03	埴輪	馬	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	密(〜1.5mm の砂粒含)	-	橙5YR6/6	1号墳, No.49
159	055-03	埴輪	馬	A16	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	密	-	浅黄橙10YR8/3	1号墳
160	055-04	埴輪	馬	A17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ナデか	密	-	橙5YR7/8	1号墳
161	073-01	埴輪	馬	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・オサエ 外:ナデ	密(〜1.0mm の砂粒含)	-	橙5YR6/6	1号墳, No.53
162	072-03	埴輪	馬	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	密(〜1.0mm の砂粒含)	-	橙7.5YR7/6	1号墳, No.53

第Ⅲ-6表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表4

報告 番号	実測 番号	種類	器種	地区	遺構 層位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土 素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
163	057-01	埴輪	鳥	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・貼り付け後ナデ	密	-	橙5YR6/8	1号墳No.62下
164	057-06	埴輪	鳥	A17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ・線刻・貼り付け後ナデ	密	-	橙5YR6/8	1号墳
165	056-02	埴輪	鳥	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ	密	-	橙5YR6/8	1号墳No.37
166	057-02	埴輪	鳥	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	密	-	橙5YR7/8	1号墳No.52下
167	056-03	埴輪	鳥	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ・線刻・貼り付け後ナデ	密	-	橙5YR6/8	1号墳No.32下
168	057-04	埴輪	鳥	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ・線刻・貼り付け後ナデ	密	-	橙5YR6/8	1号墳, No.63
169	056-04	埴輪	鳥	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ・線刻・貼り付け後ナデ	密	-	橙5YR7/8	1号墳, No.37
170	056-06	埴輪	鳥	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	密	-	橙5YR7/8	1号墳No.52下
171	058-06	埴輪	鳥	A17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ナデ	密	-	橙5YR7/8	1号墳
172	057-03	埴輪	鳥	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	密	-	橙5YR6/8	1号墳, No.37
173	077-04	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内: 外:ナデ・ハケメ・沈線	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.62
174	077-05	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:珠文貼り付け・ナデ・沈線	密(〜4.0mmの 小石含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.62
175	070-03	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・シボリ 外:ナデ・ハケメ・貼り付け後ナデ	密	-	にぶい黄橙10YR7/3	1号墳, No.1
176	068-04	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	ナデ	密	-	橙5YR6/6	1号墳, No.49
177	068-05	埴輪	人物	A17	SD8	-	-	-	-	ナデ	密	-	浅黄橙10YR8/4	1号墳
178	067-06	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	ナデ	密	-	浅黄2.5Y7/3	1号墳No.60下
179	067-07	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	ナデ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳No.60下
180	068-03	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ	密(〜2.0mmの 砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.53
181	068-01	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.56
182	073-06	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	ナデ・線刻か	密(〜3.0mmの 砂粒含)	-	橙7.5YR7/6	1号墳, No.60
183	073-04	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・オサエ 外:ハケメ・ナデ	密(〜1.0mmの 砂粒含)	-	橙7.5YR7/6	1号墳, No.36
184	072-05	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ・シボリ	密(〜1.0mmの 砂粒含) (赤色粒含)	-	にぶい黄橙7.5YR7/4	1号墳, No.53
185	069-01	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ・ナデ	密(微砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.25
186	069-03	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.40
187	072-06	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・オサエ 外:ハケメ	密(〜2.0mmの 砂粒含)	-	橙5YR7/6	1号墳, No.53
188	072-01	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・オサエ 外:ハケメ	密(微砂粒含)	-	橙5YR7/6	1号墳, No.62
189	072-02	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・オサエ 外:ハケメ	密(〜1.0mmの 砂粒含)	-	橙7.5YR7/6	1号墳, No.53
190	072-04	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・オサエ 外:ナデ・ハケメ	密(〜1.0mmの 砂粒含)	-	橙5YR7/6	1号墳, No.53
191	070-01	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	ナデ・オサエ・ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.62
192	070-02	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	ナデ	密	-	にぶい黄橙7.5YR6/4	1号墳, No.62
193	069-04	埴輪	人物	A17	SD8	-	-	-	-	オサエ・ナデ・ハケメ	密	-	橙7.5YR7/6	1号墳
194	076-05	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	ナデ	密	-	橙7.5YR7/6	1号墳
195	068-02	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ・貼り付け後ナデ	密(〜3.0mmの 砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.60赤 彩(赤10R5/6)
196	065-01	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:工具ナデ 外:ナデ・ハケメ	密	-	橙7.5YR7/6	1号墳, No.53
197	066-02	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・ハケメ 外:ハケメ・ナデ	密	-	橙7.5YR7/6	1号墳, No.30
198	067-04	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ	密(〜1.0mmの 砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳No.60下
199	058-02	埴輪	人物	A17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ナデ・線刻	密	-	橙5YR6/8	1号墳
200	074-01	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR6/4	1号墳, No.21赤 彩
201	067-02	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ	密(〜2.0mmの 砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.60
202	029-02	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ・ハケメ	密(〜2.0mmの 砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.35
203	076-03	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ・沈線	密(〜2.0mmの 砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳No.36・6 2
204	077-02	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ・粘土貼り付け	密(〜2.0mmの 砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR6/4	1号墳, No.62
205	077-01	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:粘土貼り付け後ナデ 外:ハケメ・粘土貼り付け	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.62
206	076-02	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ・ハケメ・沈線	密(〜2.0mmの 砂粒含)	-	明黄褐10YR7/6	1号墳, No.62
207	075-03	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ	密(〜3.0mmの 小石含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.62
208	077-03	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ・貼り付け後ナデ	密(〜2.0mmの 砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR6/4	1号墳, No.62
209	074-03	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ・沈線	密(〜3.0mmの 小石含)	-	にぶい黄橙10YR6/4	1号墳, No.62
210	074-05	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ・ナデ・沈線	密(〜2.0mmの 砂粒含)	-	明黄褐10YR6/6	1号墳, No.37
211	075-04	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ・貼り付け後ナデ	密(〜2.0mmの 砂粒含)	-	浅黄2.5Y7/3	1号墳, No.30
212	074-04	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ	密	-	明黄褐10YR7/6	1号墳, No.62
213	076-04	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:剥離 外:ハケメ・貼り付け後ナデ	密(〜2.0mmの 砂粒含)	-	浅黄2.5Y7/3	1号墳, No.62
214	067-05	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ナデ・ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	1号墳, No.60

第Ⅲ-7表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表5

報告 番号	実測 番号	種類	器種	地区	遺構 層位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土 素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
215	073-05	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ・線刻	-	橙7.5YR6/6	1号墳No.30, 穿孔	
216	071-01	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:線刻	-	橙5YR6/6	1号墳, No.62	
217	071-02	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ナデ後線刻	-	橙5YR6/6	1号墳, No.62	
218	071-04	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ後線刻	-	橙5YR6/6	1号墳, No.62	
219	071-06	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・オサエ 外:ヨコナデ・ナデ後線刻	-	橙5YR6/6	1号墳, No.62	
220	071-05	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・オサエ 外:ナデ後線刻	-	橙2.5YR6/6	1号墳, No.62	
221	071-03	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ナデ後線刻	-	橙7.5YR6/6	1号墳, No.62	
222	071-08	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ後線刻	-	にぶい、黄橙10YR7/4	1号墳, No.62	
223	065-02	埴輪	人物	A17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ・沈線	-	橙7.5YR6/6	1号墳	
224	071-09	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ナデ後線刻	-	橙5YR6/6	1号墳, No.62	
225	071-10	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ・オサエ 外:オサエ・ナデ・貼り付け浮文	-	橙5YR6/6	1号墳, No.62	
226	071-07	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ後線刻	-	橙5YR6/6	1号墳, No.62	
227	075-01	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ヨコナデ・タテナデ・ナデ 外:ハケメ・沈線	-	明黄橙10YR7/6	1号墳, No.62	
228	067-01	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ	-	にぶい、黄橙10YR7/4	1号墳, No.60	
229	073-02	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ	-	橙5YR7/6	1号墳, No.53	
230	066-01	埴輪	人物	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ・沈線	-	にぶい、黄橙10YR7/4	1号墳No.47下・52下	
231	069-02	埴輪	人物	A17	SD8	-	-	-	-	ナデ・ケズリ・貼り付け後ナデ	-	浅黄橙10YR8/3	1号墳	
232	074-02	埴輪	人物	A11	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ナデ・貼り付け後ナデ	-	橙7.5YR6/6	1号墳	
233	058-03	埴輪	形象	A17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ナデ	-	橙5YR6/8	1号墳	
234	056-05	埴輪	形象	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	-	浅黄橙7.5YR8/6	1号墳, No.49	
235	072-07	埴輪	形象	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ・ナデ	-	橙7.5YR6/6	1号墳, No.53	
236	076-01	埴輪	形象	A15-17	SD8	-	-	-	-	内:オサエ 外:ナデ	-	浅黄2.5Y7/4	1号墳, No.62	
237	014-01	埴輪	円筒	A18	SD9	口縁 2/12	35.5	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ	-	橙5YR6/6	2号墳	
238	014-02	埴輪	円筒	A18	SD9	-	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	-	内:にぶい、黄橙10YR7/4 外:橙7.5YR6/6	2号墳	
239	013-02	埴輪	円筒	A18	SD9	-	-	-	-	内:風化 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	-	橙7.5YR7/6	2号墳	
240	013-03	埴輪	円筒	A18	SD9	-	-	-	-	内:ナデか 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	-	橙5YR7/6	2号墳	
241	013-01	埴輪	円筒	A18	SD9	-	-	-	-	内:風化 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	-	橙5YR6/6 (赤色粒含)	2号墳	
242	012-02	埴輪	円筒	A18	SD9	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	-	橙5YR7/6	2号墳	
243	012-03	埴輪	朝顔形	A18	SD9	口縁 小片	-	-	-	内:オサエ・ナデか 外:ハケメ	-	浅黄橙10YR8/4	2号墳	
244	014-06	須恵器	杯蓋	A18	SD9	完形	10.9	-	4.55	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロククズリ	良	灰白N7/0	2号墳, No.1種 している(褐 灰N3/0)	
245	014-03	土師器	高杯	A18	SD9	-	-	-	-	内:調整不明・シボリ 外:調整不明	-	内:暗黄7.5Y4/2 外:明赤褐5YR5/6	2号墳	
246	012-01	埴輪	円筒	A18	SK10	-	-	-	-	内:オサエ・ナデか 外:ハケメ・突帯貼り付け後ナデ	-	橙5YR7/6	2号墳透孔1個	
247	014-04	土師器	高杯	A18	SK10	-	-	-	-	内:シボリ 外:調整不明	-	にぶい、橙5YR7/4	2号墳透孔1個	
248	105-01	埴輪	朝顔形	E8	SK	-	-	-	-	内:ナデ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	やや密	橙7.5YR7/6	S53, SK7, 赤彩	
249	109-01	埴輪	朝顔形	D8	SK	-	-	-	-	内:オサエ・ハケメ・ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	やや密	橙7.5YR7/6	S53, SK7, 赤彩	
250	105-02	埴輪	朝顔形	E8	SK7	-	-	-	-	内:工具ナデ・オサエ・ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	やや密	浅黄橙7.5YR8/6	S53, SK7, 赤彩	
251	106-01	埴輪	朝顔形	E8	SK	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ナデ・突帯貼り付け後ヨコナデ	やや密	浅黄橙7.5YR8/4	S53, SK7	
252	106-03	埴輪	朝顔形	E8	SK7	-	-	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	やや密	橙5YR7/8	S53, SK7, 赤彩	
253	102-04	埴輪	朝顔形	E8	SD	-	-	-	-	内:磨滅 外:ハケメ・磨滅	-	橙5YR6/6	S53, SK7	
254	101-05	埴輪	朝顔形	E9	SD	-	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	橙5YR7/6	S53, SK7	
255	101-02	埴輪	朝顔形	E9	SD	-	-	-	-	内:磨滅 外:磨滅	-	橙5YR6/6	S53, SK7	
256	108-04	埴輪	朝顔形	D8	SK	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ・突帯貼り付け後ヨコナデ	やや密	橙7.5YR7/6	S53, SK7	
257	107-02	埴輪	朝顔形	E8	SK	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	やや密	橙5YR7/6	S53, SK7	
258	108-02	埴輪	朝顔形	E8	SK	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	やや密	浅黄橙7.5YR8/4	S53, SK7	
259	102-01	埴輪	朝顔形	E9	SD	-	-	-	-	内:オサエ 外:ナデ・突帯貼り付け後ヨコナデ	-	にぶい、橙7.5YR7/4	S53, SK7	
260	107-01	埴輪	朝顔形	E9	SD	-	-	-	-	内:オサエ・ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	やや密	浅黄橙7.5YR8/6	S53, SK7	
261	104-01	埴輪	朝顔形	E8	SD	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	-	橙7.5YR6/6	S53, SK7	

第Ⅲ-8表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表6

報告 番号	実測 番号	種類	器種	地区	遺構 層位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土 素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
262	108-03	埴輪	朝顔形	D8	SK	-	-	-	-	内:ハケメ・ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	やや密	-	橙5YR7/6	S53, SK7, 赤彩
263	101-04	埴輪	朝顔形	E9	SD	-	-	-	-	内:磨滅 外:磨滅・突帯貼り付け後ヨコナデ	密(～2.0mmの砂粒含)	-	橙5YR6/6	S53, SK7
264	103-01	埴輪	朝顔形	E8	SD	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密(～2.0mmの砂粒含)	-	橙7.5YR7/6	S53, SK7, 赤彩
265	102-03	埴輪	朝顔形	E7	SD	-	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ・貼り付け後ヨコナデ	密(～1.5mmの砂粒含)	-	橙7.5YR6/6	S53, SK7
266	106-02	埴輪	円筒	E8	SK	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ・突帯貼り付け後ヨコナデ	やや密	-	橙7.5YR7/6	S53, SK7
267	103-02	埴輪	円筒	E8	SK	-	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密(～2.0mmの砂粒含)	-	橙7.5YR7/6	S53, SK7
268	103-03	埴輪	円筒	D8	SK	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密(～1.5mmの砂粒含)	-	橙7.5YR6/6	S53, SK7
269	101-03	埴輪	円筒	E9	SD	-	-	-	-	内:磨滅 外:磨滅・突帯貼り付け	密(～1.0mmの砂粒含)	-	橙7.5YR7/5	S53, SK7
270	101-01	埴輪	円筒	D8	SK	-	-	-	-	内:オサエ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密(～3.0mmの砂粒含)	-	橙5YR7/8	S53, SK7
271	102-02	埴輪	円筒	E8・ 9	SD	底部 小片	-	-	-	内:オサエ・風化 外:風化	密(～2.5mmの砂粒含)	-	橙5YR7/8	S53, SK7
272	108-01	埴輪	円筒	E8・ 9	SK	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・ナデ	やや密	-	橙5YR7/8	S53, SK7
273	104-02	埴輪	家	E9	SD	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ・線刻	密(～1.0mmの砂粒含)	-	橙5YR6/6	S53, SK7
274	107-04	埴輪	家	E8・ 9	SK	-	-	-	-	内:ナデ・沈線 外:ナデ	やや密	-	橙5YR7/6	S53, SK7
275	107-05	埴輪	家	E8・ 9	SK	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ・沈線	やや密	-	橙5YR7/6	S53, SK7
276	106-04	埴輪	形象	E8	SK7	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ナデ	やや密	-	橙5YR7/6	S53, SK7
277	104-03	埴輪	形象	E9	SD	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ	密(～1.0mmの砂粒含)	-	橙5YR6/6	S53, SK7
278	107-03	須恵器	器台	E8	SK	-	-	-	-	内:クロロナデ 外:クロロナデ・沈線・波状文	密	良	灰白N5/0	S53, SK7
279	009-04	弥生土器 /土師器	高杯	A26	Pit3	杯部 -	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	密(～1.0mmの砂粒含)	-	内:黒褐2.5Y3/1 外:明赤褐5YR5/6	SA29内面黒色
280	009-05	弥生土器 /土師器	壺	A31	Pit2	底部 1/12	-	3.8	-	内:工具ナデ 外:調整不明	密(～2.0mmの砂粒多含)	-	内:にぶい黄橙10YR7/3 外:橙5YR6/6, にぶい赤褐5YR5/3	
281	001-01	陶器	山茶碗	A9	SD3	底部 小片	-	-	-	内:クロロナデ 外:クロロナデ・高台部貼り付け後ナデ	密	良	灰白N8/0	自然釉
282	001-06	弥生土器 /土師器	高杯	A27	SD11	脚部 小片	-	-	-	内: 外:櫛歯直線文・シボリ・ナデ	密	-	灰白10YR/2	
283	001-04	弥生土器 /土師器	台付甕	A27	SD11	-	-	-	-	内:調整不明 外:ハケメ	密	-	にぶい橙7.5YR7/3	
284	001-05	土師器	羽釜	A27	SD11	口縁 小片	-	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・鈔貼り付け後ヨコナデ・ナデ	密	-	にぶい黄橙10YR7/3	中北勢系カ
285	003-06	弥生土器 /土師器	壺小	A32	SD15	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:刺突・ヨコナデ	密	-	浅黄橙7.5YR8/4	
286	003-04	陶器	山茶碗	A32	SD15	底部 1/12	-	9.0	-	内:クロロナデ 外:クロロナデ・高台部貼り付け後ナデ・未調整	密	良	灰白2.5YR/1	
287	002-02	陶器	甕	A30	SD13	底部 小片	-	-	-	内:ナデ 外:工具痕跡・ナデ	密	良	橙2.5YR6/6	常滑
288	001-02	磁器	碗	A12	SD5	口縁 小片	-	-	-	内:クロロナデ・施釉 外:クロロナデ・施釉	密	良	素:灰白N8/0 釉:灰白N8/0	瀬戸
289	001-03	陶器	碗	A12	SD5	底部 4/12	-	5.2	-	内:クロロナデ・施釉 外:クロロナデ・施釉・削り出し高台	密	良	素:灰白N8/0 釉:灰白7.5YR/1	瀬戸・陶胎染付・広東碗
290	002-01	磁器	碗	A29	SD12	口縁 1/12	12.4	7.6	4.1	内:クロロナデ・施釉 外:クロロナデ・施釉・削り出し高台	密	良	素:灰白N8/0 釉:灰白N8/0	肥前
291	001-07	磁器	碗	A29	SD12	口縁 小片	-	-	-	内:クロロナデ・施釉 外:クロロナデ・施釉	密	良	素:灰白N8/0 釉:灰白N8/0	瀬戸
292	001-08	磁器	碗	A29	SD12	底部 小片	-	-	-	内:クロロナデ・施釉 外:クロロナデ・施釉・削り出し高台	密	良	素:灰白N8/0 釉:灰白N8/0	肥前
293	002-05	弥生土器 /土師器	高杯	A31	SZ14	-	-	-	-	内:不明 外:風化	やや密(～5.0mmの小石含)	-	浅黄橙7.5YR8/4	透孔1個
296	003-03	陶器	山茶碗	A32	SZ14	底部 1/12	-	8.0	-	内:クロロナデ 外:クロロナデ・高台部貼り付け後ナデ・未調整	密	良	灰白N7/0	
297	003-01	陶器	山茶碗	A31	SZ14	底部 4/12	-	7.8	-	内:クロロナデ 外:クロロナデ・高台部貼り付け後ナデ・糸切痕跡・粉殻痕跡	密	良	灰白N8/0	自然釉
298	003-02	陶器	山茶碗	A32	SZ14	底部 2/12	-	9.6	-	内:クロロナデ 外:クロロナデ・高台部貼り付け後ナデ・糸切痕跡・粉殻痕跡	密	良	灰白N8/0	
299	003-05	土師器	鍋	A32	SZ14	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密	-	灰白10YR8/2	煤付着
300	002-07	土師器	羽釜	A31	SZ14 上面	口縁 小片	-	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・鈔貼り付け後ヨコナデ	密	-	にぶい黄橙10YR7/3	
301	002-06	土師器	羽釜	A31	SZ14	-	-	-	-	内:ナデ 外:鈔貼り付け後ヨコナデ	密	-	灰白10YR8/2	煤付着
302	011-01	須恵器	横瓶	A5	包含層	-	-	-	-	内:クロロナデ 外:クロロナデ・ケズリカ・沈線	密	良	内:灰白N4/0外:灰白N7/0	
303	009-06	土師器	鍋	A17	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密(～2.0mmの砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	煤付着
304	009-07	土師器	茶釜	A1	包含層	把手	-	-	-	内:オサエ 外:オサエ・ナデ	密(～2.5mmの砂粒含)	-	浅黄橙10YR8/4	
305	010-02	陶器	描鉢	A29	包含層	底部 1/12	-	16	-	内:掃目 外:ナデ・ケズリカ・施釉(鉄釉)	密	-	素:灰白10YR8/2釉:暗赤褐5YR3/3	瀬戸美濃産
306	010-01	埴輪	円筒	A1C	排土	口縁 1/12	28.2	-	-	内:ナデ・ハケメ 外:ハケメ	密	-	にぶい橙7.5YR7/4	
307	010-05	土師器	高杯	B8	SD19	-	-	-	-	内:調整不明 外:ナデ	粗(～4.0mmの砂粒含)	-	浅黄橙10YR8/3	
308	008-05	土師器	高杯	B11	SD22	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	密(～2.5mmの砂粒含)	-	浅黄2.5Y7/3	
309	008-06	埴輪	朝顔形	B11	SD22	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密(～2.0mmの砂粒含)	-	浅黄橙10YR8/3	
313	009-01	陶器	山茶碗	B16	SR23	底部 10/12	-	7.4	-	内:クロロナデ 外:クロロナデ・高台部貼り付け後ナデ・糸切痕跡・粉殻痕跡	密(～2.0mmの砂粒含)	良	灰白2.5Y7/1	
314	005-07	弥生土器 /土師器	壺	B9	SZ16	口縁 小片	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	密	-	浅黄橙7.5YR8/2	
315	005-01	弥生土器 /土師器	壺	B1	SZ16	口縁 2/12	14.8	-	-	内:調整不明 外:調整不明・円形浮文	密	-	橙7.5YR7/6	土器集中
316	003-07	弥生土器 /土師器	S字甕	B1	SZ16	口縁 1/12	22.4	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密	-	浅黄橙10YR8/3	土器集中

第Ⅲ-9表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表7

報告番号	実測番号	種類	器種	地区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
317	004-06	土師器	甕	B3	SZ16	口縁小片	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	密 (~3.0mmの砂粒多含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	
318	006-03	土師器	甕	B7	SZ16	口縁3/12	9.8	-	-	内:調整不明 外:調整不明	密 (~3.0mmの砂粒多含)	-	にぶい黄2.5Y6/3	
319	006-04	土師器	甕	B2	SZ16	底部12/12	-	3.5	-	内:調整不明 外:調整不明	密 (~2.0mmの砂粒多含)	-	にぶい黄橙10YR6/3	
320	006-05	土師器	甕	B2	SZ16	底部12/12	-	3.6	-	内:調整不明 外:調整不明・高台部貼り付け後ナデ	密 (~2.0mmの砂粒多含)	-	浅黄2.5Y7/3	
321	006-07	弥生土器 土師器	台付甕	B8	SZ16	底部2/12	-	5.1	-	内:調整不明 外:調整不明・高台部貼り付け後ナデ	密 (~6.0mmの砂粒多含)	-	にぶい黄橙10YR7/3	
322	006-06	弥生土器 土師器	台付甕	B1	SZ16	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明・ナデ	密 (~3.0mmの砂粒多含)	-	にぶい黄橙10YR7/2	土器集中
323	006-01	土師器	高杯	B2	SZ16	-	-	-	-	内:風化 外:ミガキ	密 (~4.0mmの砂粒多含)	-	浅黄2.5Y7/3	
324	007-04	土師器	高杯	B3	SZ16	-	-	-	-	内:調整不明・シボリ 外:調整不明	密 (~2.5mmの砂粒多含)	-	にぶい黄橙10YR7/3	
325	003-08	弥生土器 土師器	高杯	B5	SZ16	-	-	-	-	内:ナデ・シボリ 外:ナデ	密	-	橙5YR6/6	透孔3個
326	006-02	弥生土器 土師器	高杯	B2	SZ16	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	密 (~3.0mmの砂粒多含)	-	灰白5Y7/2	透孔
327	004-03	埴輪	朝顔形	B1	SZ16	口縁小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密	-	浅黄橙7.5YR8/6	土器集中
328	005-05	須恵器	杯蓋	B2	SZ16	口縁小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰白N5/0	
329	005-03	須恵器	杯身	B2	SZ16	口縁2/12	10.6	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密 (~5.0mmの砂粒多含)	良	灰白N6/0	
330	005-02	須恵器	罎	B2	SZ16	口縁1/12	11.8	-	5.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	密 (~2.0mmの砂粒多含)	-	灰白N7/0	
331	005-04	須恵器	高杯	B1	SZ16	底部2/12	-	10.2	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰白N7/0	土器集中
332	007-01	土師器	甕	B2	SZ16	口縁1/12	18.2	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密 (~1.5mmの砂粒多含)	-	にぶい黄橙10YR6/1	
333	007-05	土師器	鍋又は瓶	B3	SZ16	-	-	-	-	ナデ・オサエ	密 (~1.0mmの砂粒多含)	-	にぶい黄橙10YR7/3	把手部分
334	004-01	瓦	平瓦	B7	SZ16	-	-	-	-	内:布目 外:ケズリ・工具ナデ	密	良	灰白N6/0	
335	007-02	土師器	皿	B2	SZ16	口縁1/12	11	-	-	内:工具ナデ 外:ナデ	密 (~1.0mmの砂粒多含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	
336	004-04	陶器	山茶碗	B3	SZ16 上面	底部2/12	-	6.8	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・糸切痕跡・粉殻痕跡	密	良	灰白2.5Y8/1	
337	004-05	陶器	山茶碗	B2	SZ16	底部1/12	-	7.5	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・糸切痕跡・粉殻痕跡	密	良	灰白N8/0	
338	005-06	陶器	山茶碗	B3	SZ16 上面	底部12/12	-	5.8	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・糸切痕跡	密	良	灰白2.5Y8/1	
341	010-04	土師器	甕	Bウ	包含層	-	-	6.2	-	内:ナデ 外:ナデ	粗 (~3.0mm砂粒, ~7.0mmの小石多含)	-	灰白10YR8/1	
342	011-02	陶器	山茶碗	B10	包含層	底部5/12	-	6.8	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・未調整	密	良	灰白N8/0	墨書「〇」か
343	008-07	須恵器	甕	C8	SD25	-	-	-	-	内:ナデ・オサエ 外:タタキ	密 (~1.0mmの砂粒多含)	不良	灰白2.5Y8/2	
345	009-02	土師器	鍋	C22・23	SR28	口縁小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密 (~1.0mmの砂粒多含)	-	浅黄橙10YR8/4	南伊勢系
346	008-03	須恵器	杯蓋	C20	SZ26	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ・ロクロナデ	密 (~4.0mmの砂粒多含)	良	灰白5Y6/1	
347	007-07	土師器	甕	C15	SZ26	-	-	-	-	内:ヨコナデ・ハケメ 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (~1.5mmの砂粒多含)	-	にぶい黄2.5Y6/3	
348	008-01	陶器	椀	C21	SZ26	口縁1/12	16.7	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密 (~2.5mmの砂粒多含)	良	灰白2.5Y7/1	
349	008-04	陶器	山茶碗	C21	SZ26	底部1/12	-	8.3	-	内:ロクロナデ・ナデ 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・糸切痕跡	密 (~3.5mmの砂粒多含)	良	灰白2.5Y7/1	
350	008-02	陶器	壺又は甕	C20	SZ26	口縁小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密 (~1.5mmの砂粒多含)	良	灰黄褐10YR4/2	
351	007-06	陶器	捏鉢	C14	SZ16	口縁小片	-	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ	密 (~2.5mmの砂粒多含)	-	橙5YR6/6	常滑
352	007-08	土師器	不明	C19	SZ26	口縁小片	-	-	-	内:オサエ・ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ	密 (~2.0mmの砂粒多含)	-	浅黄橙10YR8/3	
353	011-03	陶器	皿	C6	包含層	口縁1/12	17.8	-	-	内:ロクロナデ・施釉 外:ロクロナデ・施釉	密	良	素:灰白N7/0 釉:灰白10Y7/2	
354	010-03	土師器	羽釜	C8	包含層	口縁小片	-	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・鈔貼り付け後ヨコナデ	密	-	橙5YR6/6	中北勢系

第Ⅲ-10表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表8

報告番号	実測番号	器種	地区	遺構・層位	法量 (cm)			重量 (g)	特記事項
					長	幅	厚さ		
294	002-03	砥石	A31	S Z 14	7.6	4.8	3.1	115.0	
295	002-04	砥石	A31	S Z 14	5.1	4.7	3.4	96.0	
312	011-04	軽石	B10	S D 21	6.4	5.0	2.3	21.47	
339	007-03	軽石	B 2	S Z 16	3.8	2.6	3.1	5.0	
340	004-02	砥石	B 7	S Z 16	9.8	6.1	3.7	296.0	
344	009-03	砥石	C22	S K 27	5.1	3.4	2.7	50.0	

第Ⅲ-11表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)石製品観察表

報告番号	実測番号	器種	地区	遺構層位	計測値 (cm)			樹種	木取り	特記事項 (加工痕、継手等) 保存処理
					長/径	幅/高	厚			
310	W001-02	斎串	B11	SD21	88.4	10.0	3.5	スギ	柁目	切り込み有り
311	W001-01	斎串	B11	SD21	10.0	1.1	0.3	スギ	柁目	

第Ⅲ-12表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)木製品観察表

報告 番号	実測 番号	種類	器種	地区	遺構 層位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土 素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
407	014-01	弥生土器 /土師器	台付甕	d16・ 17	SH58 東半	台部 1/12	-	5.8	-	内:ナデ 外:ハケメ・ナデ	-	橙7.5YR7/6褐灰7.5YR4/ 12.5YR7/8		
408	019-01	須恵器	壺	d16	SH58 西半	口縁 3/12	16.2	-	-	内:工具ナデ・オサエ・ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	良	灰5Y5/1		
409	014-04	弥生土器 /土師器	高杯	d18	SH61 ②	脚部 小片	-	-	-	内:シボリ 外:磨滅・ミガキ	-	橙5YR6/6, 淡橙5YR8/4		
410	014-05	弥生土器 /土師器	高杯	d18・ 19	SH61 ③	-	-	-	-	内:調整不明・シボリ 外:ミガキ?	-	にぶい橙7.5YR7/4	透孔3個	
411	014-02	弥生土器 /土師器	台付甕	d18	SH61 ①	台部 1/12	-	6.4	-	内:ナデ 外:ナデ	-	浅黄橙10YR8/3, 橙2.5YR 7/6		
412	015-03	土師器	杯	d18	SH61 ②	口縁 2/12	10.0	-	-	内: 外:ミガキ	-	橙2.5YR6/8		
413	015-05	土師器	杯	d18	SH61 ②	口縁 1/12	10.8	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ	-	橙2.5YR6/8	内面漆付着か	
414	015-04	土師器	杯	d18	SH61 ②	口縁 6/12	12.8	-	4.6	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ	-	橙5YR6/8		
415	014-03	土師器	高杯	d18・ 19	SH61 ②	口縁 3/12 脚部 1/12	13.8	9.6	8.9	内:ナデ・ヨコナデ・シボリ 外:ナデ・ケズリ・ヨコナデ	-	橙5YR6/6		
416	015-02	土師器	鉢	d18	SH61 ②	底部 4/12	-	7.0	-	内:工具ナデ 外:ナデ?	-	暗灰N3/0にぶい橙5YR6/ 4		
417	015-01	土師器	鉢	d18	SH61 ②	底部 3/12	-	11.0	-	内:ナデ? 外:ナデ?	-	灰白2.5Y7/2, にぶい黄 橙10YR7/3	粗製	
418	015-06	土師器	甕	d18	SH61 ②	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	浅黄橙10YR8/3, 橙5YR6/ 6		
419	016-03	須恵器	杯蓋	d18・ 19	SH61 ② Pit 5	口縁 1/12	13.4	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	良	灰白N7/0, 灰N4/0		
420	016-01	須恵器	杯身	d18	SH61 ②	口縁 1/12	12.0	-	3.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	良	灰白N8/0, 灰N4/0		
421	016-02	須恵器	杯身	d18・ 19	SH61 ②	口縁 3/12	12.6	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	良	灰白N7/0		
422	004-02	弥生土器 /土師器	高杯	d19	SK64	口縁 3/12	12.6	9.2	8.6	内:ハケメ・ミガキ 外:ミガキ・ハケメ	-	橙5YR7/6	SH61貯蔵穴、 透孔2個	
423	004-01	弥生土器 /土師器	台付甕	d19	SK64	口縁 7/12	10.7	5.5	13.7	内:オサエ・ナデ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・ナデ・オサエ	-	浅黄橙7.5YR8/4, 褐7.5Y R4/3	SH61貯蔵穴	
424	016-04	土師器	S字甕	d19	SH65	口縁 1/12	12.8	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	灰白2.5Y8/2, 浅黄橙10Y R8/3		
425	016-05	土師器	甕	d19	SH65 南壁	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ケズリ	-	にぶい黄橙10YR7/4, に ぶい黄橙7.5YR6/4		
426	011-04	弥生土器 /土師器	高杯	d21	SH66	脚部 12/12	-	-	-	内:磨滅・シボリ 外:磨滅	-	にぶい黄橙10YR7/3橙5Y R7/6	透孔2個	
427	011-05	土師器	甕	d21	SH66	底部 5/12	-	4.0	-	内:磨滅・工具ナデ 外:風化	-	にぶい黄橙10YR6/4		
428	011-02	土師器	甕	d21	SH66	口縁 4/12	15.2	-	-	内:磨滅・ヨコナデ 外:ヨコナデ・磨滅	-	にぶい黄橙10YR6/4		
429	011-03	土師器	甕	d21	SH66	口縁 1/12	19.5	-	-	内:ナデ・ヨコナデ・磨滅 外:磨滅・ハケメ	-	にぶい黄橙10YR7/4		
430	012-02	土師器	甕	d22	SH66	口縁 3/12	19.2	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	にぶい黄橙10YR6/4		
431	011-01	土師器	甕	d21	SH66	口縁 4/12	20.0	-	-	内:ナデ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	浅黄橙10YR8/3		
432	016-06	土師器	高杯	d21	SH66	口縁 小片	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ・ケズリ	-	褐灰10YR5/1にぶい褐7. 5YR5/3		
433	011-06	韓式系土 器	不明	d21	SH66	小片	-	-	-	内:タタキ 外:タタキ	-	灰5Y5/1	軟質	
434	012-01	須恵器か	不明	d21	SH66	体部 小片	-	-	-	内:磨滅 外:工具ナデ・ヨコナデ	-	灰N5/0灰黄2.5Y6/2	軟質土器の可 能性あり	
435	018-04	土師器	鉢	d21	SZ67	口縁 5/12	10.6	-	6.9	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ・風化	-	にぶい黄橙10YR7/4	粗製	
436	018-06	土師器	短頸壺	d21	SZ67	口縁 1/12	14.0	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ	-	にぶい黄橙10YR5/3		
437	018-01	土師器	鉢	d21	SZ67	口縁 1/12	13.8	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ	-	橙7.5YR7/6		
438	017-01	土師器	高杯	d21	SZ67	口縁 2/12	22.4	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ	-	橙5YR6/6		
439	019-04	土師器	鍋又は 瓶	d21	SZ67	小片	-	-	-	内:ナデ 外:オサエ・貼り付け後ナデ	-	橙5YR7/6	把手部分	
440	019-02	須恵器	杯身	d21	SZ67	口縁 2/12	12.8	-	4.5	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	良	灰白7.5Y7/1		
441	018-05	須恵器	提瓶	d21	SZ67	口縁 3/12	6.2	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	良	灰白7.5Y4/		
442	007-01	弥生土器 /土師器	壺	d22・ 23	SH68 南壁	口縁 6/12	6.4	3.2~ 3.5	12.1	内:ハケメ・工具ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・調整不明	-	橙5YR7/6	体部上半に具 設刺突	
443	023-07	弥生土器 /土師器	壺	d23	SH68	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・円形浮文	-	橙5YR7/6		
444	024-05	弥生土器 /土師器	壺	d23	SH68	口縁 1/12	14.0	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	-	にぶい黄橙7.5YR7/4		
445	024-02	弥生土器 /土師器	壺	d23	SH68	底部 10/12	-	3.0	-	内:ナデ? 外:ナデ? 工具痕跡?	-	黄灰2.5Y4/1灰白2.5Y8/ 2		
446	024-03	弥生土器 /土師器	壺	d23	SH68	底部 5/12	-	5.0	-	内:ナデ 外:ナデ	-	暗灰N3/0にぶい橙7.5YR 7/4	内面炭化	
447	024-01	弥生土器 /土師器	壺	d23	SH68	口縁 1/12	15.4	-	-	内:磨滅 外:磨滅	-	橙5YR7/6		
448	020-05	弥生土器 /土師器	有孔鉢	d23	SH68 上層	底部 5/12	-	5.8	-	内:ナデ? 外:ナデ	-	密(〜3.0mmの砂粒含) (赤色粒含)	橙5YR6/6	
449	023-06	弥生土器 /土師器	S字甕	d23	SH68	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	-	にぶい黄橙7.5YR7/4		
450	025-02	弥生土器 /土師器	台付甕	d23	SH68	-	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ	-	にぶい黄橙10YR7/4		
451	007-03	弥生土器 /土師器	台付甕	d22・ 23	SH68 南壁	台部 3/12	-	8.0	-	内:オサエ・ナデ・ヨコナデ・工具ナデ 外:工具ナデ・ナデ・ヨコナデ	-	浅黄橙10YR8/4		

第Ⅲ-14表 深田遺跡(第3次)遺物観察表2

報告 番号	実測 番号	種類	器種	地区	遺構 層位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土 素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
452	013-01	弥生土器 /土師器	S字甕	d23	SH68 内	口縁 2/12 台部 5/12	14.0	7.4	-	内:オサエ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・調整不明	密(〜4.0mm の砂粒多含)	-	浅黄橙10YR8/3灰黄褐10 YR5/2・4/2	
453	013-02	土師器	壺又は 甕	d23	SH68 内	体部 3/12	-	-	-	内:磨滅・工具ナデ 外:ハケメ	密(〜4.0mm の砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	黒斑あり
454	025-03	弥生土器 /土師器	高杯	d23	SH68	脚部 1/12	-	9.8	-	内:ナデ 外:ナデ	密	-	橙7.5YR7/6	
455	012-03	弥生土器 /土師器	高杯	d23	SH68	口縁 2/12	25.6	-	-	内:磨滅 外:磨滅	密(〜4.0mm の砂粒多含)	-	にぶい黄橙10YR6/4	
456	023-05	弥生土器 /土師器	高杯	d23	SH68	-	-	-	-	内: 外:櫛描直線文	やや粗(〜2. 0mmの微砂粒 含)	-	浅黄橙7.5YR8/4	透孔3個
457	024-04	土師器	高杯	d22	SH68	-	-	-	-	内:ナデか 外:ナデか・ハケメ	やや密	-	浅黄橙7.5YR8/4橙5YR7/ 6	
458	007-02	土師器	高杯	d22・ 23	SH68 南壁	脚部 12/12	-	-	-	内:シボリ 外:工具ナデ・ケズリ	密	-	明赤褐2.5YR5/6	
459	025-01	土師器	鍋又は 瓶	d23	SH68	-	-	-	-	内:不明 外:オサエ・ナデ・貼り付け後ナデ	密	-	淡黄2.5YR3/8	把手部分
460	023-02	須恵器	杯蓋	d23	包含層	口縁 1/12	10.8	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	密	良	灰N5/0	
461	023-04	須恵器	高杯	d23	SH68	脚部 3/12	-	7.4	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰N6/0	
465	022-03	弥生土器 /土師器	壺	d28	SZ71	口頸部 小片	-	-	-	内:ナデ・ミガキ 外:ハケメ後ミガキ・櫛描直線文	密(〜4.0mm の小石含)	-	褐灰10YR4/1にぶい黄褐 10YR5/3	
466	022-02	弥生土器 /土師器	壺	d27	SZ71	口縁 1/12	13.4	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密(〜3.0mm の砂粒含)	-	浅黄橙10YR8/3	
467	022-01	弥生土器 /土師器	甕	d28	SZ71	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密(〜3.0mm の砂粒多含)	-	灰黄褐10YR6/2	煤附着
468	022-04	弥生土器 /土師器	高杯	d27	SZ71	脚部 小片	-	-	-	内:シボリ・ナデ 外:櫛描直線文	密(〜2.0mm の砂粒含)	-	にぶい褐7.5YR5/3	透孔2個
469	010-01	弥生土器 /土師器	甕	d41	SD72	口縁 1/12	19.4	-	-	内:ハケメ・ナデ 外:ナデ・ハケメ	密	-	灰黄褐10YR6/2	
470	009-02	須恵器	壺	d41	SD72	口縁 1/12	18.8	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・波状文	密	良	灰N6/1	
471	020-06	弥生土器 /土師器	高杯	d13	Pit 1	-	-	-	-	内:調整不明・? 外:ミガキ・櫛描直線文	密(〜7.0mm の小石含)	-	にぶい赤褐5YR4/6	透孔3個
472	021-02	須恵器	杯蓋	d6	Pit 5	口縁 1/12	12.3	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密(〜3.0mm の砂粒含)	良	灰N5/0	
473	020-08	須恵器	高杯	d17	Pit 4	脚部 2/12	-	10.2	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・カキメ	密(〜2.0mm の砂粒多含)	良	灰N6/0	
474	021-05	土師器	小型壺	d19	Pit 2	口縁 1/12	11.2	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密(〜3.0mm の砂粒含)	-	にぶい橙2.5YR6/4	
476	021-04	土師器	鍋	d19	Pit 9	口縁 1/12	21.8	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・風化	密(〜2.5mm の砂粒含) (赤色粒含)	-	橙2.5YR6/6	南伊勢系
477	020-09	弥生土器 /土師器	S字甕	d20	Pit 8	台部 12/12	-	8.0	-	内:調整不明・ナデ 外:ナデ・ハケメ	密(〜3.0mm の小石含)	-	にぶい橙5YR7/3	
478	021-06	弥生土器 /土師器	壺	d25	Pit 3	口縁 小片	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ・棒状浮文	密(〜4.0mm の砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/3	
479	020-07	陶器	皿	d31	包含層 63層	高台部 3/12	-	5.6	-	内:ロクロナデ・施軸 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・ 糸切痕跡	密(〜1.0mm の砂粒多含)	良	灰白2.5YR8/2	近世
480	020-02	陶器	山茶碗	d39	包含層 98層	底部 9/12	-	5.8	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・ 糸切痕跡	密(〜5.0mm の小石含)	良	灰白5Y8/1	
481	020-04	灰釉陶器	皿	d40	包含層 98層	高台部 2/12	-	6.4	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・ 糸切痕跡	密	-	灰白10YR8/1	
482	021-03	陶器	山茶碗	d51	暗灰色 シルト 南壁 108層	口縁 小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密(〜5.0mm の小石含)	良	灰黄2.5Y7/2	
483	025-07	弥生土器 /土師器	壺又は 甕	d39	包含層 82層	小片	-	-	-	内:ナデ 外:沈線(直線・弧状)	やや粗(〜3. 0mmの微砂粒 含)	-	灰白10YR8/2灰N5/0	
484	020-01	土師器	壺	d27	黒色粘 土	口縁 6/12	17.6	-	-	内:ナデ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・波状文・櫛描直線 文	密(〜8.0mm の小石含) (赤色粒含)	-	明褐7.5YR5/6	
485	020-03	弥生土器 /土師器	高杯	d27	黒色粘 土	-	-	-	-	内:ナデ・シボリ 外:ミガキ・ハケメ	密(〜3.0mm の砂粒含) (赤色粒含)	-	にぶい黄橙10YR6/3	透孔3個
486	030-02	弥生土器 /土師器	壺	d16	包含層	底部 4/12	-	5.0	-	内:ハケメ 外:磨滅	密(〜4.0mm の砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR6/3	
487	030-01	弥生土器 /土師器	器台	d14	包含層	口縁 3/12	14.8	-	-	内:磨滅・ミガキ 外:刺突・円形浮文	密(〜3.0mm の砂粒含)	-	にぶい赤褐5YR5/4	
488	029-02	土師器	甕	d15	包含層	口縁 2/12	19.0	-	-	内:磨滅 外:磨滅・ナデ	密(〜3.0mm の砂粒含)	-	淡黄2.5YR8/1	No.1
489	030-03	土師器	高杯	d15	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・ミガキ	密(〜1.5mm の砂粒含)	-	明赤褐5YR5/6	内面被熱
490	029-05	弥生土器 /土師器	台付甕	d18	包含層	-	-	-	-	内:磨滅 外:磨滅	密(〜4.0mm の砂粒含)	-	褐灰5YR4/1橙5YR6/6	
491	028-03	土師器	瓶	d20	包含層	口縁 1/12	22.8	-	-	内:調整不明・ヨコナデ 外:ヨコナデ・工具ナデ・調整不明	密(〜4.0mm の砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/3	
492	029-03	須恵器	杯身	d20	包含層	口縁 3/12	11.8	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	密(〜2.5mm の砂粒含)	良	灰白5Y8/1	
494	028-05	土師器	甕	d23	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・工具痕跡	密(〜2.0mm の微砂粒含)	-		
495	023-01	須恵器	甕	d23	包含層	口頸部 2/12	-	-	-	内:同心円文・ロクロナデ 外:ロクロナデ・タタキ	密	良	灰N4/0	自然釉
496	025-05	土師器	壺	d24	包含層	底部 7/12	-	3.2	-	内:ナデ 外:ハケメ・ナデ	粗(〜2.0mm の微砂粒含)	-	にぶい黄橙7.5YR7/4	胎土及び外面 のハケメは、 S字甕に類似
497	025-04	弥生土器 /土師器	台付甕	d24	包含層	台部 1/12	-	6.8	-	内:ヨコナデ・工具ナデ 外:ヨコナデ	やや粗(〜2. 0mmの微砂粒 含)	-	橙2.5YR6/6	
498	028-04	土師器	杯か	d24	包含層	口縁 1/12	11.5	-	-	内:調整不明・ヨコナデ 外:ヨコナデ・調整不明	密(〜3.0mm の微砂粒含)	-	橙5YR7/6	
499	028-02	弥生土器 /土師器	壺	d25	包含層	口縁 2/12	13.05	-	-	内:オサエ・ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・貼り付け突帯・櫛描直線文	密(〜2.0mm の微砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/4	頸部内外面赤 彩(明赤褐2. 5YR5/6)
500	027-07	弥生土器 /土師器	壺	d25	包含層	底部 12/12	-	5.9	-	内:工具ナデ? 外:ハケメ・ナデ	密	-	にぶい黄橙10YR7/3	
501	027-08	弥生土器 /土師器	高杯	d25	包含層	-	-	-	-	内:シボリ・調整不明 外:ナデ・調整不明	密	-	にぶい橙7.5YR7/4	透孔2個

第三-15表 深田遺跡(第3次)遺物観察表3

報告番号	実測番号	種類	器種	地区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
502	028-06	土師器	鍋又は瓶	d25	包含層	-	-	-	内:ナデ・工具ケズリ後ナデ 外:ナデ・工具ケズリ後ナデ	密	-	にぶい橙7.5YR6/4		
503	028-01	土師器	壺	d25	包含層	小片	-	-	内:オサエ・ナデ 外:工具ケズリ後ナデ?	密(～3.0mmの微砂粒含)	-	橙7.5YR7/6橙5YR6/6		
504	025-06	韓式系土器	壺か	d25	包含層	小片	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・貼り付け後ナデ・タタキ	やや密(～2.0mmの微砂粒含)	-	灰N5/0・4/0	軟質	
505	027-02	弥生土器/土師器	壺	d27	包含層	口縁小片	-	-	内:ミガキ? 外:ヨコナデ・刺突後棒状浮文・ミガキ	密	-	にぶい橙7.5YR7/4		
506	027-03	弥生土器/土師器	壺	d27	包含層	頸部小片	-	-	内:ナデ・調整不明 外:ハケメ・櫛描直線文・ハケメ後刺突	密(～2.0mmの微砂粒含)	-	灰黄褐10YR5/2にぶい橙5YR6/4		
507	027-05	弥生土器/土師器	壺	d27	包含層	口縁小片	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:刺突文・ヨコナデ・ナデ	密	-	にぶい黄橙10YR7/3		
508	027-06	弥生土器/土師器	壺	d27	包含層	体部小片	-	-	内:工具ナデ 外:櫛描直線文・ハケメ後刺突文	密	-	にぶい黄橙10YR6/3		
509	027-04	弥生土器/土師器	壺	d27	包含層	口縁1/12	11.0	-	内:ミガキ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ミガキ	密	-	にぶい黄橙10YR6/3		
510	026-03	弥生土器/土師器	壺	d27	包含層	口縁小片	-	-	内:ミガキ 外:ハケメ後ミガキ・ナデ	密	-	にぶい黄橙7.5YR6/4		
511	026-04	弥生土器/土師器	壺	d27	包含層	底部12/12	-	5.1	内:ナデ 外:ナデ	密(～3.0mmの砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR7/3	底部外面に種実痕跡	
512	026-06	弥生土器/土師器	甕	d27	包含層	口縁小片	-	-	内:ナデ 外:ヨコナデ・ナデ	密(～4.0mmの砂粒含)	-	にぶい黄橙7.5YR7/6		
513	026-07	弥生土器/土師器	甕又は鉢	d27	包含層	口縁小片	-	-	内:ナデ 外:ナデ・ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR6/3		
514	026-05	土師器	甕	d27	包含層	口縁小片	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・調整不明	密(～3.0mmの砂粒含)	-	にぶい黄橙7.5YR6/4		
515	026-02	弥生土器/土師器	台付甕	d27	包含層	脚柱部	-	-	内:工具ナデ 外:ナデ・ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR6/3		
516	029-01	弥生土器/土師器	高杯	d27	包含層	口縁1/12	21.2	-	内:ハケメ後ミガキ・オサエ・ナデ 外:ヨコナデ・ミガキ・ハケメ・櫛描直線文	密(～1.5mmの砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR6/3褐灰10YR5/1	透孔3個	
517	026-01	弥生土器/土師器	高杯	d27	包含層	脚柱部	-	-	内:ナデ・シボリ 外:ナデ・ミガキ	密	-	にぶい黄橙10YR7/3	透孔3個	
518	029-04	弥生土器/土師器	高杯	d27	包含層	脚部小片	-	-	内:ナデ 外:櫛描直線文・刺突・ヨコナデ	密(微砂粒含)	-	にぶい黄橙10YR6/3	透孔1個	
519	027-01	弥生土器/土師器	器台	d27	包含層	口縁1/12	16.8	-	内:ミガキ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ミガキ	密	-	にぶい黄橙10YR6/3		
520	023-03	陶器	山茶碗	d40	包含層	口縁1/12	15.0	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	やや密	良	灰白5Y8/1		

第Ⅲ-16表 深田遺跡(第3次)遺物観察表4

報告番号	実測番号	器種	地区	遺構・層位	法量 (cm)			重量 (g)	特記事項
					長	幅	厚さ		
392	002-04	砥石か	d7	S K39	5.5	5.8	0.7	38.0	No.1
393	002-03	擦石	d7	S K39	6.5	6.1	4.9	24.1	No.1
396	006-03	砥石	d11・12	S D45	8.8	4.8	2.8	181.0	
462	024-08	軽石	d23	S H68	3.6	3.1	1.0	6.0	
463	024-06	軽石	d23	S H68	4.0	3.0	1.0	12.0	
464	024-07	軽石	d23	S H68	4.0	3.2	0.9	6.0	
475	021-01	砥石	d19	Pit 4	15.05	-	-	850.0	
493	030-04	砥石	d20	直上	12.9	8.0	5.2	592.0	

第Ⅲ-17表 深田遺跡(第3次)石製品観察表

第Ⅳ章 双ツ塚西方遺跡

第1節 調査の概要

双ツ塚西方遺跡は、深田遺跡の東南側に隣接し、双ツ塚遺跡の西方に位置する。

今回の調査は、既設の道路内に新たに埋置する水路部分のみを対象としたもので、幅2m×延長252mの504㎡を調査した。

調査地が既設の道路部分であった関係上、調査区の土層は、厚さ20cm程度の表土（道路アスファルト

とその基盤となる砕石）より下位に厚さ40～60cmの上下2層の造成土層があり、その直下が遺構検出面であった。つまり、遺構検出面は、後世の造成によって遺構面が削平された状態にある。

このため、遺構密度は非常に疎らで、溝2条、土坑5基、浅い落ち込み1箇所のみを確認したにとどまる。（穂積）

第2節 遺構

SD1 幅3.8～4m、検出面からの深さ30cm程度の幅広の溝で、緩やかな播鉢状の断面形状を呈する。調査区幅の制約で全体像が不明であるため、溝というよりも落ち込み状の遺構であったかもしれない。

上層に黄褐色シルト、下層に灰黄褐色シルトが堆積している。埋土から少量の中近世の遺物が出土した。

SD8 調査区の西方で検出した幅0.4～0.5m、残存深8cmの溝で、削平のため溝の底面付近だけがかるうじて残存している。埋土は暗褐色シルトで、出土遺物はなかった。ただし、溝の主軸がN20°W程とわずかに西方向に傾いており、これは隣接する深田遺跡のSD18～21などの主軸とほぼ直交している。このことから、古代の地割に沿った溝であった可能性がある。

SD9 緩やかな落ち込み状遺構であるSZ2を掘りきった床面で検出された幅0.2～0.25m、残存深10cmの小溝である。溝の主軸はN20°Eである。出土遺物はなかった。

SK3 北側が調査区外となるが、東西1.12m、南北0.88m以上の略円形を呈し、検出面から深さ44cmを測る。埋土は黒褐色シルトと黒色シルトで、含有する粒度の違いで若干の偏差がある。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、一部オーバーハングした部分があるが壁面崩落によるものであろう。所属時期不明の土師器細片1片のみ出土したが図示不能である。

SK4 長径1.5m×短径1.1m、残存深54cmの楕円形を呈する土坑である。先後関係は、SK5よりも

古い。埋土は、上層が黒色シルト、下層が黒褐色シルトである。埋土から、土師器甕の体下半部が出土した。古墳時代に属するものであろう。

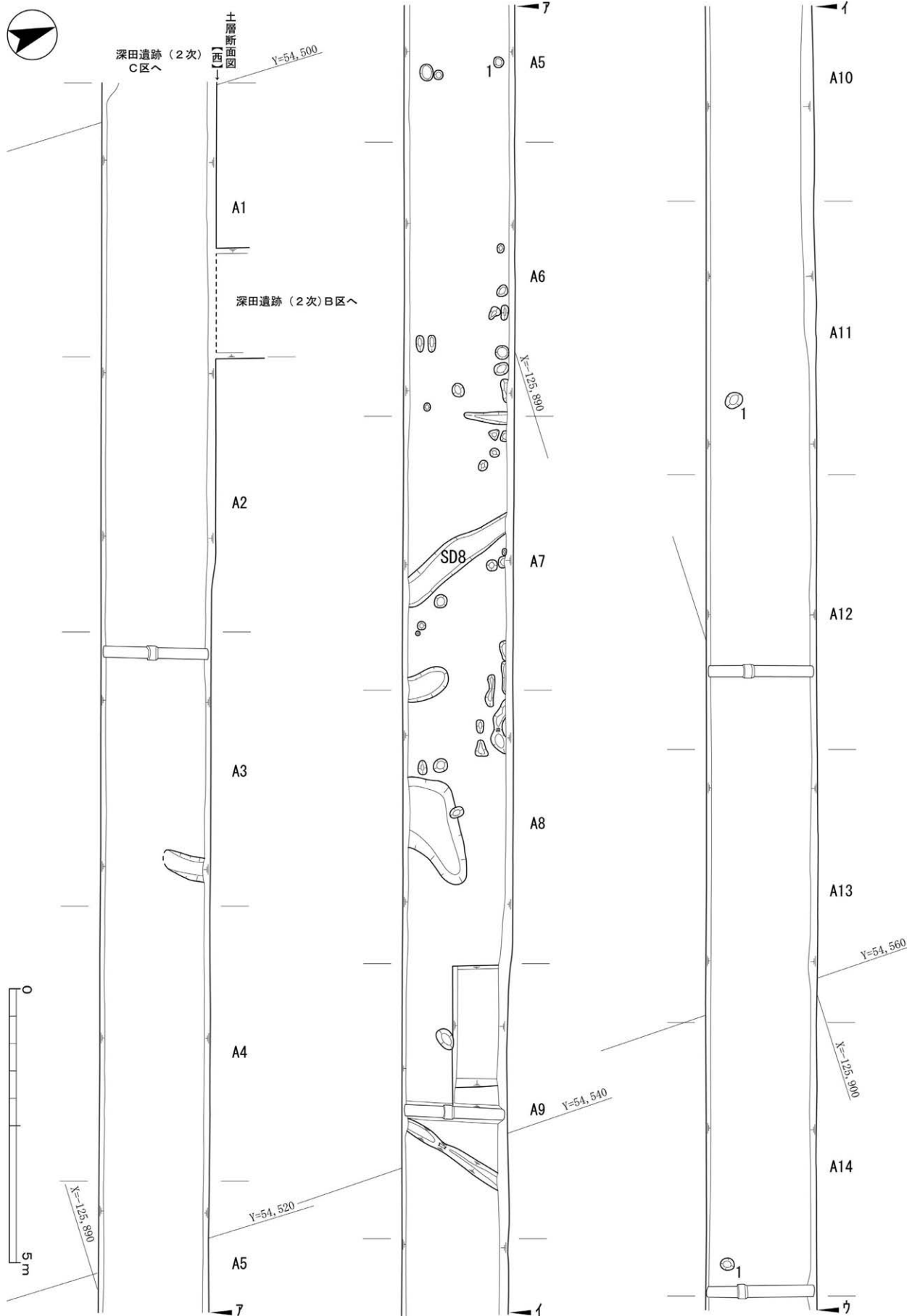
SK5 SK4と重複する長径3.08m×短径1.28m、残存深32cm程の長楕円形を呈する土坑である。埋土は、黒色シルトで、底部近くは砂粒の含有が増す。先後関係はSK4よりも新しいが、遺物は出土せず、詳細時期は不明である。

SK6 南側が調査区外となるが、南北0.6m以上×東西0.68m、残存深0.28mの土坑である。埋土は、上層が黒色シルト、下層が黒褐色シルトで、常滑産とみられる陶器細片や瓦片が出土した。

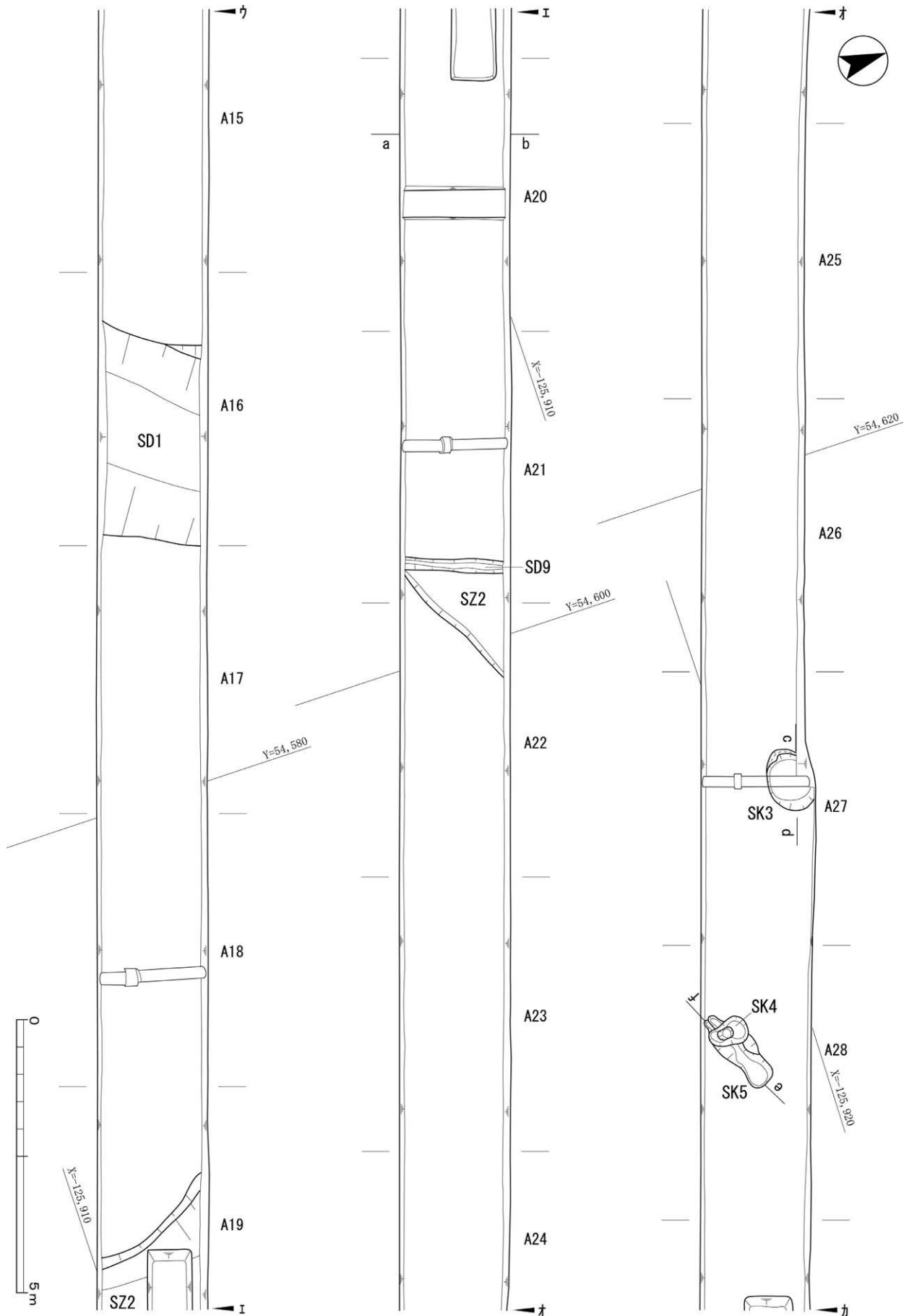
SK7 南側が調査区外となるが、南北0.72m以上×東西1.4m以上の土坑で、残存部は隅丸形状を呈する。埋土は黒褐色シルトと黒色シルトによる互層状を呈し、底面が平坦な箱形の掘り込みをもつ。埋土から、弥生時代後期の高杯脚部片が出土した。

SZ2 調査区西端から東へ91.6m付近から東へ向かって緩やかに低くなっていく落ち込みである。落ち際から東へ2.8mで40cmほど落ち込み、以東はその高さをほぼ維持する。埋土は、上層の灰黄褐色シルト、中層の褐灰色シルト、下層の黒褐色シルトと続き、中層は部分的なレンズ状の堆積である。

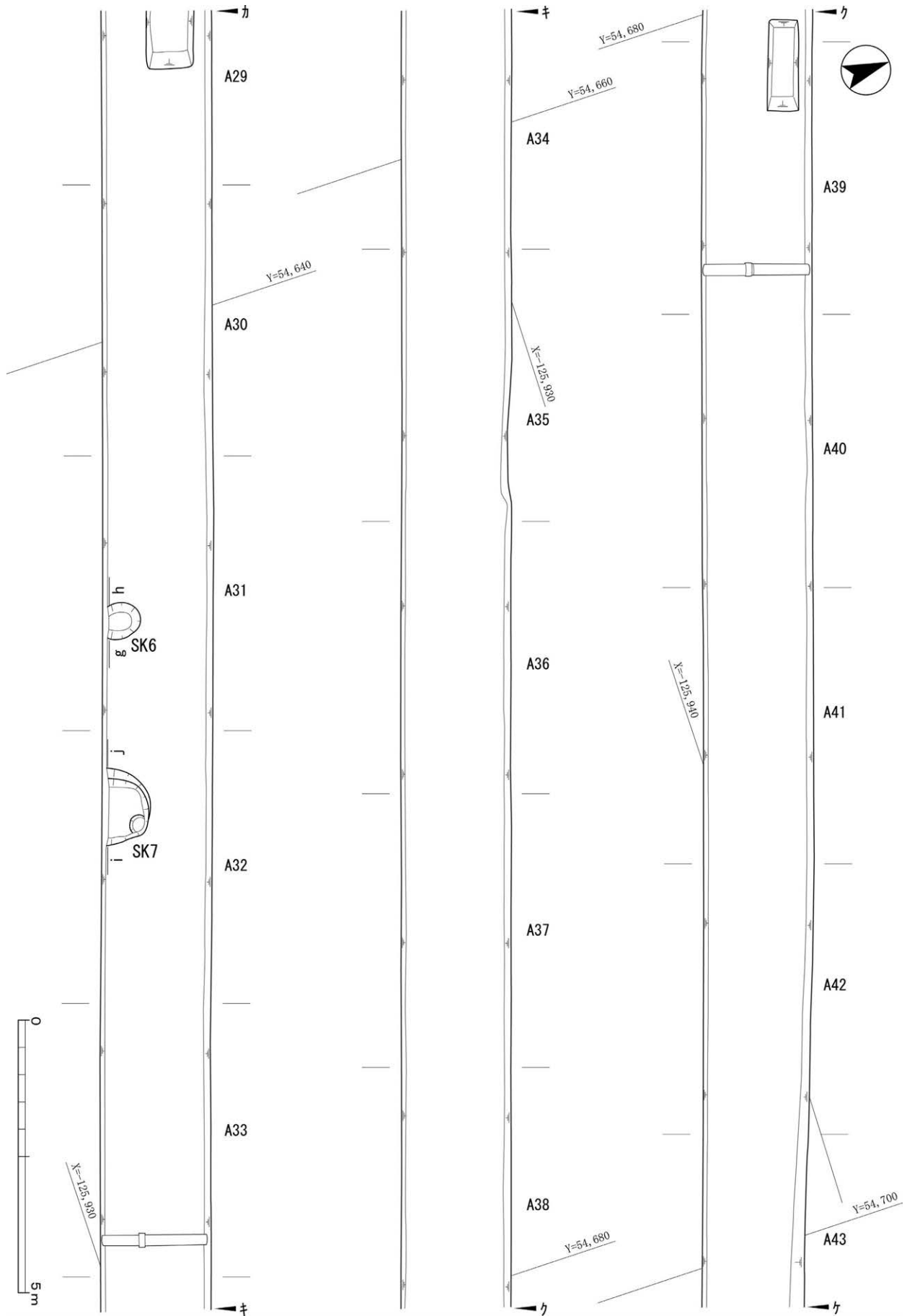
遺物は、西端の落ち際を中心に出土し、古墳時代の埴輪や土師器、須恵器、中近世の遺物まで幅広い時期を含む。（穂積）



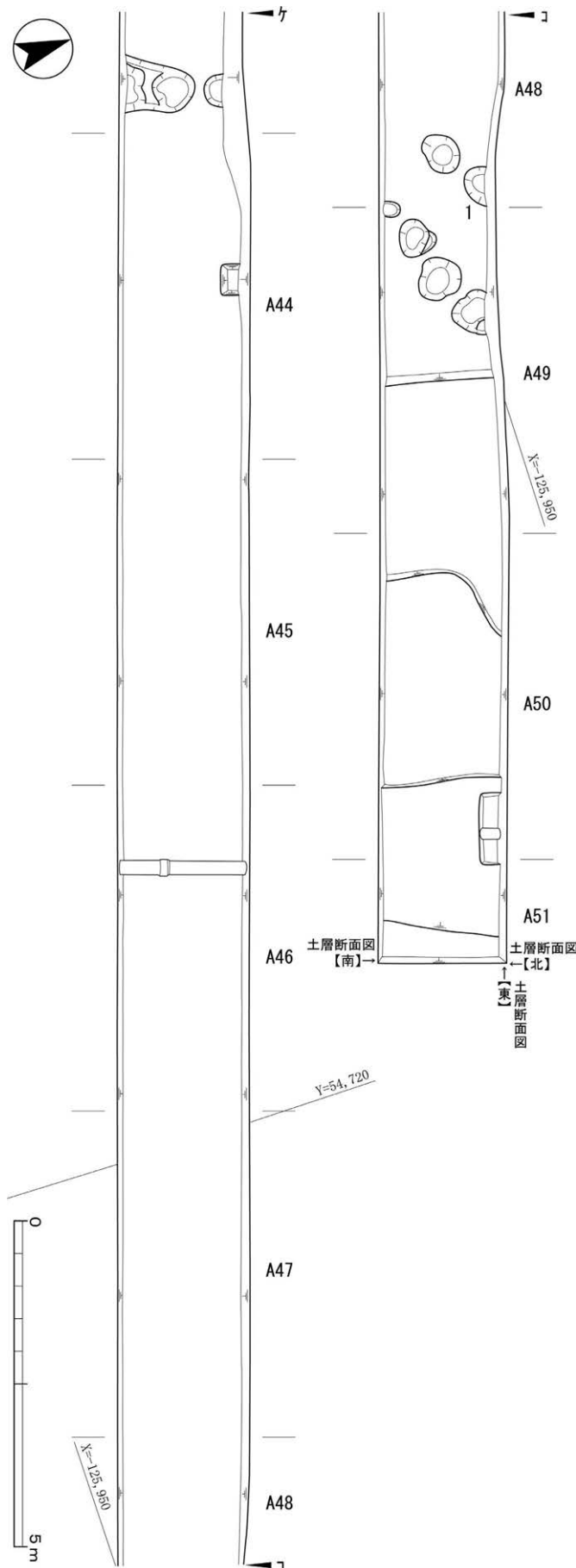
第IV-1図 双ツ塚西方遺跡平面図1 (1:100)



第IV-2図 双ツ塚西方遺跡平面図2 (1:100)



第IV-3図 双ツ塚西方遺跡平面図3 (1:100)



第IV-4図 双ツ塚西方遺跡平面図4 (1:100)

第3節 遺 物

SD 1 出土遺物 (1~2)

1は、瀬戸産陶器の半胴甕である。底部付近の胴部で、黒色の釉が垂れてきている。2は、在地系の土師器羽釜の鏝部破片で、内外面ともにナデ・オサエ調整による。

SZ 2 出土遺物 (3~19)

大きく古墳時代と中世後期（戦国期）の2時期の遺物を包含する。

3は、須恵器杯蓋の小片である。丸みをもつ天井部の裾廻りに波状文を巡らせている。6世紀初頭前後の所産であろう。

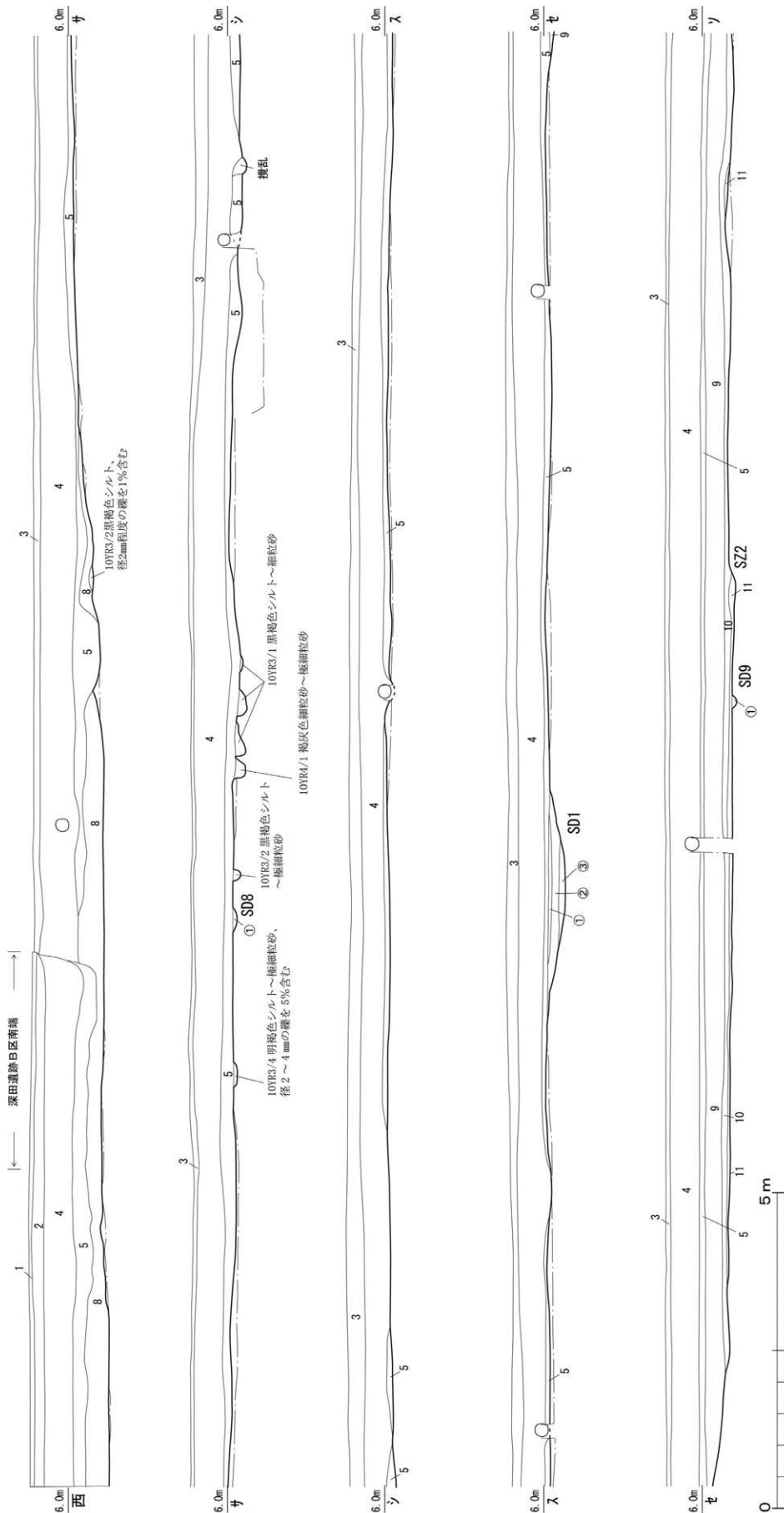
4~10は、埴輪である。4は、外側に開く形状から、朝顔形埴輪壺部の1次口縁部とみられる。5~9は、円筒埴輪片で、5が口縁部、6~8が体部、9が底部片である。6は風化のため調整不明だが、5・7にはヨコハケが施され、7はB種ヨコハケである。8・9は二次調整が省略され、一次調整のタテハケだけが残るが、施文方向が異なっており、別個体である。10は、円筒埴輪にも似るが、筒状となる曲面はなく、家形埴輪などの形象埴輪の可能性が高い。

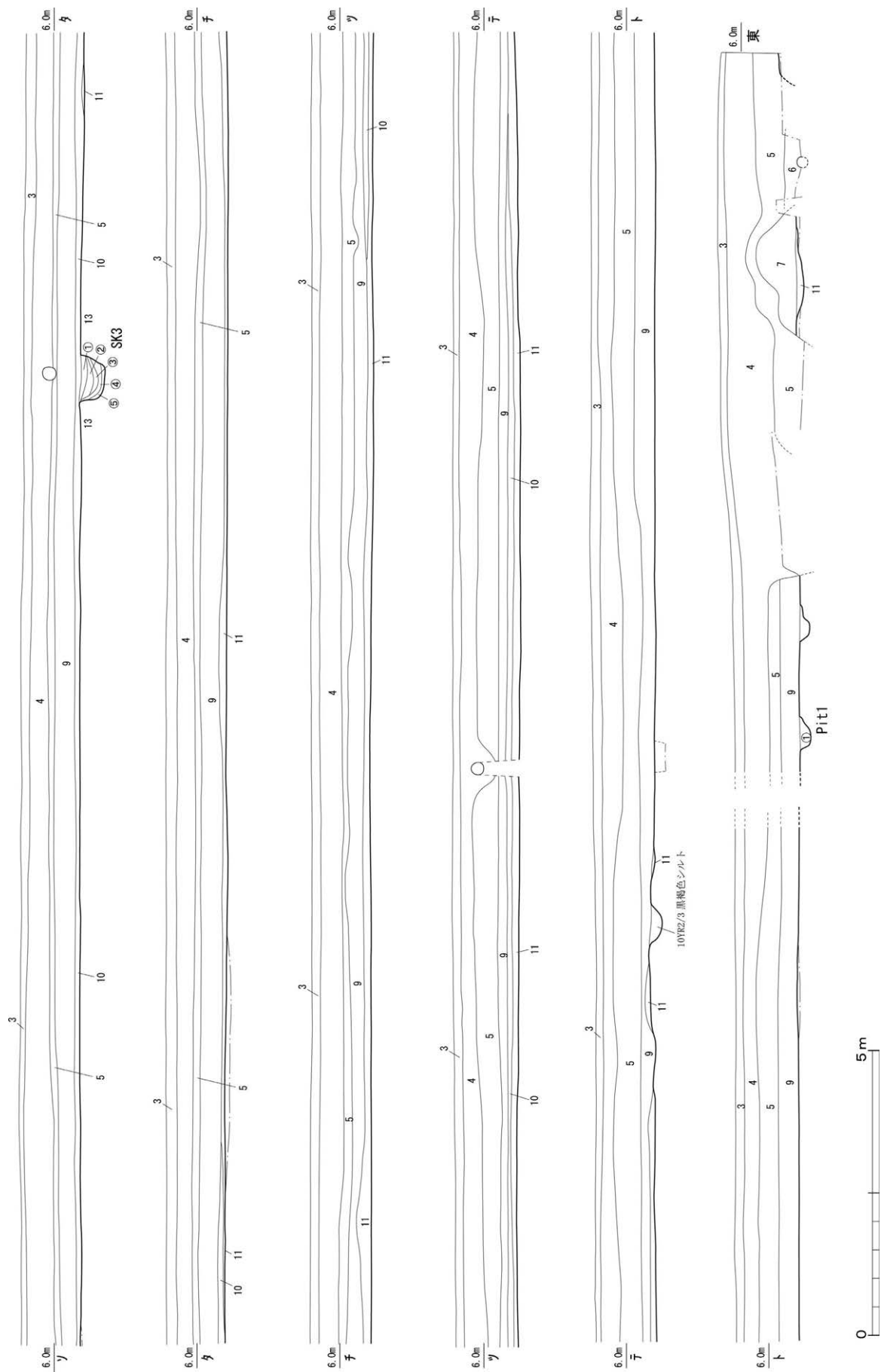
11~17は、戦国期を中心とした土器・陶磁器類である。11は、灰白色の釉が掛けられた瀬戸美濃産陶器の丸皿で、内面に鎬をもつ。16世紀前半の大窯2期の所産であろう。12も、オリーブ黄色の釉が掛けられた古瀬戸ないしは瀬戸美濃産陶器である⁽¹⁾。下部は高台もしくは台状にせり出し始めており、器種としては仏供ないしは小杯になるとみられる。13も瀬戸美濃産陶器の椀で、オリーブ黄色の釉が掛けられているが、削り出しによる高台の端部には掛かっていない。14は、陶器の短頸壺で、口唇部に刻みを入れて加飾している。15は、常滑産陶器の片口鉢の底部で、内面は使用によって摩耗しており、捏鉢として使用されたとみられる。16も常滑産陶器で、口縁部片である。17は、在地系の土師器・羽釜である。ハケはなく、ナデ調整である。

18は、平瓦片である。内面には布目痕、外面には横方向の工具によるナデ（板ナデ）痕が残る。

19は、犬形土製品で、立直する後脚とその周辺の

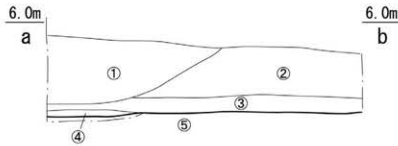
第IV-5図 双ツ塚西方遺跡土層断面図1 (1:100)





第IV-6図 双ツ塚西方遺跡土層断面図2 (1:100)

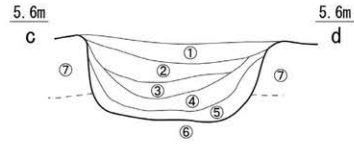
SZ2



- ① 10YR4/2 灰黄褐色～10YR4/3 にぶい黄褐色シルト～極細粒砂、径2～6mmの礫を5%、径10mmまでの脆弱鉄分粒を10%含む、木炭粒が点在（氾濫層、②と土質同じ、上層造成土の影響を受けたか）
- ② 10YR4/1 褐色シルト～極細粒砂、径2～6mmの礫を5%、径10mmまでの脆弱鉄分粒を10%含む、木炭粒が点在（氾濫層、①と土質同じ）
- ③ 10YR4/1 褐色シルト（氾濫層）
- ④ 10YR3/1 黒褐色シルト～極細粒砂（包含層）
- ⑤ 5Y6/1 灰色シルト（地山）

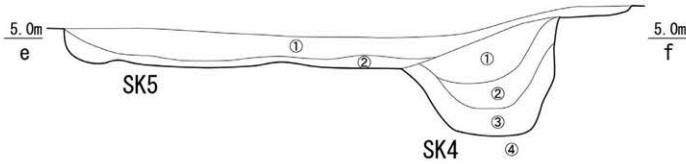
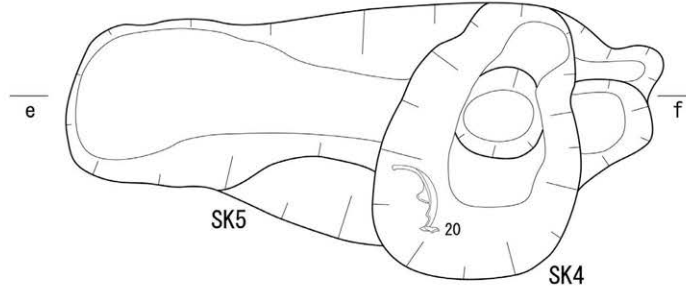


SK3

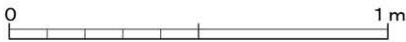


- ① 10YR2/2 黒褐色シルト～極細粒砂、径20mmまでの脆弱鉄分を5%含む
- ② 10YR2/1 黒色シルト～極細粒砂、径5mmまでの脆弱鉄分を2%含む
- ③ 10YR1.7/1 黒色シルト、やや縮まり弱い
- ④ 10YR2/2 黒褐色シルト～極細粒砂
- ⑤ 10YR2/2 黒褐色シルト～極細粒砂、径5～30mm、10YR4/3 にぶい黄褐色～10YR4/2 灰黄褐色のシルトブロックを30%含む
- ⑥ 2.5Y6/1 黄灰色シルト、径10mmまでの鉄分が斑状に広がる（地山）
- ⑦ 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト、径2～3mmの鉄分粒・マンガン粒を30%含む（地山）

SK4・5



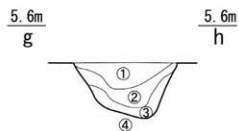
- SK5**
- ① 10YR2/1 黒色シルト
 - ② 10YR3/2 黒色シルト、径8mmまでのシルトブロック（10YR3/4 暗褐色）を40%含む



- SK4**
- ① 10YR2/1 黒色シルト径6mmまでのシルトブロック（10YR3/3 暗褐色）を5%含む
 - ② 10YR2/2 黒褐色シルト、径6mmまでのシルトブロック（10YR3/3 暗褐色）を10%含む
 - ③ 10YR2/2 黒褐色シルト、径2～20mmのシルトブロック（10YR5/1 褐色）を30%含む
 - ④ 10YR5/1 黄灰色シルト

※SK4 全体が造成土の汚染を受けている

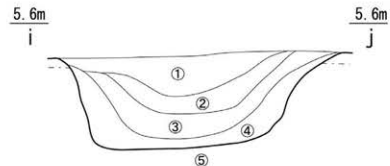
SK6



- ① 10YR1.7/1 黒色シルト、やや縮まり弱い
- ② 10YR2/1 黒色シルト
- ③ 10YR2/3 黒褐色シルト、径3～20mmの10YR4/2 灰黄褐色シルトブロックを20%含む
- ④ 2.5Y6/1 黄灰色シルト、径5mmまでの鉄分を5%含む（地山）

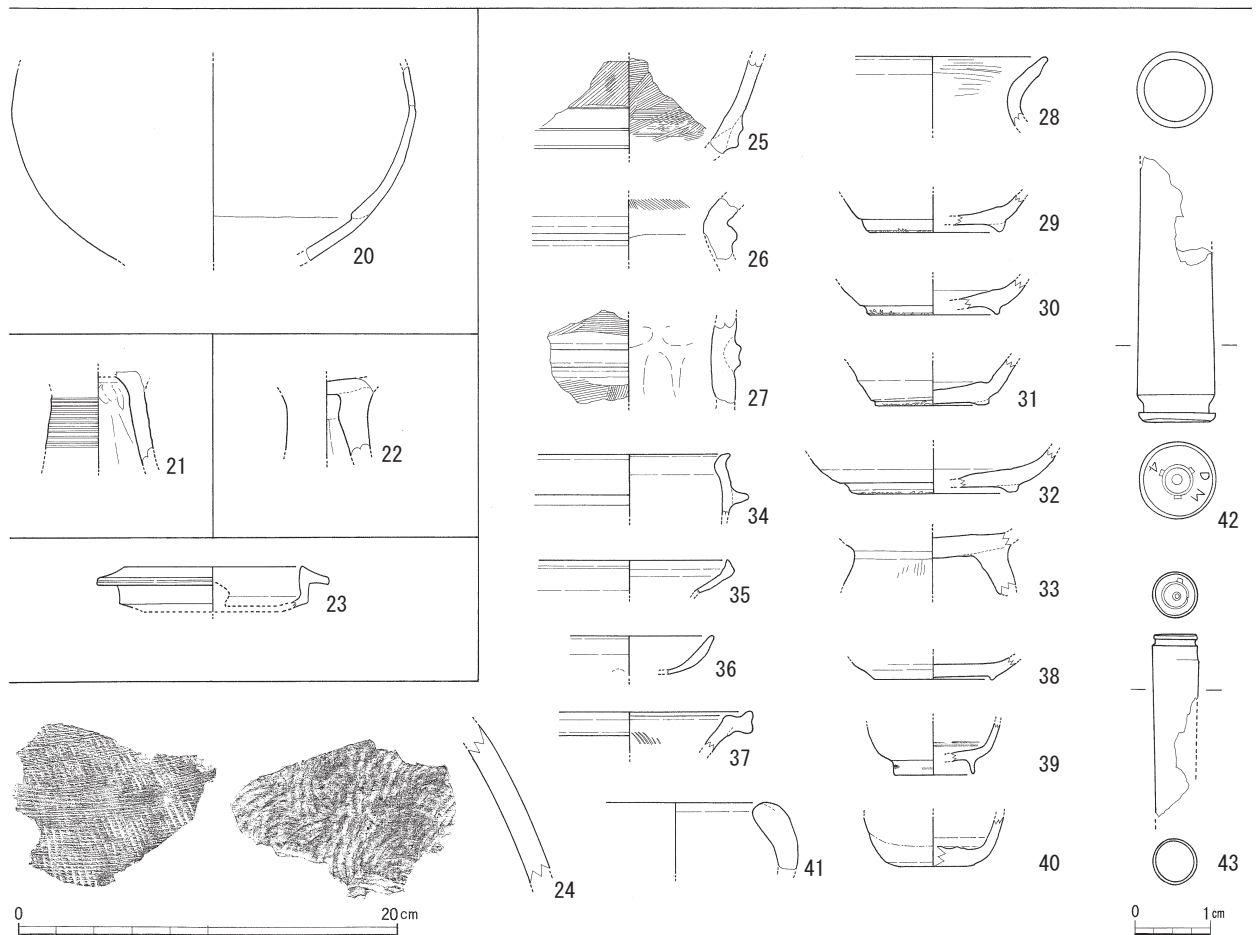
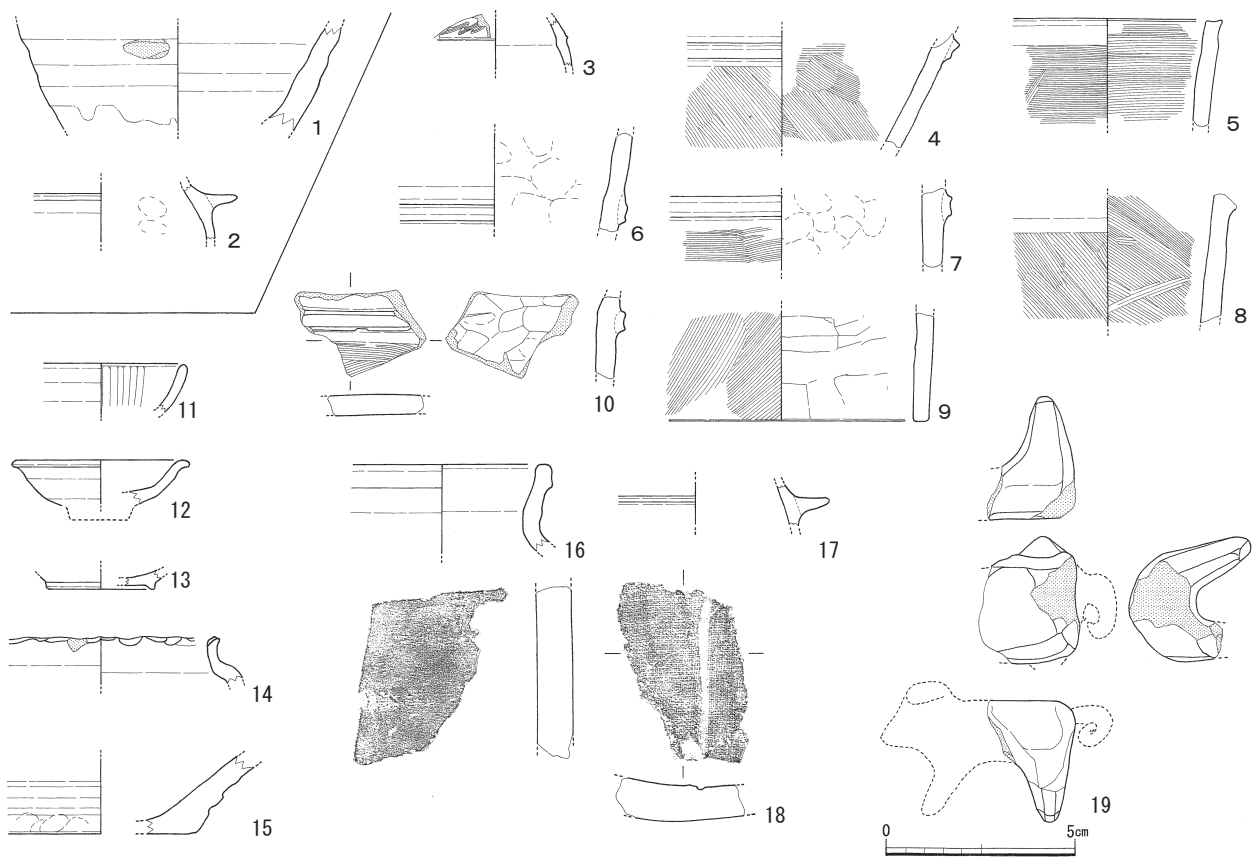


SK7



- ① 2.5Y3/1 黒褐色シルト
- ② 10YR1.7/1 黒色シルト、やや縮まり弱い
- ③ 10YR2/1 黒色シルト
- ④ 10YR2/2 黒褐色シルト、径10～50mm、2.5Y4/1 黄灰色～2.5Y5/2 灰黄褐色のシルトブロックを30%含む
- ⑤ 5Y6/1 灰色シルト（地山）

第IV-7図 双ツ塚西方遺跡SZ2・SK3～7平面図・断面図（SK4・5は1:20、それ以外は1:40）



第IV-8図 双ツ塚西方遺跡遺物実測図(19は1:2、42・43は1:1、それ以外は1:4)

破片である。本来、犬形土製品は、垂れた耳と巻いた尻尾など日本犬の特徴を有するが、本例は現品のみの破片資料であり、頭部付近の破片は見つからなかった。

S K 4 出土遺物 (20)

土師器甕もしくは壺の体下半部片である。風化が著しく詳細な調整は不明であるが、薄く仕上げられており、埴輪とほぼ同時期の古墳時代後期頃の所産であろう。

S K 7 出土遺物 (21)

弥生時代後期の高杯脚部片である。脚柱部上部に直線文による加飾があり、山中式期の所産であろう。

A 48 pit 1 出土遺物 (22)

土師器の高杯脚部片である。杯部底に脚上部を直接貼り付けている。古墳時代の所産であろう。

A 7 pit 2 出土遺物 (23)

瀬戸美濃産もしくは信楽伊賀産の土瓶蓋である。淡黄色の釉が掛けられている。

包含層等出土遺物 (24~43)

24は、須恵器大甕の胴部片である。

25~27は、埴輪片で、25~26は朝顔形埴輪片、27は円筒埴輪片である。

28は、土師器甕の口縁部片で、口縁端部がヨコナデによる外斜面をもつ。古墳時代後期~古代の所産であろう。

29~32は、山茶椀で、いずれもモミガラ圧痕をもつ。33も山茶椀質の焼成で、台付の鉢であろう。

34~36は、中世後期の土師器である。34は羽釜、35は南伊勢系の鍋、36は皿である。

37~41は、戦国期から近世の陶器・陶磁器類である⁽²⁾。37は、瀬戸産陶器の播鉢、38は削り出し高台で施釉の椀、39は肥前産陶磁器の椀で近世の所産、40は施釉の瓶で、生地が白色系の色調を呈している。41は、常滑産陶器の火鉢で、近世の所産である。

42・43は、太平洋戦争で使用されたとみられる機銃弾の空薬莖である。42は、断面径が20mmで基部に「DM4」の刻印があり、これは米国のDes Monies Ordnance Plant（米軍の兵器工場）1944年製造の略とみられ⁽³⁾、米軍機の13mm機銃弾、43は断面径が12mmで、日本軍の7.7mm機銃弾のものとみられる。（穂積）

第4節 小 結

1 遺構について

神戸段丘南段丘が北側へ派生した小支尾根は、双ツ塚西方遺跡よりも西側にある深田遺跡と、東側にある双ツ塚遺跡へ潜り込んでおり、双ツ塚西方遺跡はこの間の谷状部に相当している。そのため、遺構形成は極めて疎らで、ごく少数の溝や土坑があったに過ぎない。SZ2とした浅い落ち込みも、当地の谷状地形に照応した低湿部ということができよう。とはいえ、双ツ塚西方遺跡の遺構数の乏しさは、立地のみ起因するわけではない。第1節で述べたように、本遺跡は前回の圃場整備による工事で上部が相当削平された状況にあり、この影響もあって本来の遺構面が削平され、相当数の遺構が滅失したとみられる。

このうち、SZ2や包含層から、円筒埴輪や朝顔形埴輪が出土したことは注目できる。SZ2における埴輪出土状況は、後世の遺物と混在した状態での出土であり、SZ2自体が古墳周溝などの古墳関連遺構であった可能性は乏しいが、本調査区ないしは

その周辺に6世紀初頭前後の古墳が散在していた可能性は考慮してよからう。

2 遺物について

SZ2出土遺物のうち、犬形土製品は、これまで三重県では伊勢国司家・北畠氏の居館とされる津市多気北畠氏遺跡六田館跡をはじめ、国人領主・関氏の居館であった亀山市正法寺山荘跡、中勢地域の有力国人・長野氏の縁者で有力被官であった雲林院氏の関連施設とみられる下川遺跡、北勢地域の有力国人・赤堀氏の居館であった赤堀城跡、伊賀の領主層の居館である伊賀市の小泉氏館跡・箕升氏館跡・風呂谷館跡や土符・鑄造遺構の出土から領主層との関係が想定される火山遺跡など、在地支配者層の居館とその関連遺跡での出土事例が圧倒的である⁽⁴⁾。居館関連以外の出土例としては、津市位田遺跡や明和町斎宮跡、松阪市釜生田遺跡、伊賀市印代東方遺跡があるが、これらも有力な中世建物の存在など、在地支配層の関連遺跡であった可能性が高い。双ツ塚西方遺跡の犬形土製品も、破片ではあるがこれら県

内出土の犬形土製品の特徴と基本的に共通しており、周辺部に居館など領主層に関わる施設が存在していた可能性がある。

さて、双ツ塚西方遺跡の出土品で注目できる遺物として、13mm機銃と7.7mm機銃の薬莖がある。このうち、13mm機銃弾薬莖は、基部に「DM4」の刻印を有することから米国製のDes Monies Ordnance Plantで1944年に製造された機銃弾薬莖とみられ、同様のものが鹿児島県鹿屋市の前畑遺跡からも出土している⁽⁶⁾。前畑遺跡は、海軍の特攻拠点があった鹿屋航空基地（鹿屋飛行場）の北方2kmに所在する遺跡であり、機銃弾は鹿屋飛行場をめぐる日米の航空戦闘に関わる遺物とみられる。

双ツ塚西方遺跡の南には、かつて第二鈴鹿海軍航空基地と海軍の重戦闘機・雷電などを生産していた

三菱航空機工場があり、出土地東側の双ツ塚遺跡には基地や工場の防衛を担った対空砲台も設置されていた⁽⁶⁾。先の大戦末期の昭和20年4月には鈴鹿の海軍施設が空襲を受け、また7月には潮岬から侵入した米軍機（陸軍のP51 Mustang等）に対して三重県伊勢市（旧小俣町）にあった明野陸軍航空隊の陸軍戦闘機・五式戦などが迎撃に上がり、津から四日市上空で激しい空戦が行われている⁽⁷⁾。

双ツ塚西方遺跡から出土した2種類の薬莖も、米軍機と、迎撃の日本軍機（ただし五式戦には7.7mm機銃は未搭載、海軍の零戦などが候補）による空戦に伴って発射された機銃弾の薬莖が落ちたものとみられる。当地でも太平洋戦争に伴う戦闘が行われたことを如実に示す遺物といえよう。（穂積）

註

- (1) 愛知県史編さん委員会2007『愛知県史 別編窯業 2中世・近世 瀬戸系』愛知県
- (2) 前掲註(1) 文献の他、大橋康二1989『肥前陶磁』（考古学ライブラリー55）ニューサイエンス社、愛知県史編さん委員会2012『愛知県史 別編窯業3 中世・近世 常滑系』愛知県を参照
- (3) 四日市市教育委員会 山本達也氏（当時）のご教示による
- (4) 県内の犬形土製品に関する集成・論考として、下記文献を参照した。倉田直純1990「B. 犬形土製品につ

いて」『伊勢寺遺跡・下川遺跡ほか』三重県埋蔵文化財センター

- (5) 鹿児島県立埋蔵文化財センター2008『一般国道220号鹿屋バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（X）前畑遺跡Ⅱ』
- (6) 浅尾悟2015『鈴鹿市の戦争遺跡』鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会
- (7) 雲井保夫2015「三重県上空の空中戦 昭和20年7月16日」『三重ふるさと新聞』（furusato-shinbun.jp/2015/07/02-45.html）

報告番号	実測番号	種類	器種	地区	遺構層位	部位残存度	計測値 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
1	001-01	陶器	半胴甕	A16	S D 1	体部 3/12	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・施釉	密(～1.0mm 砂粒含む)	良好	素地:灰白 5Y7/1 釉:黒 10YR2/1	瀬戸 把手貼り付け 痕跡
2	001-02	土師器	羽釜	A16	S D 1	小片	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:鏝貼り付け後ヨコナデ	密(～2.0mm 砂粒含む)	-	にぶい黄橙 10YR6/4	煤付着
3	001-07	須恵器	杯蓋	A19	S Z 2	小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・波状文	密(～1.0mm 砂粒含む)	良	灰 7.5Y6/1・4/1	
4	002-05	埴輪	朝顔形	A19	S Z 2	-	-	-	-	内:ハケメ 外:突帯貼り付け後ヨコナデ・ハケメ	密(～3.0mm 砂粒含む)	-	明赤褐 5YR5/6	
5	002-02	埴輪	円筒	A20	S Z 2	-	-	-	-	内:ハケメ 外:突帯貼り付け後ヨコナデ・ハケメ	密(～3.0mm 砂粒含む)	-	にぶい橙 5YR6/4	
6	002-04	埴輪	円筒	A21	S Z 2	-	-	-	-	内:オサエ 外:突帯貼り付け後ヨコナデ・磨滅	密(～3.0mm 砂粒含む)	-	にぶい橙 7.5YR7/6	
7	002-03	埴輪	円筒	A19	S Z 2	-	-	-	-	内:オサエ 外:突帯貼り付け後ヨコナデ・ハケメ	密(～1.5mm 砂粒含む)	-	にぶい黄橙 10YR7/4	
8	003-01	埴輪	円筒	A21	S Z 2	口縁部 小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密(～1.5mm 砂粒含む)	-	にぶい黄橙 10YR7/3	
9	002-06	埴輪	円筒	A20	S Z 2	底部 小片	-	-	-	内:工具ナデ 外:ハケメ・ケズリ	密(～4.0mm 砂粒含む)	-	明黄褐 10YR6/6	
10	002-01	埴輪	形象	A20	S Z 2	-	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:突帯貼り付け後ヨコナデ・ハケメ	密(～1.0mm 砂粒含む)	-	にぶい黄橙 10YR7/4・7/3	
11	003-03	陶器	丸皿	A20	S Z 2	小片	-	-	-	内:施釉 外:施釉	密(微砂粒 含む)	良好	浅黄橙 10YR8/3	瀬戸美濃
12	003-05	陶器	皿	A20	S Z 2 アゼ	口縁部 1/12	8.8	-	-	内:施釉 外:施釉	密(～1.0mm 砂粒含む)	良好	素地:灰白 5Y7/1 釉:オリーブ黄 5Y6/3	
13	003-04	陶器	仏供 または 小杯	A20	S Z 2	底部 2/12	-	5.6	-	内:施釉 外:施釉・高台部貼り付け後ナデ	密(微砂粒 含む)	良好	素地:灰白 2.5Y8/2 釉:オリーブ黄 5Y6/6	古瀬戸または 瀬戸美濃

第IV-1表 双ツ塚西方遺跡遺物観察表 1

報告 番号	実測 番号	種類	器種	地区	遺構 層位	部位 残存度	計測値 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土 素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
14	001-05	陶器	短頸壺	A9・ 20	S Z 2 上面	口縁部 小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:キザミ・ロクロナデ	密 (微砂粒 含む)	良好	暗褐 7.5YR3/3	
15	001-04	陶器	練鉢	A20	S Z 2	小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・オサエ・ナデ	密 (~1.0mm 砂粒含む)	良好	内面:浅黄橙 10YR8/3 外面:にぶい橙 7.5YR6/4	常滑 内面摩耗
16	003-06	陶器	壺	A20	S Z 2	小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密 (~1.5mm 砂粒含む)	良好	灰黄褐 10YR4/2 褐灰 10YR5/1	常滑
17	001-03	土師器	羽釜	A20	S Z 2	小片	-	-	-	内:ナデ 外:鏝貼り付け後ヨコナデ	密 (~1.5mm 砂粒含む)	-	にぶい黄橙 10YR6/4	煤付着
18	001-06	瓦	平瓦	A21	S Z 2	-	-	-	-	内:布目 外:工具ナデ	密 (~3.0mm 砂粒含む)	良	灰 7.5Y5/1	
19	003-02	土製品	犬形	A20	S Z 2	後脚	-	-	-		密 (~2.0mm 砂粒含む)	-	にぶい黄橙 10YR7/4	
20	006-01	土師器	甕または 壺	A28	S K 4	-	-	-	-	内:磨滅 外:磨滅	密 (~5.0mm 砂粒含む)	-	にぶい橙 7.5YR6/4	煤付着
21	003-07	土師器	高杯	A32	S K 7	脚部 6/12	-	-	-	内:シボリ・ナデ 外:櫛歯直線文	密 (~1.0mm 砂粒含む)	-	にぶい黄 2.5Y6/3	
22	006-02	土師器	高杯	A48	Pit 1	-	-	-	-	内:ナデ・調整不明 外:調整不明	密 (~5.0mm 小石粒含む)	-	にぶい橙 5YR6/4	
23	006-03	陶器	蓋	A 7	Pit 2	口縁部 1/12	9.4	-	-	内:施釉 外:施釉・ロクロナデ	密	良	淡黄2.5Y8/3	瀬戸美濃または 信楽
24	005-01	須恵器	甕	A28	包含層	体部 小片	-	-	-	内:タタキ(同心円文) 外:タタキ後カキメ	密 (~2.0mm 砂粒含む)	良	内面:灰 5Y6/1 外面:灰白 5Y7/1	
25	005-06	埴輪	朝顔形	A23	包含層	小片	-	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ・沈 線	密 (~2.0mm 砂粒含む)	-	内面:橙 5YR7/6 外面:にぶい褐 7.5YR5/3	
26	005-04	埴輪	朝顔形	A22	包含層	小片	-	-	-	内:ハケメ・ナデ 外:突帯貼り付け後ナデ	密 (~2.0mm 砂粒含む)	-	にぶい橙 5YR7/4	
27	005-05	埴輪	円筒	A28	包含層	小片	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・突帯貼り付け後ヨコナデ	密 (~4.0mm 砂粒含む)	-	浅黄橙 7.5YR8/4	
28	005-02	土師器	甕	A38	包含層	小片	-	-	-	内:ハケメ?・ヨコナデ 外:ヨコナデ	密 (~3.0mm 砂粒含む)	-	明赤褐 2.5YR5/6	
29	004-05	陶器	山茶碗	A22	包含層	底部 3/12	-	6.8	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・ 糸切痕跡	密 (~1.5mm 砂粒含む)	良	灰白 2.5Y8/1	自然釉
30	004-09	陶器	山茶碗	A49	包含層	底部 3/12	-	6.8	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・ 糸切痕跡	密 (微砂粒 含む)	良	灰白 5Y8/1	内面研磨
31	004-08	陶器	山茶碗	A38	包含層	底部 12/12	-	6.0	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・ 糸切痕跡	密 (~3.0mm 砂粒含む)	良	灰白 2.5Y7/1	
32	004-07	陶器	山茶碗	A35	包含層	底部 3/12	-	8.0	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・ 糸切痕跡	密 (~2.0mm 砂粒含む)	良	灰白 2.5Y7/1	内面研磨
33	004-06	陶器	台付鉢	A33	包含層	台部 12/12	-	-	-	内:不明 外:ハケメ・ナデ・高台部貼り付け後ナデ・ 糸切痕跡	密 (~5.0mm 砂粒含む)	やや 不良	灰白 5Y7/1	
34	005-03	土師器	羽釜	A27	包含層	口縁部 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・鏝貼り付け後ナデ	密 (~1.5mm 砂粒含む)	-	内面:褐灰 10YR4/1 外面:にぶい橙 5YR6/3	
35	004-12	土師器	鍋	A49	包含層	小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密 (~1.0mm 砂粒含む)	-	にぶい黄橙 10YR7/3	煤付着
36	004-03	土師器	皿	A22	包含層	小片	-	-	-	内:ナデ, ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ・オサエ	密 (~1.0mm 砂粒含む)	-	にぶい橙 7.5YR7/4	
37	004-01	陶器	掃鉢	A49	包含層	小片	-	-	-	内:ロクロナデ・櫛目 外:ロクロナデ・鉄釉	密 (微砂粒 含む)	良	素地:灰白 7.5YR8/2 釉:暗赤褐 5YR3/2	
38	004-10	陶器	椀	A35	包含層	底部 9/12	-	5.2	-	内:ロクロナデ・施釉 外:ロクロナデ・施釉・研磨出し高台	密 (~2.0mm 砂粒含む)	良	灰黄 2.5Y7/2	煤付着
39	004-04	磁器	椀	A 3	包含層	底部 4/12	-	4.0	-	内:ロクロナデ・施釉 外:ロクロナデ・施釉	密	良	灰白 5Y8/1	肥前
40	004-11	陶器	瓶	A 1	包含層	底部 6/12	-	3.6	-	内:ロクロナデ・施釉 外:ロクロナデ・施釉・糸切痕跡	密 (微砂粒 含む)	良	灰白 10YR8/2	
41	004-02	陶器	火鉢	A 3	包含層	小片	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	密 (赤色粒 含む)	良	橙 2.5YR6/6	常滑

第IV-2表 双ツ塚西方遺跡遺物観察表2

報告 番号	実測 番号	器種	地区	遺構 層位	計測値 (cm)			重量 (g)	特記事項	
					長/径	幅/高	厚			
42	006-04	鉄製品	葉莢	A 3	包含層	-	2.0	0.18	7.82	DM4の刻印あり、米軍機の13mm機銃銃か
43	006-05	鉄製品	葉莢	A28	造成土	-	1.2	0.9	38.13	日本軍の7.7mm機銃銃か

第IV-3表 双ツ塚西方遺跡金属製品観察表

第V章 中島遺跡

第1節 調査の概要

中島遺跡は、深田遺跡の東側に隣接し、双ツ塚遺跡の北方に位置する。

今回の調査は、既設の道路内に新たに埋置する水路部分を対象としており、複数の調査区に分かれる。工事区間にあわせてA～H区を設定した。

A区は東西に長い調査区で、西端は深田遺跡（第3次）D区東端に接している。B区・D区は金沢川寄りに位置する東西に長い調査区で、B区西端がD区東端と接する。B区とD区が接する箇所から南へ南北方向に長いE区があり、E区南端の南にG区が繋がっている。E区・G区の境界から西へ延びるのがC区である。G区南端から西へ延びるのがF区、東へ延びるのがH区である。幅が狭いものの遺跡内

を縦断・横断し、調査区によって微高地・微凹地などの地形の変化を確認することができた。

A区東半・B区西半・D区東半・F区は、微高地にあたり、検出面はA・F区が標高約5m、B・D区が約4.5mとなる。基本層序はA・F区が表土及び造成土直下で遺構検出面に達する。B区は造成土以下に暗オリーブ褐色粘土、灰黄褐色シルト、黒色粘土が堆積する。D区が造成土以下に黒色粘土や黒褐色シルトが堆積している。A区西半・B区東半・C区・D区西半・E区は低くなり、検出面が標高3.8～4.2mとなる。埋土は各調査区によって異なるが、概ね黄灰色～暗オリーブ褐色粘土、黒褐色粘土、黒色粘土等が堆積している。（原田）

第2節 遺構

ここでは遺構の概要について記述する。詳細は遺構一覧表を参照されたい。

SZ1 A1・2で検出した幅7.6m以上、検出面からの深さ44cmの落ち込み状を呈する。黄灰色粘質土、黒褐色粘質土、灰白色粗砂にぶい黄色シルト等が薄く堆積する。同様の堆積状況は、深田遺跡第3次調査d49地区まで認められ、少なくともそこまで広がっていたと思われる。

SD2 A4・5で検出した幅3.97m、深さ32cmの溝である。底部付近で南側に平坦面をもつ。向きはN25°Eである。埋土から、土師器小片が出土した。

SD3 A6・7に位置する。向きはN72°Eである。SD3の東肩は下がり約1.2m東にSD4がある。土層からSD3埋没後にSD4が機能していたと思われる。

SD4 A7で検出した幅1.56m、深さ43cmの断面形がU字状の溝で、向きはSD3とほぼ同じである。出土遺物のうち図示できたのは陶器折縁皿である。

SD5 A15・16で検出した幅0.85m、深さ25cmの緩い傾斜をもつ溝である。向きはN90°である。室町時代の遺物を中心に出土している。

SD5より東はかく乱が多く、遺物の出土が希薄になる。また、調査区が狭小であるため、崩落の危険を避けるため、施工深までの深さで調査をし、必要に応じて部分的に地山面の確認を行った。

SD6 A33で検出した幅0.7m、深さ19cmの南側が緩く傾斜した溝である。向きはN0°である。出土遺物は認められず、時期不明である。

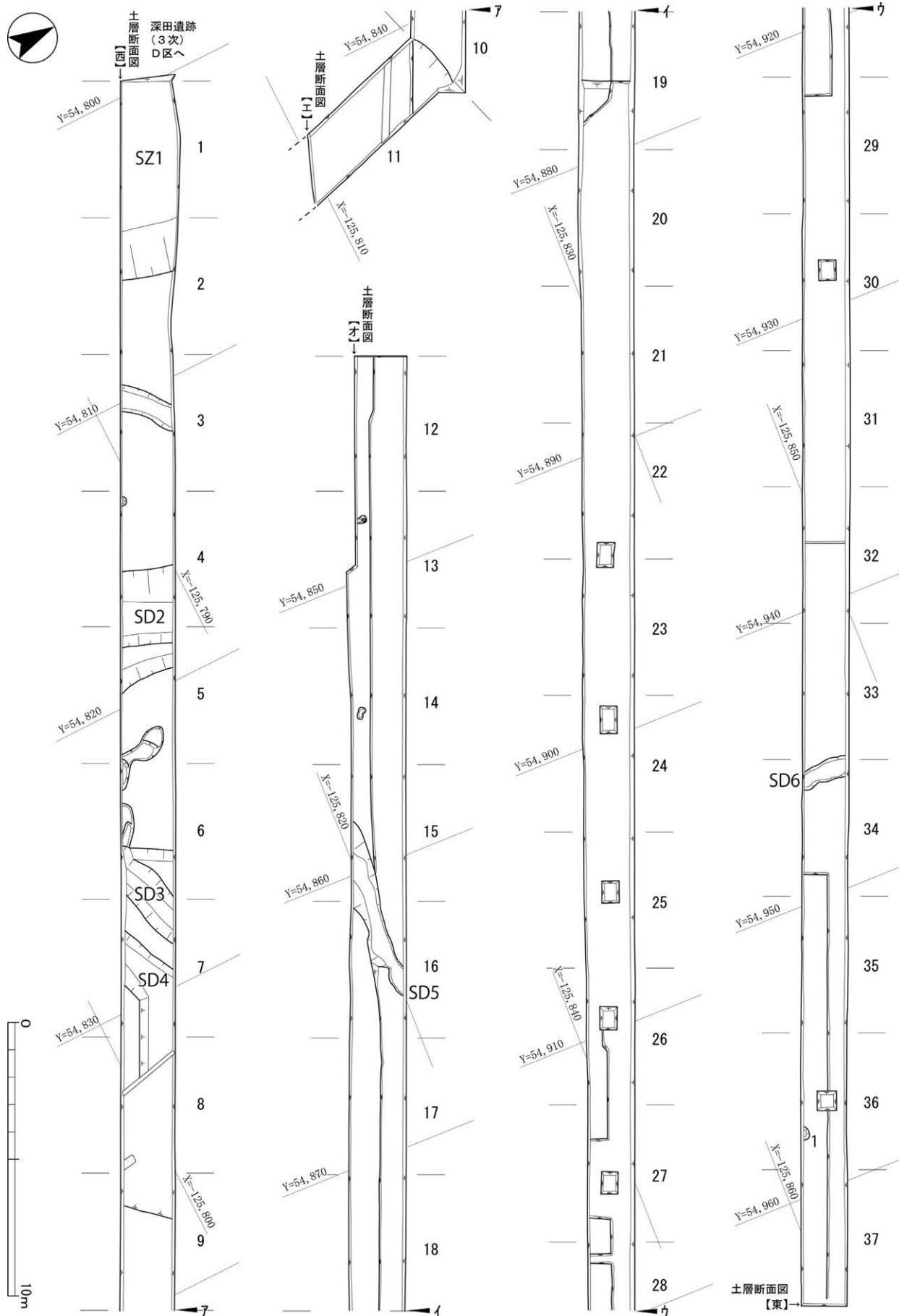
SK101 B1で検出した南北0.59m×東西1.3m以上、深さ1.03mと規模の割に深い。底は湧水層に達し、完掘後は常に湧水していた。埋土から弥生土器が出土した。最下層から出土した炭化材は、ツバキ属であった。

SD102 B1・2で検出した幅0.26m、深さ22cmの溝である。向きはN60°Wである。SK104より古い。

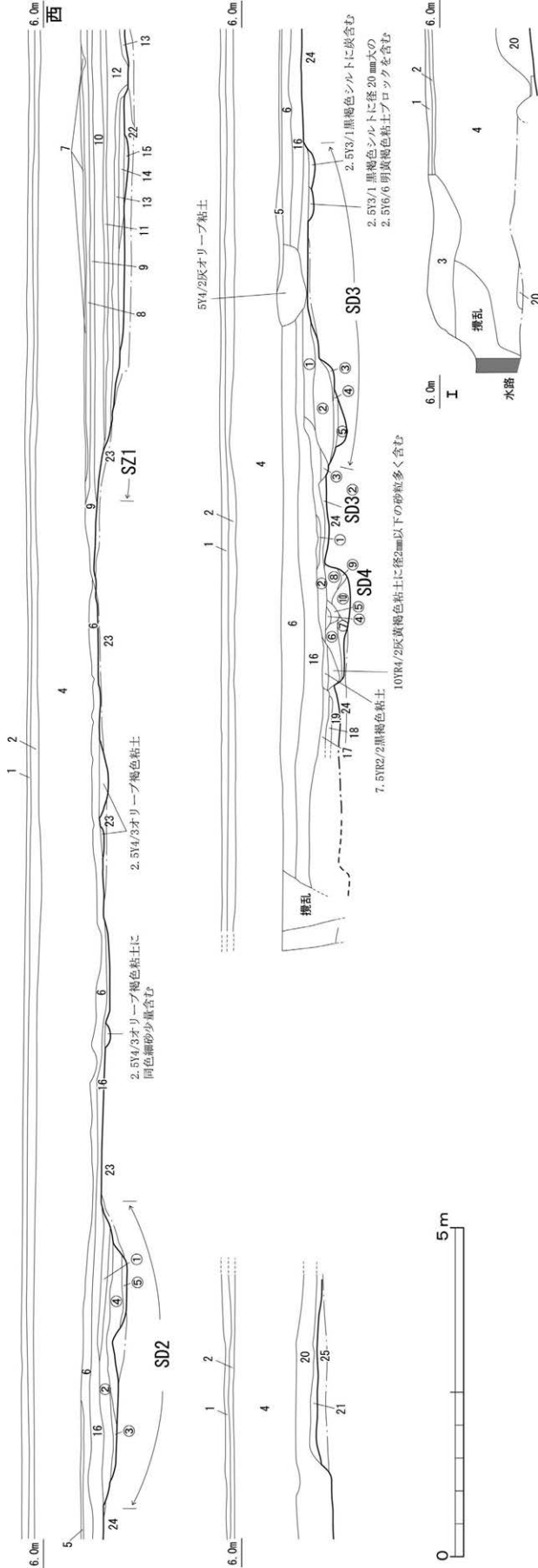
SK103 B1・2で検出した南北0.9m以上、1.1m以上、深さ5cmの円形土坑である。土師器が少量出土した。

SK104 B2で検出した南北1.9m以上×東西1m以上、深さ3cmの浅い方形とみられる土坑である。

SK105 B2で検出した南北1m以上×東西2.2m、



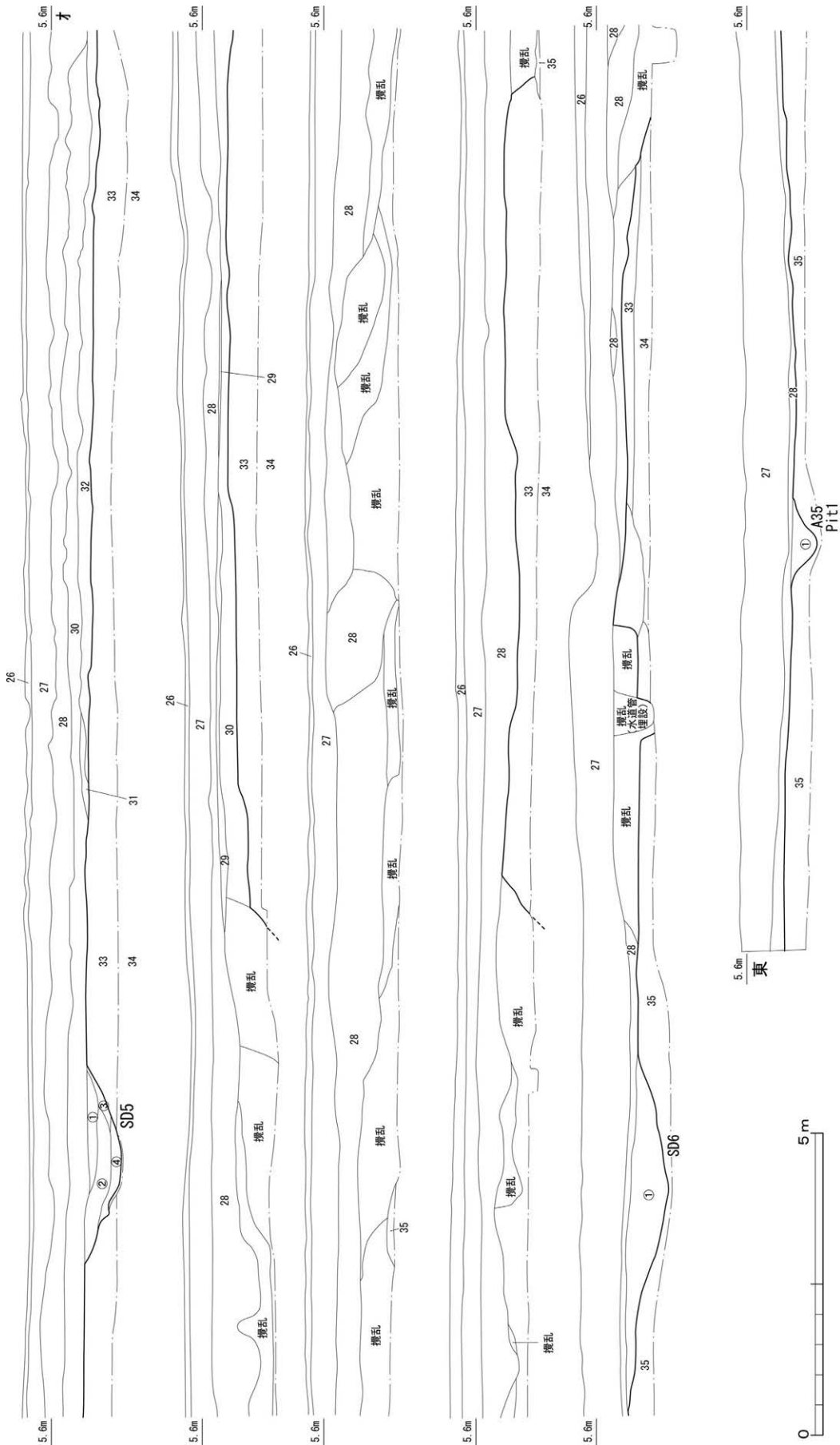
第V-1図 中島遺跡A区平面図(1:200)



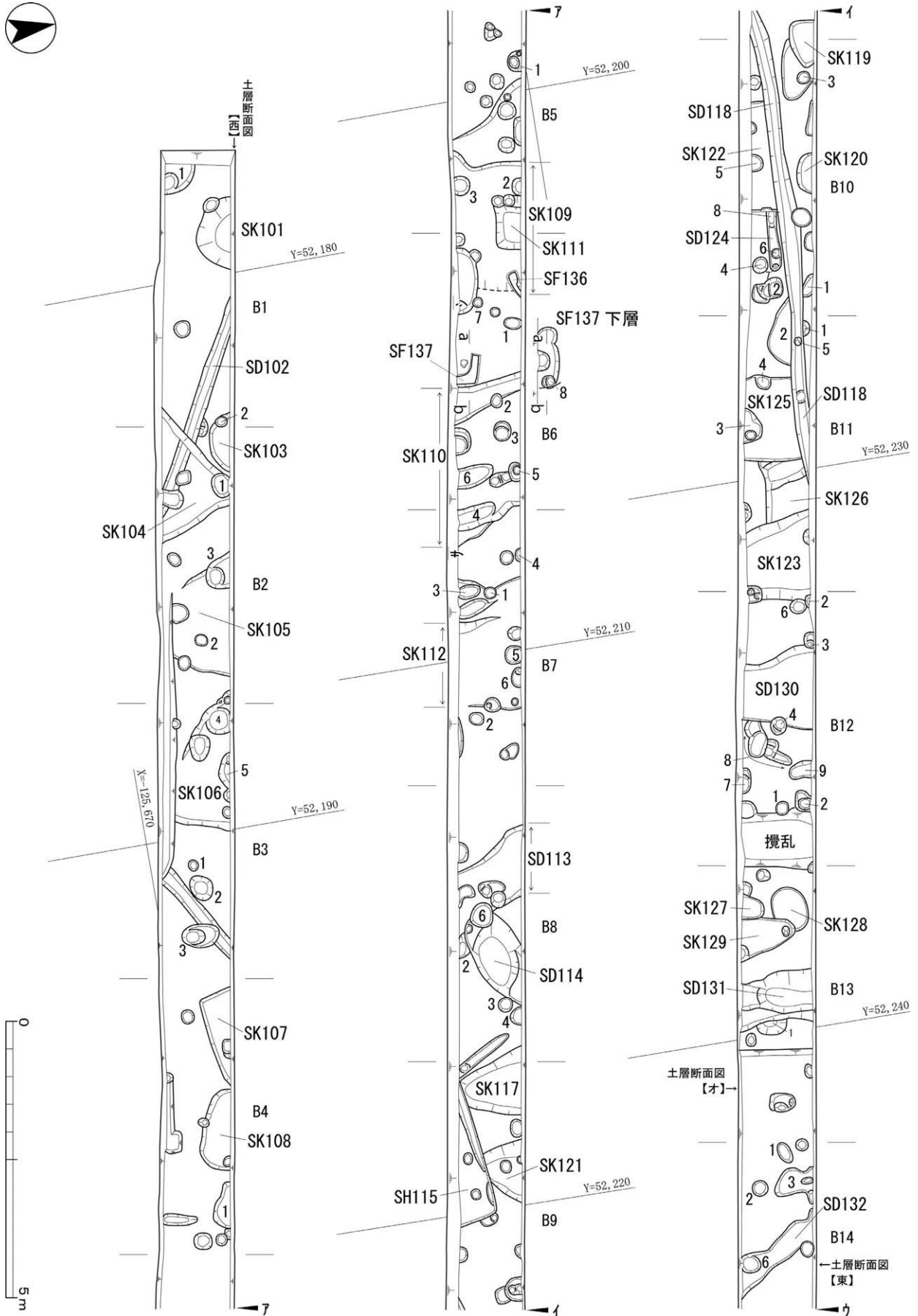
第V-2図 中島遺跡A区土層断面図1 (1:100)

- SD2**
- ① 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土に径2mm以下の礫多く含む
 - ② 2.5Y4/2 灰オリーブ褐色粘土に2.5Y3/1 黒褐色粘土と2.5Y5/6 黄褐色粘土が径5cm程度のブロック状に混入
 - ③ 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト
 - ④ 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土に径2cm以下の礫多く含む
 - ⑤ 2.5Y4/2 灰オリーブ色粗砂に径20mm以下の礫多く含む
- SD3**
- ① 2.5Y4/1 黄褐色シルト
 - ② 7.5Y3/2 オリーブ黒色粘土
 - ③ 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土に径50mm大の2.5Y5/4 黄褐色粘土ブロック多く含む
 - ④ 2.5Y4/1 黄褐色粘土
 - ⑤ 5Y4/1 灰色粘土に径2mm以下の砂粒多く含む
- SD4**
- ① 7.5Y2/1 黒色粘土に径2mm以下の砂粒多く含む
 - ② 10Y2/3 暗褐色粘土に径2mm以下の砂粒多く含む、灰含む
 - ③ 10Y3/1 黒褐色粘土に径2mm程度の炭を粒状に含む
 - ④ 10Y4/2 灰褐色粘土に径10mm大の19YR6/6 明黄褐色粘土ブロック少量含む
 - ⑤ 10Y4/1 褐色粘土に粗砂多く含む
 - ⑥ 7.5Y5/4 に近い褐色粘土に炭、径2mm以下の砂粒を多く含む
 - ⑦ 7.5Y2/1 黒色粘土に炭を含む
 - ⑧ 2.5Y3/2 黒褐色粘土に炭・粗砂を含む
 - ⑨ 2.5Y3/1 黒褐色粘土に径10mm大の2.5Y5/1 オリーブ灰色粘土少量含む
 - ⑩ 10Y5/3 に近い黄褐色粘土に2.5Y5/3 黄褐色粘土、径2mm大の礫多く含む
- 1 アスファルト**
- 2 礎石
 - 3 7.5Y4/2 灰褐色土 (表土)
 - 4 改良土
 - 5 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土に径20mm以下の礫多く含む
 - 6 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土に径20～50mm大の礫多く含む
 - 7 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土
 - 8 10Y4/2 灰黄褐色粘質土
 - 9 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土
 - 10 10Y4/3 に近い黄褐色砂質土、径5cmまでの礫、マンガンを斑状に多く含む (SZ1 埋土)
 - 11 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土 (SZ1 埋土)
 - 12 2.5Y4/1 黄褐色粘質土、鉄分を多く含む (SZ1 埋土)
 - 13 10Y2/2 黒褐色粘質土 (SZ1 埋土)
 - 14 2.5Y7/1 灰白色粗砂 (SZ1 埋土)
 - 15 10Y2/2 に近い黄色シルトに同色粗砂多く含む (SZ1 埋土)
 - 16 5Y4/2 灰オリーブ粘土
 - 17 7.5Y3/2 黒褐色砂質土
 - 18 7.5Y3/1 黒褐色砂質土に灰含む
 - 19 10Y3/1 黒褐色粘土に炭、径3cm大の2.5Y6/3 に近い黄色粘土ブロック少量含む
 - 20 2.5Y4/1 黄褐色粘土、細砂・炭・木の屑片を含む
 - 21 2.5Y3/1 黒褐色粘土に径10mm大の2.5Y6/1 オリーブ灰色粘土少量含む
 - 22 10YR6/4 に近い黄褐色中粒砂 (地山)
 - 23 10YR6/6 明黄褐色粗砂に径20mm大の礫多く含む (地山)
 - 24 5Y5/2 灰オリーブ色シルト、マンガン沈殿、炭多量を含む (地山)
 - 25 5Y5/2 灰オリーブ色粘土に2.5Y3/1 黒褐色粘土を斑状に含む (地山)

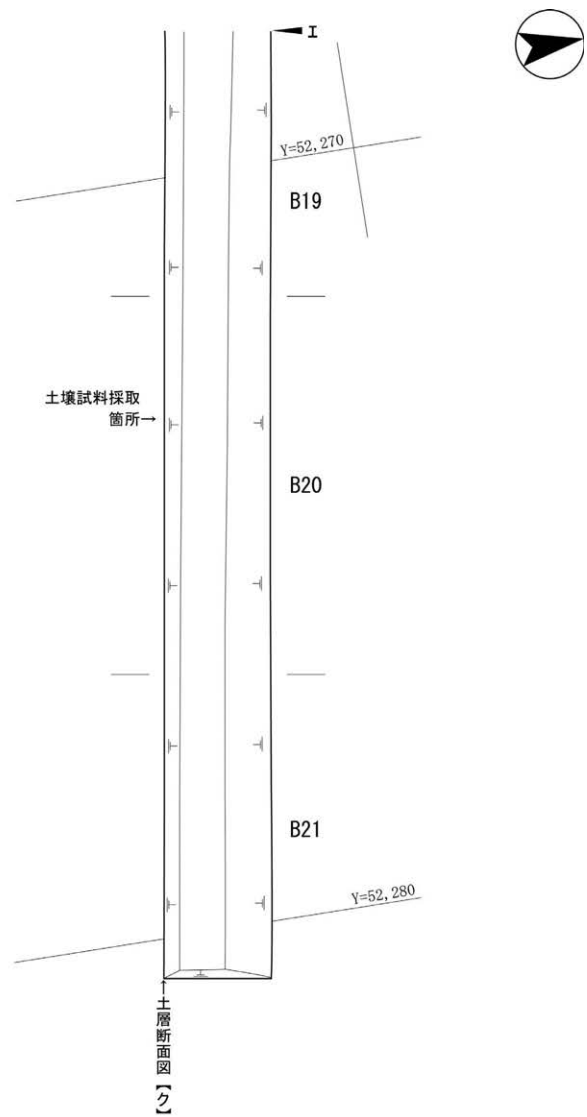
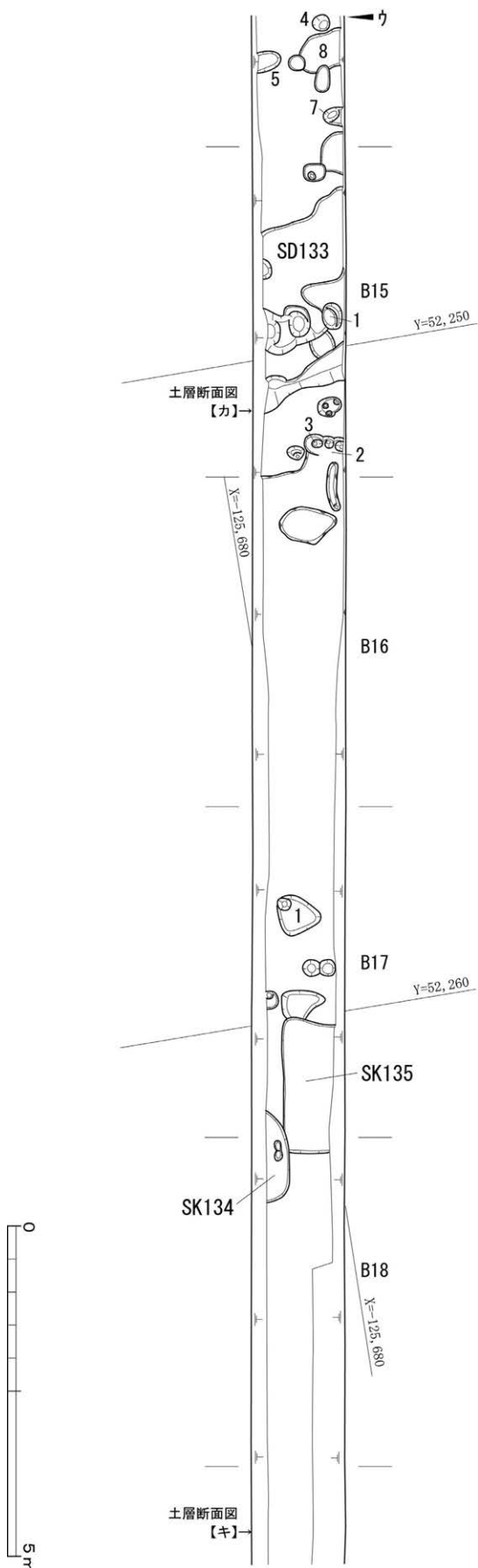
第V-3図 中島遺跡A区土層断面図2 (1:100)



- 26 表土
 27 耕作土
 28 造成土
 29 2.5V4/2 暗灰黄色シルト、径8mmまでの礫を少量含む
 30 10YR3/3 暗褐色シルト
 31 10YR2/1 黒色シルト
 32 10YR3/1 黒褐色シルト (包含層)
 33 10YR5/6 黄褐色シルト (地山)
 34 7.5Y7/1 灰白色粘土 (地山)
 35 黄灰色土～砂 (地山)
- SD5
 ① 10YR3/4 暗褐色シルト、10YR5/6 黄褐色シルトを少量、鉄分を多く含む
 ② 10YR3/2 黒褐色シルト、径5mmまでの礫を微量含む
 ③ 10YR2/2 暗褐色シルト、10YR5/6 黄褐色シルトを斑状に含む
 ④ 10YR3/4 暗褐色土、径10mmまでの礫を多く含む
- SD6
 ① 暗褐色シルト
 A35 Pit1
 ① 黒褐色土



第V-4図 中島遺跡B区平面図1 (1:100)



深さ 3 cm の浅い不整形の土坑である。

SK106 B 3 で検出した南北 2.2 m × 東西 1 m 以上、深さ 8 cm の不整形な土坑である。

SK107 B 4 で検出した南北 0.52 m 以上 × 東西 1.5 m 以上、深さ 6 cm の土坑である。すべてを確認したわけではないが、隅丸方形になるとみられる。

SK108 B 4 で検出した南北 0.55 m 以上 × 東西 1.45 m、深さ 5 cm の土坑である。平面プランは長楕円形になるとみられる。

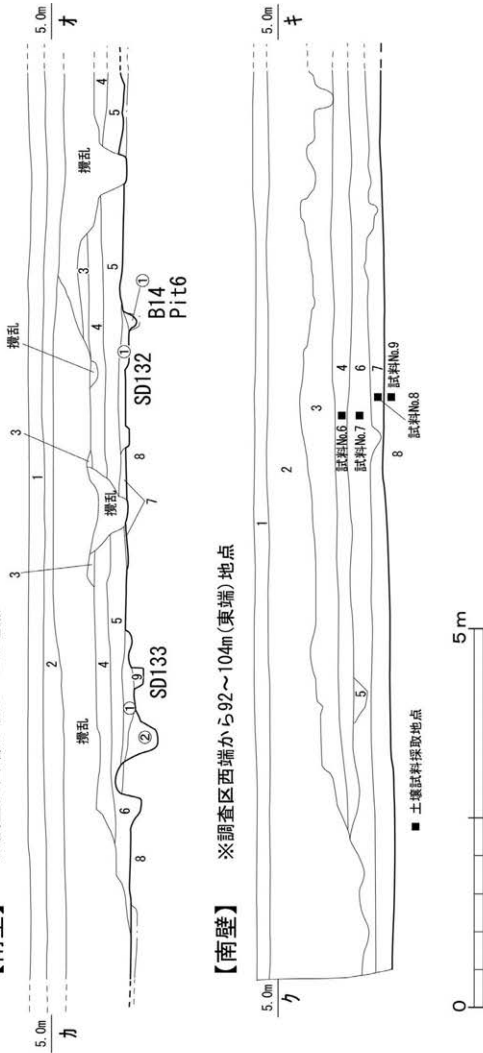
SK109 B 5・6 で検出した南北 1.15 m 以上 × 東西 2.35 m、深さ 3 cm の浅い土坑である。埋土に焼土を含む。SK111 より新しい。平面プランでは東端が不明瞭である。埋土から出土した炭化材を分析したところ、トチノキに同定された。SK109 の東側の北壁でカマドとみられる焼土塊 (SF137) を確認したが、SK109 との関連は不明である。

SK110 B 6 で検出した南北 1.15 m 以上 × 東西 2.7 m、深さ 4 cm の不整形な土坑である。

第 V-5 図 中島遺跡 B 区平面図 2 (1:100)

- 【北壁】
- SK112
 - ① 7.5YR3/4 暗褐色シルト
 - ② 7.5YR3/1 黒褐色粘土に5Y5/2灰オリーブ色シルト、径5mm大の5YR4/1にぶい赤褐色粘土ブロックを含む
 - B7 Pit5
 - ① 10YR3/1 黒褐色粘土に地山粘土少量含む
 - B7 Pit6
 - ① 10YR3/1 黒褐色粘土に地山粘土少量含む
 - SD113
 - ① 7.5YR3/1 黒褐色粘土に炭、径2cm程度の7.5YR5/6明褐色粘土が乾状に少量混じる
 - SD114
 - ① 10YR3/1 黒褐色粘土に地山粘土少量含む
 - SK117
 - ① 7.5YR3/3 暗褐色粘土に径5cm大の地山粘土ブロックを多く含む
 - B10 Pit6
 - ① 10YR2/2 黒褐色シルトに炭少量含む、(締まり悪い)
 - ② 7.5YR2/2 黒褐色粘土に10YR4/3にぶい黄褐色シルトを少々含む
 - SK121
 - ① 10YR3/1 黒褐色粘土に径2mmの礫を多く含む
 - SK119
 - ① 7.5YR3/1 黒褐色粘土に径2cm大の地山ブロックを多く含む
 - ② 7.5YR2/1 黒褐色粘土に径2cm大の地山ブロックを多く含む
 - ③ 7.5YR2/1 黒褐色粘土に径2mm程度の白色礫を多く含む
 - B10 Pit1
 - ① 10YR4/3にぶい黄褐色シルトに地山土を少量含む
 - SD118
 - ① 10YR4/2 灰黄褐色シルトに径5mm大の白色礫を少量
 - SK126
 - ① 10YR7/2 黒褐色シルト
 - SK123
 - ① 10YR3/1 黒褐色シルトに地山土を少量含む
 - B11 Pit2
 - ① 10YR2/2 黒褐色粘土に径1cm程度の地山ブロックを少量含む
 - ② 10YR2/1 黒褐色粘土に炭、径1cm程度の地山ブロックを少量含む
 - SD130
 - ① 10YR3/1 黒褐色粘土に炭、径2cm程度の地山ブロックを多く含む
 - B12 Pit9
 - ① 10YR2/1 黒褐色粘土に炭、径2cm程度の地山ブロックを多く含む
 - B12 Pit3
 - ① 7.5YR2/3 暗褐色シルトに7.5YR4/1 褐色シルト、地山土多く含む
 - ② B12 Pit9より地山土の包合が少ない
 - SD131
 - ① 10YR2/1 黒褐色粘土に細砂、径3～5cm程度の地山土を少量含む
 - SD133
 - ① 10YR2/1 黒褐色粘土に地山土を少量含む

【南壁】 ※調査区西端から64～74m地点

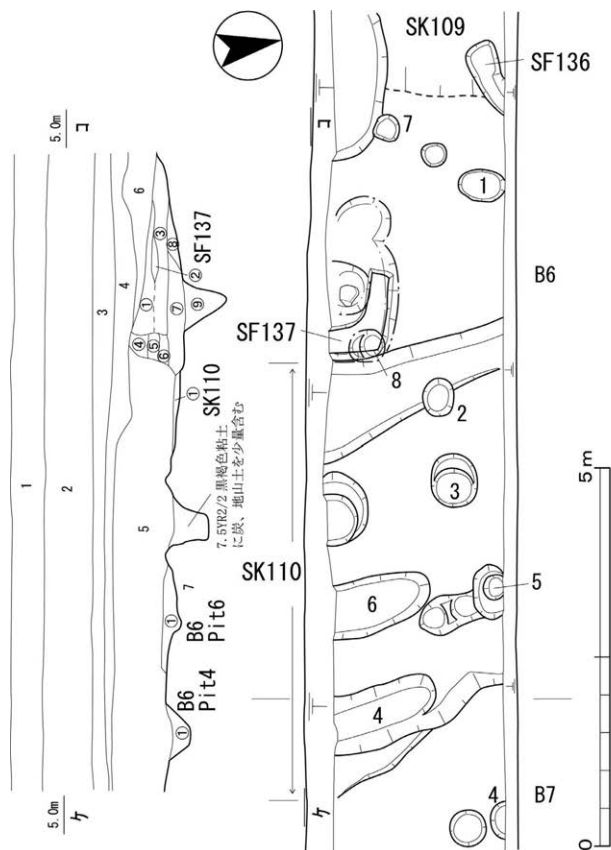


【調査区南壁】 ※調査区西端から64～74m地点

- 1 砕石
 - 2 造成土
 - 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト
 - 4 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘土、炭を含む
 - 5 7.5YR2/2 黒褐色粘土に10YR5/3にぶい黄褐色粘土を少量含む
 - 6 10YR3/1 黒褐色粘土に径2mm以下の礫を多く含む
 - 7 10YR3/2 黒褐色粘土に径5cm程度の10YR6/2明黄褐色粘土をブロック状に含む
 - 8 7.5YR4/3 褐色粘土、径2mm以下の礫を含む(地山)
 - 9 10YR3/1 黒褐色粘土に地山土が径2cm程度の粒状に混じる
- SD133
- ① 2.5Y3/1 黒褐色粘土に炭少量含む(マンガン沈着)
 - ② 10YR2/1 黒褐色粘土に地山土少量含む
- SD132
- ① 7.5YR3/1 黒褐色粘土に径3cm程度の10YR4/4 褐色粘土、炭、径2mm以下の礫を少量含む
- B14 Pit6
- ① 10YR3/1 黒褐色粘土に径2cm程度の10YR6/6明黄褐色粘土をブロック状に含む埋立土
 - 2.5Y5/2 暗灰黄色シルトに細砂少量含む(画像裏面の水路)
 - 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土に径5cm程度の2.5Y3/2 黒褐色粘土をブロック状に含む

【調査区南壁】 ※調査区西端から92～104m地点

- 1 砕石
- 2 造成土
- 3 7.5YR4/1 灰色シルト
- 4 10YR2/2 黒褐色粘土に細砂、10YR4/3にぶい黄褐色粘土ブロックを多く含む、炭少量含む
- 5 10YR4/3にぶい黄褐色粘土
- 6 10YR2/2 黒褐色粘土(粘性は4より粘性强い)
- 7 10YR1/7/1 黒褐色粘土(粘性は4と同程度)
- 8 10YR5/2 灰黄褐色粘土(粘性は5と同程度)(地山)



S F 137 周辺土層

- 1 碎石
- 2 造成土
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト
- 4 5Y4/3 暗オリーブ色シルト (マンガン沈着)
- 5 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘土、炭含む
- 6 10YR3/2 黒褐色粘土に細砂、径2~5cm大の地山土及び5YR4/4にぶい赤褐色粘土、炭を多く含む
- 7 7.5YR4/3 褐色粘土、径2mm以下の礫を含む (地山)

B6 Pit4

- ① 10YR3/2 黒褐色粘土に炭、地山土を少量含む
- ⑧ 7.5YR3/1 黒褐色粘土、炭を少量含む

B6 Pit6

- ① 10YR3/3 暗褐色粘土に炭、地山土、径2mm以下の礫を含む

SK110

- ① 7.5YR3/1 黒褐色粘土、炭を少量含む

SF137

- ① 10YR2/1 黒色粘土に炭を多く含む
- ② 5Y3/3 暗赤褐色粘土 (被熱度低い、焼土か)
- ③ 10YR2/3 黒褐色粘土に5YR4/4にぶい赤褐色粘土を極少量含む
- ④ 2.5Y6/4にぶい黄色シルト
- ⑤ 10YR3/1 黒褐色粘土に5YR4/4に径2~3cm大のぶい赤褐色粘土、10YR5/1 褐灰色細砂、炭、径1cm大の④が粒状に混じる
- ⑥ 10YR3/1 黒褐色粘土に10YR5/1 褐灰色細砂を少量含む
- ⑦ 10YR2/3 黒褐色粘土に細砂を少量含む
- ⑧ 10YR3/3 暗褐色粘土
- ⑨ 10YR2/3 黒褐色粘土に地山土、径2mm以下の礫がブロック状に少量混じる

第V-8図 中島遺跡B区SF137周辺図(1:50)

SK111 B5・6で検出した南北0.42m以上×東西0.98m、深さ15cmの隅丸方形になるとみられる土坑である。SK109より古い。

SK112 B7で検出した南北1.15m以上×東西1.55m、深さ4cmの浅い不整形の土坑である。

SD113 B8で検出した幅1m、深さ9cmの溝である。向きはN20°Wである。SD114より古い。

SD114 B8で検出した幅0.9m、深さ14cmの溝で、北壁付近は非常に浅い。向きはN60°Eである。SD113より新しい。

SH115 B9で検出した南北0.65m以上、東西2m以上の堅穴建物である。隅丸方形になるとみられ、北側で壁周溝を確認した。向きはN84°Eである。

SK116 B6に位置する。カマドSF137の下にあり、掘削後に確認した。東西1.05m×南北0.35m以上、深さ26cmの不整形な土坑で、中央付近がさらに1段下がる。

SK117 B9で検出した南北1.12m以上×東西1.1m、深さ33cmの土坑である。SH115より古い。

SD118 B9~11で検出した幅0.26m、深さ13cm

の断面逆台形の溝である。遺構検出面より1層上の黒褐色粘土から掘り込まれている。やや蛇行するものの、向きは概ねN85°Wである。SK125より新しい。

SK121 B9で検出した南北0.6m以上×東西1.24mである。西隣にあるSK117と平面形態が類似する。

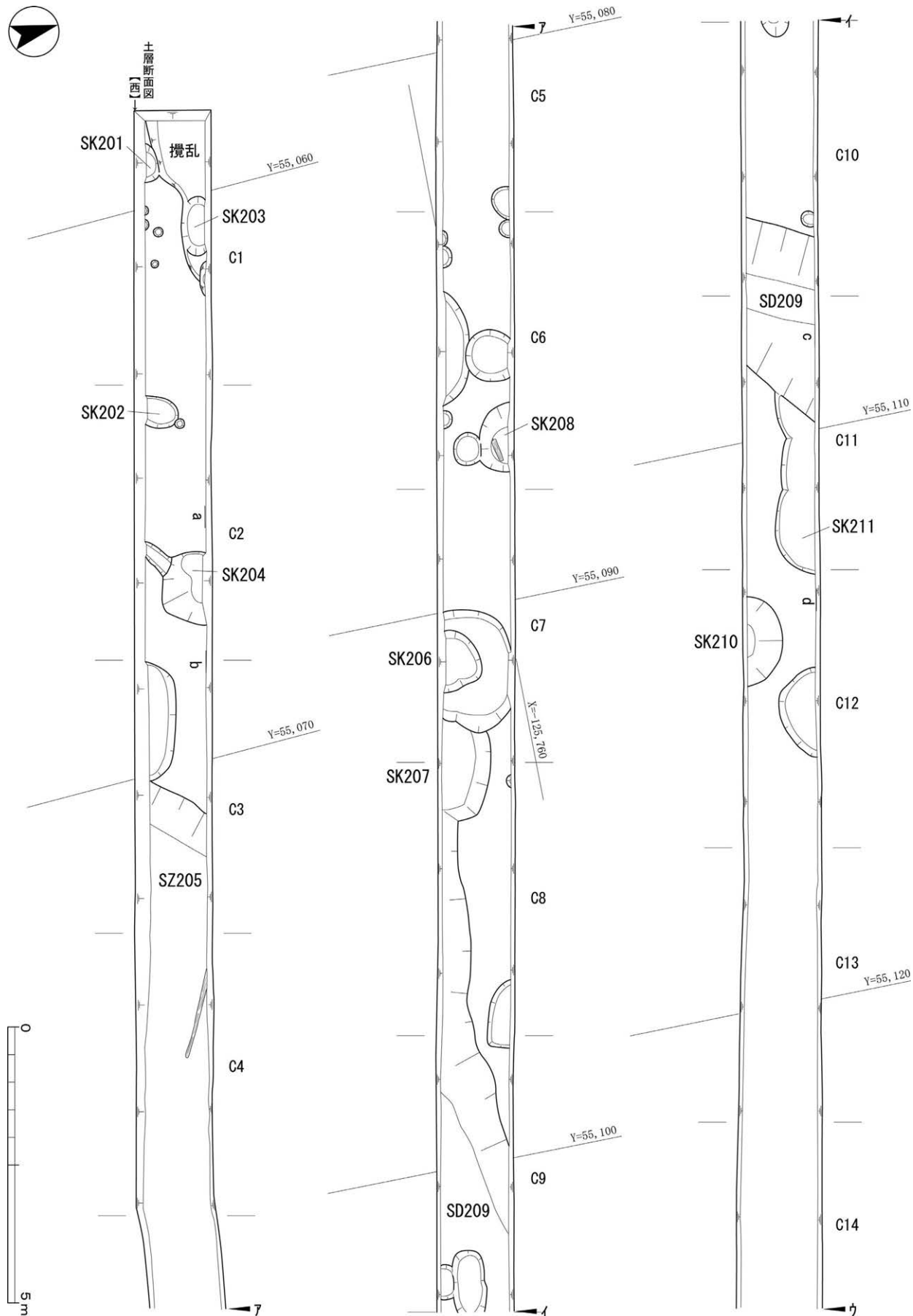
SK122 B10で検出した南北2m以上×東西0.4m、深さ2cmの浅い土坑である。SD118より古い。

SK123 B11・12で検出した南北1.12m以上×東西1.42m、深さ6cmの土坑である。SK126より新しい。

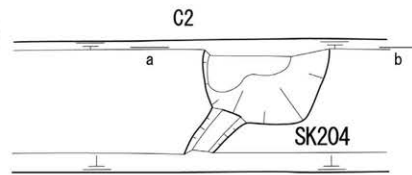
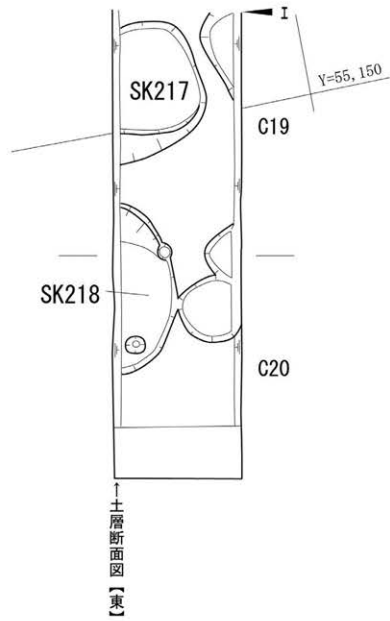
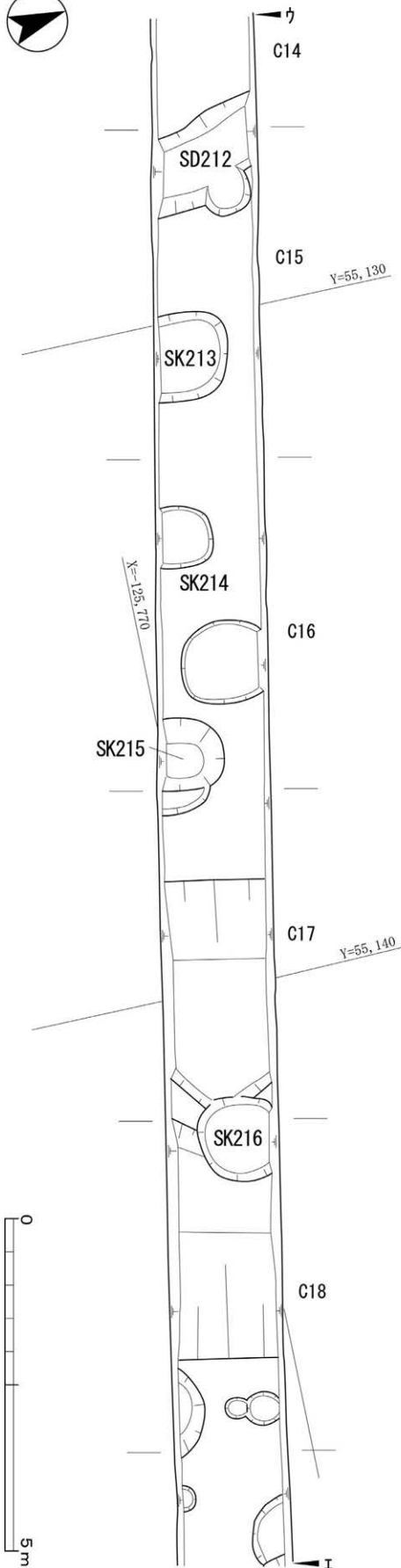
SK125 B11で検出した南北0.9m以上×東西1.51m、深さ3cmの方形になるとみられる浅い土坑である。SK126より新しく、SD118より古い。

SK126 B11で検出した南北1m以上×東西0.77cm以上、深さ9cmの土坑である。SK123・125より古い。

SK127 B13で検出した南北0.38m以上×東西0.54m、深さ10cmの土坑である。SK129より新しい。



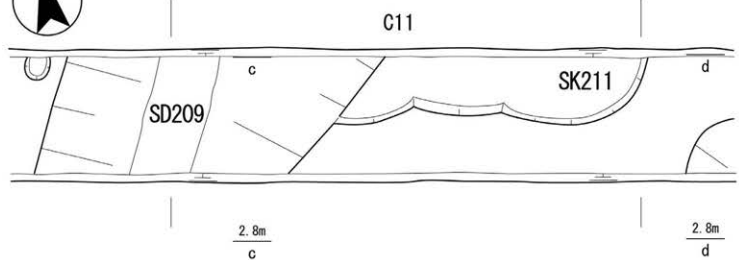
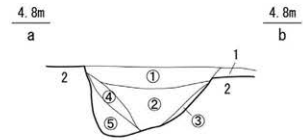
第V-9图 中島遺跡C区平面图1 (1:100)



SK204

- ① 10YR3/1 黒褐色粘土 (鉄分多く含む)
- ② 10YR2/1 黒色粘土
- ③ 10YR4/1 褐灰色粘土
- ④ 記載なし
- ⑤ 10YR5/1 褐灰色砂

- 1 10YR3/2 黒褐色粘土、鉄分を多く含む (土器少量含む)
- 2 10YR6/8 明黄褐色粘土 (場所により青灰色に変化) (地山)



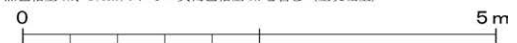
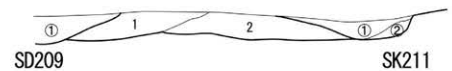
SK211

- ① 10YR1.7/1 黒色粘土
- ② 10YR2/2 黒褐色粘土に 2.5Y7/1 灰白色粘土 10% 含む

SD209

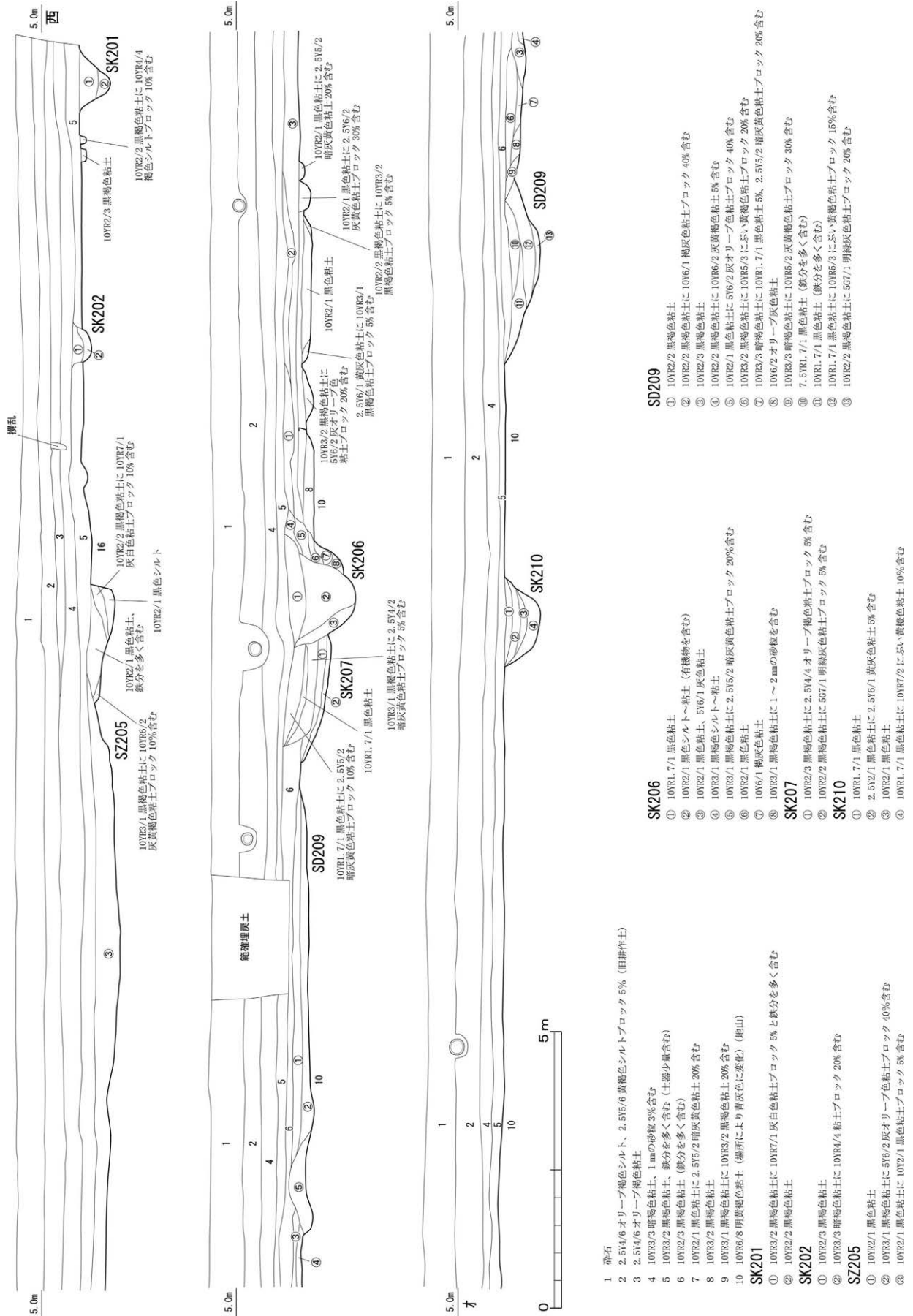
- ① 10YR2/2 黒褐色粘土

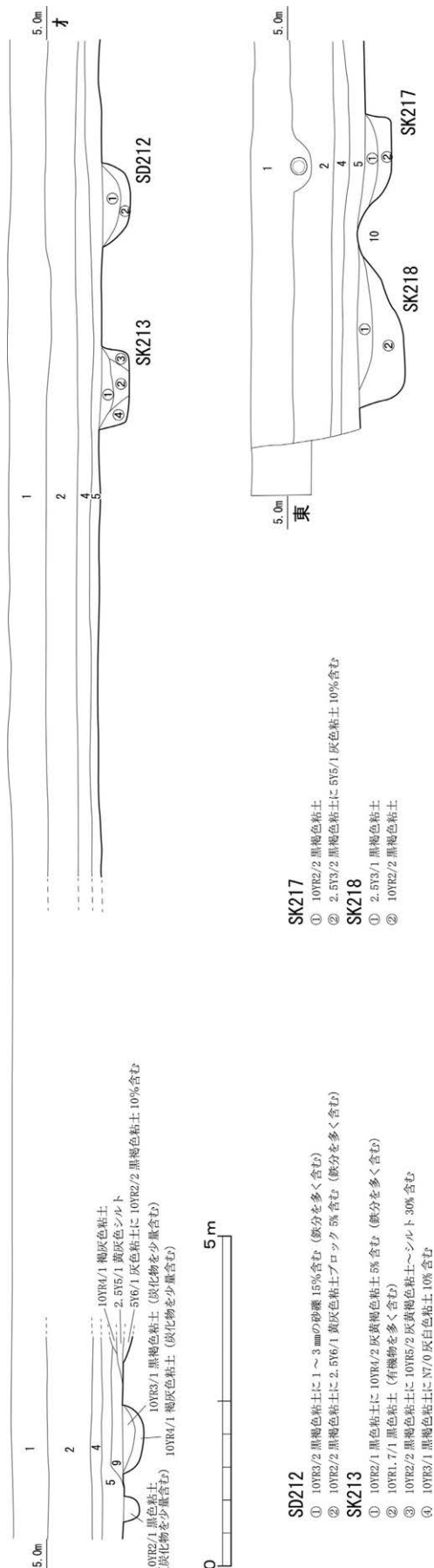
- 1 10YR2/1 黒色粘土に 2.5Y7/1 灰白色粘土を 20% 含む (土坑埋土)
- 2 10YR3/2 黒褐色粘土に 10YR2/1 黒色粘土 5%、10YR5/3 にぶい黄褐色粘土 5% を含む (土坑埋土)



第V-10図 中島遺跡C区平面図2 (1:100)、SK204・211、SD209(1:80)平面図・断面図

第V-11図 中島遺跡C区土層断面図1 (1:100)





第V-12図 中島遺跡C区土層断面図2 (1:100)

SK128 B13で検出した南北0.62m×東西0.82cm、深さ9cmの土坑である。SK129より古い。

SK129 B13で検出した南北0.95m以上×東西0.55m、深さ7cmの土坑である。SK128より新しい。

SD130 B12で検出した幅1.4m、深さ9cmの溝である。遺構検出面より1層上の黒褐色粘土・極暗褐色シルトから掘り込まれている。

SD131 B13で検出した幅0.78m、深さ46cmの溝である。向きはN10° Eである。

SD132 B14で検出した幅40cm、深さ5cmの浅い溝である。向きはN27° Wである。

SD131より東側はかく乱で大きく削平されており、溝と想定するもの(SD133)や土坑(SK134・135)を確認したが、非常に浅く、残りが悪い。

SF136 B6で確認した。被熱が認められ馬蹄形状に掘削でき、カマドの痕跡と考える。主軸はN72° Eである。しかし、カマドに伴う竪穴建物のプランは不明である。後世に削平されたものと思われる。

SF137 B6で確認した。被熱が認められ馬蹄形状に掘削でき、内側に支柱石が認められたことから、カマドと考える。主軸はN75° Wである。しかし、カマドに伴う竪穴建物のプランは不明である。後世に削平されたものと思われる。

SK201 C1で検出した南北0.2m以上×東西0.7m、深さ37cmの土坑である。黒褐色粘土に灰白色粘土ブロックを含む層と含まない層に分層できる。北端はかく乱により削平される。

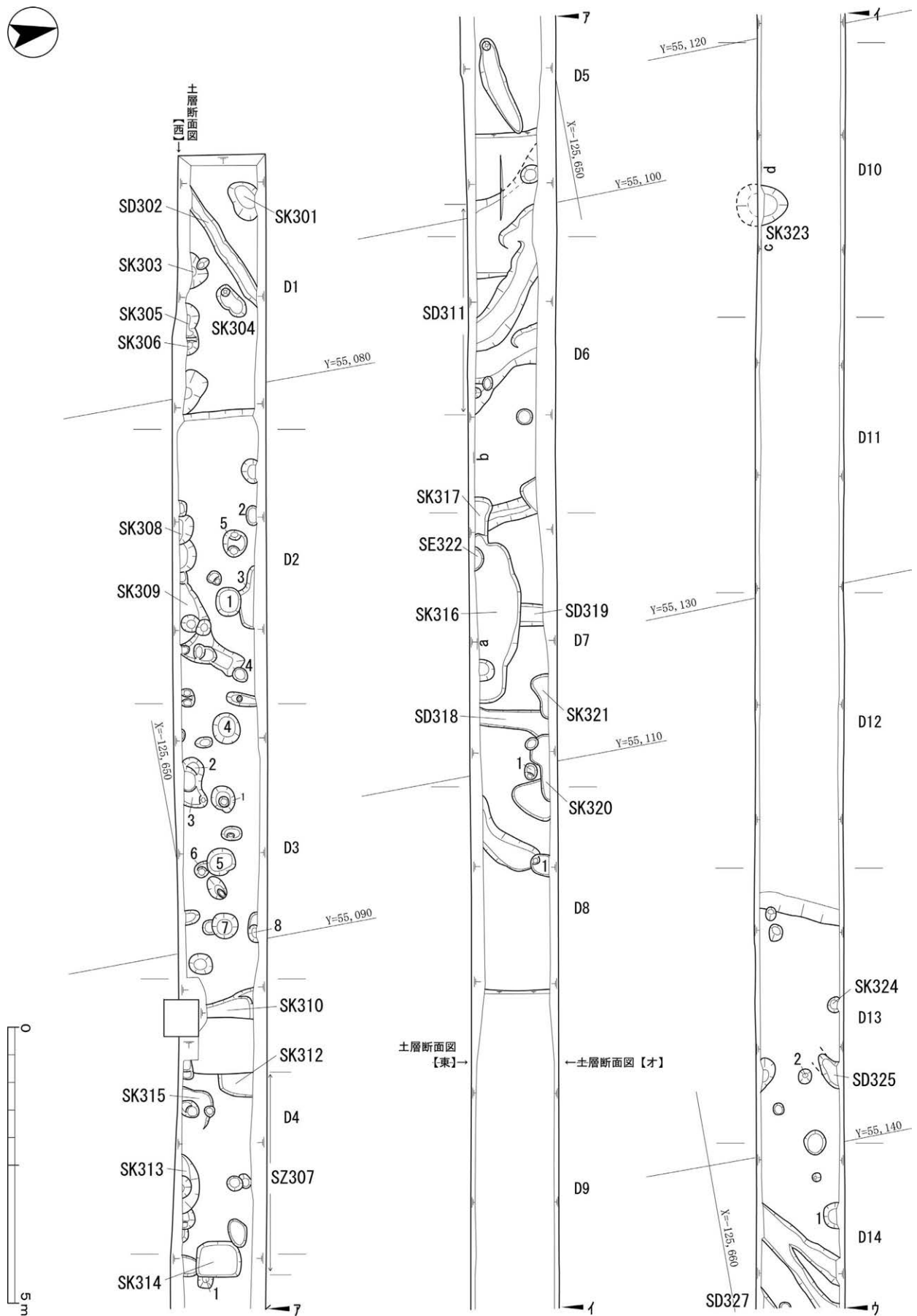
SK202 C2で検出した南北0.55m以上×東西0.35m、深さ12cmの楕円形とみられる土坑である。地山より1層上の黒褐色粘土から掘削している。

SK203 C1で検出した南北0.42m以上×東西1.1m、深さ29cmの東西方向に長い楕円形を呈する。

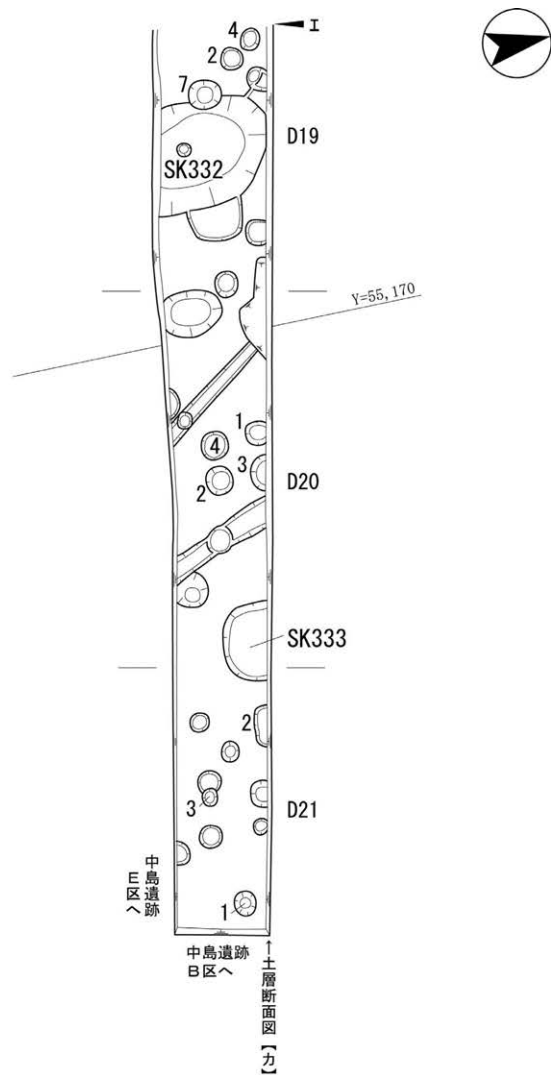
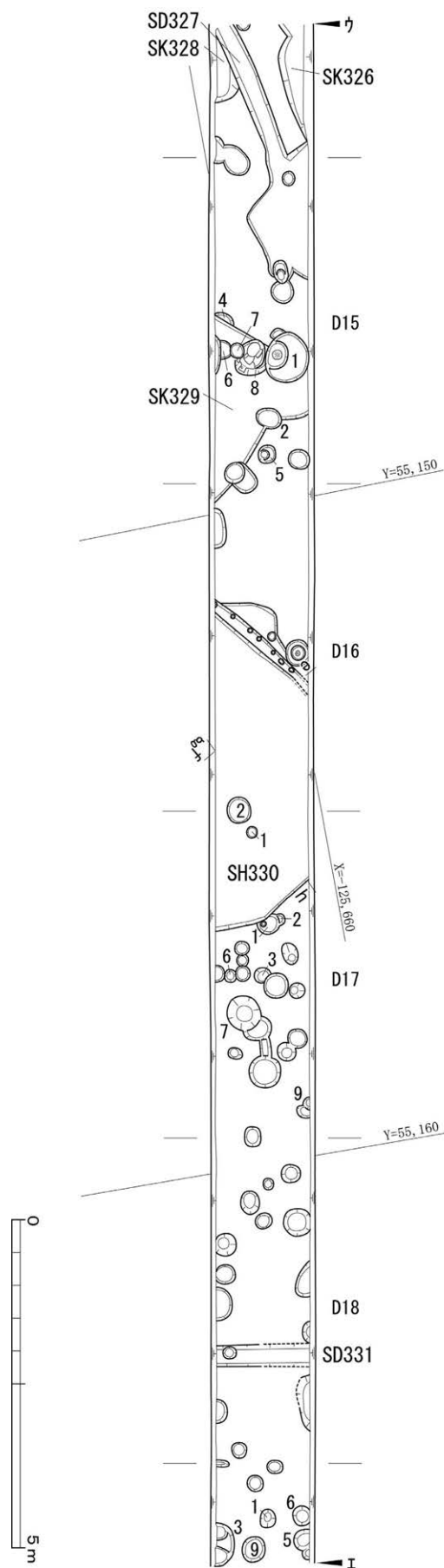
SK204 C2で検出した南北0.7m以上×東西1.32m、深さ64cmの土坑である。平面形は隅丸方形だが、底面は不整形となっている。

SZ205 C3～7で検出した落ち込みである。東端はSK206の掘削により削平されている。土師器・須恵器の他、底付近から自然木が出土している。

SK206 C7で検出した南北1.2m以上×東西2.2m、深さ75cmの不整形とみられる土坑である。土層図から埋没後に再度東側を掘削している。SK207よ



第V-13図 中島遺跡D区平面図1 (1:100)



第V-14図 中島遺跡D区平面図2 (1:100)

り新しい。

SK207 C7・8で検出した南北0.9m×東西1.75m以上、深さ65cmの土坑である。SK206より古い。

SK208 C6で検出した南北0.4m以上×東西2.05mの土坑である。

SD209 C8～12で検出した溝である。東側が1段深くなる。向きは1段深い部分ではN25°Eだが、西にいくに従いN90°近くまで振れる。土層図を見る限りでは、1段深い溝が堆積してから若干浅い西側に移ったようである。

SK210 C12で検出した南北0.6m以上×東西1.62m、深さ56cmの円形と考えられる土坑である。

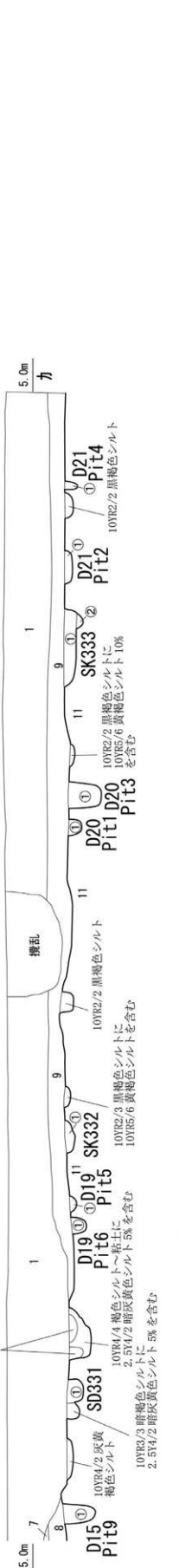
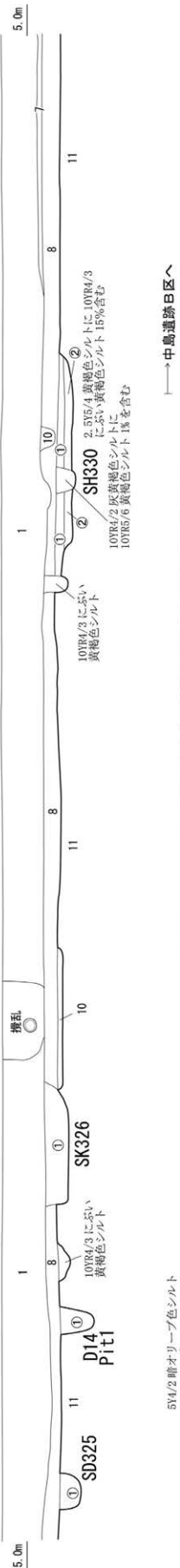
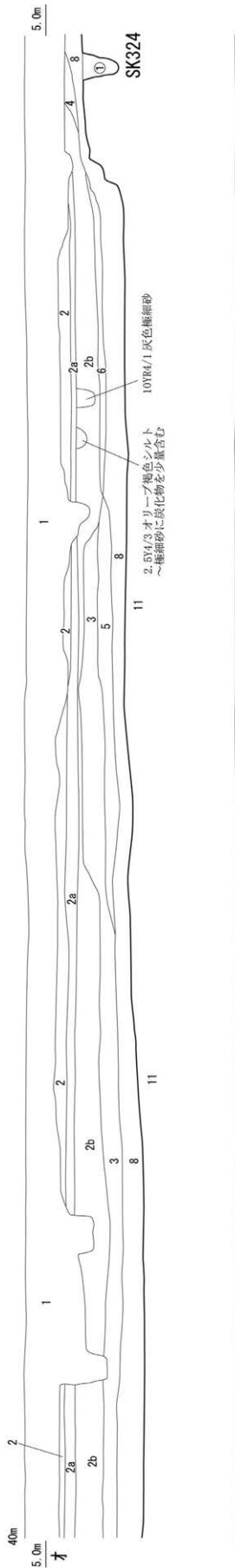
SK211 C11で検出した土坑である。SK211の西側は付番していない複数の土坑が重複していたようである。

SD212 C14・15で検出した幅1.15m、深さ39cmの溝である。向きはN10°Wである。

SK213 C15で検出した南北1m以上×東西1.34m、深さ36cmの楕円形になるとみられる土坑である。

図 19-16 V-2 中島遺跡 D 区土層断面図 2 (1:100)

【北壁】 基点より40m以東

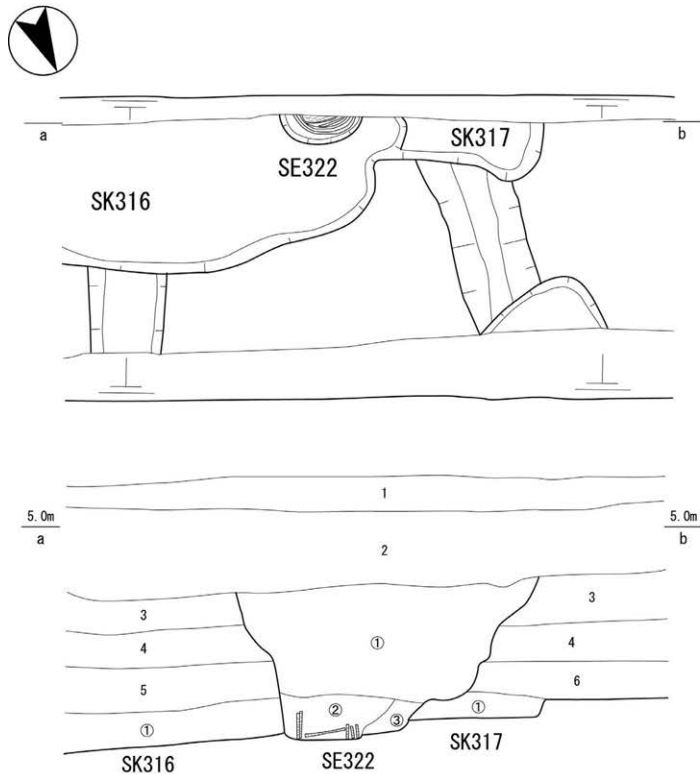


【北壁】

- 1 造成土
 - 2 7.5V4/2 灰オリーブ褐色シルト
 - 2a 2.5V4/3 オリーブ褐色シルト
 - 2b 2.5V4/4 オリーブ褐色極細砂
 - 3 7.5VR3/2 黒褐色粘土に10VR6/6 明黄褐色粗砂 20%、白色礫 5% を含む
 - 4 2.5V4/4 オリーブ褐色シルトに10VR3/2 黒褐色シルトを含む (マンガン粒を多く含む)
 - 5 10VR4/2 灰黄褐色粘土に白色礫 2% を含む (鉄分少量沈着)
 - 6 2.5V3/3 暗オリーブ褐色シルト～極細砂
 - 7 2.5V4/4 オリーブ褐色シルト (旧耕作土)
 - 8 10VR2/1 黒色粘土に10VR3/3 暗褐色粘土 10% を含む
 - 9 2.5V3/2 黒褐色シルト (12層と同じ)
 - 10 10VR4/2 灰黄褐色シルトに10VR5/6 黄褐色シルト 5% を含む
 - 11 10VR7/4 にぶい黄褐色粗砂に10VR3/2 黒褐色シルト 10% を含む (地山)
-
- SK324 ① 10VR2/2 黒褐色シルト
 - D19 Pit5 ① 10VR3/3 暗褐色シルトに10VR5/6 黄褐色シルト 1% を含む
 - D19 Pit6 ① 10VR2/2 黒褐色シルトに10VR5/6 黄褐色シルト 5% を含む
 - SK332 ① 10VR2/2 黒褐色シルト
 - D20 Pit1 ① 10VR2/3 黒褐色シルトに10VR5/6 黄褐色シルト 5% を含む
 - D20 Pit3 ① 10VR2/1 黒色シルト
 - SK333 ① 10VR3/4 暗褐色シルトに10VR5/6 黄褐色シルト 5% を含む
 - ② 10VR3/4 暗褐色シルト
 - D21 Pit2 ① 10VR3/2 黒褐色シルト
 - D21 Pit4 ① 10VR2/2 黒褐色シルト
 - ① 10VR2/2 黒褐色シルト
 - D19 Pit5 ① 10VR3/3 暗褐色シルトに10VR5/6 黄褐色シルト 1% を含む
 - SD325 ① 10VR3/3 暗褐色シルトに10VR4/3 にぶい黄褐色シルト 20% を含む
 - D14 Pit1 ① 10VR4/3 にぶい黄褐色シルト～粘土に10VR5/6 黄褐色シルト 1% を含む
 - SK326 ① 10VR4/2 灰黄褐色シルト～粘土
 - SH330 ① 10VR3/3 暗褐色シルトに2.5V4/3 オリーブ褐色シルト 1% を含む
 - ② 10VR3/3 暗褐色シルトに10VR5/6 黄褐色シルト 1% を含む
 - D15 Pit9 ① 10VR4/2 灰黄褐色シルトに10VR5/6 黄褐色シルト 40% を含む
 - SD331 ① 10VR4/3 にぶい黄褐色シルトに10VR5/6 黄褐色シルト 10% を含む
 - ② 5V4/2 暗オリーブ褐色シルトに10VR3/3 暗褐色シルト 5% を含む

S K 214 C16で検出した南北0.74m以上×東西0.95m、深さ60cmの楕円形になるとみられる土坑である。調査区の崩落により十分な記録がとれなかった。

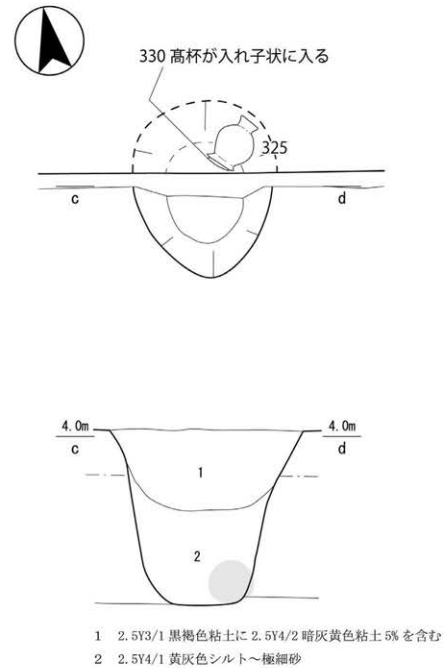
SE322



- 1 碎石
- 2 造成土
- 3 2.5Y5/3 黄褐色シルト
- 4 10YR2/2 黒褐色粘土に径2mm以下の礫少量含む
- 5 7.5YR2/1 黒色粘土に炭、細砂、径5cm程度の2.5Y5/3 黄褐色粘土ブロックを多く含む、22層との境に0.5～1cm厚の層状に炭が堆積
- 6 10YR3/1 黒褐色粘土に10YR3/2 黒褐色粘土、炭、径5～7cmの10YR6/3 にぶい黄橙色ブロックを含む

S K 215 C16で検出した南北0.9m以上×東西1.4m、深さ61cmの楕円形とみられる土坑である。C17を中心とした崩落により土層は記録できなかった。

SK323



- 1 2.5Y3/1 黒褐色粘土に2.5Y4/2 暗灰黄色粘土5%を含む
- 2 2.5Y4/1 黄灰色シルト～極細砂

S E 322

- ① 5Y5/3 灰オリーブ色シルトに10層が径20cmのブロック状に多く含む
- ② 5Y4/1 灰色粘土に細砂多く含む
- ③ 10YR2/1 黒色粘土に炭少量含む

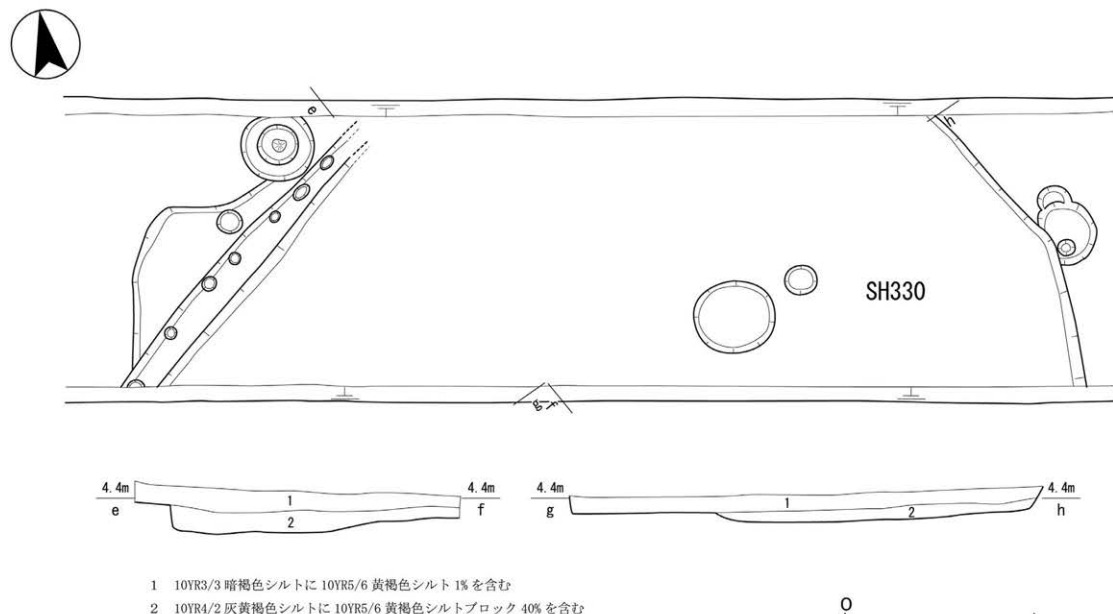
S K 316

- ① 10YR2/1 黒色粘土に炭少量含む

S K 317

- ① 2.5Y3/1 黒褐色粘土に径2cmの礫を少量、粗砂を多く含む

SH330



- 1 10YR3/3 暗褐色シルトに10YR5/6 黄褐色シルト1%を含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルトに10YR5/6 黄褐色シルトブロック40%を含む

第V-17図 中島遺跡D区SH330, SE322, SK323平面図・断面図(1:40)

S K216 C17・18で検出した南北1.2m以上×東西1.1mの楕円形とみられる土坑である。

S K217 C19で検出した南北1.05m以上×東西1.7m、深さ35cmの隅丸方形とみられる土坑である。西側が傾斜がきつく、東側が緩やかとなる。

S K218 C19・20で検出した南北0.7m以上×東西2.3m、深さ27cmの円形とみられる土坑である。傾斜は、西側が緩やかで、東側が急となる。

S K301 D1で検出した南北0.15m×東西0.75m、深さ37cmの不整形な土坑である。

S D302 D1で検出した幅0.29m、深さ10cmの皿状の溝である。向きはN70° Eである。

S K303 D1で検出した南北0.28m以上×東西0.68m、深さ22cmの不整形な土坑である。

S K304 D1で検出した南北0.65m×東西0.35m、深さ6cmの土坑である。

S K305 D1で検出した南北0.2m以上×東西0.6m、深さ10cmの土坑である。S K306より古い。

S K306 D1で検出した土坑である。南北0.2m以上×東西0.27m、深さ12cmの土坑である。S K305より新しい。

S Z307 D4・5で検出したが、概ね第V-15図の13層に対応するとみている。S D311より古い。

S K309 D2で検出した南北1.34m以上×東西0.89m、深さ6cmの土坑である。

S K310 D4で検出した南北0.85m以上×東西0.47m以上、深さ13cmの土坑である。東側はかく乱で削平されている。

S D311 D5・6で検出した幅3.1m、深さ26cmの溝である。やや蛇行するものの、向きは概ねN20° Wである。S Z307より新しい。埋土から、古式土師器が多く出土した。

S K312 D4で検出した南北0.62m以上×東西0.44m以上、深さ2cmの隅丸方形とみられる土坑である。西側はかく乱で削平されている。

S K313 D4で検出した南北0.32m以上×東西1.08m、深さ6cmの土坑である。調査区外に延びている。

S K314 D4・5で検出した南北0.8m×東西0.62m、深さ11cmの隅丸方形となる土坑である。

S K316 D7で検出した南北0.8m以上×東西3.08m、深さ18cmの長楕円形になるとみられる土坑であ

る。S E322より古い。

S K317 D6・7で検出した東西0.7m以上×南北0.3m以上、深さ10cmの隅丸方形とみられる土坑である。S E322より古い。

S D318 D7で検出した幅0.53m、深さ4cmの浅い溝である。向きはN17° Eである。

S D319 D7で検出した幅0.4m、深さ6cmの浅い溝である。向きはN15° Eである。S K316より古い。

S K320 D7・8で検出した南北0.36m以上×東西1.2m、深さ10cmの不整形の土坑である。S D318より新しい。

S K321 D7で検出した南北0.32m以上×東西0.82m、深さ6cmの不整形の土坑である。S D318より新しい。

S E322 D7で検出した南北0.18m以上×東西0.75mの井戸である。標高約3.8mで木製曲物がすえられていた。樹種はヒノキ属である。曲物内の埋土から山茶碗片が出土した。

S K323 D10で検出した南北0.55m以上×東西0.73m、深さ68cmの土坑である。検出は標高約4mと低い所で確認した土坑である。廻間Ⅰ～Ⅱ期併行期の土器が一定量出土した。中でも特筆すべきは、土坑の底付近で横倒しの台付甕(325)の中に高杯脚部(330)が入った状態で出土したことである。

S K324 D13で検出した南北0.15m以上×東西0.3mの土坑である。S K324の西側で落ち込みとなり、S K324以东が微高地となる。

S D327 D14・15で検出した幅0.34mの溝である。向きはN80° Eである。S K328より時期が新しい。

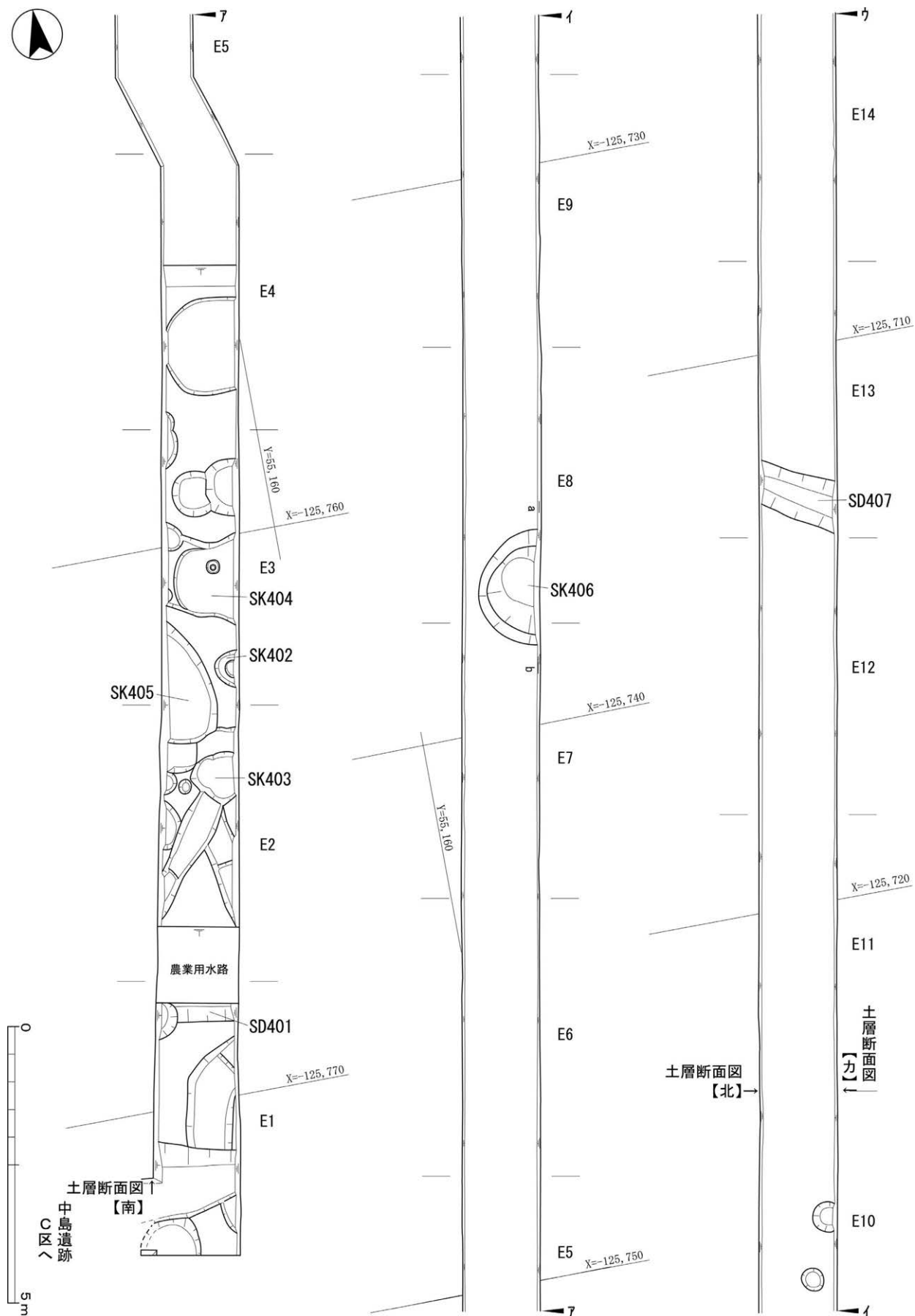
S K328 D14・15で検出した東西1m以上×南北0.4m以上、深さ10cmの土坑である。S D327より時期が古い。

S H330 D16・17で検出した南北1.5m以上×東西2.8m以上、深さ13cmの竪穴建物である。建物北側の壁周溝及び壁柱列が良好に残存していた。主軸はN53° Eである。

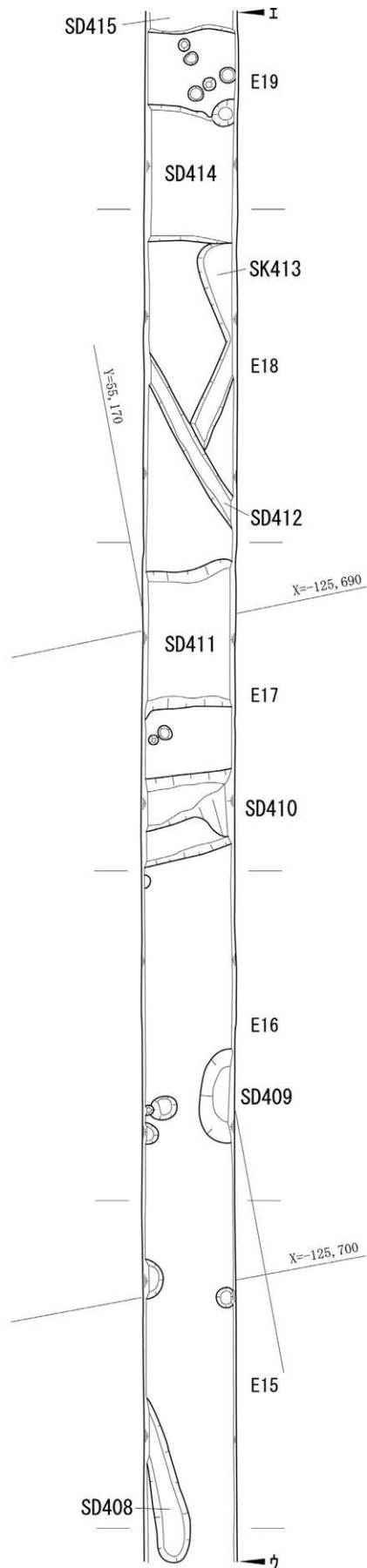
S D331 D18で検出した幅0.35m、深さ13cmの溝である。向きはN10° Eである。

S D332 D19で検出した南北1.44m以上×東西1.4m、深さ23cmの溝である。

S K333 D20・21で検出した南北0.58m以上×東



第V-18図 中島遺跡E区平面図1 (1:100)



西1m、深さ2cmの浅い土坑である。

SK334 D20で検出した南北0.76m以上×東西0.52m、深さ17cmの長楕円形の土坑である。

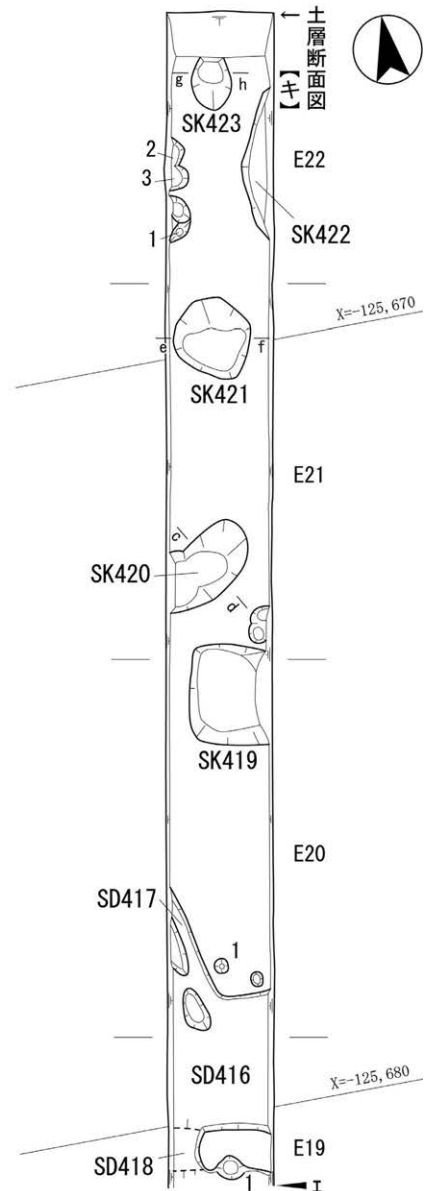
SD335 D20で検出した幅0.2m、深さ7cmの溝である。向きはN36°Wである。

SD336 D20で検出した幅0.38m、深さ14cmの溝である。向きはN22°Wである。

SD401 E1で検出した溝である。北側は後世に削平されている。向きは、概ねN78°Wである。

SK402 E3で検出した南北0.58m×東西0.33m以上、深さ32cmの土坑である。

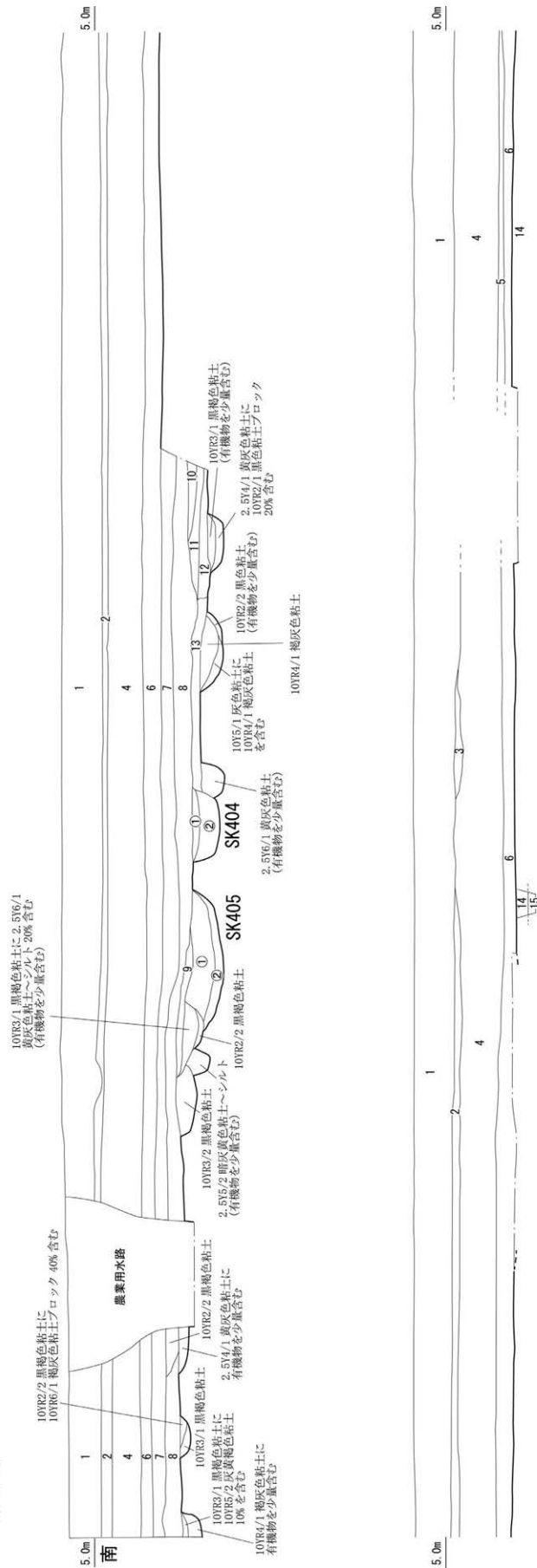
SK403 E2で検出した南北0.95m×東西0.77m



第V-19図 中島遺跡E区平面図2 (1:100)

第V-20図 中島遺跡E区土層断面図1 (1:100)

【西壁】 南端から50mまで

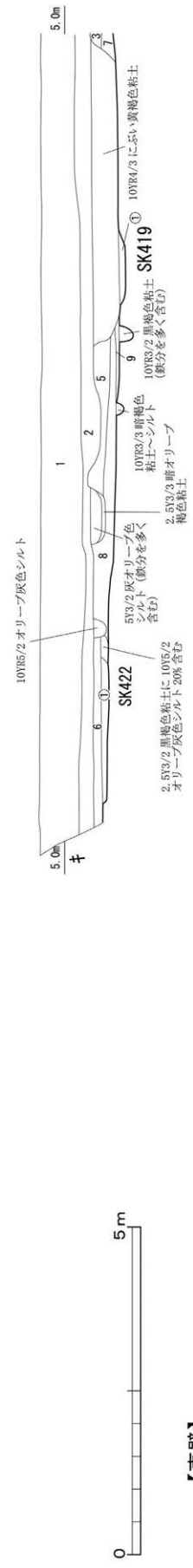
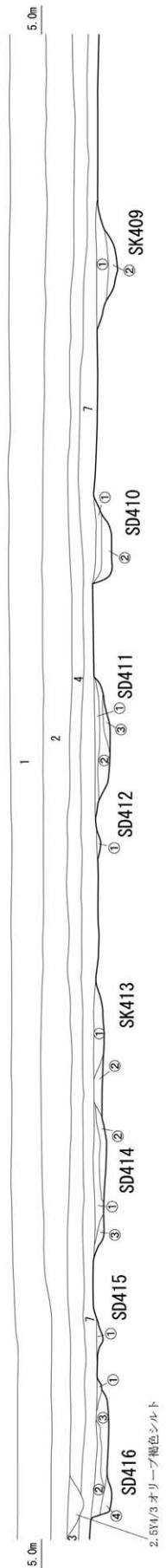
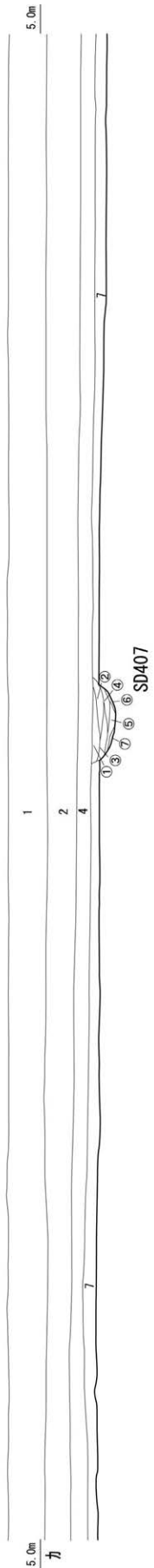


【西壁】

- 1 アスファルト、碎石
 - 2 田耕作土
 - 3 2.53/1 黒褐色粘土 (有機物を含む) (田耕作土)
 - 4 2.53/1 黄灰色粘土 (鉄分を多く含む)
 - 5 2.53/1 黒褐色粘土
 - 6 10YR3/2 黒褐色粘土 (鉄分を多く含む)
 - 7 10YR3/1 黒褐色粘土
 - 8 10YR3/1 黒褐色粘土
 - 9 10YR4/1 褐色粘土
 - 10 2.52/1 黒色粘土
 - 11 5Y6/1 灰褐色粘土に10YR3/1 黒褐色粘土ブロック40%含む
 - 12 7.5Y6/1 灰褐色粘土に10YR3/2 黒褐色シルト~粘土ブロック40%含む
 - 13 10Y5/1 灰褐色粘土に10YR4/1 褐色粘土ブロック30%含む
 - 14 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土に2.53/1 黒褐色粘土10%含む (鉄分を多く含む)
 - 15 10Y6/1 灰褐色粘土
-
- SK404
 - ① 10YR3/1 黒褐色粘土
 - ② 10YR2/1 黒色粘土に2.5Y5/2 暗灰黄色粘土ブロック20%含む
- SK405
 - ① 10YR3/1 黒褐色粘土
 - ② 10YR3/1 黒褐色粘土に10Y6/1 灰褐色粘土ブロック40%含む

図 2 (1:100) 断面図 Ⅱ 区土層断面図 Ⅱ 中 跡 遺 跡 Ⅱ 区 土 層 断 面 図 2 (1:100)

【東壁】 南端から50m以北



【東壁】

- 1 アスファルト、砂石
- 2 2.5Y/1 黄灰色粘土 (鉄分を多く含む)
- 3 7.5Y/2/2 黒褐色粘土に2.5Y4/2 暗灰黄色シルト 20% 含む
- 4 2.5Y/1 黒褐色粘土
- 5 10Y/2/3 黒褐色粘土に1~2mmの砂 5% 含む (有機物 1% 含む)
- 6 2.5Y/3 暗オリーブ褐色粘土に10Y/4 褐色粘土 10% 含む
- 7 10Y/2/2 黒褐色粘土 (鉄分を少量含む)
- 8 10Y/2/2 黒褐色粘土～シルト
- 9 2.5Y/2 オリーブ褐色粘土に2.5Y4/6 オリーブ褐色粘土 5% 含む

SD407

- ① 10Y/4/2 灰黄褐色粘土 (鉄分を多く含む)
- ② 10Y/3/3 暗褐色粘土に1mm次の砂 10% 含む
- ③ 10Y/3/1 黒褐色粘土に1mm次の砂 30% 含む
- ④ 10Y/3/2 黒褐色粘土に1mm次の砂 30% 含む
- ⑤ 10Y/2/1 黒褐色粘土に1mm次の砂 20% 含む
- ⑥ 10Y/1.7/1 黒色粘土
- ⑦ 2.5Y/1 黒褐色粘土

SK409

- ① 10Y/3/2 黒褐色粘土に2.5Y/2 暗オリーブ褐色粘土 20% 含む
- ② 2.5Y/1 黒色粘土に10Y/5/6 黄褐色粘土 40% 含む

SD410

- ① 10Y/3/1 黒褐色粘土に2.5Y4/1 黄灰色粘土 20% 含む
- ② 10Y/2/1 黒色粘土に10Y/5/2 灰黄褐色粘土 10% 含む

SD411

- ① 2.5Y/2 黒褐色粘土に10Y/4/4 褐色シルト 20% 含む
- ② 2.5Y/1 褐色粘土
- ③ 10Y/4/1 褐色粘土に10Y/6/6 明黄褐色粘土ブロック 40% 含む

SD412

- ① 10Y/3/1 黒褐色粘土

SK413

- ① 10Y/2/3 黒褐色粘土に10Y/4/6 褐色粘土 10% 含む
- ② 10Y/2/1 黒色粘土に10Y/3/6 黄褐色粘土 10% 含む

SD414

- ① 10Y/3/3 暗褐色粘土に10Y/4/4 褐色粘土 10% 含む
- ② 10Y/2/1 黒色粘土に2.5Y/3 暗オリーブ褐色粘土 10% 含む
- ③ 10Y/2/1 黒色粘土に10Y/4/2 灰黄褐色粘土 10% 含む

SD415

- ① 10Y/3/4 暗褐色粘土に10Y/5/4 にぶい 黄褐色粘土 10% 含む

SD416

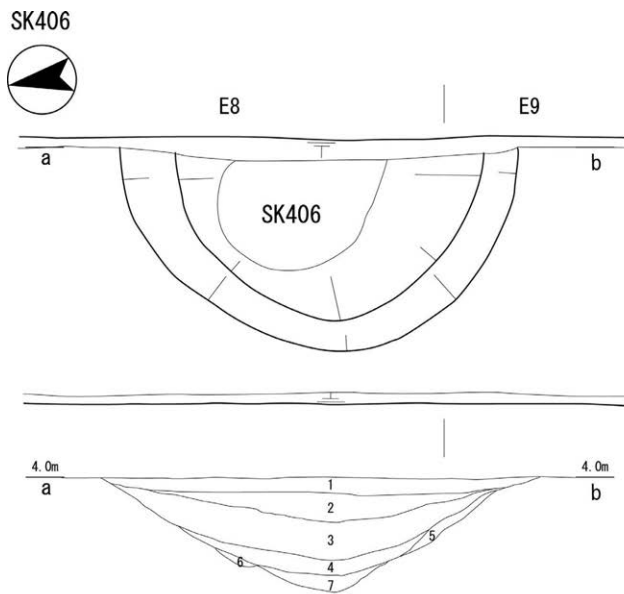
- ① 7.5Y/2/2 黒褐色粘土に10Y/5/6 黄褐色粘土 5% 含む
- ② 10Y/4/4 褐色粘土に10Y/5/6 黄褐色粘土 5% 含む
- ③ 10Y/2/2 黒褐色粘土に10Y/6/6 明黄褐色粘土 10% 含む
- ④ 10Y/4/2 灰黄褐色粘土に2.5Y/3/3 暗オリーブ褐色 10% 含む

SK419

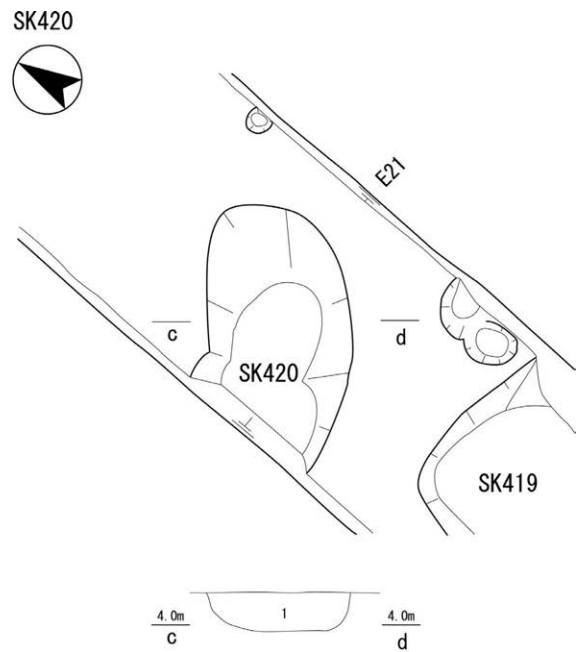
- ① 10Y/3/3 暗褐色粘土に10Y/4/4 褐色粘土～シルト 30% 含む

SK422

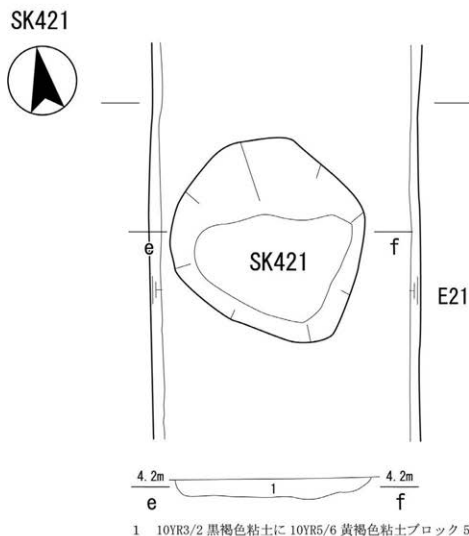
- ① 10Y/3/3 暗褐色粘土



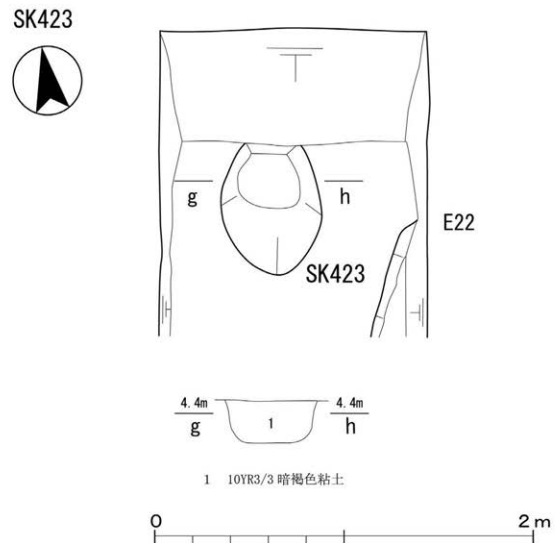
- 1 2.5Y3/1 黒褐色粘土
- 2 2.5Y2/1 黒色粘土
- 3 5Y2/1 黒色粘土に2.5Y2/1 黒色粘土5%含む
- 4 5Y2/1 黒色粘土
- 5 2.5Y2/1 黒色粘土
- 6 2.5Y2/1 黒色粘土に2.5Y6/3 にぶい黄色粘土30%含む
- 7 2.5Y2/1 黒色粘土



- 1 10YR2/1 黒色粘土



- 1 10YR3/2 黒褐色粘土に10YR5/6 黄褐色粘土ブロック5%含む



- 1 10YR3/3 暗褐色粘土

第V-22図 中島遺跡E区SK406・420・421・423平面図・断面図(1:100)

以上、深さ16cmの不整形な土坑である。

SK404 E3で検出した南北1.36m×東西1.18m以上、深さ45cmの不整形な土坑である。東側で1段下がる。

SK405 E2・3で検出した南北2.1m以上×東西0.81m以上、深さ51cmの土坑である。

SK406 南北2.1m×東西1m以上、深さ74cmの楕円状となる土坑である。

SD407 E13で検出した幅0.84m、深さ16cmの溝

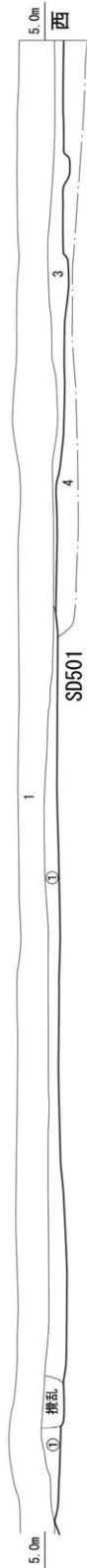
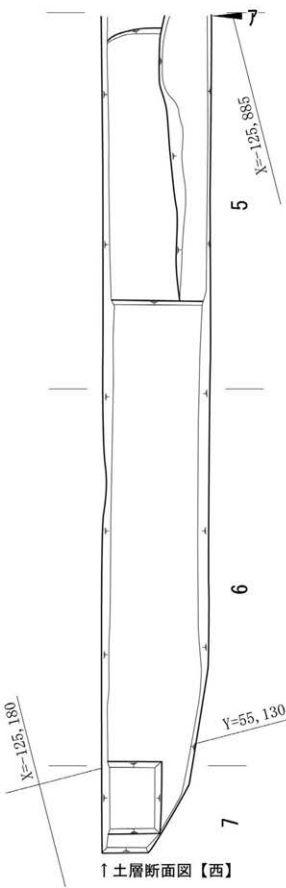
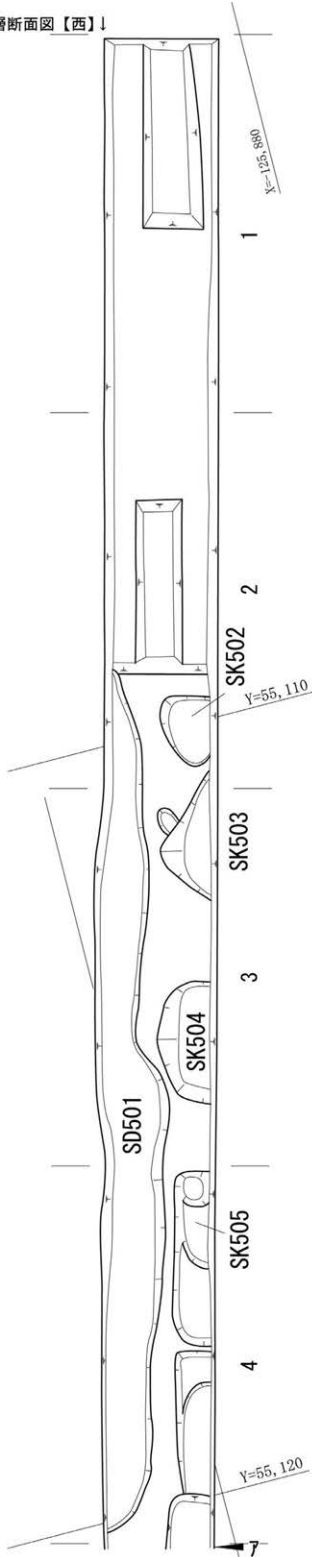
である。向きはN30°Eである。検出面より1層上の黒褐色粘土から掘り込まれている。

SD408 E14・15で検出した長さ1.8m以上、幅0.52m、深さ17mの溝である。

SK409 当初溝としていたが、土坑とする。E16で検出した南北1.43m×東西0.42m以上、深さ25cmの土坑である。

SD410 E17で検出した幅1.29m、深さ41cmの溝である。向きはほぼN0°である。

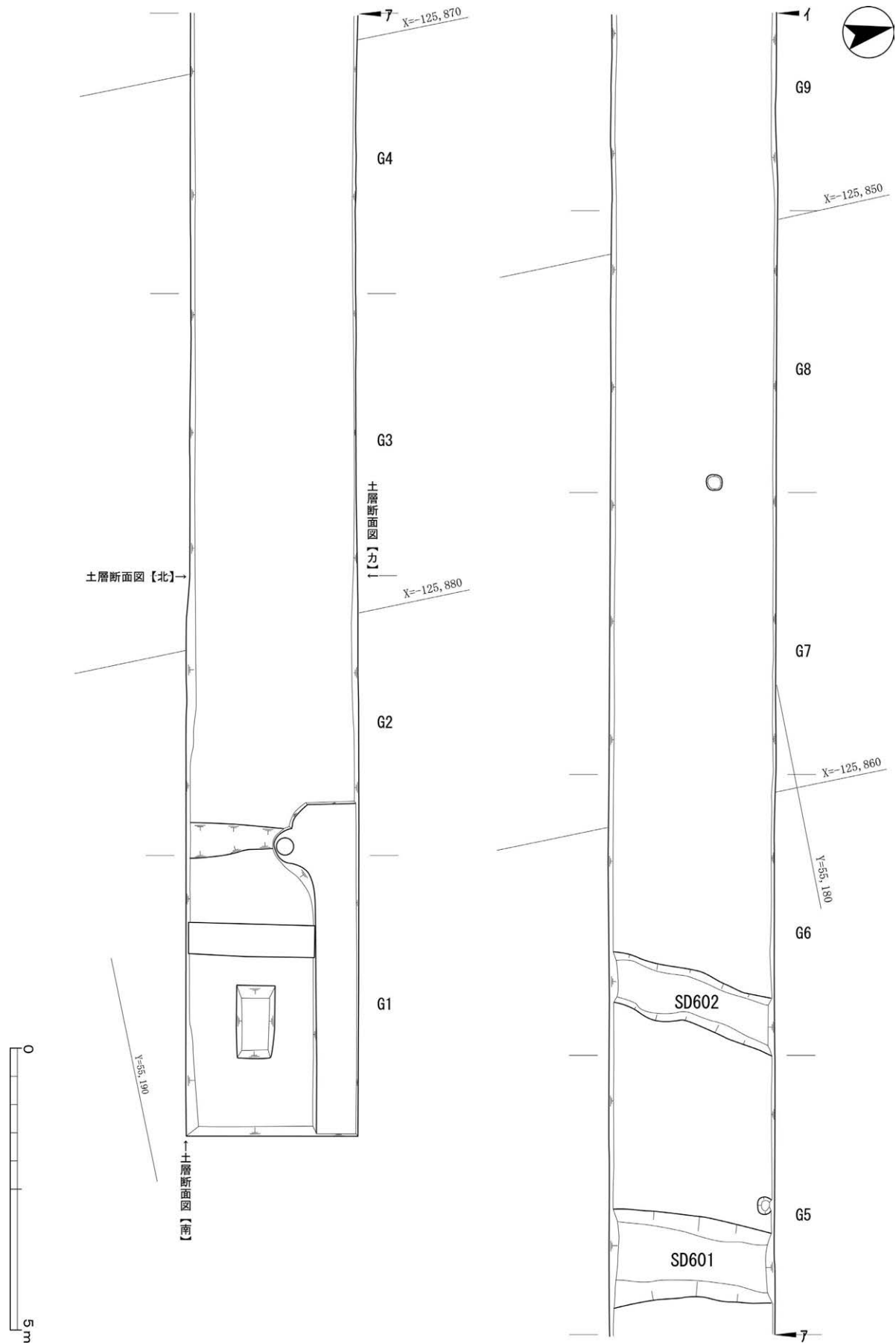
土層断面図【西】↓



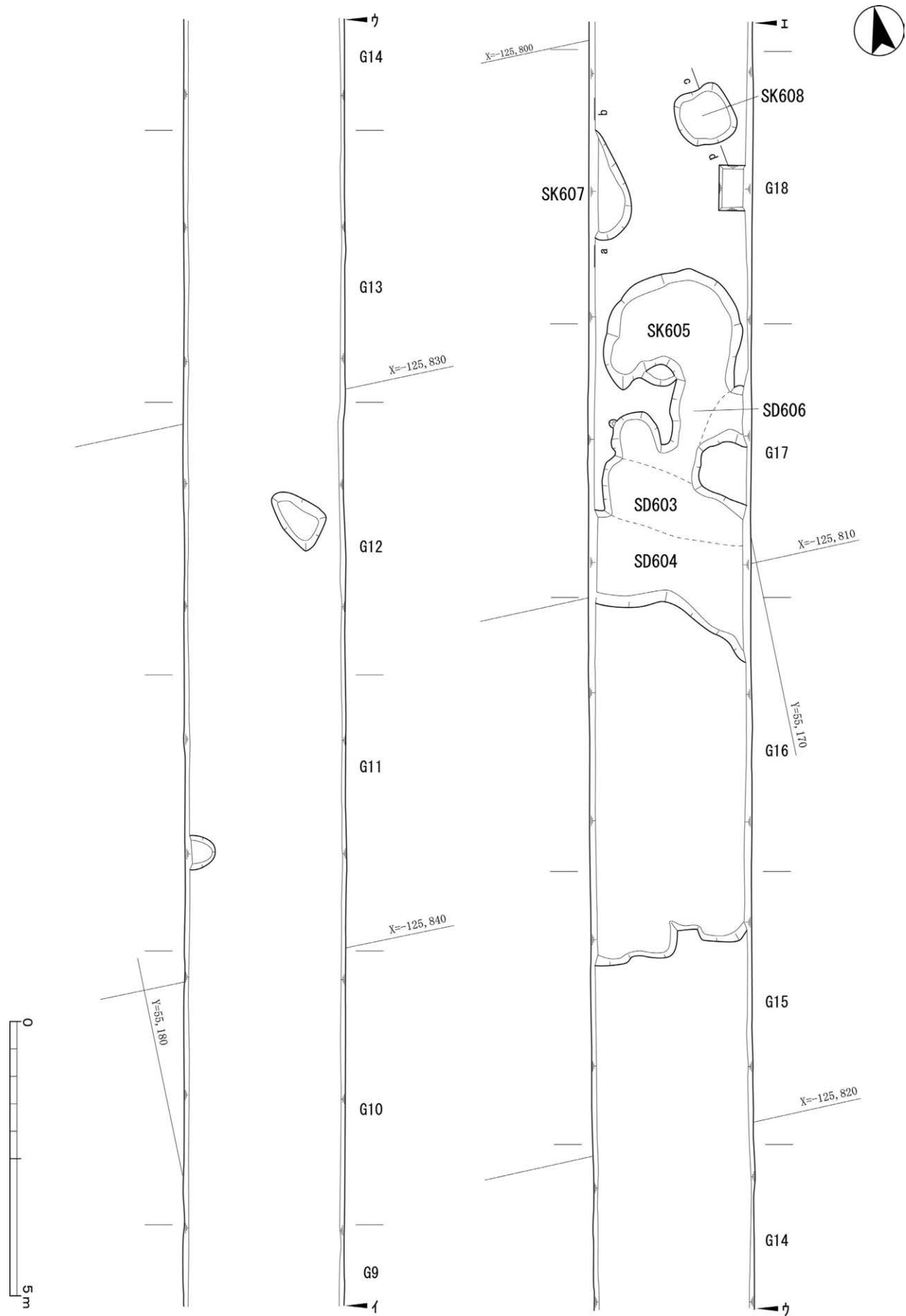
- 1 2.5Y2/3 暗オリーブ褐色土 (粘土)
 - 2 2.5Y4/1 黄灰色粘土に同色シルトを含む
 - 3 2.5Y5/1 黄灰色粘土に径2mm程度の礫を多く含む
 - 4 7.5YR5/6 褐色粗砂に径2～5mmの礫を多く含む (他山)
- SD501
- ① 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土に同色粗砂、径2～5mmの礫を多く含む



第V-23図 中島遺跡F区平面図・土層断面図(1:100)



第V-24図 中島遺跡G区平面图1(1:100)



第V-25図 中島遺跡G区平面図2 (1:100)

SD411 E17で検出した幅2.08m、深さ12cmの溝である。向きはN10° Eである。

SD412 E18で検出した幅0.28m、深さ13cmの溝である。向きはN72° Eである。

SK413 E18で検出した南北0.77m以上×東西0.42m以上、深さ8cmの隅丸方形とみられる土坑である。

SD414より時期が古い。

SD414 E18・19で検出した幅1.92m、深さ7cmの溝で、向きはN15° Eである。SK413より新しい。

SD415 E19で検出した幅0.55m、深さ4cmの浅い溝である。向きはN15° Eである。

SD416 E19・20で検出した幅1.79m、深さ29cmの溝である。向きは概ねN15° Eである。

SD417 E20で検出した幅22cm、深さ14cmの溝で、SD416から北へ分岐する。向きはN80° Eである。

SK419 E20・21で検出した南北1.28m×東西0.86m以上、深さ10cmの隅丸方形とみられる土坑である。

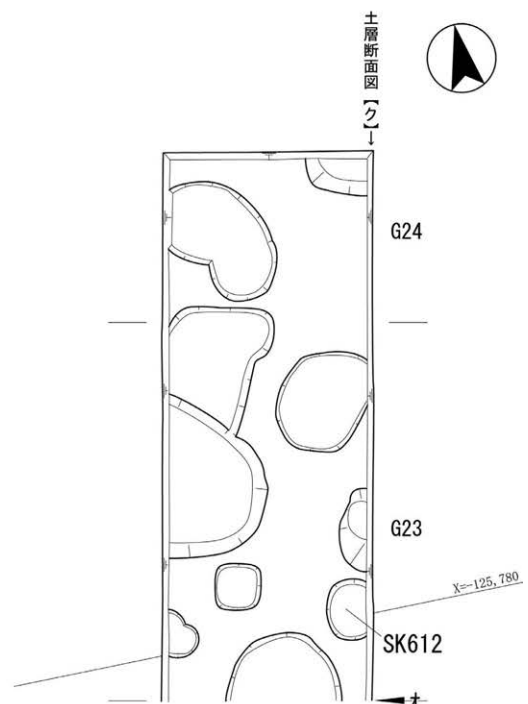
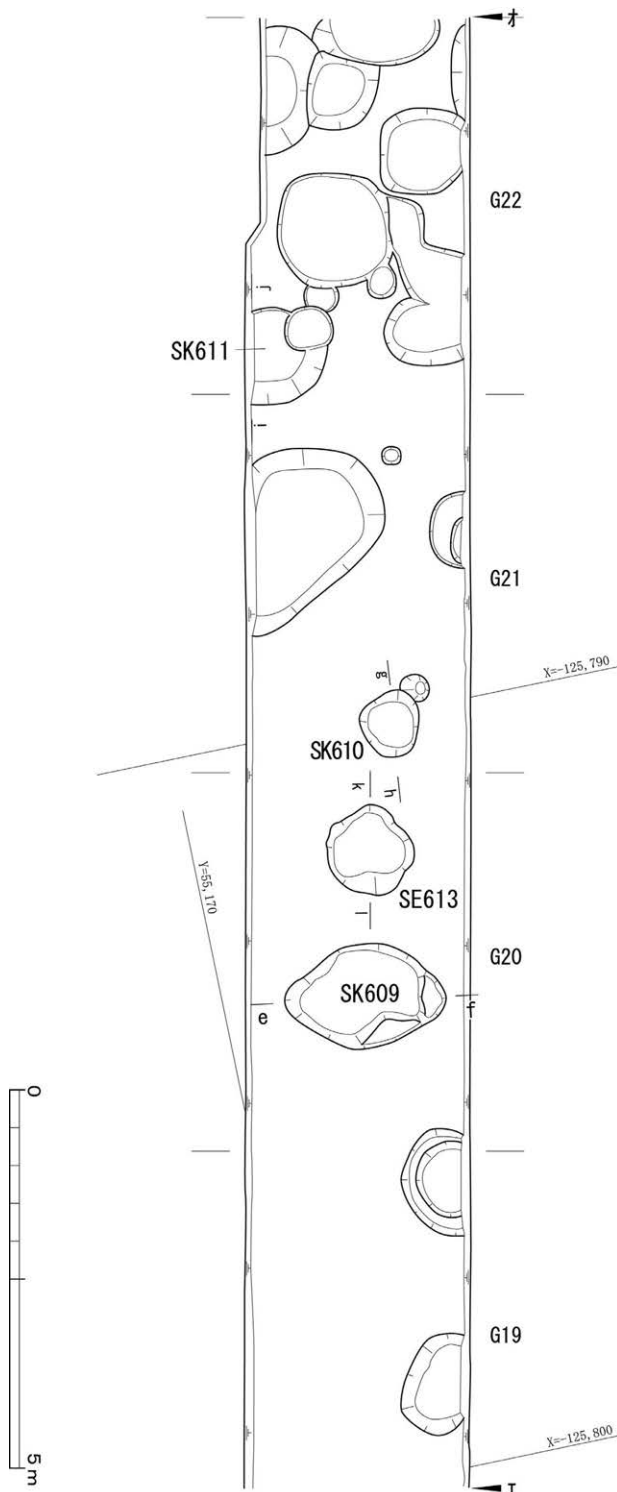
SK421 E21で検出した南北1m×東西0.95m、深さ12cmの隅丸方形の土坑である。底の形はかなり不整形である。

SK423 E22調査区北端で検出した南北0.7m以上×東西0.54m、深さ25cmの楕円形の土坑である。

SD501 F2～4の調査区南側で検出した幅0.8m以上、深さ20cmの溝である。

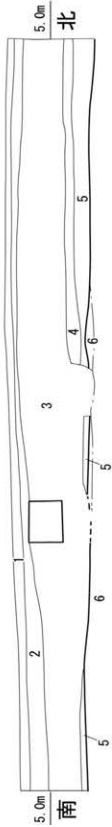
SK502 F2で検出した南北0.62m以上×東西0.92m、深さ33cmの不整形の土坑である。弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺物の細片が多く出土した。

SK503 F2・3で検出した南北0.65m以上×東西1.7m以上、深さ35cmの隅丸方形とみられる土坑



第V-26図 中島遺跡G区平面図3(1:100)

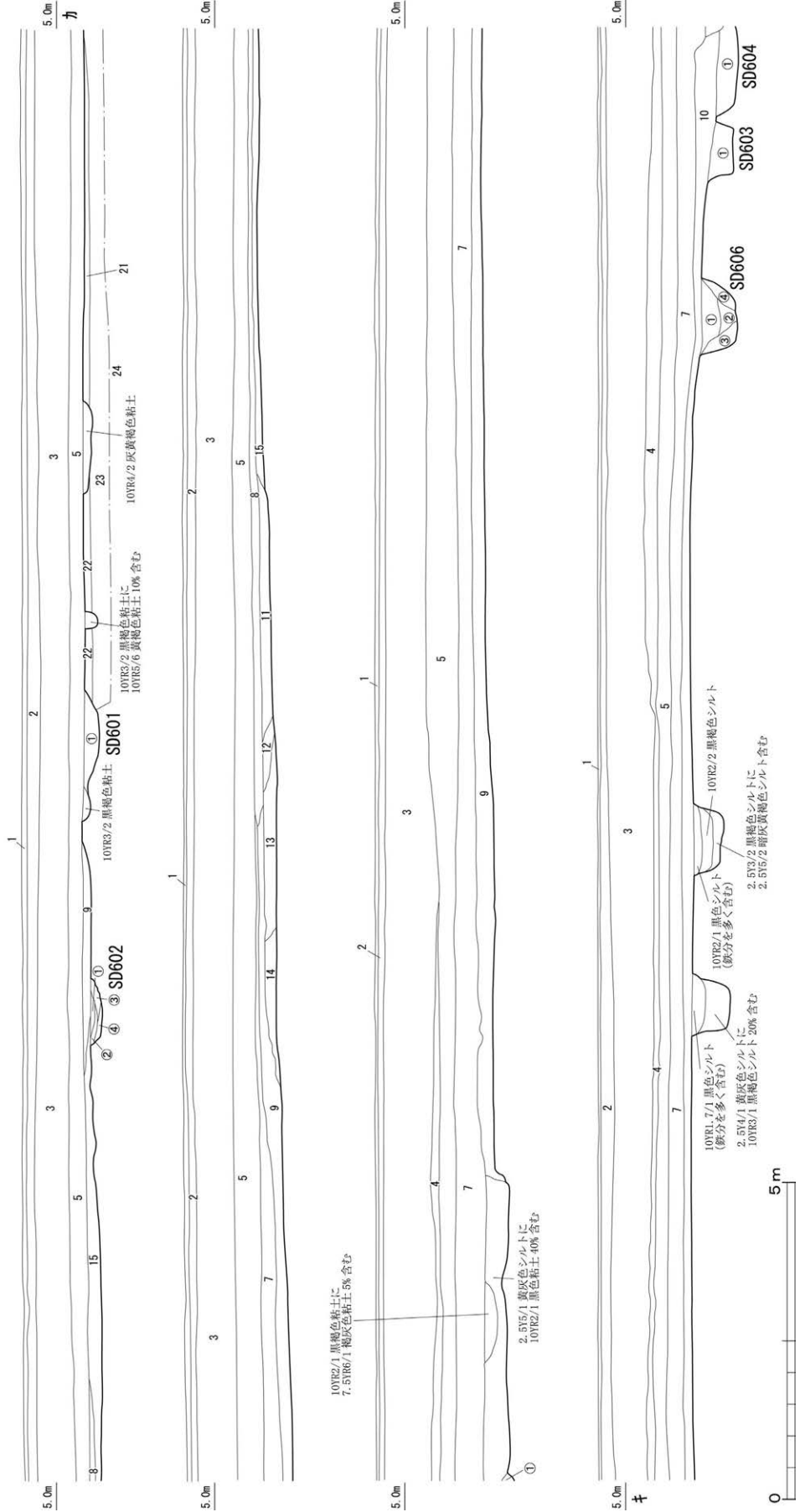
【西壁】 南端から10mまで



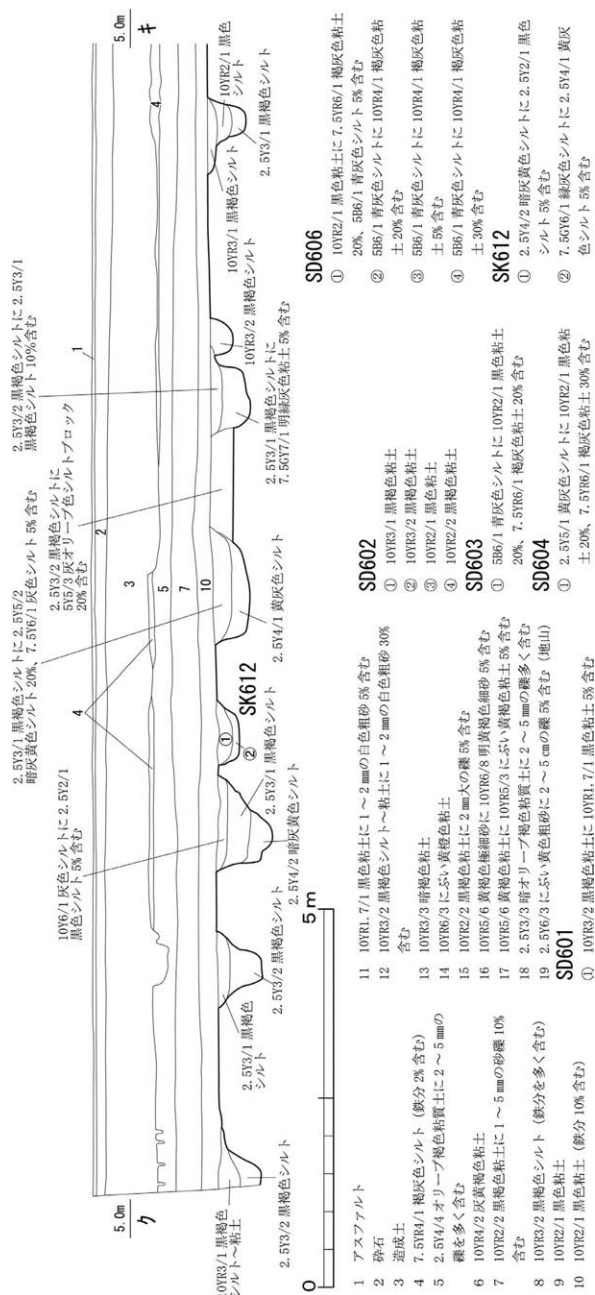
- 1 アスファルト
- 2 礫石
- 3 造成土
- 4 2.5M/4 オリーブ褐色粘質土に2~5mmの礫多く含む
- 5 2.5V3/3 暗オリーブ褐色粘質土に2~5mmの礫多く含む
- 6 2.5V6/3 にぶい黄色粗砂に2~5cmの礫5%含む (地山)

【東壁】 南端から10m以北

※東壁の土色は第V-28図参照



第V-27図 中島遺跡G区土層断面図1 (1:100)



第V-28図 中島遺跡 G区土層断面図 2 (1:100)

である。弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺物の細片が多く出土した。

SK504 F 3 で検出した南北0.68m以上×東西1.6m、深さ29cmの隅丸方形とみられる土坑である。弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺物の細片が多く出土した。

SK505 F 4 で検出した南北0.44m以上×東西2.3mの土坑である。東側は浅く段々と西側が深くなる。深い所で29cmの隅丸方形とみられる土坑である。弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺物の細片が多く出

土した。

SD601 G 5 で検出した幅1.5m、深さ8cmの溝である。向きはN17° Eである。

SD602 G 6 で検出した幅0.9m、深さ16cmの溝である。向きはN30° Eである。

SD603 G 17 で検出した幅1.1m以上、深さ45cmの溝である。向きはN32° Eである。

SD604 G 16・17 で検出した幅1m以上、深さ23cmの溝である。

SK605 G 17・18 で検出した南北1.2m×東西1.78m、深さ62cmの土坑である。

SD606 G 17 で検出した幅0.58m、深さ41cmの溝である。向きはN52° Wである。

SK608 G 18 で検出した南北1.12m×東西1m、深さ58cmの不整形な土坑である。

SK609 G 20 で検出した南北2.12m×東西1.4m、深さ51cmの楕円形の土坑である。

SK610 G 21 で検出した南北0.9m×東西0.8m、深さ34cmの不整形な土坑である。

SK611 G 22 で検出した南北1.27m×東西0.95m以上、深さ54cmの土坑である。

SK612 G 23 で検出した南北0.8m×東西0.52m以上、深さ11cmの不整形な土坑である。

SE613 G 20 で検出した南北1.1m×東西1.03m、深さ95cmである。素掘りの井戸とみられる。

SK704 H 8 で検出した南北0.44m×東西0.66m以上、深さ4cmの浅いものである。

SD706 H 10 で検出した幅0.67m、深さ17cmの溝である。向きはN60° Wである。

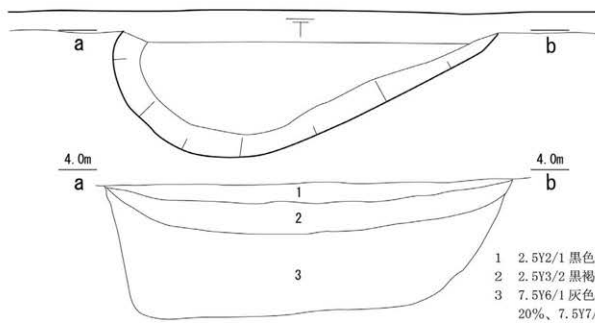
SR707 H 13～22 で検出し、幅約46mに至る流路である。遺物の包含が極少量であったこと、幅が狭小で調査区崩落の危険性が高かったため、工事の施工深度までを掘削し、流路の範囲を確認するに留めた。

SK708 H 29 で検出した南北0.6m以上×東西1.3m、深さ79cmの楕円形を呈する土坑である。

SD709 H 33 で検出した幅2.24m、深さ56cmの溝である。向きはN 0° である。

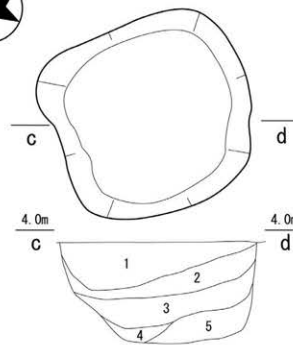
SD710 H 33・34 で検出した幅0.88m、深さ20cmの溝である。向きはN 0° である。 (原田)

SK607



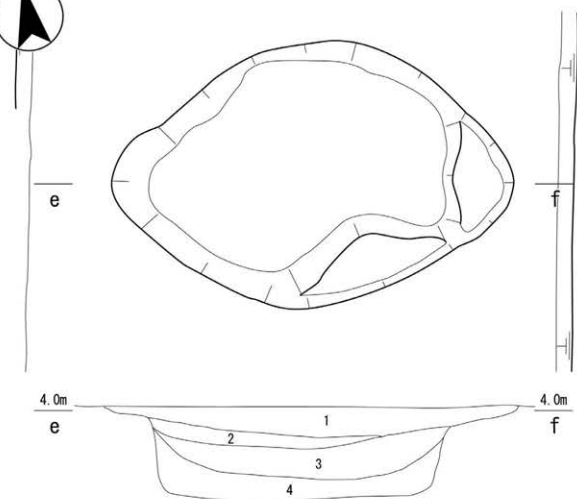
- 1 2.5Y2/1 黒色シルト
- 2 2.5Y3/2 黒褐色シルト
- 3 7.5Y6/1 灰色シルトに 2.5Y3/2 黒褐色シルト 20%、7.5Y7/1 灰白色シルト 20%を斑状に含む

SK608



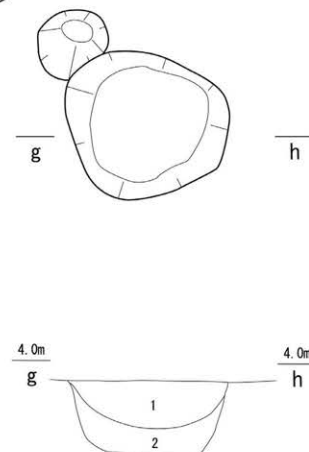
- 1 10YR3/2 黒褐色 (鉄分を多く含む)
- 2 7.5Y7/1 灰白色シルト
- 3 7.5Y7/1 灰白色シルトに 10YR2/1 黒色粘土 20% 斑状に含む
- 4 7.5Y7/1 灰白色シルト
- 5 10YR2/1 黒色シルト

SK609



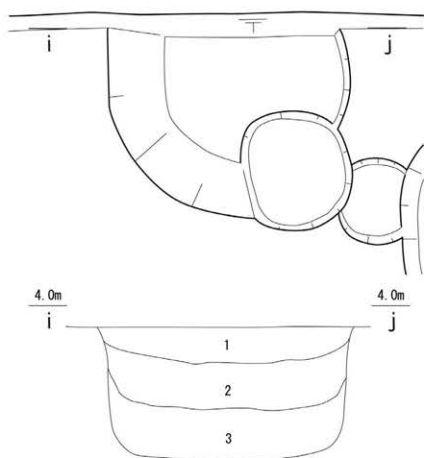
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト
- 2 5Y6/1 灰色シルトに 10YR3/1 黒褐色シルト 30% 含む
- 3 2.5Y3/1 黒褐色シルト
- 4 2.5Y3/1 黒褐色シルトに 5Y6/1 灰色シルト 5%、10YR1.7/1 黒色シルト 5% 含む

SK610



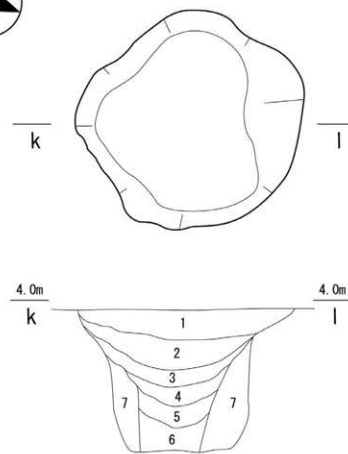
- 1 10YR3/1 黒褐色シルトに 2.5Y6/2 灰黄色シルト 10% 含む
- 2 10YR5/1 褐色シルトに N1.5/0 黒色シルト 10% が互層状に堆積

SK611



- 1 2.5Y3/1 黒褐色粘土
- 2 2.5Y4/1 黄灰色粘土に 7.5Y6/1 灰色粘土 10% 含む
- 3 2.5Y2/1 黒色粘土に 7.5Y6/1 灰色粘土 20% 含む

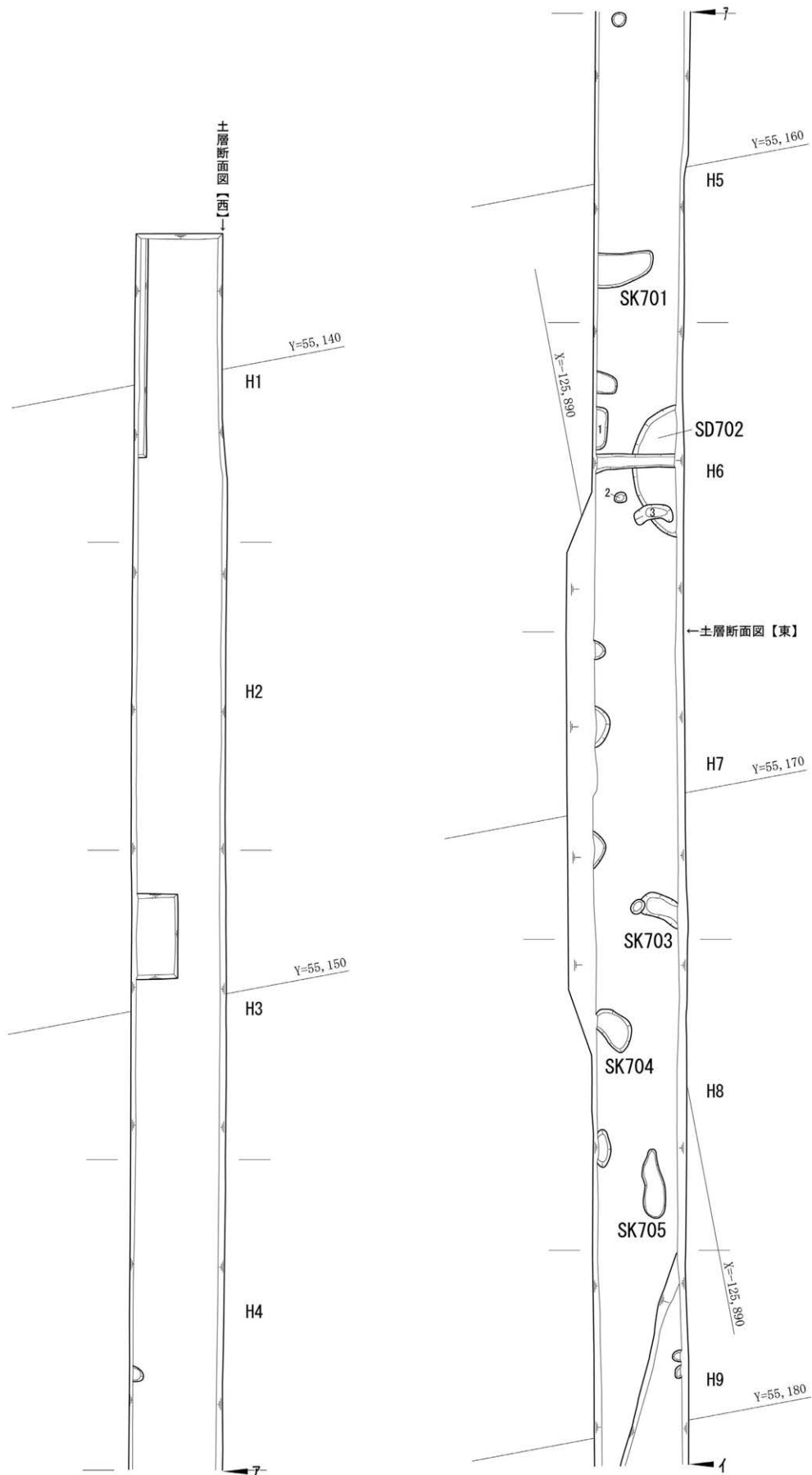
SE613



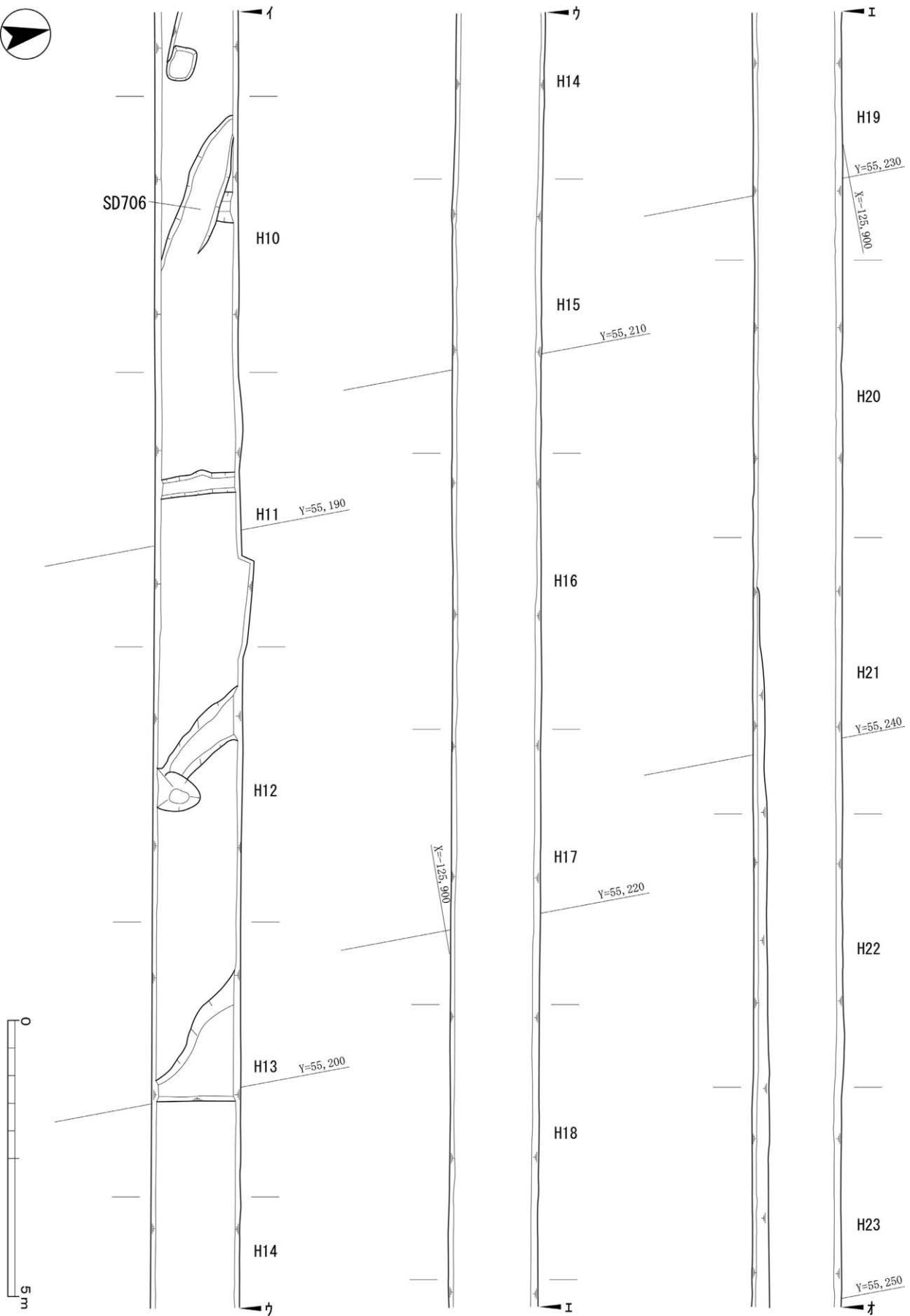
- 1 10YR3/1 黒褐色粘土 (鉄分を多く含む)
- 2 2.5Y3/1 黒褐色シルト
- 3 2.5Y3/1 黒褐色シルトに 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト 30% 含む
- 4 10YR2/1 黒色粘土に 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト 5% 含む
- 5 2.5Y3/1 黒褐色シルト
- 6 2.5Y4/1 黄灰色シルトに 2.5Y6/2 灰黄色シルト 30% 含む
- 7 10Y6/1 灰色シルトに粘土 (地山)



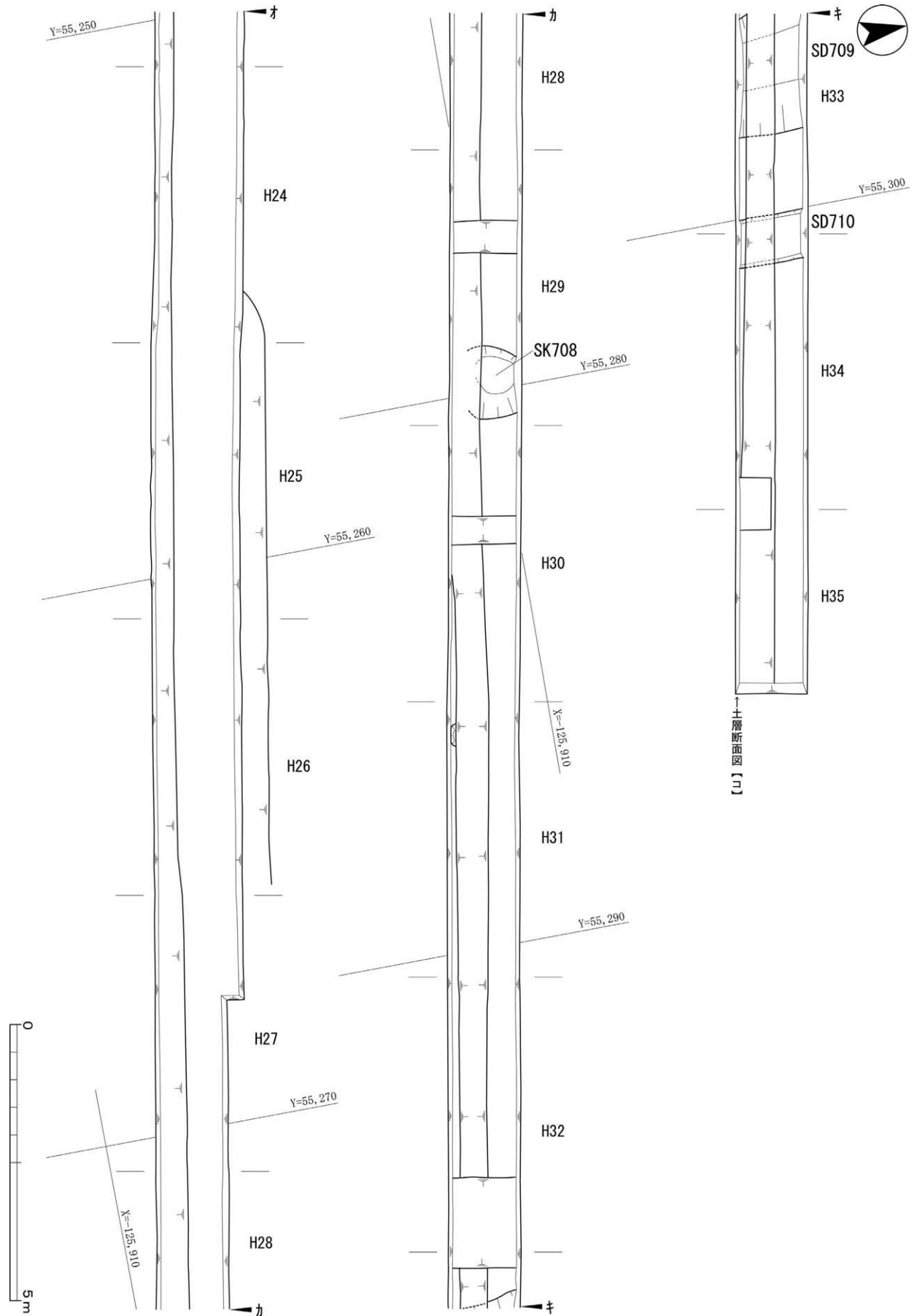
第V-29図 中島遺跡G区SE613, SK607~611平面図・断面図(1:40)



第V-30図 中島遺跡H区平面図1 (1:100)

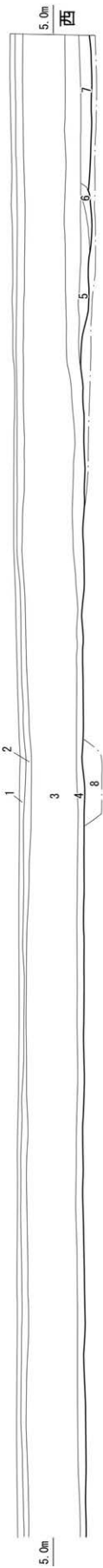


第V-31図 中島遺跡H区平面図2 (1:100)



第V-32図 中島遺跡H区平面図3 (1:100)

【南壁】 西端から30mまで

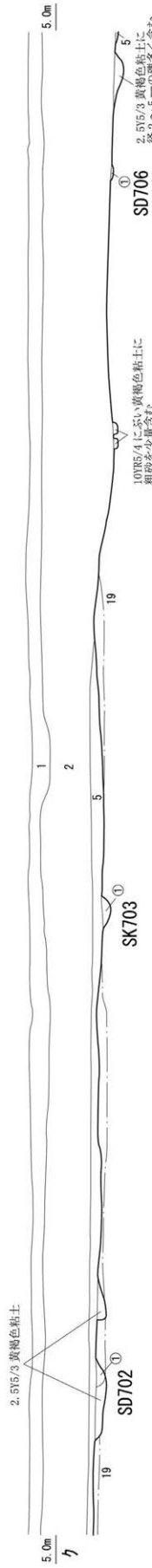


- 1 アスファルト
- 2 碎石、表土
- 3 造成土
- 4 2.5V4/A オリーブ褐色粘質土に径2～5cm程度の礫を含む
- 5 2.5V7/A 茶黄色粗砂に2～5mm程度の礫を含む
- 6 10RR/A 褐色粗砂
- 7 2.5V8/3 暗オリーブ褐色粘質土に2～5mm程度の礫を多く含む
- 8 2.5V6/3 にぶい黄色粗砂に2～5cm大の礫を含む (地山)



【北壁】 西端から25m以東

※北壁土色は第V-34図参照



SD706
2.5V5/3 黄褐色粘土に
径2～3mmの礫多く含む

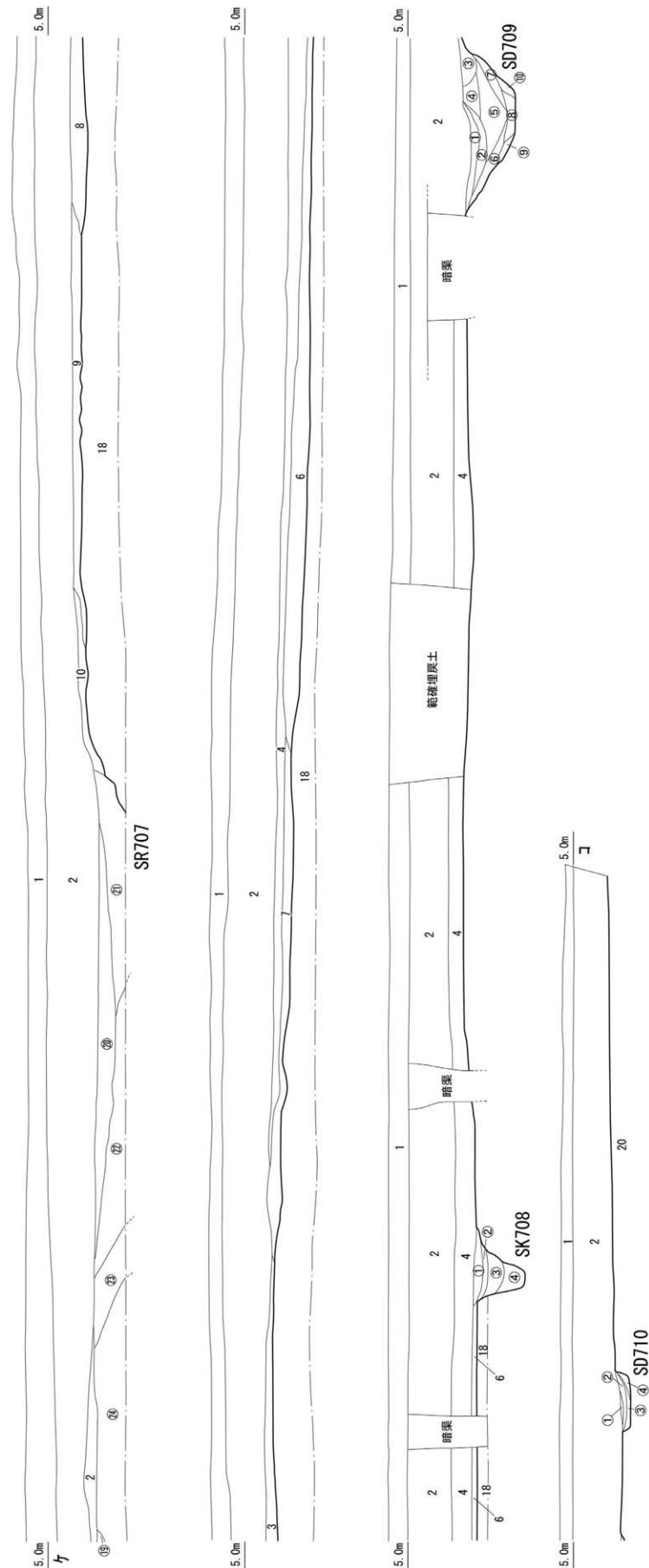
SK703

10RR/A にぶい黄褐色粘土に
粗砂を少量含む



SR707
10RR/3 にぶい黄褐色粘土に
1～2mmの砂粒を多く含む





第V-34図 中島遺跡H区土層断面図2(1:100)

- SK708**
- ① 10YR5/4 黄褐色極細砂
 - ② 10YR2/2 黒褐色粘土 (鉄分多く含む)
 - ③ 10YR5/3 黄褐色粘土に1~2mmの砂礫5%含む
 - ④ 2.5Y6/2 灰黄色シルト~極細砂 (底部に鉄分沈着)
- SK709**
- ① 5Y3/2 オリーブ黒色シルト
 - ② 5Y4/2 灰オリーブ色シルト
 - ③ 5Y3/2 オリーブ黒色シルトに7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト10%含む
 - ④ 2.5Y5/4 黄褐色シルトに2~5mmの礫5%含む
 - ⑤ 2.5Y5/3 黄褐色シルト (鉄分を多く含む)
 - ⑥ 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルトに2mmの礫5%含む
 - ⑦ 10YR5/4 黄褐色シルトに2.5Y5/3 黄褐色シルト15%、2~5mmの礫5%含む
 - ⑧ 5Y4/1 灰色粘土
 - ⑨ 2.5Y7/3 浅黄色細砂
 - ⑩ 2.5Y7/2 灰黄色細砂
- SD710**
- ① 10YR4/2 灰黄褐色シルトに2.5Y6/4 黄褐色シルトを含む
 - ② 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト
 - ③ 2.5Y5/3 黄褐色粘土
 - ④ 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルトに10YR6/6 明黄褐色シルトブロックを含む
- SR707**
- ① 10YR4/4 褐色粘土に5Y4/4 赤褐色粘土90%含む
 - ② 10YR4/3 黄褐色シルトに10YR5/6 黄褐色極細砂10%、2~5mmの白色礫1%含む
 - ③ 10YR5/6 黄褐色粘土~シルトに10YR2/3 暗褐色シルトを20%含む
 - ④ 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト
 - ⑤ 10YR5/6 黄褐色シルトに10YR4/4 褐色シルト10%含む
 - ⑥ 10YR4/6 褐色シルトに10YR6/8 明黄褐色粗砂ブロック10%、2mm以下の白色礫を少量含む
 - ⑦ 10YR7/8 黄褐色シルトに10YR1/3 黄褐色粘土を10%含む
 - ⑧ 10YR6/6 明黄褐色シルトに10YR2/2 黒褐色粘土10%、10YR2/1 黒色粘土ブロック5%、2mm以下の白色礫を少量含む
 - ⑨ 10YR3/2 黒褐色粘土に10YR4/6 褐色シルトブロック5%、10YR5/4 黄褐色粘土ブロック5%、2mm以下の礫を少量含む
 - ⑩ 10YR5/6 黄褐色シルトに2mm以下の白色礫を少量含む
 - ⑪ 7.5YR5/8 明黄褐色シルトに2mm以下の白色礫を少量含む
 - ⑫ 10YR5/6 黄褐色粘土に10YR3/4 暗褐色シルトブロック10%含む
 - ⑬ 10YR5/6 黄褐色粘土に2mm以下の砂粒を少量含む
 - ⑭ 10YR4/4 褐色シルト
 - ⑮ 7.5YR4/4 褐色粘土に2mm以下の砂粒を少量含む
 - ⑯ 10YR5/6 黄褐色粘土に1~2mmの砂粒を多く含む
 - ⑰ 10YR4/6 褐色粘土に2~5mmの砂礫、鉄分を含む
 - ⑱ 10YR4/4 暗褐色粘土に10YR1/4 褐色粘土40%含む
 - ⑲ 10YR4/3 黄褐色シルト
 - ⑳ 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト
 - ㉑ 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルトに2mm~1cmの礫10%含む
 - ㉒ 10YR4/3 黄褐色シルトに1~3mmの礫5%含む
 - ㉓ 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土~シルト
 - ㉔ 5Y8/2 灰白色細砂に5Y3/2 オリーブ黒色シルト1%含む (上部に鉄分の沈着あり)
- SR708**
- ① 砂石、表土
 - ② 造成土
 - ③ 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土に同色シルトを少量含む
 - ④ 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト
 - ⑤ 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土質土に径2~5cm程度の礫を含む
 - ⑥ 10YR5/8 黄褐色シルトに2.5Y6/1 黄灰色細砂10%、鉄分5%含む
 - ⑦ 10YR5/4 黄褐色シルトに2mm~1cmの白色礫10%含む
 - ⑧ 10YR6/1 褐色シルトに2.5Y3/1 黒褐色粘土ブロック5%含む
 - ⑨ 2.5Y4/2 暗灰黄色シルトに10YR6/5 灰黄褐色粘土ブロック1%含む
 - ⑩ 5Y8/2 暗灰黄色粗砂に5Y5/1 灰色シルト1%含む (上部に鉄分の沈着あり)
 - ⑪ 2.5Y6/3 黄褐色シルトに2~5cm大の礫を含む (地山)
 - ⑫ 10YR6/6 明黄褐色シルト (地山)
- SD710**
- ① 10YR3/2 黒褐色粘土、径2~5mmの白色礫を多く含む
 - ② 2.5Y6/2 灰黄色粘土
 - ③ 10YR4/3 黄褐色粘土に径2mm以下の礫を多く含む

第3節 遺物

1～6はA、7～178はB、179～286はC、287～567はD、568～707はE、708～758はF、759～771はG、772～792はHの各区から出土した。ここでは概要を記し、詳細は遺物観察表を参照されたい¹⁾。

SD3出土遺物(1)

山茶碗の口縁部小片である。

SD5出土遺物(2)

陶器折縁皿で、口縁部から内面に灰釉がかかる。

SD7出土遺物(3)

陶器皿の底部片で、削り出している。

A区包含層出土遺物(4～6)

いずれもA1出土である。4は土師器壺、5は土師器高杯で、6は弥生土器高杯である。

SK101出土遺物(7～11)

7～9は土師器甕、10・11は土師器高杯である。7は口縁部がやや内弯する甕で8・9は受口状となる。高杯は杯部が深くなるもので、11は脚基部に櫛描直線文を施し、やや低い脚となるものである。

SD102出土遺物(12)

土師器壺であろうか。口縁部小片のみ出土した。

SK105出土遺物(13)

須恵器杯身といえよう。体部片のみ出土である。

SK106出土遺物(14～16)

14は弥生土器小形壺又は鉢の底部、15・16は土師器高杯である。16は口縁部が内弯し広がり、新しい様相を呈す。

SK109出土遺物(17・18)

17・18は土師器甕である。18は器壁が厚く、長胴

化し、脚部がハの字に開く。古墳中後期のものである。

SK110出土遺物(19～23)

19は土師器壺口縁部、21・22は弥生土器もしくは土師器甕台部である。20は土師器壺肩部とみられ、外面に刺突、横線文を施している。23は土師器高杯で、杯部が浅く端部をつまみ上げるような形状で、古墳中後期のものである。

SK111出土遺物(24～26)

24～26は、土師器甕である。24・25は口縁部が受口状を呈する。26はS字甕B類であろうか。

SK112出土遺物(27～32)

27～30は弥生終末期～古墳初頭にかけてのもので、27・28が土師器壺、29・30がS字甕である。31は宇田型甕、32は土師器甕で、古墳後期のものである。

SH115出土遺物(33)

S字甕小片である。口縁端部外面に僅かに押引刺突がみられる。

SK116出土遺物(34)

弥生土器もしくは土師器長頸壺の頸部片である。外面に2段、貝殻刺突文が認められる。

SK117出土遺物(35～37)

35は土師器長頸壺体部、36は土師器甕台部、37は土師器高杯である。37は3方透しの上にもう1つ透し孔がある。廻間I式期前半併行とみられる。

SD118出土遺物(38・39)

いずれも土師器甕である。38はS字甕B類古段階である。39は器壁が厚く台部がハの字状に大きく開く古墳中後期のものである。

SK125出土遺物(40)

S字甕A類である。

SK129出土遺物(41)

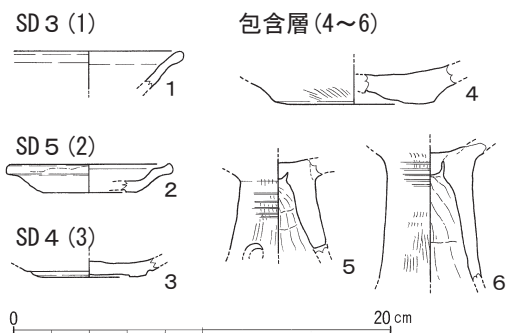
S字甕A類である。

SD132出土遺物(42)

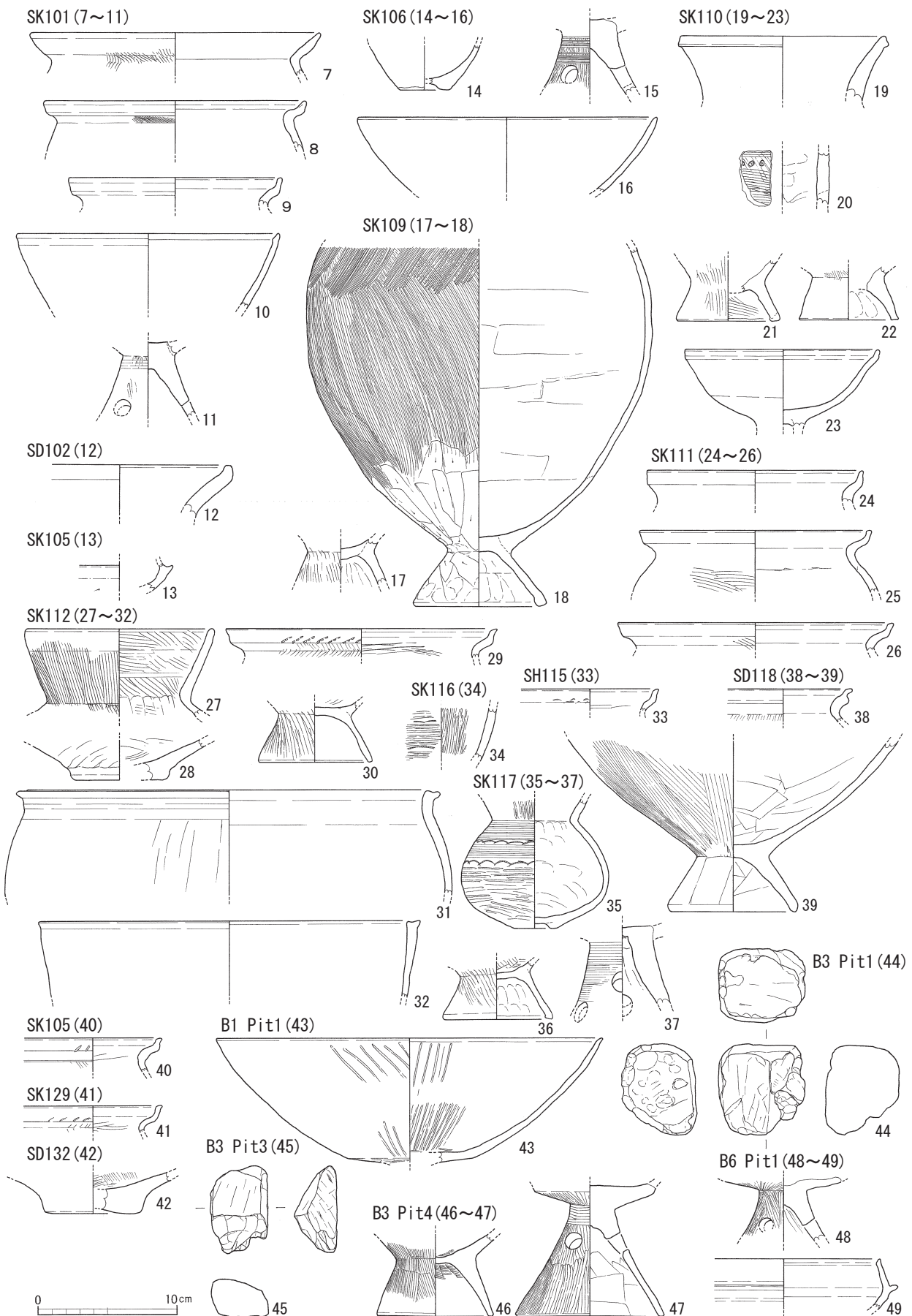
土師器壺底部である。

B区Pit出土遺物(43～60)

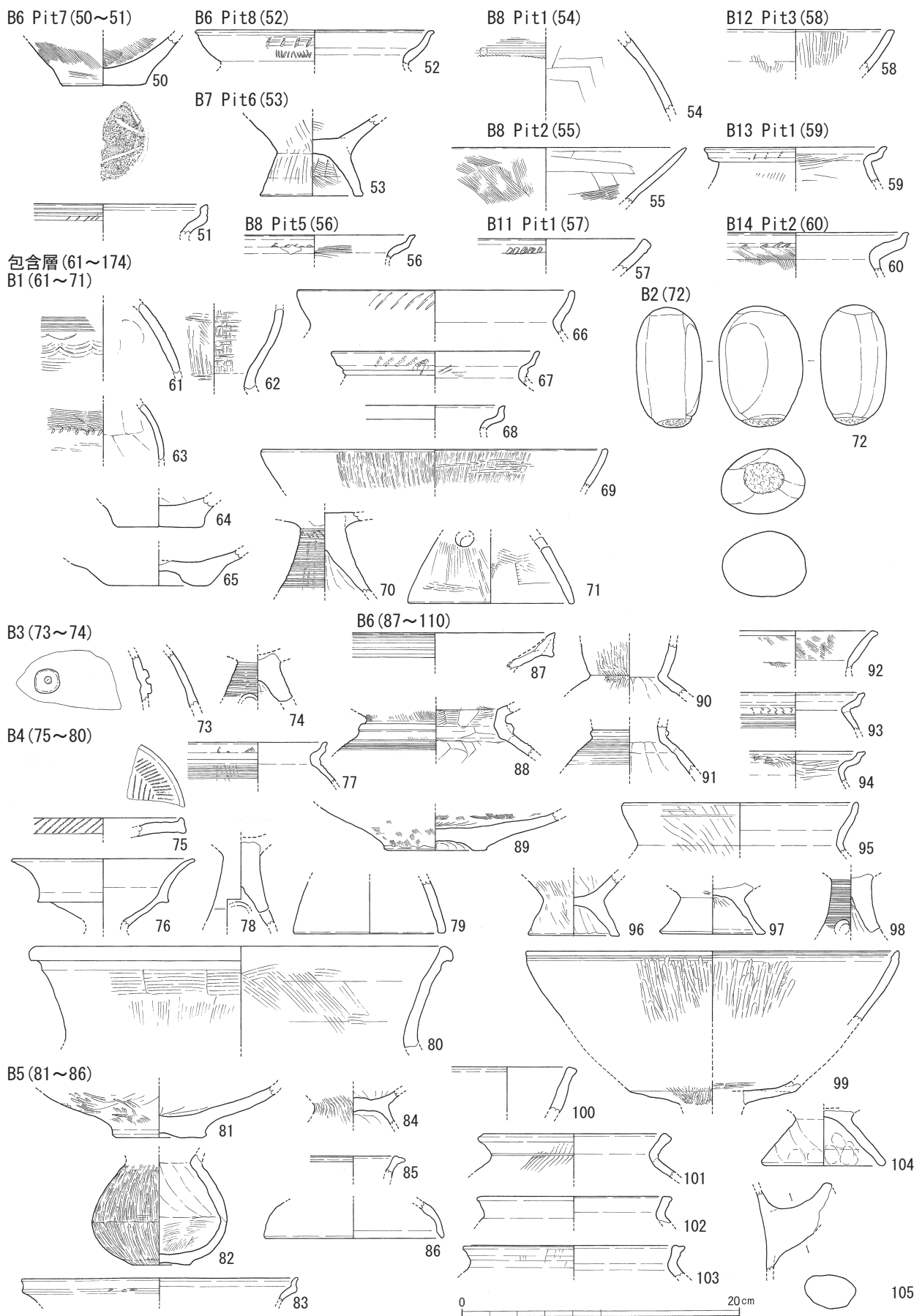
43は内弯するものの浅くやや外方に広がる土師器高杯である。44・45は軽石で部分的に擦痕が残り、砥石として使われたものと思われる。46は弥生土器



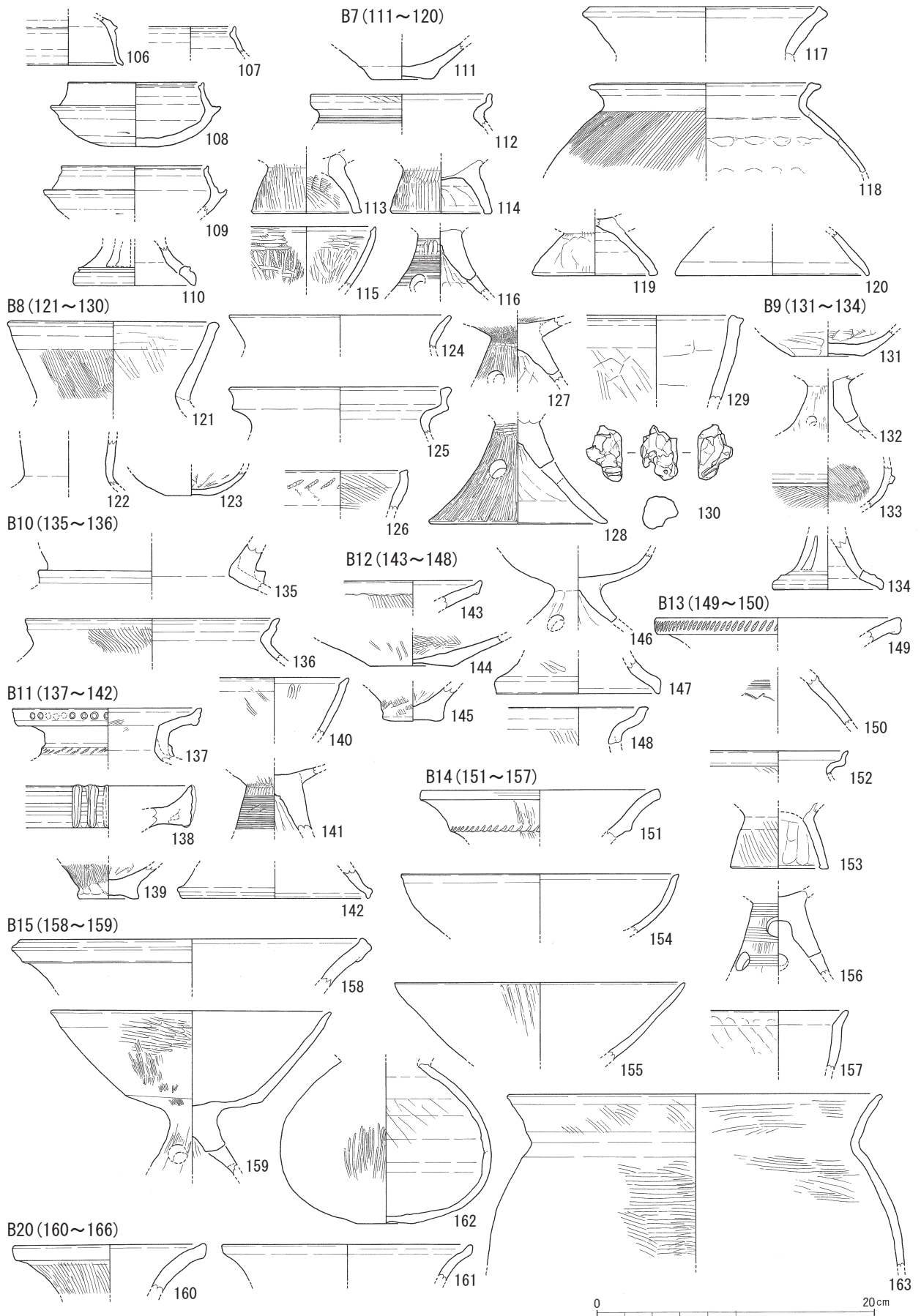
第V-35図 中島遺跡A区遺物実測図(1:4)



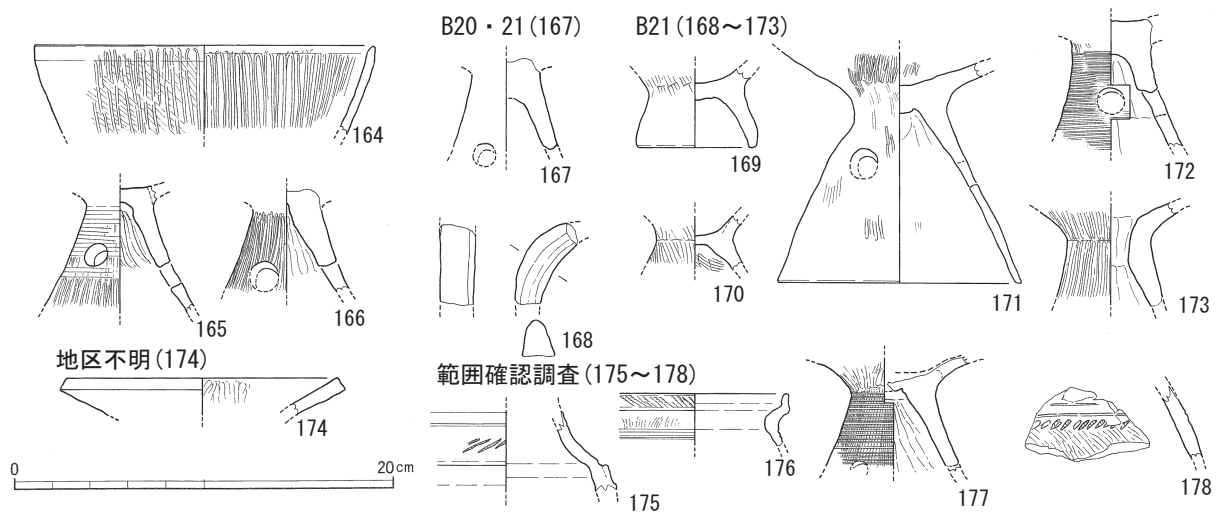
第V-36図 中島遺跡B区遺物実測図1(1:4)



第V-37図 中島遺跡B区遺物実測図2 (1:4)



第V-38図 中島遺跡B区遺物実測図3(1:4)



第V-39図 中島遺跡B区遺物実測図4 (1:4)

もしくは土師器甕台部、47・48は土師器高杯脚部でいずれも3方透し孔をもつ。49は須恵器杯身でTK10型式併行に比定される。50は弥生土器甕又は壺で底部外面に圧痕がある。52は受口状の口縁部で外面に刺突をもつ土師器甕あるいは鉢である。54は土師器壺肩部で櫛描直線文の下に貝殻による円弧状の刺突文がみられる。55は口縁端部に赤彩をしている。58は土師器高杯である。59はS字甕A類、小型のものである。

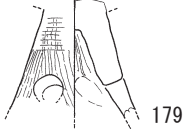
B区包含層出土遺物 (61~178)

弥生時代終末~古墳時代初頭の壺 (61~65・73・75・76・81・82・87~91・111・135・137・138・143~145・149~151・160~162・178)、甕(66~68・77・83・84・92~96・112~114・124~126・136・139・148・152・153・163・169・170・176)、高杯(69~71・74・78・79・98・99・115・116・127・128・132・140・141・146・154~156・159・164~167・171~173・177)、鉢 (133の手焙形土器を含む) である。62は長頸壺口縁部である。66はやや内弯する口縁部をもつ甕で外面に刺突文がみられる。72は敲石で一部に敲打痕がみられる。73は肩部に1箇所円形浮文が残る。75は口縁上面に羽状刺突が認められる。76は小型の二重口縁壺である。82は小形壺で体部最大径が中央より下半部にくる。87・88は加飾系の壺で、

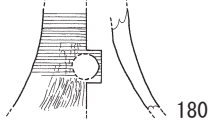
87は口縁部外面に赤彩を施す。99は口縁端部内面に沈線をし、美濃地域の特徴をもつ。113・114は端部に向かって内弯する。115は端部に内傾する面をもつ。128は端部が外反する。133は外面に突帯をもち、手焙形土器の体部下半とみられる。137・138は加飾系の壺で137は頸部にキザミを入れた突帯をもち、口縁部外面に刺突をする。138は口縁外面に擬凹線文を施し、3本の棒状浮文をつける。151は有段口縁で口縁部の下段にキザミを施す。159は口縁部付近が緩く内弯し、縁部付近は横方向のミガキを施す。162は壺体部である。最大径が体部下半にくる。163は口縁部が外反する。164は杯部が深くなる。168は把手付鉢の把手部分とみられる。171は端部に向けて僅かに内弯する。173は充填部の抜けた高杯または器台である。178は加飾壺肩部片で、上から櫛描直線、斜状の刺突文の下に赤彩を施す。

古墳時代後期の土師器壺 (117)、土師器甕 (85・101~104・118~120)、土師器高杯 (142・147)、須恵器杯身 (107~109)、杯蓋 (86・106)、高杯 (110・134)、器台 (175) である。80は須恵器の壺あるいは甕で緩やかに外反し端部を丸く収める。85は宇田型甕の口縁部である。86は須恵器杯蓋でTK217型式併行に比定される。142は器壁が厚く端部をつまみ上げている。175は沈線2条の間に刺突を施す。

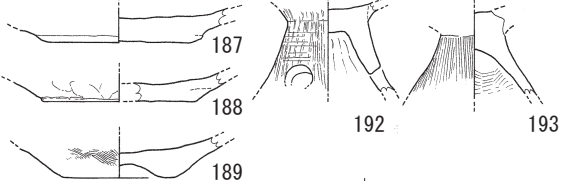
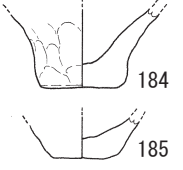
SK201 (179)



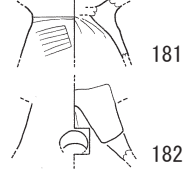
SK202 (180)



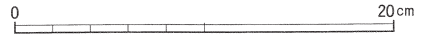
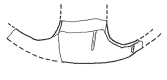
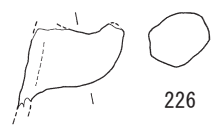
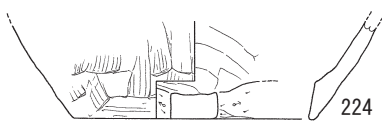
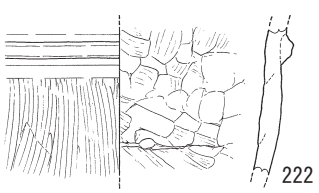
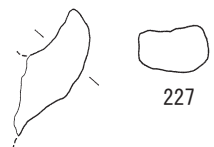
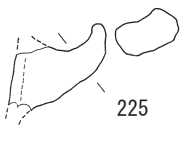
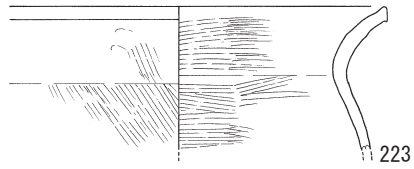
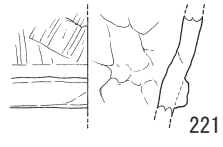
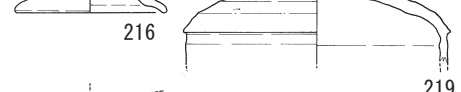
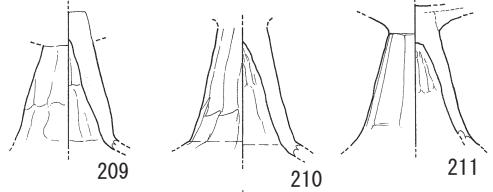
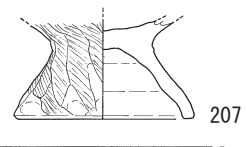
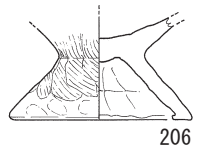
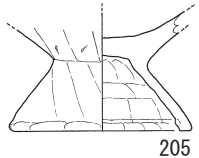
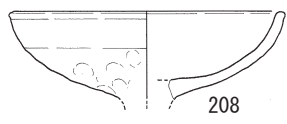
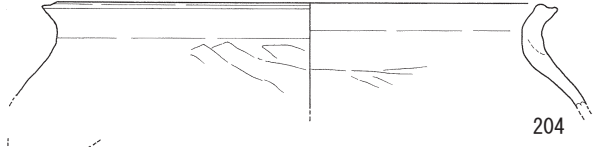
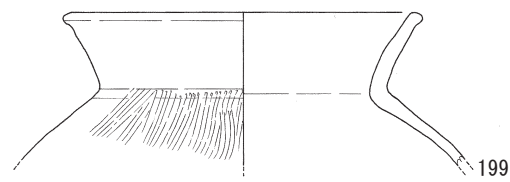
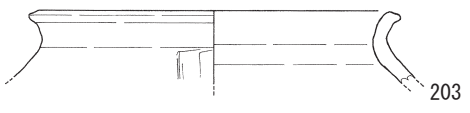
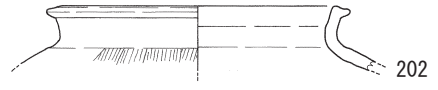
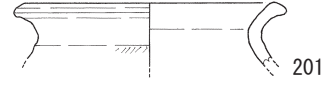
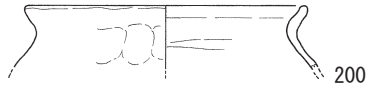
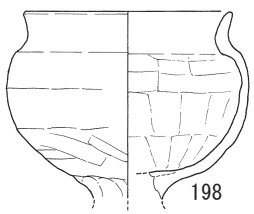
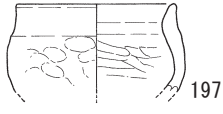
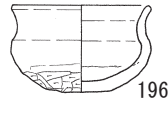
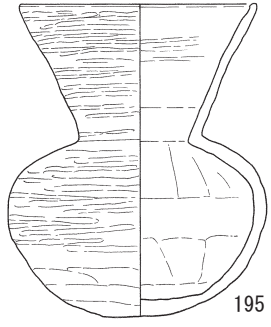
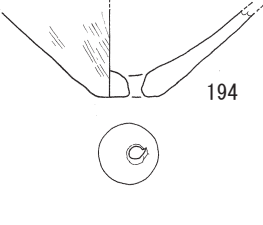
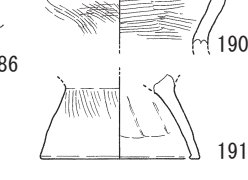
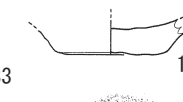
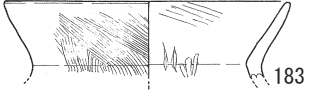
SZ205 (184~230)



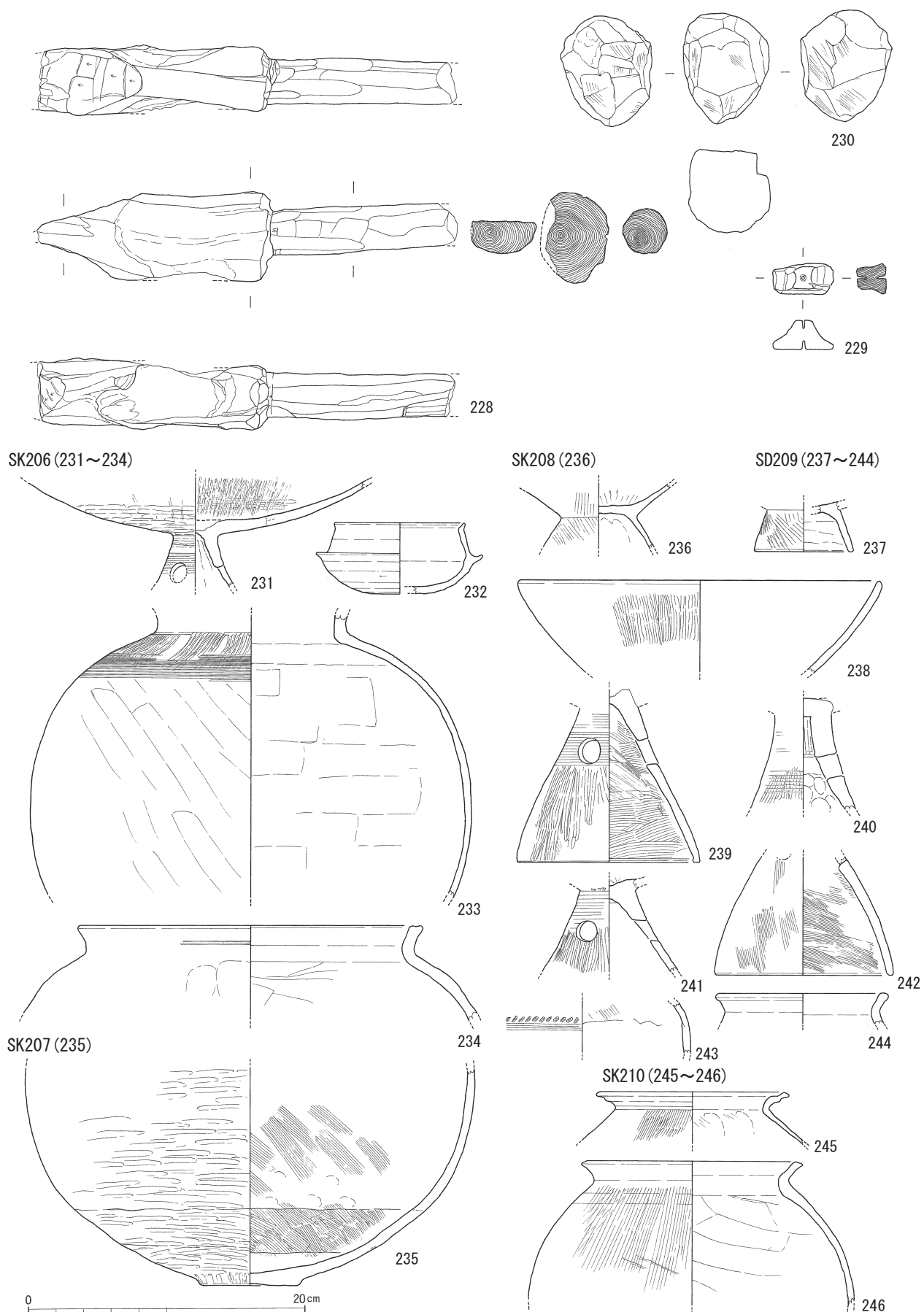
SK203 (181~182)



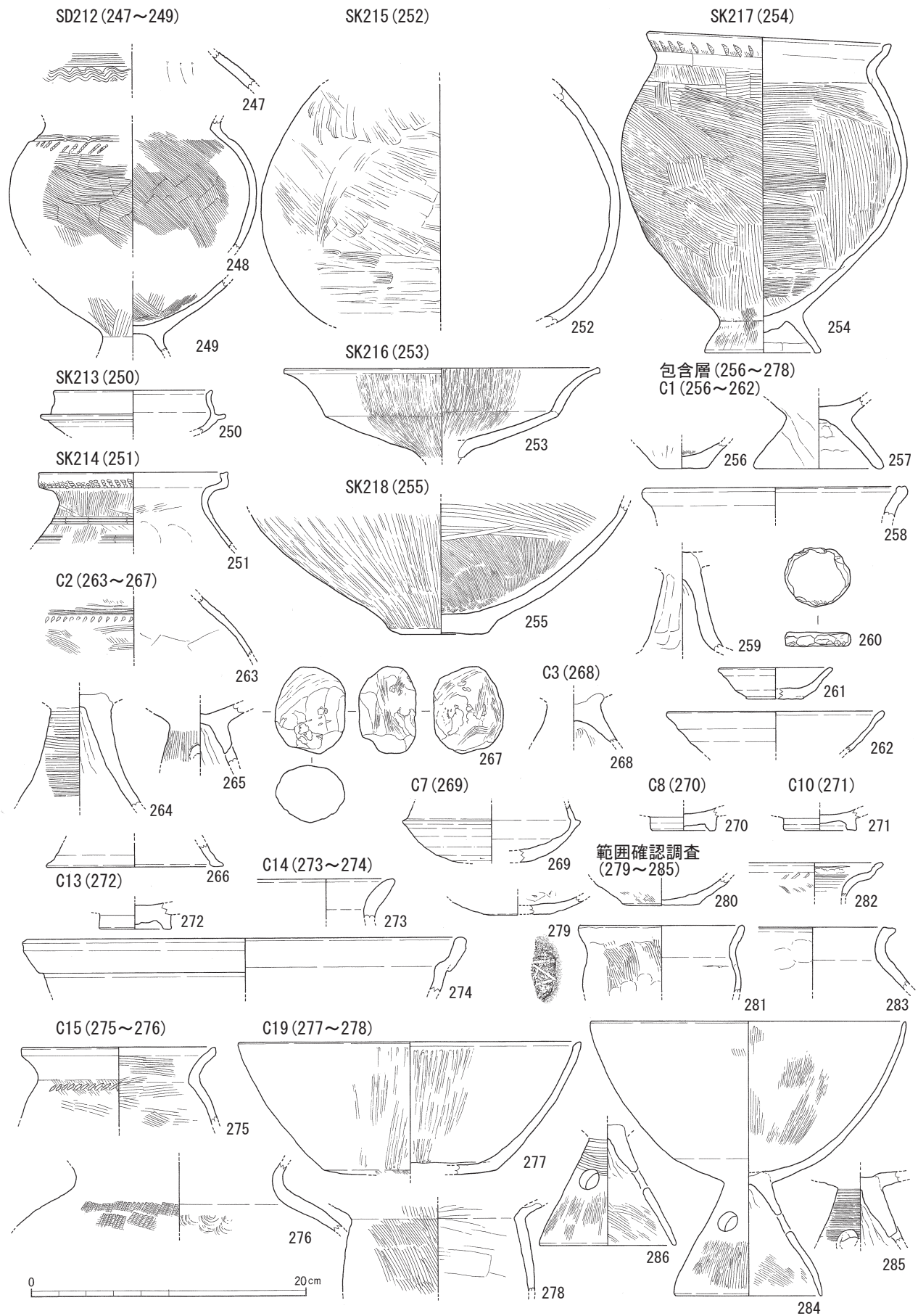
SK204 (183)



第V-40図 中島遺跡C区遺物実測図1 (1:4)



第V-41図 中島遺跡C区遺物実測図2(1:4)



第V-42図 中島遺跡C区遺物実測図3 (1:4)

S K201出土遺物 (179)

土師器高杯脚部である。

S K202出土遺物 (180)

土師器高杯である。やや高い位置に透し孔がある。

S K203出土遺物 (181・182)

181は甕台部、182は高杯である。高杯は短脚で裾部が広がるとみられる。

S K204出土遺物 (183)

土師器甕口縁部である。僅かに内弯傾向を示す。

S Z205出土遺物 (184~230)

184~194は弥生終末~古墳初頭の土器である。184~189が壺、190・191は甕、192・193が高杯、194が有孔鉢である。186は底部に木葉痕がつく。195~227は古墳時代中後期の遺物である。195は口頸部の長い壺である。体部が球胴化し口頸部は逆ハの字状に開く。199は体部が宇田型甕に類するハケメ調整をする壺である。198・200~207は甕で、201~207は宇田型甕である。208~212は高杯である。杯部は丸味を帯び脚部は下部で外方に屈曲する。213~215は杯である。特に213は端部に明瞭なナデをし、内傾する面をもつ。216・217は台付杯の台部で、218は皿である。219・220は須恵器で、219は杯蓋、220は杯身である。221・222は円筒埴輪片である。223は丸底の甕、224は甑の底部である。228・229は木製品である。228は基部をひと周り細く削り出す。ひと周り太い部分は側面に圧痕が認められ、先端を鋭角に削っている。樹種はカヤである。229は上部と下部に面をもち、断面が山形状の小片である。上端と下端に木釘状のものを刺して固定したような凹みが認められる。230は軽石で、いくつか面が形成され、擦痕が認められる。砥石として利用されたものであろう。

S K206出土遺物 (231~234)

231は土師器高杯で、232は須恵器杯身、233は土師器壺、234は土師器甕である。231は杯部の稜線が明瞭でなく、口縁部に向けて大きく広がる。232はTK47型式期併行に比定される。233は肩部に宇田型甕に類する原体を用い粗いハケメが認められる。234は宇田型甕である。

S K207出土遺物 (235)

土師器壺体部下半で体部最大径がやや下にくるも

のである。内面は黒化している。

S K208出土遺物 (236)

S字甕の体部と台部との接合部である。

S D209出土遺物 (237~244)

237はS字甕台部である。器高が低く、端部の折り返しが認められない古手のものであろう。238~242は土師器高杯である。脚端部は内弯し、中央やや上部に透し孔がある。廻間I型式期併行か。244は混入で、宇田型甕である。

S K210出土遺物 (245・246)

245・246は土師器甕である。245は器壁が薄いが、口縁端部が外方に大きく開き、端部が肥厚する。S字甕C類でも新しい。246は宇田型甕である。概ね4世紀後半から5世紀代のものとみられる。

S D212出土遺物 (247~249)

247は土師器壺体部、248・249は土師器甕である。247は櫛描直線文の下に波状文がみられる。248は内外面共にハケ調整をし、肩部に横方向の沈線及び斜めの刺突を施す。

S K213出土遺物 (250)

須恵器杯身で、MT15型式併行期とみられる。

S K214出土遺物 (251)

口縁端部が直立する弥生土器受口甕である。口縁部外面に刺突文が密にあり、肩部はヨコハケが認められる。

S K215出土遺物 (252)

土師器壺体部片である。内面に炭化物が付着し、断面にもススが付着している。

S K216出土遺物 (253)

弥生土器高杯である。口縁部が外反する。伊勢V-4様式併行とみられる。

S K217出土遺物 (254)

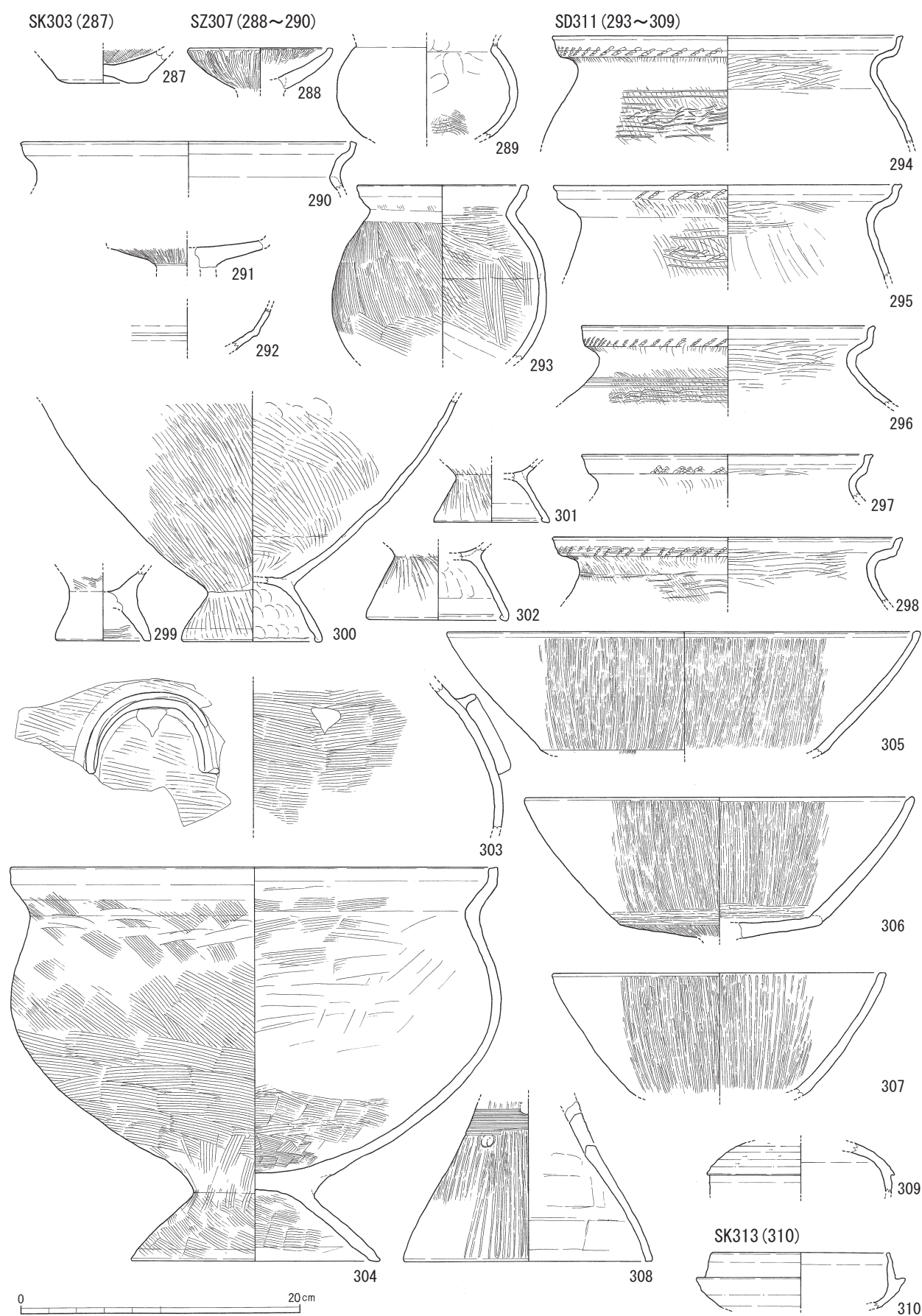
土師器台付受口状甕である。緩く内弯する口縁部で、口縁端部は面をもち、外面に刺突文を施す。器高の低い台がつく。

S K218出土遺物 (255)

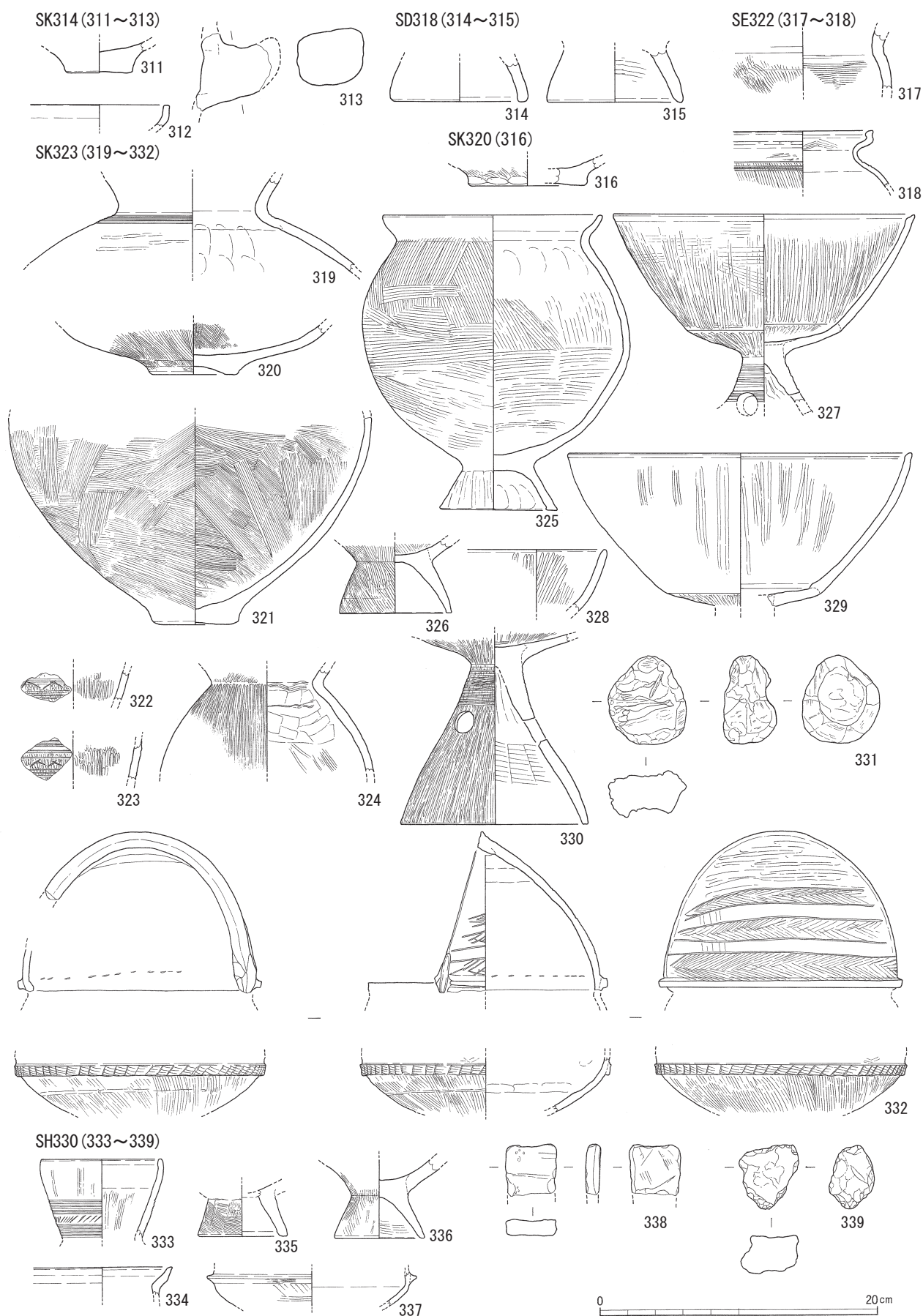
土師器壺体部下半である。端部を打ち欠いている可能性がある。内面は黒くすすけている。

C区包含層・範囲確認調査出土遺物 (256~286)

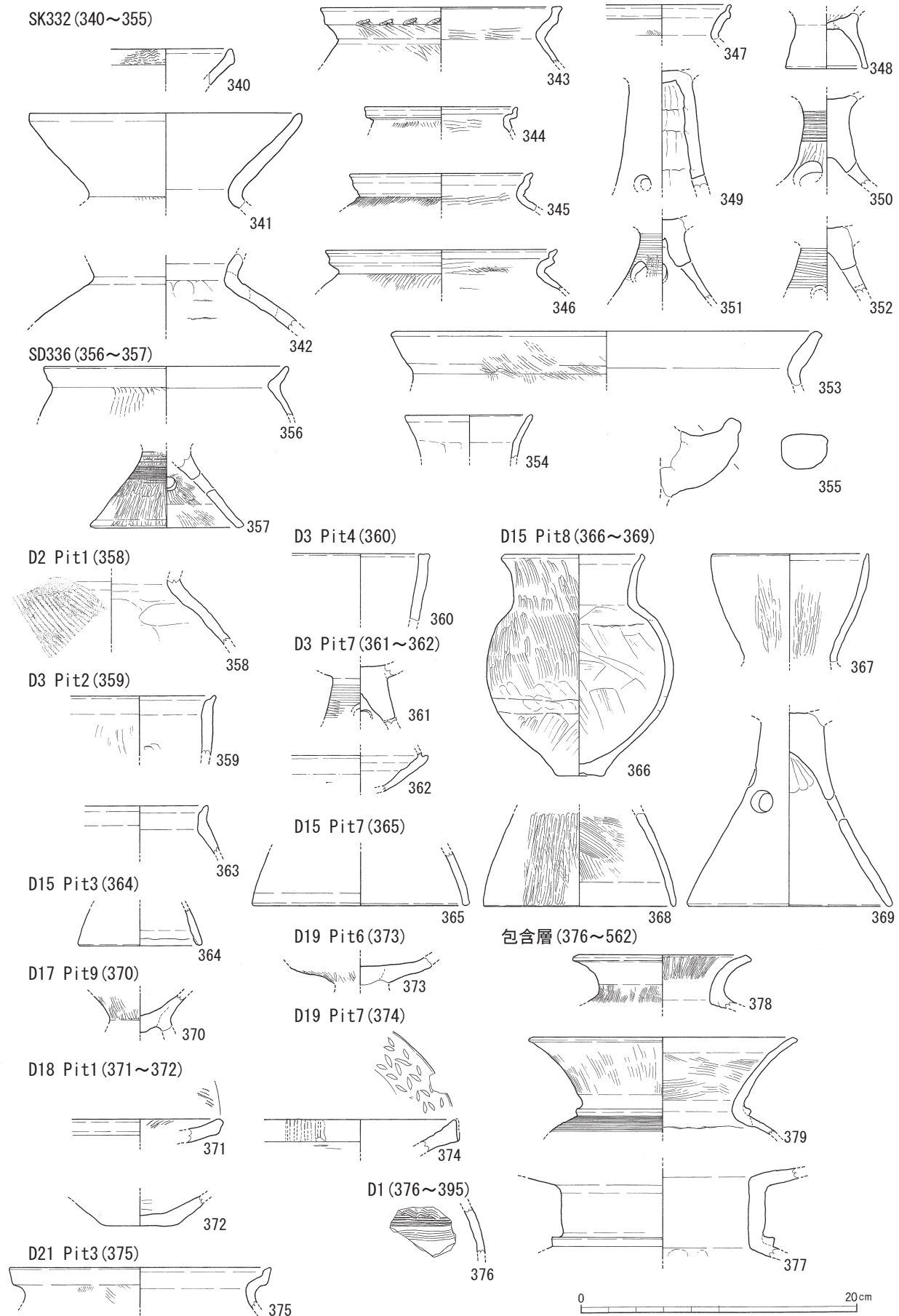
256~278が包含層、279~286が範囲確認調査出土遺物である。257・258は宇田型甕である。259は土



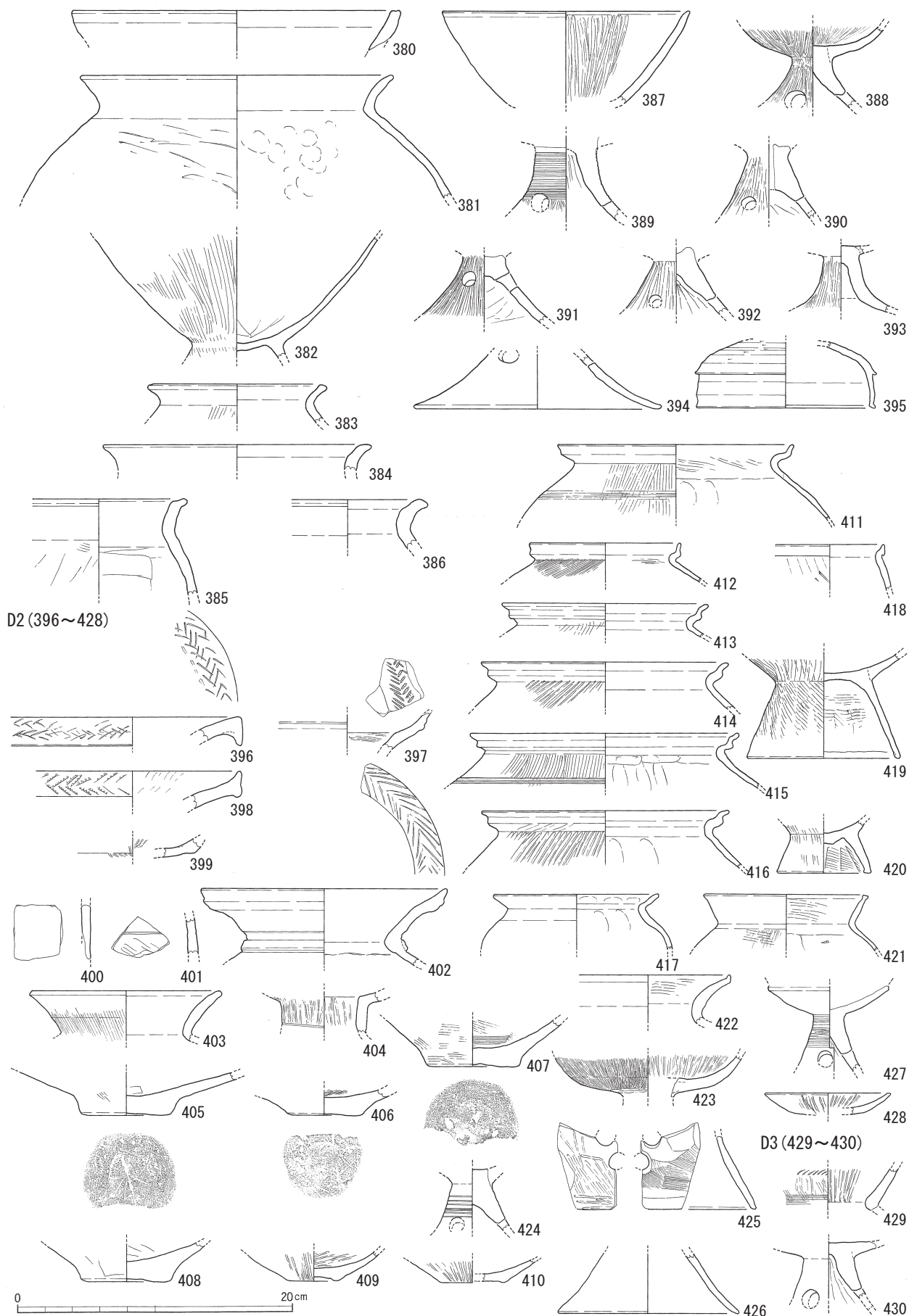
第V-43図 中島遺跡D区遺物実測図1(1:4)



第V-44図 中島遺跡D区遺物実測図2 (1:4)

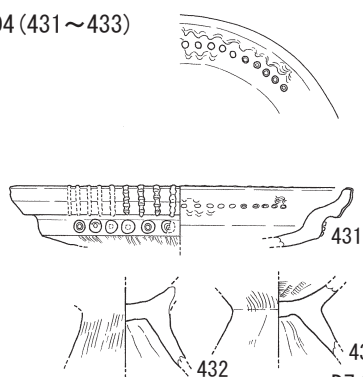


第V-45図 中島遺跡D区遺物実測図3 (1:4)

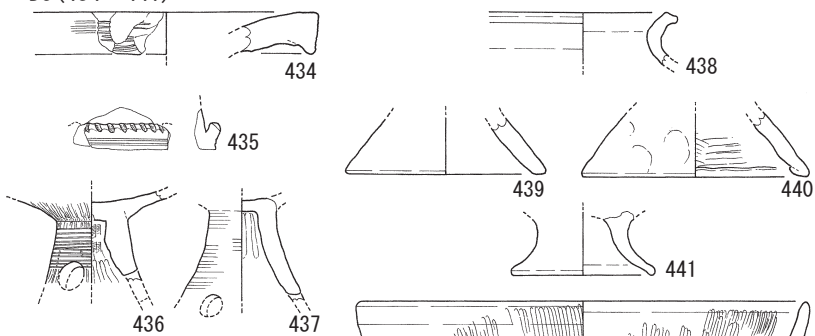


第V-46図 中島遺跡D区遺物実測図4(1:4)

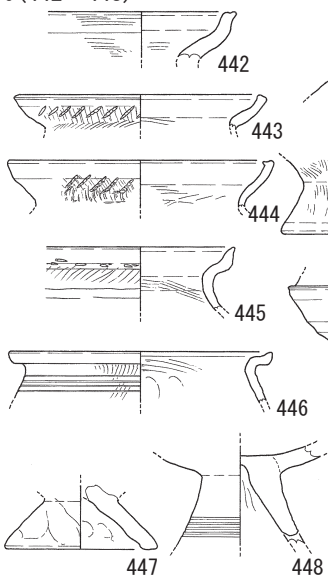
D4 (431~433)



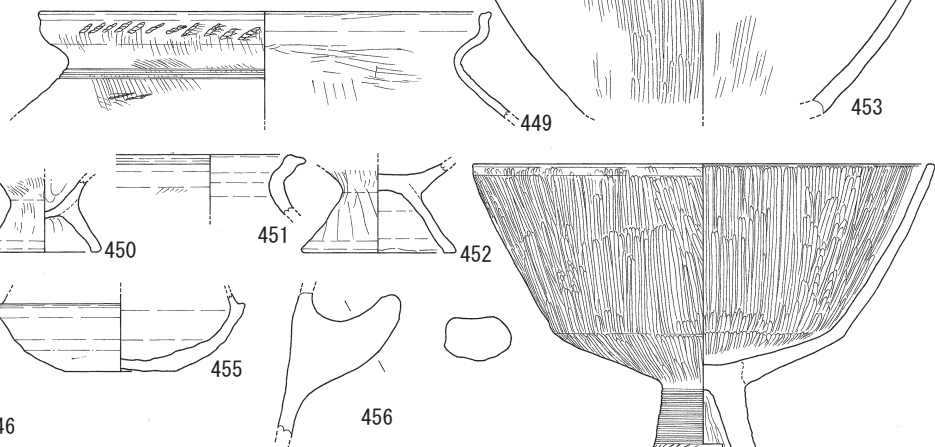
D5 (434~441)



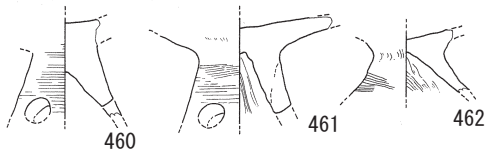
D6 (442~448)



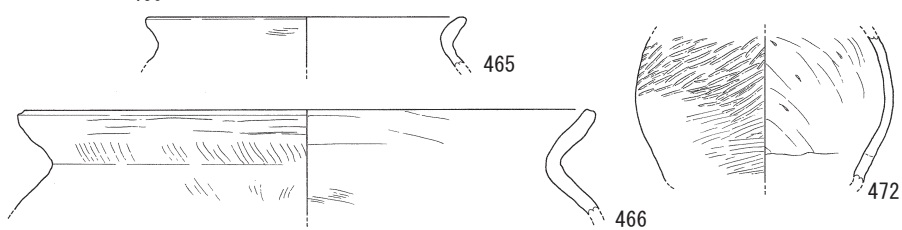
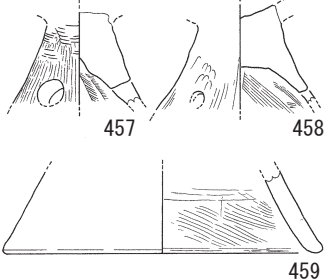
D7 (449~456)



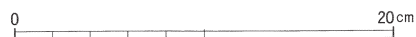
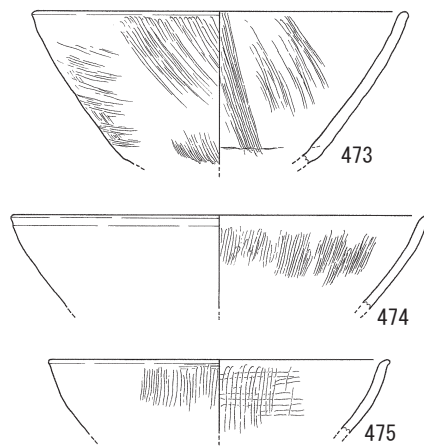
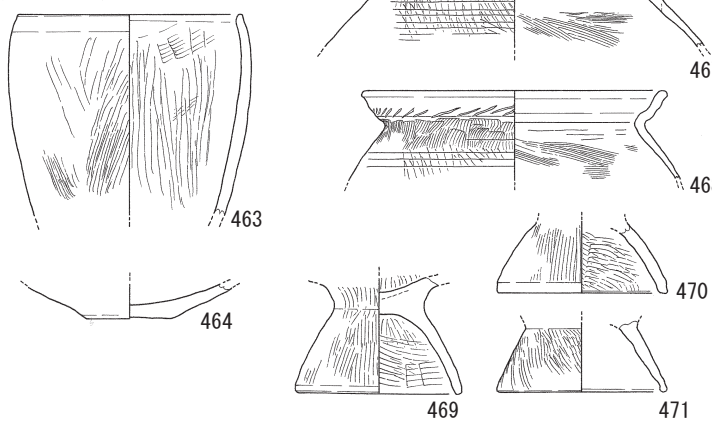
D10 (460~462)



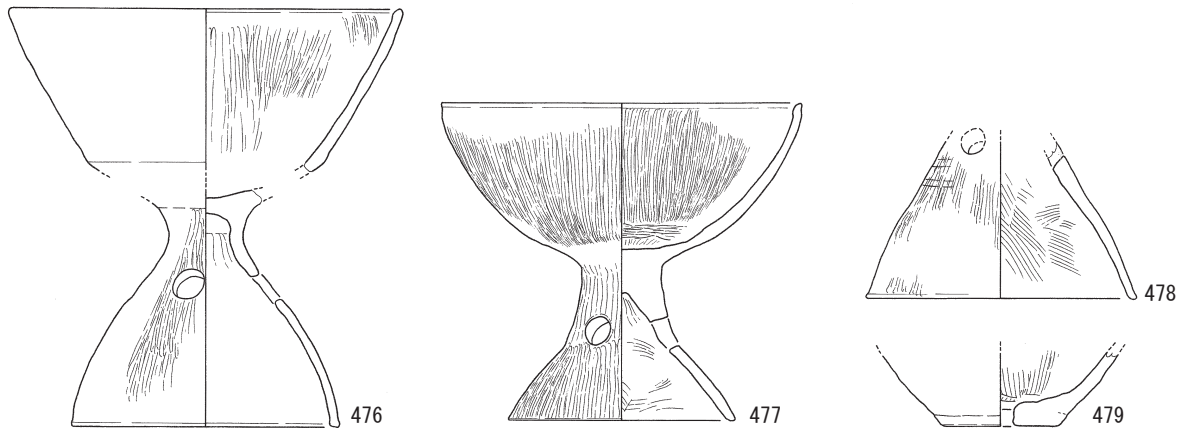
D9 (457~459)



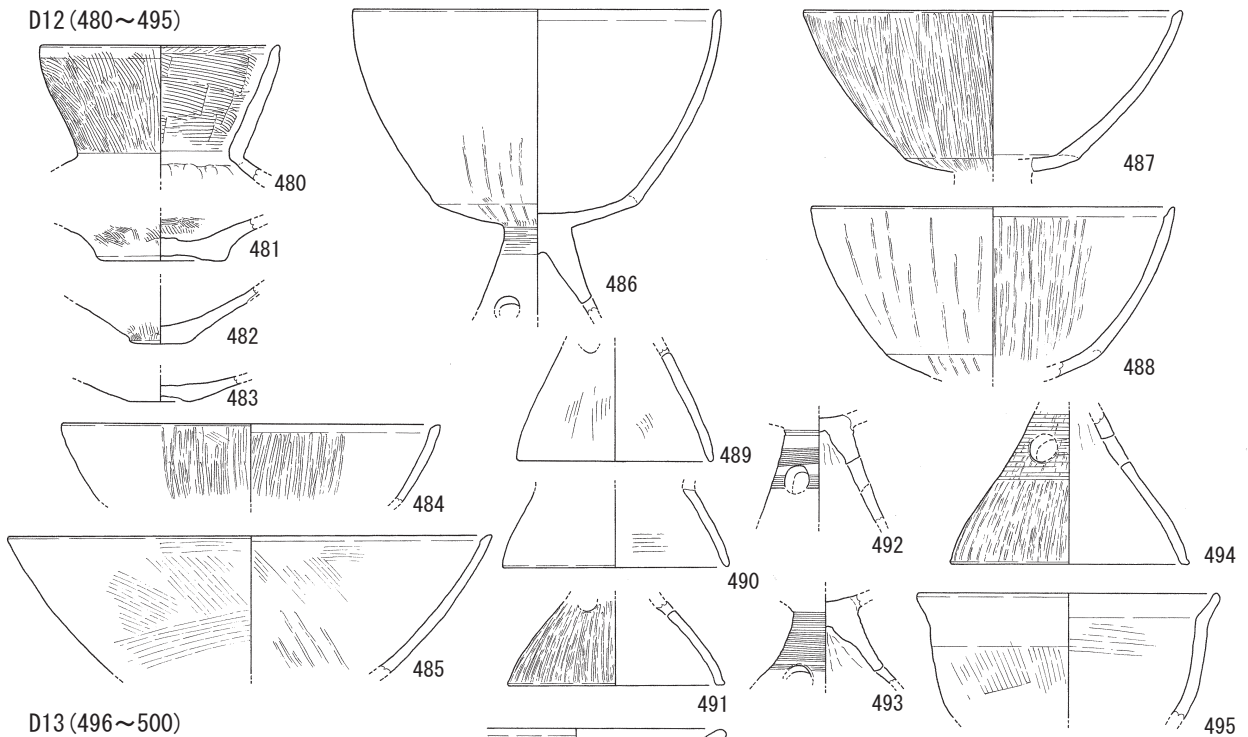
D11 (463~479)



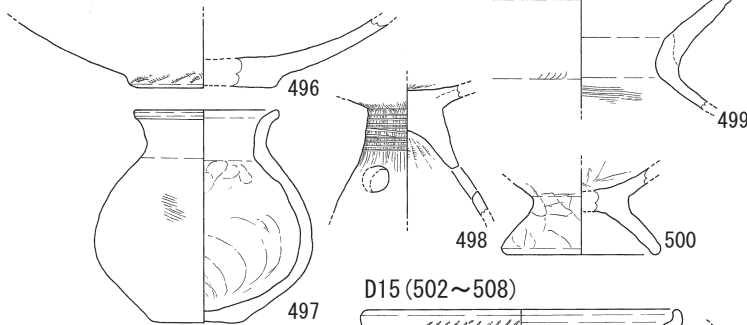
第V-47図 中島遺跡D区遺物実測図5(1:4)



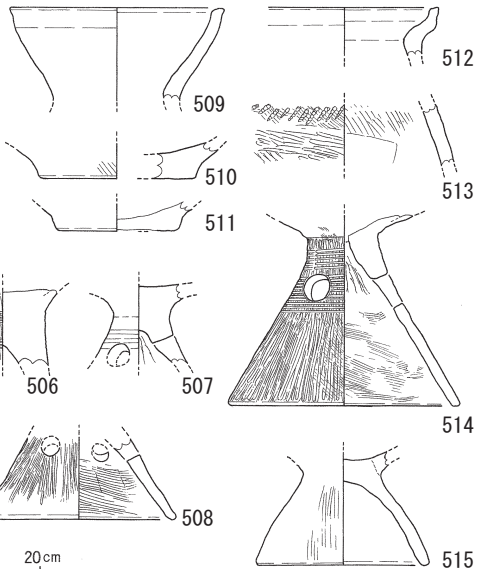
D12 (480~495)



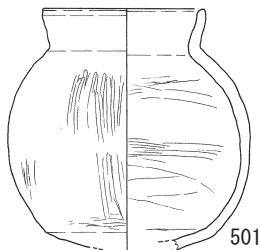
D13 (496~500)



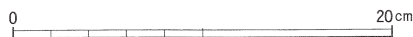
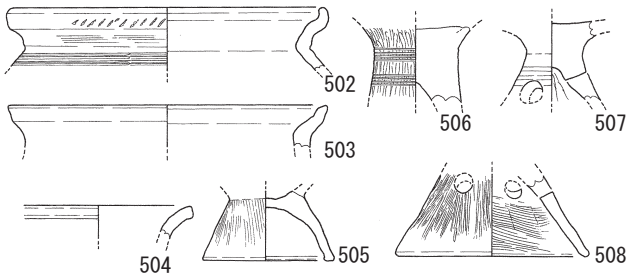
D16 (509~515)



D14 (501)

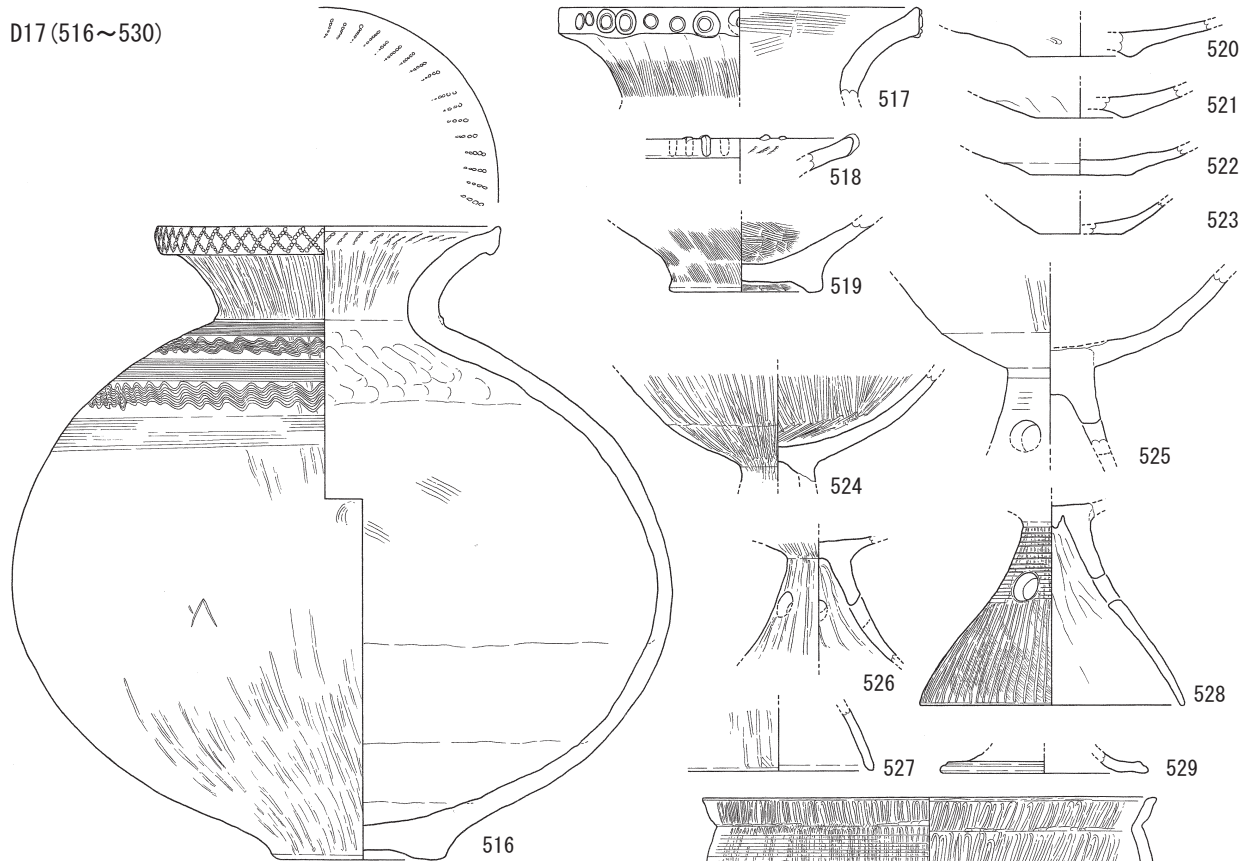


D15 (502~508)

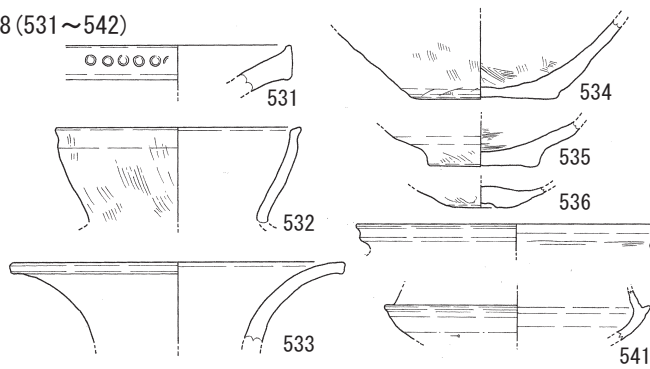


第V-48図 中島遺跡D区遺物実測図6 (1:4)

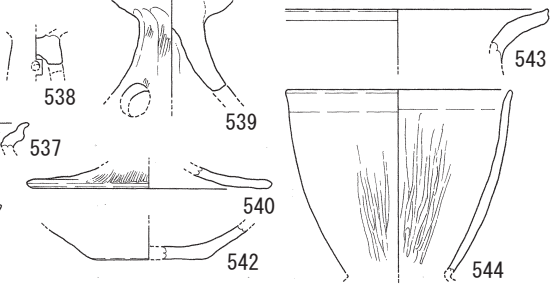
D17 (516~530)



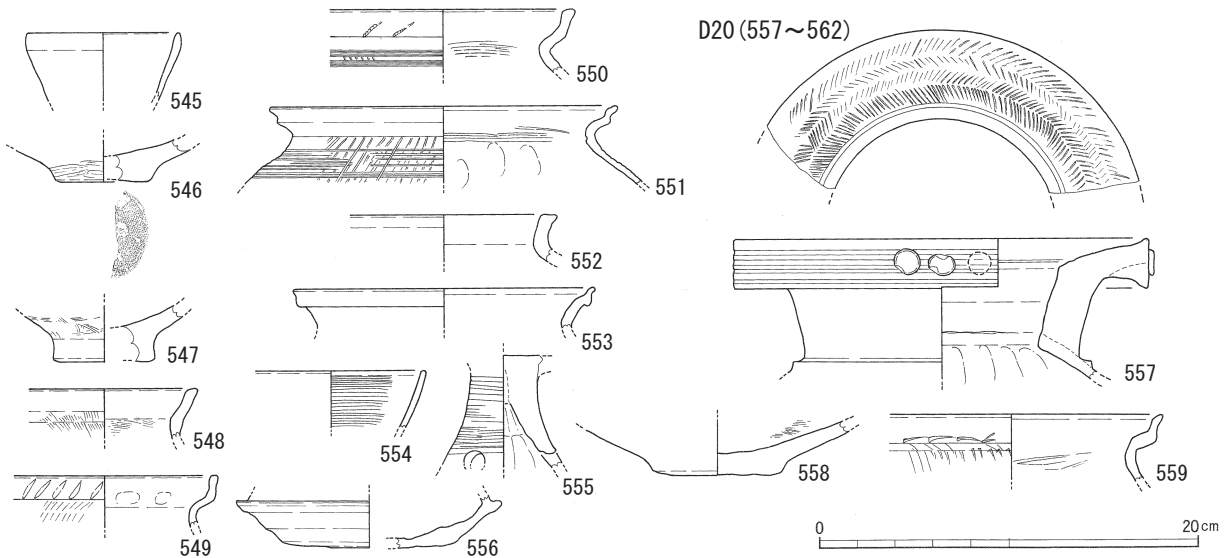
D18 (531~542)



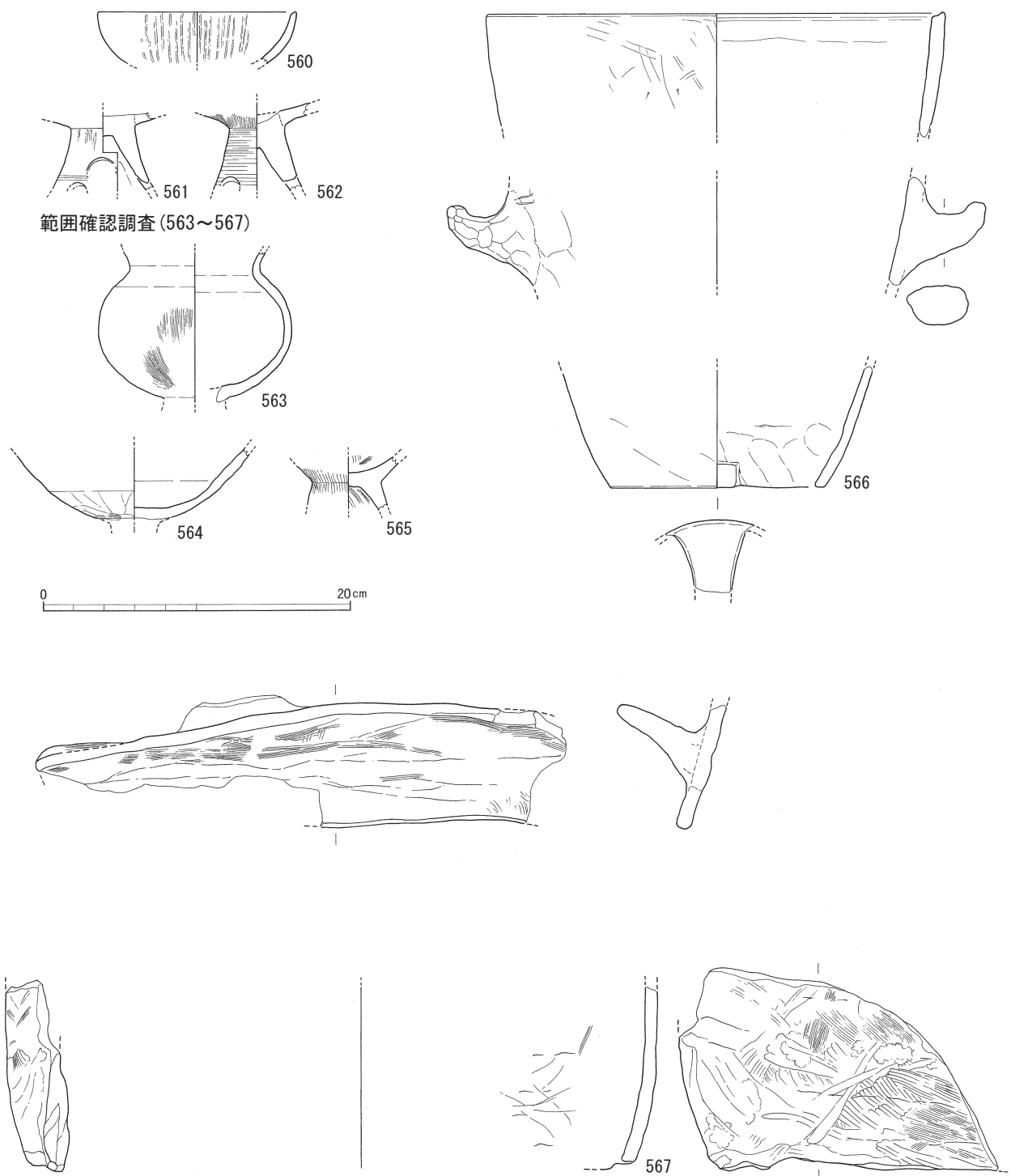
D19 (543~556)



D20 (557~562)



第V-49図 中島遺跡D区遺物実測図7(1:4)

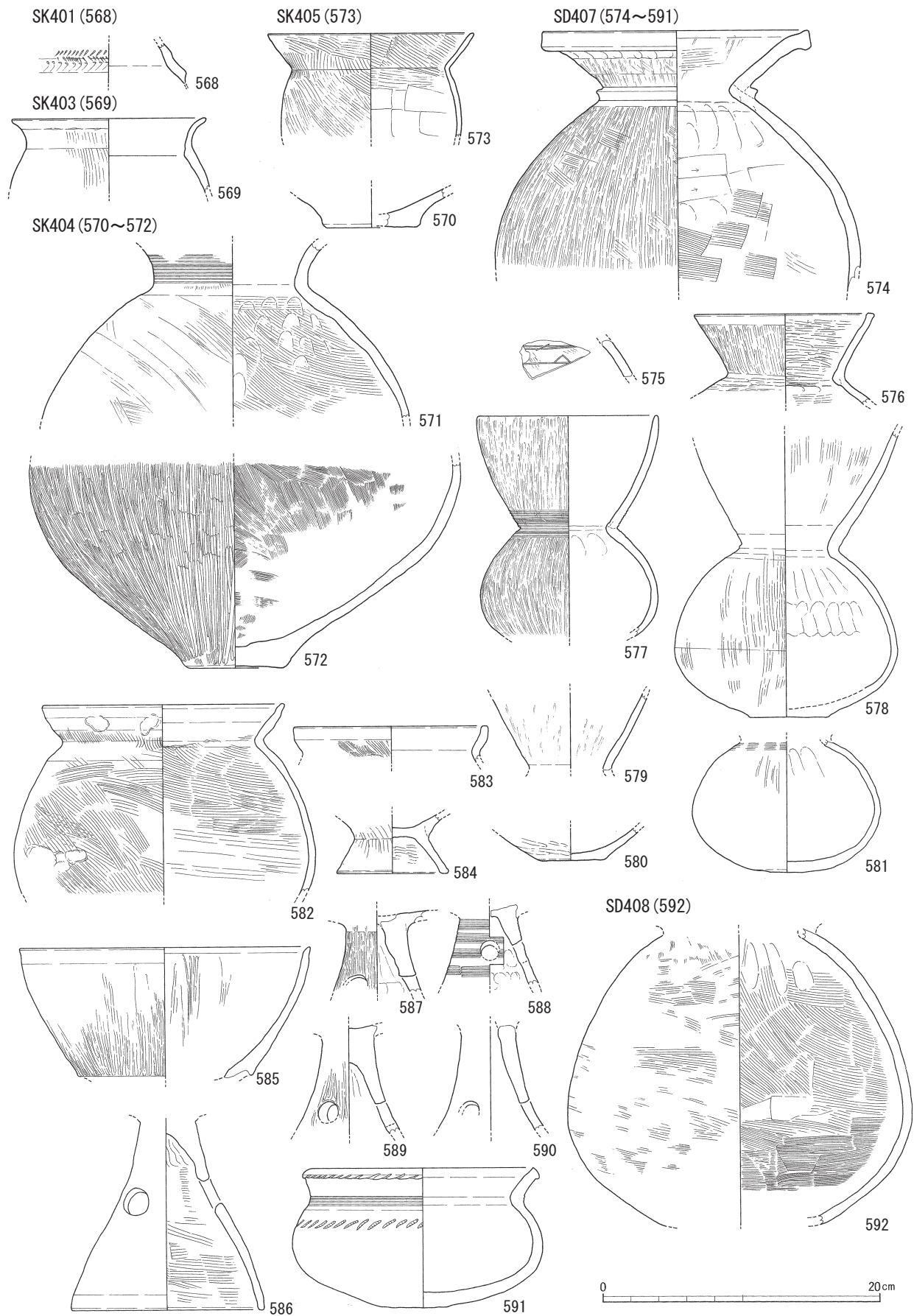


第V-50図 中島遺跡D区遺物実測図8(1:4)

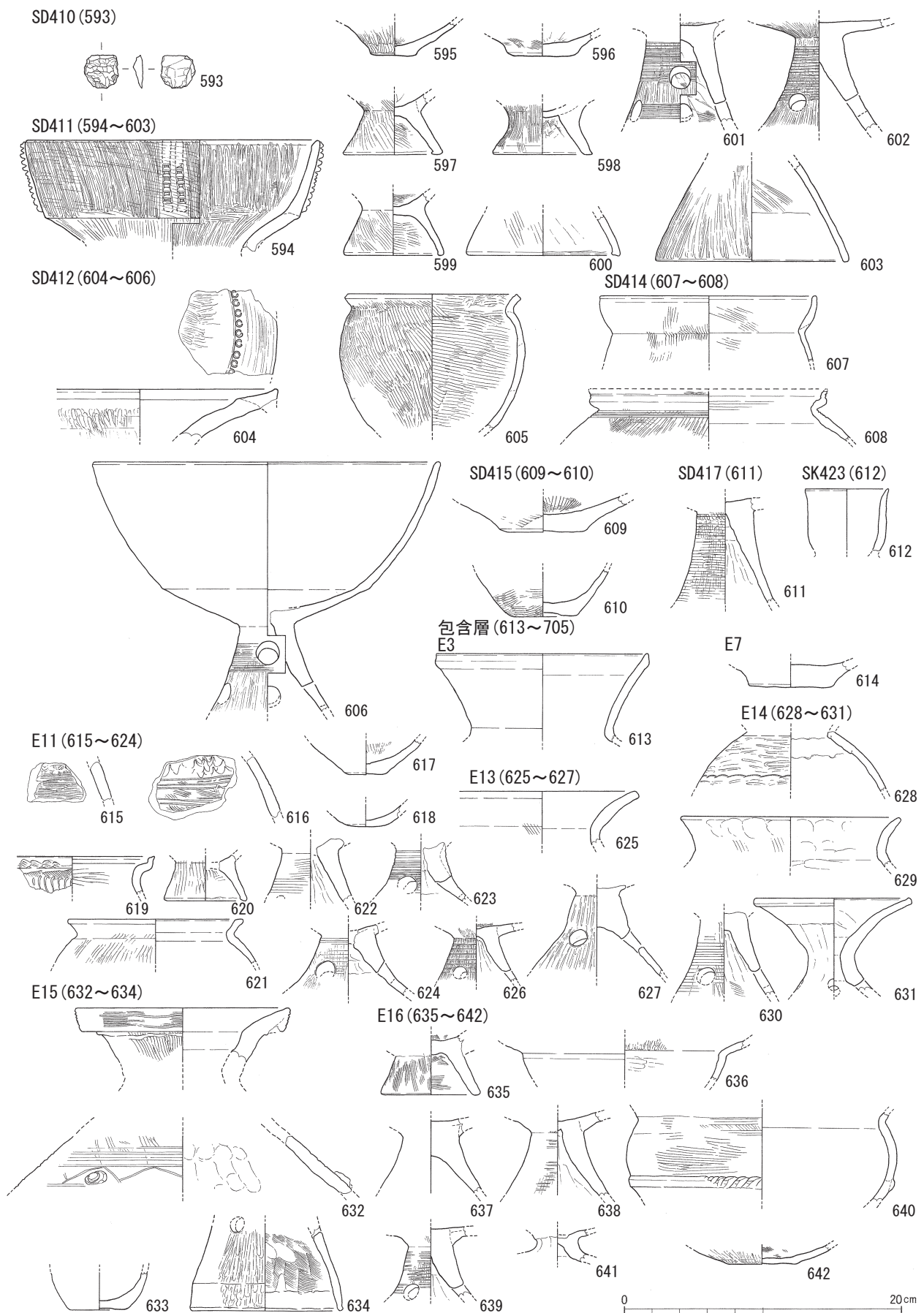
師器高杯で、下部で外方に広がるものである。260は常滑産陶器を円形に打ち欠いた加工品である。261は山皿、262は山茶碗である。263は土師器壺体部、264・265は土師器高杯である。266は須恵器高杯片とみられる。267は軽石で、複数の面をもち、砥石

とみられる。269は須恵器杯身で端部は欠損している。270・271は天目茶碗である。270は底部外面が無施釉、271は底部外面に錆釉がみられる。274は瀬戸美濃産陶器播鉢で鉄釉がかかる。

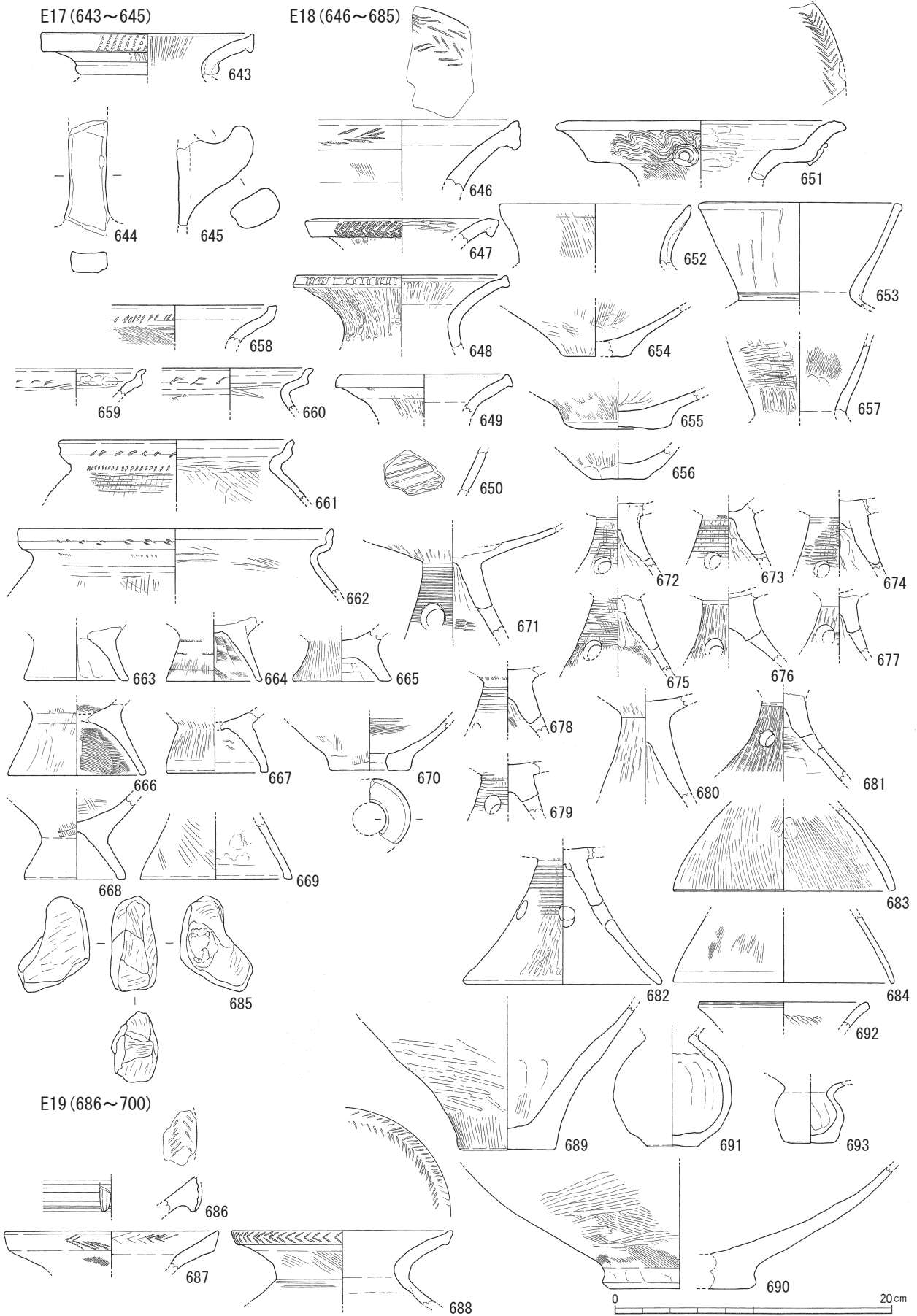
275は土師器甕で頸部に刺突がみられる。278は長



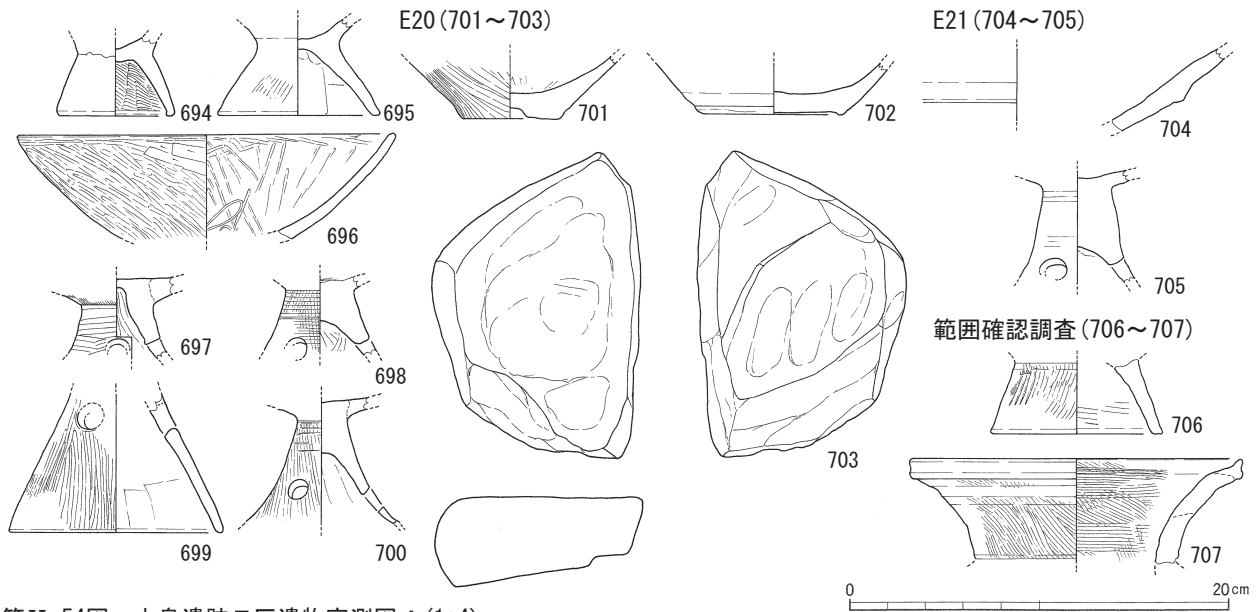
第V-51図 中島遺跡E区遺物実測図1(1:4)



第V-52図 中島遺跡E区遺物実測図2(1:4)



第V-53図 中島遺跡E区遺物実測図3(1:4)



第V-54図 中島遺跡E区遺物実測図4 (1:4)

胴甕になるとみられる。284は土師器高杯で、廻間II式期併行である。

S K 303出土遺物 (287)

土師器壺底部である。外面中央が凹んでいる。

S Z 307出土遺物 (288~290)

288は土師器器台、289は土師器長頸壺の体部、290が土師器受口状口縁甕である。

S K 309出土遺物 (291・292)

291は弥生土器もしくは土師器高杯片、292は須恵器礎の口縁部付近か。292は混入とみられる。

S D 311出土遺物 (293~309)

293~298は土師器甕である。293は受口状の口縁で、294・298はS字甕、295~297は受口状である。294・295は口縁部だけでなく肩部にも刺突が認められる。303・304は鉢である。303は肩部に把手がつく。304は受口状口縁で、台はハの字状に大きく開く。305~308は土師器高杯である。内弯傾向を示し、杯部径の割に器高が低い。端部に面をもち面が上を向くもの(305)、内傾するもの(306)などがある。脚部は長く、端部は内弯する。293~308の土器は概ね廻間I式期前半併行とみられる。309は須恵器杯蓋で混入とみられる。

S K 313出土遺物 (310)

須恵器杯身でTK10型式併行に比定される。

S K 314出土遺物 (311~313)

311は土師器壺底部、312は土師器甕口縁部、313は土師器鍋又は甑の把手部分である。

S D 318出土遺物 (314・315)

いずれも弥生土器もしくは土師器甕台部である。

S K 320出土遺物 (316)

土師器壺底部である。

S E 322出土遺物 (317)

土師器甕片である。古代以降のものである。

S K 323出土遺物 (318~332)

319~324は土師器壺である。319~321は大形で、322~324は長頸壺になるとみられる。321は体部最大径がほぼ中央にくるとみられ、端部を打ち欠いている可能性がある。322・323は外面に櫛描直線文及び山形の刺突を施す。318・325・326は土師器甕である。325は口縁端部が内弯傾向を示す。327~330は高杯である。内弯傾向を示し、杯部径に対し器高が高い。327・329の端部は内傾する。331は軽石である。332は手焙形土器である。覆部は端部を肥厚させて面をつくり、外面下部は沈線で区画した中に羽状の刺突文を施す。鉢部の体部下半に突帯を付けその上を刺突している。これらの出土遺物から、時期は廻間I式期新~II式期古段階併行とみられる。

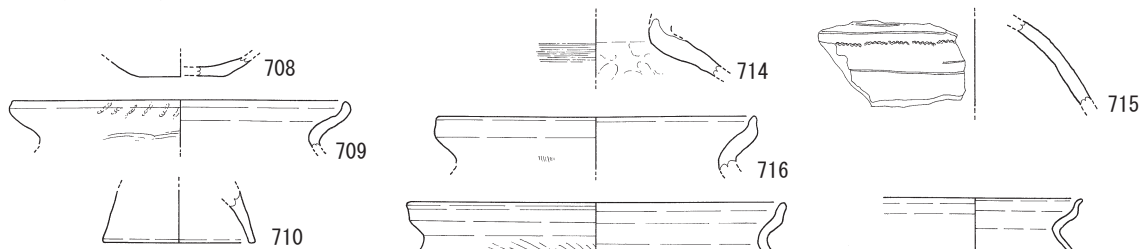
S H 330出土遺物 (333~339)

弥生終末期~古墳初頭のものである。いずれも小片で、333は壺、334~336は甕、337は手焙形土器、338は砥石である。

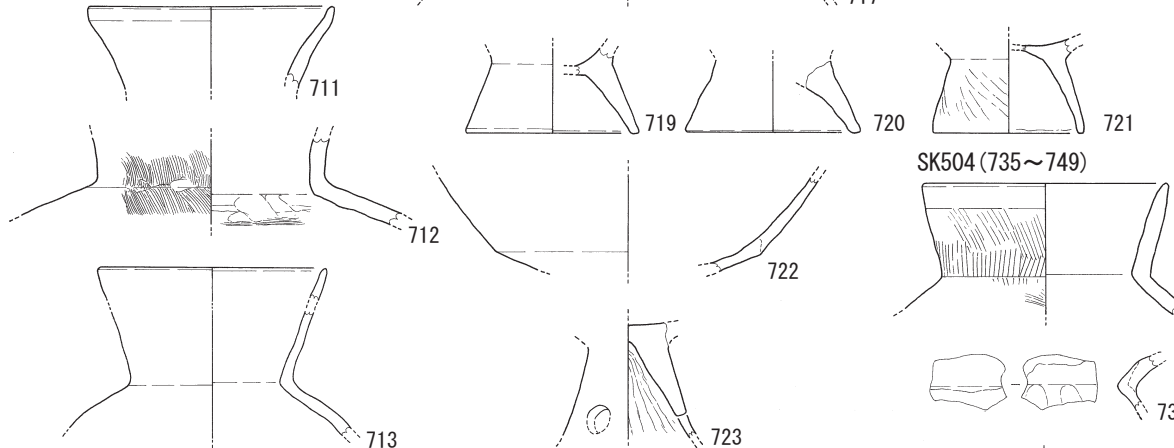
S D 332出土遺物 (340~355)

340~342は土師器壺、343~348は土師器甕、349~352は土師器高杯、353は土師器鉢である。341は

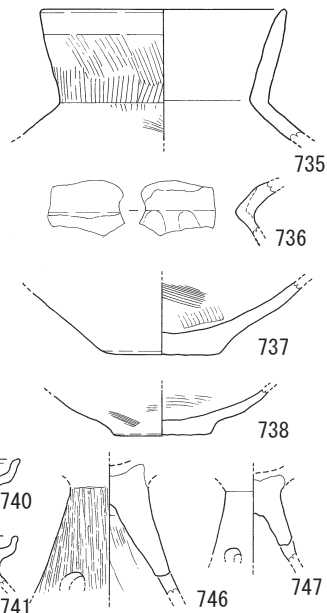
SD501 (708~710)



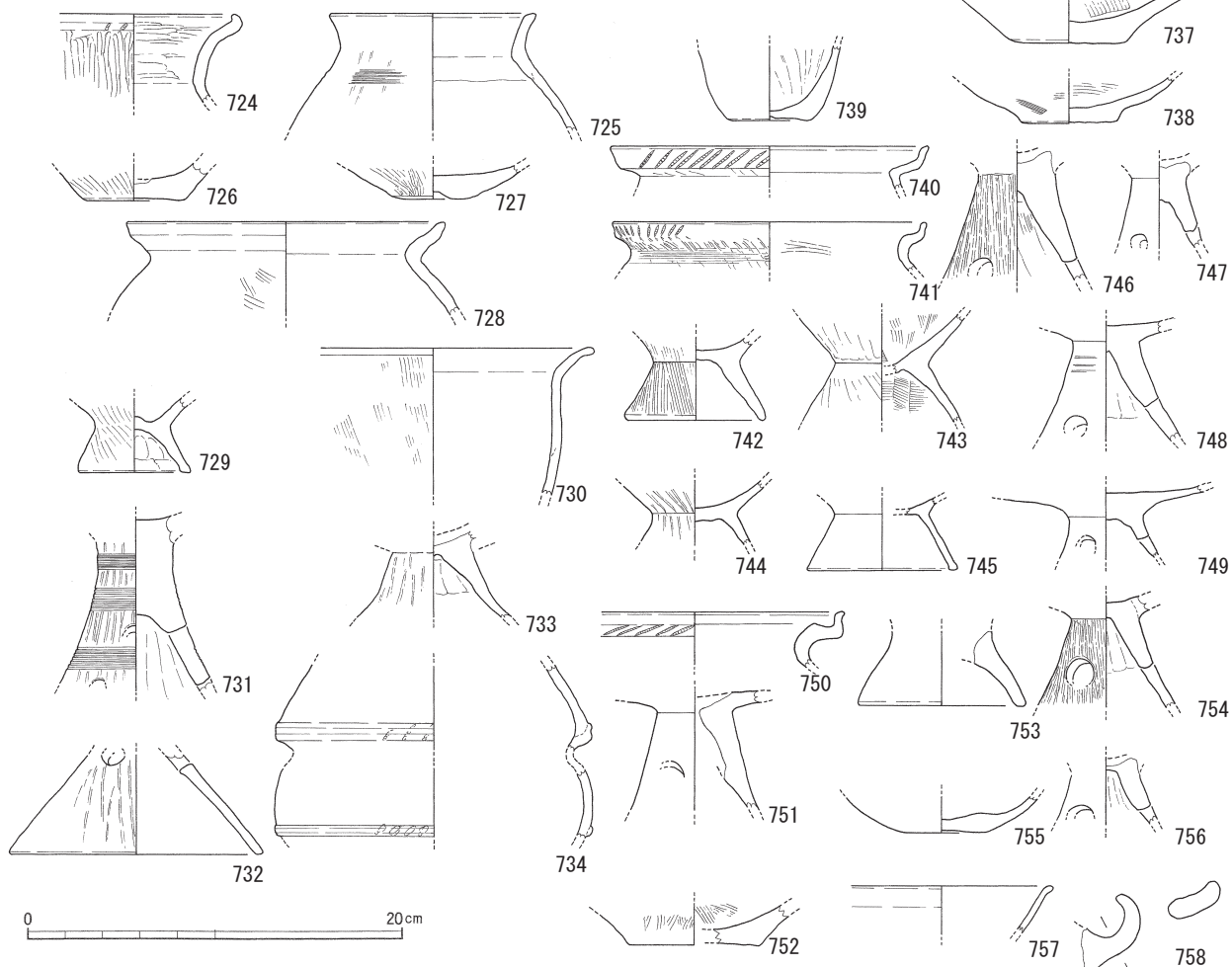
SK502 (711~723)



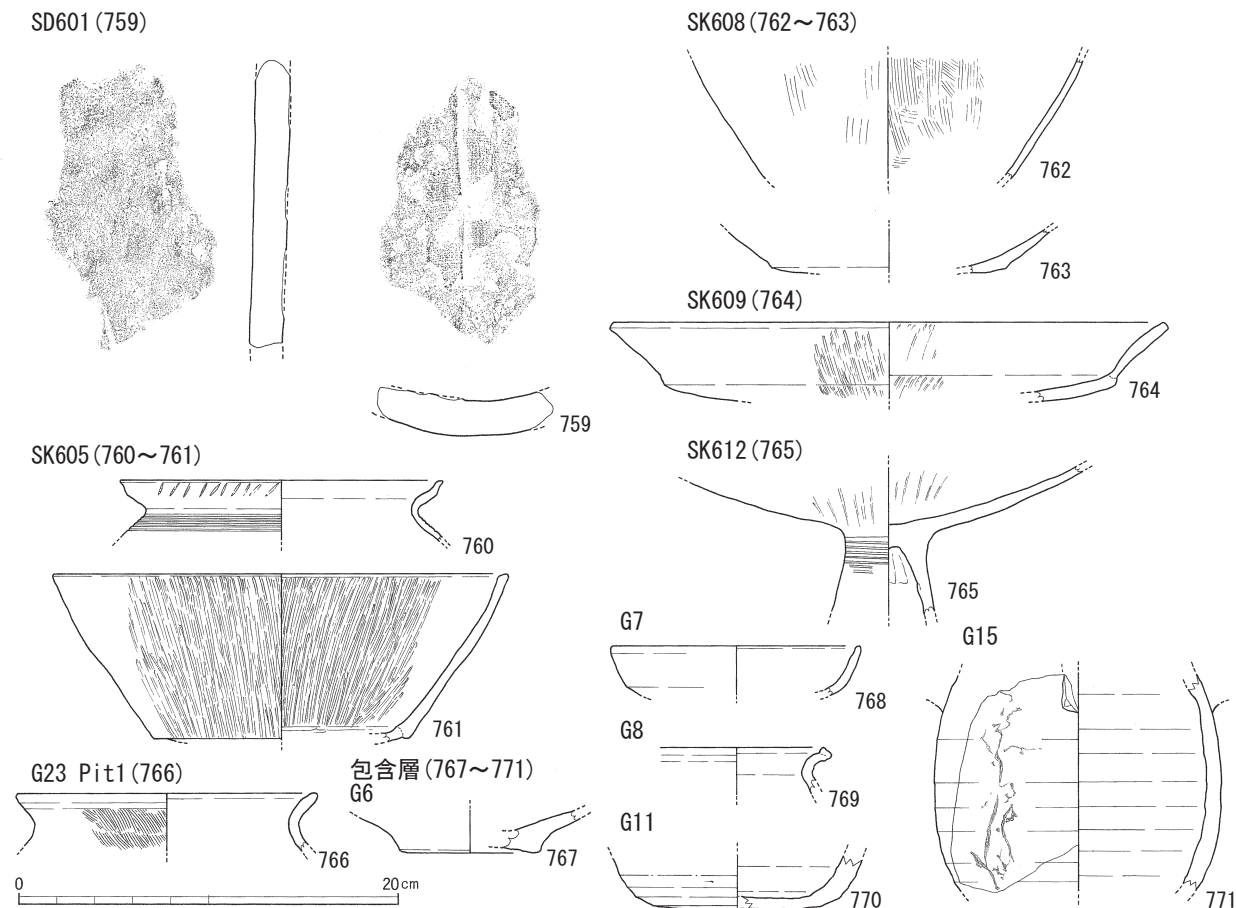
SK504 (735~749)



SK503 (724~734)



第V-55図 中島遺跡F区遺物実測図(1:4)



第V-56図 中島遺跡G区遺物実測図(1:4)

逆ハの字状に大きく広がる。343は受口状口縁、344～346はS字甕で、345・346はC類である。349は長脚になる。350は裾部が大きく開き、透し孔が大きい。354は土師器壺、355は土師器鍋あるいは甑の把手である。

SD336出土遺物 (356・357)

356は弥生土器甕、357は弥生土器脚部である。357は短い脚部で逆ハの字状に直線的に延びるもので、壺脚部の可能性もある。

D区Pit出土遺物 (358~375)

366は直口壺で伊勢V-1・2様式併行とみられる。367は弥生土器長頸壺、368・369は弥生土器高杯である。369は長脚で3方透しの上部に1箇所透し穴がつく。

D区包含層・範囲確認調査出土遺物 (376~567)

376~562が包含層出土遺物である。包含層出土のものは、概ね弥生終末期~古墳時代初頭のものと同古墳時代中後期のものに分けられる。

土師器壺 (376~379・396~410・429・431・434・435・463・464・480~483・496・509~511・513・

516~523・531・532・534~536・544~547・557・558)、甕 (382・411~421・442~445・449・450・467~472・502・505・512・537・548~551・559)、高杯 (387~394・423~426・430・436・437・448・453・454・457・460~462・473~478・484~494・498・506~508・514・524~528・538~540・544・545)、器台 (427・428)、鉢 (479・495・530) である。加飾系壺となる396は口縁部の外面及び上面、398は外面、397・402は内傾する端部にそれぞれ羽状刺突が認められる。399の内面及び400・401の外面は赤彩を施す。404は二重口縁壺の頸部である。412~417はS字甕で413~416はC類に相当する。421は布留系甕である。425は高杯脚部と想定され2段の透し孔が認められる。431は加飾壺口縁部で、外面を円形浮文と棒状浮文で、内面を竹管文と波状文で加飾する。畿内系の影響を受けたものか。442~444は受口状、445・449はS字甕A類である。453・454は廻間II式前半併行のものに比定される。467・468はS字甕A類である。472は体部上半にタタキが認められ、内面は工具によるケズリである。477は

椀形高杯となる。476は端部が内弯傾向にあり、杯部径に比べ深くなる形状から、廻間Ⅱ式期併行とみられる。486～488の特徴は概ね454と同じである。516～518は加飾壺で、516は口縁部外面に×状の刺突、口縁部上面に斜めの刺突がつく。体部上半には、櫛描直線文と波状文がつく。517は口縁部外面に竹管文2箇所・円形浮文2箇所の順で装飾している。518は棒状浮文が認められる。530は細かいミガキ調整で体部上半に櫛描直線文と円弧状の貝殻刺突を施す。551はS字甕C類である。557は重厚な口縁部をもつ加飾壺で、外面は僅かに赤彩が残り、円形浮文が3箇所みられる。口縁部上面と頸部内面は稜で明確に分かれ、口縁部上面に羽状刺突がつく。559はS字甕A類古段階である。

古墳時代中後期の遺物は、土師器壺(501)、土師器甕(381～386・422・438～440・447・451・452・500・543・552)、土師器高杯(529)、土師器台付鉢(441)、須恵器杯身(541・556)である。438・447・451・500は宇田型甕、439・440は甕台部だが、器壁が厚く宇田型甕と同時期となるものであろう。441は台付小型鉢の台部とみられる。529は端部をつまみ上げる手法で、古墳後期のものであろう。須恵器杯身は多くが端部を欠いている。

563～567が範囲確認調査出土遺物である。563は土師器台付壺であるが、台部が剥離している。564は古墳時代後期の土師器高杯である。566は土師器甕で、口縁部・把手・底部が接合しないが、胎土、形状から同一個体と判断した。口縁部は内傾する面をもつ。567は土師器移動式竈の焚口部及び裾部の破片である。焚口付近は上部に粘土を貼付け、覆いとしている。裾部は1箇所僅かに抉りを入れている。

S K401出土遺物 (568)

土師器壺頸部で、外面に羽状刺突がみられる。

S K403出土遺物 (569)

口縁部が外反する弥生土器甕である。端部は丸く収め、外面はススが付着している。

S K404出土遺物 (570～572)

いずれも土師器壺である。572は内面及び断面に厚く炭化物が付着している。体部中央で打ち欠いた可能性がある。

S K405出土遺物 (573)

土師器甕で外面及び内面体部上半までハケ調整である。外面は厚くススが付着している。

S D407出土遺物 (574～591)

弥生終末期～古墳初頭にかけての土器が出土した。574～581は壺である。575は外面を赤彩している。576は口縁端部が内弯し、面をもつ。577～581は長頸壺で577は口頸部に櫛描直線文を施す。582～584は甕である。582・583は口縁部が受口状で、582は口縁部外面、体部外面が部分的に剥離した後も使用していたのか断面にもススが付着している。585～590は高杯である。585・586は内弯傾向をもち、長脚のものが多い。591は口縁部が外反する鉢で頸部に櫛描直線文、口唇部と肩部に刺突を施す。器壁が厚く、重量感がある。

S D408出土遺物 (592)

土師器壺体部である。端部を打ち欠いた可能性がある。

S D411出土遺物 (594～603)

594～596は土師器壺、597～600は土師器甕、601～603は土師器高杯である。594は有段口縁壺の口縁部である。外面に2本1組の棒状の粘土紐を貼付け、へら状工具を横方向に押しつけている。伊勢湾沿岸地域ではみられないものである。600は底径が大きい。601は3方透しの上段に1箇所透し穴があるものである。いずれも長脚である。廻間Ⅰ期新段階～Ⅱ式期併行であろうか。

S D412出土遺物 (604～606)

604は土師器加飾壺、605は土師器甕、606は土師器高杯である。604は内面口縁部と頸部の境に稜線をもち円形刺突を施す。本来、口縁部外面は垂下するとみられるが剥離している。605は内外面ともハケメを基調とする甕である。606は3方透しの上段に1箇所透し穴をもつ。廻間Ⅱ式期併行頃か。

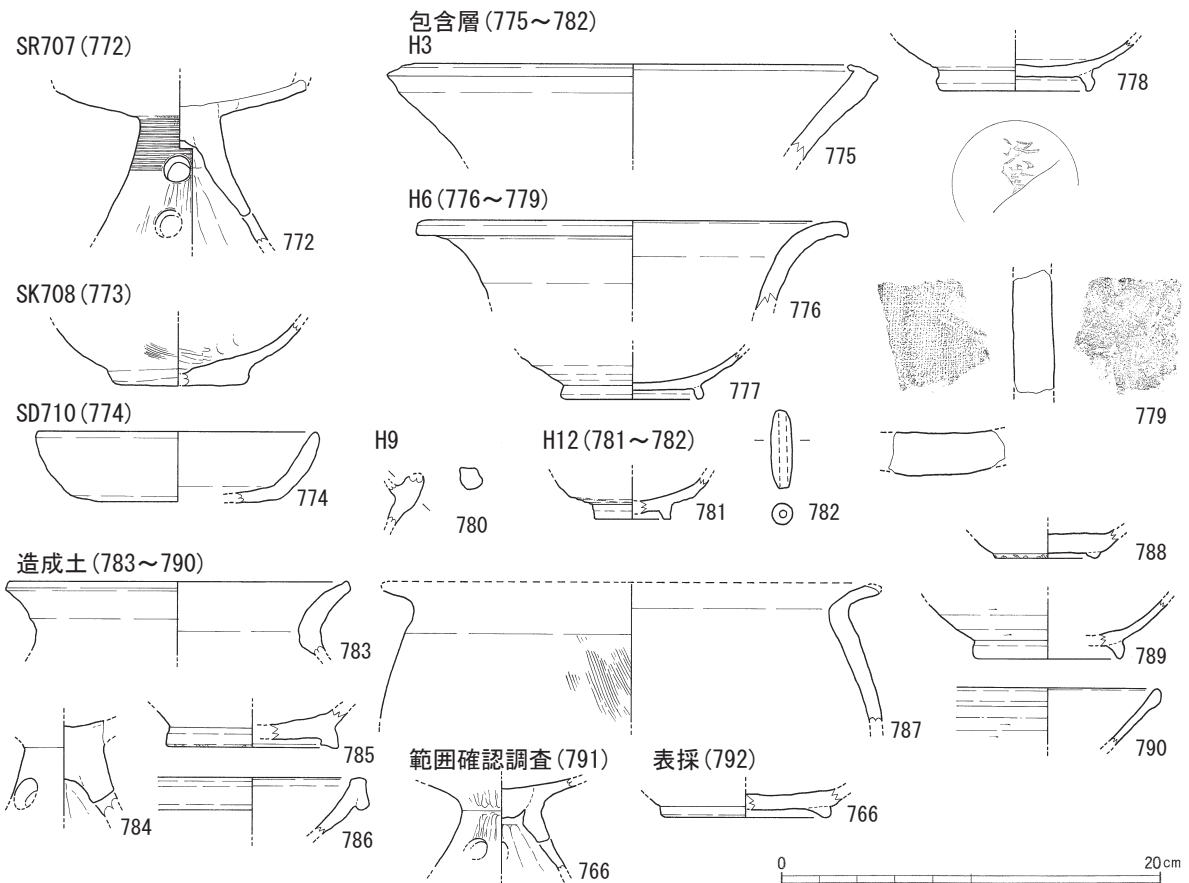
S D414出土遺物 (607・608)

いずれも土師器甕である。607は口縁部の内弯傾向が強い。608は肩が強く張る。S字甕B類古段階併行か。

S D415出土遺物 (609・610)

いずれも土師器壺底部である。609は内面が黒化している。

S D417出土遺物 (611)



第V-57図 中島遺跡H区遺物実測図(1:4)

弥生土器高杯である。長脚になるとみられる。

SK423出土遺物 (612)

土師器壺、いわゆるヒサゴ壺口縁部である。口頸部が短くなり、廻間Ⅱ式期併行のものとみられる。

E区包含層・範囲確認調査出土遺物 (613~707)

包含層出土は613~705である。弥生終末期~古墳時代初頭のもの、壺 (613~618・628・632・633・643・646~657・686~693・701・704・707)、甕 (619・620・635・658~669・694・695・706)、高杯 (622~624・626・627・630・634・636~639・671~684・696~700・705)、器台 (631)、鉢 (640・670) である。619はS字甕A類新段階である。628は肩部に円弧の刺突文がある。632は口縁端部を外折し垂下させたものである。接合しないものの胎土から体部も同一個体とみている。体部肩部に櫛描横線文、山形文がみられ、円形浮文を施す。636は球状の杯部に上部が大きく外方に開くもので、畿内の影響を受けたものか。640は体部下半に突帯が付くもので手焙形土器になる可能性がある。646は口縁部外面及び上面に羽状刺突がつく。651は有段口縁の加飾

壺で、口縁部外面に波状文と円形浮文がつく。658は受口状口縁、659~662はS字甕でA類新段階のものである。685は軽石である。686~688は加飾壺で、口縁部外面に赤彩が認められる。

687・688は口縁部外面及び上面に羽状刺突がある。689は壺の体部下半であるが、最大径が体部上半にくるもので、伊勢V様式に収まるものであろうか。691・693は小形壺である。699は杯部の浅い高杯である。

古墳時代後期の遺物は、土師器甕 (621) で、宇田型甕である。

奈良時代の遺物は、土師器甕 (625) ・甌 (644) である。

702は山茶椀で、第6型式に比定される。

範囲確認調査で出土したのが706・707である。いずれも土師器で、706は甕台部、708は壺口縁部である。

SD501出土遺物 (708~710)

708は土師器壺底部、709・710は土師器甕である。709は受口状口縁である。

S K502出土遺物 (711~723)

711~715が土師器壺、716~721が土師器甕、722・723が土師器高杯である。713は比較的口縁部が直線的に延びる。721はS字甕台部である。

S K503出土遺物 (724~734)

724~727は弥生土器壺、728~730は弥生土器甕、731~733は弥生土器高杯、734は手焙形土器である。724はミガキ調整がみられるが口径部が外反し端部を上につまみ上げるような形状で、キザミを施すあまり類例のないものである。

S K504出土遺物 (735~749)

735~738は土師器壺、740~745は土師器甕、746~749は土師器高杯である。736は口縁部と体部で胎土が異なる。739はミニチュア壺か。

S K505出土遺物 (750・751)

750は土師器受口状口縁甕、751は土師器高杯である。

F 3Pit 1 出土遺物 (752)

土師器壺底部である。

F 区包含層出土遺物 (753~758)

755は土師器壺、756は土師器高杯、757は灰釉陶器、758は土師器ミニチュア土器の把手部分か。

S D601出土遺物 (759)

平瓦である。内面に布目圧痕がつく。

S K605出土遺物 (760・761)

760は土師器甕口縁部、761は土師器高杯杯部である。

S K608出土遺物 (762・763)

762はS字甕体部下半、763は土師器高杯杯部である。

S K609出土遺物 (764)

伊勢第V様式後半代の弥生土器高杯である。

S K612出土遺物 (765)

弥生土器高杯である。杯部下半の形状や脚部が長脚になるとみられ、伊勢第V様式に収まるものとみられる。

G 区Pit出土遺物 (766)

土師器甕口縁部である。

G 区包含層出土遺物 (767~771)

他地区と比較して、弥生終末期~古墳初頭の遺物はほとんどみられなかった。767は土師器壺底部、768は土師器杯である。769は土師器甕で、口縁端部を内側に折る。770は須恵器壺底部である。

771は緑釉陶器瓶である。緑釉の上に褐色釉薬で文様を入れている。破片であるが、珍しいものである。

S R707出土遺物 (772)

高杯である。長脚で、1方+3方透し孔となる。

S K708出土遺物 (773)

土師器壺、底部付近が残っている。

S D710出土遺物 (774)

土師器杯である。遺存状況が良くなく、調整は不明である。

H 区包含層・範囲確認調査等出土遺物 (775~792)

775~782が包含層出土である。775は常滑産陶器捏鉢、776は須恵器甕、777・778は灰釉陶器椀、779は布目瓦である。778はK-90号窯期併行とみられる。780は把手部分だが、華奢なつくりで、ミニチュアの把手である可能性が高い。

783~790は造成土からの出土である。783は丸底の底部をもつ甕になるか。785は須恵器壺あるいは瓶の底部、736は陶器鉢で、内面は使用痕跡が認められる。787は土師器長胴甕、789は灰釉陶器椀、787は玉縁状の口縁となる白磁椀である。

791は範囲確認調査で出土した土師器高杯、792は表採した山茶椀である。(原田)

第4節 小 結

調査の結果、遺構は大きく弥生終末期~古墳初頭、古墳後期~奈良時代、中世に分けられ、弥生終末期~古墳初頭の遺構が濃密に認められた。古墳後期~奈良時代の遺構は一定量認められ、中世以降の遺構はごく僅かである。

遺跡の北側にあたるB・D区の特に微高地にあた

るD13~21・B1~13では検出面で多量の遺物が出土し、溝・土坑などの遺構が濃密に認められた。弥生終末期~古墳初頭の堅穴建物はSH115・SH330のみ確認したが、本来は更に多くの堅穴建物のある居住域であったと考えられる。微高地の西側約35mにSD311があり、空間を画する溝であったと推定

されるSD311からは概ね廻間I式前半併行の遺物が多量に出土している。またD区では、微高地西端とSD311の間にあるSK323で台付甕(323)の内部に高杯脚部(330)で蓋をするように入れていた。出土状況から、ただの廃棄ではなく、何らかの意図をもって入れたものと推察される。

遺跡の南端にあたるF区では浅い溝及び土坑を確認した。土坑からは古式土師器が多く出土したものの、いずれも細片で全形のわかるものは少なかった。F区の東に位置するH区では、H13～22の範囲で流路を確認した。当該期の遺構は希薄である。

B・D区とF・H区を南北に繋ぐE・F区及びE区南端から西に延びるC区は低地となる。ここでは、溝・土坑を確認した。土坑はC6以東、E8以南、G17以北に集中している。これらの土坑は、標高が低く地山がグライ化した粘土層であること、土坑の肩は垂直に近いものが多いこと、埋土の一部にブロック土を含むこと、埋土に出土遺物に壺体部が多く、中には体部下半や体部側面を打ち欠いているといった特徴を持つ。津市相川西方遺跡では、不整形の土坑が集中すること、土坑の断面形状が袋状にオーバー

ハングしていること、埋土にブロック土が堆積するものが多いこと、半截状態の土器が出土することなどから、弥生終末期～古墳初頭にかけての土坑700基以上が粘土採掘坑であったと考えられている⁽²⁾。相川西方遺跡の事例と比較すると、一部該当しない点もあるが、現時点では粘土採掘坑の可能性を指摘しておきたい。

古墳後期～奈良時代の遺構は、B区でカマドSF136・137を確認した。堅穴建物のプランは認められないものの、弥生終末期～古墳初頭の居住域とほぼ同じ範囲に古墳後期～奈良時代の居住域も広がっていたと思われる。また、低地部分には弥生終末期～古墳初頭と同じように土坑を複数確認している。

平安時代の遺構はほぼ認められないが、G15包含層中から緑釉陶器瓶とみられる遺物が出土している。また、少量であるが、H区で灰釉陶器が出土している。

中世の遺構は希薄であるが、遺跡北側ではD区SE322、南側でA区SD3・4・5、H区SD710が認められる。(原田)

註

- (1) 土器等の分類・編年については以下の文献による。
弥生土器：上村安生2002「伊勢・伊賀地域」『弥生土器の様式と編年』東海編、木耳社
古式土師器：愛知県埋蔵文化財センター1990『廻間遺跡』古墳時代の土師器：三重県埋蔵文化財センター2004『河曲の遺跡 河田宮ノ北遺跡・宮ノ前遺跡・八重垣神社遺跡(第1～3次)発掘調査報告』／赤塚次郎1996「濃尾平野低湿地部における古墳時代の甕」『鍋と甕そのデザイン』第4回考古学フォーラム
古代の土師器：斎宮歴史博物館2001『斎宮跡発掘調査報告I』
須恵器：田辺昭三1966『陶邑古窯址群I』平安学園考古クラブ
灰釉陶器：榑崎彰一1983「猿投窯の編年について」『愛知県古窯跡群分布調査報告』Ⅲ、愛知県教育委員会
中世土器：伊藤裕偉1992「南伊勢系土師器の展開と

中世土器工人」『研究紀要』第1号、三重県埋蔵文化財センター／伊藤裕偉1996「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」『鍋と甕そのデザイン』第4回考古学フォーラム

山茶碗：藤沢良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター

古瀬戸・瀬戸美濃大窯：藤沢良祐2002「瀬戸美濃大釜編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯／藤沢良祐2005「施釉陶器生産技術の伝播」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)／藤沢良祐2008「古瀬戸前期・中期・後期様式の編年」『中世瀬戸窯の研究』高志書院
常滑：中野晴久2005「渥美・常滑」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)

- (2) 三重県埋蔵文化財センター2014『一般国道23号中勢道路(12工区)建設事業に伴う相川西方遺跡発掘調査報告』

調査区	遺構番号	地区	性格	時期	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	出土遺物	備考(前後関係、特徴等)
A	SZ1	A1・2	落ち込み	古墳以降	—	7.60+	0.44	土師器	
A	SD2	A4・5	溝	不明	—	3.97	0.32	土師器	
A	SD3	A6・7	溝	中世	—	1.35	0.37	弥生土器・須恵器・陶器	最下層で須恵器片出土
A	SD4	A7	溝	中世以前	—	1.56	0.43	土師器・山茶碗	
A	SD5	A15・16	東西溝	中世後期	—	0.85	0.25	土師器・須恵器・陶器	
A	SD6	A33	溝	不明	—	0.70	0.19	なし	
B	SK101	B1	土坑	弥生終末	1.30	0.59+	1.03	弥生土器	
B	SD102	B1・2	溝	古墳後期	—	0.26	0.22	土師器	SD102→SK104
B	SK103	B1・2	土坑	古墳	1.1+	0.90+	0.05	土師器	SK103→B1Pit2
B	SK104	B2	土坑	古墳初頭	1.90	1.00+	0.03	土師器	SD102→SK104
B	SK105	B2	土坑	古墳後期	2.20	1.00+	0.03	須恵器	SK107→B2Pit2
B	SK106	B3	土坑	弥生終末～古墳初頭	2.20	1.00+	0.08	弥生土器、土師器	B3Pit4・Pit5→SK106
B	SK107	B4	土坑	古墳初頭～古墳後期	1.50+	0.52+	0.06	土師器	
B	SK108	B4	土坑	古墳後期	1.45	0.55+	0.05	土師器	
B	SK109	B5・6	土坑	古墳後期	2.35	1.15+	0.03	土師器	SK111→SK109
B	SK110	B6	土坑	弥生終末	2.70	1.15+	0.04	弥生土器	
B	SK111	B5・6	土坑	古墳初頭	0.98	0.42+	0.15	土師器	SK111→SK109
B	SK112	B7	土坑	弥生終末～古墳後期	1.55	1.15+	0.04	弥生土器、土師器	
B	SD113	B8	溝	古墳後期	—	1.00	0.09	土師器	SD113→SD114
B	SD114	B8	溝	古墳後期	—	0.90	0.14	土師器	SD113→SD114
B	SH115	B9	竪穴建物	弥生終末～古墳初頭	2.00+	0.65+	0.11	弥生土器、土師器	SK117・SK121→SH115、壁周溝あり
B	SK116	B6	土坑	弥生終末	1.05	0.35+	0.26	弥生土器	SK116→SF137
B	SK117	B9	土坑	弥生終末	1.12+	1.10	0.33	弥生土器	SK117→SH115
B	SD118	B9～11	溝	古墳前期	—	0.26	0.13	土師器	SK125→SD118、上層からの掘削
B	SK119	B9・10	土坑	不明	0.85	0.43+	0.31	土師器	
B	SK120	B10	土坑	古墳前期か	0.73	0.27+	0.07	土師器	
B	SK121	B9	土坑	不明	0.6+	1.24	0.06	土師器	SK121→SH115
B	SK122	B10	土坑	古墳後期か	2.00	0.40+	0.02	土師器	SK122→SD118
B	SK123	B11・12	土坑	古墳初頭	1.12+	1.42	0.06	土師器	SK126→SK123・SK125
B	SD124	B10	溝	古墳後期～古代	1.08+	0.20	0.02	土師器	SD124→SK122
B	SK125	B11	土坑	弥生終末	1.51	0.9+	0.03	弥生土器	SK126→SK125→SD118
B	SK126	B11	土坑	古墳初頭	1.00+	0.77+	0.09	土師器	SK126→SK123・SK125
B	SK127	B13	土坑	不明	0.54	0.38+	0.10	土師器	SK128→SK129→SK127
B	SK128	B13	土坑	不明	0.82	0.62	0.09	なし	SK128→SK129
B	SK129	B13	土坑	弥生終末	0.95+	0.55	0.07	弥生土器	SK128→SK129→SK127
B	SD130	B12	溝	古墳初頭か	—	1.40	0.09	土師器	上層からの掘削
B	SD131	B13	溝	古墳後期～古代	—	0.78	0.46	土師器	
B	SD132	B14	溝	弥生終末～古墳初頭	—	0.40	0.05	弥生土器又は土師器	
B	SD133	B15	溝	古墳初頭か	—	1.00	0.04	土師器	
B	SK134	B17・18	土坑	古墳初頭	1.40	0.34+	0.05	土師器	SK135→SK134
B	SK135	B17	土坑	古墳初頭	2.00	0.72+	0.09	土師器	SK135→SK134
B	SF136	B6	カマド	古墳後期～奈良	0.45+	0.35+	0.07	土師器	竈のみ
B	SF137	B6	カマド	古墳後期～奈良	0.65	0.40+	0.15	土師器	SK116→SF137、竈のみ、支柱石あり
C	SK201	C1	土坑	弥生終末	0.20+	0.70	0.37	弥生土器	
C	SK202	C2	土坑	弥生終末	0.55+	0.35	0.12	弥生土器	上層からの掘削
C	SK203	C1	土坑	弥生終末	1.10	0.42+	0.29	弥生土器	
C	SK204	C2	土坑	古墳初頭～古墳後期	0.70+	1.32	0.64	弥生土器、土師器、須恵器、木製品、軽石	
C	SZ205	C3～7	落ち込み	古墳初頭～古代	—	15.00	0.40	土師器、須恵器	SZ205→SK206
C	SK206	C7	土坑	古墳後期	2.20	1.20+	0.75	土師器、須恵器	SK207→SK206
C	SK207	C7・8	土坑	古墳初頭	1.75+	0.9+	0.65	土師器	SK207→SK206
C	SK208	C6	土坑	古墳初頭	2.05	0.40+	0.18	土師器	
C	SD209	C8～12	溝	古墳初頭	—	3.00+	0.68	土師器	
C	SK210	C12	土坑	古墳中後期	0.60+	1.62	0.56	土師器	
C	SK211	C11	土坑	不明	—	0.70+	0.40	土師器	
C	SD212	C14・15	溝	古墳初頭	—	1.15	0.39	土師器	
C	SK213	C15	土坑	古墳後期	1.00+	1.34	0.36	須恵器	
C	SK214	C16	土坑	弥生終末	0.74+	0.95	0.60	土師器	
C	SK215	C16	土坑	古墳初頭	0.90+	1.40	0.61	土師器	
C	SK216	C17・18	土坑	弥生後期	1.20+	1.10	不明	弥生土器	
C	SK217	C19	土坑	弥生終末	1.05+	1.70	0.35	弥生土器	
C	SK218	C19・20	土坑	古墳初頭	0.70+	2.30	0.27	土師器	
D	SK301	D1	土坑	古墳初頭～古墳前期	0.75	0.15	0.37	土師器	
D	SD302	D1	溝	不明	—	0.29	0.10		
D	SK303	D1	土坑	古墳初頭	0.68	0.28+	0.22	土師器	
D	SK304	D1	土坑	古墳初頭	0.65	0.35	0.06	土師器	
D	SK305	D1	土坑	古墳初頭	0.60	0.20+	0.10	土師器	SK305→SK306
D	SK306	D1	土坑	古墳初頭	0.27	0.20+	0.12	土師器	SK305→SK306
D	SZ307	D4・5	落ち込み	古墳初頭～古墳前期	—	7.00	0.20	土師器	SZ307→SD311
D	SK308	D2	土坑	古墳初頭	0.53	0.26+	0.31	土師器	SK309→SK308
D	SK309	D2	土坑	古墳初頭	1.34+	0.89	0.06	土師器	SK309→SK308
D	SK310	D4	土坑	古墳初頭	0.85+	0.47+	0.13	土師器	
D	SD311	D5・6	溝	弥生終末～古墳後期	—	3.10	0.26	弥生土器、土師器、須恵器	SZ307→SD311
D	SK312	D4	土坑	古墳初頭	0.62+	0.44+	0.02	土師器	SK312～SK315→SZ307
D	SK313	D4	土坑	古墳後期	1.08	0.32+	0.06	須恵器	SK312～SK315→SZ307
D	SK314	D4・5	土坑	古墳初頭～古墳後期	0.80	0.62	0.11	土師器	SK312～SK315→SZ307
D	SK315	D4	土坑	古墳初頭	0.70+	0.50+	0.09	土師器	SK312～SK315→SZ307

第V-1表 中島遺跡遺構一覧表1

*「+」付の数字は以上であることを表す

調査区	遺構番号	地区	性格	時期	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	出土遺物	備考(前後関係、特徴等)
D	SK316	D7	土坑	古墳初頭	3.08	0.80+	0.18	土師器	SK316・SK317→SE322
D	SK317	D6・7	土坑	古墳初頭か	0.70+	0.30+	0.10	土師器	SK316・SK317→SE322
D	SD318	D7	溝	弥生終末	—	0.53	0.04	弥生土器	SD318→SK320・321
D	SD319	D7	溝	古墳後期か	—	0.40	0.06	土師器	SD319→SK316
D	SK320	D7・8	土坑	弥生終末～古墳初頭	1.20	0.36+	0.10	弥生土器又は土師器	SD318→SK320・321
D	SK321	D7	土坑	不明	0.82	0.32+	0.06	土師器	SD318→SK320・321
D	SE322	D7	井戸	中世	0.75	0.18+	0.26	土師器、須恵器、山茶碗	SK316・SK317→SE322
D	SK323	D10	土坑	古墳初頭	0.55+	0.73	0.68	土師器	台付甕の内部に高杯脚部を入子状にして出土
D	SK324	D13	土坑	古墳後期	0.30	0.15+	0.35	土師器、須恵器	
D	SD325	D13	溝	古墳後期	—	0.28	0.11	土師器	南半は削平
D	SK326	D14	土坑	古墳後期	1.26	0.35+	0.13	土師器	
D	SD327	D14・15	溝	古墳初頭	—	0.34	—	土師器	SK328→SD327
D	SK328	D14・15	土坑	古墳初頭	1.00+	0.40+	0.10	土師器	SK328→SD327
D	SK329	D15・16	土坑	古墳初頭～古墳前期	1.80+	0.90+	0.11	土師器	
D	SH330	D16・17	竪穴建物	古墳初頭	2.80+	1.50+	0.13	土師器、石器、砥石	西側で壁周溝確認
D	SD331	D18	溝	古墳初頭	—	0.35	0.13	土師器	北半は削平
D	SD332	D19	土坑	弥生終末～古墳初頭	1.44+	1.40	0.23	弥生土器、土師器	
D	SK333	D20・21	土坑	弥生終末～古墳初頭	0.58+	1.00	0.02	土師器	
D	SK334	D20	土坑	古墳初頭	0.76+	0.52	0.17	土師器	
D	SD335	D20	溝	古墳初頭か	—	0.20	0.07	土師器	
D	SD336	D20	溝	古墳初頭～古代	—	0.38	0.14	土師器	
E	SD401	E1	溝	古墳初頭	—	0.34+	0.14	土師器	
E	SK402	E3	土坑	古墳初頭	0.33+	0.58	0.32	土師器	
E	SK403	E2	土坑	弥生終末～古墳初頭	0.77+	0.95	0.16	弥生土器又は土師器	
E	SK404	E3	土坑	弥生終末～古墳初頭	1.18+	1.36	0.45	弥生土器又は土師器	
E	SK405	E2・3	土坑	弥生終末	2.10+	0.81+	0.51	弥生土器	
E	SK406	E7・8	土坑	古墳初頭か	2.10	1.00+	0.74	土師器	
E	SD407	E13	溝	弥生終末～古墳初頭	—	0.84	0.16	弥生土器、土師器	上層からの掘削
E	SD408	E14・15	溝	古墳初頭	1.80+	0.52	0.17	土師器	
E	SD409	E16	溝	不明	0.42+	1.43	0.25	土師器	SK409に変更
E	SD410	E17	溝	古墳初頭～古代	—	1.29	0.41	石器、土師器	
E	SD411	E17	溝	古墳初頭	—	2.08	0.12	土師器	
E	SD412	E18	溝	弥生終末～古墳後期	—	0.28	0.13	弥生土器、土師器	
E	SK413	E18	土坑	古墳初頭	0.77+	0.42+	0.08	土師器	SK413→SD414
E	SD414	E18・19	溝	古墳初頭～古墳後期	—	1.92	0.07	土師器	SK413→SD414
E	SD415	E19	溝	弥生終末～古墳初頭	—	0.55	0.04	弥生土器又は土師器	
E	SD416	E19・20	溝	古墳初頭か	—	1.79	0.29		
E	SD417	E20	溝	弥生終末～古墳初頭	—	0.22	0.14	弥生土器又は土師器	
E	SD418	E19	溝	古墳初頭	—	—	不明	土師器	
E	SK419	E20・21	土坑	不明	0.86+	1.28	0.10	土師器	
E	SK420	E21	土坑	不明	1.10+	0.80	0.19	土師器	
E	SK421	E21	土坑	不明	1.00	0.95	0.12	土師器	
E	SK422	E22	土坑	不明	1.98+	0.32+	0.11	土師器	
E	SK423	E22	土坑	古墳初頭	0.70+	0.54	0.25	土師器	
F	SD501	F2～4	溝	古墳初頭	11.4+	0.80+	0.20	土師器	SK505→SD501
F	SK502	F2	土坑	古墳初頭	0.62+	0.92	0.33	土師器	
F	SK503	F2・3	土坑	古墳初頭	1.70+	0.65+	0.35	土師器	
F	SK504	F3	土坑	弥生終末～古墳初頭	0.68+	1.60	0.29	弥生土器、土師器	
F	SK505	F4	土坑	古墳初頭	2.30	0.44	0.18	土師器	SK505→SD501
G	SD601	G5	溝	奈良～平安	—	1.50	0.08	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦	
G	SD602	G6	溝	不明	—	0.90	0.16	土師器	
G	SD603	G17	溝	古墳初頭	—	1.10+	0.45	土師器	
G	SD604	G16・17	溝	古墳初頭か	—	1.00+	0.23	土師器	
G	SK605	G17・18	土坑	弥生終末～古墳初頭	1.78	1.20	0.62	弥生土器又は土師器	
G	SD606	G17	溝	古墳初頭	—	0.58	0.41	土師器	
G	SK607	G18	土坑	古墳初頭～古墳後期	0.90+	0.50+	0.52	土師器	
G	SK608	G18	土坑	弥生終末～古墳初頭	1.12	1.00	0.58	弥生土器又は土師器	
G	SK609	G20	土坑	弥生後期	2.12	1.40	0.51	弥生土器	
G	SK610	G21	土坑	不明	0.90	0.80	0.34	土師器	
G	SK611	G22	土坑	不明	0.95+	1.27	0.54	土師器	
G	SK612	G23	土坑	不明	0.52+	0.80	0.11		
G	SE613	G20	井戸	不明	1.10	1.03	0.95		
H	SK701	H5	土坑	不明	0.88+	0.58	0.03	土師器	
H	SD702	H6	溝	不明	—	0.68	0.12	土師器	
H	SK703	H7	土坑	不明	0.52+	0.36	0.11	土師器	
H	SK704	H8	土坑	古墳後期か	0.66+	0.44	0.04	土師器	
H	SK705	H8	土坑	不明	1.12	0.32	0.06	土師器	
H	SD706	H10	溝	古墳後期	—	0.67	0.17	土師器、須恵器	
H	SR707	H13～29	流路	弥生終末～奈良	—	46.00	—	弥生土器、土師器、須恵器	施工深まで掘削
H	SK708	H29	土坑	古墳初頭	0.60+	1.30	0.79	土師器	
H	SD709	H33	溝	古墳後期	—	2.24	0.56	土師器、須恵器	
H	SD710	H33・34	溝	鎌倉	—	0.88	0.20	土師器、須恵器、山茶碗	

第V-2表 中島遺跡遺構一覧表2

*「+」付の数字は以上であることを表す

報告 番号	実測 番号	種類	器種	地区	遺構 層位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土 素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
1	007-01	陶器	山茶碗	A6	SD3	口縁 小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密(3mm以下の 砂粒含む)	良	灰白2.5Y7/1	
2	007-02	陶器	皿	A14	SD5	口縁 2/12	8.4	-	-	内:ロクロナデ・施釉 外:ロクロナデ	密(2mm以下の 砂粒含む)	良	灰白10YR8/2(輪)オー ブ黄5Y6/4	
3	007-03	陶器	皿	A7	SD7	口縁 1/12	-	5.0	-	内:ロクロナデ・削り出し高台 外:ロクロナデ	密(微砂粒含む)	良	灰白2.5Y8/2	
4	007-04	弥生土器 /土師器	壺	A1	包含層	底部 3/12	-	7.0	-	内:調整不明 外:ハケメ・ナデ	やや密(6mm以 下の小石粒多 含む)	-	灰白2.5Y7/1~明黄褐2. 5Y7/6	
5	007-06	弥生土器 /土師器	高杯	A1	包含層	脚柱部 7/12	-	-	-	内:シボリ 外:櫛描直線文・ハケメ	密(2mm以下の 砂粒含む)	-	灰白5Y8/1	透孔2個
6	007-05	弥生土器	高杯	A1	包含層	脚柱部 10/12	-	-	-	内:シボリ 外:櫛描直線文・ハケメ	密(3mm以下の 砂粒含む) (赤色含む)	-	にぶい橙5YR6/4	
7	008-03	弥生土器 /土師器	甕	B1	SK101	口縁 1/12	20.8	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	やや密(7mm以 下の小石粒多 含む)	-	にぶい橙5YR7/4	
8	008-01	弥生土器 /土師器	甕	B1	SK101	口縁 2/12	18.8	-	-	内:風化 外:ハケメ	やや密(4mm以 下の小石粒多 含む)	-	褐灰10YR4/1~浅黄橙10 YR8/3	
9	008-02	弥生土器 /土師器	甕	B1	SK101	口縁 1/12	15.3	-	-	内:ナデ 外:ナデ	密(3mm以下の 砂粒多含む)	-	黒褐7.5YR3/1~にぶい 橙7.5YR7/4	口縁部黒化
10	008-04	弥生土器 /土師器	高杯	B1	SK101	口縁 2/12	18.9	-	-	内:調整不明・ヨコナデ 外:ヨコナデ・調整不明	密(4mm以下の 砂粒含む)	-	にぶい橙7.5YR7/4	
11	009-01	弥生土器 /土師器	高杯	B1	SK101	脚柱部 完存	-	-	-	内:シボリ 外:櫛描直線文・ミガキ	密(~3mmの砂 粒含む)	-	にぶい橙7.5YR7/6	透孔2個
12	017-04	土師器	壺か	B1・ 2	SD102	口縁 小片	-	-	-	内:磨滅 外:ヨコナデ・工具ナデ	密(~3mmの小 石含む)	-	にぶい黄橙10YR7/4	
13	009-02	須恵器	杯身	B2	SK105	体部 小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	密(~1mmの砂 粒含む)	不良	にぶい橙7.5YR5/4	
14	009-04	弥生土器 /土師器	壺又は 鉢	B3	SK106	底部 3/12	-	3.6	-	内:ナデ・オサエ 外:オサエ・ナデ	密(微砂粒含む)	-	にぶい黄橙10YR6/4	
15	009-03	弥生土器 /土師器	高杯	B3	SK106	脚柱部 完存	-	-	-	内:ミガキ・磨滅 外:櫛描直線文・ミガキ	密(~3mmの砂 粒含む)	-	橙7.5YR6/6	透孔3個
16	009-05	弥生土器 /土師器	高杯	B3	SK106	口縁 1/12	21.6	-	-	内:磨滅 外:磨滅	密(~6mmの砂 粒多含む)	-	橙7.5YR6/6明赤褐2.5Y5 /8	
17	009-06	弥生土器 /土師器	台付甕	B6	SK109内 カマド	台部 4/12	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ	密(~4mmの砂 粒含む)	-	にぶい黄橙10YR7/3黒褐 2.5Y3/1	SF136断面,台 内部黒化
18	010-01	土師器	台付甕	B6	SK109 No.1	体部 4/12	-	9.2	-	内:ナデ・工具ナデ・オサエ・ナデ 外:ハケメ・ケズリ・オサエ・ナデ	密(~1.5mmの 砂粒含む)	-	浅黄橙10YR8/4	台部完存
19	011-01	弥生土器 /土師器	壺	B6	SK110	口縁 2/12	14.6	-	-	内:磨滅 外:磨滅	密(~2mmの砂 粒含む)	-	浅黄橙7.5YR8/4	
20	011-02	弥生土器 /土師器	壺か	B6	SK110	体部 小片	-	-	-	内:ナデ 外:ハケメ・刺突文・ハケメ	密(微砂粒含む)	-	にぶい橙7.5YR6/4	
21	011-05	弥生土器 /土師器	台付甕	B7	SK110	台部 1/12	-	7.4	-	内:工具ナデ 外:ハケメ	密(~2mmの砂 粒含む)	-	にぶい橙5YR6/4	
22	011-04	弥生土器 /土師器	台付甕	B6	SK110	台部 2/12	-	7.0	-	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ・磨滅	密(~2mmの砂 粒多含む)	-	橙7.5YR6/6	
23	011-03	土師器	高杯	B6	SK110 No.2	口縁 10/12	13.9	-	-	内:ヨコナデ・磨滅 外:ヨコナデ・磨滅	密(~1mmの砂 粒含む)	-	明赤褐5YR5/6	
24	011-06	弥生土器 /土師器	甕	B6	SK111	口縁 1/12	15.5	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密(~1mmの砂 粒含む)	-	橙7.5YR6/6	
25	011-07	弥生土器 /土師器	甕	B6	SK111	口縁 1/12	16.6	-	-	内:粘土接合痕・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密(~5mmの砂 粒含む)	-	にぶい橙7.5YR7/4	
26	012-04	弥生土器 /土師器	甕	B6	SK111	口縁 1/12	19.8	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密(~1mmの砂 粒含む)	-	褐灰10YR4/1	
27	012-01	弥生土器 /土師器	壺	B7	SK112	口縁 9/12	13.4	-	-	内:オサエ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密(~3mmの砂 粒含む)	-	灰白10YR8/2	
28	013-05	弥生土器 /土師器	壺	B7	SK112 No.1	底部 3/12	-	6.2	-	内:工具ナデ 外:ナデ	密(~3mmの砂 粒含む)	-	褐灰10YR4/1	
29	012-02	弥生土器 /土師器	甕	B7	SK112内 焼土 下層黒 褐色土	口縁 2/12	19.5	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文・ハケメ	密(微砂粒含む)	-	浅黄橙10YR8/3	
30	013-03	弥生土器 /土師器	台付甕	B7	SK112	台部 完存	-	8.1	-	内:ハケメ・ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ	密(~2mmの砂 粒多含む)	-	内:灰白10YR8/1外:淡 赤橙2.5YR7/4	No.1
31	027-01	土師器	甕	B7	焼土内	口縁 2/12	28.9	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・板ナデ	密(2.5mm以下 の砂粒含む)	-	黒褐10YR3/1にぶい黄橙 10YR7/3	宇田型
32	012-03	土師器	甕	B7	SK112内 焼土	口縁 1/12	27.5	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ	密	-	にぶい黄橙10YR7/2	外面煤付着
33	012-07	弥生土器 /土師器	甕	B9	SH115	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文	密	-	にぶい黄橙10YR7/3	
34	012-08	弥生土器 /土師器	壺	B6	SK116	体部 小片	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ・貝殻施文	密	-	にぶい橙5YR6/4	甕の下の土坑
35	013-01	弥生土器 /土師器	壺	B9	SK117南	体部 完存	-	3.0	-	内:オサエ・ナデ 外:櫛描直線文・貝殻刺突・ミガキ	密(微砂粒含む)	-	にぶい黄橙10YR7/2	黒斑
36	013-02	弥生土器 /土師器	台付甕	B9	SK117	台部 完存	-	7.7	-	内:ハケメ・ヨコナデ・オサエ 外:ハケメ・ヨコナデ	密(微砂粒含む)	-	内:にぶい橙7.5YR6/3 外:橙2.5Y6/6	No.1
37	013-06	弥生土器 /土師器	高杯	B9	SK117南	脚柱部	-	-	-	内:ナデ 外:櫛描直線文	密	-	橙5YR7/6	透孔4個
38	022-04	土師器	甕	B10	SD118	口縁 小片	-	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	やや密	-	灰白10YR8/2	S字状口縁 外面煤付着
39	015-01	土師器	台付甕	B10	SD118	体部 完存	-	9.0	-	内:工具ナデ・ナデ 外:ケズリ・ハケメ・ナデ	密(~6mmの小 石含む)	-	内:橙7.5YR7/6外:に ぶい黄橙10YR7/4	宇田型
40	012-05	弥生土器 /土師器	甕	B11	SK125	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文・沈線	密	-	にぶい黄橙10YR7/3	
41	012-06	弥生土器 /土師器	甕	B13	SK129	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	
42	022-05	弥生土器 /土師器	壺	B14	SD132	底部 3/12	-	6.0	-	内:ハケメ 外:ナデ	やや密	-	内:黄灰2.5Y6/1外:に ぶい黄橙10YR7/2	
43	014-01	弥生土器 /土師器	高杯	B1	Pit1	杯部 2/12	27.8	-	-	内:ミガキ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ミガキ	密	-	浅黄橙7.5YR8/4	
46	016-03	弥生土器 /土師器	台付甕	B3	Pit4	台部 完存	-	8.4	-	内:ハケメ・ナデ・オサエ 外:ハケメ・ナデ	密(~5mmの小 石含む)	-	にぶい黄橙10YR6/4	内面炭化物付 着
47	016-01	弥生土器 /土師器	高杯	B3	Pit4	脚柱部 完存	-	10.8	-	内:ミガキ・工具ナデ 外:ミガキ・櫛描直線文	密(~6mmの小 石含む)	-	にぶい橙7.5YR7/4	透孔3個
48	015-02	弥生土器 /土師器	高杯	B6	Pit1	脚柱部 完存	-	-	-	内:シボリ 外:ミガキ	密(~4mmの小 石含む)	-	橙5YR6/6	透孔3個
49	018-02	須恵器	杯身	B6	Pit1	口縁 小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密(~3mmの小 石含む)	良	灰白N3/1	敷物痕跡
50	015-03	弥生土器 /土師器	甕又は 壺	B6	Pit7	底部 5/12	-	5.8	-	内:ハケメ 外:ハケメ・ナデ	密(~3mmの小 石含む)	-	にぶい黄橙10YR6/4	
51	018-04	弥生土器 /土師器	甕	B6	Pit7	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・擬回線・刺突文	密(~3mmの小 石含む)	-	にぶい黄橙10YR6/4	
52	017-01	弥生土器 /土師器	甕又は 鉢	B6	Pit8	口縁 1/12	17.0	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・工具ナデ・刺突文・ハ ケメ	密(~3mmの小 石含む)	-	灰黄2.5Y6/2	内面煤付着
53	013-04	弥生土器 /土師器	台付甕	B7	SK112 No.1 (FPit)	台部 完存	-	7.2	-	内:ナデ・ハケメ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ	密(~2mmの砂 粒含む)	-	内:黒褐2.5Y3/1外:に ぶい橙5YR6/4	内面炭化物付 着
54	018-01	弥生土器 /土師器	壺	B8	Pit1	体部 小片	-	-	-	内:工具ナデ 外:櫛描直線文・刺突文・ナデ	密	-	灰黄2.5Y6/2橙7.5YR6/6	
55	016-02	土師器	壺か	B8	Pit2	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・工具ナデ 外:ハケメ	密(~4mmの小 石含む)	-	橙7.5YR7/6	口縁部赤彩
56	017-03	弥生土器 /土師器	甕	B8	Pit5	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文	密(~3mmの小 石含む)	-	暗灰黄2.5Y4/2	
57	015-05	弥生土器 /土師器	鉢か	B11	Pit1	口縁 小片	-	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文・ナデ	密(~3mmの小 石含む)	-	橙7.5YR6/6	
58	015-04	弥生土器 /土師器	高杯	B12	Pit3	口縁 小片	-	-	-	内:ミガキ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ミガキ・磨滅	密	-	橙7.5YR7/6	
59	017-02	弥生土器 /土師器	甕	B13	Pit1	口縁 2/12	13.0	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文・ハケメ	密(~4mmの小 石含む)	-	浅黄2.5Y7/4	

第V-3表 中島遺跡遺物観察表1

報告 番号	実測 番号	種類	器種	地区	遺構 層位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施軸	胎土 素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
60	018-03	土師器	甕	B14	Pit2	口縁 小片	-	-	-	内：ハケメ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・刺突文・ハケメ	密 (～3mmの 小石含む)	-	にぶい黄2.5YR6/3	受口状口縁
61	019-06	弥生土器 /土師器	壺	B1	包含層	体部 小片	-	-	-	内：オサエ・ナデ 外：櫛描直線文・波状文・ハケメ	やや密	-	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：橙5YR7/6浅黄橙10Y R8/3	内面黒化
62	019-05	弥生土器 /土師器	長頸壺	B1	包含層	口縁 小片	-	-	-	内：ナデ・ミガキ 外：ハケメ	密	-	橙5YR6/6	
63	019-07	弥生土器 /土師器	壺	B1	包含層	体部 小片	-	-	-	内：工具ナデ 外：ハケメ・ミガキ	やや密	-	浅黄橙7.5YR8/4	
64	020-02	弥生土器 /土師器	壺	B1	包含層	底部 完存	-	5.8	-	内：工具ナデ 外：工具ナデ・ナデ	やや密	-	内：灰白10YR8/2外：浅 黄橙7.5YR8/3灰白10YR7 /1	
65	020-01	弥生土器 /土師器	壺	B1	包含層	底部 10/12	-	6.6	-	内：ナデ 外：工具ナデ・ナデ	やや密	-	内：灰白2.5YR8/2外： 暗灰N3/0灰白2.5YR8/1	
66	019-02	弥生土器 /土師器	甕	B1	包含層	口縁 1/12	25.6	-	-	内：ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・刺突文	やや密	-	灰白10YR8/2	
67	019-03	弥生土器 /土師器	甕	B1	包含層	口縁 1/12	14.8	-	-	内：ナデ・ハケメ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・刺突文	やや密	-	灰黄橙10YR6/2	S字状口縁 外面煤付着
68	019-04	弥生土器 /土師器	甕	B1	包含層	口縁 小片	-	-	-	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	やや密	-	浅黄橙10YR8/3	
69	019-01	弥生土器 /土師器	高杯	B1	包含層	口縁 1/12	24.8	-	-	内：ミガキ 外：ナデ・ミガキ	密	-	浅黄橙7.5YR8/6	
70	020-04	弥生土器 /土師器	高杯	B1	包含層	脚柱部 11/12	-	-	-	内：ナデ・シボリ 外：ナデ・刺突文・櫛描直線文・ミガキ	密	-	浅黄橙7.5YR8/4	
71	020-03	弥生土器 /土師器	高杯	B1	包含層	脚部 1/12	-	11.8	-	内：ハケメ・ヨコナデ 外：ハケメ・ミガキ・ヨコナデ	やや密	-	浅黄橙7.5YR8/4	透孔1個
73	021-01	弥生土器 /土師器	壺	B3	包含層	体部 小片	-	-	-	内：ナデ 外：ナデ・円形浮文	やや密	-	浅黄橙10YR8/3	
74	021-02	弥生土器 /土師器	高杯	B3	包含層	脚柱部 完存	-	-	-	内：シボリ 外：櫛描直線文	やや密	-	橙5YR7/6	透孔3個
75	021-04	弥生土器 /土師器	壺	B4	包含層	口縁 小片	-	-	-	内：ヨコナデ・貝殻刺突文 外：ヨコナデ	やや密	-	橙5YR7/6	
76	023-01	土師器	二重 口縁壺	B4	包含層	口縁 3/12	13.0	-	-	内：磨滅 外：ヨコナデ・磨滅	密	-	にぶい橙7.5YR7/4	
77	021-05	弥生土器 /土師器	甕	B4	包含層	口縁 小片	-	-	-	内：ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・磨滅	密	-	内：にぶい橙7.5YR7/4 外：にぶい橙7.5YR6/3	S字状口縁
78	021-03	弥生土器 /土師器	高杯	B4	包含層	脚柱部 完存	-	-	-	内：磨滅 外：ナデ	やや密	-	浅黄橙7.5YR8/4	透孔2個
79	021-06	弥生土器 /土師器	台付甕	B4	包含層	台部 2/12	-	10.7	-	内：ナデ 外：ナデ	やや密	-	橙2.5YR6/8	
80	022-01	須恵器	壺又は 甕	B4	包含層	口縁 1/12	29.6	-	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・工具ナデ	密	良	灰白N7/0	
81	023-02	弥生土器 /土師器	壺	B5	包含層	底部 6/12	-	6.2	-	内：工具ナデ・磨滅 外：ケズリ・ミガキ・ハケメ・ナデ	密	-	にぶい橙7.5YR7/4	
82	022-03	弥生土器 /土師器	壺	B5	包含層	体部 底部 完存	-	4.1	-	内：工具ナデ・ナデ 外：ミガキ	やや密	-	にぶい橙7.5YR7/4	底部黒斑
83	025-05	弥生土器 /土師器	甕	B5	包含層	口縁 1/12	19.8	-	-	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ・ハケメ	密	-	浅黄橙7.5YR8/6	S字状口縁
84	024-04	弥生土器 /土師器	台付甕	B5	包含層	台部 小片	-	-	-	内：工具ナデ 外：ハケメ	密 (～3mmの砂 粒含む)	-	内：褐灰10YR6/1外：に ぶい橙5YR7/4	S字状口縁
85	025-03	土師器	甕	B5	包含層	口縁 小片	-	-	-	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	密	-	浅黄橙7.5YR8/6	宇田型
86	022-02	須恵器	杯蓋	B5	包含層	口縁 1/12	12.8	-	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白N7/0	
87	025-01	弥生土器 /土師器	壺	B6	包含層	口縁 小片	-	-	-	内：ナデ 外：擬凹線・ナデ	密 (～3mmの砂 粒含む)	-	にぶい橙7.5YR7/4	口縁部赤彩
88	024-05	弥生土器 /土師器	壺	B6	包含層 (SH?)	頸部 1/12	-	-	-	内：工具ナデ・ハケメ 外：ハケメ・貼付突帯後ナデ・カキメ	密	-	にぶい褐7.5YR6/3	
89	023-04	弥生土器 /土師器	壺	B6	包含層 (SH?)	底部 9/12	-	6.8	-	内：工具ナデ・ハケメ 外：ハケメ・ミガキ・ナデ・工具ナデ・ オサエ	密	-	にぶい橙7.5YR7/6	
90	028-04	弥生土器 /土師器	壺	B6	包含層	頸部 3/12	-	-	-	内：オサエ・ナデ 外：ハケメ・ミガキ	やや密 (2.5mm 以下の砂粒含む)	-	橙7.5YR6/6	
91	028-03	弥生土器 /土師器	壺	B6	包含層	頸部 3/12	-	-	-	内：オサエ・ナデ 外：貼付突帯後ナデ・櫛描直線文	やや密 (2mm以 下の砂粒含む)	-	内：黒褐2.5Y3/1外：橙 7.5YR6/6	
92	027-08	弥生土器 /土師器	甕	B6	包含層	口縁 小片	-	-	-	内：ヨコナデ・ハケメ 外：ヨコナデ・ハケメ	密 (2mm以下の 砂粒多含む)	-	にぶい黄褐10YR5/3	外面煤付着
93	027-06	弥生土器 /土師器	甕	B6	包含層	口縁 小片	-	-	-	内：ハケメ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・刺突文・ハケメ	やや密 (1.5mm 以下の砂粒多含む)	-	にぶい黄橙10YR7/2	
94	024-06	弥生土器 /土師器	甕	B6	包含層 (SH?)	口縁 小片	-	-	-	内：ハケメ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・刺突文・ハケメ	密	-	内：にぶい黄橙10YR7/2	S字状口縁
95	025-02	弥生土器 /土師器	甕	B6	包含層 (SH?)	口縁 1/12	17.0	-	-	内：ナデ 外：ナデ・ハケメ	密	-	にぶい橙7.5YR7/4	
96	024-03	弥生土器 /土師器	台付甕	B6	包含層 (SH?)	台部 5/12	-	6.4	-	内：工具ナデ 外：ハケメ・ナデ	密 (～3mmの砂 粒含む)	-	内：黒5Y2/1外：にぶい 橙7.5YR7/3	内面黒化
97	027-04	弥生土器 /土師器	台付甕	B6	包含層	台部 11/12	-	7.2	-	内：調整不明 外：調整不明	やや密 (3.5mm 以下の砂粒多含む)	-	浅黄橙7.5YR8/3	
98	027-07	弥生土器 /土師器	高杯	B6	包含層	脚柱部 11/12	-	-	-	内：シボリ 外：櫛描直線文	やや密 (3mm以 下の小石粒多含む)	-	にぶい橙7.5YR6/4	透孔2個
99	028-06	弥生土器 /土師器	高杯	B6	包含層	口縁 1/12	26.8	-	-	内：ハケメ・ミガキ・沈線 外：ハケメ・ミガキ	密 (3.5mm以下 の砂粒含む)	-	内：にぶい赤褐5YR5/4 ～橙5YR6/6外：黒褐10Y R3/1～にぶい黄橙10YR7 /2	美濃の特徴を 持つ
100	028-02	土師器	壺or甕	B6	包含層	口縁 小片	-	-	-	内：調整不明 外：調整不明	やや密 (3.5mm 以下の砂粒多含む)	-	浅黄橙7.5YR8/4	
101	027-05	土師器	甕	B6	包含層	口縁 1/12	12.9	-	-	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ・沈線・ハケメ	密 (2mm以下の 砂粒含む) (赤色粒含む)	-	浅黄橙10YR8/3	宇田型
102	027-03	土師器	甕	B6	包含層	口縁 1/12	13.6	-	-	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	密 (4mm以下の 小石粒含む)	-	橙5YR7/6	宇田型
103	025-04	土師器	甕	B6	包含層 (SH?)	口縁 1/12	14.6	-	-	内：調整不明・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ハケメ	密	-	浅黄橙10YR8/3	宇田型
104	024-02	土師器	甕	B6	包含層 (SH?)	台部 5/12	-	8.6	-	内：オサエ・ナデ・ヨコナデ 外：ナデ・面取り・オサエ・ヨコナデ	密	-	浅黄橙10YR8/3	宇田型
105	028-01	土師器	把手	B6	包含層	-	-	-	-	内：- 外：ハケメ	やや密 (3mm以 下の砂粒含む)	-	にぶい橙7.5YR7/4	
106	023-07	須恵器	杯蓋	B6	包含層	口縁 小片	-	-	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・ロクロケズリ	密	良	灰白N7/0	
107	023-06	須恵器	杯身	B6	包含層 (SH?)	口縁 小片	-	-	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白N7/0	
108	023-03	須恵器	杯身	B6	包含層 (SH?)	底部 12/12	9.7	-	4.6	内：ナデ?・ロクロナデ 外：ロクロナデ・ロクロケズリ	密 (～5mmの小 石含む)	不良	内：にぶい橙7.5YR7/3 外：黄灰2.5Y6/1	口縁部1/12残 存
109	023-05	須恵器	杯身	B6	包含層	口縁 1/12	10.5	-	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・ロクロケズリ	密	不良	内：灰白2.5YR7/1外： 灰白N7/0	
110	024-01	須恵器	高杯	B6	包含層	脚部 2/12	-	8.6	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密	良	灰白N7/0	方形透孔1個
111	026-03	弥生土器 /土師器	壺	B7	包含層	底部 完存	-	4.1	-	内：調整不明 外：調整不明	密 (1mm以下の 砂粒含む)	-	にぶい黄橙10YR7/4	
112	026-02	弥生土器 /土師器	甕	B7	包含層	口縁 1/12	12.9	-	-	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ・刺突文・ハケメ	密 (4mm以下の 小石粒含む)	-	にぶい橙7.5YR7/4	S字状口縁
113	026-06	弥生土器 /土師器	台付甕	B7	包含層	台部 3/12	-	7.8	-	内：ハケメ 外：ハケメ・ヨコナデ	密 (2mm以下の 砂粒多含む)	-	橙5YR6/6	
114	026-04	弥生土器 /土師器	台付甕	B7	包含層	台部 完存	-	7.1	-	内：ナデ 外：ハケメ	やや密 (3mm以 下の砂粒多含む)	-	にぶい黄橙10YR7/4	

第V-4表 中島遺跡遺物観察表2

報告 番号	実測 番号	種類	器種	地区	遺構 層位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施軸	胎土 素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
115	026-09	弥生土器 土師器	高杯	B7	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・ミガキ 外:ハケメ・ミガキ	密 (微砂粒含む)	-	黒10YR2/1~にぶい黄橙 10YR7/3	
116	026-08	弥生土器 土師器	高杯	B7	包含層	脚柱部	-	-	-	内:シボリ・オサエ・ナデ 外:ミガキ・櫛描直線文	密 (5mm以下の 小石粒含む)	-	褐灰7.5YR4/1~橙7.5YR 7/6	透孔3個
117	026-05	土師器	壺	B7	包含層	口縁 1/12	16.5	-	-	内:調整不明 外:調整不明	密 (3mm以下の砂 粒多含む、赤色 粒含む)	-	浅黄橙7.5YR8/3	
118	026-01	土師器	甕	B7	包含層	口縁 3/12	8.4	-	-	内:ナデ・オサエ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (5mm以下の 小石粒含む、赤 色粒含む)	-	にぶい橙7.5YR7/4	
119	026-07	土師器	台付甕	B7	包含層	台部 2/12	-	7.9	-	内:ナデ 外:ハケメ	密 (7mm以下の 小石粒含む、赤 色粒含む)	-	橙2.5YR7/6	
120	027-02	土師器	高杯	B7	包含層	口縁 1/12	13.8	-	-	内:調整不明 外:調整不明	密 (1mm以下の 砂粒含む)	-	明赤褐5YR5/8	
121	029-01	弥生土器 土師器	壺	B8	包含層	口縁 1/12	14.8	-	-	内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (~2mmの砂 粒含む)	-	にぶい黄橙10YR7/3	
122	029-08	須恵器	壺	B8	包含層	頸部 3/12	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	
123	029-06	弥生土器 土師器	小型壺	B8	包含層	底部 8/12	-	3.3	-	内:工具ナデ 外:磨滅	密 (~1.5mmの 砂粒含む)	-	内:黒褐10YR3/1外:に ぶい橙7.5YR6/4	内面黒化
124	029-05	弥生土器 土師器	甕	B8	包含層	口縁 1/12	15.8	-	-	内:磨滅 外:磨滅	密 (~4mmの砂 粒多含む)	-	にぶい橙7.5YR7/4	
125	029-02	弥生土器 土師器	甕	B8	包含層	口縁 1/12	15.6	-	-	内:磨滅 外:磨滅	密 (~2.5mmの 砂粒含む)	-	橙7.5YR6/6	
126	029-04	弥生土器 土師器	甕	B8	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文	密 (~2mmの砂 粒含む)	-	内:にぶい橙7.5YR6/3 外:橙7.5YR6/6	
127	029-07	弥生土器 土師器	高杯	B8	包含層	脚柱部 完存	-	-	-	内:ミガキ・シボリ・工具ナデ 外:ミガキ・ハケメ	密 (~2mmの砂 粒含む)	-	にぶい橙7.5YR7/4	透孔3個
128	030-02	弥生土器 土師器	高杯	B8	包含層	脚部 1/12	-	12.8	-	内:シボリ・ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ミガキ・ヨコナデ	密 (~3mmの砂 粒含む)	-	にぶい橙7.5YR5/3	透孔3個
129	029-03	土師器	甕	B8	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ケズリ・ナデ	密 (~2mmの砂 粒含む)	-	にぶい橙7.5YR7/4	
130	030-01	土師質	壁土か	B8	包含層	-	-	-	-	密 (~1mmの砂 粒含む)	-	橙5YR6/6		
131	030-06	弥生土器 土師器	壺	B9	包含層	底部 4/12	-	5.0	-	内:工具ナデ 外:工具ナデ	密 (~1mmの砂 粒含む)	-	にぶい黄橙10YR7/4	
132	030-05	弥生土器 土師器	高杯	B9	包含層	脚柱部 完存	-	-	-	内:磨滅 外:ハケメ・ミガキ	密 (~3mmの砂 粒含む)	-	にぶい橙7.5YR6/4	透孔2個
133	030-04	弥生土器 土師器	手焙形 か	B9	包含層	体部 小片	-	-	-	内:ハケメ 外:突帯貼り付け後ナデ・ハケメ	密 (~1mmの砂 粒含む)	-	灰褐7.5YR4/2	
134	030-03	須恵器	高杯	B9	包含層	脚部 3/12	-	7.8	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密 (~1.5mmの 砂粒含む)	良	黒褐2.5Y3/1	方形透孔3個
135	031-01	弥生土器 土師器	壺	B10	包含層	頸部 3/12	-	-	-	内:磨滅 外:突帯貼り付け後ナデ	密 (~4mmの砂 粒含む)	-	橙5YR6/6	
136	030-07	弥生土器 土師器	甕	B10	包含層	口縁 1/12	18.2	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (~5mmの砂 粒含む)	-	にぶい橙7.5YR6/4	
137	031-02	弥生土器 土師器	壺	B11	包含層	口縁 2/12	13.5	-	-	内:磨滅・ハケメ 外:竹管文・突帯貼り付け後刺突文	密 (~2mmの砂 粒含む)	-	にぶい橙7.5YR7/4	
138	031-05	弥生土器 土師器	壺	B11	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:磨滅 外:凹線文・棒状浮文・磨滅	密 (~2mmの砂 粒含む)	-	橙7.5YR7/6	
139	031-04	弥生土器 土師器	甕	B11	包含層	底部 6/12	-	4.2	-	内:工具ナデ・ナデ 外:ハケメ・オサエ	密 (~1mmの砂 粒含む)	-	にぶい橙7.5YR6/4	
140	031-06	弥生土器 土師器	高杯	B11	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ミガキ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	密 (~1mmの砂 粒含む)	-	橙5YR6/6	
141	032-01	弥生土器 土師器	高杯	B11	包含層	脚柱部	-	-	-	内:ミガキ・シボリ 外:ヨコナデ・櫛描直線文	密	-	内:にぶい橙5YR7/4外: 灰褐7.5YR5/2	
142	031-03	土師器	高杯か	B11	包含層	口縁 1/12	-	13.3	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・凹線	密 (~2mmの砂 粒含む)	-	にぶい橙7.5YR5/4	
143	032-04	土師器	壺	B12	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密	-	にぶい橙7.5YR7/4	
144	032-03	土師器	壺	B12	包含層	口縁 3/12	-	6.0	-	内:ハケメ 外:ミガキ・ナデ	密	-	内:にぶい橙7.5YR7/3 外:橙7.5YR7/6	
145	032-02	弥生土器 土師器	壺	B12	包含層	底部 完存	-	4.4	-	内:工具ナデ 外:ハケメ・ナデ	密	-	内:にぶい黄橙10YR7/2 外:褐灰10YR6/1・5/1	
146	032-05	弥生土器 土師器	高杯	B12	包含層	-	-	-	-	内:シボリ・ナデ 外:調整不明・ミガキ	密 (~3mmの砂 粒多含む)	-	橙5YR6/6	透孔2個
147	032-06	土師器	高杯	B12	包含層	脚部 1/12	-	11.5	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ミガキ・ヨコナデ	密	-	橙2.5YR6/6	
148	032-07	弥生土器 土師器	甕	B12	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密	-	橙7.5YR7/6	
149	032-08	弥生土器 土師器	壺	B13	包含層	口縁 1/12	17.5	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文	密 (~2mmの砂 粒含む)	-	にぶい黄橙10YR7/3	
150	036-05	土師器	壺	B13	北壁5 層	体部 小片	-	-	-	内:磨滅 外:櫛描直線文・貝殻刺突文・磨滅	密	-	橙5YR6/6	
151	033-03	土師器	壺	B14	包含層	口縁 1/12	17.0	-	-	内:ミガキ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ミガキ・刻み	密 (微砂粒含む)	-	浅黄橙7.5YR8/4	
152	033-05	弥生土器 土師器	甕	B14	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密	-	にぶい橙7.5YR7/4	
153	036-04	弥生土器 土師器	台付甕	B15	南壁6 層	台部 2/12	-	6.8	-	内:オサエ・ナデ 外:ナデ・ハケメ	密	-	内:橙2.5YR6/6外:に ぶい橙3YR7/4	
154	033-02	弥生土器 土師器	高杯	B14	包含層	口縁 1/12	20.0	-	-	内:調整不明 外:調整不明	密 (~1.5mmの 砂粒含む)	-	橙5YR7/6	
155	033-01	弥生土器 土師器	高杯	B14	包含層	口縁 2/12	20.8	-	-	内:調整不明 外:調整不明・ミガキ	密 (~2mmの砂 粒含む)	-	内:橙5YR7/6外:橙2.5 YR6/6	
156	033-06	弥生土器 土師器	高杯	B14	包含層	脚柱部	-	-	-	内:シボリ・ナデ 外:櫛描直線文・ハケメ	密 (微砂粒含む)	-	浅黄橙10YR8/4	透孔4個
157	033-04	弥生土器 土師器	鉢か	B14	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・オサエ・ナデ	密 (~2mmの砂 粒多含む)	-	にぶい黄橙10YR7/3	
158	033-07	須恵器	甕か	B15	包含層	口縁 1/12	24.8	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰白10YR7/1	
159	036-01	土師器	高杯	B15	南壁7層	口縁 6/12	20.2	-	-	内:磨滅・ヨコナデ・シボリ・ナデ 外:ヨコナデ・ミガキ・ハケメ	密	-	にぶい橙7.5YR7/4	透孔1個 内面煤付着
160	034-01	土師器	壺	B20	包含層	口縁 2/12	13.7	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	
161	034-02	土師器	壺	B20	包含層	口縁 1/12	18.0	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密 (~3mmの小 石含む)	-	浅黄橙10YR8/3	
162	035-02	土師器	壺	B20	包含層	体部 ~ 底部 5/12	-	4.0	-	内:磨滅・ナデ・工具ナデ 外:磨滅・ミガキ	密	-	内:橙7.5YR7/6外:に ぶい橙10YR6/4	
163	035-01	土師器	甕	B20	包含層	口縁 1/12	27.0	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密 (~5mmの小 石含む)	-	橙7.5YR7/6	
164	034-03	弥生土器 土師器	高杯	B20	包含層	口縁 1/12	17.9	-	-	内:ミガキ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	密 (微砂粒含む)	-	橙5YR7/6	
165	034-04	弥生土器 土師器	高杯	B20	包含層	脚柱部	-	-	-	内:ミガキ・シボリ・ナデ 外:櫛描直線文・ミガキ	密 (~3mmの小 石・砂粒含む)	-	にぶい橙7.5YR6/4	透孔3個
166	036-02	弥生土器 土師器	高杯	B20	南壁5層	脚柱部 完存	-	-	-	内:シボリ・ナデ 外:ミガキ	密	-	にぶい橙7.5YR7/4	透孔3個
167	036-03	弥生土器 土師器	高杯	B20・ 21	包含層	脚柱部 6/12	-	-	-	内:磨滅 外:磨滅	密	-	にぶい橙7.5YR7/4	透孔1個
168	034-08	弥生 土師器	把手付 鉢か	B21	包含層	-	-	-	-	内: 外:オサエ・ナデ	密	-	内:灰褐7.5YR6/2	把手のみ
169	034-05	弥生土器 土師器	台付甕	B21	包含層	台部 6/12	-	6.0	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ	密 (~5mmの小 石・砂粒含む)	-	にぶい黄橙10YR6/3	
170	034-07	弥生土器 土師器	台付甕	B21	包含層	台部	-	-	-	内:ナデ・工具ナデ 外:ハケメ	密	-	内:褐灰7.5YR6/1外: 褐灰7.5YR4/1	
171	035-03	弥生土器 土師器	高杯	B21	包含層	脚部 1/12	-	12.8	-	内:ミガキ・シボリ・ナデ・ハケメ 外:ハケメ・ミガキ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4	透孔2個
172	035-04	弥生土器 土師器	高杯	B21	包含層	脚柱部 完存	-	-	-	内:オサエ・ナデ 外:櫛描直線文・ハケメ	密	-	橙7.5YR7/6	透孔1個
173	034-06	弥生土器 土師器	器台か	B21	包含層	-	-	-	-	内:ナデ・オサエ 外:ミガキ	密 (微砂粒含む)	-	にぶい橙7.5YR7/4	

第V-5表 中島遺跡遺物観察表3

報告番号	実測番号	種類	器種	地区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施軸	胎土素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
174	028-05	弥生土器 /土師器	器台	B6	包含層	口縁 2/12	14.2	—	—	内：ミガキか 外：調整不明	—	にぶい	橙7.5YR6/4	
175	006-04	須恵器	器台	範確 No.6	黒褐色 粘質土	体部 小片	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・刺突文・沈線	—	—	暗灰N3/	
176	006-03	弥生土器 /土師器	甕	範確 No.6	黒褐色 粘質土	口縁 小片	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ・刺突文・ハケメ・ヨコハケ	—	にぶい	橙7.5YR7/4	
177	005-06	弥生土器 /土師器	高杯	範確 No.7	SZ	脚柱部 12/12	—	—	—	内：シボリ 外：ハケメ・ミガキ・櫛描直線文	—	にぶい	橙5YR7/4	透孔2個
178	005-04	弥生土器 /土師器	壺	範確 No.7	黒褐色 粘質土	体部 小片	—	—	—	内：ナデ 外：櫛描直線文・刺突文・ハケメ・ミガキ	—	にぶい	黄橙10YR6/3	刺突より下は 赤彩
179	037-04	弥生土器 /土師器	高杯	C1	SK201	脚柱部 完存	—	—	—	内：ナデ・シボリ 外：櫛描直線文・ミガキ	—	—	灰黄2.5Y7/2	透孔3個
180	039-06	弥生土器 /土師器	高杯	C2	SK202	脚柱部 2/12	—	—	—	内：ナデ 外：櫛描直線文・ミガキ	—	—	内：灰黄2.5Y7/2外：暗 灰黄2.5Y5/2	透孔1個
181	037-02	弥生土器 /土師器	台付甕	C1	SK203	台部 6/12	—	—	—	内：ナデ・シボリ 外：ハケメ	—	—	灰黄2.5Y6/2	
182	039-05	弥生土器 /土師器	高杯	C1	SK203	脚柱部 5/12	—	—	—	内：シボリ 外：磨減	—	—	浅黄橙10YR8/3	透孔1個
183	038-03	弥生土器 /土師器	甕	C2	SK204	口縁 1/12	15.0	—	—	内：工具痕跡・ハケメ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ハケメ	—	にぶい	黄橙10YR7/3	
184	050-09	弥生土器 /土師器	壺	C6	SZ205	底部 11/12	—	3.6	—	内：工具ナデ 外：ナデ	—	にぶい	黄橙10YR7/3	
185	045-05	弥生土器 /土師器	壺か	C7	SZ205	底部 完存	—	2.6	—	内：ナデ 外：ナデ	—	にぶい	黄橙10YR7/3	外面黒化
186	050-03	弥生土器 /土師器	壺	C5	SZ205	底部 5/12	—	5.6	—	内：工具ナデ 外：—	—	にぶい	内：灰5Y4/外：にぶい 黄橙10YR7/3	内面黒化 底部外面に木 葉痕
187	051-01	弥生土器 /土師器	壺	C4	SZ205	底部 10/12	—	7.7	—	内：工具ナデ 外：ヨコナデ・工具ナデ	良	にぶい	黄橙10YR7/3	
188	048-05	弥生土器 /土師器	壺か	C3	SZ205	底部 5/12	—	7.8	—	内：ナデ 外：オサエ・未調整	—	にぶい	黄橙10YR6/3	
189	048-02	弥生土器 /土師器	壺	C3	SZ205	底部 完存	—	5.8	—	内：磨減 外：ハケメ	—	にぶい	内：褐灰10YR6/1外：に ぶい橙7.5YR7/4	内面黒化
190	049-05	弥生土器 /土師器	甕	C5	SZ205	口縁 小片	—	—	—	内：ハケメ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ハケメ	—	にぶい	灰黄褐10YR5/2	
191	046-05	弥生土器 /土師器	台付甕	C5	SZ205	台部 3/12	—	8.2	—	内：工具ナデ・ヨコナデ 外：ハケメ・ヨコナデ	—	にぶい	黄橙10YR7/3	
192	047-03	弥生土器 /土師器	高杯	C3	SZ205	脚柱部 完存	—	—	—	内：ミガキ・シボリ 外：ミガキ・櫛描直線文	—	にぶい	黄橙10YR7/2	透孔2個
193	045-03	弥生土器 /土師器	高杯	C7	SZ205	脚柱部 9/12	—	—	—	内：ナデ・ハケメ 外：ハケメ	—	にぶい	黄橙10YR7/2	
194	048-03	弥生土器 /土師器	鉢	C3	SZ205	底部 完存	—	3.2	—	内：磨減 外：ハケメ	—	にぶい	黄橙10YR7/3	底部焼成前穿 孔
195	044-02	土師器	壺	C7	SZ205	9月12日	12.3 ～ 12.6	—	16.6	内：工具ナデ・ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ミガキ	—	—	橙5YR6/6	
196	050-02	土師器	小型壺	C5	SZ205	口縁 2/12 体部 8/12	8.5	—	—	内：粘土接合痕・ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ	—	にぶい	黄橙10YR6/3	
197	049-04	土師器	鉢	C5	SZ205	口縁 1/12 体部 3/12	8.2	—	—	内：工具ナデ・ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・オサエ	—	—	灰黄褐10YR6/2	
198	041-01	土師器	台付甕	C7	SZ205	口縁～ 底部 2/12	10.8	—	—	内：工具ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・オサエ	—	—	褐灰10YR6/1	
199	045-01	土師器	壺	C7	SZ205	口縁 2/12	18.0	—	—	内：ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ハケメ	—	—	灰白10YR8/2	
200	046-04	土師器	甕	C5	SZ205	口縁 1/12	14.6	—	—	内：工具ナデ・ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・オサエ・ナデ	—	—	灰白10YR8/2	
201	052-03	土師器	甕	C4	SZ205	口縁 3/12	13.2	—	—	内：ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ハケメ	—	—	浅黄2.5Y7/4	宇田型
202	047-01	土師器	甕	C3	SZ205	口縁 1/12	14.4	—	—	内：ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ハケメ	—	—	灰白10YR8/2	
203	048-01	土師器	甕	C3	SZ205	口縁 1/12	18.6	—	—	内：工具ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・工具ナデ	—	にぶい	黄橙10YR7/3	
204	052-01	土師器	甕	C4	SZ205	口縁 1/12	25.5	—	—	内：工具ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・オサエ・ナデ・工具ナデ	—	にぶい	黄橙10YR7/3	
205	046-06	土師器	台付甕	C4	SZ205	台部 8/12	—	9.3	—	内：工具ナデ・ナデ 外：ケズリ・工具ナデ・ナデ	—	—	灰白10YR8/2	宇田型
206	050-05	土師器	台付甕	C5	SZ205	台部 7/12	—	9.4	—	内：工具ナデ・ヨコナデ 外：工具ナデ・オサエ・ナデ	—	にぶい	黄橙10YR6/3	宇田型
207	050-04	土師器	台付甕	C5	SZ205	台部 8/12	—	9.2	—	内：工具ナデ・ナデ・ヨコナデ 外：工具ナデ・オサエ・ナデ	—	にぶい	黄橙10YR6/3	宇田型 内面煤付着
208	049-01	土師器	高杯	C3	SZ205	口縁 1/12	14.0	—	—	内：ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・オサエ・ナデ	—	にぶい	黄橙10YR6/4	
209	047-04	土師器	高杯	C3	SZ205	脚柱部 12/12	—	—	—	内：シボリ 外：ナデ	—	—	橙2.5YR6/8	
210	048-06	土師器	高杯	C4	SZ205	脚柱部 5/12	—	—	—	内：ヨコナデ・ナデ・シボリ 外：面取り状ナデ	—	にぶい	黄橙10YR6/3	
211	050-06	土師器	高杯	C5	SZ205	脚柱部 完存	—	—	—	内：シボリ・ナデ 外：ナデ・面取り	—	にぶい	橙7.5YR6/4	
212	048-07	土師器	高杯	C4	SZ205	脚部 1/12	—	16.8	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	—	にぶい	黄褐10YR5/3	
213	050-07	土師器	杯	C5	SZ205	口縁 1/12	11.8	—	—	内：磨減・ヨコナデ 外：ヨコナデ・磨減	—	—	橙5YR6/6	
214	046-02	土師器	杯	C7	SZ205	口縁 1/12	12.8	—	—	内：磨減 外：磨減	—	—	橙5YR7/6	
215	046-01	土師器	杯	C7	SZ205	口縁 1/12	15.8	—	—	内：ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ナデ	—	にぶい	橙5YR7/6	
216	045-04	土師器	台付甕	C7	SZ205	脚部 2/12	—	7.8	—	内：ナデ・ヨコナデ 外：ナデ・ヨコナデ	—	にぶい	橙7.5YR7/4	
217	050-08	土師器	台付杯	C5・ 6	SZ205	台部 1/12	—	6.9	—	内：磨減 外：磨減	—	—	橙5YR6/6	
218	046-03	土師器	皿	C5	SZ205	口縁 1/12	12.8	—	—	内：ミガキ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ミガキ・ケズリ	—	にぶい	橙7.5YR7/4	
219	048-08	須恵器	杯蓋	C4	SZ205	体部 1/12	—	—	—	内：一方ナデ・ロクロナデ 外：ロクロケズリ・ロクロナデ	良	—	灰N6/0	
220	050-01	須恵器	杯身	C5	SZ205	口縁 3/12	8.5	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・ロクロケズリ	良	—	灰白2.5Y7/1	
221	049-02	埴輪	円筒	C4	SZ205	小片	—	—	—	内：オサエ・ナデ 外：工具ナデ・突帯貼り付け後ヨコナデ	—	にぶい	黄橙10YR7/4	
222	049-03	埴輪	円筒	C4	SZ205	小片	—	—	—	内：オサエ・ナデ 外：突帯貼り付け後ヨコナデ・工具ナデ	—	にぶい	黄橙10YR7/3	内面煤付着
223	045-02	土師器	甕	C7	SZ205	口縁 小片	—	—	—	内：ハケメ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ハケメ	—	—	灰白10YR8/2	
224	049-06	土師器	瓶	C5	SZ205	底部 2/12	—	12.8	—	内：ヘラ切り・ナデ 外：工具ナデ	—	にぶい	黄橙10YR6/3	
225	051-04	土師器	鍋又は 瓶	C4	SZ205	—	—	—	—	内：磨減 外：磨減	—	にぶい	黄橙10YR7/2	把手
226	051-03	土師器	鍋又は 瓶	C4	SZ205	—	—	—	—	内：工具ナデ 外：ナデ	—	にぶい	黄橙10YR7/2	把手
227	048-04	土師器	鍋又は 瓶	C3	SZ205	—	—	—	—	内： 外：オサエ・ナデ	—	—	灰白2.5Y8/1	把手

第V-6表 中島遺跡遺物観察表 4

報告番号	実測番号	種類	器種	地区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施軸	胎土素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
392	076-03	弥生土器 土師器	高杯	D1	南壁8層	脚柱部 12/12	-	-	-	内:シボリ 外:ミガキ	-	にぶい橙7.5YR6/4	透孔3個	
393	078-05	土師器	高杯	D1	包含層	脚柱部 12/12	-	-	-	内:シボリ 外:ミガキ	-	橙5YR6/6		
394	076-05	弥生土器 土師器	高杯	D1	包含層	脚部 1/12	-	17.6	-	内:磨滅 外:磨滅	-	橙5YR7/6	透孔1個	
395	077-03	須恵器	杯蓋	D1	包含層	口縁 2/12	13.0	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロナデ	良	灰白5Y7/1		
396	081-05	弥生土器 土師器	壺	D2	包含層	口縁 1/12	-	-	-	内:キザミ・ナデ 外:キザミ・ナデ	-	浅黄橙10YR8/3		
397	081-02	弥生土器 土師器	壺	D2	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ミガキ・キザミ・刺突文 外:ナデ	-	橙5YR6/6		
398	081-04	弥生土器 土師器	壺	D2	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:刺突文 外:刺突文・ナデ	-	灰白10YR8/2		
399	084-04	弥生土器 土師器	壺	D2	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	-	橙7.5YR6/6赤10R5/6	内面赤彩	
400	085-04	弥生土器 土師器	壺	D2	包含層	体部 小片	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	-	内:灰白10YR8/2外:浅黄橙7.5YR8/47.5YR8/6	外面赤彩	
401	085-03	弥生土器 土師器	壺	D2	包含層	体部 小片	-	-	-	内:ナデ 外:沈線・ミガキ	-	内:灰褐7.5YR6/2外:赤褐10YR4/4	外面赤彩	
402	081-01	弥生土器 土師器	壺	D2	包含層	口縁 2/12	17.6	-	-	内:ナデ・キザミ・磨滅 外:ナデ・貼付突帯後ナデ・調整不明	-	灰白10YR8/2		
403	082-01	弥生土器 土師器	壺	D2	包含層	口縁 1/12	13.6	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	にぶい黄橙10YR7/2		
404	083-02	土師器	二重 口縁壺	D2	包含層	頸部 小片	-	-	-	内:ミガキ・ナデ 外:ミガキ	-	にぶい橙7.5YR7/4		
405	083-03	弥生土器 土師器	壺	D2	包含層	底部 8/12	-	5.6	-	内:工具痕・ナデか 外:ナデ・工具痕	-	内:灰白10YR8/2外:にぶい橙5YR7/4灰黄褐10YR6/2	木炭痕跡	
406	084-01	弥生土器 土師器	壺	D2	包含層	底部 6/12	-	4.8	-	内:ハケメ 外:ナデ	-	灰褐7.5YR6/2	木炭痕跡	
407	083-01	弥生土器 土師器	壺	D2	包含層	底部 6/12	-	6.0	-	内:ハケメ 外:ハケメ・ナデ	-	内:にぶい橙7.5YR7/3橙5YR7/6外:橙2.5YR6/8	種子圧痕	
408	084-03	弥生土器 土師器	壺	D2	包含層	底部 完存	-	5.8	-	内:工具ナデ 外:ナデ	-	内:灰褐7.5YR6/2外:にぶい橙7.5YR6/4		
409	084-02	弥生土器 土師器	壺	D2	包含層	底部 5/12	-	3.7	-	内:ミガキ 外:ミガキ	-	にぶい橙7.5YR7/4・6/4		
410	084-07	弥生土器 土師器	壺	D2	包含層	底部 5/12	-	4.0	-	内:ナデ 外:ミガキ・ナデ	-	内:灰白2.5Y7/1外:橙5YR7/6		
411	080-03	土師器	台付甕	D2	包含層	口縁 1/12	17.0	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・櫛描直線文	-	浅黄橙10YR8/3	S字状口縁	
412	080-04	土師器	台付甕	D2	包含層	口縁 1/12	10.8	-	-	内:ナデ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	浅黄橙10YR8/3	S字状口縁 外面煤付着	
413	079-02	土師器	台付甕	D2	包含層	口縁 1/12	14.7	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	にぶい橙7.5YR6/3	S字状口縁	
414	080-05	土師器	台付甕	D2	包含層	口縁 1/12	17.8	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	にぶい橙7.5YR7/3	S字状口縁 内面煤付着	
415	080-01	土師器	台付甕	D2	包含層	口縁 2/12	19.3	-	-	内:オサエ・ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	灰白10YR8/2	S字状口縁	
416	080-02	土師器	台付甕	D2	包含層	口縁 1/12	17.8	-	-	内:オサエ・ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	浅黄橙7.5YR8/3	S字状口縁	
417	082-03	土師器	甕	D2	包含層	口縁 1/12	-	-	-	内:オサエ・ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ	-	褐灰7.5YR4/1		
418	081-03	土師器	甕	D2	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ケズリ	-	内:灰黄褐10YR5/2外:にぶい橙7.5YR7/4		
419	079-03	弥生土器 土師器	台付甕	D2	包含層	台部 完存	-	11.0	-	内:オサエ・ナデ・工具ナデ・ハケメ 外:ハケメ	-	にぶい黄橙10YR7/3	S字状口縁	
420	082-07	弥生土器 土師器	台付甕	D2	包含層	台部 7/12	-	6.7	-	内:工具ナデ・ハケメ 外:ハケメ・ナデ	-	灰黄褐10YR5/2		
421	080-06	土師器	甕	D2	包含層	口縁 1/12	11.9	-	-	内:ケズリ・ナデ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	-	橙5YR7/6	布留系 外面煤付着	
422	082-02	土師器	甕	D2	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ナデ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ	-	浅黄橙7.5YR8/3		
423	082-05	弥生土器 土師器	高杯	D2	包含層	杯部 小片	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	-	橙5YR7/6		
424	079-01	弥生土器 土師器	高杯	D2	包含層	脚柱部 完存	-	-	-	内:磨滅 外:ミガキ・櫛描直線文	-	橙7.5YR6/6	透孔3個	
425	082-04	弥生土器 土師器	高杯	D2	包含層	脚部 小片	-	-	-	内:ケズリ・ハケメ・ナデ 外:ミガキ	-	内:浅黄橙7.5YR8/6外:浅黄橙7.5YR8/4	透孔2個	
426	084-06	弥生土器 土師器	高杯	D2	包含層	脚部 3/12	-	13.0	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・ヨコナデ	-	にぶい橙7.5YR7/4		
427	082-06	弥生土器 土師器	器台か	D2	包含層	口縁 脚部 4/12	8.6	-	-	内:ナデ・シボリ 外:ナデ・櫛描直線文	-	橙7.5YR7/6	透孔3個	
428	084-05	弥生土器 土師器	器台	D2	包含層	口縁 2/12	9.0	-	-	内:ミガキ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ミガキ	-	橙5YR6/6		
429	085-01	弥生土器 土師器	壺	D3	包含層	頸部 小片	-	-	-	内:ミガキ 外:刺突文・ハケメ	-	橙5YR6/6		
430	085-02	弥生土器 土師器	高杯	D3	包含層	脚柱部	-	-	-	内:調整不明・シボリ 外:調整不明	-	橙5YR7/6	透孔2個	
431	085-05	土師器	壺	D4	包含層	口縁 小片	18.0	-	-	内:調整不明・竹管文・波状文 外:棒状浮文・円形浮文・ミガキ	-	にぶい橙7.5YR6/4		
432	083-04	弥生土器 土師器	台付甕	D4	包含層	台部 小片	-	-	-	内:工具ナデ 外:ハケメ	-	橙2.5YR7/6		
433	075-04	弥生土器 土師器	台付甕	D4・5	南壁20層	台部 小片	-	-	-	内:ハケメ・工具ナデ 外:ハケメ・ヨコナデ	-	灰黄褐10YR6/2	内面炭化物付着	
434	086-04	弥生土器 土師器	壺	D5	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:調整不明 外:櫛描直線文・ナデ	-	内:橙7.5YR7/6外:にぶい橙7.5YR7/4		
435	086-01	弥生土器 土師器	壺	D5	包含層	頸部 小片	-	-	-	内:ナデ 外:沈線・キザミ・ナデ	-	にぶい黄橙10YR7/3		
436	086-06	弥生土器 土師器	高杯	D5	包含層	脚柱部	-	-	-	内:ミガキ・シボリ 外:ミガキ・櫛描直線文	-	浅黄橙10YR8/3	透孔3個	
437	086-02	弥生土器 土師器	高杯	D5	包含層	脚柱部	-	-	-	内:シボリ・ナデ 外:櫛描直線文	-	橙7.5YR7/6	透孔3個	
438	086-03	土師器	台付甕	D5	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	-	浅黄橙10YR8/3	宇田型	
439	085-07	土師器	台付甕	D5	包含層	台部 2/12	-	10.4	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	-	灰白10YR8/2		
440	085-06	土師器	台付甕	D5	包含層	台部 1/12	-	12.0	-	内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・オサエ	-	にぶい黄橙10YR7/3	宇田型	
441	085-08	土師器	台付 小型鉢	D5	包含層	台部 3/12	-	7.3	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:調整不明・ヨコナデ	-	内:橙5YR6/8外:橙2.5YR6/8		
442	088-04	弥生土器 土師器	甕	D6	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	-	にぶい黄橙10YR7/3	受口状口縁	
443	086-08	弥生土器 土師器	台付甕	D6	包含層	口縁 2/12	12.7	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文・ハケメ	-	にぶい黄橙10YR7/3・6/3	受口状口縁	
444	088-03	弥生土器 土師器	甕	D6	包含層	口縁 1/12	13.9	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・刺突文	-	にぶい黄橙10YR7/2		
445	089-04	弥生土器 土師器	台付甕	D6	包含層	口縁 小片	-	-	-	内:ナデ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文・ハケメ・ヨコハケメ	-	浅黄橙10YR8/3	S字状口縁	
446	086-07	土師器	台付甕	D6	包含層	口縁 2/12	13.8	-	-	内:オサエ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ヨコハケメ・ハケメ	-	灰白10YR8/2	S字状口縁	
447	086-05	土師器	台付甕	D6	包含層	台部 2/12	-	8.0	-	内:オサエ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ	-	内:にぶい黄橙10YR7/2外:にぶい黄橙10YR7/3	宇田型	

第V-10表 中島遺跡遺物観察表 8

報告番号	実測番号	種類	器種	地区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施軸	胎土素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
659	133-08	弥生土器	台付甕	E18	包含層第3層	口縁小片	-	-	-	内：ハケメ・オサエ・ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・刺突文・工具痕・ナデ	密(～2.5mmの砂粒含む)	-	にぶい楳7.5YR6/3	S字状口縁
660	133-07	弥生土器	台付甕	E18	包含層	口縁小片	-	-	-	内：ハケメ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・刺突文・ナデ・ハケメ	密(～3mmの砂粒含む)	-	楳7.5YR7/6	S字状口縁
661	133-02	弥生土器	台付甕	E18	包含層第3層	口縁2/12	16.8	-	-	内：ハケメ・ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ハケメ・ナデ・ハケメ	密(～3.6mmの砂粒含む)	-	にぶい楳7.5YR6/3	S字状口縁
662	133-01	弥生土器	台付甕	E18	包含層第3層	口縁1/12	22.5	-	-	内：工具痕・ハケメ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・刺突文・ナデ・ハケメ	密(～4mmの砂粒含む)	-	にぶい楳7.5YR7/4	S字状口縁
663	132-03	弥生土器	台付甕	E18	包含層第3層	口縁8/12	-	7.0	-	内：シボリ・ナデ 外：工具ナデ・ナデ	密(～3mmの砂粒含む)	-	にぶい赤楳5YR5/4	外面煤付着
664	132-08	弥生土器	台付甕	E18	包含層	口縁1/2	-	6.8	-	内：ハケメ・ナデ・ヨコナデ 外：ハケメ・ナデ・ヨコナデ	密(～4mmの砂粒含む)	-	灰白5Y7/1	外面煤付着
665	135-04	弥生土器	台付甕	E18	包含層第3層	口縁8/12	-	6.8	-	内：ナデ・工具ナデ 外：ハケメ・ナデ	やや密(～3mmの砂粒含む)	-	浅黄楳7.5YR8/4	
666	133-06	弥生土器	台付甕	E18	包含層	口縁2/12	-	9.8	-	内：ハケメ・ナデ 外：ハケメ・ナデ・ケズリ	密(～4.5mmの砂粒含む)	-	にぶい楳10YR7/3	体部内面煤付着 台部内面煤付着
667	133-05	弥生土器	台付甕	E18	包含層第3層	口縁1/12	-	6.8	-	内：ナデ・工具ナデ・ヨコナデ 外：ハケメ・ヨコナデ	密(～5mmの砂粒含む)	-	にぶい楳7.5YR7/4	
668	135-01	弥生土器	台付甕	E18	包含層第3層	口縁1/12	-	7.1	-	内：ハケメ・ナデ 外：ハケメ・ナデ	やや密(～2mmの微砂粒含む)	-	浅黄楳7.5YR8/4	
669	132-07	弥生土器	台付甕	E18	包含層第3層	口縁4/12	-	10.8	-	内：オサエ・ナデ 外：ハケメ・ナデ・ヨコナデ	密(～2mmの砂粒含む)	-	にぶい楳10YR6/4	S字状口縁 台部内面煤付着
670	135-02	弥生土器	鉢	E18	包含層第3層	底部4/12	-	5.2	-	内：ナデ・ハケメ 外：ハケメ・ナデ	やや密(～2mmの微砂粒含む)	-	内：灰黄楳10YR5/2外： にぶい黄楳10YR7/3	焼成前穿孔
671	135-06	弥生土器	高杯	E18	包含層第3層	脚柱部	-	-	-	内：磨減・シボリ・ハケメ 外：磨減・ミガキ・櫛描直線文	やや密	-	淡黄楳5YR8/4	透孔3個
672	130-03	弥生土器	高杯	E18	包含層	脚柱部	-	-	-	内：調整不明 外：ミガキ・櫛描直線文	密(4mm以下の小石粒多含む)	-	にぶい楳10YR7/3	透孔3個
673	129-01	弥生土器	高杯	E18	包含層	脚柱部	11/12	-	-	内：ナデ・シボリ 外：ミガキ・櫛描直線文	密(4mm以下の小石粒含む)	-	にぶい楳7.5YR6/4	透孔3個
674	129-06	弥生土器	高杯	E18	包含層	脚柱部	-	-	-	内：ナデ・工具ナデ 外：ミガキ・櫛描直線文	密(1mm以下の砂粒含む)	-	楳5YR6/8	透孔2個
675	130-01	弥生土器	高杯	E18	包含層	脚柱部	9/12	-	-	内：シボリ・ハケメ・ナデ 外：櫛描直線文・ミガキ	密(2.5mm以下の砂粒含む)	-	にぶい楳7.5YR6/4	透孔3個
676	136-02	弥生土器	高杯	E18	包含層第3層	脚柱部	-	-	-	内：ナデ 外：ミガキ	やや密(微砂粒含む)	-	浅黄楳7.5YR8/4	透孔3個
677	136-04	弥生土器	高杯	E18	包含層	脚柱部	-	-	-	内：シボリ・ナデ 外：ミガキ	やや密(～5mmの小石含む)	-	楳2.5YR6/8	透孔3個
678	134-02	弥生土器	高杯	E18	包含層第3層	脚柱部	-	-	-	内：シボリ・ナデ 外：櫛描直線文	密(～2.5mmの砂粒含む)	-	楳5YR6/6	透孔3個
679	134-01	弥生土器	高杯	E18	包含層第3層	脚柱部	-	-	-	内：工具ナデ・ナデ 外：ハケメ・ミガキ・櫛描直線文	密(微砂粒含む)	-	にぶい黄楳10YR7/4	透孔3個
680	136-01	弥生土器	高杯	E18	包含層第3層	脚柱部	6/12	-	-	内：ナデ・シボリ・磨減 外：ミガキ・磨減	やや密(～4mmの砂粒含む)	-	楳5YR7/6	
681	135-05	弥生土器	高杯	E18	包含層第3層	脚柱部	9/12	-	-	内：ハケメ・工具ナデ 外：ミガキ	やや密(～3mmの砂粒含む)	-	内：楳5YR7/6外：赤10R 5/6	透孔3個
682	129-05	弥生土器	高杯	E18	包含層	脚柱部	13.8	-	-	内：オサエ・ナデ 外：櫛描直線文・ミガキ	密(3mm以下の砂粒含む)	-	楳5YR6/6	透孔4個
683	135-03	弥生土器	高杯	E18	包含層第3層	脚柱部	3/12	-	15.8	内：ハケメ・ナデ 外：ハケメ・ミガキ・ナデ	やや密(～4mmの砂粒含む)	-	にぶい楳7.5YR7/4	
684	132-02	弥生土器	高杯	E18	包含層第3層	底部1/12	-	15.9	-	内：ナデ 外：ミガキ・ナデ	密(～3mmの砂粒含む)	-	楳5YR6/6	
686	139-02	弥生土器	壺	E19	包含層	口縁小片	-	-	-	内：刺突文 外：棒状浮文・凹線・ナデ	密(～3mmの小石含む)	-	内：楳7.5YR6/6外： にぶい黄楳10YR6/3	
687	139-01	弥生土器	壺	E19	包含層	口縁3/12	15.4	-	-	内：ナデ・刺突文 外：ナデ・刺突文・ハケメ	やや密(～3mmの小石含む)	-	楳7.5YR6/6	
688	137-01	弥生土器	壺	E19	包含層	口縁5/12	15.8	-	-	内：ナデ・刺突文・磨減 外：刺突文・ハケメ・磨減	やや密(～3mmの砂粒含む)	-	楳5YR7/6	
689	136-06	弥生土器	壺	E19	包含層	底部	6.4	-	-	内：工具痕・オサエ・ナデ 外：ミガキ・ハケメ・ナデ	やや密(～3mmの砂粒含む)	-	内：浅黄楳7.5YR8/4 外：楳5YR7/6灰白10YR7/1	
690	138-01	弥生土器	壺	E19	包含層	底部5/12	-	10.0	-	内：磨減 外：ハケメ・ミガキ・オサエ・未調整	やや密(～6mmの小石含む)	-	内：灰黄2.5Y7/2外：楳 5YR6/6	
691	137-04	弥生土器	小型壺	E19	包含層	-	-	3.3	-	内：オサエ・ナデ 外：調整不明	やや粗(～3mmの砂粒含む)	-	楳5YR7/6	外面黒斑
692	139-04	弥生土器	壺	E19	包含層	口縁1/12	12.0	-	-	内：ミガキ・ヨコナデ 外：ヨコナデ	密(～4mmの小石含む)	-	楳7.5YR6/6	
693	137-05	弥生土器	小型壺	E19	包含層	-	-	2.9	-	内：ナデ 外：ナデ	やや密	-	楳5YR7/6	外面煤付着
694	138-06	弥生土器	台付甕	E19	包含層	口縁4/12	-	6.0	-	内：ナデ・ハケメ 外：ナデ・調整不明	やや密(～6mmの小石含む)	-	内：黄灰2.5Y6/1外： にぶい黄楳10YR7/4	
695	139-05	弥生土器	台付甕	E19	包含層	口縁4/12	-	8.4	-	内：磨減・工具ナデ 外：ナデ・未調整	密(～5mmの小石含む)	-	にぶい黄楳10YR6/4脚部 内：黄灰2.5Y4/1	
696	137-03	弥生土器	高杯	E19	包含層	口縁3/12	20.0	-	-	内：ミガキ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ケズリ・ミガキ	密	-	楳5YR7/6	
697	139-06	弥生土器	高杯	E19	包含層	脚柱部	-	-	-	内：ミガキ・シボリ 外：ミガキ・櫛描直線文	密(～6mmの小石含む)	-	にぶい楳7.5YR7/4	
698	138-04	弥生土器	高杯	E19	包含層	脚柱部	-	-	-	内：ハケメ 外：調整不明・ミガキ・ハケメ	密	-	楳5YR6/6	透孔3個
699	139-03	弥生土器	高杯	E19	包含層	脚柱部	2/12	-	11.2	内：工具痕・磨減・ナデ 外：ミガキ・ナデ	密(～4mmの小石含む)	-	にぶい黄楳10YR7/4	透孔1個
700	137-02	弥生土器	高杯	E19	包含層	脚柱部	-	-	-	内：ナデ・シボリ 外：ミガキ・櫛描直線文	密	-	浅黄楳7.5YR8/4	透孔3個
701	139-07	弥生土器	壺	E20	包含層	底部	5.0	-	-	内：工具ナデ 外：ミガキ・ナデ	密(～4mmの小石含む)	-	灰黄2.5Y6/2	
702	138-03	陶器	山茶碗	E20	包含層	底部7/12	-	7.3	-	内：クロナデ 外：クロナデ・高台部貼り付け後ナデ	密	-	灰白2.5Y7/1	内面研磨
704	138-02	土師器	有段口縁壺	E21	包含層	口縁小片	-	-	-	内：磨減 外：磨減	密(～6mmの小石含む)	-	楳7.5YR6/6	
705	138-05	弥生土器	高杯	E21	包含層	脚柱部	-	-	-	内：磨減・オサエ 外：調整不明・櫛描直線文	密	-	楳2.5YR6/6	透孔3個
706	006-02	弥生土器	台付甕	範確Na9	黒褐色粘質土	口縁2/12	-	8.8	-	内：ナデ・ハケメ・ヨコナデ 外：ハケメ・ヨコナデ	密(3mm以下の砂粒含む)	-	赤灰2.5YR4/1～にぶい 赤楳2.5YR5/4	
707	005-07	弥生土器	壺	範確Na9	黒褐色粘質土	口縁1/12	17.3	-	-	内：ハケメ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ハケメ	密(5mm以下の小石粒含む)	-	楳5YR6/6	
708	140-02	弥生土器	壺	F3	SD501	底部6/12	-	4.5	-	内：磨減 外：磨減	密(～2mmの砂粒含む)	-	楳7.5YR7/6	
709	140-04	弥生土器	甕	F2	SD501	口縁2/12	17.6	-	-	内：ナデ 外：刺突文・ハケメ	密(～3.5mmの砂粒含む)	-	浅黄楳10YR8/3	
710	140-03	弥生土器	台付甕	F2	SD501	口縁1/12	-	7.8	-	内：ナデ 外：ナデ	密(～3mmの砂粒含む)	-	にぶい楳5YR6/4	
711	140-07	弥生土器	壺	F2	SK502	口縁1/12	12.8	-	-	内：磨減 外：磨減	密(～3.5mmの砂粒含む)	-	にぶい楳7.5YR7/4	
712	140-06	弥生土器	壺	F2	SK502	口縁2/12	-	-	-	内：ハケメ・工具ナデ・ヨコナデ 外：ハケメ	密(～2mmの砂粒含む)	-	楳7.5YR6/4	
713	141-04	土師器	壺	F2	SK502	口縁2/12	12.0	-	-	内：調整不明 外：調整不明	密(～2mmの砂粒含む)	-	内：灰白10YR7/1外： にぶい楳7.5YR7/4	
714	142-02	弥生土器	壺	F2	SK502	口縁小片	-	-	-	内：オサエ・ナデ 外：櫛描直線文・磨減	密(～3mmの砂粒多含む)	-	にぶい黄楳10YR6/3	
715	142-01	弥生土器	壺	F2	SK502	口縁小片	-	-	-	内：磨減 外：凹線・貝殻刺突文・磨減	密(～3mmの砂粒含む)	-	灰黄楳10YR6/2	
716	141-06	弥生土器	甕	F2	SK502	口縁1/12	16.8	-	-	内：磨減 外：磨減	密(～2.5mmの砂粒多含む)	-	にぶい黄楳10YR7/2	

第V-15表 中島遺跡遺物観察表13

報告番号	実測番号	種類	器種	地区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土 素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
775	152-06	陶器	捏鉢	H3	包含層	口縁 3/12	14.6	—	—	内：摩耗・ロクロナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ロクロナデ	密 (2mm以下の 砂粒含む)	良	灰褐5YR4/2~橙5YR6/6	
776	151-01	須恵器	甕	H6	包含層	口縁 1/12	21.8	—	—	内：ロクロナデ・摩耗 外：ロクロナデ・摩耗	密 (1mm以下の 砂粒含む)	良	内：灰5Y6/1外：暗灰N3 /	
777	151-02	灰軸陶器	椀	H6	包含層	底部 1/12	—	7.0	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・高台部貼り付け後ヨコ ナデ・糸切痕跡	密	良	灰白2.5Y7/1	
778	151-03	灰軸陶器	椀	H6	包含層	底部 5/12	—	7.6	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・高台部貼り付け後ヨコ ナデ・糸切痕跡	密	良	灰N8/	墨書あり
779	152-02	瓦	平瓦	H6	包含層	—	—	—	—	内：ナデ 外：布目	密 (2.5mm以下の 砂粒多含む) (赤色粒含む)	良	にぶい、橙5YR6/4	
780	151-04	土師器	ミニチュ ア土器 か	H9	包含層	—	—	—	—	内：オサエ 外：オサエ・ナデ	密 (1mm以下の 砂粒含む)	—	橙5YR6/6	把手部分
781	152-01	陶器	椀	H12	包含層	底部 4/12	—	3.9	—	内：ロクロナデ・鉄軸 外：ロクロナデ・削り出し高台・鉄軸	密 (1mm以下の 砂粒含む)	—	灰白2.5Y8/2 (軸) 褐7. 5YR4/4	
782	151-07	土製品	土鍾	H12	包含層	完存	4.15	1.1	0.4	ナデ	密	—	明赤褐2.5YR5/6	重さ4.53 g
783	151-05	土師器	甕	H11	造成土	口縁 1/12	17.7	—	—	内：調整不明 外：調整不明	密 (1mm以下の 砂粒含む) (金 雲母含む)	—	橙2.5YR7/6	
784	151-06	土師器	高杯	H16	造成土	脚柱部 5/12	—	—	—	内：調整不明・シボリ 外：調整不明	密 (3mm以下の 砂粒含む)	—	橙5YR6/6	透孔2個
785	150-02	須恵器	壺又は 瓶か	H16	造成土	底部 4/12	—	9.0	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・ロクロケズリ・削り出 し高台	密 (~3mmの砂 粒含む)	良	褐灰10YR6/1	
786	150-01	陶器	鉢	H16	造成土	口縁 小片	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	密 (~1mmの砂 粒含む)	良	浅黄橙10YR8/4 (軸) 灰 褐5YR4/2	使用痕跡
787	150-03	土師器	長胴甕	H17	造成土	口縁 1/12	23.0	—	—	内：磨滅 外：磨滅・ハケメ	密 (~4.5mmの 砂粒含む)	—	にぶい、橙7.5YR7/4	
788	150-04	陶器	山茶椀	H18	造成土	口縁 10/12	—	5.4	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・高台部貼り付け後ヨコ ナデ・糸切痕跡・粉殻痕跡	密 (~1.5mmの 砂粒含む)	良	灰白2.5Y8/1	自然釉
789	150-06	灰軸陶器	椀	H28	造成土	底部 3/12	—	7.6	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・高台部貼り付け後ヨコ ナデ	密 (~1mmの砂 粒含む)	良	灰白5Y7/1	内面研磨
790	150-05	白磁	椀	H18	造成土	口縁 小片	—	—	—	内：ロクロナデ・施釉 外：ロクロナデ・施釉	密 (微砂粒含む)	良	灰白5Y7/1	
791	006-01	土師器	高杯	範確 No.32	Pit	脚柱部 12/12	—	—	—	内：ナデ 外：ミガキ・ハケメ	やや密 (4mm以 下の小石粒含む)	—	橙5YR6/6	透孔2個
792	150-07	陶器	山茶椀		表採	底部 3/12	—	8.6	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・高台部貼り付け後ヨコ ナデ・糸切痕跡・粉殻痕跡	密 (~1mmの砂 粒含む)	良	灰黄2.5Y7/2	

第V-17表 中島遺跡遺物観察表15

報告番号	実測番号	器種	地区	遺構・層位	法量 (cm)			重量 (g)	特記事項
					長	幅	厚さ		
44	014-02	軽石	B 3	Pit 1	6.7	6.2	5.3	43	使用痕跡
45	014-03	軽石	B 3	Pit 3	6.3	4.1	2.0~2.8	14	使用痕跡
72	020-05	蔽石	B 2	包含層	8.6	6.1	4.7	348	使用痕跡
230	047-02	軽石	C 3	S Z 205	8.0	6.1	5.9	66	
267	053-02	軽石	C 2	包含層	6.3	5.1	4.1	23.03	使用痕跡
331	058-03	軽石	D 10	S K 323	6.4	5.7	3.4	19	使用痕跡
338	058-04	砥石	D 16	S H 330	3.7	3.7以上	1.1	24	使用痕跡
593	120-06	スクレーパー	E 18	下層	2.4	2.4	0.7	4.54	
685	134-05	軽石	E 18	S D 410	5.0	5.2	3.1	17	
703	128-03	石皿	E 20	包含層	16.1	11.1	4.7	1248	

第V-18表 中島遺跡遺石製品観察表

報告番号	実測番号	器種	地区	遺構層位	計測値 (cm)			樹種	木取り	特記事項 (加工痕、継手等) 保存処理
					長/径	幅/高	厚			
228	W001-01	木槌	C 7	S Z 205	30.4	6.4	5.2	カヤ	板目	
229	W001-02	不明加工品	C 7	S Z 205	4.4	2.1	2.2	ヒノキ	柾目	凹み有り

第V-19表 中島遺跡遺木製品観察表

第VI章 双ツ塚遺跡（第3次）

第1節 調査の概要

双ツ塚遺跡は、中島遺跡と金沢川遺跡の間に位置する。遺跡のほぼ中央南半部を縦断する幅3m×延長80mがa区、遺跡東部北半部を縦断する幅1.8m×延長26.7mがb区となる。a区北端から約78m北にいくと中島遺跡G区南端となる。b区北端は、中島遺跡H区西端から約150mで接する。昭和52・53年度に実施した双ツ塚（第1・2次）調査区は、a区の北西側に位置しており^①、昭和50年代の調査区東端と今回のa区西端は約30m離れている。今回の調査に伴う範囲確認調査では、第1・2次調査区の東側は、本発掘調査の対象とはならなかった。おそ

らく、微高地であるがために後世の開発行為で削平された可能性が高いとみられる。

基本層序は、a区北半が造成土直下、標高約4.8mで地山となる。a区中央付近から南は地山が徐々に下がり、南端の地山は約3.8mである。南へいくに従い、造成土の下に褐灰色粘土、黒褐色粘土が厚く堆積する。b区は南端で表土下ににぶい黄褐色土、黄褐色極細砂となるが、概ね表土直下、標高約4mで地山となる。a・b区ともに地山上面で検出を行っている。（原田）

第2節 遺 構

SD1 a6で検出した幅0.65m、深さ32cmの溝である。向きは、N42°Wである。遺物は土師器小片が出土したのみである。

SD2 a7で検出した幅0.91m、深さ11cmの溝である。向きは、N90°である。遺物は土師器、須恵器小片が出土した。

SD3 a7で検出し、SD2から約2m北に位置する。幅は東で1.12mあるが、西側は0.4mと狭くなる。深さは8cmと浅い。土師器甕、須恵器杯蓋等が出土した。

SK4 a9で検出した南北1.3m×東西1.28mの土坑である。遺構肩からの深さは1.31mで平面規模に比べて深い。底は地山となる粘土層で留まっており、湧水は認められなかった。SK5より古い。遺構内からほぼ完形の土器が大量に出土した。当初、土坑を四分割にして南西から反時計回りに①～④を振り、小片は取り上げた。完形に近い物は番号を振り、取り上げた。しかし、遺物量が多く、標高約3.8m以下は下層として付番せずに取り上げを行っている。上層は埋土の記録を取っているが、下層は土

器が多く、埋土の堆積状況の記録は取れなかった。

SK5 a9で検出した南北0.74m×東西0.56m、楕円形の土坑である。SK4より新しい。土師器、須恵器、布目の平瓦片が出土した。

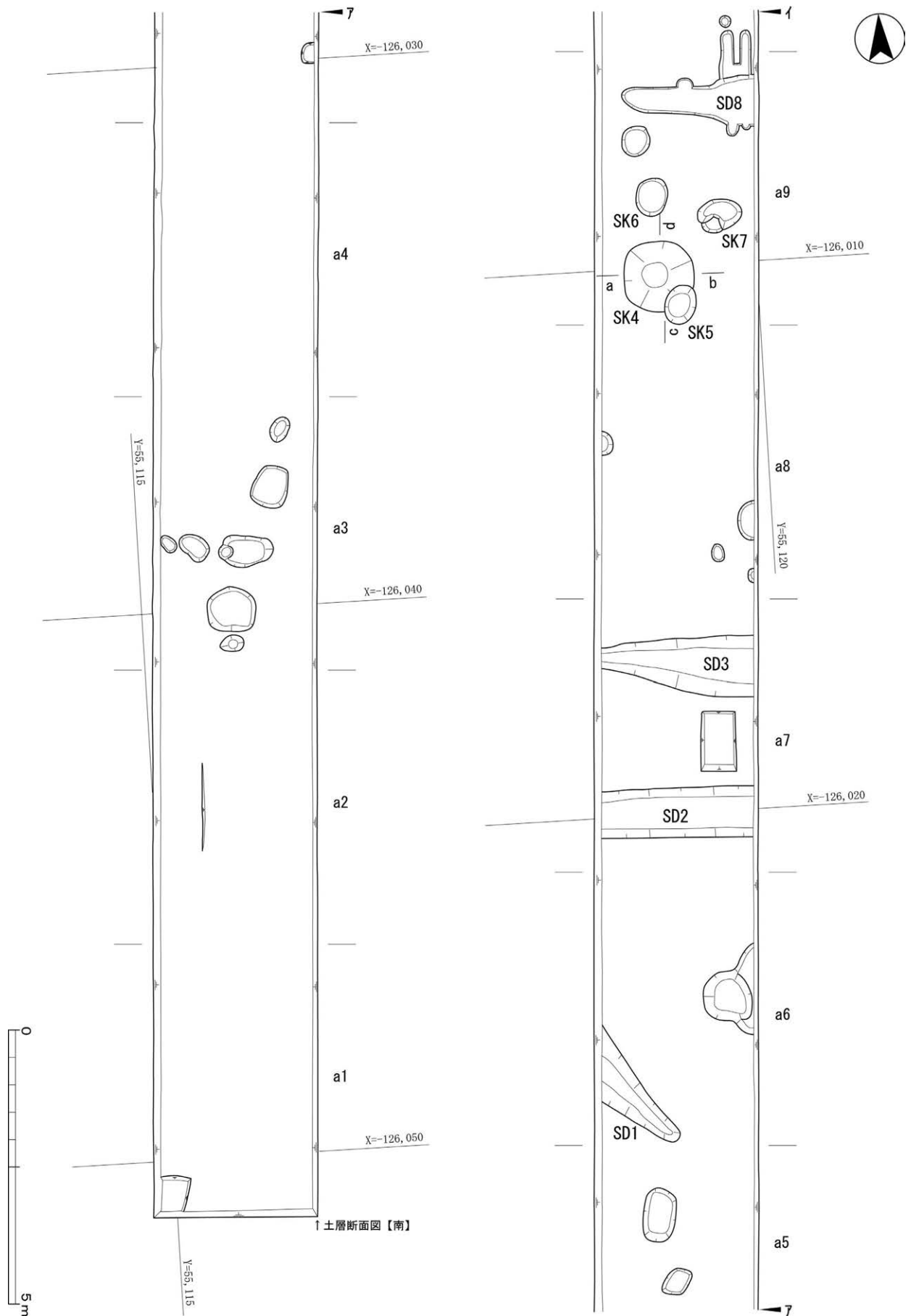
SK6 a9で検出した南北0.58m×東西0.57m、不整形の土坑である。土師器片が出土した。

SK7 a9で検出した南北0.55m×東西0.8mの不整形をした土坑である。遺物は、土師器小片が出土したのみである。

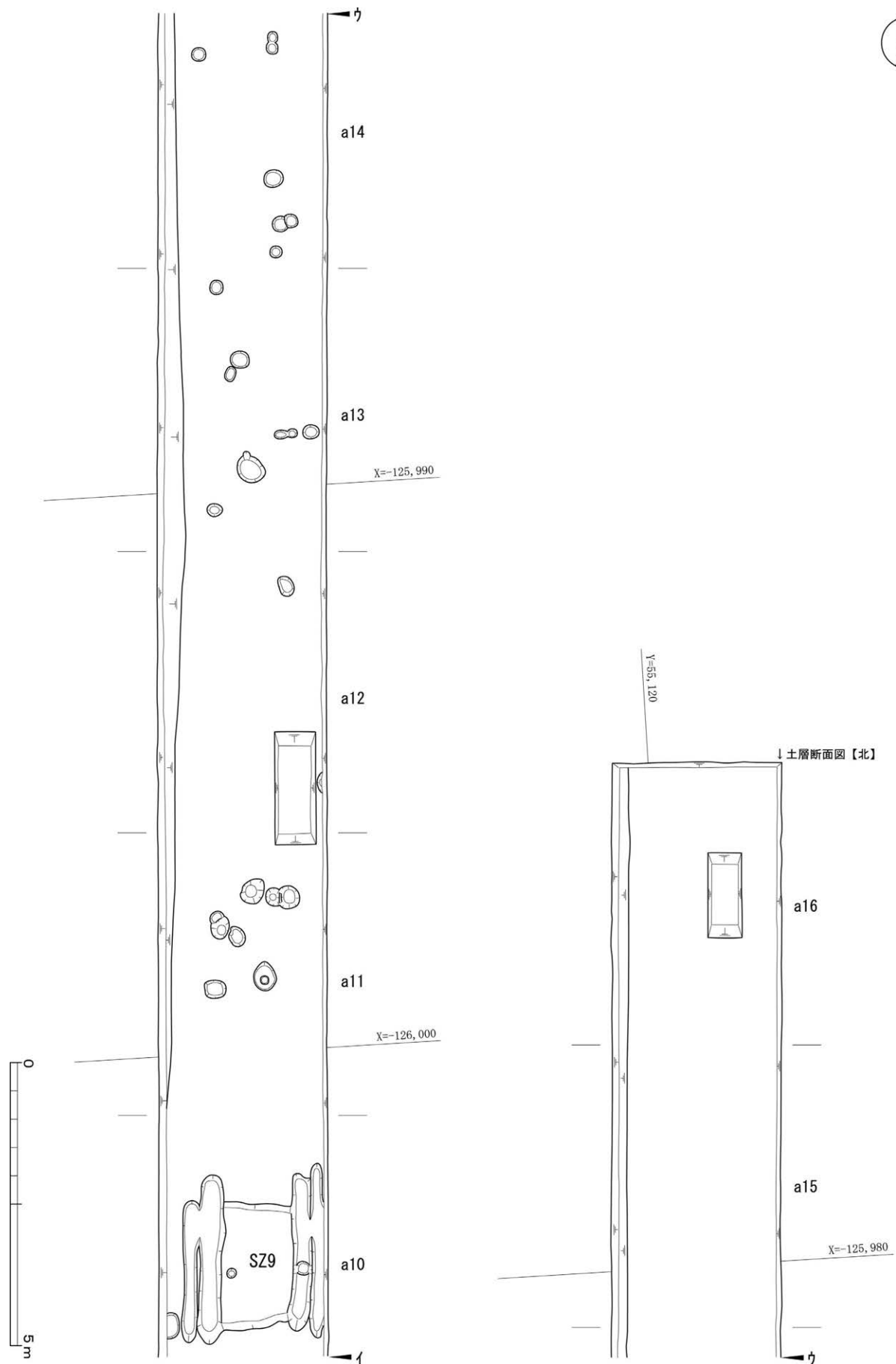
SD8 a9で検出した幅0.58m、深さ4cmの浅い溝である。向きは、ほぼN90°である。遺物は須恵器片が出土した。

SZ9 a10で検出した。SZ9の底は、両端に接している溝状の遺構と同様の方向で凹凸がみられた。両端に接している溝も含め、耕作溝となる可能性が高い。土師器、灰釉陶器、山茶椀片が出土した。

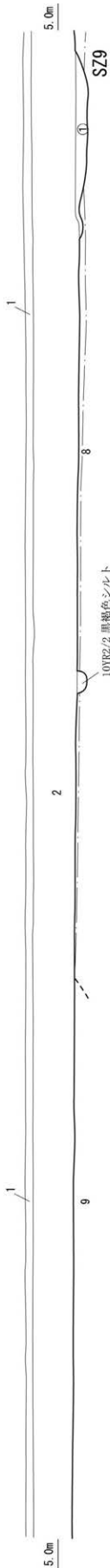
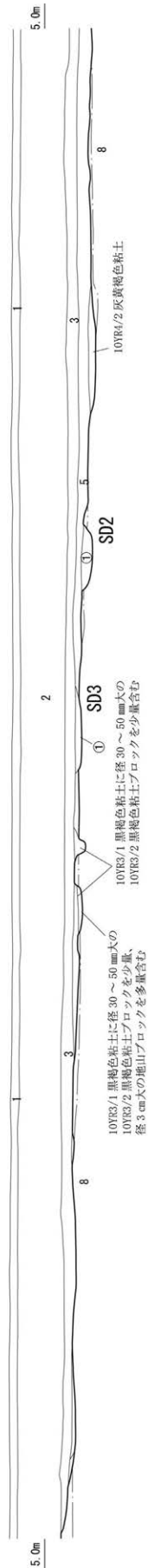
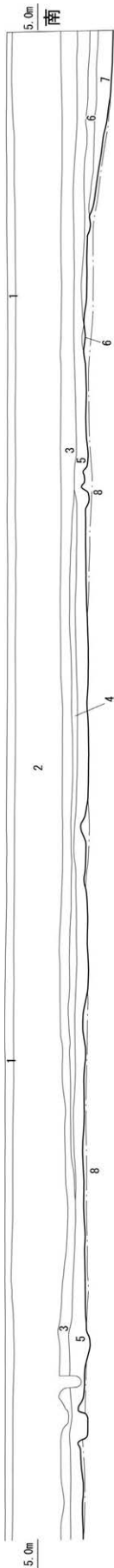
b区は、b1で幅約2m、深さ25cmの溝を1条、検出した。向きは、ほぼN90°である。遺物は出土せず、時期は不明である。（原田）



第VI-1図 双ツ塚遺跡（第3次）a区平面図1（1:100）



第VI-2図 双ツ塚遺跡（第3次）a区平面図2（1:100）



- 1 アスファルト
- 2 泥成土
- 3 10YR4/1 褐色粘土、径5mm以下の礫多く含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色粘土、向色粗砂少量含む
- 5 10YR3/2 黒褐色粘土、マンガンを豊富、灰少々含む
- 6 10YR2/2 黒褐色粘土
- 7 10YR2/2 黒褐色粘土に7がマーブル状に混じる
- 8 2.5Y6/2 灰黄色粘土(堆山)
- 9 10YR7/4 におい、黄褐色中砂〜粗砂(堆山)
- SD2**
 - ① 10YR4/1 褐色粘土(粘性强い)
- SD3**
 - ① 10YR3/1 黒褐色粘土に10YR4/3 におい黄褐色粘土・灰少々含む
- SD8**
 - ① 10YR4/2 灰黄褐色粘土、5mm以下の礫を含む
 - ② 7.5YR3/2 黒褐色粘土
- SZ9**
 - ① 7.5YR3/3 暗褐色シルト、5mm以下の礫を含む



第VI-3図 双ツ塚遺跡(第3次) a 区土層断面図(1:100)

第3節 遺物

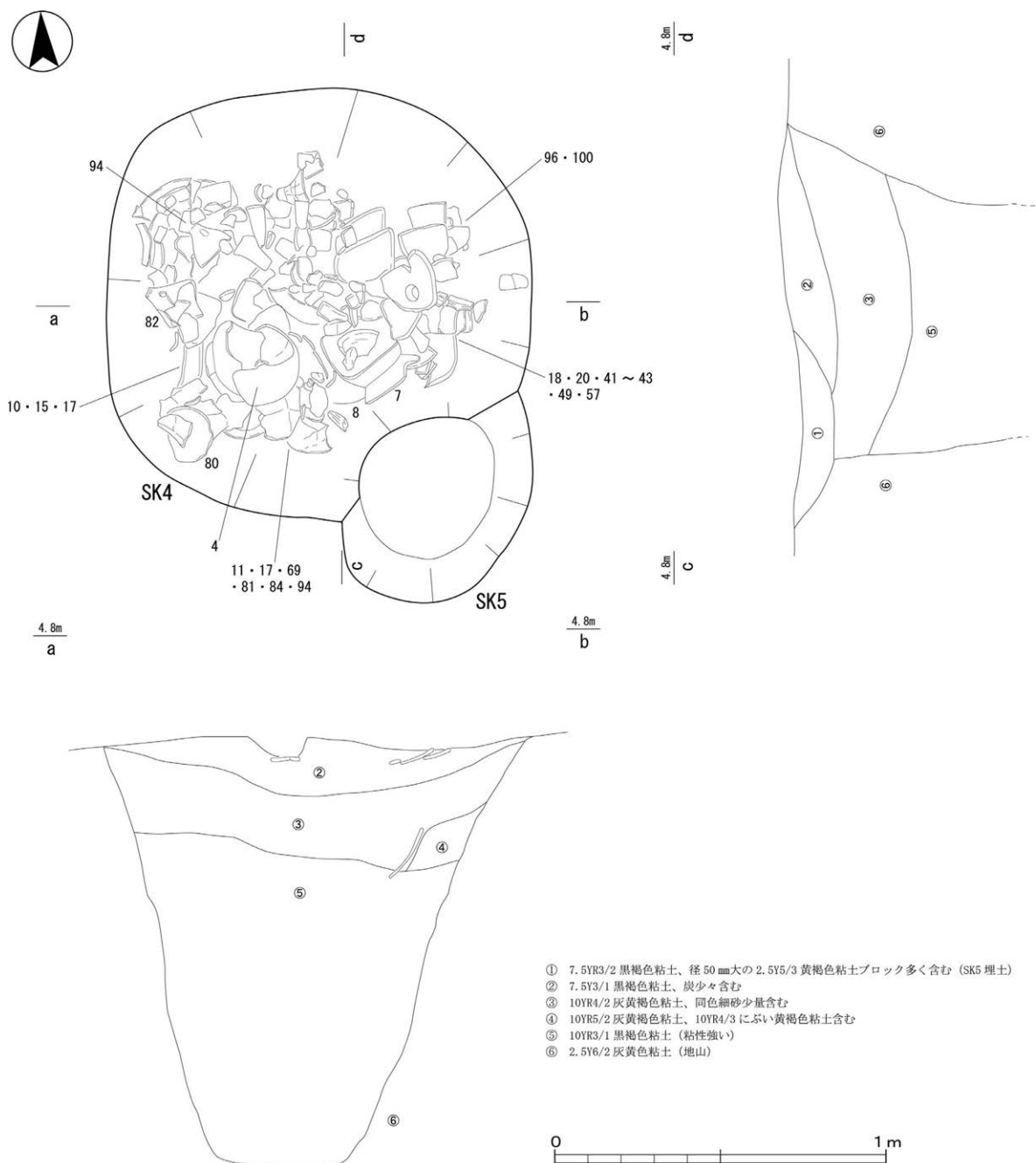
報告書掲載遺物は全て a 区の出土遺物であり、b 区の出土遺物は確認できなかった。ここでは概要を記し、詳細は遺構観察表を参照されたい⁽²⁾。

SD3 出土遺物 (1・2)

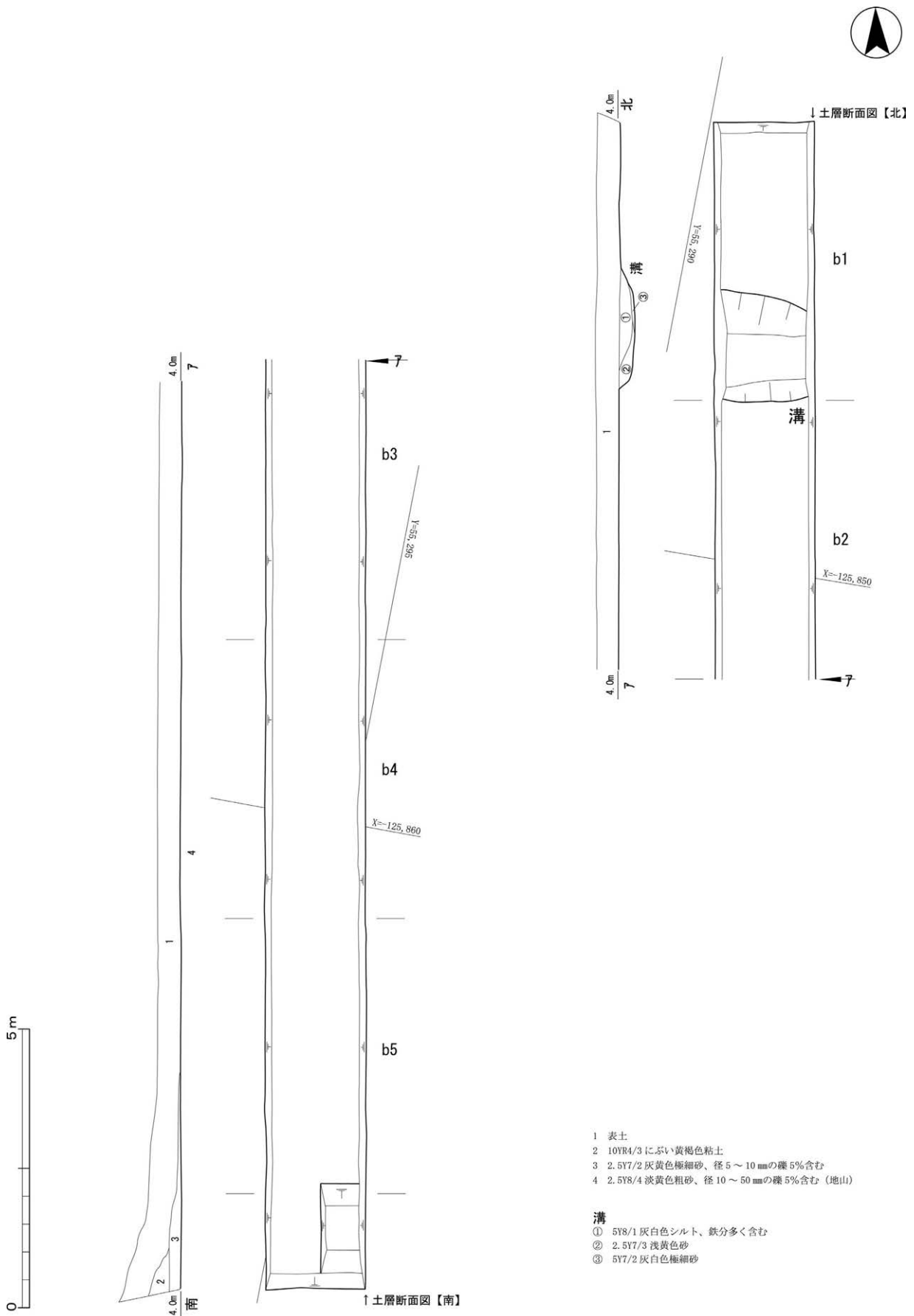
1は須恵器杯蓋で、TK209型式併行とみられる。2は土師器甕である。器面は摩耗しており、調整等不明である。

SK4 出土遺物 (3~103)

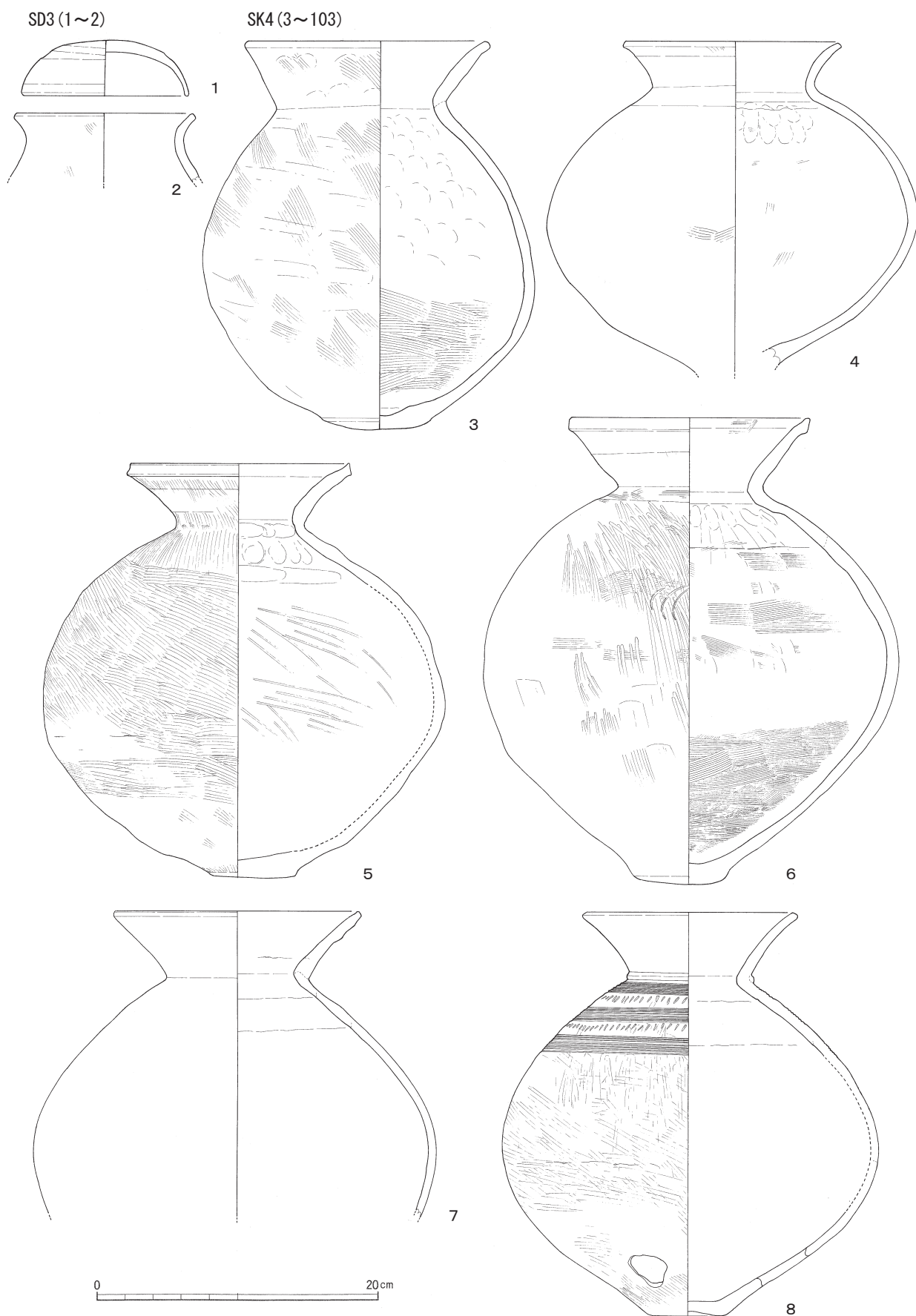
破片で出土したのもも一定量含むが、古式土師器で完形のものも多く出土した。器種も壺・甕・高杯・鉢・器台等多彩である。以下、器種ごとに記載する。壺 (3~35) について以下に述べる。3~26が大形の壺である。口縁端部を丸く収め、口頸部が直線的に逆ハの字状に開くもの (7・8・19)、外反する



第VI-4図 双ツ塚遺跡 (第3次) a区SK5平面図・断面図(1:20)



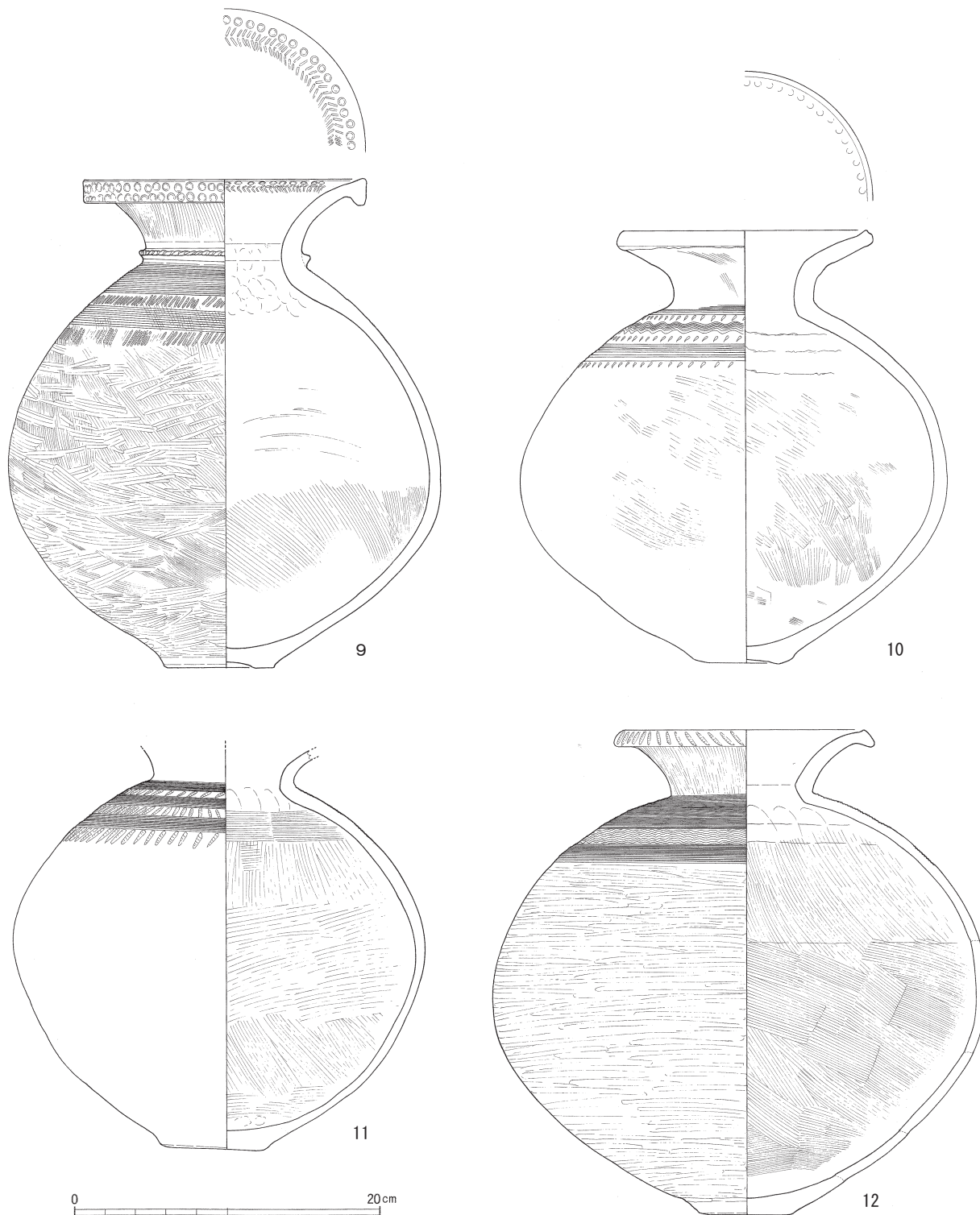
第VI-5図 双ツ塚遺跡(第3次) b区平面図・土層断面図(1:100)



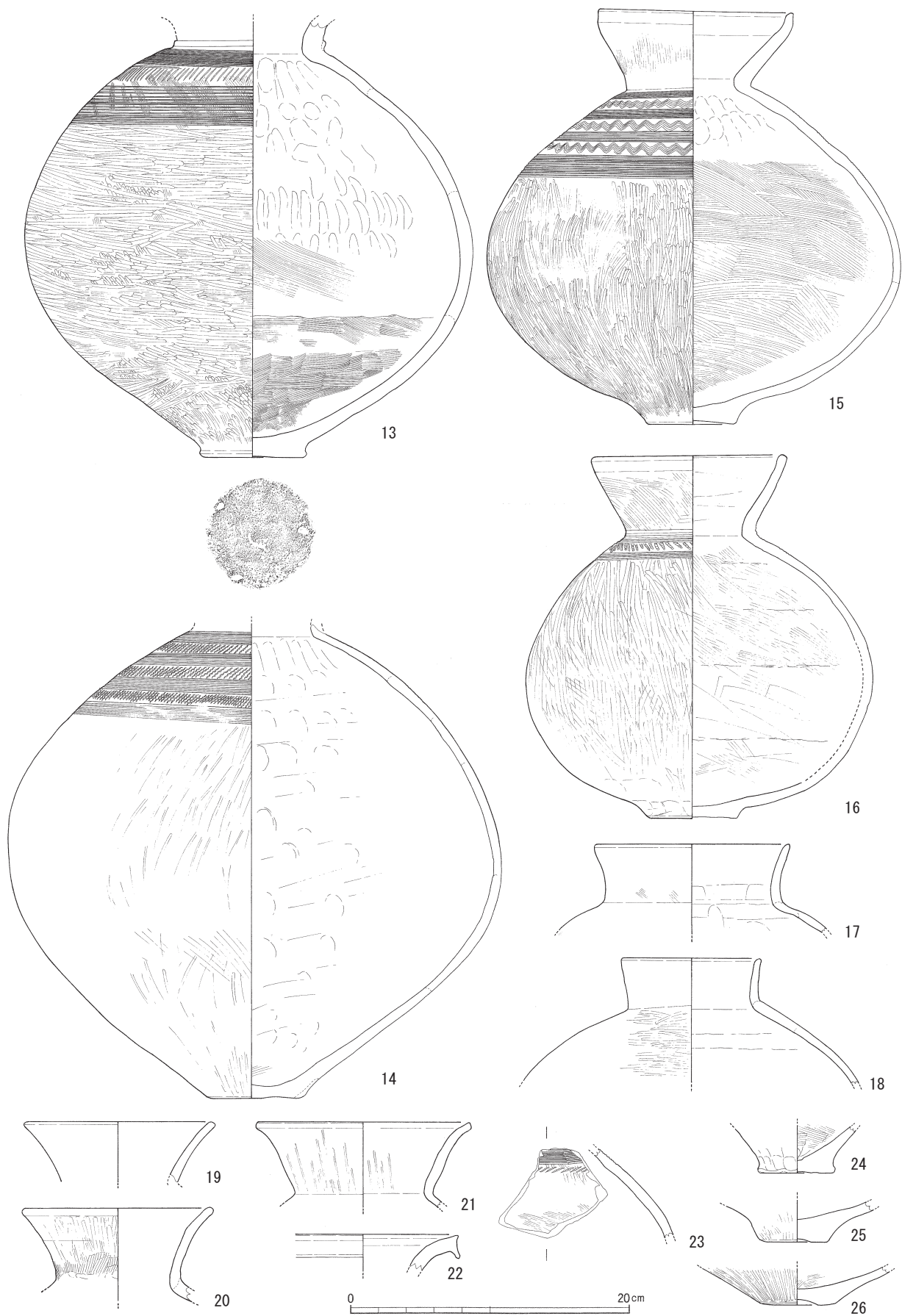
第VI-6図 双ツ塚遺跡（第3次）a区遺物実測図1（1:4）

もの（4・20・21）、内弯するもの（15・16）、短く上方に向くもの（17・18）がある。また、口縁端部が肥厚し、中には上方又は下方に広がり面をもつもの（5・6・9～10・12・22）がある。体部は最大径がほぼ中央にあり、体部高と最大径がほぼ同じになるものが多い。中には体部がやや球胴化・下ぶく

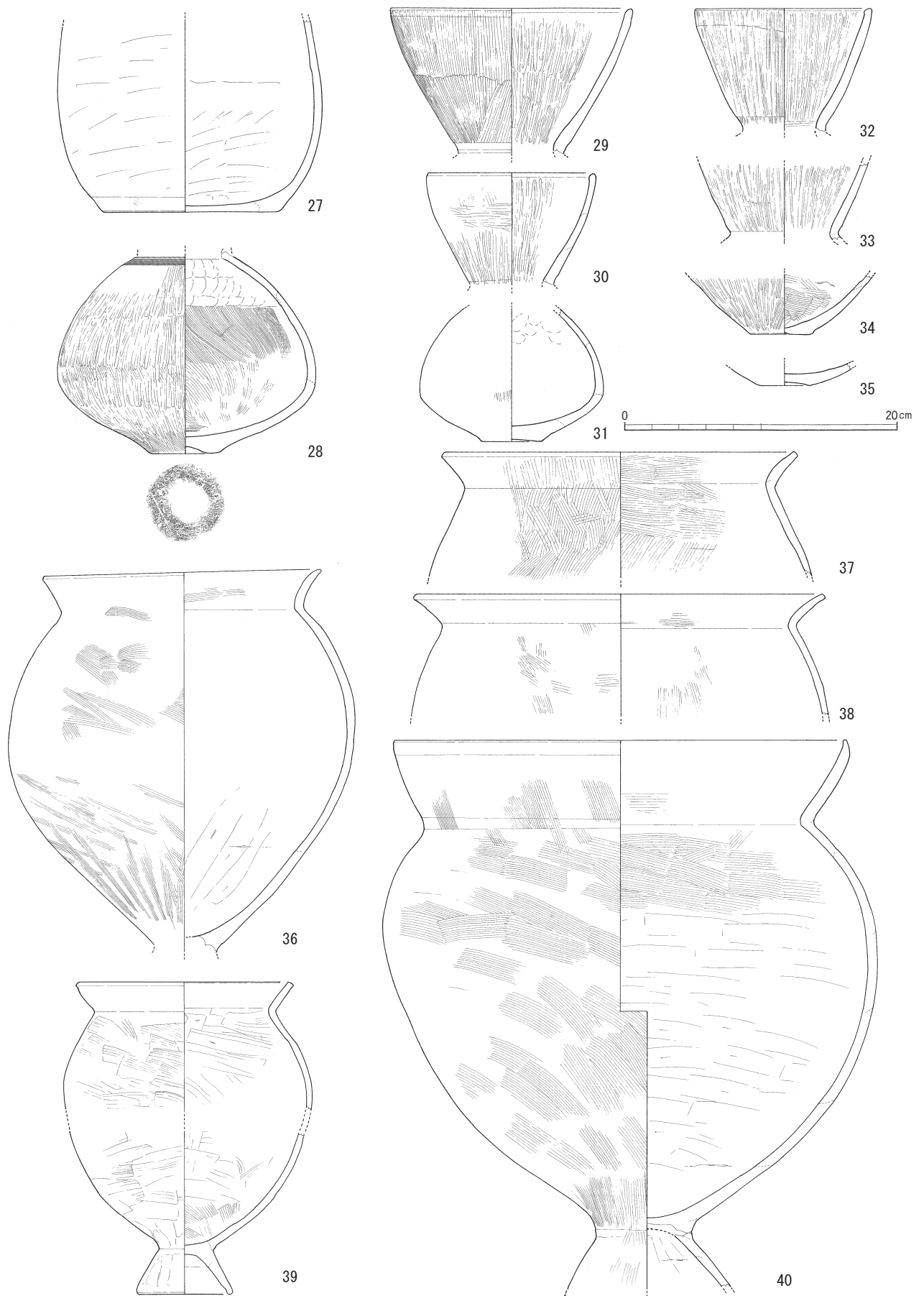
れ傾向を示すものもある（9・16）。外面調整はミガキを基調とするが、一部ハケメを基調とするものもある（3・5・16）。施文は、頸部～体部上半に櫛描直線文と刺突文（8～11・13・14・16・23）、櫛描直線文と波状文（12・15）を施すものがある。口縁端部が肥厚し、中には上方又は下方に広がり面



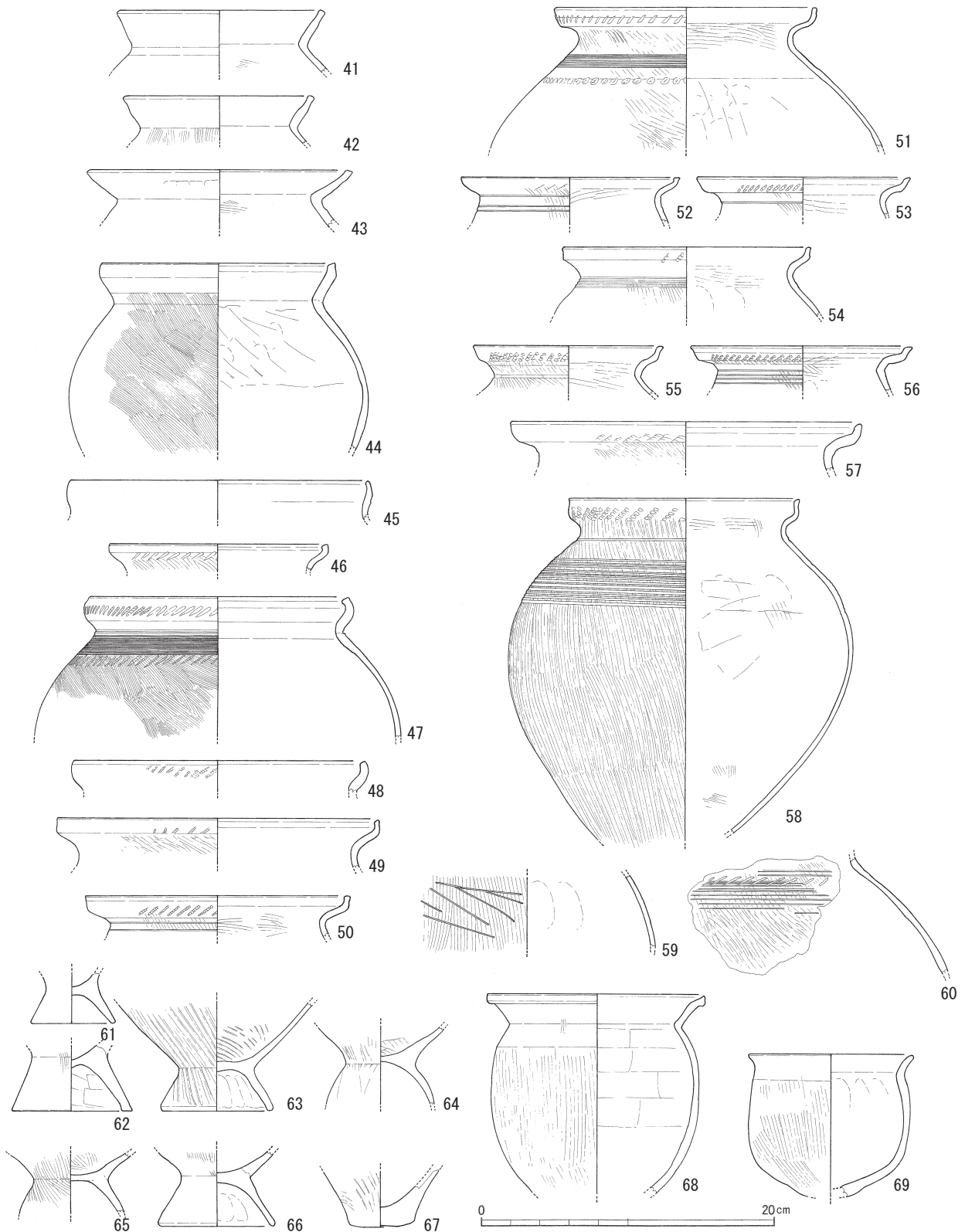
第VI-7図 双ツ塚遺跡（第3次）a区遺物実測図2（1:4）



第VI-8图 双ツ塚遺跡（第3次）a区遺物実測図3（1:4）



第VI-9図 双ツ塚遺跡（第3次）a区遺物実測図4（1:4）

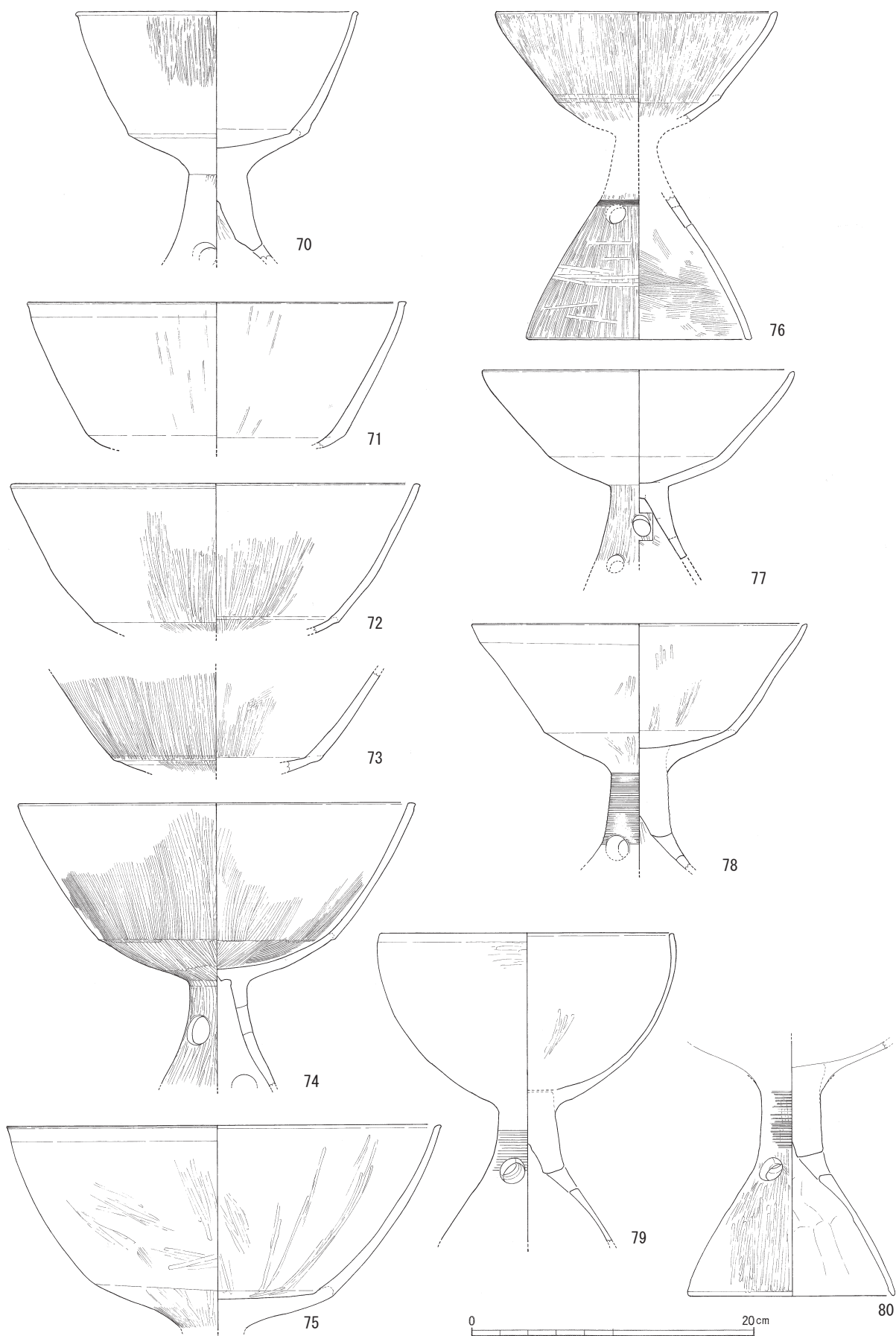


第VI-10図 双ツ塚遺跡（第3次）a区遺物実測図5（1:4）

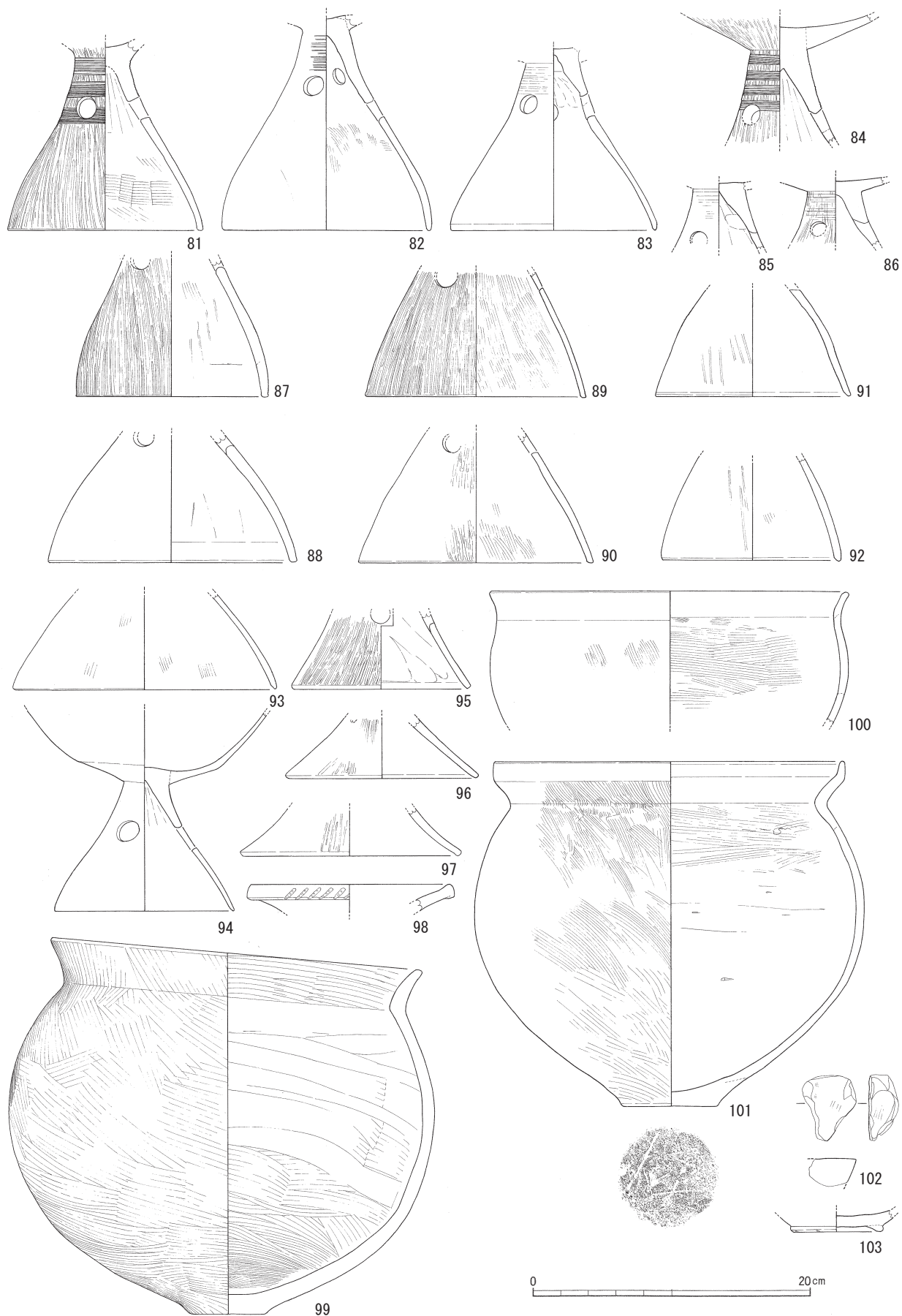
をもつものは、口縁部外面や内面上部に刺突文を施すものが多い（9・10・12）。また、体部内面の半分程度又は全体的に黒化しているものがある（8・10～13）。

6は体部中央付近に弧状の線が3条みられ、ヘラ

描きの可能性がある。8は体部下半にススが付着し、1箇所焼成後穿孔がみられる。9は外面にススが付着している。14は表面が風化しているため不明瞭だが、施文された範囲より下を赤彩していたようであ



第VI-11図 双ツ塚遺跡（第3次）a区遺物実測図6（1:4）



第VI-12図 双ツ塚遺跡（第3次）a区遺物実測図7（1:4）

る。内面には成分が不明であるが、黒色の付着物が認められた。

27は平底で体部が張らないもので、異質である。器表面は摩耗し、調整不明である。

28～35は、長頸壺の部類に入るものである。口縁端部が大きく内弯し、体部は最大径が中央部より下半にくる。28は長頸壺でも規格が大きく、重量感がある。

甕 (36～69) について以下に述べる。ほとんどが台付甕になるとみられ、明らかに台がつかないものは67～69である。口縁部がくの字で外反するもの(36)、直線状に延びるもの(37～39・41)、内弯するもの(40・42～45)、受口状口縁となるもの(46～48)、S字甕(49～60・63・65)がある。肩部にヨコハケをし、1方向のハケメで、口縁部外面に刺突を施すものが多い(49・50～56・58・60)。また、肩部のヨコハケ部分に刺突文を施すものも一定量ある(51・58)。39は焼成が良好で、胎土に白色砂粒が入り、特徴的である。40は大形のものである。59

はS字甕の肩部であるが、ヨコハケはなく、ヘラ状工具で沈線を入れている。

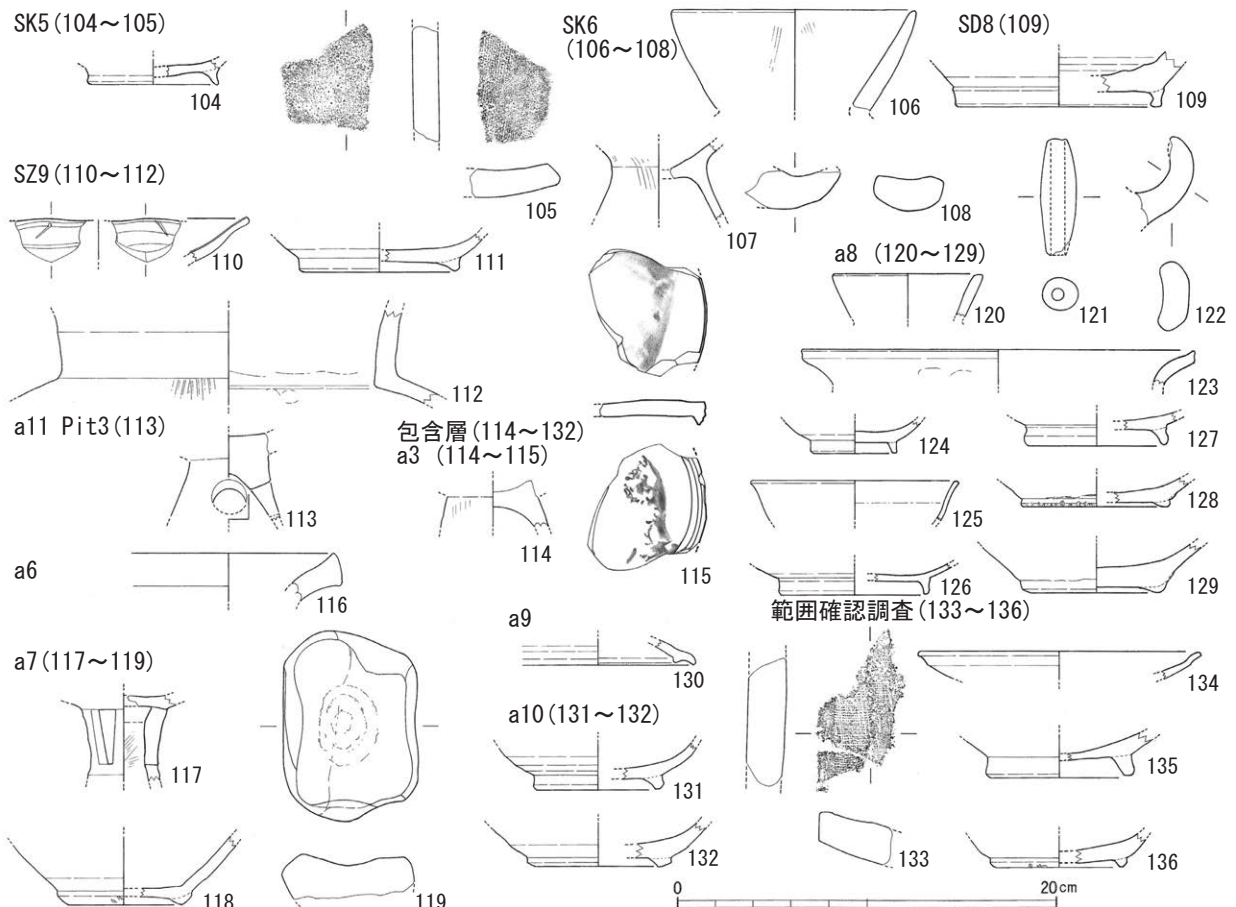
高杯(70～97)について以下に述べる。70～78は有稜高杯で79は椀形高杯である。有稜高杯の端部は内弯傾向を示し、杯部高がやや深くなる。脚部は長脚の傾向を示し、3方透し孔の上に1箇所透し孔をもつものがある(74・77・82)。95は非常に大形のものである。

器台(98)は、小片であるため、小形壺口縁部の可能性がある。口縁端部に面をもち、刺突文を施す。

鉢(99～101)について以下に述べる。口縁部が緩く外反するもの(99・100)と、受口状になるもの(101)がある。101は底部に木葉痕がつくが不明瞭である。

出土遺物の傾向から、概ね廻間I式期並行を中心とした遺物群と捉えられる。

他の遺物について述べる。102は軽石で部分的に擦痕が認められる。103は山茶椀で、第6型式併行とみられる。上部からの出土で、混入とみられる。



第VI-13図 双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測図8(1:4)

SK5 出土遺物 (104・105)

104は、土師器碗で底部のみ残存している。105は平瓦片で内面に布目圧痕がつく。

SK6 出土遺物 (106～108)

106は土師器壺口縁部、107は土師器甕台部、108は土師器鍋ないしは甌の把手部分である。

SD8 出土遺物 (109)

109は須恵器壺の高台部とみられる。

SZ9 出土遺物 (110～112)

110は灰釉陶器皿で輪花がつく。111は山茶碗で第4型式に比定される。112は灰釉陶器壺頸部である。

a11Pit3 出土遺物 (113)

古式土師器高杯である。短脚のもので、透し孔が1箇所残る。

a区包含層・範囲確認調査出土遺物 (114～136)

包含層出土遺物は114～132である。114は須恵器杯身である。見込み部分は摩耗し見込み部分と底部外面に墨が付着している。側面を打ち欠いて、転用

硯として使用したとみられる。116は弥生終末～古墳初頭の壺口縁部である。117は須恵器高杯で、長方形の透し孔が2段になるとみられる。時期はTK43～TK209型式併行か。118は山茶碗で第6型式に比定される。119は一面の中央が窪んでいる凹石である。120は粗製の土師器小型壺口縁部で、121は土錘で122は土師器鍋ないしは甌、移動式竈の把手である。小ぶりでやや華奢である123は古代の土師器甕口縁部である。124は緑釉陶器碗である。器表面は摩耗しており、見込み部分で僅かに緑釉が認められる。125は灰釉陶器小碗、126・127は灰釉陶器碗である。126はK-90号窯併行期か。128・129は山茶碗である。130は須恵器杯蓋でTK217型式併行である。131は灰釉陶器・132は山茶碗である。

範囲確認出土遺物は、133～136である。133は平瓦で、凹面に布目圧痕がつく。134は灰釉陶器皿である。K-14号窯併行期であろうか。135・136は山茶碗である。(原田)

第4節 小 結

今回の調査では、弥生終末～古墳初頭の土坑1基(SK4)、古墳後期の溝1条、奈良時代とみられる溝1条、土坑1基、古代の溝1条、土坑2基、平安～中世の耕作溝とみられる遺構を確認した。また、包含層からの出土遺物は灰釉陶器や山茶碗が微増しており、中島遺跡G・H区とも類似した傾向となる。昭和52・53年度調査で弥生終末～古墳初頭の堅穴建物、古墳前期・後期の溝や土坑、平安の掘建柱建物、鎌倉の土坑等が確認されており⁽³⁾、今回の調査の遺構・遺物のあり方と概ね合致している。

なかでもSK4は平面規模が狭いにもかかわらず

多量の遺物が出土した。一括性の高い廃棄土坑といえよう。SK4から南へ向かって徐々に標高が低くなり、南に位置する金沢川遺跡では、当該期の遺構は希薄となる。昭和50年代に調査した箇所が居住域の中心となり、SK4近辺はその周辺域にあたりとみられる。SK4は壺・甕・高杯など主要器種が揃っていること、通常より大形の土器の出土(14・40・95など)がみられること、ススの付着した壺の出土など、廃棄に至るまでの使用状況を注視する必要がある。(原田)

註

- (1) 三重県教育委員会1978『三重県埋蔵文化財年報8 昭和52年度』／三重県教育委員会1979『三重県埋蔵文化財年報9 昭和53年度』
- (2) 土器等の分類・編年については以下の文献による。
弥生土器：上村安生2002「伊勢・伊賀地域」『弥生土器の様式と編年』東海編、木耳社
古式土師器：愛知県埋蔵文化財センター1990『廻間遺跡』
古代の土師器：斎宮歴史博物館2001『斎宮跡発掘調査報告I』
須恵器：田辺昭三1966『陶邑古窯址群I』平安学園考古クラブ
灰釉陶器：植崎彰一1983「猿投窯の編年について」

『愛知県古窯跡群分布調査報告』Ⅲ、愛知県教育委員会山茶碗：藤沢良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター
古瀬戸・瀬戸美濃大窯：藤沢良祐2002「瀬戸美濃大釜編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯／藤沢良祐2005「施釉陶器生産技術の伝播」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)／藤沢良祐2008「古瀬戸前期・中期・後期様式の編年」『中世瀬戸窯の研究』高志書院
常滑：中野晴久2005「渥美・常滑」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)

- (3) 前掲註(1)

調査 回数	調査区	遺構 番号	地区	性格	時代	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	出土遺物	備考 (前後関係、特徴等)
3	a	SD1	a6	溝	不明	—	0.65	0.32	土師器	
3	a	SD2	a7	溝	奈良か	—	0.91	0.11	土師器、須恵器	東西方向
3	a	SD3	a7	溝	古墳後期	—	0.40~ 1.12	0.08	土師器、須恵器	
3	a	SK4	a9	土坑	弥生終末~古墳初頭	1.30	1.28	1.31	弥生土器、土師器	SK4→SK5
3	a	SK5	a9	土坑	古代	0.74	0.56	0.32	土師器、瓦、須恵器	SK4→SK5
3	a	SK6	a9	土坑	古代	0.58	0.57	0.29	土師器	
3	a	SK7	a9	土坑	奈良か	0.80	0.55	0.25	土師器	
3	a	SD8	a9	溝	古代	—	0.58	0.04	須恵器	
3	a	SZ9	a10	—	平安~中世	3.00	0.45	0.06	土師器、灰釉陶器、山茶椀	耕作溝か

第VI-1表 双ツ塚遺跡(第3次)遺構一覧表

報告 番号	実測 番号	種類	器種	地区	遺構 層位	部位 残存度	計測値 (cm)			技法・文様の特徴 施軸	胎土 素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
1	041-05	須恵器	杯蓋	a7	SD3	口縁 2/12	11.8	-	3.9	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・ヘラ切り?	密	良	灰白N7/0	
2	041-04	土師器	甕	a7	SD3	口縁 1/12	12.6	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・磨滅	やや密	-	内:褐灰10YR4/1 外:橙2.5YR7/6	
3	002-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 最下層	口縁 6/12	16.8	7.8	27.8	内:ハケメ・オサエ・ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・ナデ	密(微砂粒含む)	-	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい橙7.5YR6/4	
4	047-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4	口縁 11/12	14.7 ~15.2	-	-	内:磨耗・オサエ?・ヨコナデ? 外:ヨコナデ?・ハケメ後ナデ・ハケメ・ 磨耗	密	-	浅黄橙7.5YR8/4	No.5
5	011-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	口縁 11/12	16.0	6.0	29.5	内:ナデ・板ナデ・オサエ・ 外:ナデ・ハケメ・磨耗	密(〜1.0mmの 白色及び黒色の 鉱物を10%含む)	-	内:灰白10YR8/1 外:浅黄橙10YR8/3	黒斑
6	021-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	口縁 完存	16.9	6.6	33.3	内:工具ナデ?・ハケメ・オサエ後ハケ メ・ハケメ後ミガキ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ハケメ・ ケズリ?・ナデ?・初段痕跡	密(〜4.0mmの 砂粒含む)	-	浅黄橙10YR8/3	体部9/12残, 底部完存
7	001-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4	口縁 3/12	17.3	-	-	内:磨滅 外:磨滅	密(〜3.0mmの 砂粒含む)	-	橙2.5YR6/8	No.4
8	014-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4	口縁 1/12	14.7	5.0	28.8	内:工具ナデ・オサエ・ナデ 外:突帯貼り付け後ナデ・櫛描直線文・ 刺突文・ハケメ	密(〜5.0mmの 砂粒含む)	-	にぶい橙5YR6/4 にぶい赤褐5YR5/4	体部12/12,底 部12/12残,No. 12,施成後穿 孔,体部下 半スス付着, 体部内面黒化
9	010-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	ほぼ完 形	18.2	7.0	32.0	内:オサエ・ナデ・ハケメ・刺突文・竹 管文 外:竹管文・ヨコナデ・ハケメ・刺突文・ 櫛描直線文・ハケメ・ミガキ・ナデ	密(〜4.0mmの 砂粒含む)	-	橙5YR6/6	外面スス付着
10	004-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4	口縁 12/12	15.9	-	-	内:ハケメ・ナデ・ヨコナデ・竹管文 外:櫛描直線文・刺突文・波状文・ハ ケメ	密(〜7.0mmの 砂粒含む)	-	浅黄橙10YR8/3	No.8・10・11 体部内面半分 程度黒化
11	009-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 最下層	底部 完存	-	5.8	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ・ナデ 外:ナデ・櫛描直線文・刺突文・磨滅・ ナデ	やや粗(〜3.0 mmの砂粒含む)	-	にぶい橙5YR7/4 にぶい橙7.5YR7/4	No.10・16 体部内面黒化
12	007-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	口縁 6/12	15.6	5.2	31.8	内:ナデ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・櫛描直線文・波 状文・ミガキ・ナデ	やや粗(〜4.0 mmの砂粒含む)	-	内:暗赤3/0 外:浅黄橙10YR8/3 にぶい黄橙10YR7/3	底部完存,体 部内面黒化
13	038-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	底部 完存	-	7.2	-	内:ハケメ・オサエ・ナデ 外:ナデ・突帯貼り付け後ヨコナデ・櫛 描直線文・ハケメ後ミガキ	密(〜6.0mmの 小石含む)	-	内:褐灰10YR6/1 外:浅黄橙10YR8/3	No.11,体部 内面黒化,底 部外面圧痕あり
14	040-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4	底部 12/12	-	7.0	-	内:オサエ・ナデ・風化 外:櫛描直線文・貝殻刺突文・ハケメ後 ミガキ・ナデ	密(〜4.0mmの 小石・砂粒多 含む)	-	浅黄橙10YR8/3・8/4	内面黒色の 付着物あり(漆 か)・黒斑・ 赤彩
15	046-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4	口縁 11/12 底部 12/12	13.7 ~13.8	6.0	29.5 ~29.7	内:ハケメ・オサエ・ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ後ナデ・櫛描直線 文・波状文・ハケメ後ミガキ・ナデ・ケ ズリ後ナデ	密	-	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい橙7.5YR7/4	No.9 黒斑2箇所
16	013-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	口縁 10/12 他完存	13.8	6.2	26.2	内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・櫛描直線文・刺突文・ハ ケメ・ナデ	密(〜5.0mmの 砂粒含む)	-	内:黒褐7.5YR3/1 外:にぶい橙7.5YR6/4	黒斑2箇所
17	033-03	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4	口縁 1/12	13.8	-	-	内:オサエ・ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・ナデ	やや密	-	内:橙5YR6/6 外:浅黄橙7.5YR8/4,橙5 YR6/6	No.9
18	037-02	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4	口縁 12/12	9.8	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ミガキ・磨滅	密(〜4.0mmの 砂粒多含む)	-	にぶい橙 7.5YR7/4	No.3
19	033-05	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	口縁 1/12	13.0	-	-	内:ナデ 外:ナデ	やや密(〜4.0 mmの砂粒含む)	-	内:灰白2.5YR/2 外:浅黄橙7.5YR8/4	
20	005-02	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4	口縁 12/12	13.2	-	-	内:ナデ・ヨコナデ・風化 外:ヨコナデ・ハケメ後ミガキ・ナデ	密(〜5.0mmの 小石含む)	-	灰黄2.5Y6/2	No.3
21	017-04	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4①	口縁 1/12	15.2	-	-	内:ナデ・ミガキ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ミガキ・ナデ	やや密(〜2.0 mmの微砂粒含む)	-	灰白5Y8/1	アゼ(埋土②)
22	036-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4①	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密(〜1.0mmの 砂粒含む)	良	灰白5Y7/1	
23	029-06	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	体部 小片	-	-	-	内:オサエ・調整不明 外:櫛描直線文・刺突文・ハケメ後ミガ キ	密(〜2.0mmの 砂粒含む)(5mm 大の赤色粒含む)	-	にぶい橙7.5YR7/4	
24	031-04	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	底部 完存	-	5.2	-	内:ハケメ 外:ナデ・オサエ	密(〜6.0mmの 小石・砂粒含む)	-	にぶい橙7.5YR5/3	
25	029-04	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	底部 完存	-	4.0	-	内:ナデ 外:ハケメ・ナデ	密(〜4.0mmの 小石含む)	-	橙7.5YR7/6	
26	015-04	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	底部 完存	-	5.5	-	内:ハケメ 外:ミガキ	密(〜2.0mmの 砂粒多含む)	-	内:灰白10YR8/2 外:浅黄橙 10YR8/3,にぶい黄橙10Y R7/3	
27	015-01	弥生土器 /土師器	壺か	a9	SK4 アゼ	底部 6/12	-	12.5	-	内:オサエ・ナデ 外:ナデ	密	-	にぶい黄橙10YR6/3・7/ 2	
28	005-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4	体部 完存	-	-	-	内:ハケメ後ナデ・オサエ 外:櫛描直線文・ハケメ後ミガキ・ナデ	密(〜4.0mmの 砂粒含む)	-	にぶい黄橙5YR5/4	木炭痕あり
29	022-01	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	口縁 2/12	17.6	-	-	内:ナデ後ミガキ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ミガキ	密(〜3.0mmの 小石含む)	-	にぶい黄橙10YR7/4	
30	026-02	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	口縁 9/12	12.1	-	-	内:ミガキ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ミガキ	密(〜2.0mmの 砂粒含む)	-	橙5YR6/6	
31	026-03	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	体部 5/12 底部 5/12	-	4.2	-	内:オサエ・磨滅 外:ミガキ・磨滅	密(〜2.0mmの 砂粒含む)	-	橙5YR6/6	
32	033-04	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4	口縁 2/12	12.8	-	-	内:ミガキ 外:ナデ・ミガキ	やや密(〜4.0 mmの砂粒含む)	-	灰白10YR8/2	内面黒変
33	017-05	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	-	-	-	-	内:ミガキ 外:ハケメ後ミガキ・ナデ	やや密(〜3.0 mmの砂粒含む)	-	灰黄2.5Y7/1	
34	031-03	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4 下層	底部 完存	-	4.5	-	内:ハケメ 外:ミガキ・ナデ	密(〜7.0mmの 小石・砂粒含む)	-	褐灰10YR6/1・5/1	
35	022-05	弥生土器 /土師器	壺	a9	SK4①	底部 完存	-	3.6	-	内:ナデ 外:磨耗	密(〜3.0mmの 小石含む)	-	内:にぶい黄橙10YR6/4 外:明赤褐5YR5/6	透孔3個
36	003-01	弥生土器 /土師器	甕	a9	SK4	口縁 10/12	22.0	-	-	内:ケズリ・工具ナデ・ハケメ・ナデ・ ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・ナデ	密(〜7.0mmの 砂粒含む)	-	浅黄橙10YR8/4	No.11
37	031-01	弥生土器 /土師器	甕	a9	SK4 下層	口縁 4/12	25.6	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密(〜3.0mmの 砂粒含む)	-	浅黄橙10YR8/3	

第VI-2表 双ツ塚遺跡(第3次)遺物観察表1

報告番号	実測番号	種類	器種	地区	遺構層位	部位残存度	計測値 (cm)			技法・文様の特徴	胎土素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
38	025-02	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4下層	口縁2/12	29.8	-	-	内:ハケメ 外:ハケメ	密(～5.0mmの砂粒含む)	-	橙7.5YR6/6	
39	026-01	弥生土器/土師器	台付甕	a9	SK4	口縁10/12	15.4	6.8	-	内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・工具ナデ・ナデ	密(～4.0mmの砂粒多含む)	-	橙5YR6/6	No.11
40	048-01	弥生土器/土師器	台付甕	a9	SK4下層	口縁12/12	33.2	-	-	内:ケズリ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密(～2.0mmの砂粒含む)	-	にぶい橙7.5YR7/4 橙7.5YR7/6	No.6・16
41	033-01	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4	口縁6/12	13.8	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナデ	やや密	-	灰白10YR8/2	No.3
42	033-02	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4	口縁1/12	12.4	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	やや密	-	灰白10YR8/2	No.3
43	036-07	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4	口縁11/12	17.6	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・風化	密(～4.0mmの砂粒含む)	-	にぶい黄褐色10YR7/3	No.3
44	032-01	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4下層	口縁3/12	16.0	-	-	内:ナデ・工具ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密(～2.0mmの砂粒含む)	-	内:にぶい黄褐色10YR6/4 外:にぶい黄褐色10YR5/3	
45	018-01	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4	口縁2/12	20.4	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ	やや粗(～4.0mmの砂粒含む)	-	にぶい橙7.5YR7/4	No.7
46	016-02	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4	口縁2/12	14.8	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文・ハケメ	密(微砂粒含む)	-	にぶい黄褐色10YR7/2	No.11・15
47	030-02	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4下層	口縁3/12	17.7	-	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文・櫛歯直線文・ハケメ	密(～3.0mmの砂粒含む)	-	明褐色7.5YR5/6	
48	036-05	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4	口縁2/12	20.0	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文	密(～4.0mmの砂粒含む)	-	内:にぶい黄褐色10YR6/3 外:にぶい褐色7.5YR5/3	No.6
49	037-01	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4	口縁4/12	22.0	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文・ハケメ・磨滅	密(～4.0mmの砂粒含む)	-	灰白2.5Y7/2	No.3
50	032-03	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4下層	口縁1/12	18.0	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文・ハケメ	密(微砂粒含む)	-	灰黄2.5Y7/2	
51	030-01	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4下層	口縁3/12	17.8	-	-	内:ナデ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文・ハケメ	密	-	黄灰2.5Y6/1～灰黄2.5Y7/2	
52	032-04	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4下層	口縁3/12	14.8	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文・ハケメ	密(微砂粒含む)	-	にぶい黄褐色10YR7/3	
53	032-02	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4下層	口縁3/12	14.5	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文・沈線・ハケメ	密(微砂粒含む)	-	にぶい黄褐色10YR7/3	
54	033-06	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4下層	口縁1/12	16.8	-	-	内:オサエ・ナデ・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・押し刺突文・ハケメ	やや密(～2.0mmの微砂粒含む)	-	灰白10YR8/2	
55	018-02	弥生土器/土師器	S字甕	a9	SK4	口縁1/12	12.8	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・押し刺突文・沈線・ハケメ	やや密	-	灰白2.5Y8/2	
56	016-03	弥生土器/土師器	S字甕	a9	SK4	口縁2/12	15.1	-	-	内:オサエ?・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文・櫛歯直線文・ハケメ	密	-	にぶい黄褐色10YR7/3	No.15
57	036-06	弥生土器/土師器	S字甕	a9	SK4	口縁2/12	23.8	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・刺突文・ハケメ	密(～2.0mmの砂粒含む)	-	にぶい黄褐色10YR7/2	No.3
58	008-01	弥生土器/土師器	S字甕	a9	SK4下層	口縁11/12	15.7	-	-	内:ハケメ・オサエ・ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	やや粗(～2.0mmの微砂粒含む)	-	淡黄2.5Y8/3	
59	017-03	弥生土器/土師器	S字甕	a9	SK4	体部小片	-	-	-	内:ナデか 外:ハケメ	やや粗(～3.0mmの砂粒含む)	-	内:灰白5Y8/2 外:にぶい黄褐色10YR7/2	No.11 ヘラ記号 煤付着
60	029-02	弥生土器/土師器	S字甕	a9	SK4最下層	体部小片	-	-	-	内:調整不明 外:刺突文・ハケメ	密(～9.0mmの小石含む)	-	灰黄2.5Y7/2	
61	031-05	弥生土器/土師器	台付甕	a9	SK4下層	台部4/12	-	5.4	-	内:ナデ 外:ナデ	密(微砂粒含む)	-	内:灰褐色7.5YR5/2 外:にぶい橙2.5Y6/4	
62	017-02	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4	台部完存	-	8.0	-	内:ナデ・工具ナデ 外:ハケメ・ナデ	密(～2.0mmの微砂粒・～5.0mmの小石含む)	-	にぶい黄褐色10YR7/2	
63	017-01	弥生土器/土師器	S字甕	a9	SK4	台部11/12	-	7.6	-	内:ハケメ・オサエ・ナデ 外:ハケメ・ナデ	やや粗(～3.0mmの砂粒含む)	-	灰白2.5Y8/2・にぶい黄褐色10YR7/2・にぶい黄褐色10YR7/3	
64	023-02	弥生土器/土師器	台付甕	a9	SK4①	-	-	-	-	内:ハケメ後ナデ 外:ハケメ後ナデ	密(～7.0mmの小石含む)	-	淡黄2.5Y7/4	
65	015-05	弥生土器/土師器	S字甕	a9	SK4下層	-	-	-	-	内:ハケメ・オサエ・ナデ 外:ハケメ・ナデ	密	-	にぶい黄褐色10YR7/3・2	No.11
66	029-03	弥生土器/土師器	台付甕	a9	SK4最下層	台部7/12	-	7.7	-	内:ナデ 外:ハケメ・ナデ	密(～5.0mmの小石多含む)	-	褐色7.5YR4/1～にぶい褐色7.5YR5/4	
67	029-05	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4下層	底部9/12	-	2.4	-	内:ナデ 外:ハケメ・ナデ	密(～3.0mmの砂粒含む)	-	赤灰2.5YR4/1～にぶい赤褐色2.5YR5/4	
68	034-02	弥生土器/土師器	甕	a9	SK4下層	口縁5/12	14.8	-	-	内:工具ナデ? 外:ヨコナデ・ハケメ	やや密	-	浅黄褐色10YR8/3	煤付着
69	035-02	弥生土器/土師器	甕か	a9	SK4	口縁8/12	11.0	-	-	内:オサエ・ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・ナデ	やや密	-	内:浅黄褐色10YR8/3 外:橙5YR6/6	No.10
70	028-02	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4最下層	口縁11/12	19.8	-	-	内:風化・シボリ 外:ミガキ?・風化	密(～4.0mmの砂粒含む)	-	黒褐色7.5YR3/1～にぶい褐色7.5YR7/4	No.15 黒斑2箇所・ 透孔1個
71	015-02	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4	口縁3/12	27.0	-	-	内:ミガキ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ミガキ	密(～3.0mmの砂粒含む)	-	浅黄褐色10YR8/3	No.11
72	025-01	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4下層	口縁1/12	28.8	-	-	内:ミガキ・磨滅 外:磨滅・ミガキ	密(～3.0mmの砂粒含む)	-	橙5YR6/6	
73	031-02	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4下層	杯部小片	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	浅黄褐色10YR8/4	
74	023-01	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4	口縁1/12	28.0	-	-	内:ミガキ・磨滅・ナデ 外:ミガキ	密(～4.0mmの小石含む)	-	橙7.5YR6/6	No.14
75	024-01	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4②下層	口縁4/12	30.8	-	-	内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・ナデ後ミガキ	密(～6.0mmの小石含む)	-	にぶい黄褐色10YR7/4	No.1・10
76	035-01	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4下層	口縁と脚部2/12	20.0	15.8	-	内:ミガキ・ハケメ 外:ナデ・ミガキ・櫛歯直線文・ミガキ	やや密	-	にぶい橙7.5YR7/4・灰白2.5Y7/1・橙5YR6/6・にぶい褐色7.5YR5/3	透孔1個
77	016-01	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4	口縁8/12	22.0	-	-	内:ヨコナデか・磨滅 外:ヨコナデ・ミガキか	密(～4.0mmの小石・砂粒含む)	-	橙7.5YR7/6	No.11 透孔3個
78	020-01	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4下層	口縁6/12	23.7	-	-	内:ミガキ?・ヨコナデ・シボリ 外:ヨコナデ・ミガキ?ケズリ後ナデ・櫛歯直線文	密(～3.0mmの砂粒含む)	-	浅黄褐色7.5YR8/3	透孔3個
79	028-01	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4下層	口縁3/12	20.8	-	-	内:ミガキ 外:ヨコナデ・ミガキ・櫛歯直線文・風化	やや密(～7.0mmの小石多含む)	-	浅黄褐色7.5YR8/3・7	透孔3個
80	006-02	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4	脚部1/12	-	14.5	-	内:剥離・ナデ 外:剥離・櫛歯直線文・ハケメ後ミガキ	密(～7.0mmの小石含む)	-	黒褐色7.5YR3/1～にぶい褐色7.5YR6/4	No.2・7 透孔3個
81	019-03	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4下層	脚部4/12	-	14.0	-	内:シボリ・ハケメ 外:櫛歯直線文・ハケメ後ミガキ・ナデ	やや密	-	灰白2.5Y8/2 橙5YR7/6	No.10 透孔3個
82	005-03	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4	脚部3/12	-	14.8	-	内:ナデ・ハケメ? 外:櫛歯直線文・風化	密(～5.0mmの小石含む)	-	赤褐色5YR4/6	No.2 透孔4個
83	006-01	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4	脚部11/12	-	14.7	-	内:シボリ・風化 外:櫛歯直線文・風化	密(～4.5mmの小石含む)	-	黒褐色7.5YR3/1～暗褐色7.5YR5/8	No.10 透孔3個
84	019-02	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4	-	-	-	-	内:ミガキ?・シボリ?・工具ナデ? 外:ミガキ・櫛歯直線文	やや密	-	浅黄褐色10YR8/3	No.10 透孔3個
85	022-03	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4①	脚部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	やや粗(～3.0mmの小石含む)	-	にぶい黄褐色10YR6/4	透孔1個
86	022-04	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4下層	脚部	-	-	-	内:ミガキ・ナデ 外:ミガキ?・ミガキ後櫛歯直線文	密	-	淡黄2.5Y7/4	透孔3個
87	019-01	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4下層	脚部1/12	-	13.8	-	内:ハケメ 外:ミガキ	やや密	-	浅黄褐色10YR8/3	透孔1個
88	036-04	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4	脚部5/12	-	17.8	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:磨滅・ヨコナデ	密(～1.0mmの砂粒含む)	-	にぶい黄褐色10YR6/4	No.6 透孔1個
89	018-03	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4	脚部3/12	-	15.8	-	内:ハケメ 外:ミガキ・ナデ	やや密(～2.0mmの微砂粒含む)	-	橙7.5YR7/6 灰N4/0	透孔1箇所・黒斑1箇所

第VI-3表 双ツ塚遺跡(第3次)遺物観察表2

報告番号	実測番号	種類	器種	地区	遺構層位	部位残存度	計測値 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土素地	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
90	029-01	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4下層	脚部4/12	16.9	-	-	内:ハケメ・調整不明 外:ミガキカ・調整不明	密(〜6.0mmの小石多含む)	-	明赤褐5YR5/8	透孔1個
91	015-03	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4	脚部1/12	-	14.0	-	内:ヨコナデ・ナデ 外:ミガキ・ヨコナデ	密(〜4.0mmの小石・砂粒含む)	-	にぶい黄橙10YR7/3・2	№11
92	018-04	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4	脚部5/12	-	12.8	-	内:ハケメ・ナデ 外:ミガキカ	やや密	-	橙7.5YR7/6	
93	018-06	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4	脚部2/12	-	18.8	-	内:磨滅 外:磨滅	やや密	-	にぶい橙7.5YR7/4	
94	034-01	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4②	脚部8/12	-	13.0	-	内:磨滅・シボリ 外:磨滅	やや密(〜4.0mmの砂粒含む)	-	橙7.5YR7/6	№1・10 透孔3個
95	022-02	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4下層	脚部3/12	-	12.6	-	内:ミガキ?・シボリ後ナデ 外:ミガキ後描直線文	密	-	にぶい黄橙10YR6/4	透孔1個
96	036-03	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4	脚部6/12	-	13.6	-	内:ヨコナデ 外:ミガキ・磨滅	密(〜2.5mmの砂粒含む)	-	にぶい黄橙10YR7/3	№3
97	018-05	弥生土器/土師器	高杯	a9	SK4	脚部7/12	-	15.4	-	内:磨滅 外:ミガキカ・磨滅	やや密(〜2.0mmの微砂粒含む)	-	橙5YR7/6	№7
98	032-05	弥生土器/土師器	器台か	a9	SK4下層	口縁1/12	14.4	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密(〜4.0mmの小石・砂粒多含む)	-	にぶい黄橙10YR7/3	
99	012-01	弥生土器/土師器	鉢	a9	SK4	口縁5/12 底部12/12	27.5	5.3	24.8 〜26.6	内:ハケメ 外:ヨコナデ・ハケメ	密(〜4.0mmの小石含む)	-	橙7.5YR6/4	№12 黒斑
100	037-03	弥生土器/土師器	鉢	a9	SK4	口縁4/12	25.8	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	密(〜2.0mmの砂粒含む)	-	にぶい黄橙10YR6/4	№3
101	027-01	弥生土器/土師器	鉢	a9	SK4下層	口縁9/12	25.2	6.6	25.0	内:磨滅・ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ・ナデ	密(〜6.0mmの砂粒多含む)	-	橙7.5YR6/6 にぶい黄橙7.5YR6/4	腰部3/12, 底部12/12, 木葉痕跡
103	036-02	陶器	山茶碗	a9	SK4①	底部3/12	-	6.4	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・粗穀痕跡	密(〜1.5mmの砂粒含む)	良	灰白2.5Y7/1	
104	039-02	土師器	椀	a9	SK5	底部2/12	-	6.6	-	内:ナデ 外:高台部貼り付け後ナデ・ヨコナデ	密	-	灰黄褐10YR6/2	
105	039-01	瓦	平瓦	a9	SK5	-	-	-	-	内:布目・ナデ 外:ナデ・工具ナデか	密(〜2.0mmの微砂粒含む)	-	浅黄橙10YR8/3	土師質
106	041-01	土師器	壺	a9	SK6	口縁1/12	12.8	-	-	内:ハケメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハケメ	やや密	-	にぶい黄橙10YR7/4	
107	041-02	土師器	甕	a9	SK6	-	-	-	-	内:ナデか 外:ハケメ	やや密	-	内:橙2.5YR6/6 外:橙2.5YR7/6	
108	041-03	土師器	鍋又は瓶	a9	SK6	-	-	-	-	ナデ	やや密	-	橙5YR6/6	把手部分
109	041-06	須恵器	壺	a9	SD8	底部1/12	-	10.8	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・ナデ	密	良	内:灰白N5/0 外:灰白N7/0	
110	041-07	灰軸陶器	皿	a10	SZ10	口縁小片	-	-	-	内:ロクロナデ・施釉 外:ロクロナデ・施釉	密	良	素:灰白N8/0 釉:オリーブ黄2.5Y6/3	
111	042-01	陶器	山茶碗	a10	SZ10	-	-	8.4	-	内:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・糸切痕跡	密	良	灰白N8/0	内面研磨
112	043-01	灰軸陶器	壺か	a10	SZ10	-	-	-	-	内:同心円文?・ロクロナデ 外:ロクロナデ・タタキ	密	良	灰白N7/0・8/0	自然釉
113	042-02	弥生土器/土師器	高杯	a11	Pit3 掘形	-	-	-	-	内:磨滅 外:磨滅	やや密	-	赤10R5/8	透孔1個
114	043-09	弥生土器/土師器	甕か	a3	包含層	-	-	-	-	内:ナデ・磨滅 外:ハケメ・磨滅	やや密	-	にぶい黄橙10YR6/4	
115	042-03	須恵器	転用硯	a3	包含層	-	縦 6.0+	横 5.9+	厚 0.6〜1.2	内:ナデ・磨滅 外:貼付ナデ	密	良	上面:灰白N8/0 下面:灰白N7/0	内面墨痕跡 外面炭化物付着
116	043-06	弥生土器/土師器	壺	a6	包含層	口縁小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	やや密	-	浅黄橙10YR8/3	黒褐色粘土
117	042-06	須恵器	高杯	a7	包含層	-	-	-	-	内:ナデ・工具痕跡 外:ロクロナデ	密	良	灰白N7/0	透孔1個、2段透しか
118	042-05	陶器	山茶碗	a7	包含層	底部1/12	-	6.0	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部貼付後ナデ・粗穀痕跡	密	良	灰白N8/0	煤付着
120	043-08	弥生土器/土師器	小壺	a8	包含層	口縁2/12	7.8	-	-	内:ナデ 外:ナデ	密	-	橙5YR6/6	粗製
121	044-03	土製品	土錘	a8	包含層	完存	6.2	1.9	0.6	オサエ・ナデ	密(〜5.0mmの砂粒含む)	-	にぶい黄橙10YR7/2	重さ16.24g
122	044-04	土師器	鍋又は瓶	a8	包含層	把手	-	-	-	ナデ	密(〜1.5mmの砂粒含む)	-	にぶい赤褐5YR5/4	把手部分
123	043-07	土師器	甕	a8	包含層	口縁1/12	20.8	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	やや密	-	橙2.5YR6/8	
124	043-05	緑軸陶器	椀	a8	包含層	底部11/12	-	4.5	-	内:ロクロナデ・施釉 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・糸切痕跡	密	良	素:灰白N8/0 釉:緑	
125	043-02	灰軸陶器	小椀	a8	包含層	口縁1/12	10.8	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	素:灰白N8/0 釉:黄褐2.5Y5/6	
126	043-03	灰軸陶器	椀	a8	包含層	底部2/12	-	7.8	-	内:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・糸切痕跡	密	良	灰白N8/0	
127	043-04	陶器	山茶碗	a8	包含層	底部5/12	-	7.2	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ナデ・糸切痕跡	密	良	灰白N7/0	内面研磨
128	044-02	陶器	山茶碗	a8	包含層	底部3/12	-	7.8	-	内:ロクロナデ・施釉 外:ロクロナデ・高台部貼付後ナデ・糸切痕跡	密(〜1.0mmの砂粒含む)	良	灰白10YR7/1	自然釉
129	044-01	陶器	山茶碗	a8	包含層	底部完存	-	7.0	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ヨコナデ・糸切痕跡・板状圧痕	密(〜2.0mmの砂粒含む)	良	灰白2.5Y7/1	内面摩耗
130	044-05	須恵器	杯蓋	a9	包含層	口縁小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密(微砂粒含む)	良	灰白N7/0	
131	044-07	灰軸陶器	椀	a10	包含層	底部3/12	-	6.6	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ヨコナデ・ナデ	密(〜1.0mmの砂粒含む)	良	灰白2.5Y8/2	内面摩耗
132	044-06	陶器	山茶碗	a10	包含層	底部3/12	-	6.8	-	内:ロクロナデ・施釉 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ヨコナデ・砂粒痕跡	密(〜1.0mmの砂粒含む)	良	灰白5Y7/1	内面摩耗
133	045-03	瓦	平瓦	範囲確認	№6(23)	小片	-	-	-	内:布目・ケズリ 外:ケズリ・ナデ	密(〜2.0mmの砂粒含む)	良	灰白10YR8/7	黒褐色粘土
134	045-01	灰軸陶器	皿	範囲確認	№6(23)	口縁1/12	14.8	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密(微砂粒含む)	良	灰白2.5Y7/2	黒褐色粘土
135	045-02	陶器	山茶碗	範囲確認	№6(23)	底部5/12	-	7.6	-	内:ロクロナデ・施釉 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ヨコナデ・糸切痕跡	密(〜1.0mmの砂粒含む)	良	灰白5Y7/1	黒褐色粘土, 内面摩耗
136	045-04	陶器	山茶碗	範囲確認	№7(24)	底部1/12	-	6.9	-	内:ロクロナデ・施釉 外:ロクロナデ・高台部貼り付け後ヨコナデ・糸切痕跡	密(〜1.0mmの砂粒含む)	良	灰白5Y7/1	自然釉

第VI-4表 双ツ塚遺跡(第3次)遺物観察表3

報告番号	実測番号	種類	地区	遺構・層位	計測値 (cm)			重量	特記事項 (加工痕・継手等) 保存処理
					長	幅	厚		
102	017-06	軽石	a9	SK4	4.7	3.9	2.0	8.0	
119	042-04	凹石	a7	包含層	10.1	7.2	2.4	305.9	

第VI-5表 双ツ塚遺跡(第3次)石製品観察表

第Ⅶ章 金沢川遺跡（第1・2次）

第1節 調査の概要

金沢川遺跡は北を双ツ塚遺跡、南を天王遺跡に接し、金沢川下流南岸に位置する。

調査は既設の道路内に新たに埋置する水路部分のみを対象としたもので、2018・2019年度に範囲確認調査を実施し、その結果に基づいて2019・2020年度にそれぞれ本調査にあたる第1次・第2次調査を実施した。発掘調査期間はそれぞれ、範囲確認調査は2019年3月から5月、第1次調査は2019年7月から9月、第2次調査は2020年8月から2021年2月である。本調査は範囲確認調査で遺構を検出した箇所を対象としたため、第1次調査では3カ所、第2次調査では10カ所の調査区に分かれている。発掘調査面積は第1・2次の合計で、2,710㎡である。

調査区の基本層序は調査区が計13カ所に分かれているため、場所によってバラツキはあるものの、上から表土（道路アスファルトとその基盤となる碎石・

厚さ約20cm）、造成土（厚さ約50～100cm）、旧耕作土ないし床土（厚さ10～20cm）あるいはオリーブ褐色砂質シルト・同色のシルト層（古代～中世の遺物包含層・厚さ20cm）、にぶい黄褐色～黄灰色粘土・黄褐色シルトのベースの順で堆積する。なお、遺構を検出しなかった箇所、このベース（遺構検出面）をさらに掘り下げたところ、シルト層の下には粗砂層が堆積することを確認した。遺構検出面は調査区によっては、後世の造成によって遺構面が削平された状態にあるため、その標高は3.2～5.7mとやや幅がある。

遺構を密に検出した調査区（第1次A・B区、第2次3・6区）とそうではない調査区との差は大きい。密に検出した箇所では溝、土坑のほか、土壇墓、柱列を含む多数の柱穴といった遺構を検出している。
(土橋)

第2節 遺 構

遺構の位置や詳細等は、遺構一覧表（第Ⅶ-1～4表）を参照されたい。

1. 範囲確認調査（第Ⅶ-1表）

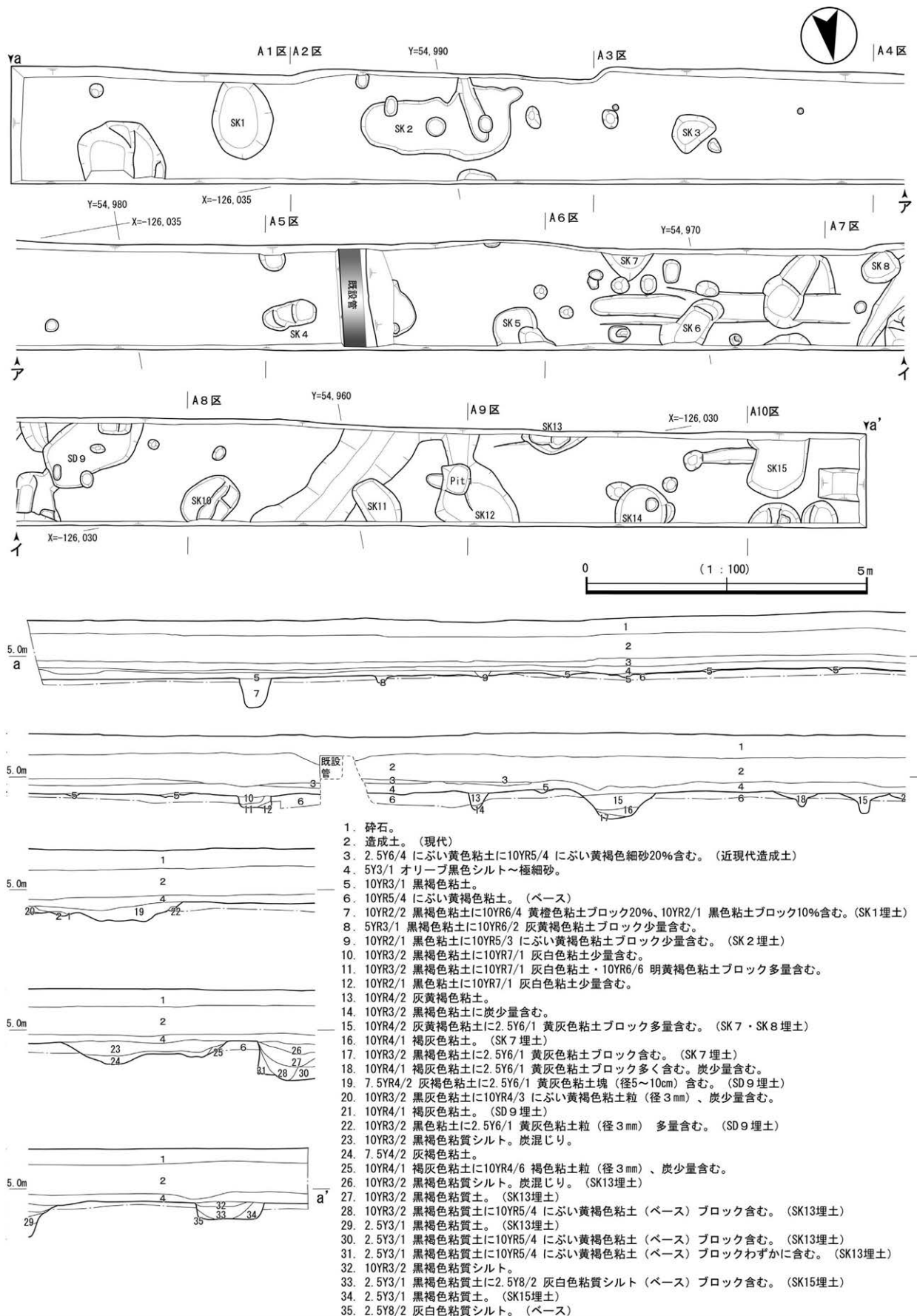
S Z 200 中世の常滑産甕が出土したため、調査時には落ち込み状の遺構と判断したが、第2次調査の状況からみて、後世の開発や耕作活動によるかく乱であろう。

2. 第1次調査（第Ⅶ-1～5図・第Ⅶ-2表）

A区

- S K 1** 1.2m×1.36m以上の土坑。残存深0.55m。土師器や須恵器の小片が出土。遺構は古代に属する。
- S K 2** 2.66m×1.33mの土坑。残存深0.03m。土師器や須恵器の小片ほか、山茶碗の小片も出土していることからみて、遺構は中世以降に属する。
- S K 3** 0.8m×0.7mの土坑。残存深0.05m。土師器小片が出土したが、遺構の時期は不明である。
- S K 4** 0.96m×0.46mの土坑。残存深0.19m。土師器や須恵器の小片が出土。遺構は古代に属する。

- S K 5** 1.1m×0.64m以上の土坑。残存深0.49m。出土遺物は土師器の小片ながら、古代に属する。
- S K 6** 1.15m×0.8 m以上の土坑。残存深0.72m。土師器の小片が出土しているものの、遺構の時期は不明である。
- S K 7** 0.93m×0.45m以上の土坑。残存深0.45m。土師器や須恵器の小片が出土している。須恵器には古代のものが目立つが、土師器片から中世の遺構と判断した。
- S K 8** 0.7m×0.57m以上の土坑。残存深0.28m。7世紀中から後半ごろの須恵器高杯が出土した。
- S D 9** 幅0.10m、長さ2.3m以上の南北溝。残存深0.26m。遺構は調査区外へ続いている。出土遺物はなく、時期は不明である。
- S K 10** 1.0m×0.8m以上の土坑。残存深0.34m。土師器が出土しているものの小片のため、遺構の時期は不明である。
- S K 11** 0.84m×0.76m以上の土坑。残存深0.1m。



第七-1図 金沢川遺跡(第1次)A区平面図・土層断面図(1:100)

土師器が出土しているものの小片のため、遺構の時期は不明である。

SK12 1.45m×1.03m以上の土坑。残存深0.43m。出土遺物には土師器の小片ほか、須恵器杯蓋がある。これらの様相からみて、7世紀末以降に埋没したものとといえる。

SK13 1.16m×0.31m以上の土坑。残存深0.61m。土師器や須恵器の小片が出土していることから、遺構は古代に属するものであろう。

SK14 1.16m×0.67m以上の土坑。残存深0.48m。出土した土師器甕の様相から、平安時代ごろの遺構。

SK15 1.12m×1.04m以上の土坑。残存深0.24m。土師器や須恵器の小片が出土。遺構は、古代に属するものであろう。

B区

SD16 幅0.25m、長さ2.08m以上の南北溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.21m。小穴P1・2・4・5に先行する遺構。土師器や須恵器の出土が認められ、飛鳥時代以降の溝と判断した。このほか、焼成粘土が出土している。

SK17 0.55m以上×0.41m以上の土坑。この溝か

らは、藤沢編年第3型式の山茶椀が出土していることから、遺構は12世紀以降のものとして判断した。

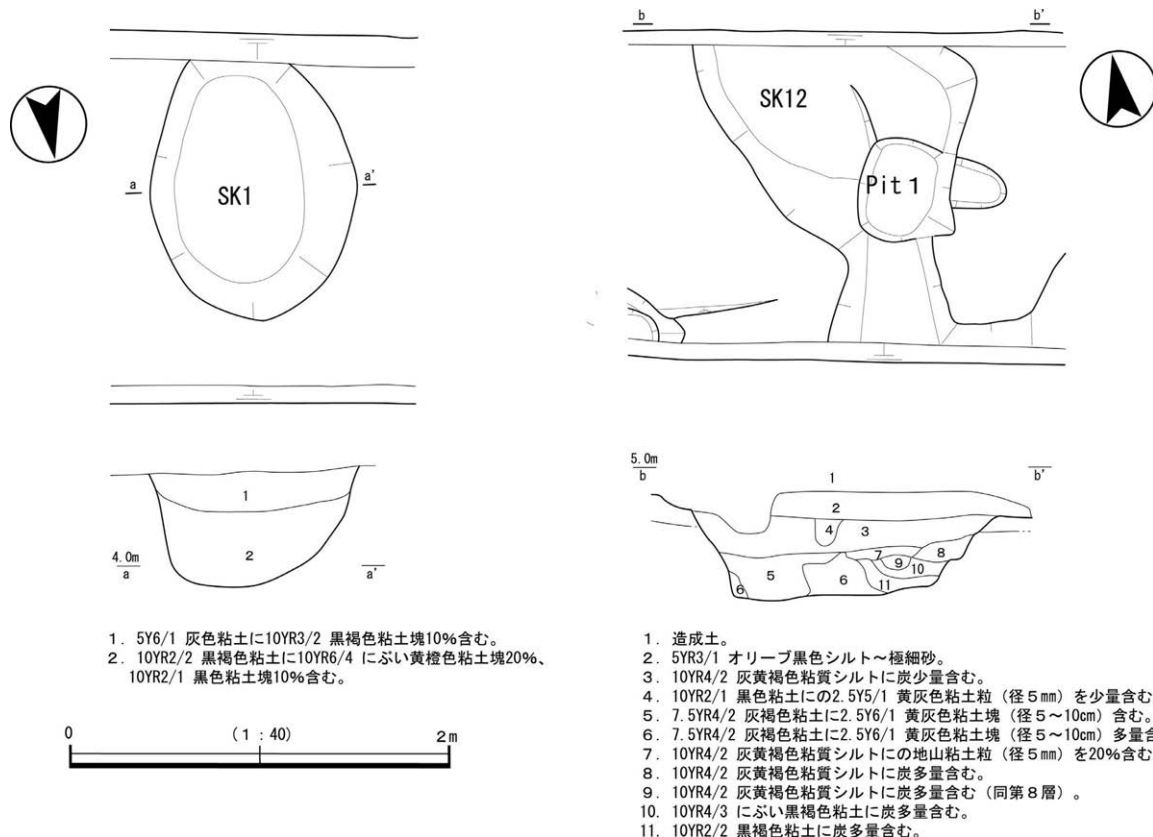
SK18 0.61m×0.51mの土坑。残存深0.46m。土師器が出土しているものの小片のため、遺構の時期は判断できなかった。

SD19 幅0.45m、長さ1.8m以上の南北溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.15m。土師器や須恵器の小片が出土しており、これらは飛鳥時代から奈良時代初めごろのものである。

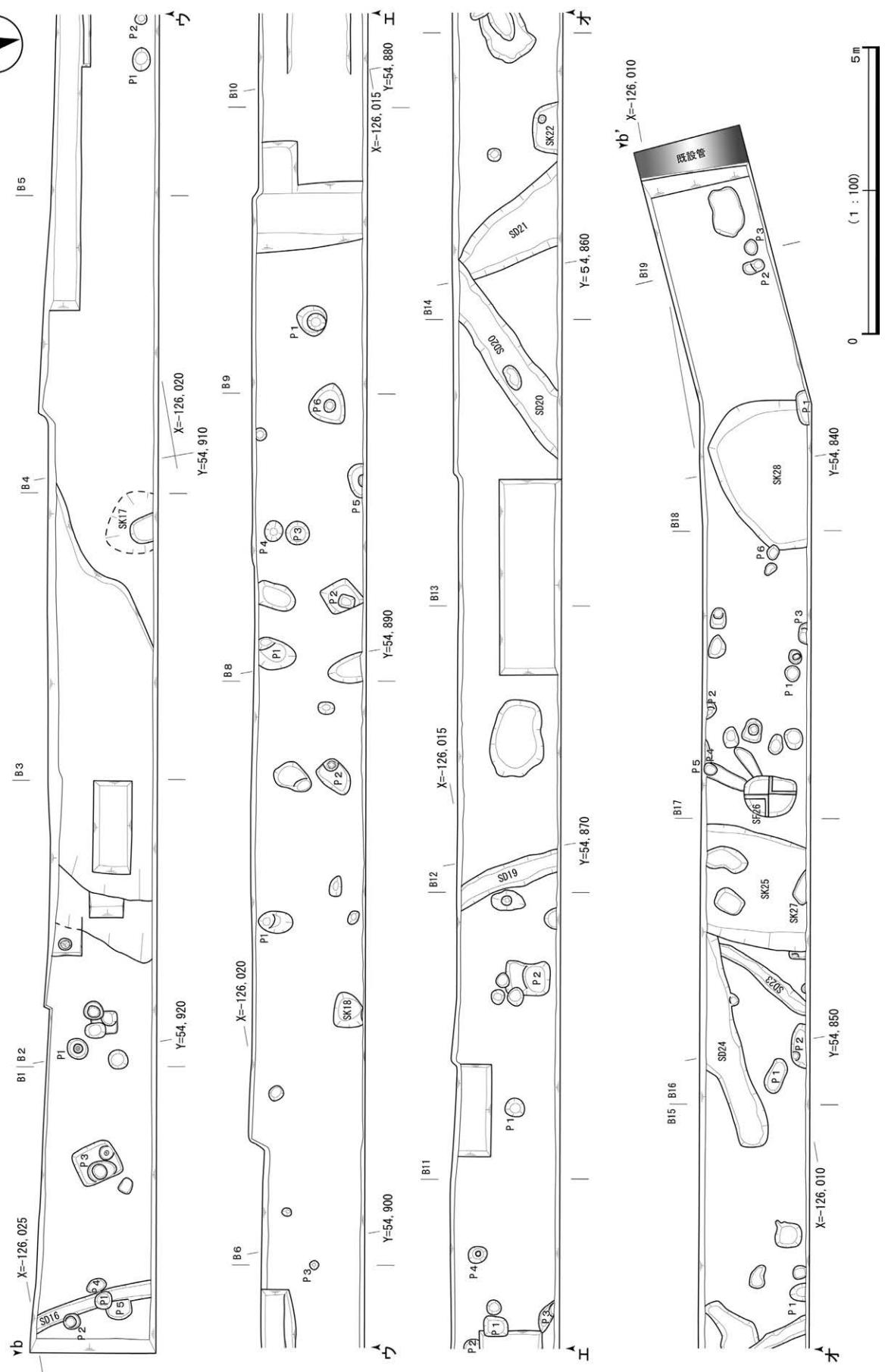
SD20 幅0.76m、長さ2.8m以上の南北溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.44m。灰釉陶器が出土しており、平安時代以降に埋没したものと考えられる。小片ながら、平瓦が出土している。SD21と重複関係にある。

SD21 幅1.15m、長さ1.85m以上の南北溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.12m。近世期の陶磁器が出土している。SD20と重複関係にあり、それに先行する。

SK22 0.91m以上×0.45mの土坑。残存深0.18m。7世紀後半ごろの須恵器無台杯が出土しているほか、土師器の小片も出土した。これらから、遺構は7世



第七-2 図 金沢川遺跡(第1次)SK1・12平面図・土層断面図(1:40)

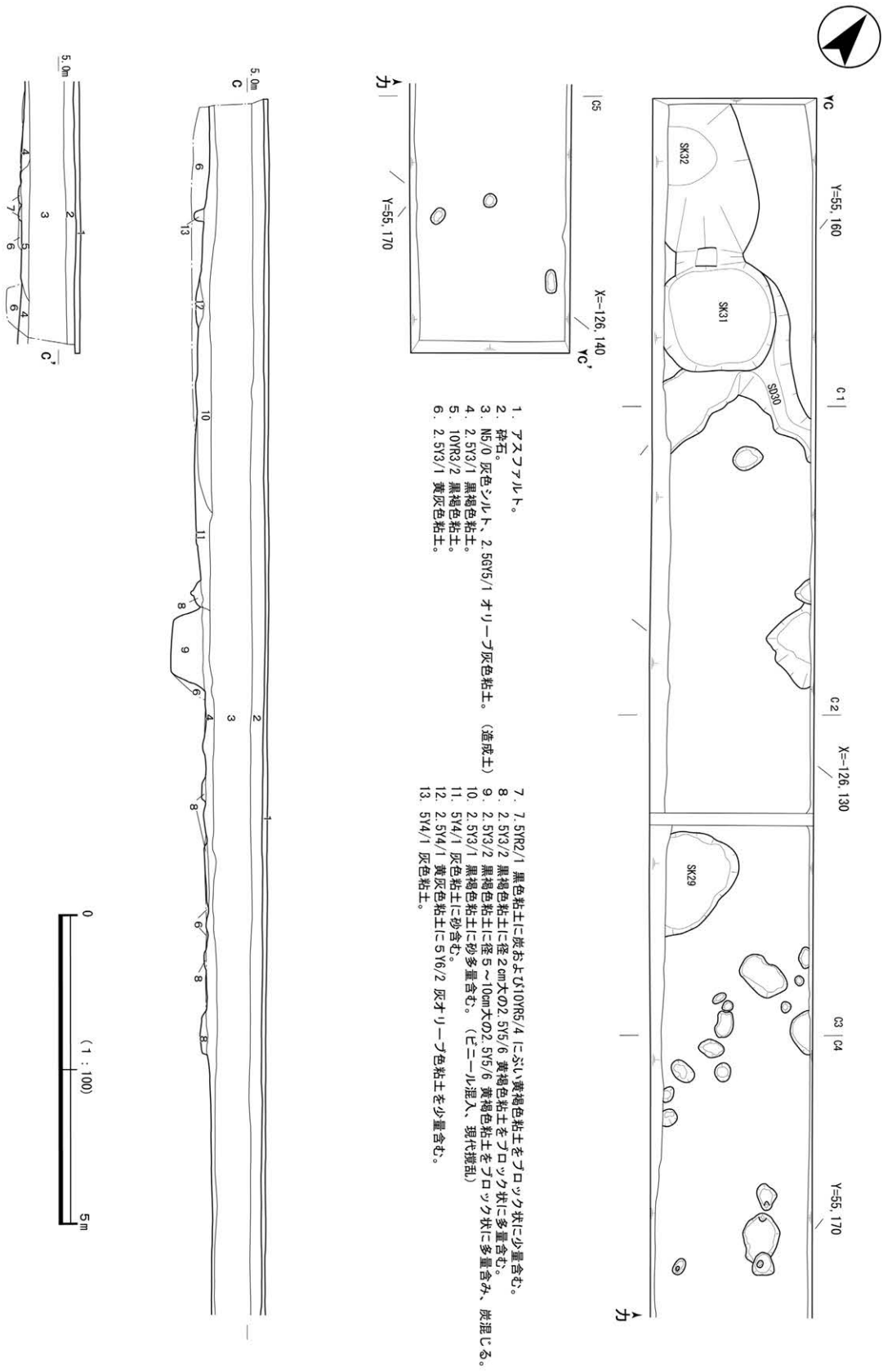


第Ⅶ-3図 金沢川遺跡(第1次)B区平面図(1:100)



- 1. 碎石。(現代)
- 2. 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質シルトに2.5Y5/3 黄褐色シルト含む。(ベース)
- 3. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土。(SD16埋土)
- 4. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土。(SD19埋土)
- 5. 5YR4/1 褐灰色粘土。
- 6. 2.5YR4/3 にふい赤褐色粘土。
- 7. 10YR5/6 黄褐色シルトに径2~3mmの礫10%、炭化物5%含む。
- 8. 10YR6/6 明黄褐色細砂に径2~3mmの礫30%含む。(流路下層埋土)
- 9. 2.5Y6/4 にふい黄色細砂に径2~3mmの礫20%含む。(流路下層埋土)
- 10. 10YR4/4 褐色粘土。
- 11. 2.5Y6/6 明黄褐色シルト。
- 12. 2.5Y6/3 にふい黄色極細砂に径2~3mmの礫10%、鉄分多く含む。
- 13. 10YR4/6 褐色シルトに2.5Y5/4 黄褐色シルト10%含む。
- 14. 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土に2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト、炭少量含む。(腐植土)
- 15. 2.5Y5/3 黄褐色粘土に炭少量含む。(B8区P1埋土)
- 16. 10YR5/1 褐灰白色シルト。
- 17. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土。
- 18. 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土に2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト、炭含む。
- 19. 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土に径5mmの礫少量含む。
- 20. 19層に同じ。
- 21. 2.5Y6/3 にふい黄色シルト。
- 22. 2.5Y6/2 暗黄色シルトに極細砂
- 23. 5Y4/3 オリーブ粘土に径2mm次の礫少量含む。(SD20埋土/包含層)
- 24. 5Y4/1 灰色粘土。(SD19埋土)
- 25. 注記なし。(SD20埋土)
- 26. 2.5Y5/3 黄褐色粘土。
- 27. 10YR5/4 にふい黄褐色粘土に10YR5/6 黄褐色粘土ブロック少量含む。
- 28. 7.5YR4/4 褐色粘土。(包含層)
- 29. 7.5YR4/2 灰褐色粘土。
- 30. 7.5YR4/2 オリーブ黒色粘土に径2mm次の砂粒、炭少量含む。
- 31. 5Y3/1 オリーブ黒色粘土に径2mm次の砂粒、炭少量含む。
- 32. 31層に同じ。
- 33. 7.5YR4/3 褐色粘土に径2mm次の砂粒少量含む。(SD24埋土)
- 34. 31層に同じ。
- 35. 7.5YR4/3 褐色粘土に炭含む。(SK25埋土)
- 36. 10YR4/3 にふい黄褐色粘土に径2mm次の礫含む。
- 37. 10YR5/6 黄褐色粘土に径2mm次の礫含む。
- 38. 7.5YR4/3 褐色粘土に炭少量含む。
- 39. 7.5YR4/3 褐色粘土に炭、径2mm次の礫含む。
- 40. 7.5YR3/4 暗褐色粘土に焼土、炭、遺物少量含む。(SK28埋土)
- 41. 7.5YR4/2 灰褐色粘土に径2mm次の礫、炭含む。

第七-4図 金沢川遺跡(第1次)B区土層断面図(1:100)



第Ⅶ-5図 金沢川遺跡(第1次)C区平面図・土層断面図(1:100)

紀後半ごろに属する。

S D23 幅0.31m、長さ1.85m以上の南北溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.03m。土師器や須恵器の小片が出土しており、これらは飛鳥時代後半のものであろう。遺構は、7世紀後半ごろに属する。

S D24と重複関係にあり、それに先行する。

S D24 幅0.74m、長さ3.7m以上の東西溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.13m。土師器や須恵器の小片が出土しており、これらは7世紀末から8世紀前半ごろのものであろう。遺構は、飛鳥時代あるいは奈良時代初めごろのものか。S D23・S K25と重複関係にあり、S K25に先行する。

S K25 2.21m×1.74m以上の土坑。残存深0.22m。7世紀中ごろから後半にかけての遺物が出土。S D24と重複関係にある。

S F26 0.72m×0.91mの焼成土坑。残存深0.23m。土坑壁面が赤色化しており、被熱痕跡と考えられる。ただし、底部は壁面ほど赤色化していなかった。出土遺物が土師器の小片のみであったため、遺構の時期を特定することができなかった。

S K27 0.6m×0.24m以上の土坑。残存深0.02m。S K25底で検出した遺構。土師器の小片が出土しているが、遺構の時期の特定には至らなかった。なお、焼土や炭を埋土に多く含んでいた。

S K28 2.62m×1.73m以上の土坑。残存深0.28m。7世紀中ごろから後半にかけての土師器や須恵器が出土している。このほか、焼成粘土が出土している。

C区

S K29 1.7m×1.18m以上の土坑。残存深0.53m。古瀬戸産天目茶碗が出土しており、このことから15世紀前半以降に埋没したと考えられる。

S D30 幅1.0m、長さ2.45m以上の東西溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.32m。須恵器小片が出土。遺構は古代に属する。S K31と重複関係にあり、それに先行する。

S K31 1.6m×1.8mの土坑。残存深1.09m。S D30と重複関係にある。出土遺物がないため、遺構の時期を特定することはできないが、S D30との重複関係からみて、少なくとも古代以降のものであろう。

S K32 2.35m以上×1.49m以上の土坑。残存深1.03m。出土した遺物は須恵器小片ながら、古代に

属する。

3. 第2次調査（第Ⅶ-6～26図・第Ⅶ-3・4表）

4・5・7・9・10区では顕著な遺構はなかった。それ以外の調査区で検出した遺構について1区から順に述べる。

1区

S K41 0.68m×0.39m以上の土坑。残存深0.32m。組み合うものがないので、不明だが柱穴の可能性もある。出土遺物は土師器、須恵器杯の小片がある。古墳時代後期から飛鳥時代ごろの遺構であろう。

S K42 壁面でのみ検出のため、平面規模は不明。残存深0.2m。古代の遺物を含む遺構。土師器小片、須恵器杯小片が出土した。調査区外へ遺構は広がっており、溝の可能性もある。

S D43 幅1.2m以上、長さ5.58m以上の東西溝。調査区外へさらに延びる。落ち込みの可能性もある。S D44と重複関係にあり、それに先行する。土師器・須恵器ともに小片が出土しているものの、時期の特定には至らなかった。

S D44 現代の遺物を含む東西溝。幅1.21m、長さ1.25m、残存深0.32m。S D43と重複関係にある。

S D45 幅0.3m以上、長さ1.45m以上の東西溝。残存深0.03m。S D46と重複関係にあり、それに先行する。落ち込みの可能性もある。出土遺物がないため、時期は不明である。

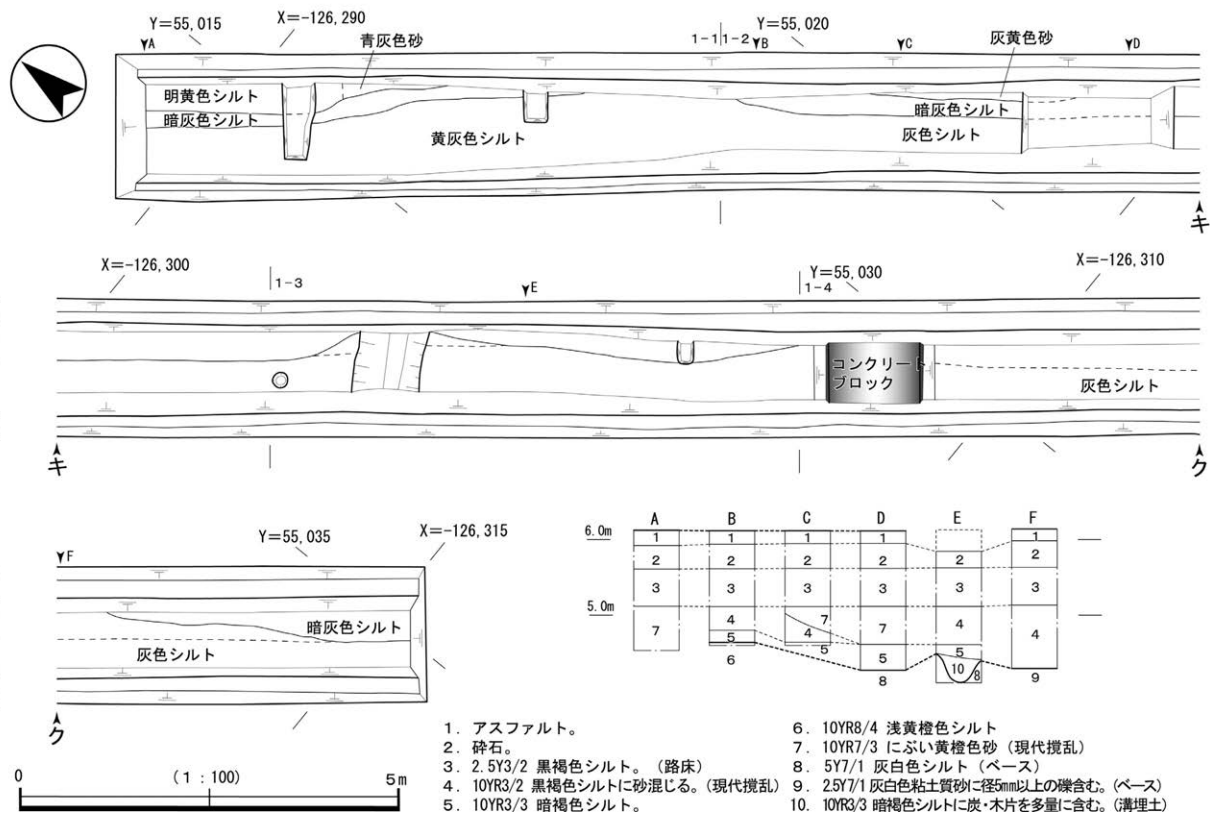
S D46 幅0.1m、長さ1.64m以上の南北溝。残存深0.16m。S D45と重複関係にある。出土遺物は土師器小片のみで、時期の特定ができなかった。

S D47 幅0.72m、長さ3.2m以上の東西溝。残存深0.28m。出土遺物は土師器小片や須恵器甕の破片など、いずれも凶化できなかったものの7世紀後半ごろのものが大半であることから、その時期に廃絶した溝であろう。

S K48 0.94m以上×1.96mの土坑。残存深0.23m。弥生時代末期から古墳時代初めごろの高杯、台付甕などが出土した。

S K49 1.0m×0.7m以上の土坑。残存深0.27m。台付甕をはじめとした弥生時代末期から古墳時代初めごろの遺物が出土。S K50と重複関係にあり、それに先行する。

S K50 0.46m×0.41mの土坑。残存深0.58m。平



第七-6図 金沢川遺跡(第2次)1区平面図・柱状図 (1:100)

安時代ごろの土師器皿、灰釉陶器片、鉄製槍鉋が出土。土壙墓か。SK49と重複関係にある。

SD51 幅0.31m以上、長さ0.62mの東西溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.4m。溝下層の小穴の可能性もある。土師器小片が出土しているが、時期の特定には至らなかった。

SK52 0.94m以上×0.33m以上の土坑。残存深0.41m。7世紀後半ごろの土師器片、須恵器高杯、杯、甕片のほか、ごく小片1点だが山茶碗片を含む。混入品であろうか。

SK53 0.8m×0.17mの土坑。調査区外へさらに広がる。残存深0.14m。7世紀後半以降と考えられる土師器小片や須恵器甕小片が出土している。

SK54 0.44m以上×0.37mの土坑。調査時には溝としたが、再検討した結果土坑と判断した。残存深0.11m。7世紀後半以降と考えられる須恵器皿片あるいは壺底部片が出土している。

SK55 0.6m×0.4m以上の土坑。残存深0.22m。灰釉陶器が出土していることから、平安時代ごろの遺構。このほか土鍾などが出土している。

SK56 0.4m×0.64mの土坑。残存深0.48m。7世紀後半ごろの須恵器甕が出土している。そのほか、

土師器甕片や須恵器甕片、焼成粘土などが出土した。

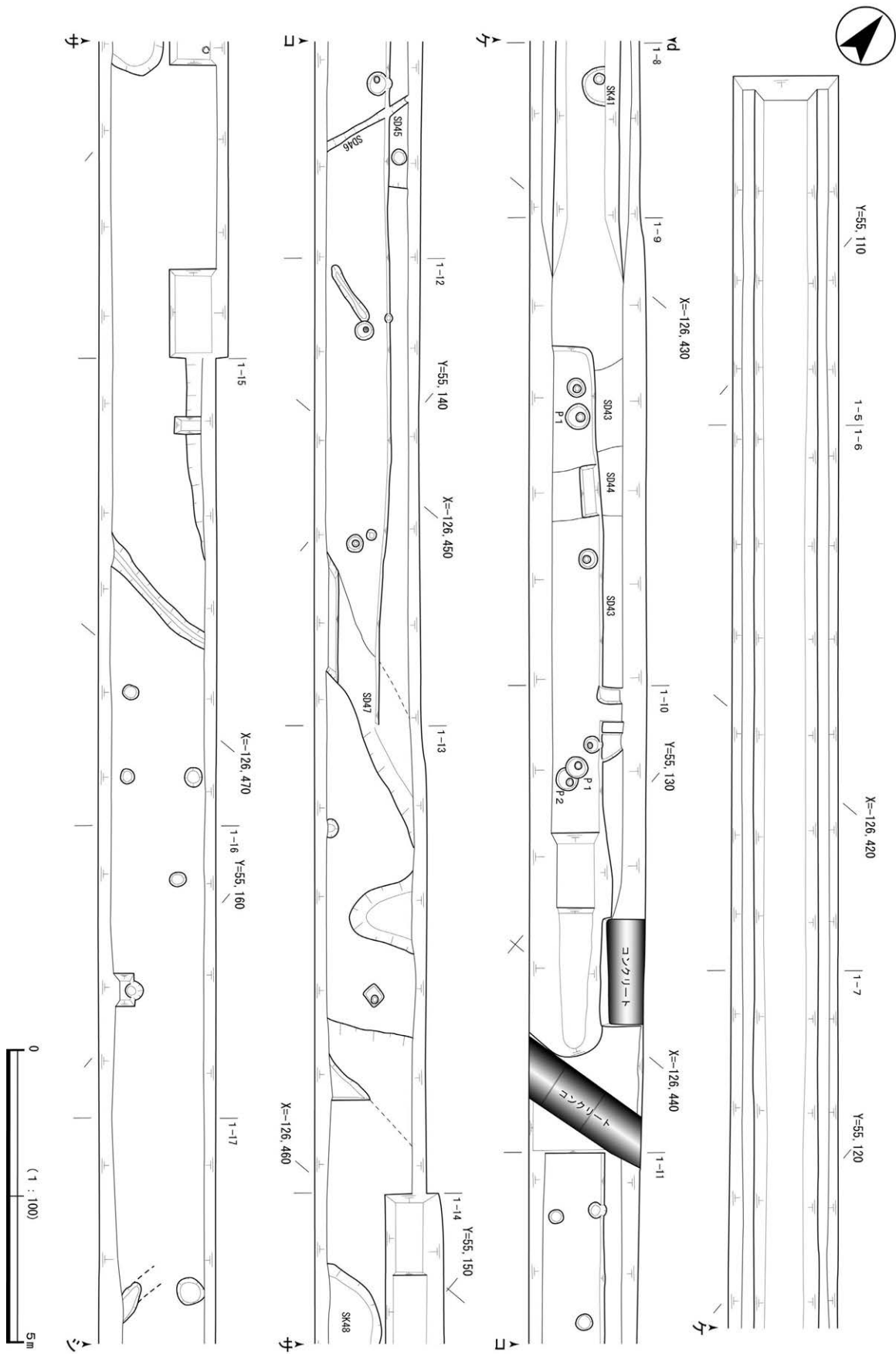
SD57 幅0.32m、長さ0.55m以上の東西溝。残存深0.38m。SD59と重複関係にあり、それに先行する。土師器小片が出土しているが、時期の特定には至らなかった。

SD58 幅0.35m、長さ6.87m以上の南北溝。残存深0.18m。いずれも小片につき図化しなかったが、7世紀後半以降のものであろう土師器高杯、須恵器杯、甕、壺などが出土している。

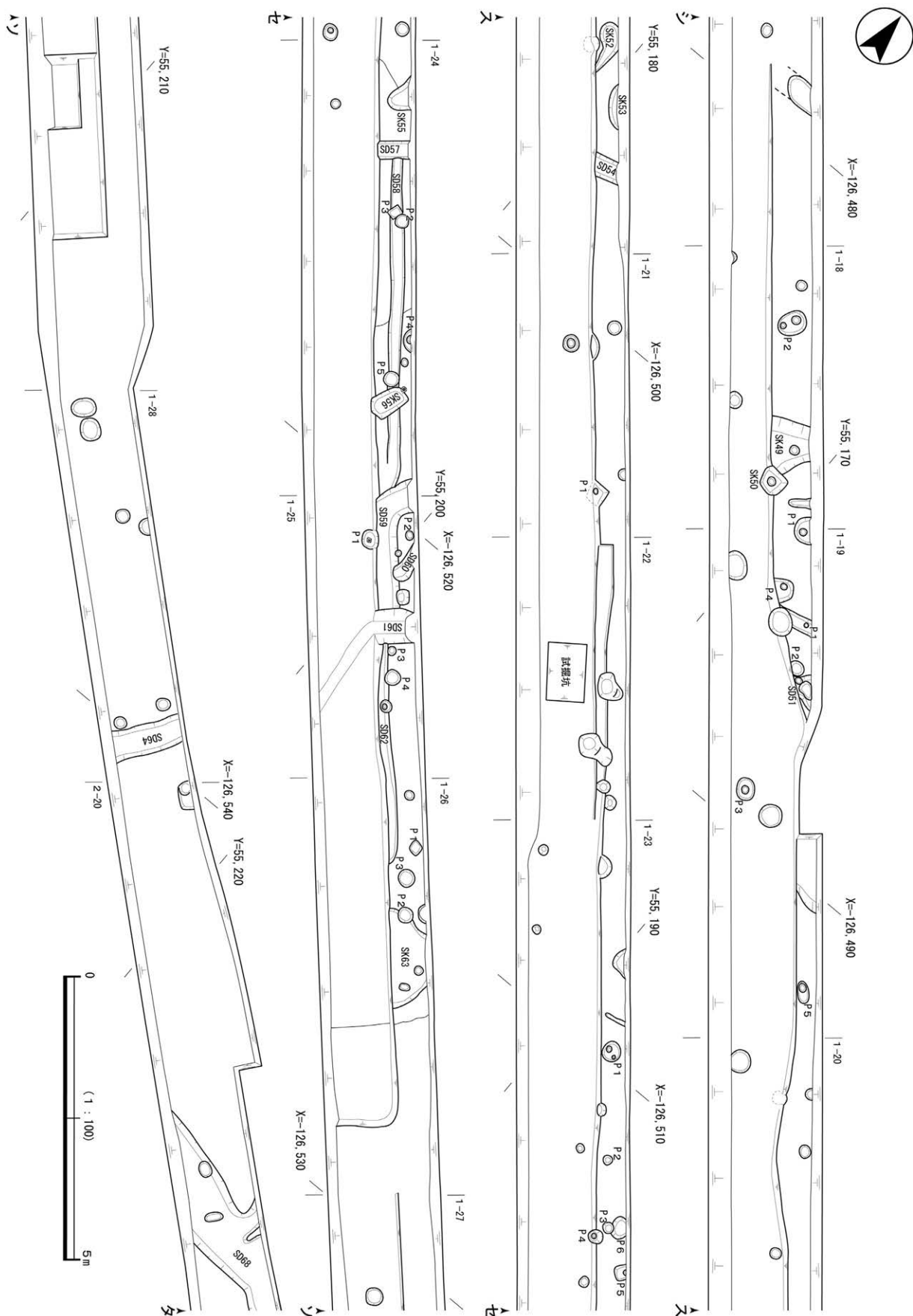
SD59 幅0.6m、長さ2.75m以上の溝。残存深0.31m。7世紀後半ごろの須恵器蓋つまみなどが出土しており、このころに廃絶された遺構であろう。SD57と重複関係にあるほか、SD60・61とも重複関係にあり、それに先行する。

SD60 幅0.26m、長さ0.5m以上の南北溝。残存深0.35m。須恵器瓶類のほか、図化できる遺物は少ないが7世紀後半ごろの土師器小片・須恵器小片が出土したことから、このころに廃絶したとみてよい。SD59・61と重複関係にある。

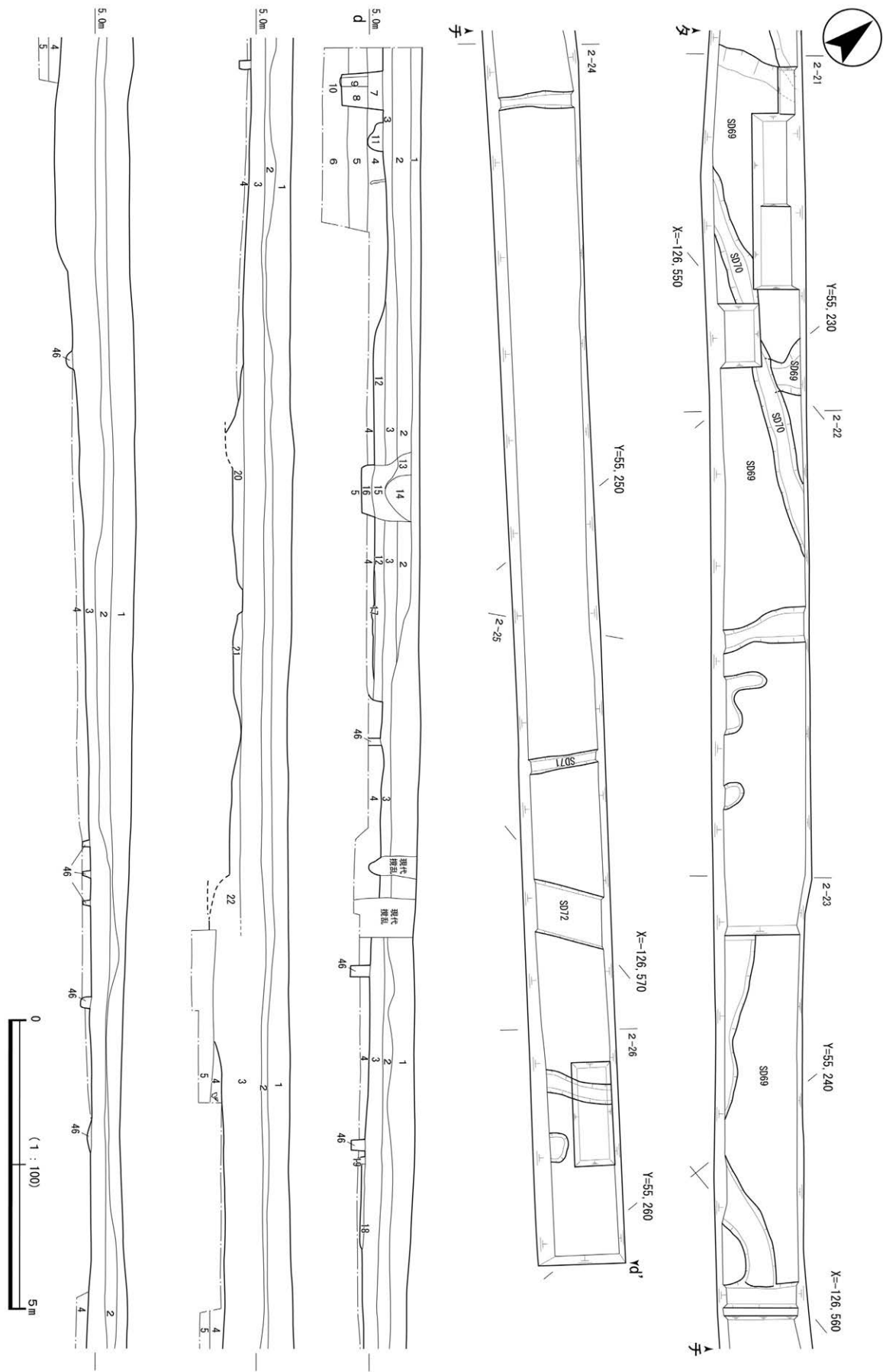
SD61 幅0.52m、長さ2.35m以上の南北溝。残存深0.44m。灰釉陶器が出土していることから、平安時代ごろに廃絶された溝であろう。SD62と重複関係



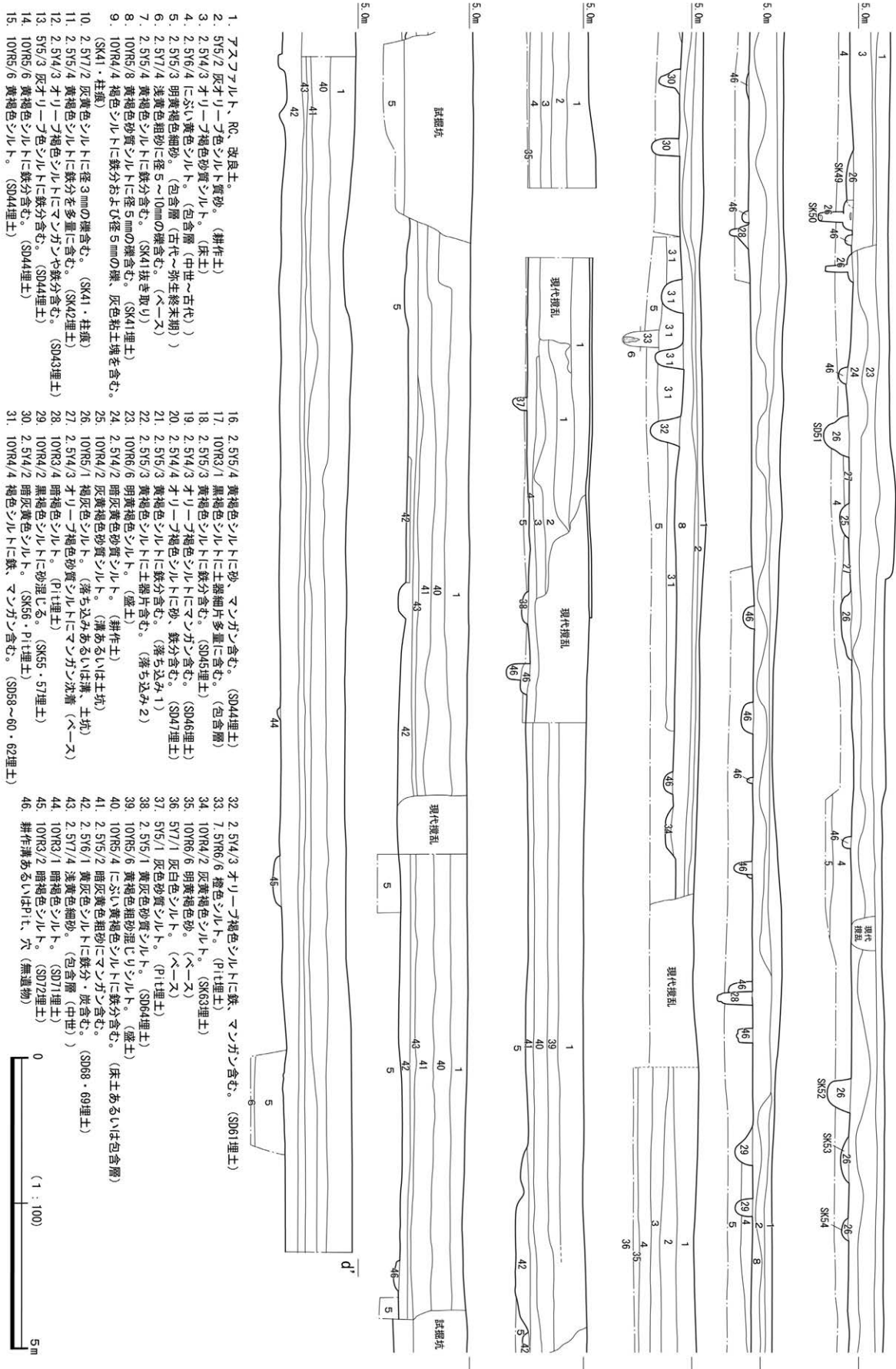
第Ⅶ-7図 金沢川遺跡(第2次) 1・2区平面図1(1:100)



第七-8図 金沢川遺跡(第2次) 1・2区平面図2 (1:100)



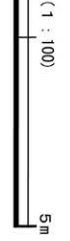
第Ⅶ-9図 金沢川遺跡(第2次) 1・2区平面図3・土層断面図1 (1:100)



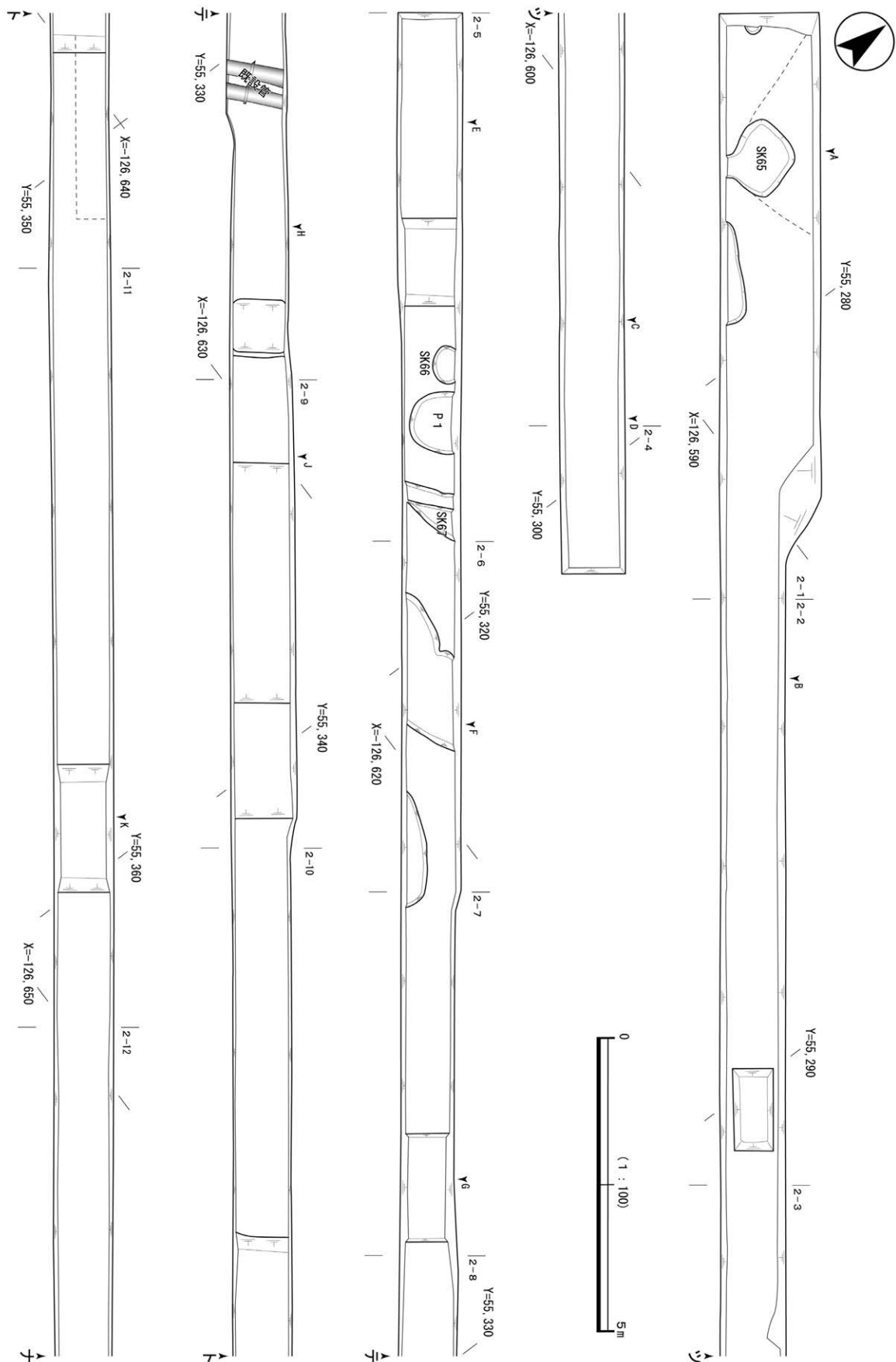
1. アスファルト、RC、改良土。
2. 5Y/2 灰オリーブ色シルト質砂。(耕作土)
3. 2.5Y/3 オリーブ褐色砂質シルト。(床土)
4. 2.5Y/4 に近い黄色シルト。(包含層(中世~古代))
5. 2.5Y/3 明黄褐色細砂。(包含層(古代~弥生終末期))
6. 2.5Y/4 浅黄色粗砂に径5~10mmの礫を含む。(ベース)
7. 2.5Y/4 浅黄色シルトに鉄分を含む。(SK41抜き取り)
8. 10YR5/8 黄褐色砂質シルトに径5mmの礫を含む。(SK41埋土)
9. 10YR4/4 褐色シルトに鉄分および径5mmの礫、灰色粘土塊を含む。(SK41・柱痕)
10. 5Y/2 灰黄色シルトに径3mmの礫を含む。(SK41・柱痕)
11. 2.5Y/4 黄褐色シルトに鉄分を多重に含む。(SK42埋土)
12. 2.5Y/3 オリーブ褐色シルトにマンガンや鉄分を含む。(SDM3埋土)
13. 5Y/3 灰オリーブ色シルトに鉄分を含む。(SDM4埋土)
14. 10YR5/6 黄褐色シルトに鉄分を含む。(SDM4埋土)
15. 10YR5/6 黄褐色シルト。(SDM4埋土)

16. 2.5Y/4 黄褐色シルトに砂、マンガンを含む。(SDM4埋土)
17. 10YR3/1 黒褐色シルトに土器細片多重に含む。(包含層)
18. 2.5Y/3 黄褐色シルトに鉄分を含む。(SDM5埋土)
19. 2.5Y/3 オリーブ褐色シルトにマンガンを含む。(SDM6埋土)
20. 2.5Y/4 オリーブ褐色シルトに砂、鉄分を含む。(SDM7埋土)
21. 2.5Y/3 黄褐色シルトに土器片を含む。(落ち込み1)
22. 2.5Y/3 黄褐色シルトに土器片を含む。(落ち込み2)
23. 10YR6/6 明黄褐色シルト。(盛土)
24. 2.5Y/2 暗灰黄色砂質シルト。(耕作土)
25. 10YR4/2 暗灰黄色砂質シルト。(耕作土)
26. 10YR5/1 褐色シルト。(落ち込みあるいは溝、土坑)
27. 2.5Y/3 オリーブ褐色砂質シルトにマンガン沈着(ベース)
28. 10YR3/4 黒褐色シルト。(Pit埋土)
29. 10YR4/2 黒褐色シルトに砂混じる。(Pit埋土)
30. 2.5Y/2 暗灰黄色シルト。(SK55・Pit埋土)
31. 10YR4/4 褐色シルトに鉄、マンガンを含む。(SD56~60・62埋土)

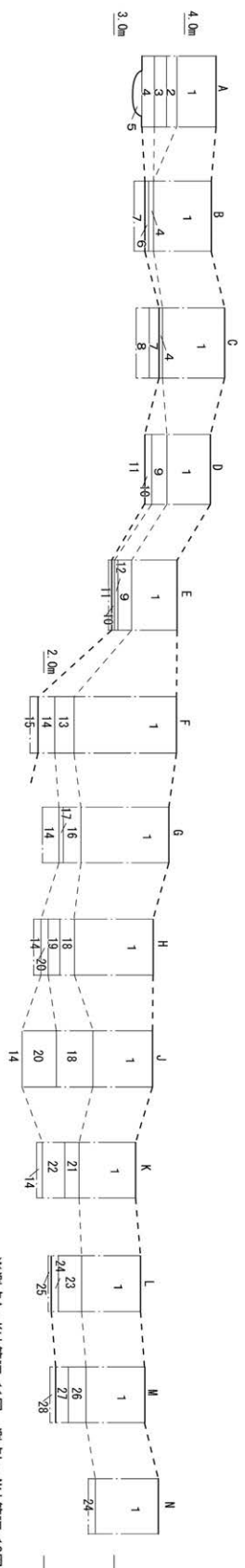
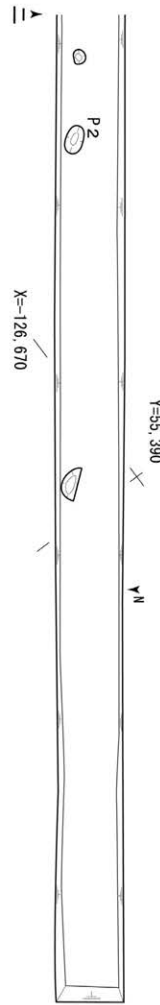
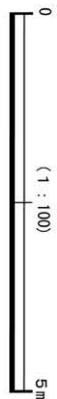
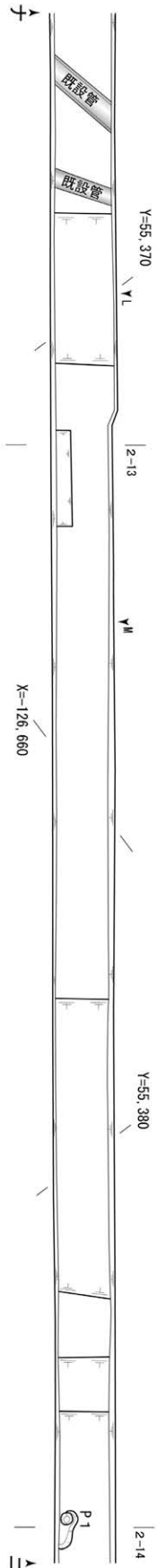
32. 2.5Y/3 オリーブ褐色シルトに鉄、マンガンを含む。(SD61埋土)
33. 7.5YR6/6 褐色シルト。(Pit埋土)
34. 10YR4/2 灰黄褐色シルト。(SK63埋土)
35. 10YR6/6 明黄褐色砂。(ベース)
36. 5Y7/1 灰白色シルト。(ベース)
37. 5Y5/1 灰白色砂質シルト。(Pit埋土)
38. 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト。(SD64埋土)
39. 10YR5/6 黄褐色粗砂混じりシルト。(盛土)
40. 10YR5/4 に近い黄褐色シルトに鉄分を含む。(床土あるいは包含層)
41. 2.5Y/2 暗灰黄色粗砂にマンガンを含む。
42. 2.5Y6/1 黄灰色シルトに鉄分、炭を含む。(SD68・69埋土)
43. 2.5Y7/4 浅黄色細砂。(包含層(中世))
44. 10YR3/1 暗褐色シルト。(SD71埋土)
45. 10YR3/2 暗褐色シルト。(SD72埋土)
46. 耕作溝あるいはPit、穴(無遺物)



第VII-10図 金沢川遺跡(築2次) 1・2区土層断面図2(1:100)



第Ⅶ-11図 金沢川遺跡(第2次)2区平面図1(1:100)



※測点A~Kは第Ⅳ-11図、測点L~Nは第Ⅳ-12図

1. アスファルト、RC、改良土。
2. 10R/2 にふい黄褐色土に径3~8mmの粗砂混じる。
3. 10R3/1 黒褐色土に極細砂混じる。
4. 暗灰褐色土。(包含層)
5. 黒褐色粘質土。(SK65埋土)
6. 7. 5R4/1 暗赤灰色粘土。(包含層)
7. 2. 5V6/6 明黄褐色粘土。(ベース)
8. 10R6/2 灰赤色砂質土。(ベース)
9. 10R4/6 赤褐色土。
10. 5V6/2 灰オリーブ色粘質土。
11. 5V5/3 灰オリーブ色粘質土に径2mmの長石含む。(ベース)
12. 5V6/2 灰オリーブ色砂質土。(包含層)
13. 暗灰褐色土。
14. 黒色土に植物遺存体多量に含む。
15. 砂礫。(ベース)
16. 灰色粘土に7. 5R4/1 暗赤灰色細砂粒含む。
17. 2. 5V4/8 赤褐色土に細砂粒含む。
18. 7. 5V4/1 暗灰褐色土に細砂粒含む。
19. 5V5/3 灰オリーブ色土。
20. 5V4/1 極灰色土。
21. 5V4/6 赤褐色土にオリーブ色土混じる。(包含層)
22. 10R4/1 暗赤灰色土。(包含層)
23. 5R3/2 暗赤褐色土。
24. 5V5/6 オリーブ色土。(包含層)
25. 灰褐色土。(ベース)
26. 2. 5R4/3 にふい赤褐色土。
27. 2. 5R3/2 暗赤灰色土。
28. 灰オリーブ色土に径2mmの粗砂混じる。(ベース)

第Ⅶ-12図 金沢川遺跡(第2次)2区平面図2・柱状図(1:100)

係にあり、それに先行する。

S D62 幅0.20m、長さ4.90m以上の溝。残存深0.18m。S D58に接続する溝か。土師器小片が出土しているが、時期の特定には至らなかった。S D61と重複関係にある。

S K63 1.78m×0.65m以上の土坑。残存深0.07m。13世紀ごろの山茶碗の小片が出土している。このほか、土師器小片、須恵器甕片などが出土している。

S D64 幅0.55m、長さ1.2m以上の南北溝。残存深0.08m。図化に耐えうるものはないが、7世紀後半ごろのものと考えられる土師器甕および須恵器杯底部の小片が出土している。

2区

S K65 1.0m以上×1.09m以上の土坑。残存深0.23m。出土遺物には7世紀後半から8世紀初めごろの二段放射暗文を施す土師器杯A、須恵器杯Bをはじめとした、官衙域などで出土するような食器類を含むほか、小片だが竈も出土している。このほか、焼成粘土を多数出土している。

S K66 0.66m×0.38m以上の土坑。残存深0.12m。7世紀後半ごろの土師器小片や須恵器甕などが出土した。

S K67 幅0.8m以上、長さ0.51m以上の土坑。残存深0.28m。土師器や須恵器の小片が出土した。

S D68 幅2.97m、長さ2.71m以上の東西溝。7世紀後半ごろの須恵器平瓶が出土しているほか、土師器小片が出土。S D69と重複関係にある。

S D69 S D68に先行する溝。2区18～39m付近に広がる溝状の遺構。調査区外へ遺構が広がっているため、規模等は不明。古代の遺物包含層の可能性もある。出土した須恵器杯蓋には「かえり」があるものと、ないものが併存している。そのほか、須恵器杯B・瓦片などが出土していることから、この溝状遺構の時期については7世紀後半以降であろう。

S D70 幅0.4m、長さ5.77m以上の東西溝。残存深0.11m。S D69下層で検出した。出土遺物は、土師器小片のみのため時期の特定には至らなかった。

S D71 幅0.26m、長さ1.21m以上の東西溝。残存深0.1m。遺物の出土がなく、時期は不明である。

S D72 幅0.36m、長さ1.24m以上の南北溝。残存深0.14m。遺物の出土がなく、時期は不明である。

3区

S D73 幅1.12m以上、長さ2.61m以上の南北溝。山茶碗が出土していることから、中世に属する。竪穴建物の可能性もある。S D74と重複関係にあり、それに先行する。このほか土師器小片や、小片ながら須恵器杯H蓋、灰釉陶器なども出土しており、S D73の機能期間は長期に及ぶ可能性もある。

S D74 幅0.9m、長さ2.09m以上の溝。残存深0.85m。陶磁器片、土師器小片、平安時代ごろの瓦などが出土している。近代以降の溝であろう。S D73とは重複関係にある。

S D75 幅0.6m、長さ0.51m以上の溝。残存深0.21m。図化に耐えうるものはないものの、山茶碗小片、土師器小片が出土している。

S K77 2.29m×0.47m以上の土坑。残存深0.4m。北端は調査区外へ広がる。底部から木製の鋤が出土した。このほか、7世紀後半ごろの須恵器高杯、杯H蓋などが出土している。

S K78 S X80に帰属する土坑。調査時は別の遺構と判断していた。7世紀中ごろから後半ごろのものと考えられる須恵器杯Hが出土している。

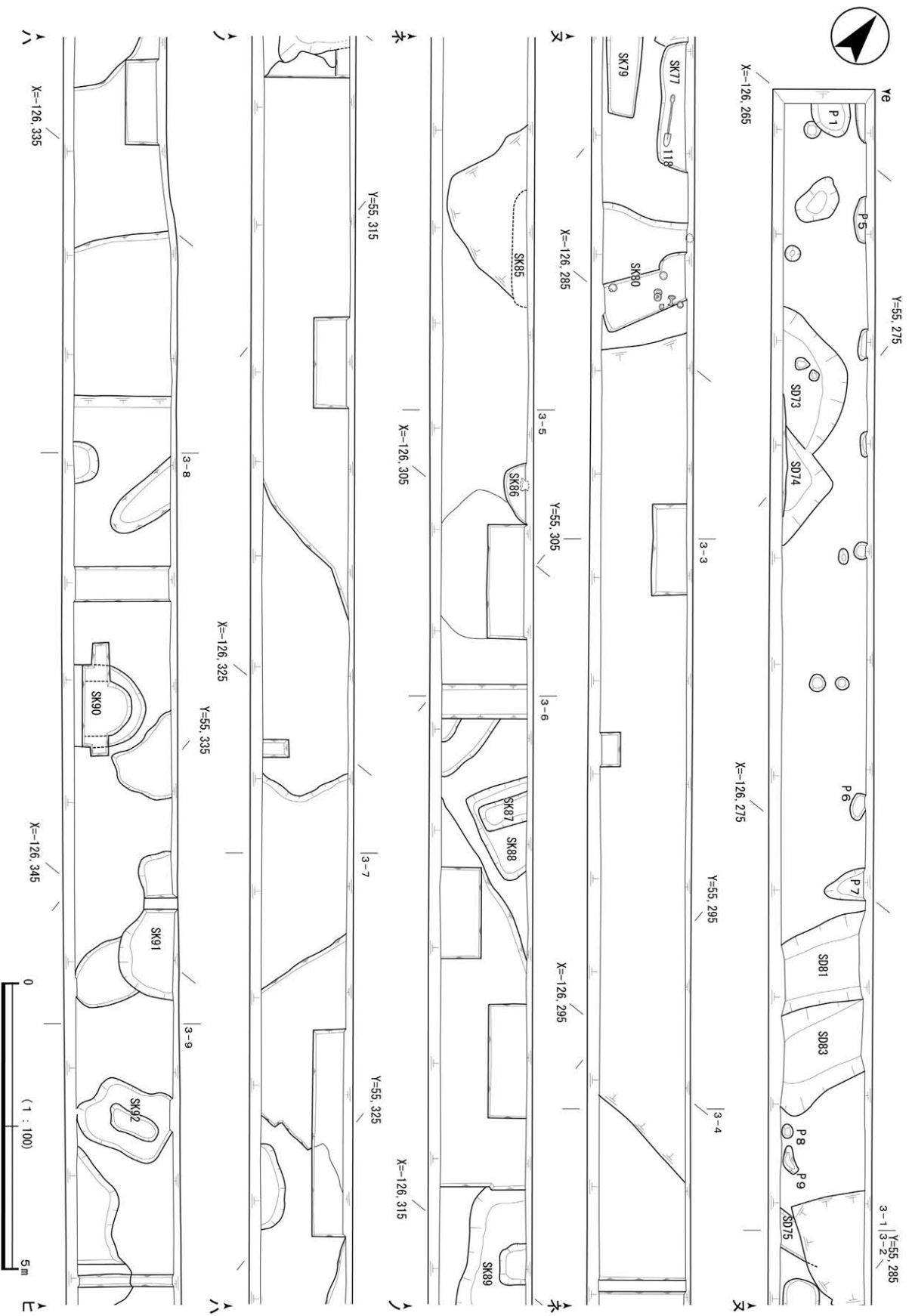
S K79 1.81m×0.62mの土坑。残存深0.27m。出土遺物がないため、時期の特定には至らなかった。

S X80 2.28m×1.61m以上の南北方向に延びる土壙墓。残存深0.55m。南北の規模は両端とも調査区外へ広がっており、わからない。完形の須恵器供膳具類が集中して出土した状況からみて、土壙墓と考えられるが、人骨などは見つからなかった。底部に植物質の堆積が認められる。7世紀中ごろから後半に属する遺構と考えられる。

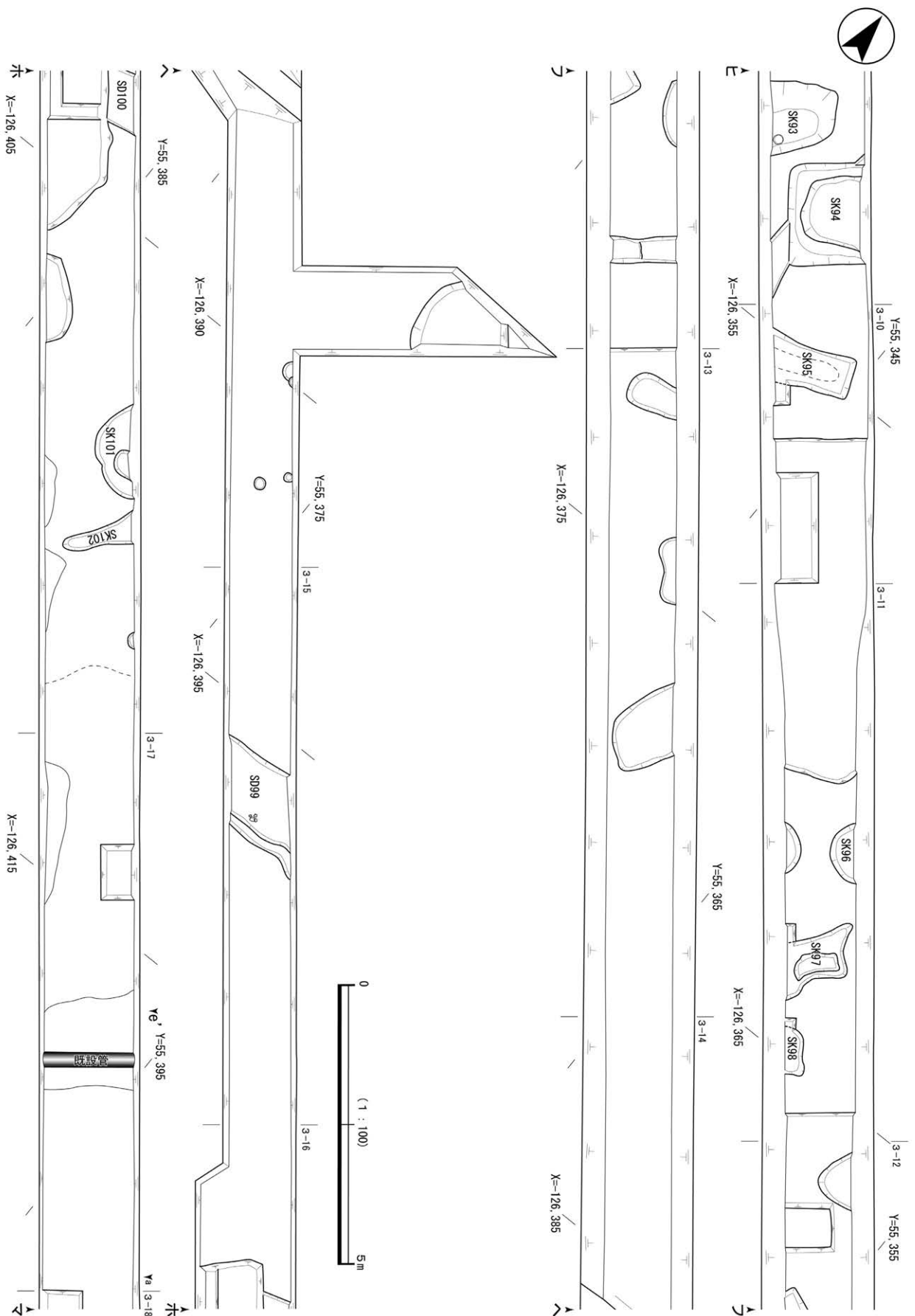
S D81 幅1.54m、長さ1.57m以上の南北溝。残存深0.74m。S D83と東肩を接している。いずれも図化できない小片だが、土師器、山茶碗、陶磁器などが出土している。近世以降の遺構であろう。

S D82 溝。山茶碗が出土しているが、状況からみてもかく乱溝であろう。

S D83 幅1.81m、長さ1.6m以上の南北溝。残存深0.82m。S D81西肩を接している。12世紀後半から13世紀前半ごろの山茶碗が出土していることから、この溝の廃絶時期もこのころであろう。山茶碗のほか、土錘が出土している。



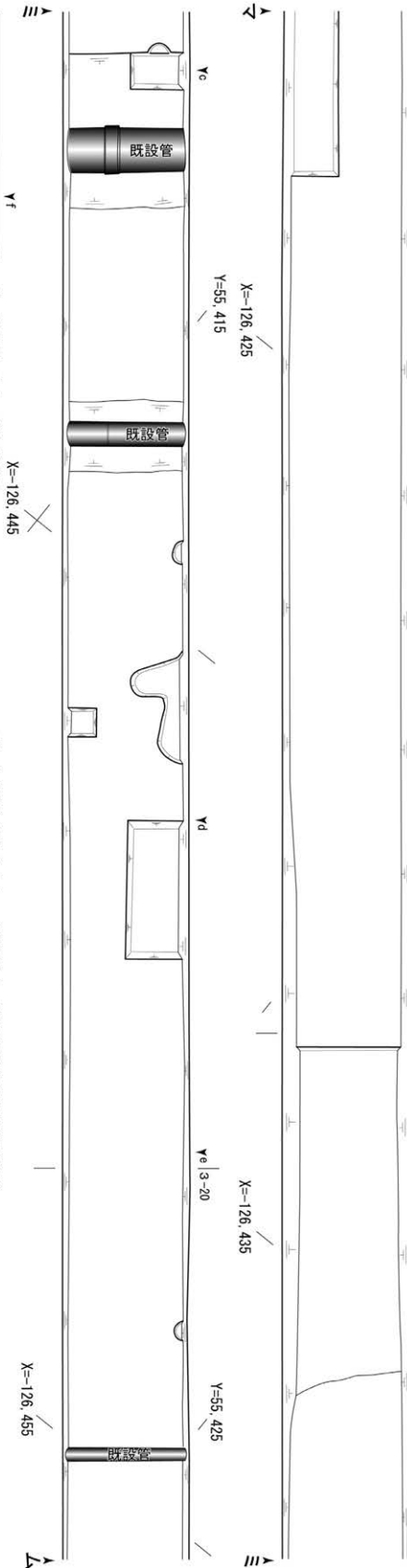
第VII-13図 金沢川遺跡(第2次)3区平面図1(1:100)



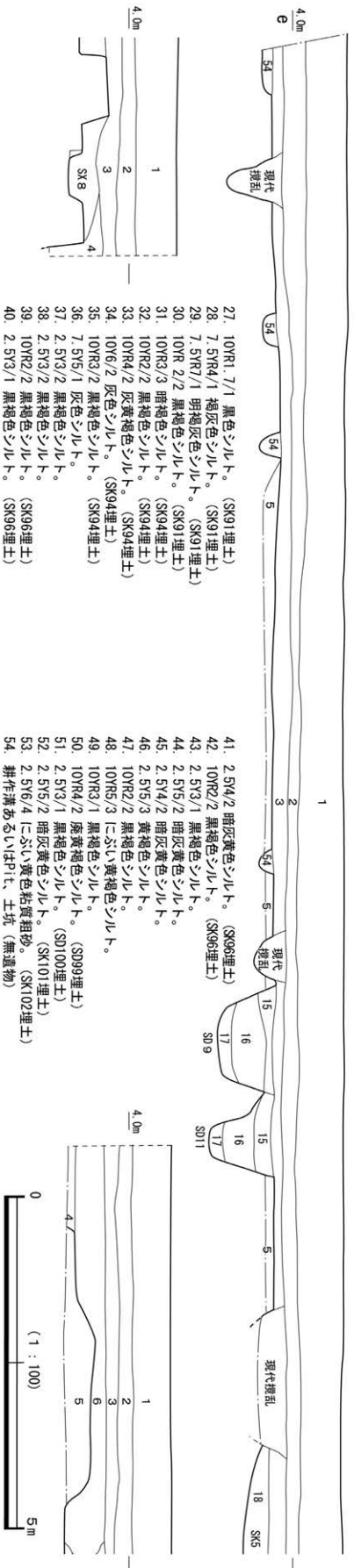
第VII-14図 金沢川遺跡(第2次)3区平面図2(1:100)



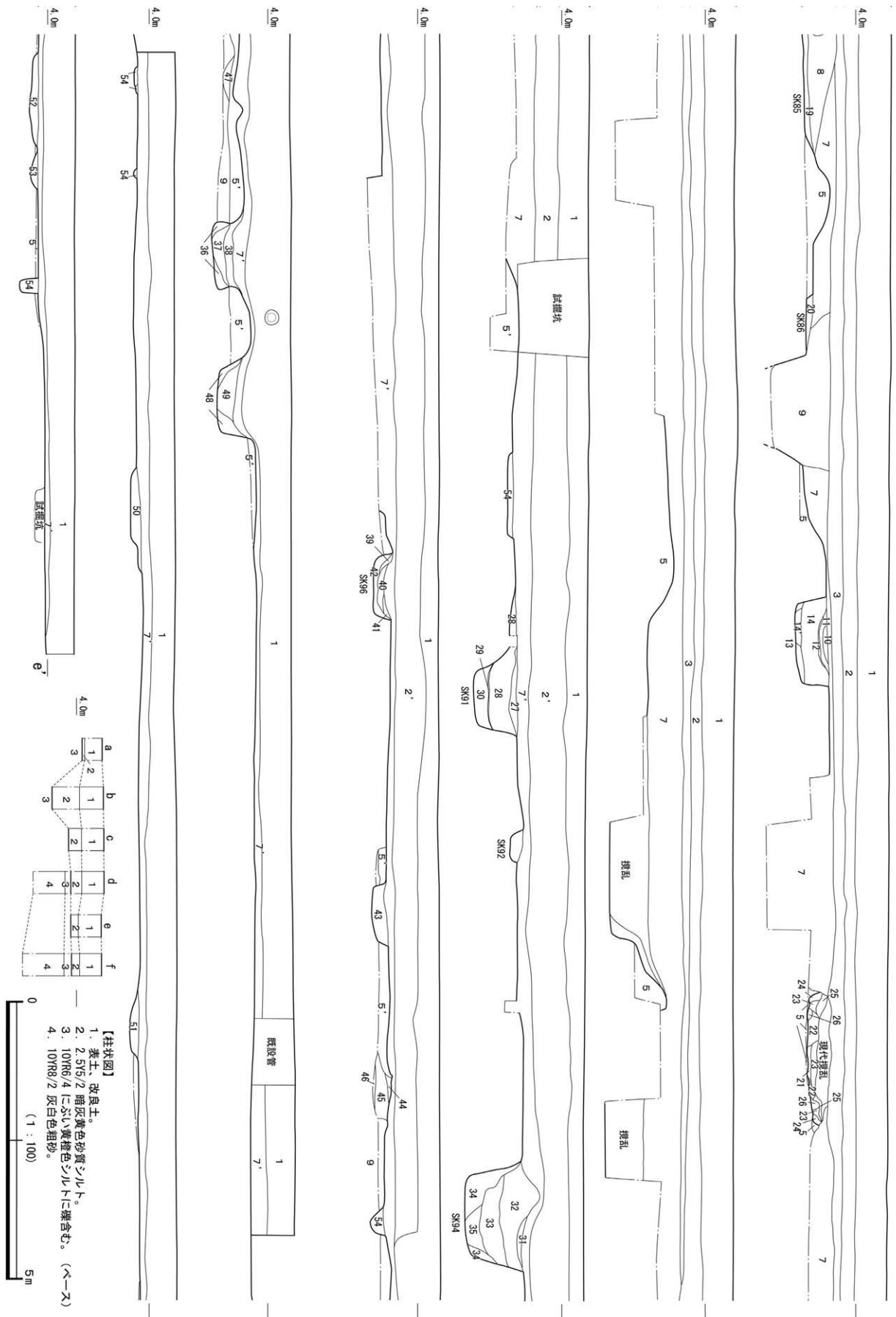
Y=55, 405
Yb 3-18 | 3-19



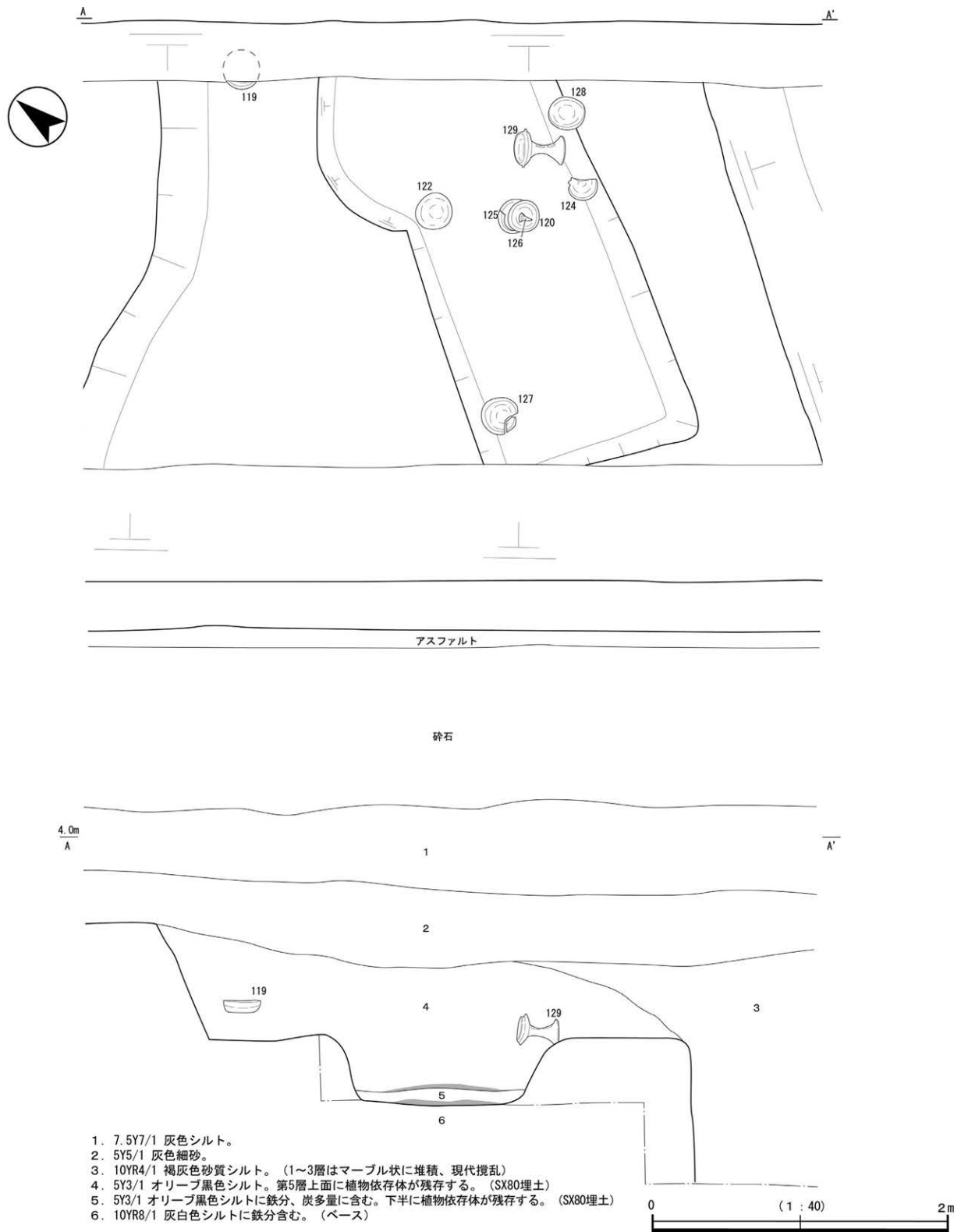
- Y=126, 425
Y=55, 415
Y=126, 445
Y=126, 435
Y=55, 425
Y=126, 455
1. アスファルト、および砕石。(造成土か)
 2. 5Y7/1 灰色粘質細砂。(造成土か)
 3. 5Y5/1 灰色粗砂にシルトがマージル状に混じる。(現代擾乱)
 4. 10YR4/1 褐灰色砂質シルト。(現代擾乱)
 5. 10YR8/1 灰白色シルト。(ベーム)
 6. 5Y3/1 オリーブ黒色シルトに灰色砂混じる。(現代擾乱)
 7. 10YR4/2 灰黄褐色シルト。(現代擾乱)
 8. 10R7/6 明黄褐色シルトに黒褐色シルト塊多く混じる。(現代擾乱)
 9. 7.5YR8/6 淺黄褐色シルト。(SK87埋土)
 10. 7.5Y4/3 暗オリーブ色土。(SK87埋土)
 11. 7.5YR3/4 暗褐色土。(SK87埋土)
 12. 2.5Y6/2 灰黄色シルト。(SK87埋土)
 13. 10YR6/2 灰黄褐色シルト。(SK88埋土)
 14. 2.5Y2/1 黒色シルト。(SK88埋土・14'層は植物遺存体集中箇所)
 15. 7.5YR3/4 暗褐色シルト。(SD81・83埋土)
 16. 10Y3/4 暗赤色シルト。(SD81・83埋土)
 17. 10R5/1 赤灰色シルト。(SD81・83埋土)
 18. 10YR3/2 黒褐色シルト。(SK77埋土)
 19. 10YR3/2 黒褐色シルト。(SK85)
 20. 10YR2/1 黒色シルト。(SK86)
 21. N1.5/0 黒色シルトに植物遺存体を多く含む。棕色粒子を多く含む。
 22. N1.5/0 黒色シルトに植物遺存体、径1mm以下の白色、棕色粒子を多く含む。
 23. 10YR1.7/1 黒色シルトに植物遺存体をわずかに含む。
 24. 10YR5/2 灰黄褐色シルト。
 25. 7.5YR3/1 黒褐色シルト。
 26. 10YR3/2 黒褐色シルト(東)、10YR4/2 灰黄褐色シルト(西)。



第VII-15図 金沢川遺跡(第2次)3区平面図3・土層断面図1(1:100)



第VII-16図 金沢川遺跡(第2次)3区土層断面図2・柱状図(1:100)



第VII-17図 金沢川遺跡(第2次)3区SX80平面図・土層断面図(1:40)

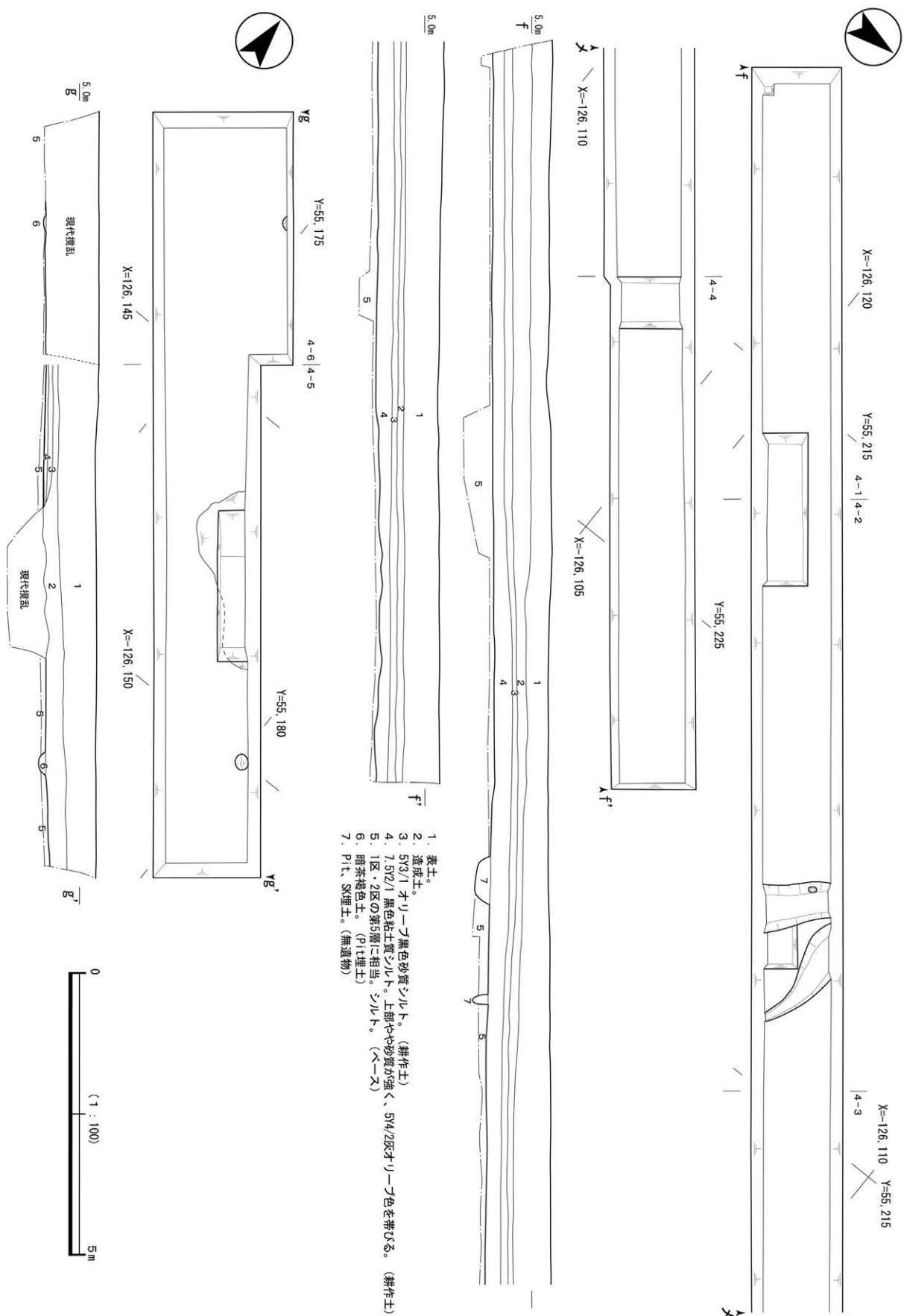
SK84 1.5m×0.9mの土坑。木片が出土。時期を判断できる遺物が出土しなかったため、特定には至らなかった。

SK85 2.05m以上×0.24m以上の土坑。残存深0.33m。土師器高杯が出土したほか、図化できない

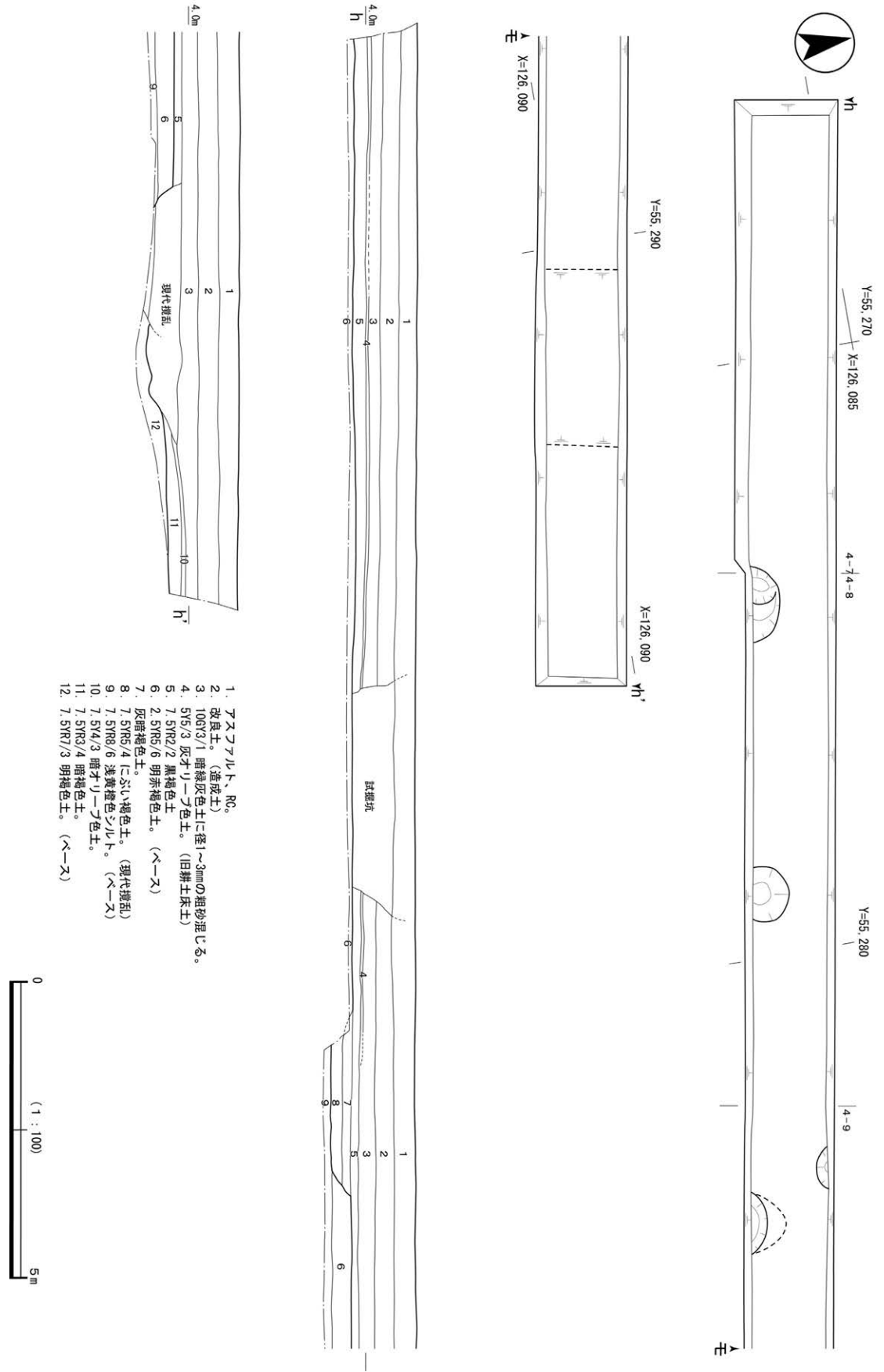
小片にも高杯や甕を含む。

SK86 1.07m以上×0.40m以上の土坑。残存深0.06m。土師器甕が出土。

SK87 1.14m以上×1.66mの土坑。残存深0.57m。灰釉陶器が出土している。平安～中世ごろの遺構で、

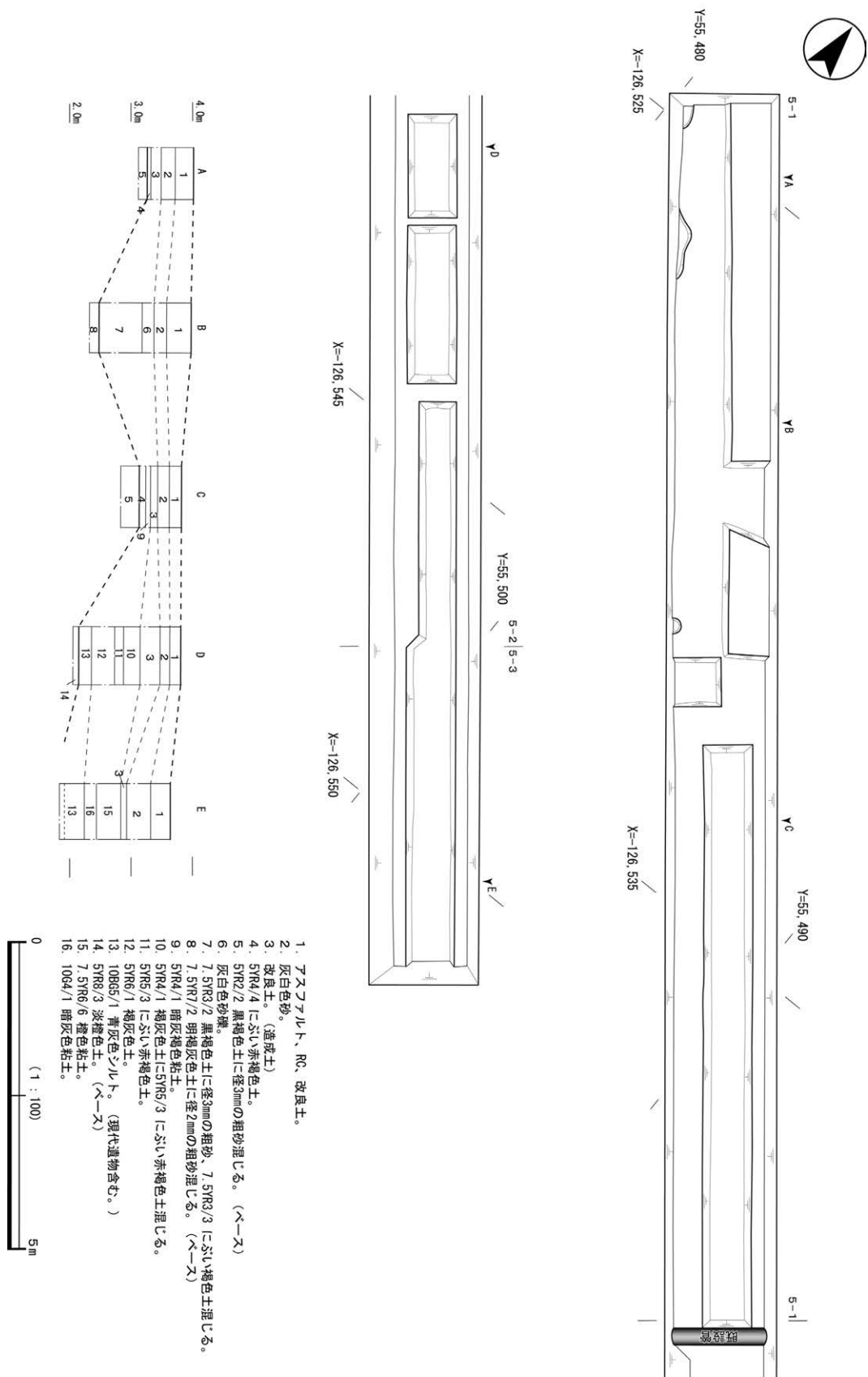


第七-18図 金沢川遺跡(第2次)4区平面図1・土層断面図1(1:100)



1. マスフラウト、Rc。
2. 改良土。(造成土)
3. 10G3/1 暗緑灰色土に径1~3mmの粗砂混じる。
4. 5Y5/3 灰オリーブ色土。(旧耕土床土)
5. 7.5YR2/2 黒褐色土
6. 2.5YR5/6 弱赤褐色土。(ベース)
7. 灰暗褐色土。
8. 7.5YR5/4 に近い褐色土。(現代攪乱)
9. 7.5YR8/6 淺黄褐色シルト。(ベース)
10. 7.5Y4/3 暗オリーブ色土。
11. 7.5YR3/4 暗褐色土。(ベース)
12. 7.5YR7/3 明褐色土。(ベース)

第VII-19図 金沢川遺跡(第2次)4区平面図2・土層断面図2(1:100)



第七-20図 金沢川遺跡(第2次)5区平面図・柱状図(1:100)

このほか、土錘、須恵器瓶類が出土している。

S D 88 溝としたが、落ち込みの可能性がある。山茶碗、小片だが土師器羽釜が出土している。中世の遺構か。

S K 89 1.22m以上×2.37mの土坑。残存深0.28m。土師器小片が出土しているが、時期の特定には至らなかった。

S K 90 1.43m×1.25m以上の土坑。残存深0.86m。遺物が出土しなかったため、時期は不明である。

S K 91 2.61m×0.96m以上の土坑。残存深0.87m。遺物が出土しなかったため、時期の特定には至らなかった。

S K 92 1.16m×1.66mの土坑。残存深0.31m。いずれも小片で、図化できるものはなかった。検出時、黒色の植物が面的に分布する状況であった。

S K 93 1.18m以上×1.32mの土坑。残存深0.45m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、土師器甕が出土した。古墳時代後期から平安時代ごろのうち、いずれかの時期に属するものだろう。

S K 94 1.3m以上×1.81mの土坑。残存深1.07m。葉（種類不明）が出土した。葉以外の遺物が出土しなかったため、時期の特定には至らなかった。

S K 95 1.58m以上×0.77mの土坑。残存深0.43m。遺物が出土しなかったため、時期の特定には至らなかった。

S K 96 1.08m×0.46m以上の土坑。残存深0.54m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、古式土師器台付甕が出土している。

S K 97 1.2m以上×0.93mの土坑。残存深0.27m。7世紀後半以降の須恵器甕片が出土している。

S K 98 0.86m×0.34m以上の土坑。残存深0.23m。遺物が出土しなかったため、時期の特定には至らなかった。

S D 99 幅1.57m、長さ1.34m以上の東西溝。残存深0.21m。かえりのある須恵器杯蓋が出土している。このほか混入品と考えられる弥生土器を含む。

S D 100 幅1.08m、長さ0.53m以上の東西溝。残存深0.12m。S D 99出土遺物より少し古相に見える須恵器高杯の脚部片、土師器甕片が出土している。

S K 101 1.68m×0.65m以上の土坑。残存深0.11m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、

土師器小片、須恵器杯、甕が出土していることから、古代に属する遺構である。

S K 102 1.28m以上×0.58mの土坑。残存深0.11m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、土師器小片、須恵器甕が出土していることから、古代に属する遺構である。

6区

S D 103 幅0.4m、長さ3.3m以上の南北溝。残存深0.04m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、土師器や須恵器が出土している。古代に属する遺構である。

S D 104 幅0.44m、長さ1.5m以上の南北溝。残存深0.09m。いずれも図化できるものはなかったが、土師器小片や須恵器杯H蓋が出土していることから、古墳時代後期から飛鳥時代の遺構と判断した。

S D 105 幅0.25m、長さ1.33m以上の東西溝。残存深0.06m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、土師器片が出土している。時期の特定には至らなかった。

S D 106 幅0.24m、長さ1.45m以上の斜行溝。残存深0.07m。いずれも図化できるものはなかったが、土師器小片、古代の須恵器甕が出土している。

S K 107 0.72m×0.22mの土坑。残存深0.19m。遺物が出土しなかったため、時期の特定には至らなかった。

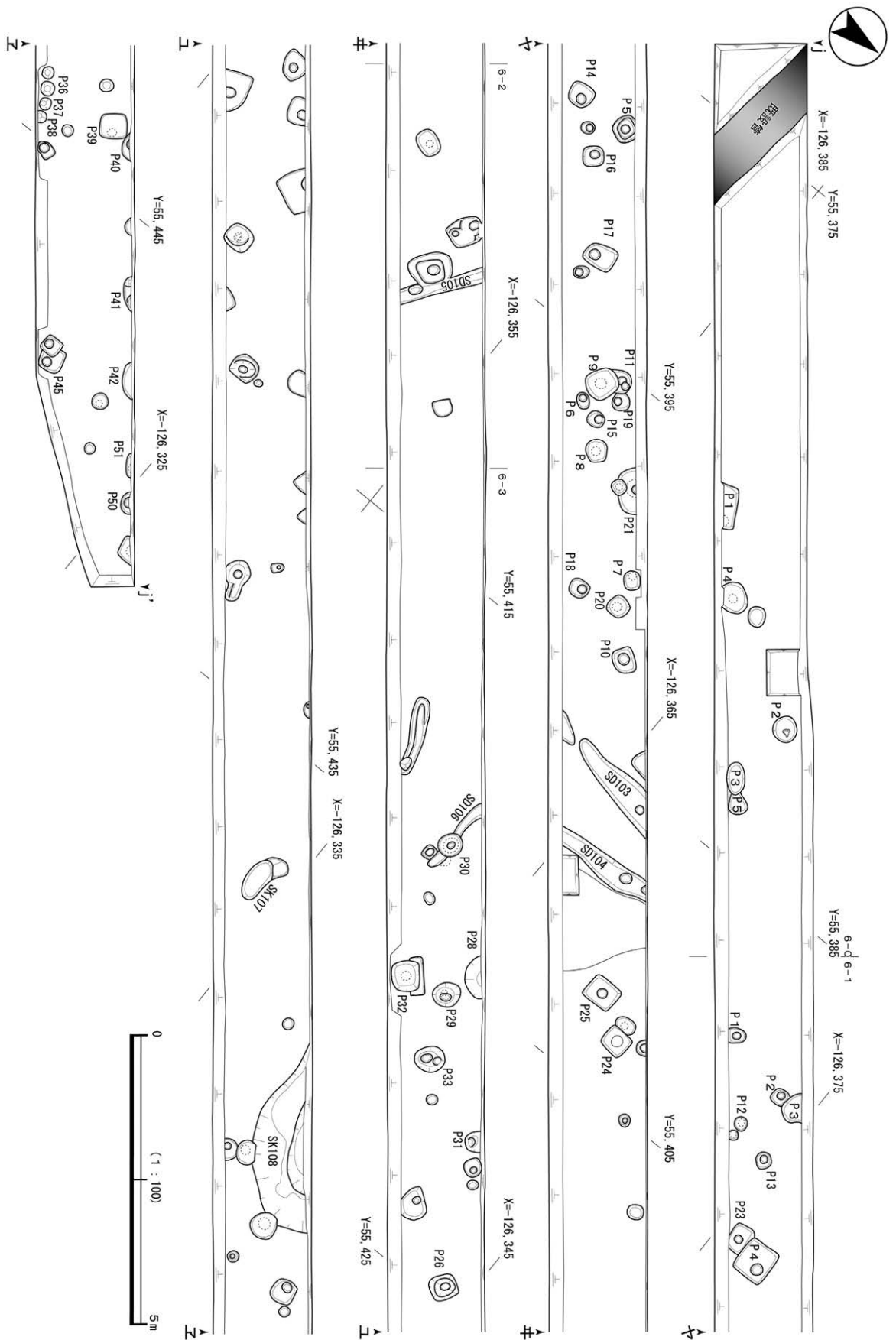
S K 108 0.93m以上×3.3mの平面不定形土坑。残存深1.42m。調査区北へ広がっているため、南北規模は不明である。堆積状況から、徐々に埋まっていったものとみられるが、遺物に大きな時期差は認められない。出土遺物は遺構の規模に対し、多くはない。いずれも7世紀後半ごろのものである。

S K 109 1.05m以上×2.68mの方形の浅い土坑。残存深0.37m。調査区外へ広がっている。須恵器杯Hと須恵器無台杯が出土している。いずれも7世紀後半ごろに属するものである。

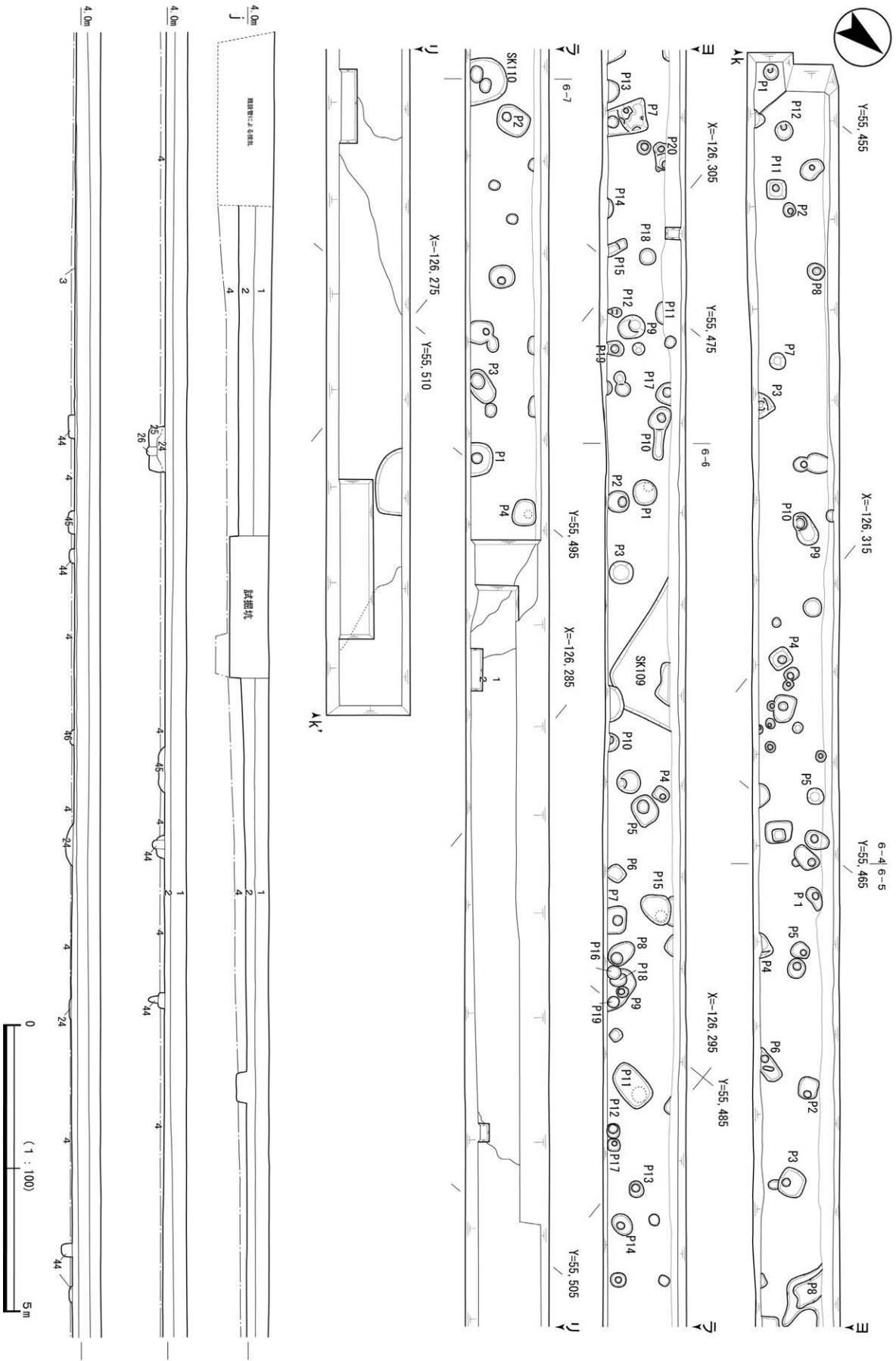
S K 110 0.62m以上×1.04mの土坑。残存深0.68m。7世紀後半ごろの須恵器杯Hや高杯とともに、椀型鉄滓1点が出土している。土坑に被熱痕跡などは確認できなかった。飛鳥時代に属するものであろう。

8区

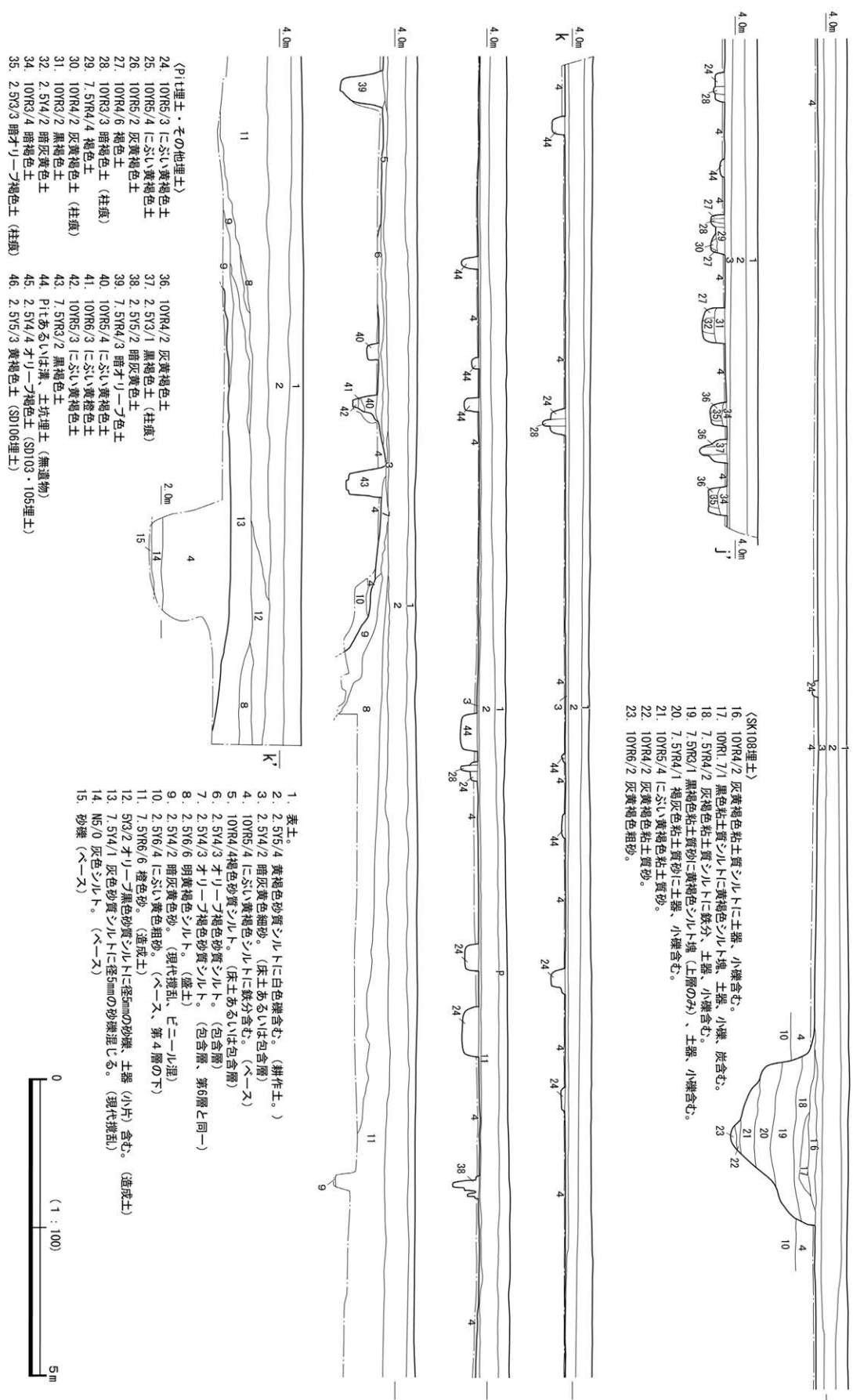
S K 111 陶磁器、絵皿などが出土したことから、



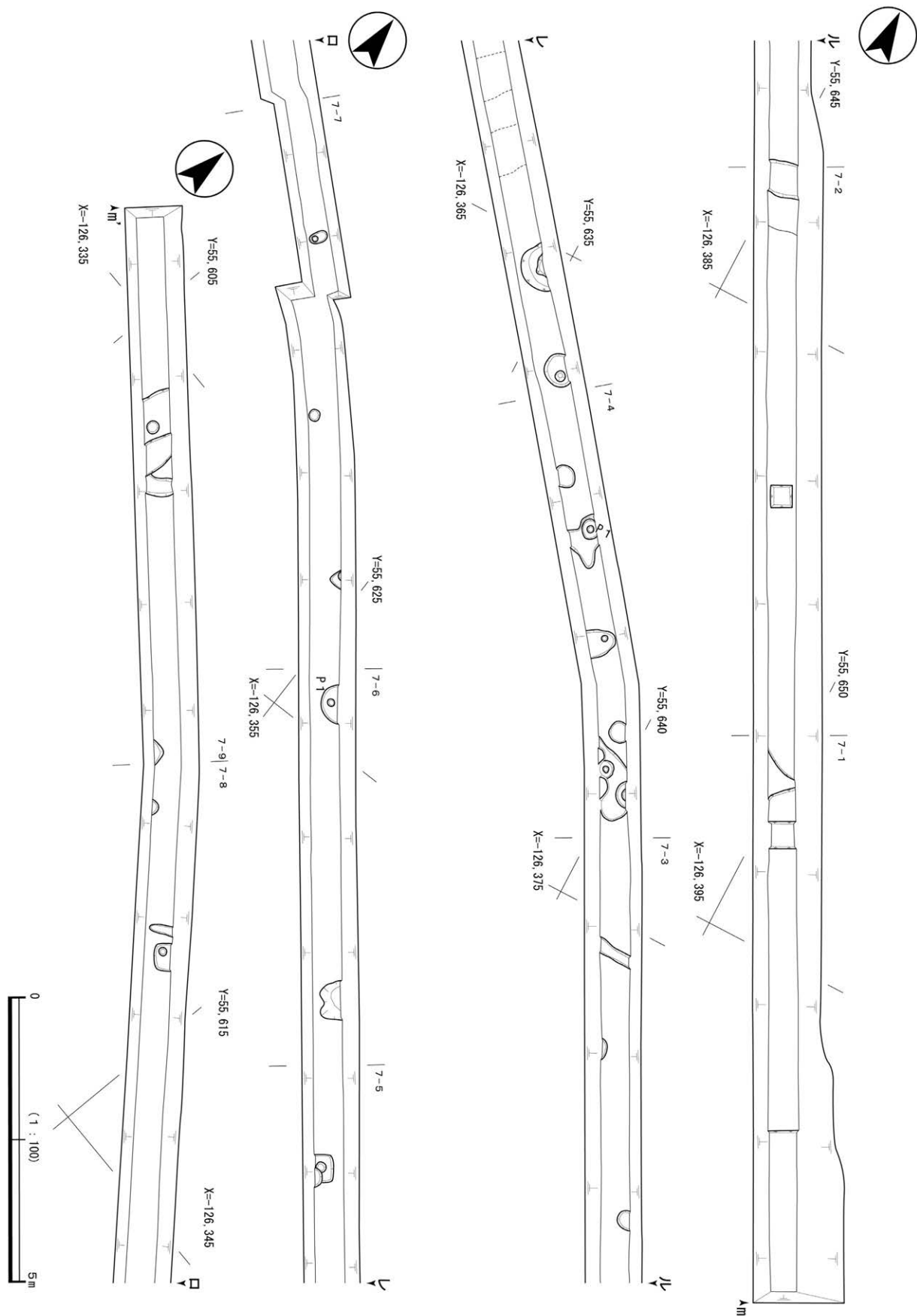
第Ⅶ-21図 金沢川遺跡(第2次)6区平面図1(1:100)



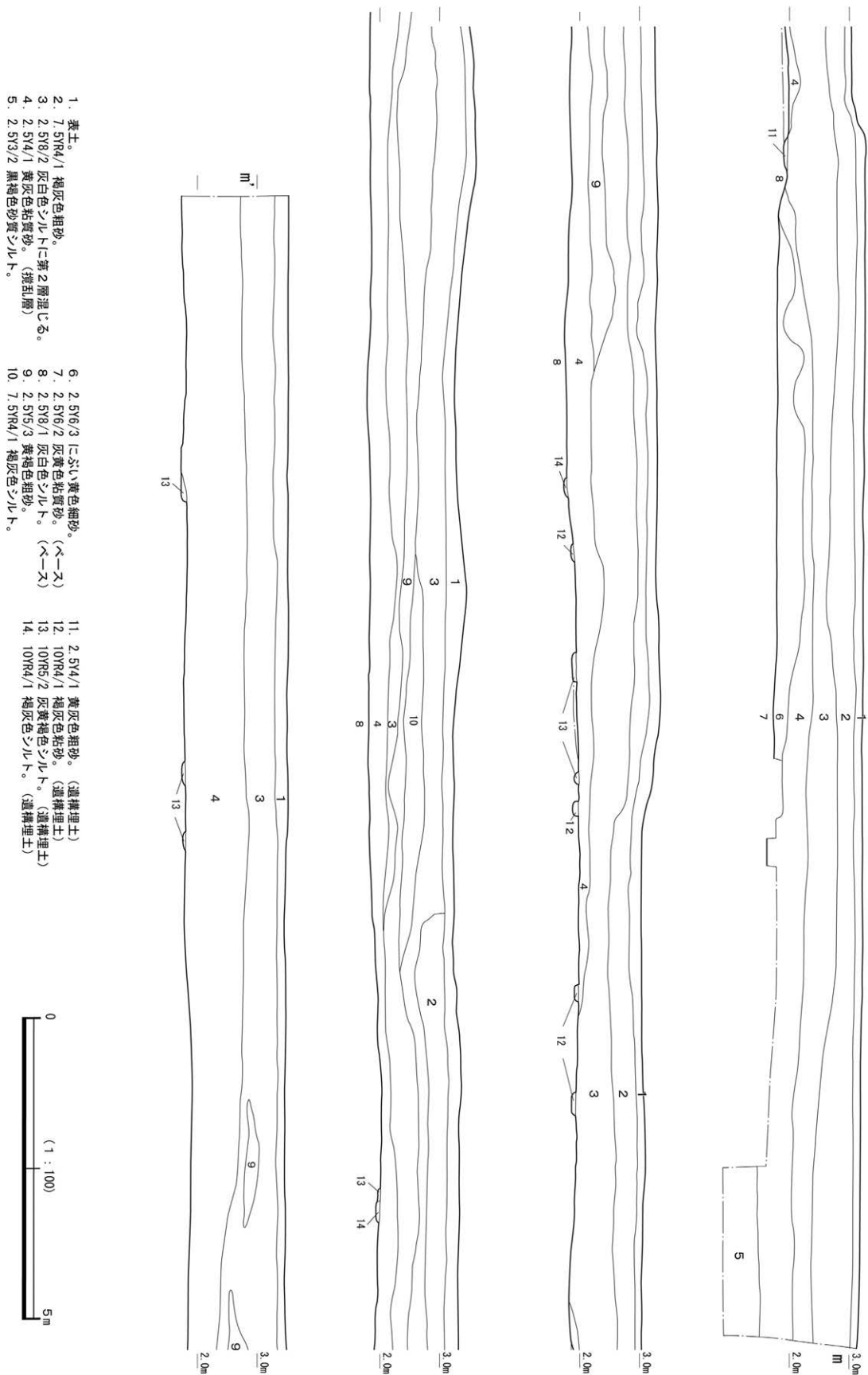
第VII-22図 金沢川遺跡(第2次)6区平面図2・土層断面図1(1:100)



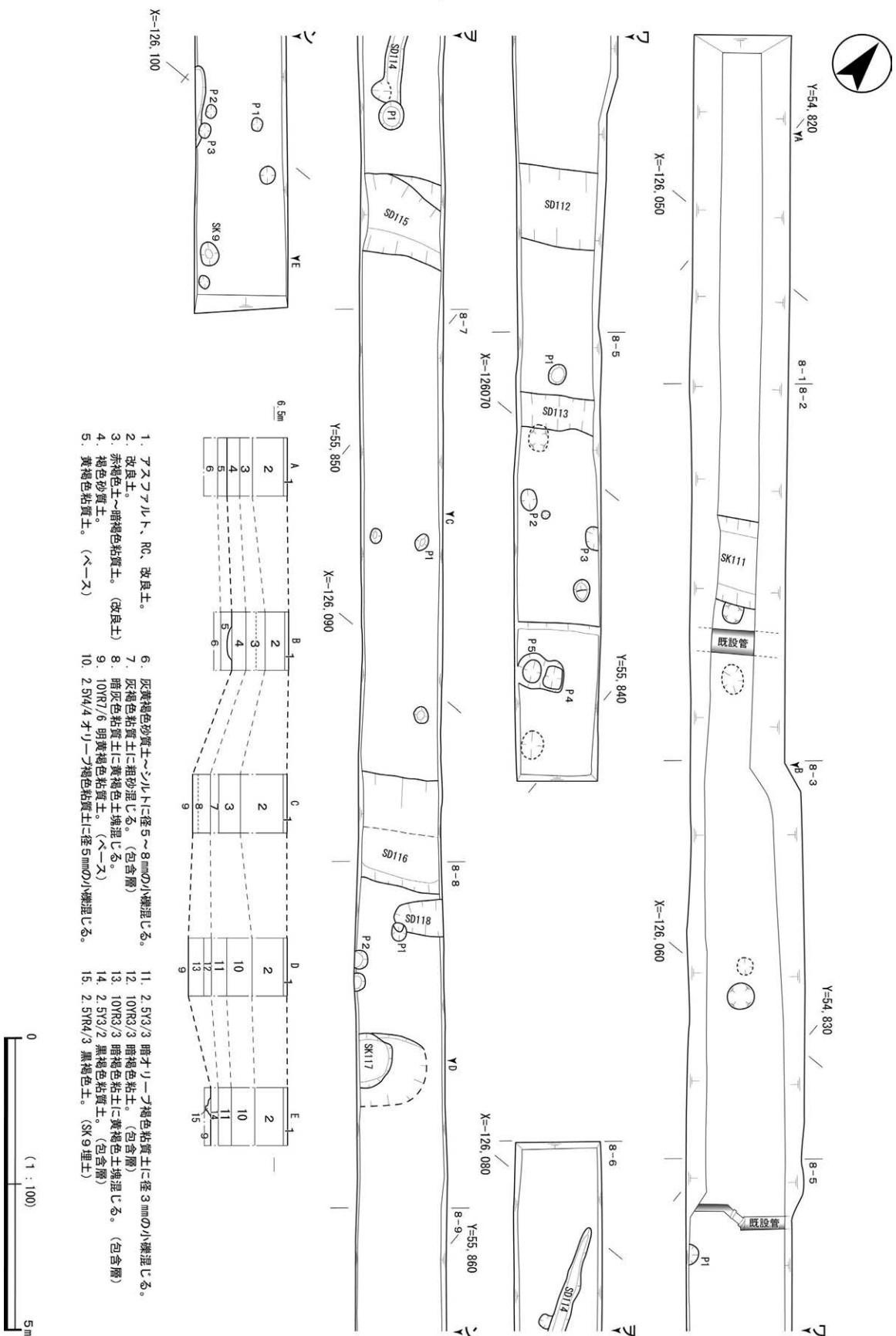
第VII-23図 金沢川遺跡(第2次)6区土層断面図2(1:100)



第Ⅶ-24図 金沢川遺跡(第2次)7区平面図(1:100)



第VII-25図 金沢川遺跡(第2次)7区土層断面図(1:100)



1. マスワフルト、RC、改良土。
2. 改良土。
3. 赤褐色土～暗褐色粘質土。(改良土)
4. 褐色砂質土。
5. 黄褐色粘質土。(ベース)
6. 灰褐色砂質土～シルトに径5～8mmの小礫混じる。(包含層)
7. 灰褐色粘質土に細砂混じる。(包含層)
8. 暗灰色粘質土に黄褐色土塊混じる。
9. 10YR/6 明黄褐色粘質土。(ベース)
10. 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土に径5mmの小礫混じる。
11. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘質土に径3mmの小礫混じる。
12. 10YR3/3 暗褐色粘土。(包含層)
13. 10YR3/3 暗褐色粘土に黄褐色土塊混じる。(包含層)
14. 2.5Y3/2 黒褐色粘質土。(包含層)
15. 2.5YR/3 黒褐色土。(SK9埋土)

第七-26図 金沢川遺跡(第2次)8区平面図・柱状図(1:100)

近世以降の土坑であろう。規模は0.71m以上×1.52m。

SD112 幅1.34m、長さ1.41m以上の東西溝。いずれも小片で図化できるものはなかったが、土師器、常滑産陶器のほか、須恵器杯Hが出土している。常滑産陶器の出土から、中世以降に属する遺構と判断した。

SD113 幅0.6m、長さ1.35m以上の東西溝。残存深0.08m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、古代の須恵器甕が出土している。

SD114 幅0.29m、長さ3m以上の南北溝。残存深0.2m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、土師器、灰釉陶器碗皿類が出土している。小穴P1と重複関係にあり、それに先行する。

SD115 幅1.44m、長さ1.40m以上の東西溝。残存深0.16m。いずれも図化に耐えうるものはないが、

土師器小片や灰釉陶器小片が出土。平安時代以降に廃絶した溝か。

SD116 幅1.88m、長さ1.34m以上の溝。土師器甕とみられるものや、平安時代ごろの土師器杯のほか、小片ではあるが須恵器杯蓋が出土している。

SK117 0.96m×0.54m以上の土坑。残存深0.23m。7世紀後半ごろの須恵器高杯が出土している。

SD118 幅0.64m、長さ0.81m以上の溝。残存深0.1m。復元径ながら、20cmを超える須恵器皿蓋が出土。奈良時代以降に埋没した溝であろうか。このほかいずれも小片だが、土師器、須恵器が出土している。

SK119 0.4m×0.3mの土坑。残存深0.35m。土師器小片のほか、木片が2点出土した。時期の特定には至らなかった。(土橋)

第3節 遺物

1. 概要

第1次調査の出土遺物は飛鳥時代から江戸時代の土器・陶磁器・瓦・石製品・鉄製品・木製品などで、総量はコンテナ換算で16箱(25.35kg、整理前、木製品を除く)である。第2次調査の出土遺物は弥生時代から鎌倉時代の土器・陶磁器・瓦・石製品・鉄製品・木製品などで、総量はコンテナ換算で34箱(56.45kg、整理前、木製品を除く)である。

ここでは、範囲確認調査及び第1次調査A～C区、第2次調査1～8区の遺構・包含層の出土遺物である土器・陶磁器等(石製品・金属製品・土製品を含む)と第2次調査出土の木製品を示す。第2次調査9・10区は顕著な遺物が出土していない。各遺物の詳細については遺物観察表(第VII-5～9表)を参照されたい。

2. 内容

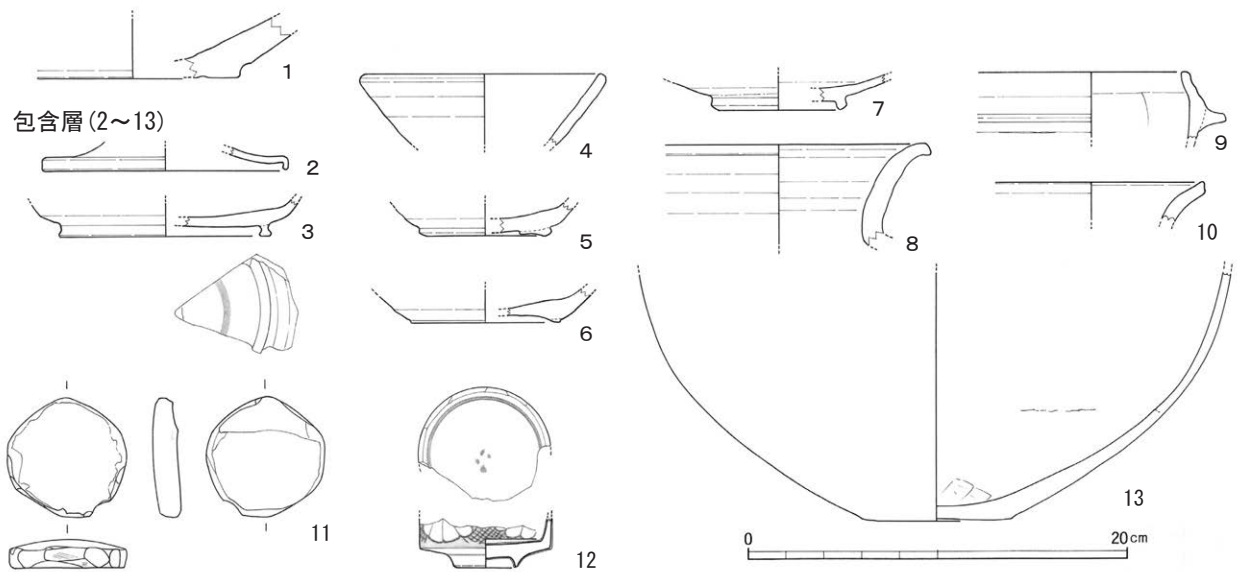
(1) 範囲確認調査(第VII-27図)

SZ200出土遺物(1) 1は常滑産甕。近世のもの。
包含層出土遺物(2～13) 2は須恵器杯蓋。奈良時代以降のもの。3は須恵器杯B。底部に墨痕が残る。4～6は山茶碗、7は灰釉陶器皿、8は須恵器壺、9は土師器羽釜、10は土師器甕、11は陶器加工円盤、12は磁器碗、13は土師器壺。

(2) 第1次調査(第VII-28～30図)

SK5出土遺物(14) 14は土師器把手である。
SK8出土遺物(15) 15は須恵器高杯。7世紀中ごろから後半ごろのものといえる。
SK12出土遺物(16) 16は須恵器の杯蓋。SK12に隣接するPit出土の破片と接合した。かえりをもたないので、7世紀末以降のものである。
SK14出土遺物(17) 17は土師器甕。口縁部形態からみて10世紀以降のものである。
SK17出土遺物(18) 18は山茶碗。藤沢編年第3型式ごろのもの。高台にもみ殻痕があることからみて、第3型式の中でもやや新相のものか。
SK20出土遺物(19～22) 19は灰釉陶器碗。9世紀後半ごろのものである。20は灰釉陶器碗。19よりもやや新相で、10世紀後半から末ごろのものか。21・22は平瓦片である。
SK22出土遺物(23) 23は須恵器無台杯。底部の調整からみて、7世紀後半ごろのものである。
SK25出土遺物(30～50) 30・31は須恵器杯H蓋、32は須恵器杯H。30～32は7世紀中ごろのものである。33は土師器高杯で、脚部を欠く。34～36は須恵器高杯で、いずれも脚部のみ、34・36は透かしをもつ。33～36は7世紀中ごろのものか。37・38は土師

SZ200(1)



第Ⅶ-27図 金沢川遺跡範囲確認調査遺物実測図(1:4)

器甕、39は土師器竈、7世紀中から後半ごろのものか。40・41は土師器把手、42・43は土師器甕、44は須恵器横瓶、45は須恵器壺で口縁部のみ、46～49は須恵器甕、50は石製品砥石である。

S K 28出土遺物(24～27) 24は土製品土錘、25は須恵器杯H蓋である。大きさからみて、杯Hは終末段階のもので7世紀後半ごろのものか。26は須恵器杯H。24よりやや古相を示す。7世紀中ごろのものである。27は須恵器高杯脚部のみで、透かしをもつ。26同様、7世紀中ごろのものである。

S K 29出土遺物(28) 28は古瀬戸産天目茶碗、鉄釉を施す。口縁部形態からみて古瀬戸産天目茶碗C類、15世紀前半ごろのものである。

S K 32出土遺物(29) 29は土師器把手。

B区Pit出土遺物(51～54) 51は土師器杯あるいは皿蓋で、つまみのみ残存する。52は須恵器無台杯で、外面底部に糸切痕跡があることからみて、奈良時代以降のものである。53・54は土師器甕。

A区包含層(55～60) 55は須恵器杯B。56は灰釉陶器段皿。57・58は灰釉陶器の皿あるいは碗か。59・60は山茶碗。

B区包含層出土遺物(61～63) 61は須恵器壺。体部より上は欠損している。62は加工円盤。63は平瓦、両面ともに工具を用いたナゲ調整を施す。

C区包含層出土遺物(64) 64は土師器の羽釜。口縁部は欠損しており、穿孔の有無は不明である。

(2) 第2次調査(第Ⅶ-31～34図)

1区

S K 48出土遺物(65～67) 65・66は高杯。65は杯部、66は脚部上半である。67は甕である。弥生時代末期から古墳時代初めごろのものか。

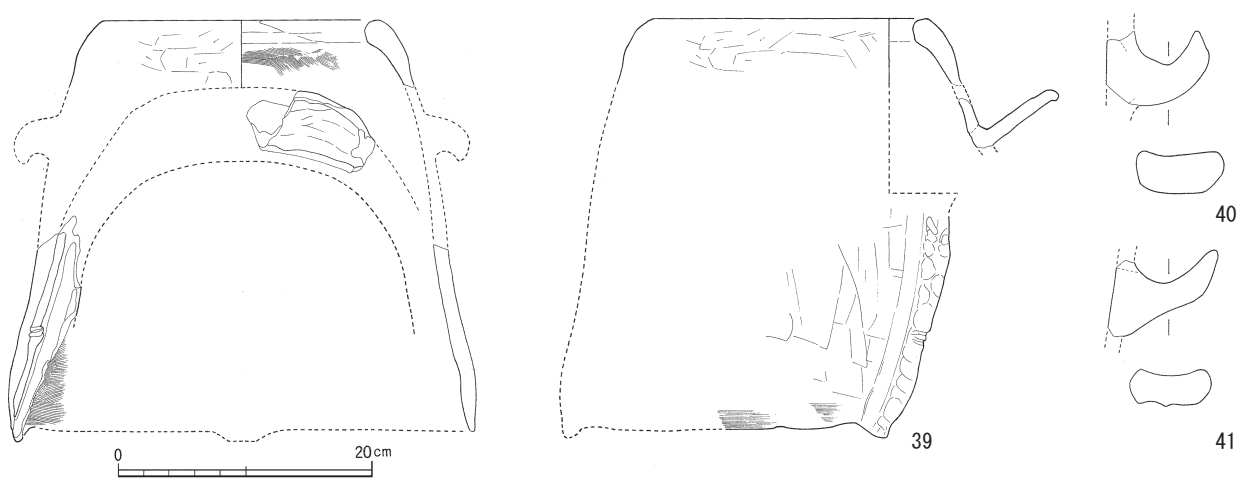
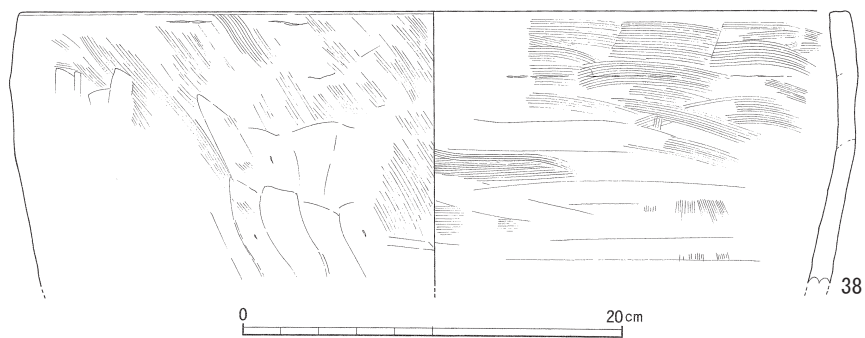
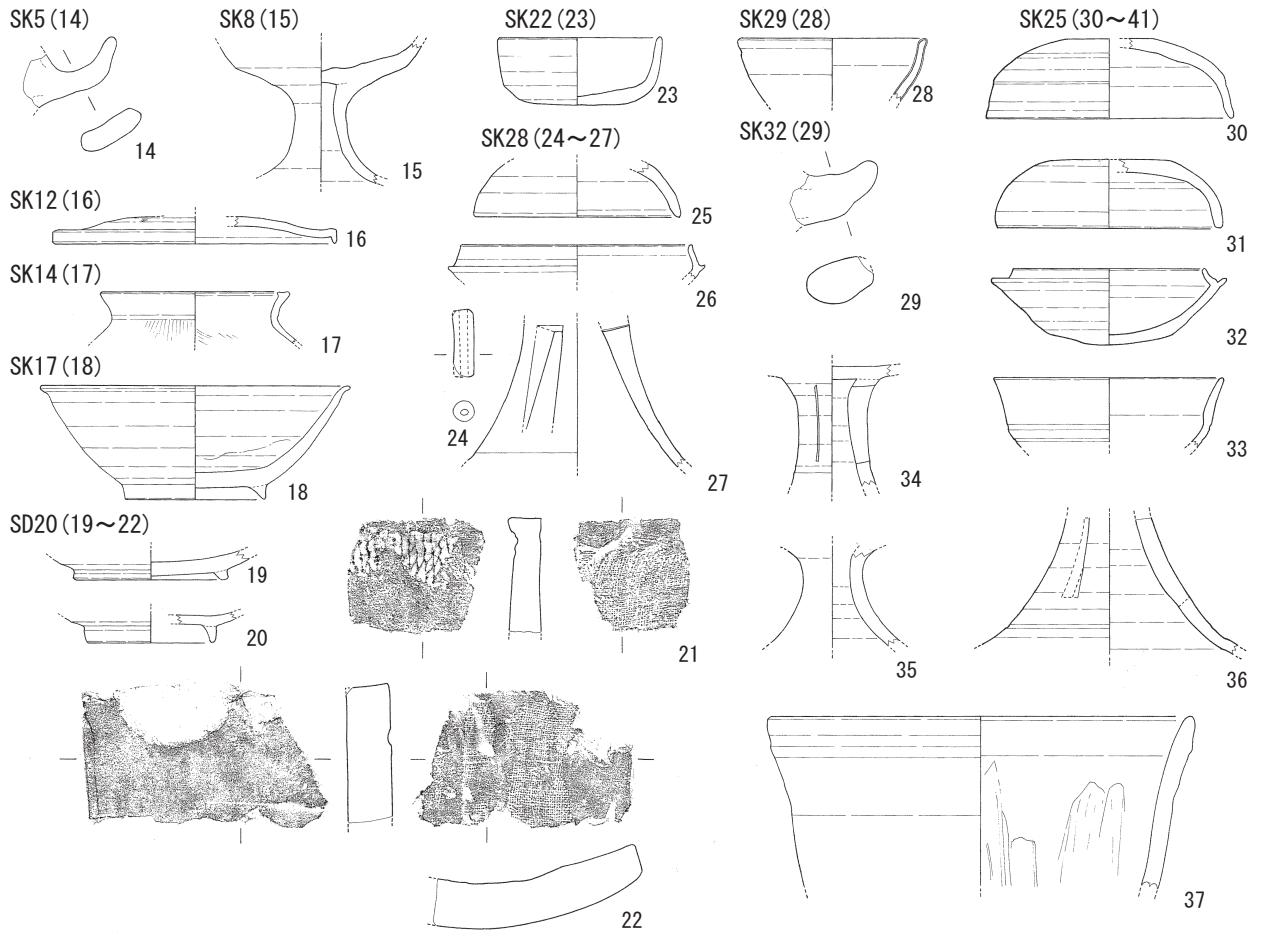
S K 49出土遺物(68～70) 68・69は土師器高杯。68は杯部、69は脚部上半である。70は土師器台付甕。口縁部はいわゆるS字甕B類。いずれも弥生時代末期から古墳時代初めごろのものである。

S K 50出土遺物(71・72) 71は土師器杯。平安時代ごろのものである。72は鉄製品、片面の中央部に稜線がみえることから、槍鉋であろうか。

S K 52出土遺物(73～75) 73は須恵器杯H蓋小片、74は須恵器高杯で脚部のみ、75は土師器甕である。混入品の可能性がある。

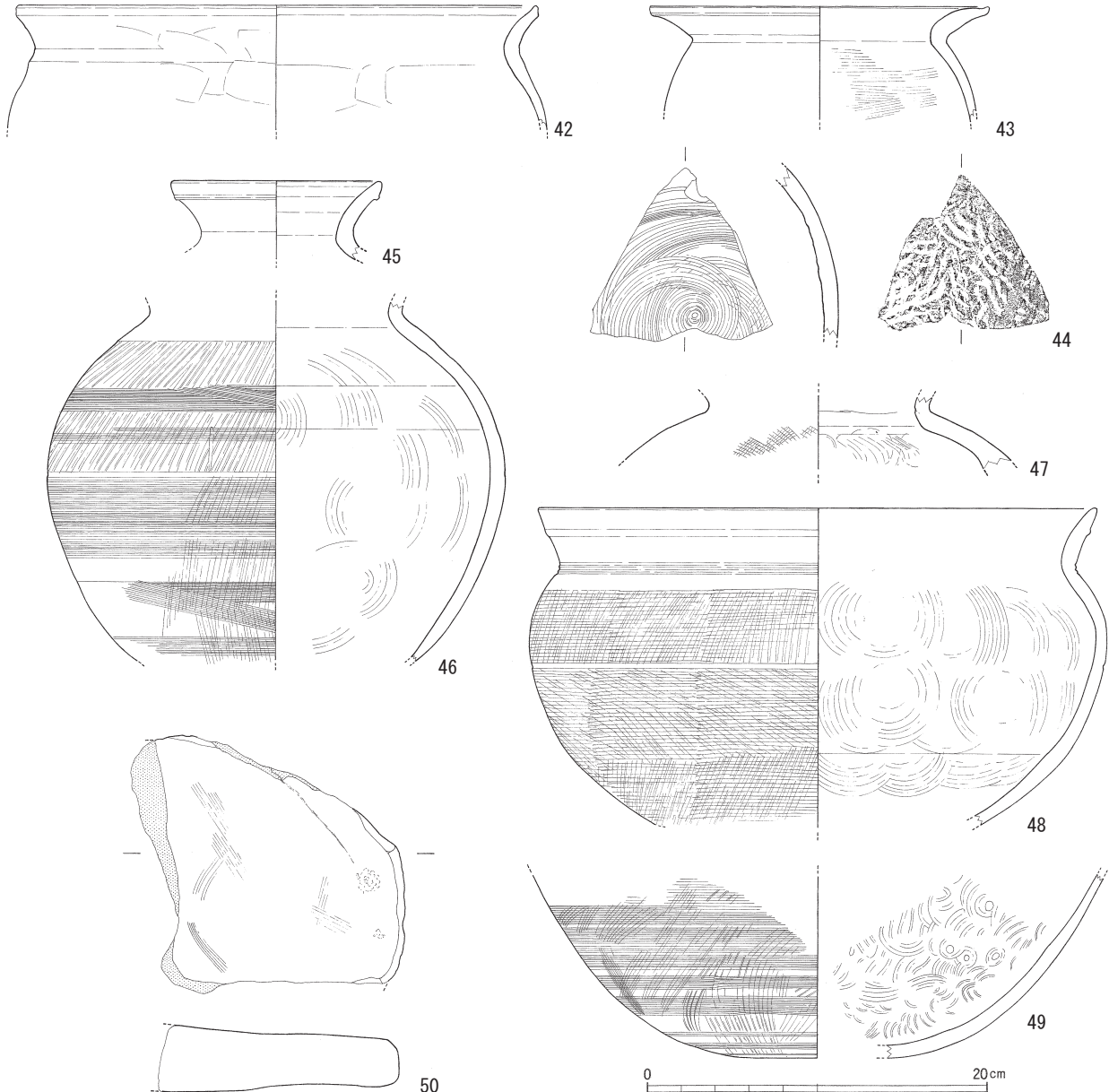
S K 55出土遺物(76・77) 76は灰釉陶器皿。77は土製品土錘。

S D 59出土遺物(78～81) 78・79は須恵器杯H蓋で、いずれも7世紀中ごろから後半ごろのものである。80は須恵器杯蓋のつまみ部、7世紀後半以降のものである。81は須恵器杯Hで、7世紀後半ごろのものである。



第Ⅶ-28図 金沢川遺跡(第1次)遺物実測図1 (1:4、27は1:6)

SK25 (42~50)



第Ⅶ-29図 金沢川遺跡(第1次)遺物実測図2(1:4)

SK56出土遺物(82) 82は須恵器甕。7世紀後半ごろのものである。

2区

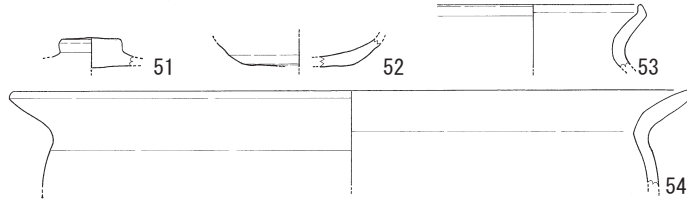
SK65出土遺物(83~93) 83は土師器杯A。内面に二段放射暗文を施す。84・85は須恵器無台杯、86・87は須恵器瓶類の底部。88は須恵器杯B。83~88は7世紀後半から8世紀初めごろのものである。89は高杯。この中ではやや新相にみえる。90・91は土師器竈小片で、焚口周辺を覆う底部である。92・93は土師器甕である。

SK66出土遺物(94・95) 94は須恵器横瓶、95は須恵器甕。7世紀後半ごろのものである。

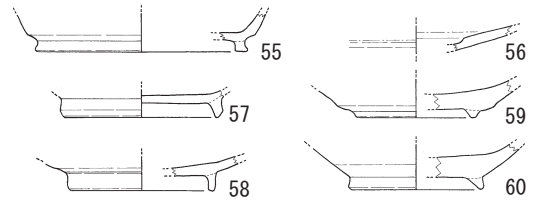
SD68出土遺物(96) 96は須恵器平瓶で口縁部から頸部まで残存する。7世紀後半ごろのものである。

SD69出土遺物(97~115) 97~99は須恵器杯蓋。口縁端部を折り込むことで生じる「かえり」があるもの(99)とないもの(97・98)がある。100は須恵器杯H蓋、101は須恵器無台杯、102は須恵器杯Bあるいは椀B、103は須恵器椀。7世紀後半ごろのものである。104は須恵器盤B。表面の摩滅が著しい。105~107は土師器皿Aで、内面に暗文は認められない。108~114は土師器甕である。115は平瓦、凹面には布目痕跡がある。

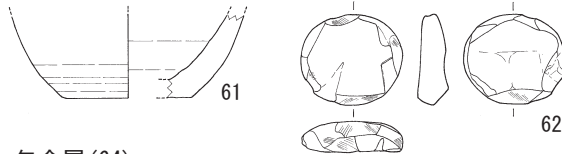
B区 Pit(51~54)



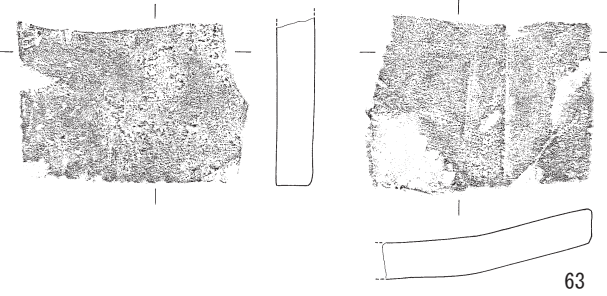
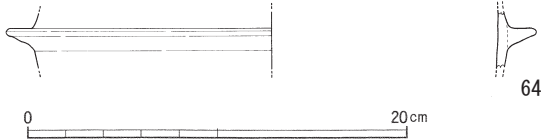
A区 包含層(55~60)



B区 包含層(61~63)



C区 包含層(64)



第Ⅶ-30図 金沢川遺跡(第1次)遺物実測図3(1:4)

3区

S K77出土遺物(116~118) 116は須恵器杯H蓋、117は須恵器低脚高杯。7世紀後半ごろのものであろう。118は木製品鋤、使用材はコナラ属アカガシ亜属である。

S X80出土遺物(119~129) 119~123は須恵器杯H蓋、123のみ小片で、ほかはほぼ完形のものが多い。124~127は須恵器杯Hで、いずれもほぼ完形である。128・129は須恵器高杯。128は意図的に脚部を打ち欠いている可能性がある。129は脚部の透かしは2段および2方向である。いずれも7世紀中ごろから後半までにおさまるものであろう。

S K78出土遺物(130) 130は須恵器杯H。S X80出土遺物同様、7世紀中ごろから後半のものである。

S D83出土遺物(131・132) 131は山茶椀。藤沢編年第5あるいは6型式にあたり、12世紀後半から13世紀前半にかけてのものである。132は土鍾。

S K86出土遺物(133) 133は土師器甕。

S D88出土遺物(134) 134は山茶椀である。

S D99出土遺物(135・136) 135は須恵器杯蓋。かえりがあるものである。136は弥生土器か。

S D100出土遺物(137) 137は須恵器高杯の脚部。3方向透かしからみて、7世紀中ごろのものである。

S K97出土遺物(138) 138は須恵器甕。7世紀後半

以降のものとみてよい。

6区

S K108出土遺物(139~154) 139~143は須恵器杯H蓋。7世紀後半ごろのものである。144・145は須恵器杯蓋。144はかえりのないもので、145はかえりの有無不明である。146は須恵器杯H、147は須恵器鉢あるいは椀、148は須恵器瓶類の平瓶か。7世紀後半ごろのものである。149は土師器高杯の脚部、150~153は土師器甕、154は大型の土鍾か。

S K109出土遺物(155・156) 155は須恵器杯H蓋、156は須恵器無台杯。7世紀後半ごろのものである。

S K110出土遺物(157~159) 157は須恵器杯H、158は須恵器高杯の脚部上半。透かしはない。7世紀後半ごろのものである。159は鉄滓。いわゆる椀型鉄滓である。

8区

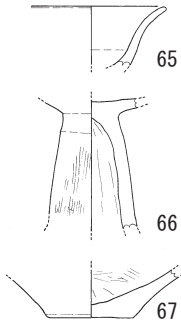
S D115出土遺物(160・161) 160は灰釉陶器椀、161は灰釉陶器皿。

S D116出土遺物(162・163) 162は土師器杯、163は土師器甕か。

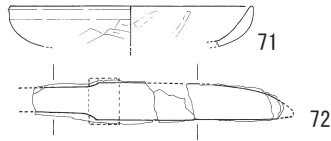
S K117出土遺物(164) 164は須恵器高杯。杯部内面にはへら記号状の焼成前線刻がある。脚部に透かしがなく、7世紀後半以降のものであろう。

S D118出土遺物(165・166) 165は須恵器皿蓋、7

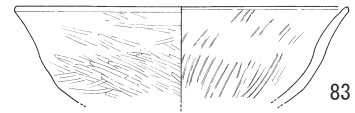
1区 SK48 (65~67)



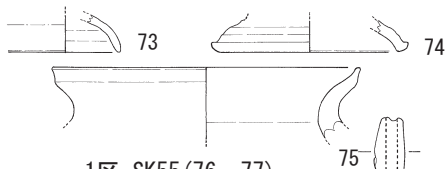
1区 SK50 (71・72)



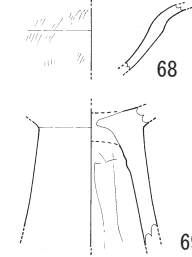
2区 SK65 (83~93)



1区 SK52 (73~75)



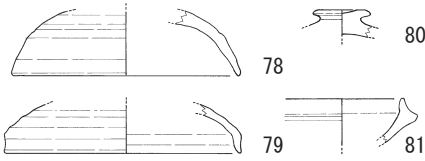
1区 SD49 (68~70)



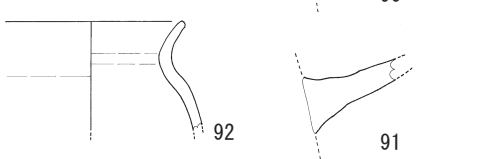
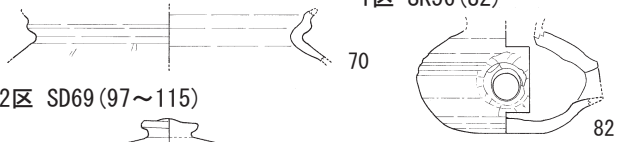
1区 SK55 (76・77)



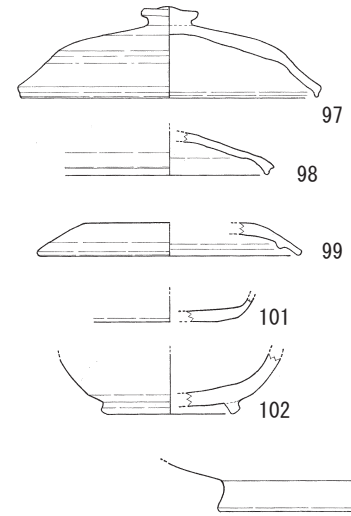
1区 SD59 (78~81)



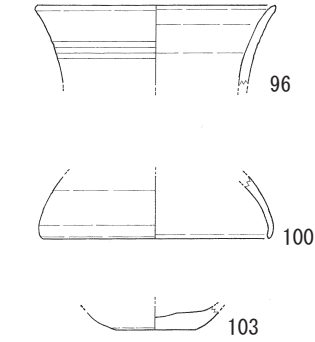
1区 SK56 (82)



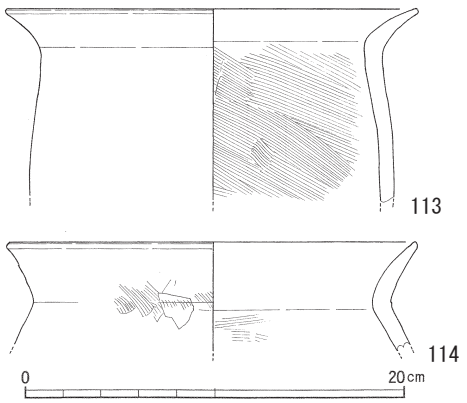
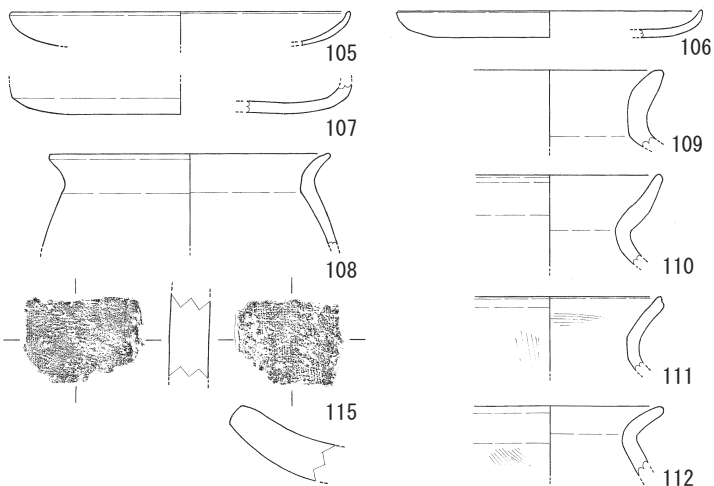
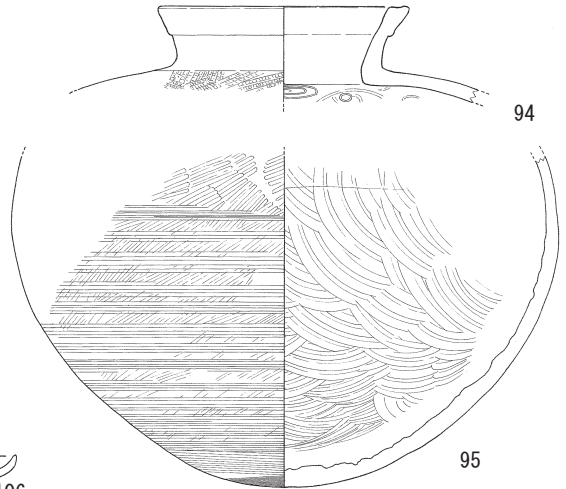
2区 SD69 (97~115)



2区 SD68 (96)

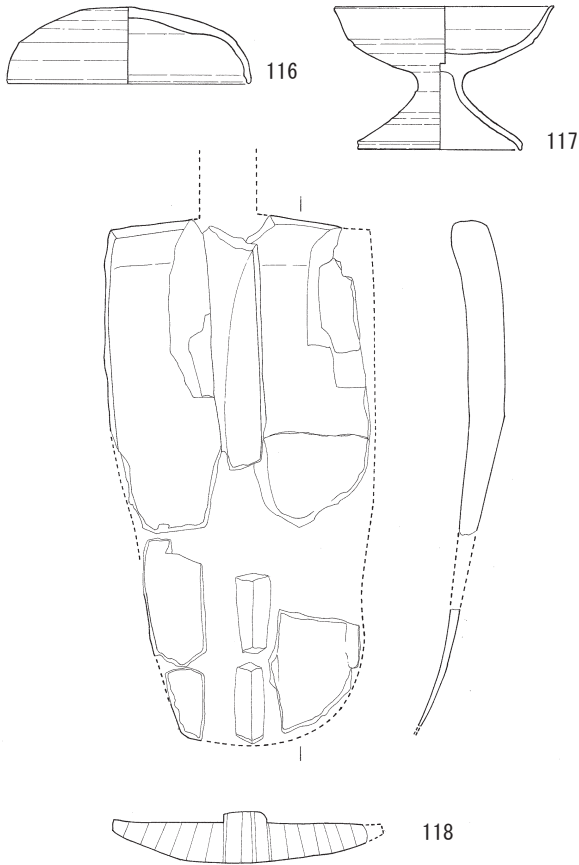


2区 SK66 (94・95)

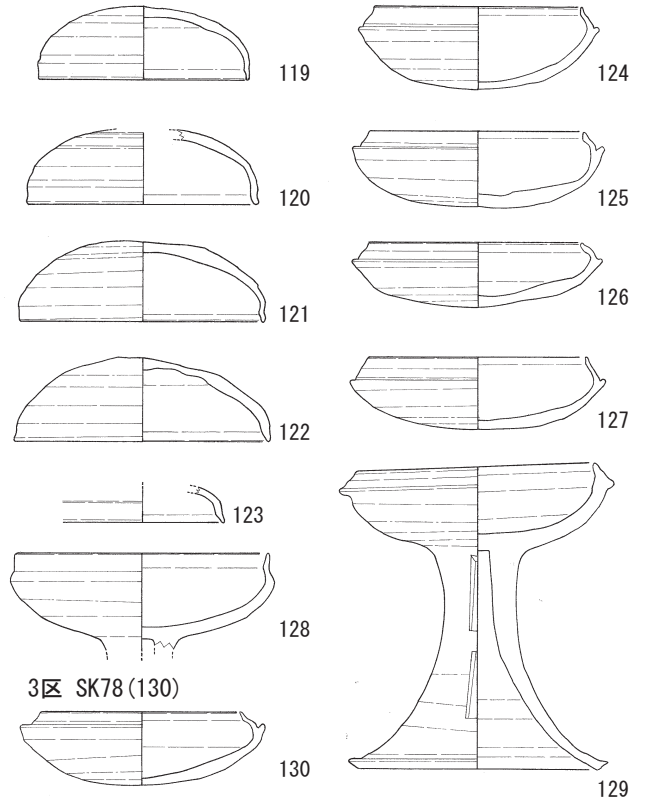


第VII-31图 金沢川遺跡(第2次)遺物実測图1(1:4)

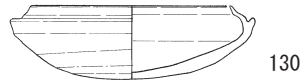
3区 SK77(116~118)



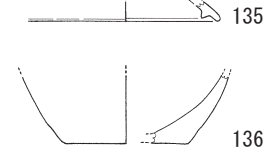
3区 SX80(119~129)



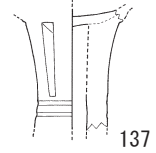
3区 SK78(130)



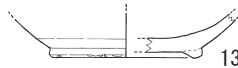
3区 SD99(135・136)



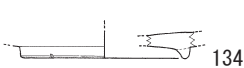
3区 SD100(137)



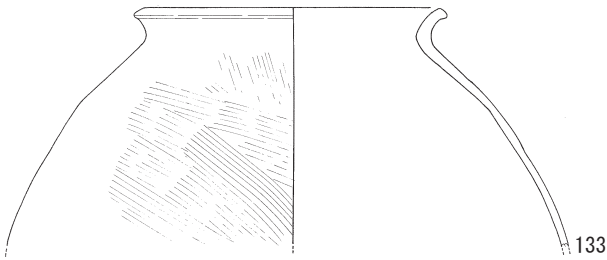
3区 SD83(131・132)



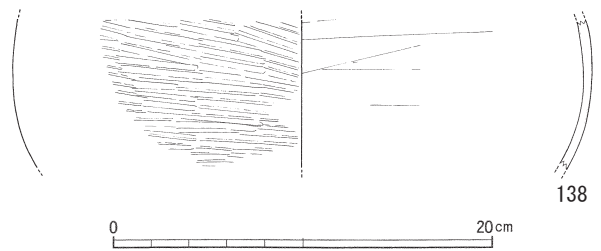
3区 SD88(134)



3区 SK86(133)



3区 SK97(138)



第Ⅶ-32図 金沢川遺跡(第2次)遺物実測図2(1:4)

世紀後半ごろのものである。166は土師器鍋。165とほぼ同時期のものであろう。

1区Pit出土遺物(167・168) 167は須恵器杯H蓋。7世紀後半ごろのものである。168は須恵器甕。7世紀後半ごろのものである。

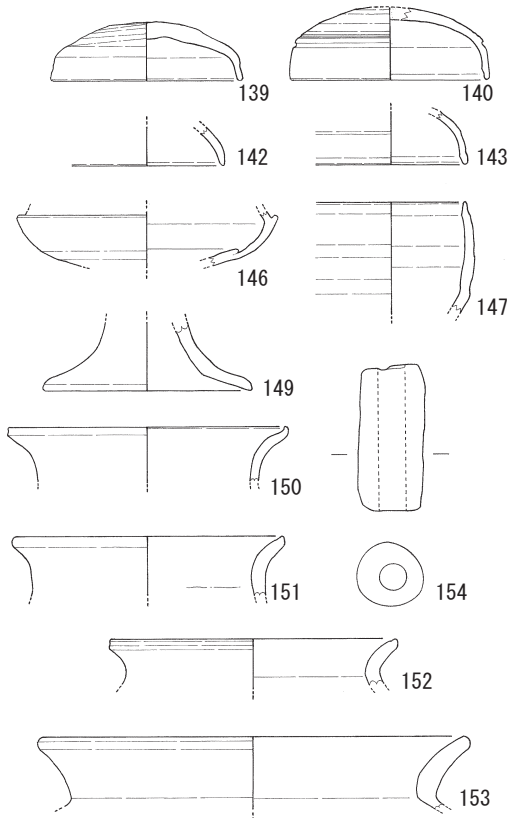
3区Pit出土遺物(169) 169は円筒埴輪小片。

6区Pit出土遺物(170~179) 170は須恵器杯H蓋、171・172は須恵器杯蓋。172は壺蓋の可能性もある。

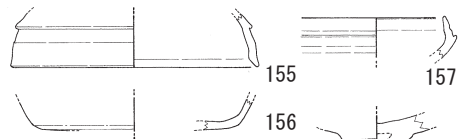
173は須恵器杯H、174は須恵器杯。175は須恵器低脚高杯。杯部を欠く。176は須恵器円面硯。体部の透かしは十字透かしか。177は須恵器短頸壺。底部を欠く。178は須恵器高杯あるいは短頸壺。170~178は7世紀後半ごろのものである。179は鉄滓。159と同じく椀型鉄滓である。

8区Pit出土遺物(180~183) 180・181は土師器杯。182は須恵器長頸瓶。頸部以下を欠く。7世紀後半

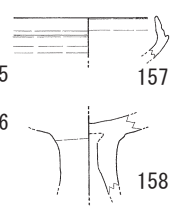
6区 SK108 (139~154)



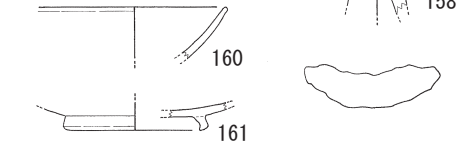
6区 SK109 (155・156)



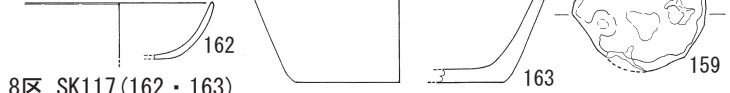
6区 SK110 (157~159)



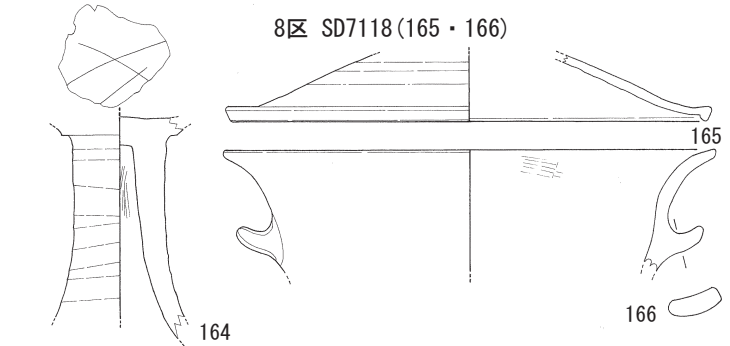
8区 SD115 (160・161)



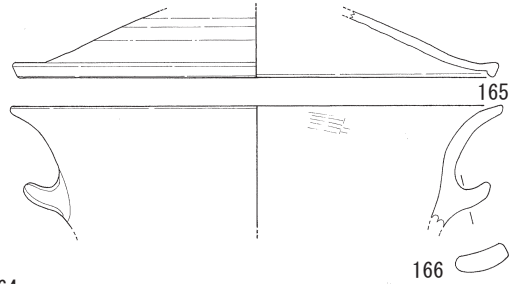
8区 SD116 (162・163)



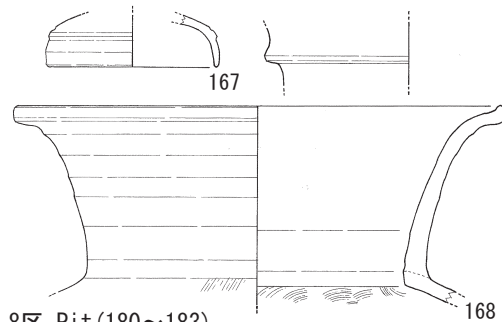
8区 SK117 (162・163)



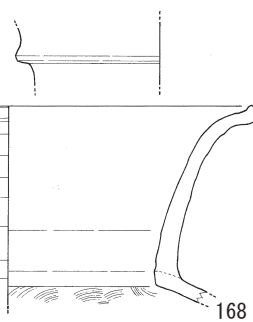
8区 SD7118 (165・166)



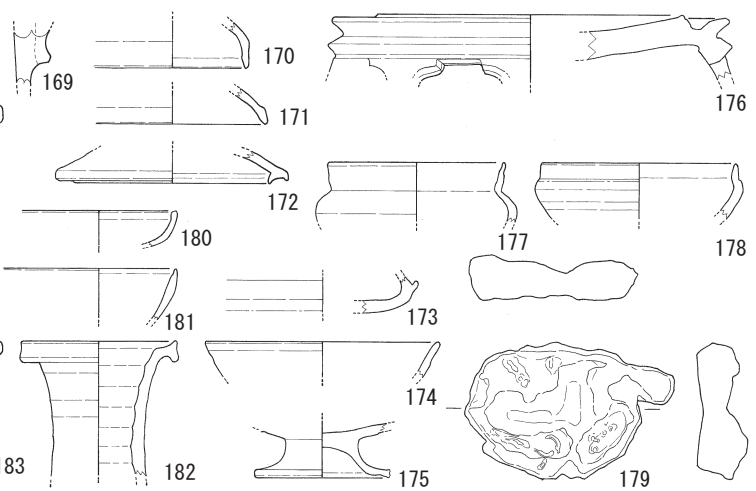
1区 Pit(167・168)



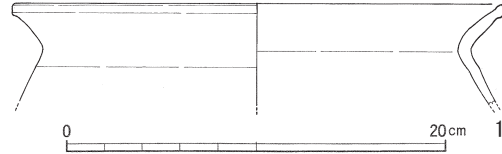
3区 Pit(169)



6区 Pit(170~179)



8区 Pit(180~183)



第Ⅶ-33図 金沢川遺跡(第2次)遺物実測図3(1:4)

ごろのものである。183は土師器甕。

1区包含層出土遺物(184~190) 184は須恵器杯蓋。かえりのないもの。185~187は山茶碗、189は須恵器壺で、口縁端部を欠いている。188は土師器把手、190は弥生土器壺か。

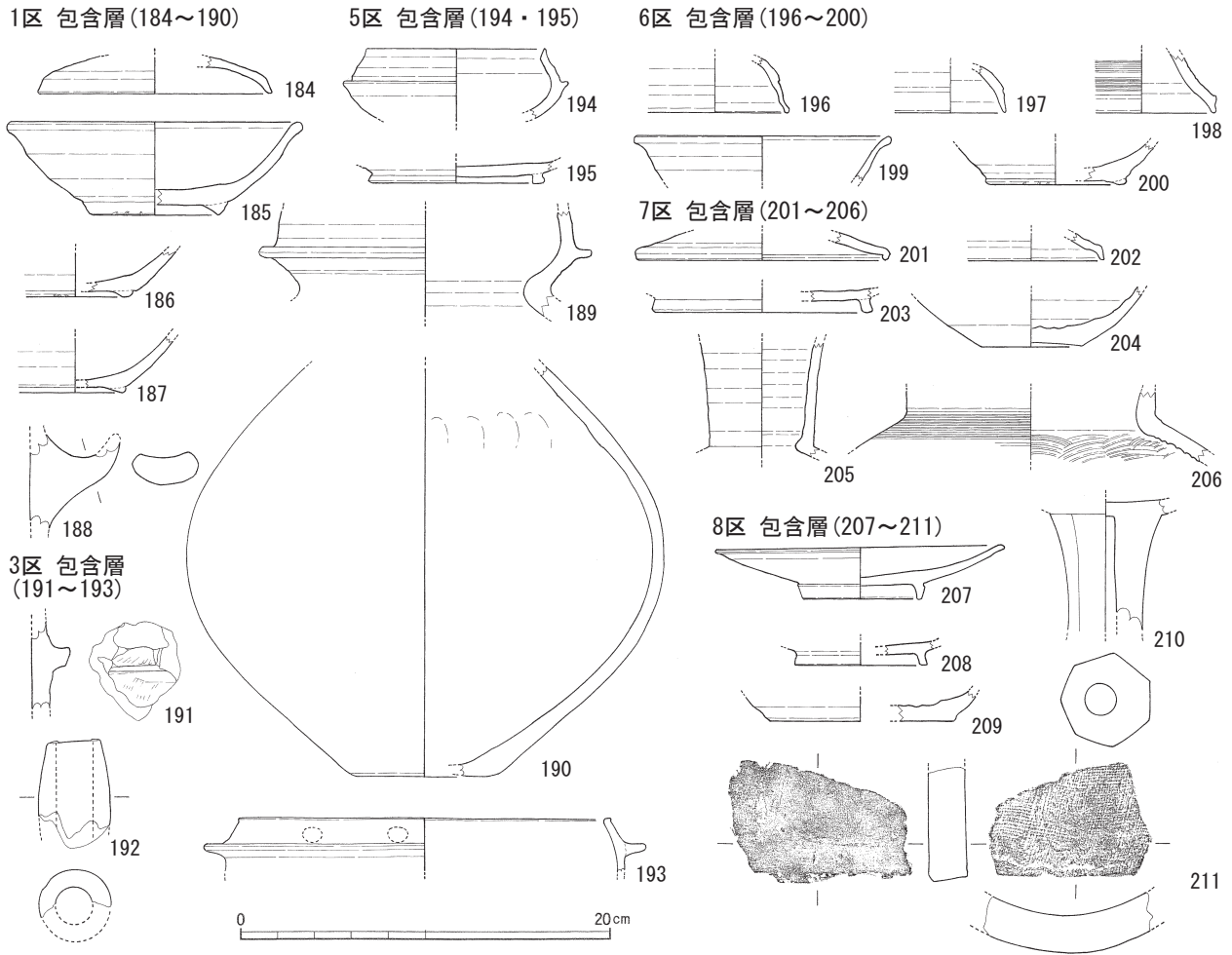
3区包含層出土遺物(191~193) 191は円筒埴輪か。192は土錘片、193は土師器羽釜で口縁部には焼成前

穿孔がある。

5区包含層出土遺物(194・195) 194は須恵器杯H、195は須恵器杯である。

6区包含層出土遺物(196~200) 196・197は須恵器杯H蓋、198は須恵器高杯脚部、199・200は山茶碗である。

7区包含層出土遺物(201~206) 201・202は須恵器



第Ⅶ-34図 金沢川遺跡(第2次)遺物実測図(1:4)

杯蓋、203は須恵器杯、204は須恵器壺底部。205は須恵器長頸瓶。口縁部および頸部以下を欠く。206は須恵器甕である。

8区包含層出土遺物(207~211) 207・208は灰釉陶器皿、209は須恵器壺底部である。210は土師器高杯脚部、7面に面取りしている。211は平瓦。凹面は布目痕跡がある。(土橋)



第Ⅶ-35図 金沢川遺跡(第2次)6区周辺表採遺物

第4節 小 結

1. 遺 構

金沢川遺跡のすぐ南西には、天王遺跡が所在しており、調査時からその関連を想定していた。

2度にわたる本調査の調査区は天王遺跡とは道路を隔てていることや、調査区の幅が2m前後と狭隘であったため、直接関連を示すような遺構を考えることは難しい。しかしながら、関連を示唆するよう

な遺構を検出することができた。

天王遺跡から北へ延びる第2次調査6区では、複数の小穴を検出した。その多くには柱痕跡があり、中には柱根が残存していたものもあった。さらに、これらの規模は小型なものは径0.2m前後だが大型のものに限定すれば、径あるいは一辺0.5m前後の丸形、あるいは方形の柱穴を数多く検出した。調査

区幅が狭く、建物等の検討は難しいものの、柱の形や規模からは古代の大規模建物とまではいえないが、規模のやや小さい建物、あるいは大規模建物や官衙に付随する施設の存在を想定することができる。これらの柱穴からは少量ながらも遺物が出土しており、これらの大半は7世紀後半から8世紀初めごろのものである。このことから、第2次調査6区検出の柱穴はその多くをこの時期に造営し、廃絶したことがうかがえる。この様相は隣接する天王遺跡の出土遺物⁴⁾の年代とも合致してくる。

このほか天王遺跡との関連だけでなく、第2次調査3区の位置は昭和52年度県営圃場整備事業に先立って実施した調査で検出した塚越3号墳に近接する。これに関連するものかは定かではないが、3区では土壙墓状の遺構SX80を検出した。この遺構からは須恵器供献具である高杯や、杯Hなどが出土しており、その中には伊勢湾沿いにその出土分布域を限定する高杯の一種「脚付短頸壺」を含む。この器種は当該地域特有の器種とされている。塚越3号墳出土品では、底部を欠く短頸壺様の須恵器を「杯」として報告しているものがある。壺に比してやや扁平であることから杯として判断したと考えられるが、これについてもこの地域特有の器種、脚付短頸壺として理解するほうがよいだろう⁴⁾。これまでの調査と今回の調査の結果をふまえると、金沢川遺跡3区一帯はこの脚付短頸壺を有する墓域であることが想定でき、須恵器の供給源は岸岡山古窯がその候補となりうるのではないだろうか⁵⁾。

2. 遺物

本調査では、特筆すべき遺物がいくつか出土した。第2次調査1区では鉄製槍鉋が、2区では暗文を施した土師器杯類、3区では木鋤や須恵器供献具類が出土した。6区では官衙域や邸宅跡、寺院跡などで出土するような円面硯や、やや残存率が低いため復元口径に不確定さはあるものの、大型食器が出土している。そのほか、鉄滓が2点出土している。

1区出土の鉄製槍鉋は平安時代ごろの土師器皿をともなって出土しており、これらが出土した小穴については土壙墓あるいは火葬墓であろう。3区の木鋤や須恵器供献具類は、出土状況からみて副葬品とみてよいだろう。

6区出土の円面硯は、形からは7世紀後半のものと考えられ、天王遺跡や金沢川遺跡検出の遺構との年代とも合致する。また、この遺物の存在は少なくとも、周辺域に硯を使用するような官人位の人間の存在が想定できよう。同様に、大型食器や2区出土の暗文土師器は一般集落ではあまり出土しないものであるため、この一帯が官衙域であった可能性を示唆するものであろう。ただし、同調査区内で出土した鉄滓は武器類に使用できるような鋼を製錬した際の残留物であること、第2次調査1・2・6区で出土した焼成粘土、第1次調査B区SF26の焼成土坑などからは、一帯にはなんらかの工房の存在も示唆できる。これらのことを勘案すると、6区を含む一帯は、天王遺跡に関連するような官衙域の可能性は高い。しかしながら、柱の規模や出土遺物からは中枢施設よりも数段、重要度の低い空間であったと考えることができ、その候補としては工房域・食堂のような存在などが想定できよう。

3. 金沢川遺跡の位置付け

本調査は狭隘ながらも遺構及び遺物からはこの一帯の歴史を知る上で、重要な情報を得ることができただろう。そこで、本調査から得た情報をふまえて、金沢川遺跡の位置づけをおこないたい。

遺構については大きく2時期の変遷がある。古墳時代後期、6世紀中ごろから7世紀後半ごろの金沢川一帯は、岸岡山古窯跡の須恵器供給を受ける墓域であったことがうかがえる。特に3区周辺は隣接する塚越1・3号墳の存在から、塚越古墳群の領域であった可能性がある。ただし、塚越3号墳に比して第2次調査6区SK110出土土器の時期は、やや新相にみえるため、直接的な関係はないかもしれない。いずれにせよ、古墳時代後期ごろの金沢川下流南岸の平野部には古墳をはじめとした墓域が展開していたとみてよいだろう。

7世紀後半から8世紀初めごろ、天王遺跡を中心として、この一帯では土地利用の変化が生じる。天王遺跡出土遺物および遺構、本調査出土の円面硯、大型食器、暗文土師器や、やや大型の柱穴、そこに残存していた柱根などから考えると、寺院や邸宅、官衙などの機能を有する施設がこの一帯に広がっていたと考えられる。そして、その北限は第2次調査

6区で金沢川南岸までトレンチ状の調査をした結果、天王遺跡で見つかっているような区画溝、塀などの遺構を確認することができなかった。ただし、これは北限が金沢川によって区画されていた可能性もあり、今後の調査によって天王遺跡を含む諸施設の北限については再検討する必要がある。

そのほか、第2次調査2区でも組み合わせる柱はないものの、柱穴状の遺構や暗文土師器を始めとする7世紀後半ごろの土師器や須恵器が出土している。これらのことをふまえれば、天王遺跡をはじめとした諸施設の範囲は金沢川下流南岸の平野部の広範囲に

展開していた可能性がある。

以上のことから、金沢川下流域南岸の平野部は古墳時代後期ごろまでは墓域として展開していた。そして、古墳時代の終わりとともに律令制度が畿内を中心として敷設されはじめると、当地一帯は官衙あるいは地方豪族の邸宅など、この平野部の利用方法が変容したと理解できるだろう。

なお、周囲の田園からは7世紀後半ごろの土器を中心とする古代の須恵器や土師器の破片が多数出土しており(第VII-35図)、今後も周辺での開発に留意する必要がある。(土橋)

註

- (1) 土器等の分類・編年については以下の文献による。
弥生土器・古式土師器：三重県埋蔵文化財センター『村竹コノ遺跡』2000年/愛知県埋蔵文化財センター『廻間遺跡』1990年。
古代の土師器：斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』2001年。
須恵器：奈良文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅴ』2017年。
灰釉陶器：榑崎彰一「猿投窯の編年について」『愛知県古窯跡群分布調査報告』Ⅲ、愛知県教育委員会、1983年。
中世の土器：伊藤裕偉「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2、三重県、2008年/伊藤裕偉「中世成立期における伊勢の土器相」『嶋抜Ⅱ』三重県埋蔵文化財センター、2000年。
山茶碗：藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター、1994年。
古瀬戸・瀬戸美濃大窯：藤澤良祐「瀬戸美濃大窯編

- 年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯、高志書院、2008年。
常滑：中野晴久「渥美・常滑」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)2005年。
貿易陶磁：山本信夫「中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社/續伸一郎「中世後期の貿易陶磁器」(同上)。
瓦：山崎信二『中世瓦の研究』奈良国立文化財研究所、2000年/『近世瓦の研究』奈良文化財研究所、2008年。
- (2) 前川嘉宏「三重県における山茶碗の出土状況」『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター、1994年。
 - (3) 鈴鹿市教育委員会『天王遺跡—第3次発掘調査報告—』1998年。
 - (4) 三重県教育委員会『鈴鹿市岸岡町 塚越3号墳』1978年。
 - (5) 藤原秀樹「岸岡山2号窯跡出土の須恵器について」『海の考古学』、鈴鹿市教育委員会、1995年。

調査 回数	調査区	地区	遺構番号 (報告)	遺構番号 (調査時)	性格	時代	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	出土遺物	備考(前後関係、特徴等)
範囲 確認	14・15	—	S2200	—	—	—	—	—	—	常滑産甕	撓乱層

第七-1表 金沢川遺跡範囲確認調査遺構一覧表

調査 回数	調査区	地区	遺構番号 (報告)	遺構番号 (調査時)	性格	時代	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	出土遺物	備考(前後関係、特徴等)
1	A	A1	SK1	SK1	土坑	古代	1.20	1.36	0.55	土師器・須恵器	
1	A	A2	SK2	SK2	土坑	中世以降	2.66	1.33	0.03	土師器・須恵器・山茶碗	
1	A	A3	SK3	SK3	土坑	不明	0.80	0.70	0.05	土師器	
1	A	A5	SK4	SK4	土坑	古代か	0.96	0.46	0.19	土師器・須恵器	
1	A	A5・6	SK5	SK5	土坑	古代	1.10	0.64	0.49	土師器	
1	A	A6	SK6	SK6	土坑	不明	1.15	0.80	0.72	土師器	
1	A	A6	SK7	SK7	土坑	中世	0.93	0.45	0.45	土師器・須恵器	須恵器は古代
1	A	A7	SK8	SK8	土坑	飛鳥	0.70	0.57	0.28	須恵器	
1	A	A7	SD9	SD9	溝	不明	2.30	0.10	0.26		南北方向
1	A	A7・8	SK10	SK10	土坑	不明	1.00	0.80	0.34	土師器	
1	A	A8	SK11	SK11	土坑	不明	0.84	0.76	0.10	土師器	
1	A	A8・9	SK12	SK12	土坑	奈良	1.45	1.03	0.43	土師器・須恵器	
1	A	A9	SK13	SK13	土坑	古代	1.16	0.31	0.61	土師器・須恵器	
1	A	A9	SK14	SK14	土坑	平安	1.16	0.67	0.48	土師器	
1	A	A10	SK15	SK15	土坑	古代	1.12	1.04	0.24	土師器・須恵器	
1	B	B1	SD16	SD16	溝	飛鳥以降	2.08	0.25	0.21	土師器・須恵器・焼土塊	P1・2・4・5に先行, 南北方向
1	B	B3	SK17	SK17	土坑	鎌倉以降	0.55	0.41	0.22	山茶碗	検出時の規模
1	B	B6	SK18	SK18	土坑	不明	0.61	0.51	0.46	土師器	
1	B	B11・12	SD19	SD19	溝	飛鳥・奈良	1.80	0.45	0.15	土師器・須恵器	南北方向
1	B	B13・14	SD20	SD20	溝	奈良・平安	2.80	0.76	0.44	灰軸陶器・瓦	SD21に先行, 南北方向
1	B	B14	SD21	SD21	溝	近世	1.85	1.15	0.12	陶磁器	SD20と重複, 南北方向
1	B	B14	SK22	SK22	土坑	飛鳥	0.91	0.45	0.18	土師器・須恵器	
1	B	B16	SD23	SD23	溝	飛鳥	1.85	0.31	0.03	土師器・須恵器	SD24に先行, 南北方向
1	B	B16	SD24	SD24	溝	飛鳥・奈良	3.70	0.74	0.13	土師器・須恵器	SK25に先行, 東西方向
1	B	B16	SK25	SK25	土坑	飛鳥・奈良	2.21	1.74	0.22	土師器・須恵器	SD24に先行
1	B	B17	SF26	SF26	焼成土坑	不明	0.72	0.91	0.23	土師器	
1	B	B16	SK27	SK27	土坑	不明	0.60	0.24	0.02	土師器	SK25底で検出、焼土・炭多く混じる
1	B	B17・18	SK28	SK28	土坑	古墳後・飛鳥	2.62	1.73	0.28	土師器・須恵器・焼土塊	近世混入?
1	C	C3	SK29	SK29	土坑	中世	1.70	1.18	0.53	天目茶碗・土師器	
1	C	C1・2	SD30	SD30	溝	古代	2.45	1.00	0.32	須恵器	SK31に先行, 東西方向
1	C	C1	SK31	SK31	土坑	不明	1.60	1.80	1.09	—	
1	C	C1	SK32	SK32	土坑	古代	2.35	1.49	1.03	土師器・須恵器	上層で近世の陶磁器出土

第七-2表 金沢川遺跡(第1次)遺構一覧表 *斜体字の表記は記載の数値以上であることを示す

調査 回数	調査区	地区	遺構番号 (報告)	遺構番号 (調査時)	性格	時代	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	出土遺物	備考(前後関係、特徴等)
2	1	8	SK41	SK1	柱穴か	古墳後・飛鳥	0.68	0.39	0.32	土師器・須恵器	柱穴(古墳時代後期)
2	1	8	SK42	SK2	土坑	古代	—	—	0.20	土師器・須恵器	溝の可能性、壁でのみ検出
2	1	9	SD43	SD3	溝	不明	5.58	1.20	0.20	土師器・須恵器	落ち込み, SD44に先行, 東西方向
2	1	9	SD44	SD4	溝	現代	1.25	1.21	0.32	土師器	現代溝, SD43と重複, 東西方向
2	1	11	SD45	SD5	溝	不明	0.30	1.45	0.03	—	落ち込みか, SD46に先行, 東西方向
2	1	11	SD46	SD6	溝	不明	1.64	0.10	0.16	土師器	溝, SD45と重複, 南北方向
2	1	12	SD47	SD7	溝	古代	3.20	0.72	0.28	土師器・須恵器	溝(7世紀後半), 東西方向
2	1	14	SK48	SK8	土坑	古墳前期	1.96	0.94	0.23	土師器	土坑(古墳時代前期)
2	1	18	SK49	SK9	土坑	古墳前期	1.00	0.70	0.27	土師器	古墳時代前期か, SK50に先行
2	1	18	SK50	SK10	土坑	平安	0.46	0.41	0.58	土師器・鉄製槍鉾・灰軸陶器	8世紀〜、壺か, SK49と重複
2	1	19	SD51	SD11	溝	不明	0.62	0.31	0.40	土師器	溝の下層Pitか, 東西方向
2	1	20	SK52	SK12	土坑	飛鳥	0.94	0.33	0.41	土師器・須恵器	7世紀
2	1	20	SK53	SK13	土坑	古代	0.80	0.17	0.14	土師器・須恵器	
2	1	20	SK54	SD14	土坑	古代	0.44	0.37	0.11	須恵器	土坑(古墳時代前期), 東西方向
2	1	24	SK55	SK15	土坑	平安以降	0.60	0.40	0.22	土師器・須恵器・灰軸陶器	9世紀
2	1	24	SK56	SK16	土坑	飛鳥	0.40	0.64	0.48	土師器・須恵器・焼土塊	7世紀
2	1	24	SD57	SD17	溝	不明	0.55	0.32	0.38	土師器	SD59に先行, 東西方向
2	1	24	SD58	SD18	溝	古代	6.87	0.35	0.18	土師器・須恵器	7世紀, 南北方向
2	1	25	SD59	SD19	溝	飛鳥・奈良	2.75	0.60	0.31	須恵器	7世紀後半, SD60・61に先行, 南北方向
2	1	25	SD60	SD20	溝	飛鳥・奈良	0.50	0.26	0.35	土師器・須恵器	7世紀後半, 南北方向
2	1	25	SD61	SD21	溝	平安以降	2.35	0.52	0.44	灰軸陶器	SD62に先行, 南北方向
2	1	25・26	SD62	SD22	溝	不明	4.90	0.20	0.18	土師器	SD58と接続するか, 南北方向
2	1	26	SK63	SK23	土坑	鎌倉	1.78	0.65	0.07	土師器・山茶碗・須恵器	13世紀ごろ
2	1	28	SD64	SD24	溝	古代	1.20	0.55	0.08	土師器・須恵器	7世紀後半か, 南北方向
2	2	1	SK65	SK1	土坑	飛鳥・奈良	1.00	1.09	0.23	土師器・須恵器・焼土塊	古墳時代後期〜古代, 本来はこれよりも広範囲
2	2	6	SK66	SK2	土坑	古代	0.66	0.38	0.12	土師器・須恵器	SD?
2	2	6	SK67	SK3	土坑	飛鳥	0.51	0.80	0.28	土師器・須恵器	
2	2	20	SD68	SD20	溝	奈良	2.71	2.97	0.17	土師器・須恵器	7世紀後半〜、斜行溝, 北で2つに分岐する, 東西方向
2	2	21	SD69	SD21	溝	奈良・平安	—	—	—	土師器・須恵器・瓦	7世紀後半〜、SD68に先行する, 東西方向
2	2	21	SD70	SD22	溝	不明	5.77	0.40	0.11	土師器	SD69の下層で検出, 落ち込みか
2	2	25	SD71	SD24	溝	不明	1.21	0.26	0.10	—	東西方向
2	2	25	SD72	SD25	溝	不明	1.24	0.36	0.14	—	南北方向

第七-3表 金沢川遺跡(第2次)遺構一覧表 *斜体字の表記は記載の数値以上であることを示す

調査 次数	調査区	地区	遺構番号 (報告)	遺構番号 (調査時)	性格	時代	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	出土遺物	備考(前後関係、特徴等)
2	3	1	SD73	SD1	溝	中世	2.61	1.12	0.50	土師器・須恵器・灰軸陶器・山茶碗	堅穴住居か、SD74に先行、南北方向
2	3	1	SD74	SD2	溝	近代以降	2.09	0.90	0.85	陶磁器・古代瓦・土師器	SD73と重複
2	3	2	SD75	SD3	溝	中世	0.51	0.60	0.21	山茶碗・土師器	
2	3	2	SK76	SK4	不明	不明	—	—	—	山茶碗	欠番
2	3	2	SK77	SK5	土坑	飛鳥・奈良	2.29	0.47	0.40	須恵器・木罨	
2	3	2	SK78	SK6	土壇墓	飛鳥・奈良	—	—	—	須恵器	SX80に帰属する、最終は欠番で処理
2	3	2	SK79	SK7	土坑	不明	1.81	0.62	0.27	—	
2	3	2	SX80	SX8	土壇墓	古墳後～飛鳥	2.28	1.61	0.55	須恵器	
2	3	2	SD81	SD9	溝	近世以降	1.57	1.54	0.74	山茶碗・土師器・陶磁器	SD83と東肩を接する、南北方向
2	3	3	SD82	SD10	現代複乱	現代	—	—	—	山茶碗	カクラン溝
2	3	2	SD83	SD11	溝	鎌倉	1.60	1.81	0.82	山茶碗・土鍾	SD81と西肩を接する、南北方向
2	3	4	SK84	SK12	土坑	不明	1.50	0.90	—	木器片	
2	3	4	SK85	SK13	土坑	古墳	2.05	0.24	0.33	古式土師器	
2	3	5	SK86	SK14	土坑	古墳	1.07	0.40	0.06	字田甕	
2	3	6	SK87	SK15	土坑	平安以降	1.14	1.66	0.57	灰軸陶器・土鍾・須恵器	
2	3	6	SD88	SD16	溝	鎌倉	—	—	—	山茶碗・羽釜	落ち込みか
2	3	6	SK89	SK18	土坑	不明	1.22	2.37	0.28	土師器	
2	3	9	SK90	SK19	土坑	不明	1.43	1.25	0.86	—	
2	3	9	SK91	SK20	土坑	不明	2.61	0.96	0.87	—	
2	3	9	SK92	SK21	土坑	不明	1.16	1.66	0.31	—	黒色の植物が面的に分布
2	3	10	SK93	SK22	土坑	古墳～古代	1.18	1.32	0.45	土師器	
2	3	10	SK94	SK23	土坑	不明	1.30	1.81	1.07	—	葉・植物出土
2	3	10	SK95	SK24	土坑	不明	1.58	0.77	0.43	—	
2	3	11	SK96	SK25	土坑	古墳	1.08	0.46	0.54	土師器	
2	3	11	SK97	SK26	土坑	古代	1.20	0.93	0.27	須恵器	
2	3	11	SK98	SK27	土坑	不明	0.86	0.34	0.23	—	
2	3	15	SD99	SD28	溝	奈良以降	1.34	1.57	0.21	弥生土器・土師器・須恵器	東西方向
2	3	16	SD100	SD29	溝	古墳後・飛鳥	0.53	1.08	0.12	須恵器・土師器	東西方向
2	3	17	SK101	SK30	土坑	古代	1.68	0.65	0.11	土師器・須恵器	
2	3	17	SK102	SK31	土坑	古代	1.28	0.58	0.11	須恵器・土師器	溝状遺構
2	6	1	SD103	SD1	溝	古代	3.30	0.40	0.04	土師器・須恵器	南北方向
2	6	1	SD104	SD2	溝	古墳後・飛鳥	1.50	0.44	0.09	土師器・須恵器	南北方向
2	6	2	SD105	SD3	溝	不明	1.33	0.25	0.06	土師器	東西方向
2	6	2	SD106	SD4	溝	古代	1.45	0.24	0.07	土師器・須恵器	斜行溝
2	6	3	SK107	SK5	土坑	不明	0.72	0.22	0.19	土師器	
2	6	3	SK108	SK6	土坑	飛鳥・奈良	0.93	3.30	1.42	須恵器・土師器・土鍾	
2	6	6	SK109	SK7	土坑	飛鳥・奈良	1.05	2.68	0.37	土師器・須恵器	
2	6	6	SK110	SK8	土坑	飛鳥・奈良	0.62	1.04	0.68	土師器・須恵器・鉄滓	
2	8	2	SK111	SK1	土坑	近世以降	0.71	1.52	—	陶器	
2	8	4	SD112	SD2	溝	中世以降か	1.41	1.34	—	須恵器・土師器・常滑焼	東西方向
2	8	5	SD113	SD3	溝	古代以降	1.35	0.60	0.08	須恵器	東西方向
2	8	6	SD114	SD4	溝	平安以降	3.00	0.29	0.20	土師器小片・灰軸陶器片	P1に先行、南北方向
2	8	6	SD115	SD5	溝	平安以降	1.40	1.44	0.16	土師器・灰軸陶器	東西方向
2	8	8	SD116	SD6	溝	奈良以降	1.34	1.88	0.55	土師器・須恵器	
2	8	8	SK117	SK7	土坑	飛鳥・奈良	0.96	0.54	0.23	須恵器・炭化木	
2	8	8	SD118	SD8	溝	奈良以降	0.81	0.64	0.10	土師器・須恵器	
2	8	9	SK119	SK9	土坑	不明	0.40	0.30	0.35	土師器・木片	

第七-4表 金沢川遺跡(第2次)遺構一覧表2 *斜体字の表記は記載の数値以上であることを示す

NO	実測 番号	種類	器種	調査区	遺構 層位	部位 残存度	口径	底径	器高	技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調 (外面)	備考
1	015-04	陶器	甕	調査坑15	SZ200	小片	-	-	-	内:ナナテ 外:ナナテ	やや密	良	10R 6/8 赤橙	釉:2.5YR 4/2 灰赤,常 滑産
2	016-05	須恵器	杯蓋	調査坑113	暗褐色粘質土	口縁部2/12	12.8	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 7/0 灰白	
3	016-06	須恵器	杯	調査坑119	-	底部1/12	11.0	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 7/0 灰白	高台内部に墨書あり
4	016-03	山茶碗	碗	調査坑99	-	口縁部1/12	12.4	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 8/0 灰白	
5	016-07	山茶碗	碗	調査坑94	褐色粘質土	底部3/12	-	6.2	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ、糸切	密	良	N 8/0 灰白	
6	016-08	山茶碗	碗	調査坑2	黒褐色粘土	底部1/12	-	7.8	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ、糸切	密	良	N 8/0 灰白	
7	016-02	灰軸	皿	調査坑58	-	底部1/12	-	6.5	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 8/0 灰白	
8	016-04	須恵器	壺	調査坑92	褐色粘質土	口縁部片	-	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 5/0 灰	
9	015-02	土師器	羽釜	調査坑100	包含層	小片	-	-	-	内:ココナテ、ナテ 外:ココナテ	や 粗	-	2.5Y 8/1 灰白	
10	015-03	土師器	甕	調査坑17	灰褐色粘質土	小片	-	-	-	内:ココナテ 外:ココナテ	密	-	10YR 8/3 浅黄橙	
11	015-05	陶器	加工円盤	調査坑23	包含層	完存	-	-	-	-	密	良	10R 6/8 赤橙	釉:5YR 4/1 褐灰 常滑焼:6.2×6.3×1.5
12	016-01	磁器	碗	調査坑119	-	底部2/12	-	5.0	-	-	密	良	N 7/0 灰白	釉:N 8/0 灰白
13	015-01	土師器	壺	調査坑12	黒褐色粘土	底部5/12	-	6.0	-	内: 外:	粗	-	7.5YR 8/4 浅黄橙	

第七-5表 金沢川遺跡範囲確認調査遺物観察表

NO	実測番号	種類	器種	調査区地図	遺構層位	部位残存度	口径	底径	器高	技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調 (外面)	備考
14	001-06	土師器	把手	A5	SK5	-	-	-	-		やや密	-	7.5YR 8/4 浅黄橙	
15	003-09	須恵器	高杯	A7	SK8	杯底部～脚部	-	-	-	内：ロコチテ 外：ロコチテ	密	良	N 7/0 灰白	
16	002-07	須恵器	杯蓋	A8	Pit1・SK12	1/12以下	14.8	-	-	内：ロコチテ 外：ロコチテ、ロコチテ	やや密	不良	5YR 7/6 橙	
17	001-03	土師器	甕	A9	SK14	1/12	9.8	-	-	内：ココチテ、ハナチテ 外：ココチテ、ハナチテ	密	-	2.5YR 7/6 橙	
18	005-05	山茶椀	椀	B3	SK17	3/12	16.2	7.4	6.0	内：ロコチテ 外：ロコチテ、糸切	密	良	5Y 7/1 灰白	高台にもみ殻痕あり
19	003-01	灰釉陶器	椀	B13	SD20	高台4/12	-	8.0	-	内：ロコチテ 外：ロコチテ、糸切後行	密	良	N 8/0 灰白	
20	003-02	灰釉陶器	椀	B13	SD20	高台1/12	-	6.6	-	内：ロコチテ 外：ロコチテ	密	良	N 8/0 灰白	
21	002-02	瓦	平瓦	B13	SD20	-	-	-	-		密	良	N 7/0 灰白	
22	002-01	瓦	平瓦	B13	SD20	-	-	-	-		密	良	N 7/0 灰白	
23	002-05	須恵器	杯	B14	SK22	1/12以下	8.5	-	3.6	内：ロコチテ 外：ロコチテ、ハナチテ	密	不良	N 8/0 灰白	
24	011-02	土製品	土鍾	B18	SK28	完存	孔 0.4	幅 1.1	長 3.6	-	密	良	7.5YR 7/6 橙 10YR 3/1 黒褐	孔径0.4
25	004-06	須恵器	杯蓋	B17・18	SK28ベルト	1/12	11.8	-	-	内：ナテ 外：ロコチテ	密	良	N 5/0 灰	内面降灰、焼けぶくれあり
26	004-05	須恵器	杯	B18	SK28	口縁1/12	12.2	-	-	外：ロコチテ	密	良	7.5Y 6/1 灰	
27	003-08	須恵器	高杯	B18	SK28	脚部	-	-	-	外：ロコチテ	密	良	N 7/0 灰白	方形透かし（2段？）
28	002-06	陶器	天目茶椀	C3	SK29	1/12以下	9.8	-	-	内：ロコチテ、施釉 外：ロコチテ、施釉	密	やや不良	2.5Y 8/2 灰白	釉（鉄釉） 10YR 7/4 にぶい黄橙、古瀬戸
29	001-07	土師器	把手	C1	SK32上	-	-	-	-		やや密	-	7.5YR 8/2 灰白	
30	004-02	須恵器	杯蓋	B16	SK25	3/12	12.9	-	4.2	内：ロコチテ、ナテ 外：ロコチテ、ロコチテ	密	良	N 6/0 灰	外面頂部降灰激しい
31	005-04	須恵器	杯蓋	B16	SK25	4/12	11.8	-	3.7	内：ロコチテ 外：ロコチテ、ハナチテ	密	良	10YR 6/1 褐灰	焼けぶくれ激しい
32	004-01	須恵器	杯	B16	SK25	7/12	10.0	-	3.9	内：ナテ、ロコチテ 外：ロコチテ、ロコチテ	密	良	N 5/0 灰	
33	005-02	土師器	高杯	B16	SK25	杯部1/12	12.0	-	-		密	不良	2.5Y 7/3 浅黄	
34	006-04	須恵器	高杯	B16	SK25	脚部	-	-	-	外：ロコチテ	密	良	5Y 7/1 灰白	線状3方向透かし
35	004-03	須恵器	高杯	B16	SK25	脚部	-	-	-	外：ロコチテ	密	良	7.5Y 6/1 灰	
36	004-04	須恵器	高杯	B16	SK25	脚部	-	-	-	外：ロコチテ	密	良	N 6/0 灰	方形透かし（2段？）
37	006-01	土師器	瓶	B16	SK25	口縁部2/12	22.2	-	-	内：ハナチテ、ココチテ 外：ココチテ	密	-	7.5YR 8/6 浅黄橙	
38	011-01	土師器	瓶	B16	SK25	口縁部2/12	43.6	-	-	内：イナテ、ハナチテ 外：ハナチテ、ハナチテ	密	良	7.5YR 7/4 にぶい黄橙	
39	013-1・2	土師器	竈	B16	SK25	5/12	22.0	-	-	内：ハナチテ、ココチテ 外：ハナチテ、ココチテ	密	良	7.5YR 7/6 橙	
40	006-02	土師器	把手	B16	SK25	-	-	-	-		密	-	7.5YR 8/6 浅黄橙	
41	006-03	土師器	把手	B16	SK25	-	-	-	-		密	-	5YR 7/8 橙	
42	010-01	土師器	甕	B16	SK25	口縁部6/12	30.6	-	-	内：ナテ、ココチテ 外：ナテ、ココチテ	密	良	7.5YR 8/3 浅黄橙	
43	005-01	土師器	甕	B16	SK25	口縁部1/12	20.0	-	-	内：ハナチテ 外：ココチテ、ハナチテ	密	-	7.5YR 7/6 橙	
44	012-02	須恵器	横瓶	B16	SK25	胴部	-	-	-	内：ナテ（同心円当て具） 外：ナテ、ココチテ	密	良	N 5/0 灰	
45	005-03	須恵器	壺	B16	SK25	口縁部2/12	12.2	-	-	内：ロコチテ、ナテ 外：ロコチテ	密	良	N 6/0 灰	
46	009-01	須恵器	甕	B16	SK25	頸部～胴部3/12	-	-	-	内：ナテ（同心円当て具） 外：ナテ、ココチテ	密	良	N 8/0 灰白	
47	010-02	須恵器	甕	B16	SK25	頸部	-	-	-	内：ナテ（同心円当て具） 外：ナテ	密	良	5Y 6/1 灰	格子目ナテ具使用
48	008-01	須恵器	甕	B16	SK25	1/12	32.8	-	-	内：ナテ（同心円当て具） 外：ナテ、ココチテ	密	-	7.5YR 8/2 灰白	韓式系
49	012-01	須恵器	甕	B16	SK25	底部	-	-	-	内：ナテ（同心円当て具） 外：ナテ、ココチテ	密	良	N 5/0 灰	
50	007-01	石製品	砥石	B16	SK25	-	15.1	16.3	3.8		-	-	-	重量：1300 g
51	001-05	土師器	杯蓋	B7	Pit1柱痕	つまみ7/12	-	-	-		やや密	-	10R 6/8 赤橙	
52	002-04	須恵器	杯	B16	Pit2	2/12	-	-	-	内：ロコチテ 外：ロコチテ、糸切？	密	不良	2.5Y 8/1 灰白	
53	001-04	土師器	甕	B1	Pit3	小片	-	-	-	内：ココチテ、ハナチテ 外：ココチテ、ナテ	やや粗	-	7.5YR 8/3 浅黄橙	
54	001-01	土師器	甕	B18	Pit3	口縁部1/12	35.8	-	-	内：ココチテ、ナテ 外：ココチテ、ナテ	やや粗	-	7.5YR 8/6 1 0YR 8/3 浅黄橙	
55	003-06	須恵器	杯	A2	包含層	高台1/12	-	11.0	-	内：ロコチテ 外：ロコチテ	密	良	N 8/0 灰白	黒褐色粘土
56	002-03	灰釉陶器	段皿	A4	包含層	小片	-	-	-	内：ロコチテ 外：ロコチテ、ロコチテ	密	良	N 8/0 灰白	釉（灰釉）：7.5Y 7/2 灰白 黒褐色粘土
57	003-03	灰釉陶器	椀	A4	包含層	高台1/12	-	8.0	-	内：ロコチテ 外：ロコチテ	密	良	N 8/0 灰白	黒褐色粘土
58	003-04	灰釉陶器	椀	A7	包含層	高台2/12	-	7.4	-	内：ロコチテ 外：ロコチテ	密	良	N 8/0 灰白	オリブ黒色シルト
59	003-07	山茶椀	椀	A7	包含層	高台2/12	-	6.0	-	内：ロコチテ 外：ロコチテ	密	良	N 8/0 灰白	オリブ黒色シルト
60	003-05	山茶椀	椀	A1	包含層	高台2/12	-	6.8	-	内：ロコチテ 外：ロコチテ	密	良	N 8/0 灰白	黒褐色粘土
61	014-02	須恵器	壺	B11	包含層	底部1/12	-	6.6	-	内：ロコチテ 外：ロコチテ、ロコチテ	密	良	N 7/0 灰白	
62	014-03	陶器	加工円盤	B3	包含層	完存	-	-	-		やや密	-	2.5YR 6/8 橙	常滑焼：4.7×5.3×1.6
63	014-01	瓦	平瓦	B12	包含層	-	-	-	-	内：工具ナテ	密	良	10YR 7/3 にぶい黄橙	
64	001-02	土師器	羽釜	C3	包含層	1/12	28.0	-	-	内：ナテ 外：	やや密	-	5YR 7/8 橙	

第七-6表 金沢川遺跡（第1次）遺物観察表

NO	実測番号	種類	器種	調査区地図	遺構層位	部位残存度	口径	底径	器高	技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調 (外面)	備考
65	009-03	土師器	高杯	1区-14	SK48	杯部片	-	-	-	内: 外:	密	-	7.5YR 8/4 浅黄橙	摩滅著しい
66	011-03	土師器	高杯	1区-14	SK48	脚部11/12	-	-	-	内:赤 外:赤、ヘラキ	密	-	10YR 7/3 にぶい黄橙	杯部内面は摩滅により調 整不明
67	009-04	土師器	甕	1区-14	SK48	底部12/12	-	-	-	内:指、ヘラキ 外:	密	-	10YR 6/3 にぶい黄橙	摩滅著しい
68	009-01	土師器	高杯	1区-18	SK49	小片	-	-	-	内: 外:	密	-	5YR 6/6 橙	摩滅著しい
69	009-02	土師器	高杯	1区-18	SK49	脚部5/12	-	-	-	内:赤 外:	密	-	7.5YR 7/6 橙	外面摩滅激しい
70	010-02	土師器	台付甕	1区-18	SK49	1/12	-	-	-	内:赤、ヨコテ 外:ヨコテ、ヘラキ	密	-	5YR 6/6 橙	
71	009-05	土師器	杯	1区-18	SK50	1/12	12.8	-	-	内:赤、工具 外:ヨコテ、ヘラキ	密	-	7.5YR 8/4 浅黄橙	
72	200-03	鉄製品	槍鉋	1区-18	SK50	両端欠	厚 0.2	幅 2.2	長 13.3		-	-	-	
73	010-01	須恵器	杯蓋	1区-20	SK52	小片	-	-	-	内:ロコテ 外:ロコテ、ロコテ	密	良	N 7/0 灰白	
74	011-02	須恵器	高杯	1区-20	SK52	脚部1/12	-	9.3	-	内:ロコテ 外:ロコテ	密	良	N 5/0 灰	
75	010-04	土師器	甕	1区-20	SK52	1/12	16.0	-	-	内:赤、ヨコテ 外:ヨコテ、赤	密	-	7.5YR 8/4 浅黄橙	摩滅著しい
76	011-01	灰釉 陶器	皿	1区-24	SK55	1/12	-	7.5	-	内:ロコテ 外:ロコテ、ロコテ	密	良	2.5Y 8/1 灰白	
77	011-06	土製品	土錘	1区-24	SK55		孔 0.6	幅 1.6	長 3.8		密	-	7.5YR 6/4 にぶい黄橙	
78	010-06	須恵器	杯蓋	1区-25	SD59	1/12	12.0	-	-	内:赤、ロコテ 外:ロコテ、ロコテ	密	良	10Y 6/1 灰	
79	009-06	須恵器	杯蓋	1区-25	SD59	1/12	12.2	-	-	内:ロコテ 外:ロコテ、ロコテ	密	良	N 7/0 灰白	
80	011-05	須恵器	杯蓋	1区-25	SD59	つまみ9/12	-	-	-	内:赤 外:ロコテ、ロコテ	密	良	N 7/0 灰白	
81	010-03	須恵器	杯	1区-25	SD59	小片	-	-	-	内:ロコテ 外:ロコテ	密	良	2.5Y 8/1 灰白	
82	010-05	須恵器	甕	1区-24	SK56上面	体部	-	3.5	-	内:ロコテ 外:ロコテ、ロコテ	密	良	N 5/0 灰	
83	006-05	土師器	無台杯	2区-1	SK65	1/12	17.4	-	-	内:ヨコテ、二段放射暗文 外:ヨコテ、ヘラキ	密	-	5YR 7/6 橙	
84	007-03	須恵器	無台杯	2区-1	SK65	小片	-	-	-	内:ロコテ 外:ロコテ、ヘラキ後	密	良	N 5/0 灰	
85	007-02	須恵器	無台杯	2区-1	SK65	6/12	-	7.2	-	内:赤、ロコテ 外:ロコテ、ロコテ	密	良	N 7/0 灰白	
86	007-06	須恵器	無台杯	2区-1	SK65	7/12	-	6.4	-	内:赤、ロコテ 外:ロコテ、ヘラキ後	密	良	N 6/1 灰	瓶類底部の可能性あり
87	006-01	須恵器	無台杯	2区-1	SK65	3/12	-	6.0	-	内:赤、ロコテ 外:ロコテ、ヘラキ後	密	良	N 7/0 灰白	
88	006-03	須恵器	杯	2区-1	SK65	2/12	12.6	8.3	4.6	内:赤、ロコテ 外:ロコテ、ロコテ	密	良	N 7/0 灰白	
89	006-02	須恵器	高杯	2区-1	SK65	小片	-	-	-	内:赤 外:ロコテ、ロコテ	密	良	N 7/0 灰白	
90	007-01	土師器	甕	2区-1	SK65	小片	-	-	-	内: 外:赤、指	密	-	7.5YR 7/4 にぶい黄橙	
91	007-05	土師器	甕	2区-1	SK65	小片	-	-	-	内: 外:赤、指	密	-	5YR 7/6 橙	
92	007-04	土師器	甕	2区-1	SK65	小片	-	-	-	内:ヨコテ、工具 外:ヨコテ	密	-	5YR 6/4 にぶい黄橙	表面剥離、摩滅著しい
93	006-04	土師器	甕	2区-1	SK65	1/12	19.4	-	-	内: 外:	密	-	7.5YR 7/6 橙	摩滅著しい
94	008-02	須恵器	横瓶	2区-6	SK66	10/12	12.7	-	-	内:ロコテ、当て具痕跡(同心円文) 外:ロコテ、赤	密	-	N 8/0 灰白	
95	005-03	須恵器	甕	2区-6	SK66	2/12	-	-	-	内:赤、当て具痕跡(同心円文) 外:赤、赤目調整	密	良	N 5/0 灰	
96	005-02	須恵器	瓶(平瓶)	2区-20	SD68	1/12	12.6	-	-	内:ロコテ 外:ロコテ	密	良	N 7/0 灰白	
97	005-01	須恵器	杯蓋	2区-26	SD69	1/12以下	15.6	-	4.7	内:赤、ロコテ 外:ロコテ、ロコテ	密	良	N 6/0 灰	
98	006-06	須恵器	杯蓋	2区-21	SD69	小片	-	-	-	内:ロコテ 外:ロコテ	密	良	N 7/0 灰白	外面降灰あり
99	004-05	須恵器	杯蓋	2区-22	SD69	1/12	13.8	-	-	内:赤、ロコテ 外:ロコテ、ロコテ	密	良	N 6/0 灰	
100	008-05	須恵器	杯蓋	2区-21	SD69	1/12	12.0	-	-	内:ロコテ 外:ロコテ、ヘラキ	密	良	N 6/0 灰	
101	008-04	須恵器	無台杯	2区-21	SD69	小片	-	-	-	内:赤、ロコテ 外:ロコテ、ロコテ	密	良	N 6/0 灰	
102	004-04	須恵器	杯	2区-22	SD69	3/12	-	6.6	-	内:ロコテ 外:ロコテ、糸切	密	良	N 8/0 灰白	
103	008-03	須恵器	椀	2区-21	SD69	12/12	-	4.2	-	内:赤、ロコテ 外:ロコテ、糸切	や 密	良	N 8/0 灰白	
104	004-06	須恵器	盤	2区-23	SD69	3/12	-	15.0	-	内: 外:	密	-	N 9/0 白	摩滅著しい
105	004-02	土師器	皿	2区-22	SD69	2/12	17.8	-	-	内: 外:	密	-	7.5YR 7/4 にぶい黄橙	摩滅剥離著しい
106	003-02	土師器	皿	2区-21	SD69	1/12	16.0	-	1.4	内: 外:	密	-	5YR 6/6 橙	内外とも摩滅著しい
107	003-08	土師器	皿	2区-22	SD69	2/12	-	-	-	内: 外:	密	-	5YR 5/6 明赤橙	摩滅剥離著しい
108	003-05	土師器	甕	2区-22	SD69	1/12	14.8	-	-	内: 外:	密	-	7.5YR 7/4 にぶい黄橙	摩滅剥離著しい
109	003-04	土師器	甕	2区-22	SD69	小片	-	-	-	内: 外:	密	-	10YR 8/4 浅黄橙	摩滅剥離著しい
110	003-07	土師器	甕	2区-22	SD69	小片	-	-	-	内: 外:	密	-	7.5YR 7/3 にぶい黄橙	摩滅剥離著しい
111	003-06	土師器	甕	2区-22	SD69	小片	-	-	-	内:ヘラキ 外:ヘラキ	密	-	10YR 7/4 にぶい黄橙	摩滅剥離著しい
112	003-03	土師器	甕	2区-22	SD69	小片	-	-	-	内: 外:ヨコテ、ヘラキ	密	-	5YR 6/6 橙	摩滅剥離著しい
113	004-03	土師器	甕	2区-22	SD69	1/12	21.6	-	-	内:ヨコテ、ヘラキ 外:ヨコテ	密	-	7.5YR 7/4 にぶい黄橙	外面の摩滅剥離著しい
114	004-01	土師器	甕	2区-22	SD69	1/12	22.4	-	-	内:ヨコテ、ヘラキ 外:ヨコテ、ヘラキ	密	-	10YR 7/6 明黄橙	
115	003-01	瓦	平瓦	2区-21	SD69	-	-	-	-	内:布目 外:	密	良	5Y 7/1 灰白	
116	002-06	須恵器	杯蓋	3区-2	SK77	完形	13.0	-	4.1	内:赤、指、ロコテ 外:ロコテ、ロコテ	密	良	N 6/1 灰	
117	002-03	須恵器	低脚高杯	3区-2	SK77	口縁部4/12 底部6/12	11.6	8.7	7.6	内:赤、ロコテ 外:ロコテ	密	良	7.5Y 5/1 灰	
118	100-01	木製品	鋤	3区-2	SK77	柄部欠	厚 2.1	幅 14.0	長 28.0		-	-	-	アカガシ亜属・榎目

第七-7表 金沢川遺跡(第2次)遺物観察表1

NO	実測番号	種類	器種	調査区地図	遺構層位	部位残存度	口径	底径	器高	技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調 (外面)	備考
119	001-01	須恵器	杯蓋	3区-2	SX80	完形	11.2	-	3.9	内:行'、ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	10YR 6/1 褐灰	取り上げ8
120	002-02	須恵器	杯蓋	3区-2	SX80	1/12	12.2	-	4.9	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	N 5/1 灰	取り上げ7
121	002-04	須恵器	杯蓋	3区-2	SX80	6/12	13.0	-	4.2	内:行'、サエ、ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	7.5Y 5/1 灰	
122	001-02	須恵器	杯蓋	3区-2	SX80	完形	13.4	-	4.5	内:サエ、ロコナテ' 外:ロコナテ'、ヘラキサエ	密	良	N 5/1 灰	取り上げ6 内面に黒色付着物あり
123	002-01	須恵器	杯蓋	3区-2	SX80	小片	-	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'	密	良	N 5/1 灰	
124	002-07	須恵器	杯	3区-2	SX80	5/12	11.0	-	4.4	内:行'、サエ、ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	2.5? 6/1 黄灰	取り上げ2
125	001-04	須恵器	杯	3区-2	SX80	完形	11.3	-	5.1	内:行'、ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	2.5? 8/1 灰白	取り上げ4
126	001-05	須恵器	杯	3区-2	SX80	完形	11.3	-	3.4	内:行'、サエ、ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	5Y 6/1 灰	取り上げ5
127	002-05	須恵器	杯	3区-2	SX80	8/12	11.6	-	3.8	内:行'、ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	不良	10YR 7/2 にぶい黄橙	取り上げ8
128	001-03	須恵器	長脚高杯	3区-2	SX80	杯部完形、脚部欠	13.3	-	-	内:行'、ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	10YR 5/1 褐灰	取り上げ3 内面に降灰
129	001-06	須恵器	長脚高杯	3区-2	SX80	完形	12.5	13.7	16.2	内:行'、ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	N 6/1 灰	取り上げ1
130	002-08	須恵器	杯	3区-2	SK78	9/12	10.6	-	3.9	内:行'、サエ、ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	5Y 7/1 灰白	
131	013-02	山茶碗	碗	3区-2	SD83上面	底部1/12	-	7.6	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'、モミカワ痕	密	良	N 8/0 灰白	
132	013-03	土製品	土鉢	3区-2	SD83上面		孔0.4	幅1.1	長2.9		密	-	10YR 8/1 灰白	
133	008-01	土師器	甕	3区-5	SK86	10/12	15.0	-	-	内:ヨコナテ' 外:ヨコナテ'、ハケナテ'	やや密	-	7.5YR 8/4 浅黄橙	
134	013-04	山茶碗	碗	3区-6	SD88	底部2/12	-	8.6	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'	やや密	良	N 8/0 灰白	
135	014-02	須恵器	杯蓋	3区-15	SD99	小片	-	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'	密	良	N 7/0 灰白	
136	014-01	弥生土器	壺	3区-15	SD99	3/12	-	6.2	-	内: 外:	やや密	-	5YR 3/2 暗赤褐	摩滅著しい
137	014-03	須恵器	高杯	3区-16	SD100	脚部	-	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'	密	良	N 5/0 灰	三方二段透かし
138	013-01	須恵器	甕	3区-11	SK97	1/12	-	-	-	内:工具ナテ' 外:サキ	密	良	N 7/0 灰白	
139	016-08	須恵器	杯蓋	6区-3	SK108	6/12	10.0	-	3.1	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'、ヘラキ後サエ	密	良	10YR 6/1 褐灰	
140	015-07	須恵器	杯蓋	6区-3	SK108a層	4/12	10.2	-	-	内:行'、ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	N 6/0 灰	
141	016-01	須恵器	杯蓋	6区-3	SK108a層	3/12	10.8	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	N 5/0 灰	
142	016-02	須恵器	杯蓋	6区-3	SK108	小片	-	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'	密	良	2.5Y 4/1 黄灰	
143	016-03	須恵器	杯蓋	6区-3	SK108a層	小片	-	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'	密	良	5Y 6/1 灰	
144	016-09	須恵器	杯蓋	6区-3	SK108	小片	-	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'	密	良	N 5/0 灰	
145	016-04	須恵器	杯蓋	6区-3	SK108b層	小片	-	-	-	内:行'、ロコナテ' 外:ロコナテ'、ヘラキ	密	良	2.5Y 6/1 黄灰	
146	016-05	須恵器	杯	6区-3	SK108a層	1/12	受部13.8	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	N 5/0 灰	
147	016-07	須恵器	鉢	6区-3	SK108a層	小片	-	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	10YR 6/1 褐灰	内面自然釉付着
148	016-06	須恵器	平瓶	6区-3	SK108a層	口縁部2/12	5.6	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'	密	良	2.5Y 5/1 黄灰	
149	015-05	土師器	高杯	6区-3	SK108a層	脚部3/12	-	11.0	-	内: 外:	密	-	5YR 6/6 橙	摩滅著しい
150	015-02	土師器	甕	6区-3	SK108a層	1/12	14.8	-	-	内: 外:	密	-	5YR 7/4 にぶい橙	摩滅著しい
151	015-04	土師器	甕	6区-3	SK108a層	1/12	14.0	-	-	内: 外:	密	-	2.5YR 6/6 橙	剥離摩滅著しい
152	015-03	土師器	甕	6区-3	SK108a層	1/12	15.0	-	-	内: 外:	密	-	10YR 8/3 浅黄橙	剥離摩滅著しい
153	015-01	土師器	甕	6区-3	SK108a層	1/12	22.4	-	-	内: 外:	密	-	7.5YR 6/6 橙	摩滅著しい
154	015-06	土製品	土鉢	6区-3	SK108a層		孔1.4	幅3.5	長7.8		密	-	2.5Y 6/2 灰黄	摩滅著しい
155	017-01	須恵器	杯蓋	6区-6	SK109	1/12	13.0	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'	密	良	N 6/0 灰	
156	017-02	須恵器	無台杯	6区-6	SK109	1/12	-	10.8	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	2.5Y 6/1 黄灰	
157	017-03	須恵器	杯	6区-6	SK110	小片	-	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	5Y 5/1 灰	
158	017-04	須恵器	高杯	6区-6	SK110	脚部12/12	-	-	-	内:行'、ロコナテ' 外:ロコナテ'	密	良	N 5/0 灰	
159	200-02	その他	鉄滓	6区-6	SK110		厚2.3	幅5.6	長7.1		-	-	-	
160	018-01	灰釉陶器	杯	8区-6	SD115	小片	-	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'	密	良	N 8/0 灰白	
161	018-02	灰釉陶器	皿	8区-6	SD115	1/12	-	7.0	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'	密	良	N 8/0 灰白	
162	018-03	土師器	杯	8区-8	SD116	小片	-	-	-	内:行' 外:行'	やや密	-	2.5YR 6/8 橙	摩滅著しい
163	018-04	土師器	瓶	8区-8	SD116	3/12	-	11.0	-	内:行' 外:行'	やや密	-	5YR 7/6 橙	摩滅著しい、鉢か
164	022-06	須恵器	長脚高杯	8区-5	SK117	脚部のみ	-	-	-	内:行'、サエ 外:ロコナテ'	密	良	N 7/0 灰白	杯部内面にヘラ記号あり
165	018-05	須恵器	皿蓋	8区-8	SD118	1/12	25.0	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	N 8/0 灰白	
166	018-06	土師器	鍋	8区-8	SD118	1/12	25.8	-	-	内:ハナテ' 外:	やや密	-	2.5YR 6/8 橙	摩滅著しい、把手付
167	012-03	須恵器	杯蓋	1区-26	Pit1	2/12	9.0	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	N 6/0 灰	
168	012-02	須恵器	甕	1区-24	Pit4	2/12	25.6	-	-	内:ロコナテ'、当て具痕跡(同心円文) 外:ロコナテ'、サキ	密	良	N 5/0 灰	
169	014-04	埴輪	円筒	3区-1	Pit1	小片	-	-	-	内:ナテ' 外:	密	-	10YR 8/2 灰白	
170	019-06	須恵器	杯蓋	6区-2	Pit31	小片	-	-	-	内:ロコナテ' 外:ロコナテ'、ロコナズリ	密	良	N 4/0 灰	

第七-8表 金沢川遺跡(第2次)遺物観察表2

NO	実測番号	種類	器種	調査区地図	遺構層位	部位残存度	口径	底径	器高	技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調 (外面)	備考
171	019-07	須恵器	杯蓋	6区-3	Pit38	小片	-	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 7/0 灰白	
172	019-05	須恵器	杯蓋	6区-2	Pit31	1/12	10.2	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 8/0 灰白	外面降灰あり
173	019-02	須恵器	杯	6区-6	Pit4	小片	-	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ、ロコナズリ	密	良	N 6/0 灰	焼き歪みあり
174	019-03	須恵器	杯	6区-5	Pit7	1/12	-	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 8/0 灰白	
175	019-09	須恵器	高杯	6区-3	Pit43	1/12	-	7.0	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 7/0 灰白	
176	017-05	須恵器	円面碗	6区-0	Pit2	2/12	16.0	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 6/0 灰	碗面使用痕(摩耗)あり
177	019-04	須恵器	短頸壺	6区-5	Pit12	2/12	9.2	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 7/0 灰白	
178	019-08	須恵器	短頸壺	6区-3	Pit41	1/12	10.2	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ、ロコナズリ	密	良	N 7/0 灰白	
179	200-01	その他	鉄滓	6区-3	Pit42	-	厚 2.4	幅 7.2	長 11.0		-	-	-	
180	018-08	土師器	杯	8区-5	Pit3	小片	-	-	-	内:テ、ヨコテ 外:テ、ヨコテ	やや密	-	5YR 7/6 橙	
181	018-09	土師器	杯	8区-5	Pit3	小片	-	-	-	内:テ、ヨコテ 外:テ、ヨコテ	やや密	-	7.5YR 7/4 にぶい橙	
182	018-07	須恵器	長頸壺	8区-8	Pit1	頸部3/12	8.0	-	-	内:ロコナテ、自然釉 外:ロコナテ	密	良	N 7/0 灰白	
183	019-01	土師器	甕	8区-5	Pit3	2/12	25.8	-	-	内:テ、ヨコテ 外:ヨコテ	やや密	-	5YR 8/4 淡橙	剥離摩滅著しい
184	020-05	須恵器	杯蓋	1区-13	包含層	1/12	12.5	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 8/0 灰白	
185	020-02	山茶碗	碗	1区-14	包含層	4/12	15.5	6.6	5.0	内:テ、ロコナテ 外:ロコナテ、糸割	密	良	2.5Y 8/1 灰白	自然釉あり
186	020-01	山茶碗	碗	1区-15	包含層	小片	-	-	-	内:テ、ロコナテ 外:ロコナテ、糸割	密	良	2.5Y 8/1 灰白	
187	020-06	山茶碗	碗	1区-15	包含層	小片	-	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ、糸割	密	良	N 8/0 灰白	
188	020-04	土師器	把手	1区-12	包含層	-	-	-	-	内:テ、サキ 外:	密	-	5YR 7/6 橙	
189	011-04	須恵器	壺	1区-13	落ち込み2	頸部1/12	-	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 7/0 灰白	内外に降灰付着
190	012-01	弥生土器	壺	1区-14	ベース	3/12	-	6.8	-	内:テ、サキ 外:	やや密	-	7.5YR 8/3 浅黄橙	外面摩滅著しい
191	020-08	埴輪	円筒	3区-7	包含層	小片	-	-	-	内: 外:テ	密	-	10YR 7/2 にぶい黄橙	
192	020-03	土製品	土錘	3区-15	包含層	-	孔 2.0	幅 3.85	-	内: 外:	密	-	5YR 6/6 橙	
193	013-05	土師器	羽釜	3区-6	包含層	1/12	20.1	-	-	内:テ、ヨコテ 外:テ	やや密	-	10YR 8/2 灰白	つばより下部スス付着
194	020-07	須恵器	杯	5区-2	包含層	1/12	9.6	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ、ロコナズリ	密	良	N 6/1 灰	
195	020-09	須恵器	杯	5区-2	包含層	9/12	-	9.2	-	内:テ 外:ロコナズリ	密	良	N 7/0 灰白	
196	021-06	須恵器	杯蓋	6区-3	包含層	小片	-	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ、ロコナズリ	密	良	N 6/1 灰	
197	021-02	須恵器	杯蓋	6区-3	包含層	小片	-	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ、ロコナズリ	密	良	N 7/0 灰白	
198	021-01	須恵器	高杯	6区-2	包含層	小片	-	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 7/0 灰白	
199	021-05	山茶碗	碗	6区-2	包含層	1/12	15.6	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	5Y 7/1 灰白	自然釉あり
200	021-08	山茶碗	碗	6区-2	包含層	1/12	-	6.9	-	内:テ、ロコナテ 外:ロコナテ、糸割	密	良	5Y 8/1 灰白	
201	022-03	須恵器	杯蓋	7区-6	包含層	1/12	-	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	7.5Y 7/1 灰白	
202	021-07	須恵器	杯蓋	7区-6	包含層	小片	-	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 7/0 灰白	
203	021-03	須恵器	杯	7区-6	包含層	2/12	-	11.5	-	内:テ 外:ロコナズリ	密	良	7.5YR 7/1 灰白	
204	021-09	須恵器	壺	7区-5	包含層	5/12	-	5.4	-	内:テ、ロコナテ 外:ロコナズリ、ヘテ後サキ	密	良	N 7/0 灰白	
205	021-04	須恵器	長頸壺	7区-6	包含層	4/12	-	-	-	内:ロコナテ 外:ロコナテ	密	良	N 6/1 灰	
206	022-04	須恵器	甕	7区-6	包含層	-	-	-	-	内:テ、当て具痕跡(同心円文) 外:テ、サキ後サキ目テ	密	良	2.5Y 8/1 灰白	
207	022-02	灰釉陶器	皿	8区-5	包含層	2/12	15.3	6.2	2.8	内:ロコナテ 外:ロコナテ、糸割	密	良	2.5Y 7/1 灰白	
208	022-08	灰釉陶器	皿	8区-8	包含層	2/12	-	7.0	-	内:テ 外:ロコナズリ	密	良	N 8/0 灰白	
209	022-05	須恵器	壺	8区-5	包含層	2/12	-	10.0	-	内:テ、ロコナテ 外:ロコナズリ	密	良	N 8/0 灰白	
210	022-01	土師器	高杯	8区-5	包含層	杯部・底部欠	-	-	-	内:テ、サキ 外:ヘテズリ(七角形に成形)	密	-	5YR 7/6 橙	
211	022-07	瓦	平瓦	8区-8	包含層	-	-	-	-	凸面:サキ後、テ消し 凹面:布目痕跡	密	良	2.5Y 7/1 灰白	

第七-9表 金沢川遺跡(第2次)遺物観察表3

第Ⅷ章 自然科学分析

第1節 中島遺跡・深田遺跡（第3次）にかかる微化石分析

はじめに

令和3年度農地整備事業（経営体育成型）鈴鹿川沿岸6期地区に伴う埋蔵文化財発掘調査において、中島遺跡・深田遺跡（第3次）の花粉分析、珪藻分析、植物珪酸体分析を行い、植生及び古環境の復原を行う。

i) 試料

分析試料は、以下の9点である（第Ⅷ-1表参照）。中島遺跡と深田遺跡は概ね600mから700m離れ、いずれの調査区も微高地と落ち込み状の凹地が複雑に入り組んでいる。採取は落ち込み状の層序から採取されたものである。

a. 花粉分析

i) はじめに

花粉分析は、第四紀学で多く扱われ、生層序によるゾーン解析で地層を区分し、ゾーン比較によって植生や環境の変化を復原する方法である。そのため普通は湖沼などの堆積物が対象となり、堆積盆単位など比較的広域な植生・環境の復原を行う方法として用いられる。遺跡調査においては遺構内の堆積物など局地的でかつ時間軸の短い堆積物も対象となり、より現地性の高い植生・環境・農耕の復原もデータ比較の中で行える場合もある。さらに遺物包含層など、乾燥的な環境下の堆積物も対象となり、その分解性も環境の指標となる。また、風媒花や虫媒花などの散布能力などの差で、狭い範囲の植生に由来する結果が得られるなど、陸域の堆積物が分析に適さないわけではない。

ii) 方法

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行った。

1) 試料から1cm³を採量

2) 0.5%リン酸三ナトリウム（12水）

溶液を加え15分間湯煎

3) 水洗処理の後、0.25mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂

粒を除去

4) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置

5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す

6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理

7) 沈渣にチール石炭酸フクシン染色液を加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製

8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡（Nikon ECLIPSE Ci）によって300～1000倍で行った。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本、島倉（1973）、中村（1980）を参照して行った。イネ属については、チール石炭酸フクシンで染色を施すことにより特徴がより鮮明になるため、中村（1974、1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定している。なお、花粉分類では樹木花粉（AP）及び非樹木花粉（NAP）となるが非樹木花粉（NAP）は草本花粉として示した。

iii) 結果

(1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉29、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉25、シダ植物孢子2形態の計59分類群である。これらの学名と和名及び粒

試料No.	遺跡名	グリッド	層序	含まれる土器およびその年代
1	深田遺跡 (第3次)	D4	7層	弥生時代後期 ～ 古墳時代（5・6世紀）
2			30層	
3			31層	
4			33層	
5			45層（地山）	
6	中島遺跡	B20	4層	廻間I式並行・6世紀代 ～ 弥生～古墳（廻間I式並行）
7			6層	
8			7層	
9			8層（地山）	

第Ⅷ-1表 中島遺跡・深田遺跡（第3次）分析資料

数を第Ⅷ-2表に示し、花粉数が100個以上計数できた試料については、周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第Ⅷ-1図に示し、近隣の森林植生及び気候帯の変遷を推定するために樹木花粉総数を基数とする樹木花粉ダイアグラムを第Ⅷ-2図に示す。また、主要な分類群は顕微鏡写真に示した。同時に、寄生虫卵についても

検鏡した結果、1分類群が検出された。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属-アサダ、ク

Taxa (分類群)		深田遺跡(第3次)D4グリッド					中島遺跡 B20グリッド			
Scientific name (学名)	Japanese name (和名)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
Arboreal pollen										
<i>Podocarpus</i>	マキ属		2	1	1					
<i>Abies</i>	モミ属		1	1	1					
<i>Picea</i>	トウヒ属			1						
<i>Tsuga</i>	ツガ属		4	4	3			2	1	
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	7	5	20	7		2		1	
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	5	34	80	67		9	2	8	
<i>Sciadopitys verticillata</i>	コウヤマキ		1	1	3					
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科		5	11	5		2			
<i>Juglans</i>	クルミ属							1		
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ			1	1		1			
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	9	46	42	4		5	7		
<i>Betula</i>	カバノキ属		4	5	4					
<i>Corylus</i>	ハシバミ属		2	1	1		1			
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ	1	1	6						
<i>Castanea crenata</i>	クリ	2	5	8	11		15	5		
<i>Castanopsis</i>	シイ属	2	13	32	21		16	4		
<i>Fagus</i>	ブナ属		3	5	1					
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	2	27	44	21	1	22	9	29	1
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	20	86	29	1	17	3		
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ		2	7	1					
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ		1	3						
<i>Rhus</i>	ウルシ属	1								
<i>Ilex</i>	モチノキ属							1		
Celastraceae	ニシキギ科			3	1					
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ		2		1					
<i>Vitis</i>	ブドウ属						1			
Ericaceae	ツツジ科		1							
<i>Symplocos</i>	ハイノキ属		1					1		
Oleaceae	モクセイ科		1	1				1		
Arboreal・Nonarboreal pollen										
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2	3	2	9		9	11	4	
Saxifragaceae	ユキノシタ科						1		3	
Leguminosae	マメ科		1		1					
Nonarboreal pollen										
草本花粉										
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属				1					
<i>Alisma</i>	サジオモダカ属		1	1	1					
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属		1		1		1			
Gramineae	イネ科	63	81	125	54	3	99	40	37	2
<i>Oryza</i>	イネ属	4	10	11	5		5	1		
Cyperaceae	カヤツリグサ科	2	47	102	26		26	4	2	
<i>Monochoria</i>	ミズアオイ属			1						
<i>Allium</i>	ネギ属		2							
<i>Polygonum</i>	タデ属		1							
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1	2	4	3					
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属	1								
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1					10	16		
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1						1		
<i>Ranunculus</i>	キンボウグ属						1			
Cruciferae	アブラナ科	250	1				2	11		
<i>Sanguisorba</i>	ワレモコウ属			6	7					
<i>Rotala</i>	キカシグサ属				2			1		
<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属		1	1						
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科		14							
Aptioideae	セリ亜科		4	14	12	2	18	3		
Labiatae	シソ科						1			
Lactuoidaeae	タンポポ亜科	5	3	6	1		5	1	1	
Asteroidaeae	キク亜科		4	8	7		9	2	4	
<i>Xanthium</i>	オナモミ属						1			
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	8	24	38	124	2	109	35	18	1
Arboreal pollen	樹木花粉	30	181	363	183	2	91	36	39	1
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	4	2	10	0	10	11	7	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	336	196	317	244	7	287	115	62	3
Total pollen	花粉総数	368	381	682	437	9	388	162	108	4
Pollen frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度	6.9	3.4	1.8	1.1	0.7	3.5	1.2	1.3	0.3
		×10 ³	×10 ⁴	×10 ⁵	×10 ⁵	×10 ²	×10 ³	×10 ³	×10 ³	×10 ²
Unknown pollen	未同定花粉	2	10	9	5	1	3	7	7	0
Fern spore	シダ植物胞子									
Monolate type spore	単条溝胞子	9	4				14	18	8	
Trilate type spore	三条溝胞子	1	18	2	2		16	6	10	
Total Fern spore	シダ植物胞子総数	10	22	2	2	0	30	24	18	0
Parasite eggs	寄生虫卵									
Unknown eggs	不明虫卵			1						
Total	計	0	0	1	0	0	0	0	0	0
Parasite eggs frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の寄生虫卵密度	-	-	1.1	-	-	-	-	-	0.0
		-	-	×10	-	-	-	-	-	×10
Stone cell	石細胞	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion remains	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal・woods fragments	微細炭化物・微細木片	(++)	(+)	(+)	(+)	(<+)	(+)	(+)	(+)	(<+)
微細植物遺体(Charcoal・woods fragments) (×10 ³)										
未分解遺体片			0.4	2.3	1.4		0.5		0.6	
分解質遺体片		53.5	8.8	39.0	49.5	0.4	35.7	20.8	27.5	1.7
炭化遺体片(微粒炭)		9.9	0.8			1.5	0.5	1.1	1.1	0.8

第Ⅷ-2表 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における花粉分析結果

リ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属一ケヤキ、エノキ属一ムクノキ、ウルシ属、モチノキ属、ニシキギ科、トチノキ、ブドウ属、ツツジ科、ハイノキ属、モクセイ科

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕
クワ科一イラクサ科、ユキノシタ科、マメ科

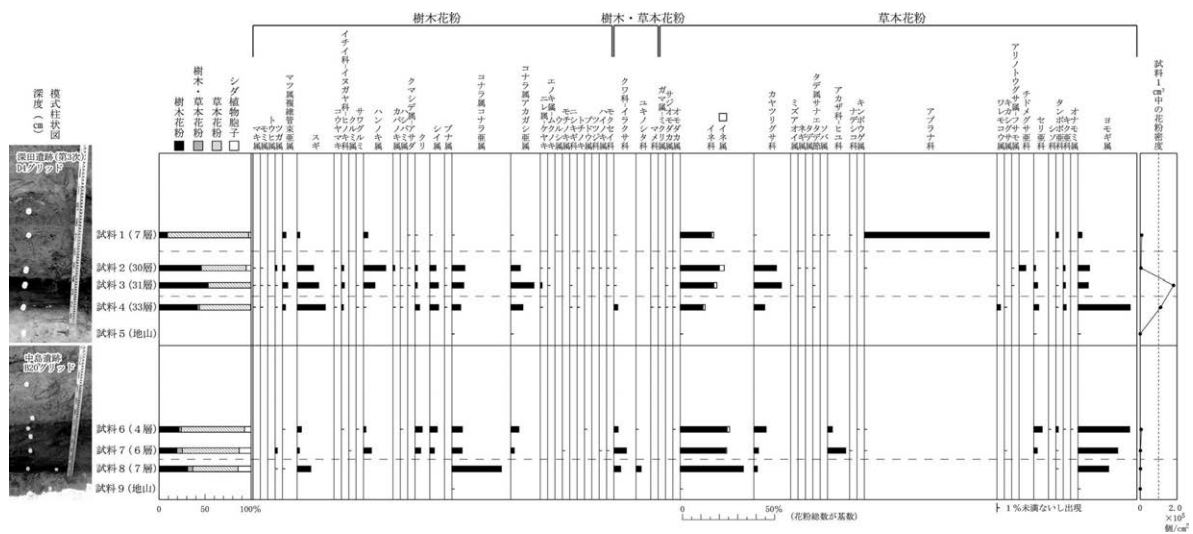
〔草本花粉〕
ガマ属一ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、

ネギ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科一ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、アブラナ科、ワレモコウ属、キカシグサ属、アリノトウグサ属一フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、シソ科、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

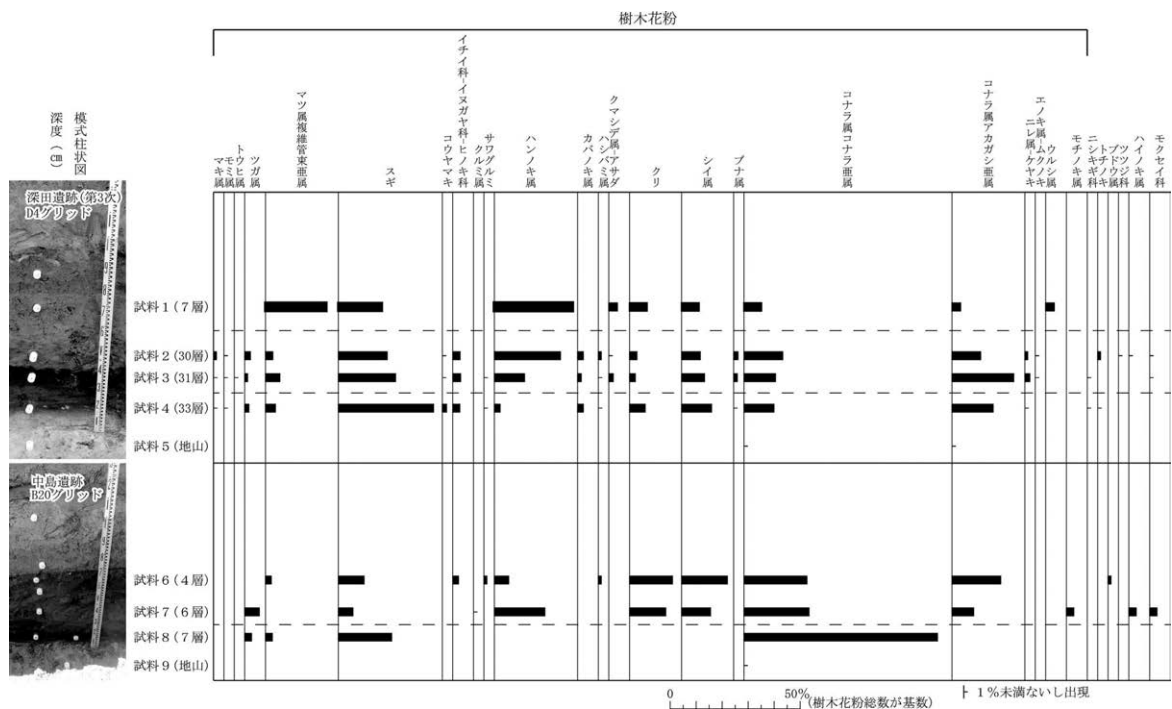
〔シダ植物孢子〕

単条溝孢子、三条溝孢子

〔寄生虫卵〕



第Ⅷ-1図 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における花粉ダイアグラム



第Ⅷ-2図 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における樹木花粉ダイアグラム

不明虫卵 Unknown eggs

卵の大きさはおよそ70 μ mで卵殻は薄く淡黄色、一端に小蓋があるが欠落している。

(2) 花粉群集の特徴

各地点、下位より花粉構成と花粉組成の変化の特徴を記載する。

1) 深田遺跡(第3次) D4グリッド

試料5(45層(地山))では、密度が極めて低く、花粉はほとんど検出されない。試料4(33層)では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、樹木花粉が42%、草本花粉が56%、樹木・草本花粉が2%を占める。樹木花粉では、スギの出現率が高く、コナラ属アカガシ亜属、シイ属、コナラ属コナラ亜属、クリが伴われる。草本花粉では、ヨモギ属の出現率が高く、次いでイネ科が多く、カヤツリグサ科、セリ亜科が出現する。低率だが、イネ属やサジオモダカ属、オモダカ属、ガマ属-ミクリ属が出現する。試料3(31層)、試料2(30層)では、花粉組成、構成ともに類似した出現傾向を示す。下位よりスギは減少し、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属が増加傾向を示す。シイ属は減少傾向を示し、コナラ属アカガシ亜属は、増加しその後減少する。草本花粉では、イネ科(イネ属含む)、カヤツリグサ科が増加し、ヨモギ属は減少する。試料1(7層)では、草本花粉が89%を占めるようになり、アブラナ科が極めて高率に出現する。下位から継続してイネ科(イネ属含む)が出現する。

2) 中島遺跡B20グリッド

下位より花粉構成と花粉組成の変化の特徴を記載する。

下位の試料9(8層(地山))では、密度が極めて低く、花粉はほとんど検出されない。試料8(7層)では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、樹木花粉が31%、草本花粉が49%、樹木・草本花粉が6%、シダ植物胞子が14%を占める。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属が優占し、次いでスギが多く、ツガ属、マツ属複雑管束亜属が出現する。草本花粉では、イネ科、ヨモギ属の出現率が高い。樹木・草本花粉では、クワ科-イラクサ科、ユキノシタ科が出現する。試料7(6層)では、樹木花粉が19%、草本花粉が62%を占める。樹木花粉では、

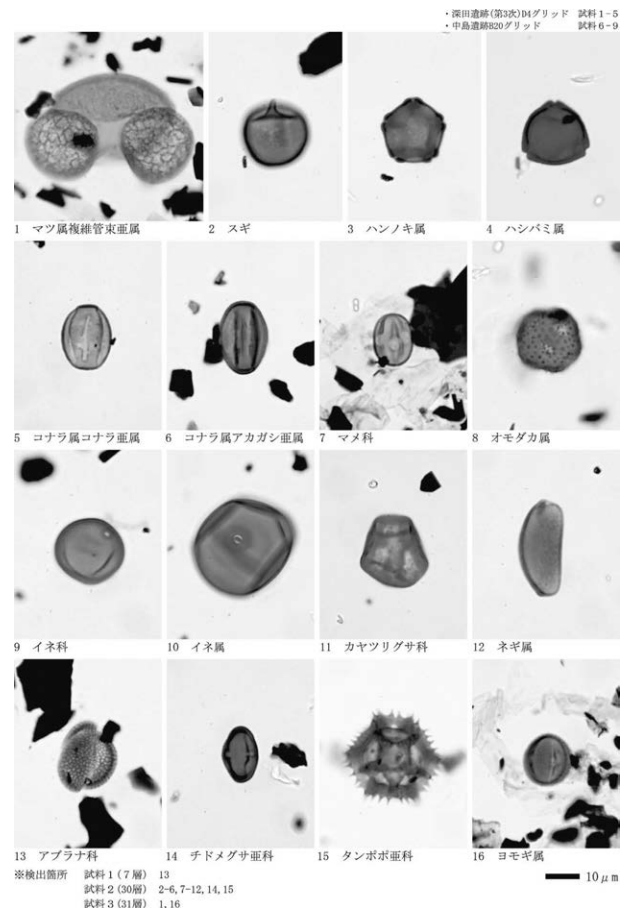
ハンノキ属、クリ、シイ属、コナラ属アカガシ亜属が増加し、下位で優占したコナラ属コナラ亜属、スギは減少する。草本花粉では、イネ科、ヨモギ属の出現率が高く、アカザ科-ヒユ科が伴われる。わずかだがイネ属がカヤツリグサ科を伴い出現する。試料6(4層)では、樹木花粉が22%、草本花粉が69%を占める。下位の試料7と出現傾向が類似し、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、クリ、シイ属の出現率がやや高く、スギ、ハンノキ属が出現する。コナラ属アカガシ亜属、シイ属、スギは増加し、ハンノキ属は減少する。草本花粉では、ヨモギ属、セリ亜科、カヤツリグサ科が増加し、アカザ科-ヒユ科は減少する。イネ科、イネ属は継続して出現し、オモダカ属が出現する。

iv) 花粉分析から推定される植生と環境

花粉群集の特徴から、植生と環境及びその変遷を復原する。

1) 深田遺跡(第3次) D4グリッド

下位の試料5(45層(地山))の時期は、花粉密



第VIII-3図 中島遺跡・深田遺跡(第3次)の花

度が極めて低く、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥した堆積環境であったか、土壤生成作用により分解されたと推定される。試料4（33層）の時期は最もヨモギ属が多く、周辺の植生としてはやや乾燥した草地在り分布していた。堆積地とその周囲は、やや多く検出されるイネ科とカヤツリグサ科と指標となる水生植物のガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、タデ属サナエタデ節が出現することから、これら水草の生育する浅い水域から湿地であったと推定され、水田の環境も含まれるため、水田であった可能性もある。試料3（31層）、試料2（30層）の時期にかけては、ヨモギ属が減少し、ハンノキ属、イネ科（イネ属を含む）、カヤツリグサ科が増加し、周辺でヨモギ属が生育するやや乾燥した草地在り湿地化し、ハンノキの湿地林およびイネ科（イネ属を含む）やカヤツリグサ科の生育する水域ないし湿地が拡大する。近隣地域の森林植生としては、層的变化はほとんどなく、スギ林、コナラ属アカガシ亜属とシイ属を要素とする照葉樹林と、コナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹が分布していた。スギ林は上位に向かい縮小し、ハンノキ林は拡大する。

試料1（7層）の時期になると、アブラナ科が卓越し、周囲でアブラナなどのアブラナ科の畑作が集約的に行われるようになり、現代も水田の裏作として春先に行われるアブラナの畑作が行われたとみなされる。一般的にアブラナ栽培は近代以降に盛行する。近隣には、ハンノキの湿地林とコナラ属コナラ亜属、クリの落葉広葉樹、シイ属の照葉樹が分布し、地域的な森林要素としては、アカマツの二次林とスギ林が分布する。アカマツの二次林とアブラナ栽培から試料1（7層）の時期は、近世以降の可能性が示唆される。

2) 中島遺跡B20グリッド 試料6～9

下位の試料9（8層（地山））の時期は、花粉密度が極めて低く、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥した堆積環境であったか、土壤生成作用などにより分解されたと推定される。試料8（7層）の時期には、コナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹が近隣周辺の森林として分布し、コナラやクヌギの二次林と考えられる。堆積地周辺はイネ科、ヨモギ属が優勢で、水生植物が伴わないことから、比較的乾燥

してこれら草本の生育する草地在り推定される。試料7（6層）、試料6（4層）の時期になると、コナラ属コナラ亜属が減少し、草本のヨモギ属やアカザ属-ヒユ属、カヤツリグサ科が増加するため、コナラ属コナラ亜属の二次林が減少し、ヨモギ属やアカザ属-ヒユ属の乾燥を好む草本の生育域とカヤツリグサ科やイネ科（イネ属を含む）の水生草本の湿潤な生育域が拡大した。上部の試料6（4層）では、イネ属が水田雑草の性格をもつカヤツリグサ科、オモダカ属を伴っており、水田の可能性も考えられる。本遺跡においては、イネ属は低率であり、稲作が行われた期間が短かったか、周囲を反映したかが考えられる。

b. 植物珪酸体分析

i) はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（ SiO_2 ）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定及び古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000，2009）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

ii) 試料

分析試料は、深田遺跡（第3次）D4グリッドから採取された5点、および中島遺跡B20グリッドから採取された4点の計9点である。試料採取箇所を分析結果の土層断面図（写真）に示す。

iii) 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105°C で24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに対し直径約 $40\mu\text{m}$ のガラスビーズを約0.02g添加（0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（ 550°C ・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（ 300W ・ 42kHz ・10分間）による分散
- 5) 沈底法による $20\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群		深田遺跡(第3次)D4グリッド					中島遺跡 B20グリッド			
Japanese name(和名)	Scientific name(学名)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
イネ科	Gramineae									
イネ	<i>Oryza sativa</i>	22			5		16	5		
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	5		11	5		5			5
キビ族型	<i>Panicaceae</i> type	5	16	16	5		5	5		5
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	5	5	11	5		5	5	6	
ウシクサ族 A	Andropogoneae A type	22	16	11	10		5	21	6	11
Bタイプ	B type		5						6	27
タケ亜科	Bambusoideae									
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponocalamus</i>	27	21	16	36		21	48	58	38
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	124	173	59	215	11	154	381	724	242
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	5	10	5	15		11	16	12	27
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	11	10	5			5	5	12	
未分類等	Others	59	31	27	15	11	32	91	98	102
その他のイネ科	Others									
表皮毛起源	Husk hair origin	16	16	21	15		5	5	6	5
棒状珪酸体	Rod-shaped	54	31	86	77		64	43	46	
茎部起源	Stem origin			5				5		
未分類等	Others	188	121	139	118	17	117	129	156	113
シダ類	Fern			11						5
樹木起源	Arboreal									
クスノキ科	Lauraceae						5			
その他	Others		5	11	5		11	5	6	5
(海綿骨針)	Sponge spicules	5					5			
植物珪酸体総数	Total	543	462	433	528	40	461	768	1135	587

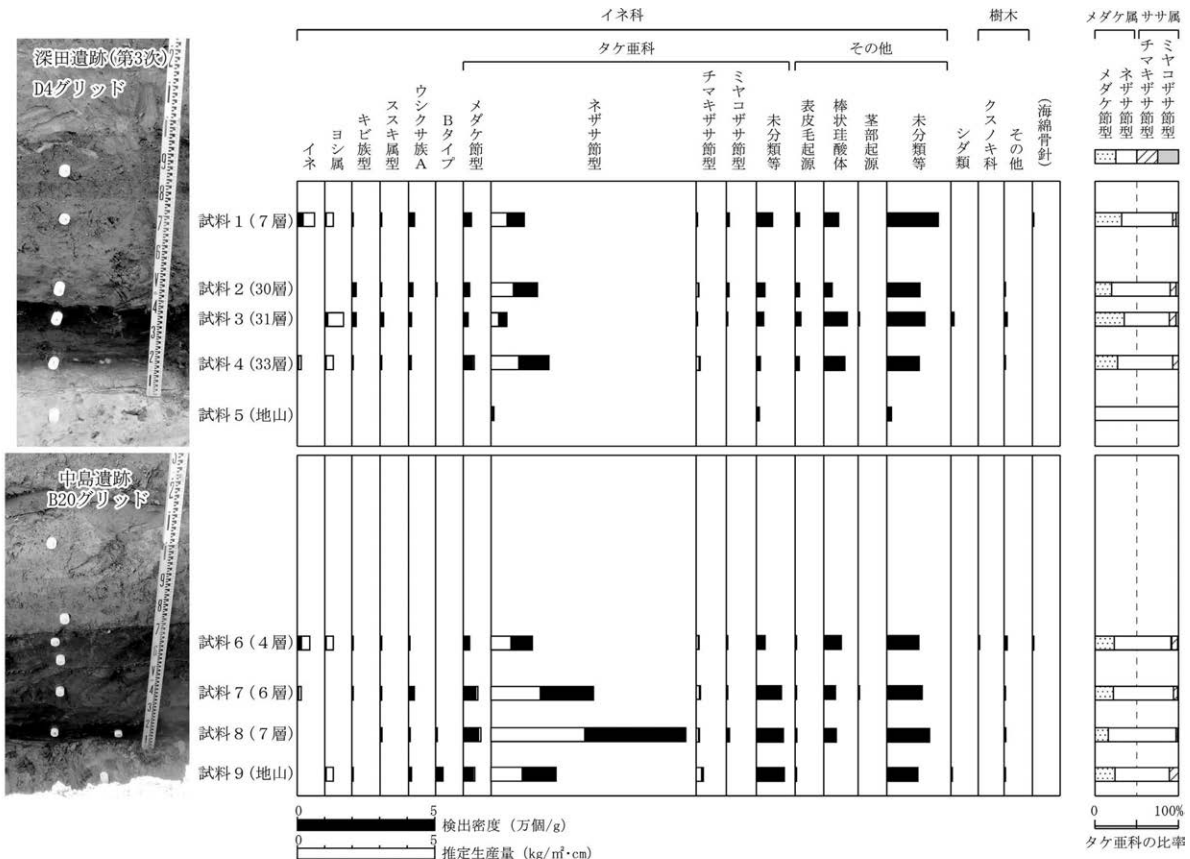
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m²・cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.63			0.15		0.47	0.16		
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	0.34		0.67	0.32		0.33			0.34
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.07	0.07	0.13	0.06		0.07	0.07	0.07	
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponocalamus</i>	0.31	0.24	0.19	0.42		0.25	0.56	0.67	0.44
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	0.59	0.83	0.28	1.03	0.06	0.74	1.83	3.48	1.16
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.04	0.08	0.04	0.12		0.08	0.12	0.09	0.20
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.03	0.03	0.02			0.02	0.02	0.03	

タケ亜科の比率 (%)

メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponocalamus</i>	32	21	35	27		23	22	16	24
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	61	70	54	66	100	68	72	81	65
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	4	7	8	7		7	5	2	11
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	3	3	3			1	1	1	
メダケ率	Medake ratio	93	91	89	93	100	91	95	97	89

第Ⅷ-3表 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における植物珪酸体分析結果



第Ⅷ-4図 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における植物珪酸体分析結果

6) 封入剤 (オイキッパ) 中に分散してプレパラート作成

7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重 (1.0と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる (杉山, 2000)。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

iv) 分析結果

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第VIII-3表及び第VIII-4図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[イネ科]

イネ、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型 (おもにススキ属)、ウシクサ族A (チガヤ属など)、Bタイプ [イネ科-タケ亜科]

メダケ節型 (メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型 (おもにメダケ属ネザサ節)、チマキザサ節型 (ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型 (ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体 (おもに結合組織細胞由来)、茎部起源、未分類等

[シダ類]

[樹木]

クスノキ科、その他

v) 考察

(1) 稲作跡の検討

稲作跡 (水田跡) の検証や探査を行う場合、一般

にイネの植物珪酸体 (プラント・オパール) が試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している (杉山, 2000)。なお、密度が3,000個/g程度でも水田遺構や畑遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) 深田遺跡 (第3次) D4グリッド

D4グリッドでは、試料1 (7層) から試料5 (45層 (地山)) までの層準について分析を行った。その結果、試料1 (7層) と試料4 (33層) からイネが検出された。イネの密度は、2,200個/g及び500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、及び上層や他所からの混入などが考えられる。

2) 中島遺跡B20グリッド

B20グリッドでは、試料6 (4層) から試料9



第VIII-5図 中島遺跡・深田遺跡 (第3次) における植物珪酸体 (プラント・オパール)

(8層(地山))までの層準について分析を行った。その結果、試料6と試料7からイネが検出された。イネの密度は、1,600個/gおよび500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

(2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型(ヒエが含まれる)、エノコログサ属型(アワが含まれる)、キビ属型(キビが含まれる)、ジユズダマ属型(ハトムギが含まれる)、オヒシバ属型(シコクビエが含まれる)、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

イネ科栽培植物の中には検討が不十分なものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。また、キビ族型にはヒエ属やエノコログサ属に近似したものも含まれている。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

(3) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

1) 深田遺跡(第3次)D4グリッド

試料1(7層)から試料4(33層)にかけては、ネザサ節型が比較的多く検出され、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型、ウシクサ族A、メダケ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、樹木(その他)なども認められた。下位の試料5(地山)では、植物珪酸体がほとんど検出されなかった。おもな分類群の推定生産量によると、試料5(45層(地山))以外ではおおむねネザサ節型が優勢となっている。

以上の結果から、試料5(45層(地山))を除く各層準の堆積当時は、メダケ属(おもにネザサ節)をはじめ、キビ族、ススキ属、ウシクサ族なども生育するイネ科植生であったと考えられ、部分的にヨシ属が生育するような湿潤なところも存在していたと推定される。また、遺跡周辺には何らかの樹木が生育していたと考えられる。

2) 中島遺跡B20グリッド

各試料ともネザサ節型が多量に検出され、とくに試料8(7層)では密度が72,400個/gとかなり高い値である。また、キビ族型、ススキ属型、ウシクサ族A、メダケ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、樹木(その他)なども検出され、部分的にヨシ属も認められた。おもな分類群の推定生産量によると、全体的にネザサ節型が優勢であり、とくに試料6(4層)ではネザサ節型が卓越している。

以上の結果から、各層準の堆積当時はメダケ属(おもにネザサ節)をはじめ、キビ族、ススキ属、ウシクサ族なども生育するイネ科植生であったと考えられ、部分的にヨシ属が生育するような湿潤なところも存在していたと推定される。また、遺跡周辺には何らかの樹木が生育していたと考えられる。

c. 珪藻分析

i) はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

ii) 方法

以下の手順で、珪藻の抽出と同定を行った。

1) 試料から1cm³を採量

2) 10%過酸化水素水を加え、加温反応させながら1晩放置

3) 上澄みを捨て、細粒のコロイドを水洗(5~6回)

4) 残渣をマイクロピペットでカバーガラスに滴下して乾燥

5) マウントメディアによって封入し、プレパラート作製

6) 検鏡、計数

検鏡は、生物顕微鏡(Nikon ECLIPSE Ci)によって600~1500倍で行った。計数は珪藻被殻が200個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

iii) 結果

(1) 分類群

試料から出現した珪藻は、真塩性種（海水生種）1分類群、中-貧塩性種（汽-淡水生種）1分類群、貧塩性種（淡水生種）50分類群である。破片の計数は基本的に中心域を有するものと、中心域がない種については両端2個につき1個と数えた。分析結果を第VIII-4表に示し、珪藻総数を基数とする百分率

を算定した珪藻ダイアグラムを第VIII-6図に示す。珪藻ダイアグラムにおける珪藻の生態性はLowe (1974)の記載により、陸生珪藻は小杉 (1986) により、環境指標種群は海水生種から汽水生種は小杉 (1988) により、淡水生種は安藤 (1990) による。現生珪藻のCMB仮説と呼ばれる分類体系も用いられるが、科や属によってすべてを再分類できているわけではなく、混乱を避けるため従来分類を用いた。また、

分類群	深田遺跡(第3次)D4グリッド					中島遺跡 B20グリッド			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
貧塩性種 (淡水生種)									
<i>Achnanthes lanceolata</i>				2					
<i>Achnanthes minutissima</i>				3					
<i>Amphora fontinalis</i>				1					
<i>Aulacoseira canadensis</i>		27	2			2			
<i>Aulacoseira</i> spp.		3		2			3		
<i>Caloneis lauta</i>				1					
<i>Caloneis molaris</i>				4					
<i>Cocconeis placentula</i>		1							
<i>Cymbella cuspidata</i>		1							
<i>Cymbella gracilis</i>			2						
<i>Cymbella silesiaca</i>			1						
<i>Cymbella sinuata</i>				1					
<i>Cymbella turgidula</i>		4	1	6					
<i>Eunotia bilunaris</i>				1					
<i>Eunotia minor</i>			1	6					
<i>Eunotia paludosa-rhomboides</i>			4	16					
<i>Eunotia praeurupta</i>			2	166					
<i>Eunotia serra</i>	1	1	6						
<i>Eunotia</i> spp.			2						
<i>Fragilaria capucina</i>		4							
<i>Frustulia rhomboides</i>		1							
<i>Gomphonema acuminatum</i>				1					
<i>Gomphonema clevei</i>		1							
<i>Gomphonema minutum</i>				1					
<i>Gomphonema parvulum</i>		1		6			1		
<i>Gomphonema pumilum</i>		1		1					
<i>Hantzschia amphioxys</i>	1			5		2	5		
<i>Meridion circulare v. constrictum</i>				1					
<i>Navicula cohnii</i>				1					
<i>Navicula contenta</i>				1					
<i>Navicula elginensis</i>			1	1					
<i>Navicula goeppertiana</i>			7	26					
<i>Navicula laevisissima</i>			2						
<i>Navicula mutica</i>		1	3	4			1		
<i>Navicula pupula</i>		1							
<i>Nitzschia nana</i>				2					
<i>Nitzschia parvuloides</i>			1						
<i>Pinnularia aestuarii</i>				1		1			
<i>Pinnularia appendiculata</i>				1					
<i>Pinnularia borealis</i>		1	3	17			1	1	
<i>Pinnularia divergens</i>				2					
<i>Pinnularia gibba</i>			2				1		
<i>Pinnularia lagerstedtii</i>				2					
<i>Pinnularia microstauron</i>				7					
<i>Pinnularia nodosa</i>				1					
<i>Pinnularia stomatophora</i>			2	1					
<i>Pinnularia viridis</i>				4					
<i>Pinnularia</i> spp.			1	1					
<i>Rhopalodia gibberula</i>		3	14	32					
<i>Tabellaria fenestrata-flocculosa</i>		1		3					
中-貧塩性種 (汽-淡水生種)									
<i>Plagiotropis lepidoptera</i>						1	1		
真塩性種 (海水生種)									
<i>Grammatophora oceanica</i>						1			
合計	2	52	57	331	0	7	13	1	0
未同定	0	1	1	1	0	0	0	0	0
破片	11	87	363	374	0	31	24	0	0
試料 1 cm ² 中の殻数密度	0.4	1.1	1.2	3.6	-	1.4	2.6	0.2	-
	×10 ⁴	×10 ⁴	×10 ⁴	×10 ⁴	-	×10 ⁴	×10 ⁴	×10 ³	-
完形殻保存率 (%)	-	37.9	13.8	47.0	-	-	-	-	-

第VIII-4表 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における珪藻分析結果

主要な分類群は顕微鏡写真に示した。以下にダイアグラムで表記した主要な分類群を記載する。

〔中一貧塩性種〕

Plagiotropis lepidoptera

〔貧塩性種〕

Achnanthes lanceolata, *Aulacoseira canadensis*, *Aulacoseira* spp., *Caloneis molaris*, *Cymbella gracilis*, *Cymbella turgidula*, *Eunotia minor*, *Eunotia paludosa-rhomboidea*, *Eunotia praerupta*, *Eunotia serra*, *Eunotia* spp., *Fragilaria capucina*, *Gomphonema minutum*, *Gomphonema parvulum*, *Gomphonema pumilum*, *Hantzschia amphioxys*, *Navicula elginensis*, *Navicula goeppertiana*, *Navicula laevisissima*, *Navicula mutica*, *Nitzschia nana*, *Pinnularia aestuarii*, *Pinnularia borealis*, *Pinnularia divergens*, *Pinnularia gibba*, *Pinnularia lagerstedtii*, *Pinnularia microstauron*, *Pinnularia* spp., *Pinnularia stomatophora*, *Pinnularia viridis*, *Rhopalodia gibberula*, *Tabellaria fenestrata-flocculosa*

(2) 珪藻群集の特徴

それぞれの地点において、下位より珪藻構成と珪藻組成の変化の特徴を記載する。

1) 深田遺跡(第3次) D4グリッド

下位の試料5(45層(地山))では、密度が極めて低く、珪藻は検出されなかった。試料4(33層)では、流水不定性種が78%、陸生珪藻が10%、真・好止水性種が7%、真・好流水性種が5%を占め、密度は低い。流水不定性種で沼沢湿地付着生種の *Eunotia praerupta* が高率に出現し、他に *Rhopalodia gibberula*, *Navicula goeppertiana*, *Eunotia paludosa-rhomboidea* と陸生珪藻の *Pinnularia borealis* が出現する。試料3(31層)では、流水不定性種が66%、真・好止水性種が19%、陸生珪藻が11%、真・好流水性種が4%を占め、密度は低い。流水不定性種では、*Rhopalodia gibberula*, *Navicula goeppertiana*, *Eunotia paludosa-rhomboidea* の出現率がやや高く、好止水性種では *Eunotia serra*、陸生珪藻では *Navicula mutica*, *Pinnularia borealis* が出現する。試料2(30層)では、真・好止水

性種が64%、流水不定性種が19%、真・好流水性種が13%、陸生珪藻の4%を占め、密度は低い。好止水性種で沼沢湿地付着生種の *Aulacoseira canadensis* が高率に出現し、好流水性種の *Cymbella turgidula*、流水不定性種の *Fragilaria capucina*, *Rhopalodia gibberula* が出現する。試料1(7層)では、密度が極めて低く、珪藻はほとんど検出されなかった。

2) 中島遺跡B20グリッド

いずれの試料も密度が極めて低く、珪藻は検出されないか検出されても極わずかであった。わずかではあるが、試料7(6層)で陸生珪藻の *Hantzschia amphioxys*、好止水性種の *Aulacoseira* spp. が出現する。

iv) 珪藻分析から推定される堆積環境

1) 深田遺跡(第3次) D4グリッド

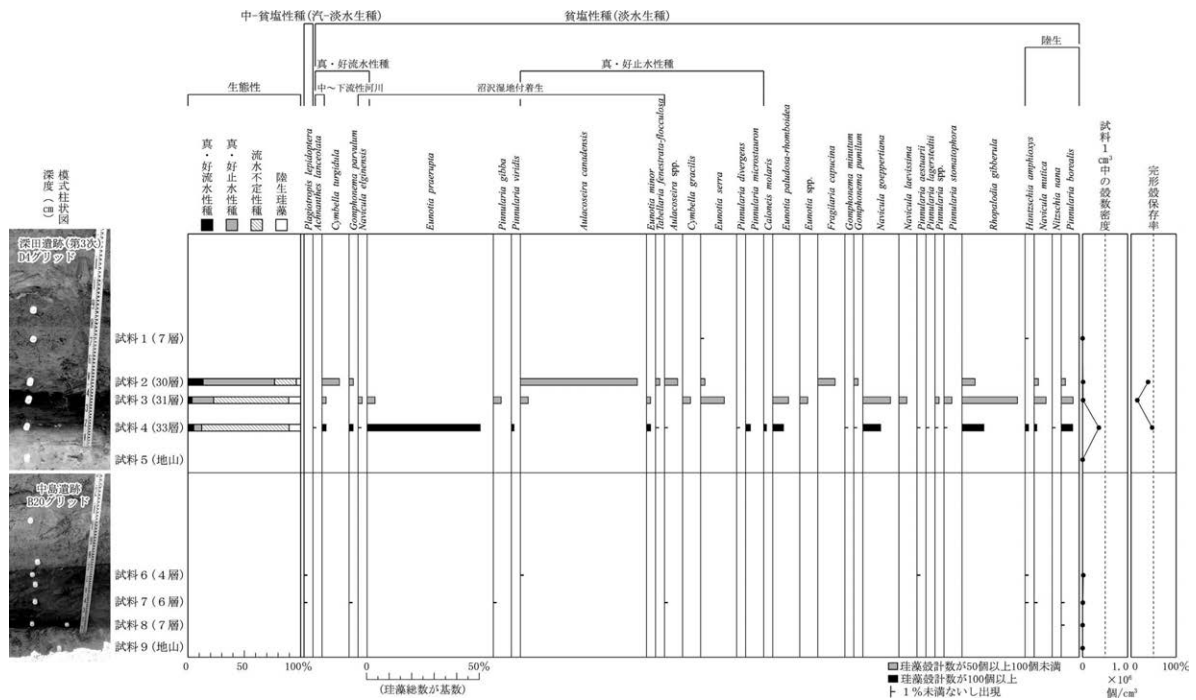
下位の試料5(45層(地山))の時期には、密度が極めて低く、珪藻の生育できない乾燥した堆積環境であったか、土壌のPHなどにより分解された可能性が考えられる。試料4(33層)の時期は、流水不定性種で沼沢湿地付着生種の *Eunotia praerupta* が高率に出現することから、流水と止水が繰り返す不安定で浅く水草が繁茂する水域が示唆される。試料3(31層)の時期には流水不定性種で占められ、好流水性種、好止水性種、陸生珪藻も出現するが少なく、流水と止水が繰り返す不安定な浅い水域の環境が考えられる。試料2(30層)の時期には、好止水性種で沼沢湿地付着生種の *Aulacoseira canadensis* が高率に優占し、水草の繁茂する浅くやや広い安定した池状の水域が示唆される。試料1(7層)の時期には、密度が極めて低く、珪藻の生育できない乾燥した堆積環境であったか、土壌のPHなどにより分解された可能性が考えられる。

2) 中島遺跡B20グリッド

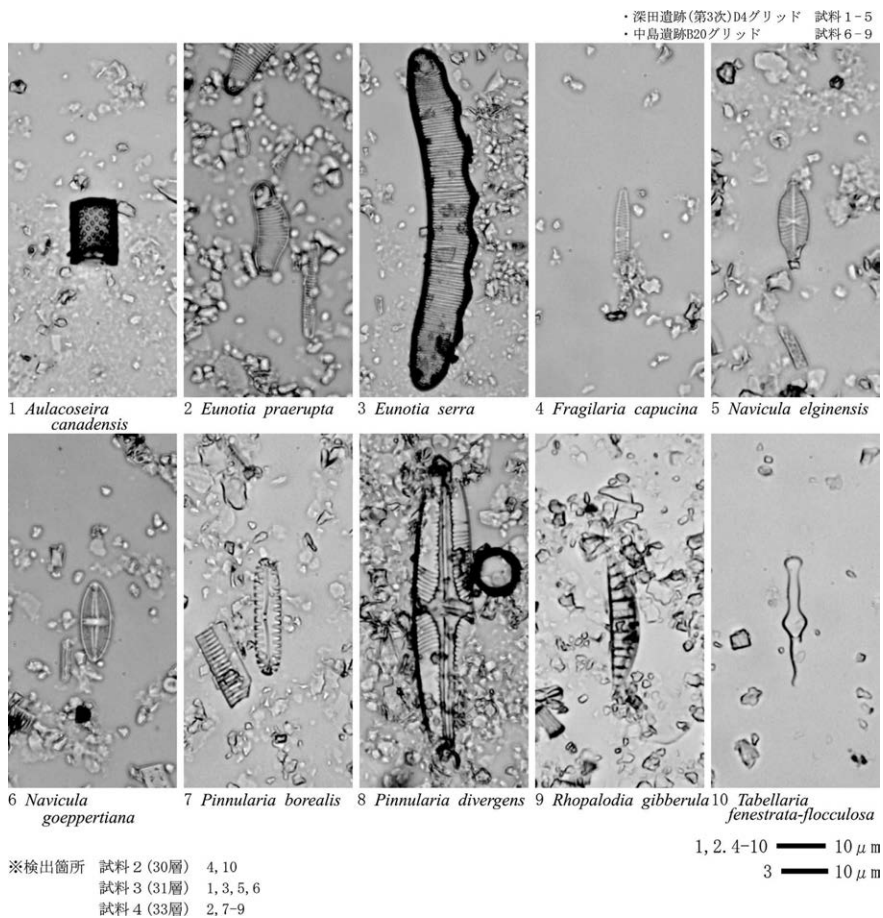
いずれの試料も密度が極めて低く、珪藻の生育できない乾燥した堆積環境であったか、堆積速度が速く珪藻が集積出来なかったか、土壌のPHなどにより分解された可能性も考えられる。

d. 考察とまとめ

深田遺跡(第3次)では、下位より33層(試料4)の時期は、ヨモギ属とネザサ節などのイネ科の繁茂するやや乾燥した植生が周辺に広く分布し、試料採



第Ⅷ-6図 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における主要珪藻ダイアグラム



第Ⅷ-7図 中島遺跡・深田遺跡(第3次)の珪藻

取した堆積地と周囲は、ヨシ属などのイネ科とカヤツリグサ科およびガマ属ーミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、タデ属サナエタデ節の水田雑草を含む水生植物が生育する浅い水域であった。イネないしイネ属は、花粉も植物珪酸体も低率ないし少量であり、周囲からの流れ込みの反映か、期間が短いまたは狭い範囲の水田であったためと考えられるが断定しにくい。このことは、上位層準（試料2、3）および中島遺跡（B20グリッド）においても、同様である。31層（試料3）と30層（試料2）では、乾燥した草地が縮小し、ハンノキの湿地林とイネ科とカヤツリグサ科やサジオモダカ属などの水田雑草の性格をもつ水生植物の生育する浅くやや広い安定した池状の水域が拡大する。イネ属の花粉は上位に向かい増加し、周辺において水田が拡大したと考えられる。試料採取された堆積地は、水草の生育する水域で水田雑草は分布しているがイネの植物珪酸体は検出されず、水田かどうかは不明である。地域的な森林植生は、33層（試料4）、31層（試料3）と30層（試料2）にかけて大きくは変化せず、近隣とみられるハンノキの湿地林を除けば、スギ林、シイ属とコナラ属アカガシ亜属の照葉樹林、コナラ属コナラ亜属とクリの二次林が分布していた。上位の7層（試料1）は、アブラナなどのアブラナ科の集約的な裏作が行われ、近世から近代の時期とみなされる。中島遺跡（B20グリッド）では、下位の7層（試料8）で、ヨモギ属とメダケ属（おもにネザサ節）などのイネ科とコナラやクヌギ（コナラ属コナラ亜

参考文献

- 金原正明・金原正子（2013）植生と農耕における土壌層分析の実証的研究, 日本文化財科学会第30回大会研究発表会要旨集, p. 112-113.
- 金原正明・金原正子（2015）堆積物と植物遺体の総合的研究. 日本文化財科学会第32回大会研究発表会要旨集, p. 146-147.
- 中村 純（1967）「花粉分析」. 古今書院, 232p.
- 島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録, 5, 60p.
- 中村 純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として. 第四紀研究, 13, p. 187-193.
- 中村 純（1977）稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, no. 10, p. 21-30.
- 中村 純（1980）日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.
- 金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原. 木下正史編「新版古代の日本 第10巻 古代資料研究の方法」, 角川書店, p. 248-262.
- 杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定ー古環境推定の基礎資料としてー. 考古学と自然科学, 19, p. 69-84.

属) の草原から森林が分布していた。人里植物ないし耕地雑草や、コナラやクヌギの二次林から人為活動による干渉が行われていたとみなされる。6層（試料7）から4層（試料6）の時期では、コナラ属コナラ亜属の森林が縮小し、ヨモギ属やアカザ科ーヒユ科の乾燥を好む草本の分布する草地とカヤツリグサ科やイネ科（イネ属を含む）の水生草本の生育する湿地が拡大した。4層（試料6）においては、イネ植物珪酸体およびイネ属花粉がやや低密度ないし低率に検出がされるが、明らかな水田を示唆するには低い値である。

以上の二地点を花粉層序として対比した場合、深田遺跡（第3次）が上部で、その下位の33層（試料4）が中島遺跡（B20グリッド）の上位の4層（試料6）と6層（試料7）と重なり、コナラ属コナラ亜属の優勢な7層（試料8）が最下部と対比できると考えられる。よって、弥生時代（廻間I式期並行）から古墳時代の周辺の植生は、イネ科やヨモギ属の草本とコナラ属コナラ亜属の優勢な二次林と考えられる森林の分布から、コナラ属コナラ亜属の森林の縮小に伴うクリとシイ属およびハンノキの増加を経て、ハンノキの湿地林とスギ林の分布へと変遷する。最上位では、アカマツの二次林が成立する。草本では、ヨモギ属やアカザ科ーヒユ科が増加し、イネ科とカヤツリグサ科の優勢へと変化し、最上位ではアブラナ科の優占へと変遷していく。

（一般社団法人 文化財科学研究センター）

- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）. 考古学と植物学. 同成社, p. 189-213.
- 杉山真二（2009）植物珪酸体と古生態. 人と植物の関わりあい④. 大地と森の中でー縄文時代の古生態系ー. 縄文の考古学Ⅲ. 小杉康ほか編. 同成社, p. 105-114.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)ー数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法ー. 考古学と自然科学, 9, p. 15-29.
- 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)ープラント・オパール分析による水田址の探査ー. 考古学と自然科学, 17, p. 73-85.
- Warnock, P. J. and Reinhard, K. J. (1992) Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils. *Journal of Archaeological Science*, 19, p. 231-245.
- Hustedt, F. (1937-1938) Systematische und ologische Untersuchungen uber die Diatomeen Flora von Java, Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. *Arch. Hydrobiol, Suppl.* 15, p. 131-506. Lowe, R.L. (1974) Environmental Requirements and pollution tolerance of freshwater diatoms. 333p., National Environmental Reser

ch.Center.
 K. Krammer・H. Lange-Bertalot(1986-1991)
 Bacillariophyceae, vol. 2, no. 1-no. 4
 Asai, K. & Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, p. 35-47.
 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 東北地理, 42, p. 73-88.
 伊藤良永・堀内誠示 (1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, p. 23-45.
 小杉正人 (1986) 陸生珪藻による古環境解析とその意義—

わが国への導入とその展望—. 植生史研究, 第1号, 植生史研究会, p. 29-44.
 小杉正人 (1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究, 27, p. 1-20.
 渡辺仁治 (2005) 淡水珪藻生態図鑑 群集解析に基づく汚濁指数DAI_{po}, pH耐性能. 内田老鶴圃, 666p.
 Theriot, E. C., J. J. Cannone, R. R. Gutell & A. J. Alverson 2009. The limits of nuclear-encoded SSU rDNA for resolving the diatom phylogeny. Eur. J. Phycol. 44, p. 277-290.
 鈴木秀和・南雲保 (2013) 珪藻類の分類体系(総説)～現生珪藻の属ランクのチェックリスト. 日本プランクトン学会報60(2). p. 60-79.

第2節 金沢川遺跡(第1次)・中島遺跡における樹種同定・昆虫同定

はじめに

本分析調査では、金沢川遺跡(第1次)・中島遺跡(第1次)から出土した木材・炭化材及び昆虫の同定を実施し、遺跡周辺の環境や木材利用に関する資料を作成する。

a 樹種同定

i) 試料

試料は、金沢川遺跡(第1次)から出土した木材(生材)3点(試料No. 1～3)、中島遺跡から出土した木材(生材)3点(試料No. 4、9、10)、炭化材3点(試料No. 5～7)の計9点である。試料の詳細は、結果とともに第VIII-5表に示す。

ii) 方法

生材は剃刀を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の切片を作製する。光学顕微鏡(使用機器; Nikon E600)で木材組織の種類や配列を観察する。炭化材は剃刀を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製する。実体顕微鏡(使用機器; Carl Zeiss Stemi2000-C)や走査型電子顕微鏡(使用機器; 日本電子株式会社 JCM5700)で木材組織の種類や配列を観察する。

木材組織の特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考に示す。日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考に示す。

iii) 結果

結果を第VIII-5表に示す。針葉樹2分類群(ヒノ

キ属、カヤ)、広葉樹3分類群(ツバキ属、トチノキ、カキノキ属)に同定された。以下、遺跡別に記す。

<金沢川遺跡(第1次)>

試料No. 1(B2 Pit1)、試料No. 2(B3 Pit)の柱痕はヒノキ属に同定された。試料No. 3(B7 Pit3)の柱痕片は、広葉樹の節の部分で、柾目、板目が通常の組織ではないため、樹種は不明である。

以下、ヒノキ属の解剖学的特徴等を述べる。

・ヒノキ属(*Chamaecyparis*) ヒノキ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔は基本的にヒノキ型だが、保存が悪く観察できない箇所もある。放射組織は単列、1～15細胞高。

ヒノキ属にはヒノキとサワラがあり、木材組織の違いにより識別できる場合もあるが(Noshiro, 2011)、今回は遺物の破壊を極力抑えることに主眼を置き、両者を区別できるような試料採取(広範囲かつ保存状態の良い場所からの採取)を行っていないため、ヒノキ属としている。

<中島遺跡>

試料No.	種別	遺跡名	出土地点	分類群
1	生材(柱根)	金沢川	B2 Pit1	ヒノキ属
2	生材(柱根)	金沢川	B3 Pit	ヒノキ属
3	生材(柱根片)	金沢川	B7 Pit3	広葉樹の節
4	生材(曲物)	中島	D7 SE322	ヒノキ属
5	炭化材	中島	B1 SK101最下層	ツバキ属
6	炭化材	中島	B6 SK109No.1付近	トチノキ
7	炭化材	中島	B7 SK112	カヤ
9	生材	中島	C7 SZ205	カキノキ属
10	生材(木礎か)	中島	C7 SZ205	カヤ

第VIII-5表 金沢川遺跡(第1次)・中島遺跡樹種同定結果

生材は、試料No.4 (D7 SE322)の曲物がヒノキ属、試料No.9 (C7 SZ205)がカキノキ属、試料No.10 (C7 SZ205)の「木植か」がカヤに同定された。炭化材は、試料No.5 (B1 SK101最下層)がツバキ属、試料No.6 (B6 SK109No.1付近)がトチノキ、試料No.7 (B7 SK112)がカヤに同定された。

以下、各分類群の解剖学的特徴等を述べる。

・ヒノキ属 (*Chamaecyparis*) ヒノキ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか〜やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔は基本的にヒノキ型だが、保存が悪く観察できない箇所もある。放射組織は単列、1〜15細胞高。

・カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁にある2本が対をなしたらせん肥厚が特徴である。放射組織は柔細胞のみで構成される。

・ツバキ属 (*Camellia*) ツバキ科

散孔材で、管壁は薄く、単独および2〜3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列〜階段状に配列する。放射組織は異性、1〜5細胞幅、1〜40細胞高。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は、単独または2〜3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列。放射組織は同性、単列、1〜15細胞高で階層状に配列。

・カキノキ属 (*Diospyros*) カキノキ科

散孔材で、管壁は厚く、横断面では楕円形、単独または2〜4個が時に年輪界をはさんで複合する。道管は単穿孔、壁孔は対列状。放射組織は異性、1〜3細胞幅、10〜20細胞高で階層状に配列。

iv) 考察

<金沢川遺跡 (第1次)>

B2 Pit1とB3 Pitより出土した柱根は、針葉

樹のヒノキ属に同定された。ヒノキ属は、硬さは中庸で耐朽性があり、水湿にも強い。加工は容易で、割裂にも向く。このため、建築材として有用であるばかりでなく、器具や建具などにも頻繁に用いられる有用材である。伊東・山田編(2012)の出土木製品用材データベースによれば、県内で出土した柱材にはヒノキが多い。その他、針葉樹ではスギ、マキ属やコウヤマキ、広葉樹ではクリやコナラ節など水湿に強い種類が使われる傾向にある。

<中島遺跡>

D7 SE322より出土した曲物が針葉樹のヒノキ属、C7 SZ205より出土した木植と考えられている生材が針葉樹のカヤ、他が広葉樹のカキノキ属に同定された。ヒノキ属は、加工は容易で、割裂しやすいため、曲物に使われることが多い。伊東・山田編(2012)の出土木製品用材データベースによれば、曲物に使われる木材は、遠江より西ではヒノキ科が多いとされ、今回の結果は調和的といえる。その他、カヤとカキノキ属は、木材として堅く、器具材などに用いられることが多い。これらは温暖な地方に生育するため、木材は海岸沿いや西日本での出土例が多く、遺跡周辺に生育していたとみられる。カキノキ属は人家に植栽されることが多いため、植栽樹の可能性もある。

炭化材は、針葉樹のカヤ、広葉樹のツバキ属、トチノキに同定され、燃料材等の可能性がある。伊東・山田編(2012)の出土木製品用材データベースによれば、燃料材は遺跡周辺の樹木を採取して利用するため、樹種が雑多となる。炭化材で確認された樹種は、いずれも現在の本地域にも分布しており、当時の遺跡周辺でも手に入れることができたと考えられる。

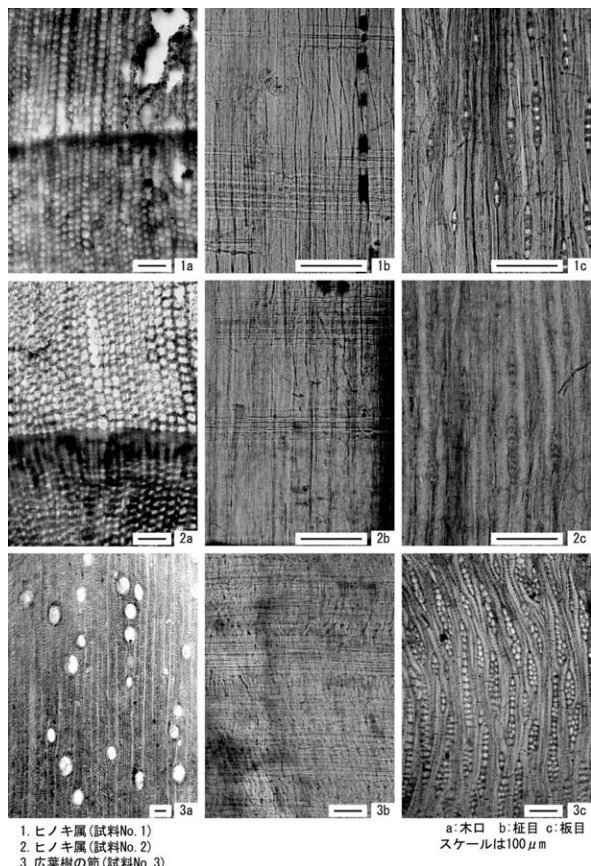
b 昆虫同定

i) 試料

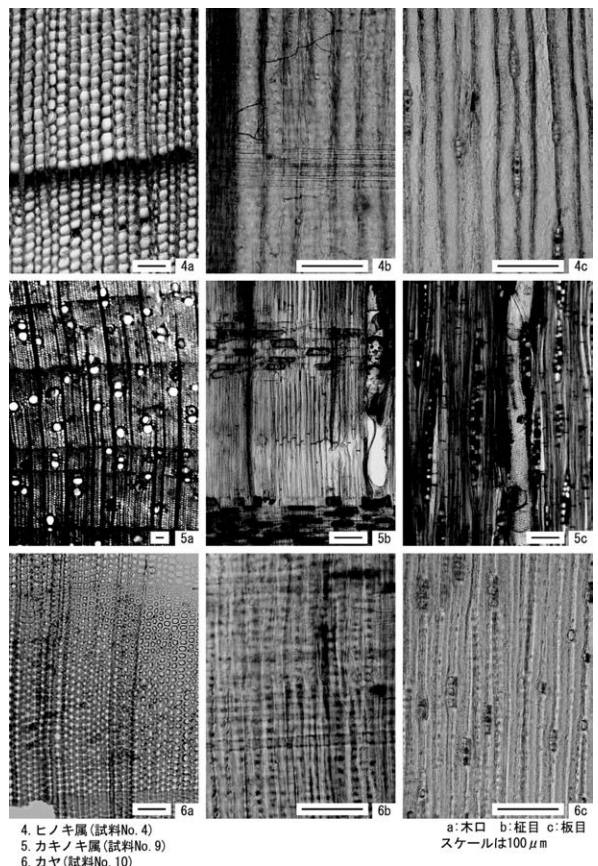
試料は、中島遺跡より出土した昆虫2点(試料No.8-1、8-2)である。試料No.8-2には、3片の昆虫が認められたため、便宜上1〜3の枝番号を付した。試料の詳細は、結果とともに第VIII-6表に示す。

ii) 分析方法

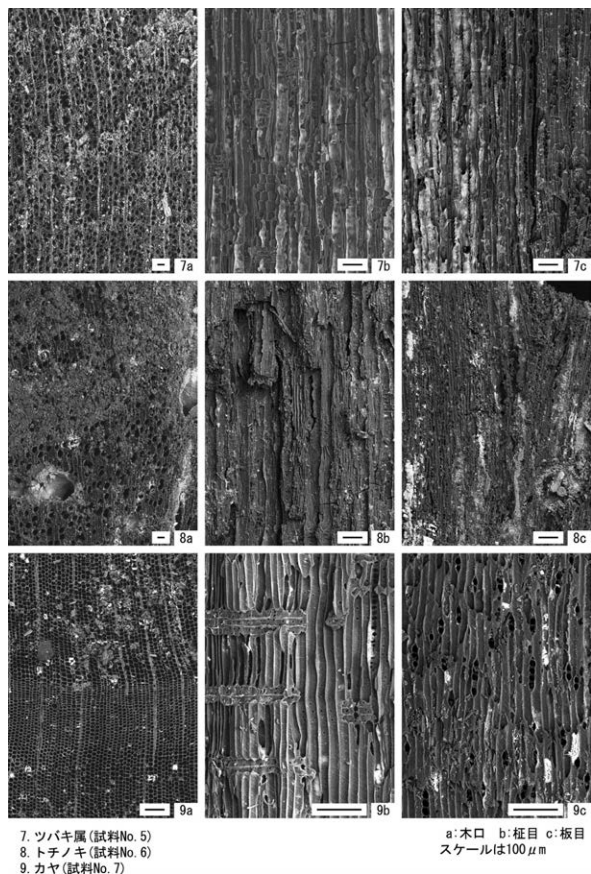
試料を双眼実体顕微鏡(使用機器; Carl Zeiss Stemi2000-C)で観察し、表面に付着した土壌を除去しながら、形態的特徴より同定を実施する。



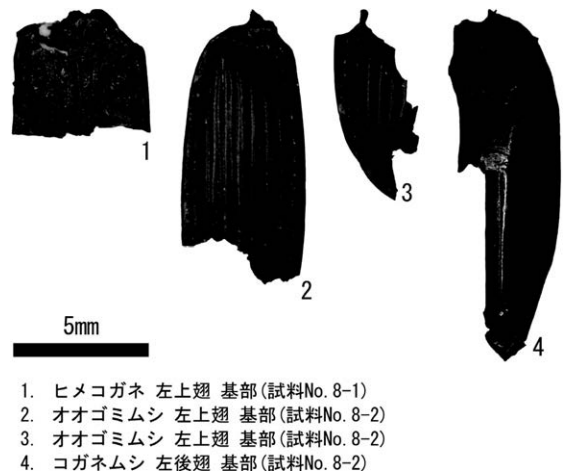
第VIII-8図 金沢川遺跡の木材



第VIII-9図 中島遺跡の木材



第VIII-10図 中島遺跡の炭化材



第VIII-11図 中島遺跡の昆虫

試料No.	出土地点	枝番	種名	部位	備考
8-1	D7 SE322	-	ヒメコガネ	左上翅	残存 1/4
8-2	E2 土坑	1	オオゴミムシ	左上翅	残存 2/3
		2	オオゴミムシ	左上翅	残存 1/3
		3	コガネムシ	左上翅	ほぼ完形
				左後翅	ほぼ完形

第VIII-6表 中島遺跡昆虫同定結果

iii) 結果

結果を第Ⅷ-6表に示す。試料No. 8-1(D7 SE322)はヒメコガネ(*Anomala rufocuprea*)の左上翅、試料No. 8-2(E2土坑)はオオゴミムシ(*Lesticus magnus*)の左上翅とコガネムシ(*Mimela splendens*)の左上翅、左後翅に同定された。

iv) 考察

D7 SE322より出土したヒメコガネは日本各地にみられる普通種で、幼虫は植物の根を、成虫はさ

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
伊東隆夫・山田昌久(編), 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース. 海青社, 449p.
Noshiro Shuichi, 2011, Identification of Japanese species of Cupressaceae from wood

まざまな植物の葉を摂食する。E2土坑より出土したコガネムシも日本各地にみられる普通種で、幼虫は植物の根を、成虫は広葉樹の葉などを摂食する。オオゴミムシも日本各地にみられる普通種で、地表を徘徊し、昆虫などの死骸を食する。これらは、現在でも人家近くの山野に普通にみられることから、当時も遺跡周辺に生息していたと考えられる。

(パリノ・サーヴェイ株式会社)

- structure. Japanese Journal of Historical Botany, 19, 125-132.
Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.
Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

第3節 金沢川遺跡(第2次)における樹種同定及び植物遺体同定

I. 樹種同定

1. はじめに

本報告では、遺跡より出土した木製品に対して、木材組織の特徴から樹種同定を行う。木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造から概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

2. 試料と方法

試料は、SK77より出土した鋤1点、Pitより出土した柱材4点、SK84より出土した不明木製品1点の計6点である。試料の詳細は第Ⅷ-7表に記す。なお、柱材はいずれも異なる建物のものである。

方法は、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面(木口と同義)、放射断面(柁目と同義)、接線断面(板目と同義)の基本三断面の切片を作製し、切片をマウントクイックアクエオス(Mount-Quick

"Aqueous": 大道産業)で封入し、プレパラートを作製する。観察は生物顕微鏡(OPTIPHOTO-2: Nikon)によって40~1000倍で行った。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。

3. 結果

第Ⅷ-7表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

1) マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen.

Diploxylon マツ科

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道などから構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は急な箇所と緩やかな箇所があり、垂直樹脂道が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は窓状で、放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。接線断面では、放射組織が単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の特徴からマツ属複維管束亜属に同定される。マツ属複維管束亜属にはクロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する

常緑高木である。

2) コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc. コウヤマキ科

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅はきわめて狭い。放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射組織は単列の同性放射組織型で、1~15細胞高であるが多くは10細胞高以下である。

以上の特徴からコウヤマキと同定される。コウヤマキは福島県以南の本州、四国、九州に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ30m、径80cmに達する。

3) スダジイ *Castanopsis sieboldii* Hatusima ブナ科

年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる単列の同性放射組織型を示す。

以上の特徴からスダジイに同定される。スダジイは本州（福島県、新潟県佐渡以南）、四国、九州に分布する。常緑の高木で、高さ20m、径1.5mに達する。

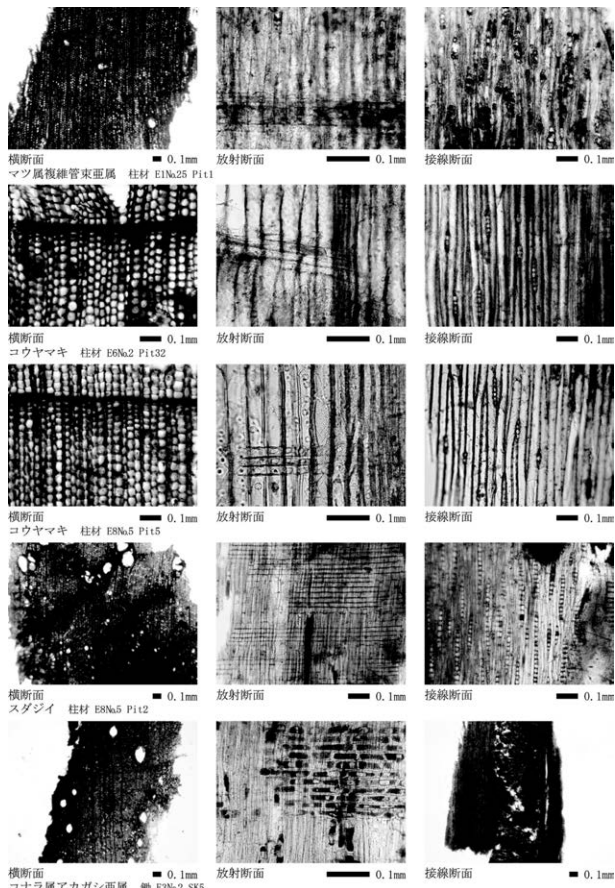
4) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen.

Cyclobalanopsis ブナ科

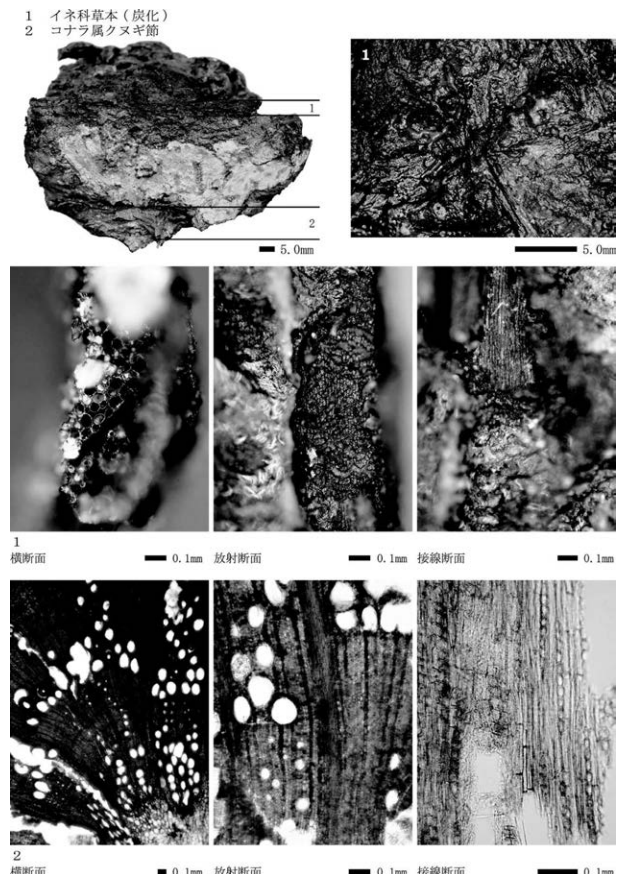
中型から大型の道管が、1~数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる同性放射組織型で、単列のもの

仮No.	器種	遺構名	取り上げNo.	結果 (学名/和名)	
1	鋤	3区 SK77	木鋤	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
2	柱材	6区-2 Pit32	—	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.	コウヤマキ
3	柱材	8区-5 Pit5	—	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.	コウヤマキ
4	柱材	8区-5 Pit2	—	<i>Castanopsis sieboldii</i> Hatusima	スダジイ
5	柱材	1区-25 Pit1	—	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属
6	不明	3区 SK84	—	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属

第Ⅷ-7表 金沢川遺跡(第2次) 樹種同定結果



第Ⅷ-12図 金沢川遺跡(第2次)の木材



第Ⅷ-13図 金沢川遺跡(第2次)の植物遺体

のと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の特徴からコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。

4. 所見

同定の結果、金沢川遺跡（第2次）の木製品はコウヤマキ2点、マツ属複維管束亜属1点、スダジイ1点、コナラ属アカガシ亜属2点であった。

柱材にはマツ属複維管束亜属、コウヤマキ、スダジイが利用されている。マツ属複維管束亜属、コウヤマキは水湿によく耐え、腐りにくく建築部材の中でも水質の影響がある柱、礎板などに用いられる。なお、コウヤマキは弥生時代から古墳時代にかけて近畿地方中央部で木棺や割りものなどに用いられ、律令期には柱を中心として建築部材に利用されたが、中世からは大きな材が取れなくなったのか類例は少ないものの、下駄などの日用品や器具に多様に用いられるようになる。本遺跡では柱材として2点見られること、コウヤマキが紀伊半島などに分布していることから、比較的大きなコウヤマキ材を利用できる時代や地域であったと考えられる。なお、コウヤマキは古代には宮殿建築の柱材としてよく利用されていた。スダジイはやや重硬で耐朽・保存性は低い材であるが、礎板や柱などの建築部材に見ることができる。これはタンニンが多く防腐防虫効果を持つことから、建築部材として用いられた可能性がある。

鋤、不明木製品にはコナラ属アカガシ亜属が利用されている。コナラ属アカガシ亜属は堅硬な材であり、広く用いられるが、西南日本では弥生時代以降、特に農耕具を中心に用いられる傾向にある。

同定された樹種は温帯および温帯下部の暖温帯に分布する樹木であった。マツ属複維管束亜属は土壌条件の悪い岩山に生育し二次林を形成するアカマツと、砂地の海岸林を形成するクロマツとがある。コウヤマキは適潤性であるが乾燥した環境にも耐え、尾根、急峻地または岩盤上にも生育する。コナラ属アカガシ亜属、スダジイは照葉樹林を形成する構成要素であり、山野に分布する。これらの樹木は当時遺跡周辺にも分布しており、遺跡周辺からか、流通

によってもたらされたと推定される。

II. 植物遺体同定

1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実等を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

2. 試料

試料は、遺構名3区のS X80より検出された植物遺体1点である。試料は土壌墓と考えられており、その土坑の底面より検出された。厚さ約5cm程度の粘土層で上面には4mmほどの厚さで炭化物が入り、下面には約1cm程度の小枝や細片がはいる。

3. 方法

試料（堆積物）に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行う。

- 1) 試料500cm³に水を加え放置し、泥化
- 2) 攪拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.25mmの篩で水洗選別
- 3) 残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

4. 結果

選別の結果、種実などは検出されず、上面からイネ科Gramineaeの草本の棹（茎）、下面の枝材はコナラ属クヌギ節*Quercus* sect. *Aegilops*であった。堆積物については水洗選別を行うものその他の植物は検出されなかった。以下記載を示す。

・イネ科 Gramineae 草本 棹（茎）

年輪はなく、通直で中央は空洞となる。タケ亜科に似た維管束が観察される。

・コナラ属クヌギ節*Quercus* sect. *Aegilops* 枝片
ブナ科

髓を含む2ないし3年輪ほどの枝材であり、環孔材で孔圏外は厚膜の中小道管がやや放射状に配列する。広放射組織を有し、他は単列同性である。

5. 所見

観察過程で表面の炭化した植物とその下に確認された木材片の数か所から採取を行った結果、表面4mmほどの厚さの炭化物はイネ科草本の棹(茎)が観察された。ススキやヨシなどの大型のイネ科草本であり、燃焼し炭化した状態である。粘土層下面の

参考文献

伊東隆夫・山田昌久(2012)木の考古学, 雄山閣, p. 449.
佐伯浩・原田浩(1985)針葉樹材の細胞. 木材の構造, 文永堂出版, p. 20-48.
佐伯浩・原浩(1985)広葉樹材の細胞. 木材の構造, 文永堂出版, p. 9-100.
島地謙・伊東夫(1982)図説木材組織, 地球社, p. 176.
島地謙・伊東夫(1988)日本の遺跡出土木製品総覧, 雄

山閣, p. 296
山田昌久(1993)日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成, 植生史研究特別第1号, 植生史研究会, p. 242.
笠原安夫(1985)日本雑草図説, 養賢堂, 494p.
南木睦彦(1993)葉・果実・種子. 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p. 276-283.

(一般社団法人 文化財科学研究センター)

第4節 金沢川遺跡(第2次)出土鉄滓の調査

1. 調査対象

三重県鈴鹿市岸岡町に所在する、金沢川遺跡(第2次)出土鉄滓2点を調査した。

2. 調査方法

(1) 外観観察

目視での調査前の観察所見を記載した。

(2) マクロ組織

試料を端部から切り出した後、断面をエメリー研磨紙の#150、#240、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3 μ mと1 μ mで順を追って研磨し、断面の全体像を撮影した。

(3) 顕微鏡組織

光学顕微鏡(株)ニコンソリューションズ製 ECLIPSE LV150NA)を用いて、鉄滓断面を観察した後、代表的・特徴的な視野を撮影した。

(4) ビッカース断面硬度

ビッカース断面硬度計(Vickers Hardness Tester (株)フューチュアテック社製 FM-300)を用いて硬度を測定した。試料は顕微鏡用を併用し、荷重は50gfで測定した。ビッカース硬度は測定箇所(136°の頂角をもったダイヤモンド)を押し込んだ時の荷重と、それにより残された窪み(圧痕)の対角線長さから求めた表面積から算出される。

(5) EPMA調査

EPMA(日本電子製(株)JXA-8230)を用い、鉄滓や鉄中非金属介在物の組成を調査した。測定条件は以下の通りである。加速電圧:15kV、照射電流(分析電流):2.00E-8A。

(6) 化学組成分析

全鉄分(Total Fe)、金属鉄(Metallic Fe)、酸化第一鉄(FeO):容量法。

炭素(C)、硫黄(S):燃焼容量法、燃焼赤外吸収法。

二酸化硅素(SiO₂)、酸化アルミニウム(Al₂O₃)、酸化カルシウム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化カリウム(K₂O)、酸化ナトリウム(Na₂O)、酸化マンガン(MnO)、二酸化チタン(TiO₂)、酸化クロム(Cr₂O₃)、五酸化燐(P₂O₅)、バナジウム(V)、銅(Cu)、二酸化ジルコニウム(ZrO₂):ICP(Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer):誘導結合プラズマ発光分光分析法。

3. 調査結果

KNZ-1: 椀形鍛冶滓

(1) 外観観察: やや大形の椀形鍛冶滓(245.0g)である。広い範囲で黄褐色の土砂や茶褐色の錆化鉄が薄く付着するが、まとまった鉄部はみられない。滓の色調は灰褐色で弱い着磁性がある。表層部はやや風化気味で、上下面とも長さ15mm程の木炭痕が多数残存する。全体に気孔は少なく、緻密で重量感のある滓である。

(2) マクロ組織: 第VIII-14図①に示す。素地部分は鍛冶滓である。また写真右下の黒色部は木炭破片で、板目面が観察される。

(3) 顕微鏡組織: 第VIII-14図②③に示す。②の青灰色粒は錆化鉄である。内部にはセメントイト(Cementite:Fe₃C)痕跡が残存する。この過共析(C>

0.77%) 組織痕跡から、炭素量は1.5%前後の高炭素鋼と推定される。また③は滓部の拡大である。滓中には白色粒状結晶ウスタイト (Wustite : FeO)、淡灰色結晶ファヤライト (Fayalite : 2FeO·SiO₂) が晶出する。また中央の微小白色粒は金属鉄である。

(4) ビッカース断面硬度：第VIII-14図③の白色粒状結晶の硬度を測定した。硬度値は419、424、442Hvであった。ウスタイトの文献硬度値^(註1)(約450~500 Hv) よりもやや軟質の値であった。ただし結晶の色調と形状、さらに後述するEPMAの調査結果から、ウスタイトと推定される。また淡灰色結晶の硬度値は677Hvであった。ファヤライトの文献硬度値(約600~700Hv) の範囲内であり、ファヤライトと推定される。

(5) EPMA調査：第VIII-14図④に滓部の反射電子像

(COMP：第VIII-14図③の拡大)を示す。滓中の微小白色粒の定量分析値は101.9%Fe(分析点1)であった。金属鉄である。白色結晶の定量分析値は96.6%FeO(分析点2)であった。ウスタイト(Wustite : FeO)である。淡灰色結晶の定量分析値は60.8%FeO-4.3%MgO-2.7%CaO-30.6%SiO₂(分析点3)であった。ファヤライト(Fayalite : 2FeO·SiO₂)で、マグネシア(MgO)、ライム(CaO)を少量固溶する。素地部分の定量分析値は33.7%SiO₂-7.9%Al₂O₃-16.8%CaO-2.5%K₂O-4.6%P₂O₅-32.5%FeO(分析点5)であった。非晶質珪酸塩である。

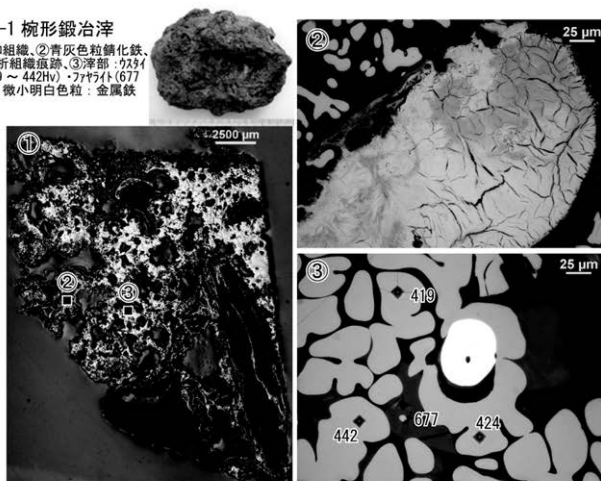
(6) 化学組成分析：第VIII-8表に示す。全鉄分(Total Fe)の割合が58.99%と高めであった。このうち金属鉄(Metallic Fe)は0.16%、酸化第1鉄(FeO)が56.56%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)21.26%であつた。

符号	遺跡名	遺構名	遺物名称	推定年代	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化 第1鉄 (FeO)	酸化 第2鉄 (Fe ₂ O ₃)	二酸化 珪素 (SiO ₂)	酸化 アルミ (Al ₂ O ₃)	酸化 カルシ (CaO)	酸化 マグネ (MgO)	酸化 カリウ (K ₂ O)	酸化 ナトリ (Na ₂ O)	酸化 チタン (TiO ₂)	酸化 クロム (Cr ₂ O ₃)	硫黄 (S)	五酸化 珪素 (P ₂ O ₅)	炭素 (C)	バナジ (V)	銅 (Cu)	二酸化 ジルコ (ZrO ₂)	造滓成分	
KNZ-1	金沢川	P42	椀形 鍛冶滓	7c中頃 ～後半	58.99	0.16	56.56	21.26	10.88	2.92	1.49	0.76	0.25	0.04	0.10	0.20	0.09	0.02	0.47	<0.01	<0.01	<0.01	16.34	
KNZ-2	金沢川	SK110	椀形 鍛冶滓	7c後半 ～8c初	44.35	0.11	40.82	17.89	26.82	6.98	0.68	0.39	0.60	0.12	0.04	0.35	0.05	0.03	0.26	0.37	<0.01	0.02	<0.01	35.59

第VIII-8表 金沢川遺跡(第2次) 供試材の化学組成

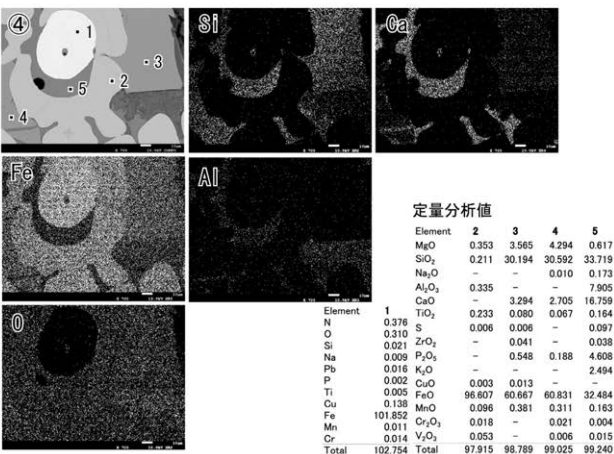
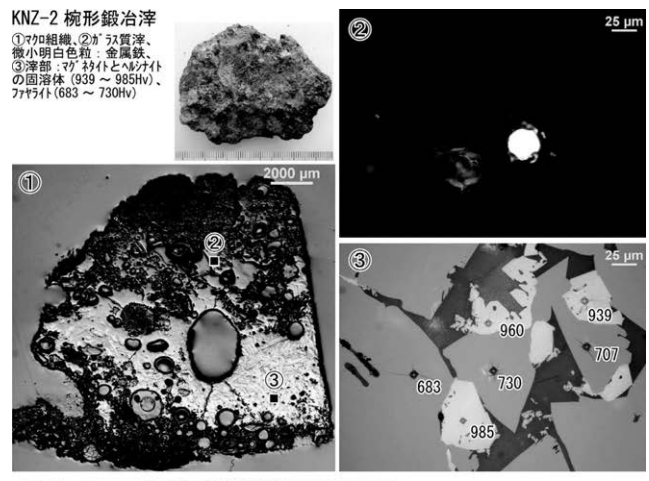
KNZ-1 椀形鍛冶滓

①7a加組織、②青灰色粒錆化鉄、
過共析組織痕跡、③滓部、733V
(419~442Hv)、7aワイト(677
Hv)、微小白色粒：金属鉄



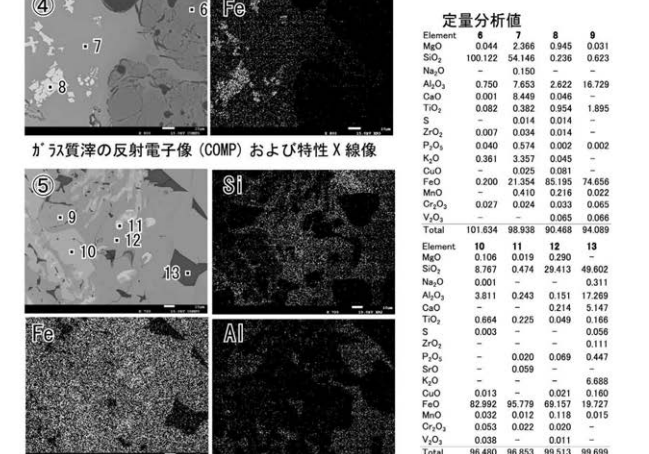
KNZ-2 椀形鍛冶滓

①7a加組織、②ガラス質、
微小白色粒：金属鉄、
③滓部、7aワイトとアル
ノの固溶体(939~955Hv)、
7aワイト(683~730Hv)



鍛冶滓の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

第VIII-14図 金沢川遺跡(第2次)の椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査1



鍛冶滓の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

第VIII-15図 金沢川遺跡(第2次)の椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査2

た。造滓成分 ($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$) の割合は16.34%と低めで、このうち塩基性成分 ($\text{CaO} + \text{MgO}$) は2.25%であった。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) 起源の二酸化チタン (TiO_2) は0.20%、バナジウム (V) が<0.01%、酸化マンガン (MnO) 0.10%と低値であった。銅 (Cu) も<0.01%と低値である。

当鉄滓は鉄酸化物の割合が高く、製鉄原料起源の脈石成分 [砂鉄 (TiO_2 、V)、塊状鉄鉱石 (CaO 、 MgO 、 MnO) など] はいずれも低値であった。この特徴から、主に熱間での鍛打加工時に鉄素材の吹き減り (酸化に伴う損失) で生じた鍛錬鍛冶滓と推定される。

KNZ-2 : 椀形鍛冶滓

(1) 外観観察 : やや小形で偏平な椀形鍛冶滓 (68.5g) である。広い範囲で黄褐色の土砂や茶褐色の銹化鉄が薄く付着するが、まとまった鉄部はみられない。上面側には黒色ガラス質滓が観察される。これは羽口先端の溶融物と推測される。鍛冶滓部分の色調は暗灰色で、着磁性は非常に弱い。全体に気孔は少なく緻密な滓である。また下面表層には淡褐色の鍛冶炉床土が付着する。

(2) マクロ組織 : 第VIII-15図①に示す。写真上側の黒灰～暗灰色部はガラス質滓である。内部には熱影響を受けた石英 ($\text{Quartz} : \text{SiO}_2$) などの砂粒が点在する。羽口先端の溶融物と推定される。これに対して、中央の明灰色部は鍛冶滓である。さらに写真下側の黒灰色部は鍛冶炉床土である。

(3) 顕微鏡組織 : 第VIII-15図②③に示す。②は上面のガラス質滓部分の拡大である。滓中の明白色粒は金属鉄である。また③は鍛冶滓部分の拡大である。滓中の灰褐色多角形結晶はマグネタイト ($\text{Magnetite} : \text{FeO} \cdot \text{Fe}_2\text{O}_3$) とヘルシナイト ($\text{Hercynite} : \text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$) を主な端成分とする固溶体と推定される。さらに淡灰色結晶ファヤライトが晶出する。

(4) ビッカース断面硬度 : 第VIII-15図③の灰褐色多角形結晶の硬度を測定した。硬度値は939、960、985Hvと硬質であった。マグネタイトとヘルシナイトを主な端成分とする固溶体と推定される。また淡灰色結晶の硬度値は683、707、730Hvである。ファヤライトの文献硬度値と比較すると、やや軟質の傾

向がみられる。ただし結晶の色調と形状、さらに後述するEPMAの調査結果から、ファヤライトと推定される。

(5) EPMA調査 : 第VIII-15図④にガラス質滓部分の反射電子像 (COMP) を示す。写真右側の暗灰色粒の定量分析値は100.1% SiO_2 (分析点6) であった。石英 ($\text{Quartz} : \text{SiO}_2$) である。素地の定量分析値は54.1% $\text{SiO}_2 - 7.7\% \text{Al}_2\text{O}_3 - 8.4\% \text{CaO} - 2.4\% \text{MgO} - 3.4\% \text{K}_2\text{O} - 21.4\% \text{FeO}$ (分析点7) であった。非晶質珪酸塩である。微細な灰褐色結晶の定量分析値は85.2% $\text{FeO} - 2.6\% \text{Al}_2\text{O}_3$ (分析点8) であった。マグネタイト ($\text{Magnetite} : \text{FeO} \cdot \text{Fe}_2\text{O}_3$) で、アルミナ (Al_2O_3) を少量固溶する。

もう1視野、鍛冶滓部分の組成を調査した。第VIII-15図⑤に反射電子像 (COMP) を示す。灰褐色多角形結晶の定量分析値は74.7% $\text{FeO} - 16.7\% \text{Al}_2\text{O}_3 - 1.9\% \text{TiO}_2$ (分析点9) であった。マグネタイト ($\text{Magnetite} : \text{FeO} \cdot \text{Fe}_2\text{O}_3$) とヘルシナイト ($\text{Hercynite} : \text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$) を主な端成分とする固溶体で、さらにチタニア (TiO_2) を少量固溶する。また部分的に確認された明灰色針状結晶の定量分析値は83.0% $\text{FeO} - 8.8\% \text{SiO}_2 - 3.8\% \text{Al}_2\text{O}_3$ (分析点10) であった。イスコライト ($\text{Iscoreite} : 5 \text{FeO} \cdot \text{Fe}_2\text{O}_3 \cdot \text{SiO}_2$) と推測される。白色粒状結晶の定量分析値は95.8% FeO (分析点11) で、ウスタイト ($\text{Wustite} : \text{FeO}$) と推定される。淡灰色柱状結晶の定量分析値は69.2% $\text{FeO} - 29.4\% \text{SiO}_2$ (分析点12) であった。ファヤライト ($\text{Fayalite} : 2 \text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$) と推定される。さらに素地部分の定量分析値は49.6% $\text{SiO}_2 - 17.3\% \text{Al}_2\text{O}_3 - 5.1\% \text{CaO} - 6.7\% \text{K}_2\text{O} - 19.7\% \text{FeO}$ (分析点13) であった。非晶質珪酸塩である。

(6) 化学組成分析 : 第VIII-8表に示す。全鉄分 (Total Fe) 44.35%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) は0.11%、酸化第1鉄 (FeO) が40.82%、酸化第2鉄 (Fe_2O_3) 17.89%の割合であった。造滓成分 ($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$) の割合は35.59%と高めであるが、このうち塩基性成分 ($\text{CaO} + \text{MgO}$) は1.07%と低値であった。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) 起源の二酸化チタン (TiO_2) は0.35%、バナジウム (V) が<0.01%と低値であった。また酸化マンガン (MnO) 0.10%、銅 (Cu) は0.02%と低値であった。

当鉄滓は主に鉄酸化物 (FeO) と炉材粘土 (SiO_2 主成分) の溶融物からなり、製鉄原料起源の脈石成

分〔砂鉄 (TiO₂、V)、塊状鉄鉱石 (CaO、MgO、MnO) など〕は低値であった。この特徴から、熱間での鍛打加工に伴う鍛錬鍛冶滓と推定される。

4. まとめ

金沢川遺跡 (第2次) 出土鉄滓2点 (KNZ-1、2) は、ともに鍛錬鍛冶滓と推定される。遺跡内で鉄素材を熱間で鍛打加工して、鍛造鉄器を製作したものと推定される。

椀形鍛冶滓 (KNZ-1) は鉄酸化物の割合が高く、主に熱間での鍛打加工時に鉄素材の吹き減り (酸化に伴う損失) で生じた滓と判断される。これに対して椀形鍛冶滓 (KNZ-2) は羽口先端の溶融物と推定される、黒色ガラス質滓部分が確認されるなど、

(注)

(1) 日刊工業新聞社1968『焼結鉄組織写真および識別法』ウスタイトは約450~500Hv、マグネタイトは約500~600Hv、ファイヤライトは約600~700Hvの範囲が提示されている。ウルボスピネル (Ulvospinel : 2FeO·TiO₂) の硬度値範囲の明記はないが、マグネタイト (Magneti

て : FeO·Fe₂O₃) と同じスピネル類の化合物で、チタニアを固溶するためマグネタイトよりも硬質である。ウルボスピネル組成であれば通常600Hv以上の値を示す。ヘルシナイト (Hercynite : FeO·Al₂O₃) はさらに硬質で1000Hvを超える。

て : FeO·Fe₂O₃) と同じスピネル類の化合物で、チタニアを固溶するためマグネタイトよりも硬質である。ウルボスピネル組成であれば通常600Hv以上の値を示す。ヘルシナイト (Hercynite : FeO·Al₂O₃) はさらに硬質で1000Hvを超える。

また椀形鍛冶滓 (KNZ-1) 中には、微細な錆化鉄粒が確認された (第VIII-14図②)。残存する金属組織の痕跡から、炭素量は1.5%前後の高炭素鋼と推定される。当遺跡で搬入された鉄素材の少なくとも一部は、鍛造鉄器の刃先などに適した高炭素材料=「刃金」で、こうした材料を熱間で鍛打加工して、鍛造鉄器を製作していたものと考えられる。

(日鉄テクノロジー株式会社 九州事業所)

第Ⅸ章 総括

今回、農地整備事業（経営体育成型）鈴鹿川沿岸6期地区に伴い、平成30年度から令和2年度にかけて5遺跡の発掘調査を行った。それぞれの調査区は狭小ではあるものの、それぞれの遺跡を縦横断する形となり、調査結果については一定の成果が得られた。また、金沢川とその支流である田古知川に挟まれた地区では、昭和50年代前半に深田遺跡や双ツ塚遺跡、塚越3号墳が、平成9年以降に天王遺跡の調査が実施されている¹⁾。これらの調査成果もあわせて、当該地域の遺跡分布の変化及び遺構や遺物の特記事項を概観することにより、総括としたい。

自然環境 当該地は、大きく分けると現在公共施設や住宅地の集中する南西部が台地となっており、そこから北東の金沢川へ向かって低くなり沖積地となっている。土地条件図から、金沢川下流域は金沢川と田古知川の合流地点近くに位置する天王遺跡・金沢川遺跡付近まで海が入り込み、入り江となっていたことがわかる。天王遺跡が台地部に、深田・双ツ塚西方・中島・双ツ塚・金沢川各遺跡が沖積地に展開している。

弥生時代 後期に、天王遺跡で2重の環濠が認められる。遺跡の東半は調査されていないため範囲は不明瞭であるが、ほぼ不整形円形に囲堯していたものと推定される。環濠内の当該期の様相は不明である。周辺遺跡では、深田遺跡・中島遺跡で当該期の遺構・遺物が認められるものの、数は少ない。

古墳時代 弥生終末～古墳初頭になると、沖積地で集落が形成される。微地形の状況がわかり、地形にあわせた土地利用をしているようである。特に深田遺跡1次B区・3次、中島遺跡B・D区、双ツ塚遺跡1～3次では、沖積地のなかでも微高地となる箇所に住居域が点在して認められる。居住域の縁辺部では、土師器甕内に土師器高杯脚部が入った状態で出土した中島遺跡SK323や残りが良い土器が一括で出土した双ツ塚遺跡3次SK4など特異な出土状況を示す土坑がみられる。また、居住域周辺には大小の凹地があった。なかでも中島遺跡C・E・F区の凹地部はグライ化した粘土層となっており、1～

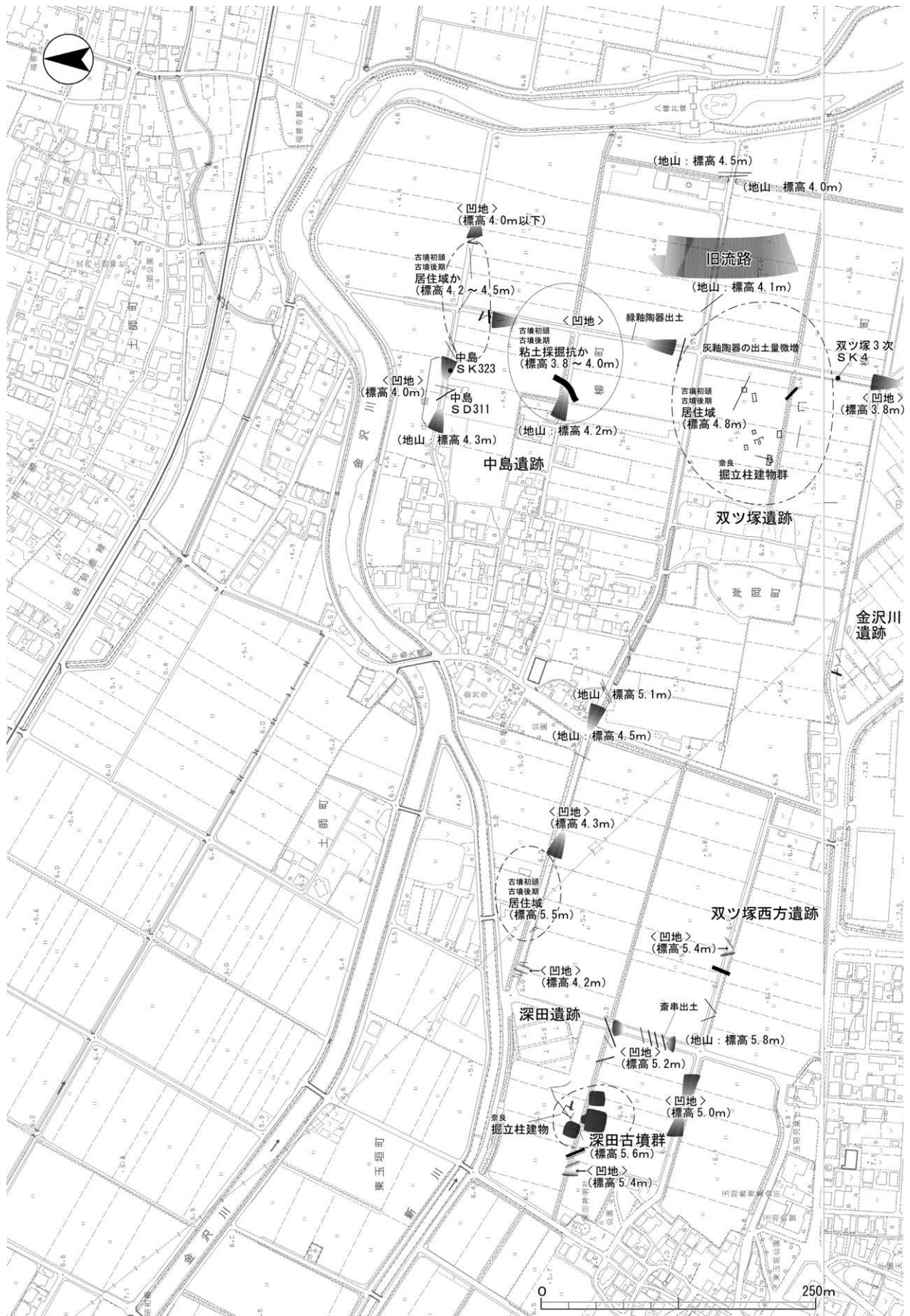
2m程度の不整形の土坑が多く確認された。掘形の肩が急勾配となるものが多いこと、埋土にブロック土が入るものが多いことなどから、粘土採掘坑の可能性が指摘される。金沢川遺跡でも当該期の遺構はみられるものの、その密度はかなり希薄である。

前期は深田遺跡3次、中島遺跡、双ツ塚遺跡1・2次で遺構・遺物は認められるが、弥生終末～古墳初頭の分布・密度と比較するとかなり希薄である。

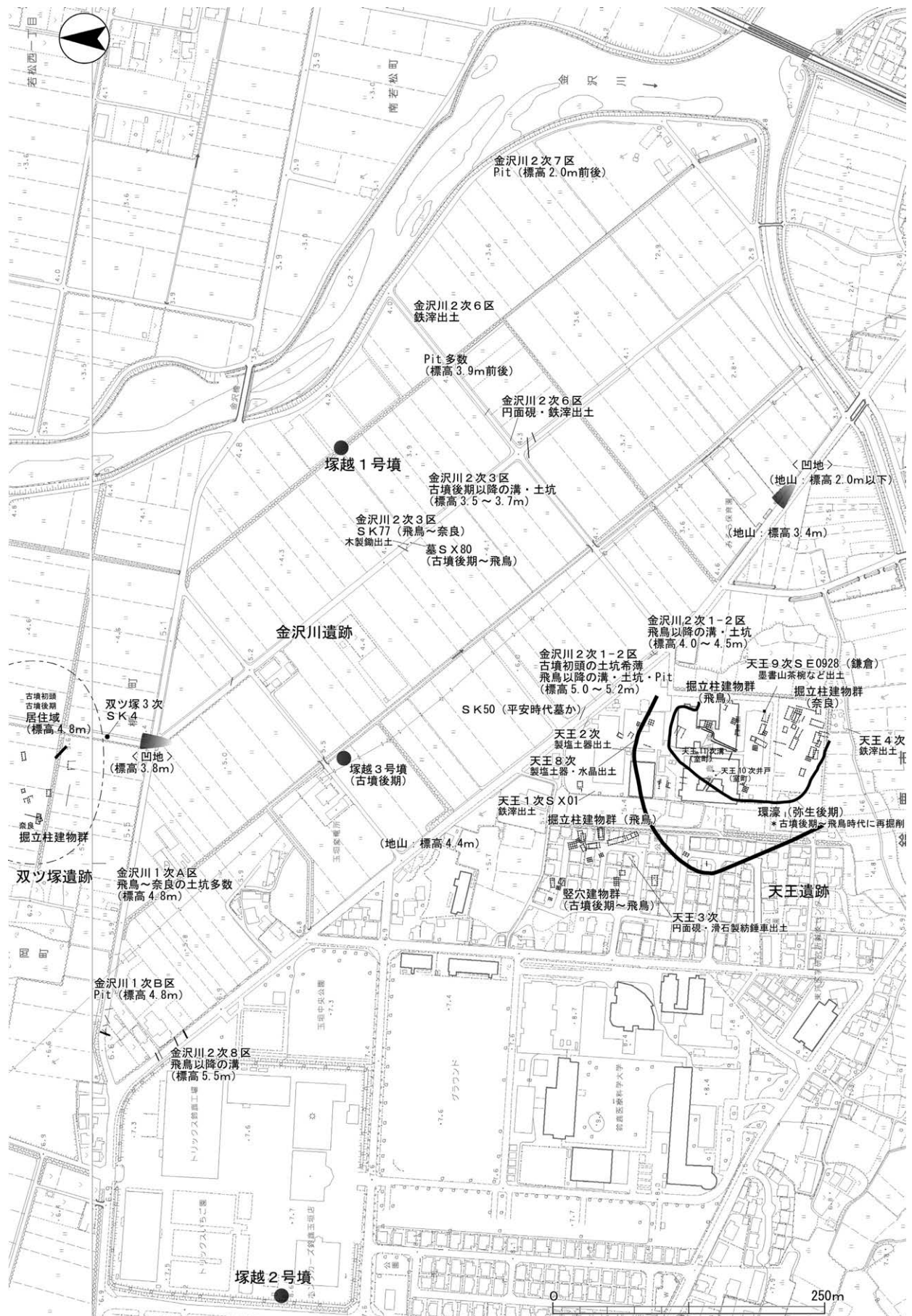
中期末～後期初頭を契機に、沖積地でも標高の高い西側で深田古墳群が築造される（深田遺跡1次A区・2次A区）。深田1号墳は一辺20.4m（周溝含む）の造出方墳と推定され、周溝から一定量の須恵器及び大量の埴輪が出土した。2号墳は一辺8m（内法）以上の方墳で、周溝内埋葬も認められた。3号墳は一辺15m程度（周溝含む）の方墳とみられる。しかし、深田古墳群の築造開始段階は、それ以外の遺跡では遺物量も少なく、居住域は捉えがたい状況である。近隣では深田古墳群の築造開始から約半世紀ほど後に、深田遺跡3次で堅穴建物が確認できるようになる。

後期は、深田古墳群よりも標高の低いエリアで塚越3号墳、金沢川遺跡2次SX80など、小規模の古墳や土壙墓が散見される。SX80から須恵器が11点出土したが、その中に岸岡山窯で特徴的な脚付短頸壺が含まれている。また、初頭段階で居住域となっていた箇所（深田遺跡3次・双ツ塚遺跡1・2次）で再び堅穴建物が確認されるようになる。中島遺跡B区では平面プランが捉えられなかったもののカマドは確認でき、当該期の遺物の包含量の多さからみても居住域であったと推定される。この段階に再び低地部での活動が活発になるようである。中島遺跡C区でも土坑の掘削が認められる。また、台地部でも天王遺跡3次で堅穴建物群が認められる。天王遺跡は弥生後期に環濠が造られたのち一定の空白期間があり、この段階を契機に居住域の形成がなされたようである。天王遺跡に隣接する金沢川遺跡でも、当該期の遺構は散見される。

古代 飛鳥・奈良時代は、天王遺跡で掘立柱建物群



第IX-1図 各遺跡調査概略図1 (1:5,000)



第IX-2図 各遺跡調査概略図2 (1:5,000)

が集中して認められる。7世紀中葉～8世紀後葉に遺跡内で場所を変えつつL字形やコの字形に配置された掘立柱建物群が確認されており、遺跡内でそれぞれの時期での中心的役割を果たしていたものと考えられている。漆の付着した須恵器、鉄製品、紡錘車、鉄滓などの出土から、手工業生産に関わる工房の存在も指摘されている。蹄脚硯をはじめとする硯の出土も天王遺跡の性格を考えるうえで特筆される。また、埋没あるいは埋没途上にあった弥生後期の環濠に沿うように溝を再掘削している。溝上層埋土から出土した須恵器群は岸岡山窯で焼かれた可能性が高い。それらは焼け歪みや融着・割れなどの不良品が目立つことから、須恵器の集積・選別・廃棄などの作業が行われていたことが想定されている。さらに、知多式製塩土器の出土から、海を介した物流交流の拠点と捉えられている。これらの状況から、7世紀後葉までの時期はミヤケ・豪族居宅・端的な評衙などが候補に挙げられ、8世紀代は国府・郡衙に付属する港湾施設が想定されている。金沢川遺跡は狭い調査区であるため遺構配置は明瞭ではないが、2次6区では柱穴が多く認められ、円面硯や鉄滓の出土など、天王遺跡と類似した様相である。また、双ツ塚遺跡1・2次では、奈良時代の掘立柱建物が複数棟確認されている。深田遺跡1次A区でも掘立柱建物が1棟認められる。一方、中島遺跡では当該期の遺物は認められるものの、遺構は少ない。これらの事から天王遺跡で想定されるような施設のエリアが少なくとも金沢川遺跡・双ツ塚遺跡辺りまで広がっていた可能性が高い。

平安時代は、金沢川遺跡2次1区・3区・6区・8区で溝・土坑・Pitなどが認められる。2次1区SK50からは土師器・灰釉陶器と共に鉄製槍鉋が出土し、墓の可能性が推定される。遺構の様相は不明

註

(1) 今回の本報告以外の発掘調査については、下記文献を参照した。

深田遺跡：三重県教育委員会1978「鈴鹿市東玉垣町深田遺跡」『昭和53年度県営圃場整備地域埋蔵文化財調査報告2』

双ツ塚遺跡：三重県教育委員会1978『三重県埋蔵文化財年報8 昭和52年度』／三重県教育委員会1979『三重県埋蔵文化財年報9 昭和53年度』／伊藤克幸2005「双ツ塚遺跡」『三重県史』資料編 考古1 三重県
塚越3号墳：三重県教育委員会1978「鈴鹿市岸岡町塚越3号墳」『昭和53年度県営圃場整備地域埋蔵文化財

調査報告2』
天王遺跡：鈴鹿市教育委員会1998『天王遺跡-第3次発掘調査報告-』／2002『天王遺跡(第5次)発掘調査報告』／鈴鹿市考古博物館2000『鈴鹿市考古博物館年報』1 平成10年度版／2001『鈴鹿市考古博物館年報』2 平成11年度版／2003『鈴鹿市考古博物館年報』4 平成12年度版／2004『鈴鹿市考古博物館年報』5 平成13年度版／2005『鈴鹿市考古博物館年報』6 平成14年度版／2006『鈴鹿市考古博物館年報』7 平成15年度版／林和範2008「天王遺跡」『三重県史』資料編 考古2 三重県

瞭であるが、双ツ塚遺跡3次及び中島遺跡G・H区で少量の灰釉陶器が認められ、中島遺跡G区からは緑釉陶器片も出土している。これらの状況から、飛鳥・奈良時代ほど濃密ではないが、継続して遺跡が広がっていたといえよう。
中世 鎌倉時代では、天王遺跡9次で確認されたSE0928からは、「上」「さうや?」「北寺」などの墨書山茶碗が出土した。中でも「北寺」の出土から伊勢神宮領である御厨の存在が想定されている。同11次では、御厨に関する施設又は倉庫の可能性が想定される掘立柱建物や井戸などが確認されている。深田遺跡2次A・B区では、SD3と6、SD11と15・17が直交する溝で区画溝の可能性が考えられる。中島遺跡・金沢川遺跡では遺物は認められるが、遺構は溝を確認した程度である。生活の拠点は台地及び沖積地でも標高の高い所が中心となったのだろう。

室町時代は、天王遺跡11次では区画溝が確認された。また、同10次では井戸2基とPitを確認しており、区画溝内の居住域が想定されている。当該の報告した遺跡では遺物が少量認められるが、遺構は少ない。

以上、時代ごとに概観した。天王遺跡を中心とした既往の調査成果に加え、今回の一連の調査で、沖積地部分の状況を垣間見ることができた。弥生終末～古墳時代初頭では微高地を中心に集落が形成された。古墳中後期には古墳や土壙墓が点在するようになり、改めて居住域が形成される。また、台地上にある天王遺跡でも居住域が認められる。古代以降は、天王遺跡で港湾施設が想定され、その範囲は双ツ塚遺跡・金沢川遺跡まで広がっていたとみられる。逆に中島遺跡では遺構が希薄となる。これは、金沢川の乱流の影響や田畠などの耕作地となっていたことによると推察される。(原田)



A区全景（東から）



A区全景（西から）



SD8（南東から）



SD8（東から）



SD8 遺物出土状況（西から）



SD8 遺物出土状況（北から）



SD8 完掘状況（北東から）



SD9（西から）



SK10検出状況（東から）



SD9 遺物出土状況（西から）



SK10（西から）



SD 2（南から）



SD 3（東から）



SD 4（北から）



SD 6（北から）



SD 12（北東から）



SD 13（北東から）



B4-7（南から）



B8-9（北から）



SD17（東から）



SZ16遺物出土状況（南から）



SZ16（南から）



SD18・B7 Pit 1（北から）



SD18・B7 Pit 1（西から）



SD19（西から）



SD20（南から）



SD21（南西から）



SD21（西から）



SD21・22（南から）



SK24（北から）



SK24（北から）



SZ23（南から）



C5-12（西から）



C14-17（西から）



C21-25（西から）



SD25・SZ26（西から）



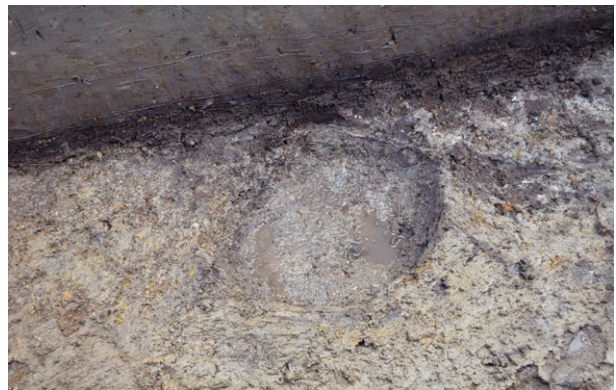
SD25（南から）



SK27（南西から）



SR28（北から）



SK27（南から）



SR28（東から）



d1-4（東から）



d5-9（西から）



d10-15（西から）



d16-22（西から）



d28-32（東から）



d31-32（西から）



d33-36（西から）



d37-38 (西から)



d39-41 (西から)



d41-44 (西から)



d45-46 (南から)



d49-50 (西から)



d47-48 (西から)



d50-51 (西から)



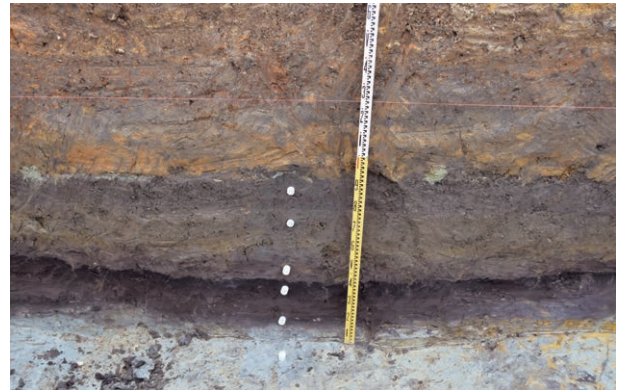
SD31（北西から）



SZ33（西から）



SD31（北東から）



SZ33土壌試料採取状況（北から）



SD37（北東から）



SK39（北西から）



SD37（北東から）



SD43・45（北東から）



SH49（東から）



SH76、SD55・56（北西から）



SH53（北西から）



SK57（南西から）



SH58（北西から）



SH61（北西から）



SH66（北西から）



SH58（北西から）



d21 Pit3、SH66炉跡（南から）



SZ67（北東から）



SZ67・SD69（北西から）



SH68（北東から）



SH68（西から）



SH68（北から）



SH68（北東から）



SD72（北西から）



SZ71（北東から）



SD73（北西から）



A区出土遺物 1



A区出土遺物 2



A区出土遺物 3



195



200



203



204



211



217



220



231



215



217



221



241



227



230



244



246



248



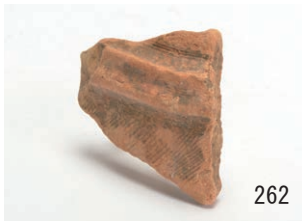
250



257



270



262



273

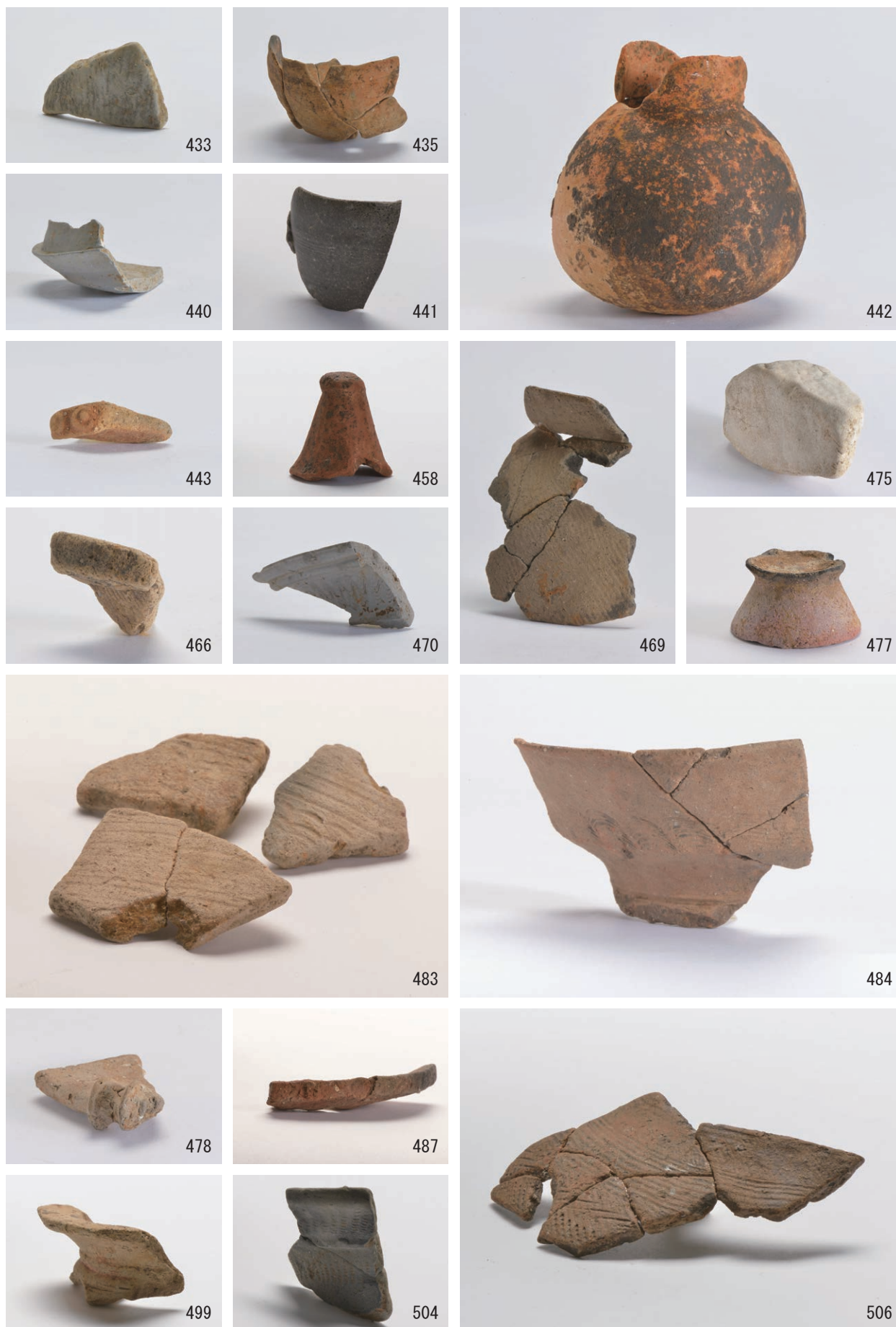
A区出土遺物 4



A~C区出土遺物



D区出土遺物 1



D区出土遺物 2



A2-5 (西から)



A2-7 (東から)



A9-18 (東から)



A18-24 (西から)



A25-37 (西から)



A37-49 (東から)



SD 1 (東から)



SZ 2 (西から)



SD 1 (南東から)



SK 3 (東から)



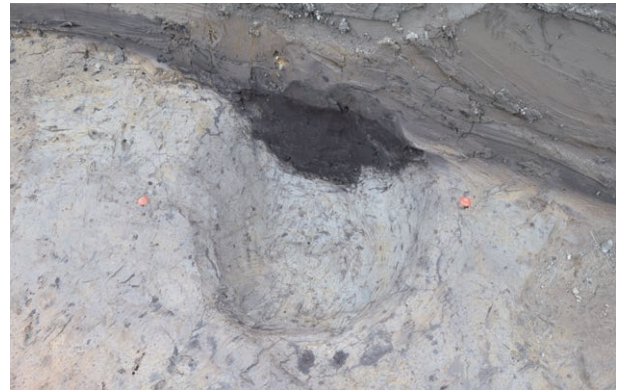
SK 4 (北から)



SK 4・5 (北西から)



SK 4 (北から)



SK 6 (北から)



SK 6・7 (東から)



SK 7 (西から)



A48・49Pit (東から)



出土遺物



A6・7 (東から)



作業風景 (西から)



SD2付近土層 (北西から)



A11 (北から)



A6-10 (東から)



調査前風景（東から）



B4-6（西から）



B1-3（東から）



B1-6（東から）



B7-10（西から）



B11-16 (東から)



B16-21 (東から)



B11-20 (西から)



SK101 (西から)



SD102 (南東から)



SF136 (南西から)



SF137下土坑 (北東から)



SF137 (西から)



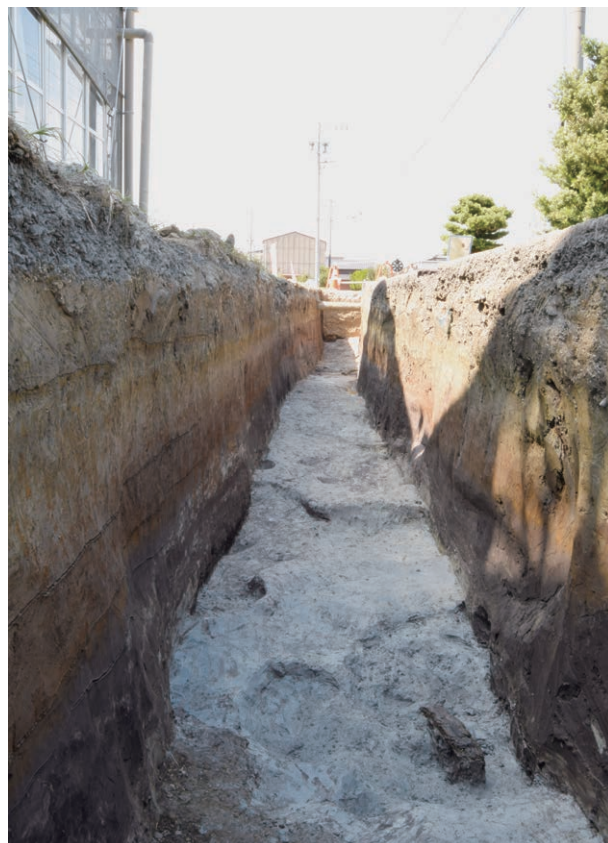
SH115 (北西から)



C3・4 (東から)



土壤サンプル採取状況 (北から)



C5・6 (東から)



C8-11(西から)



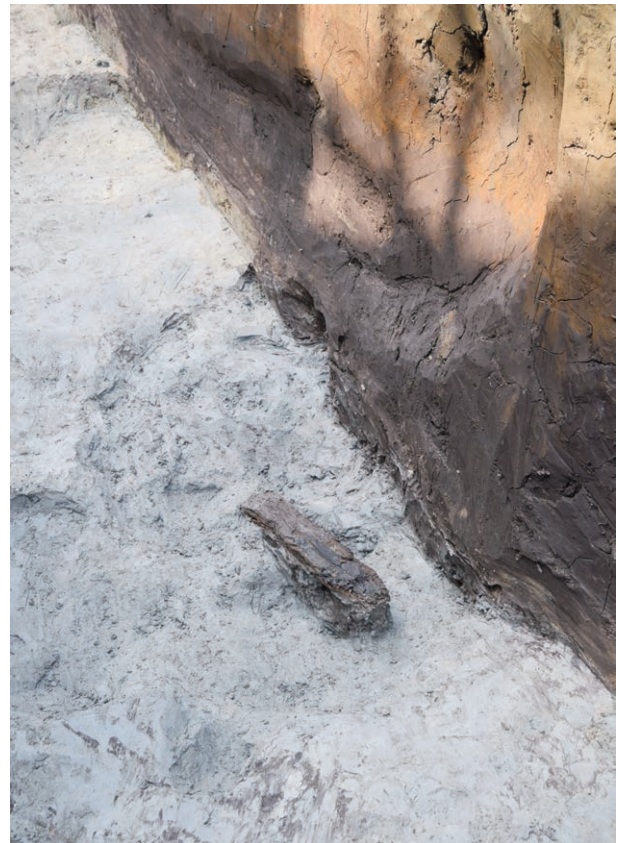
C11-15(東から)



C19・20(東から)



C4 木出土状況(東から)



SK208(南東から)



SK214(北から)



SK215(南西から)



SK218(北から)



SK215(西から)



SK217(東から)



D1-3(西から)



D2(北西から)



D15-17(東から)



D17-21(西から)



SE322(北から)



SE322(北東から)



SD311(東から)



SK323 (北東から)



SK323 (北から)



SK323 (北から)



SD325 (北東から)



D15 Pit8 (南から)



SH330 (西から)



SD335・336 (北から)



E1 (南から)



E2-4 (北から)



E4-6 (南から)



E9-11 (北から)



E11・12(南から)



E13・14(北から)



E15・16(南から)



E17(北から)



E17・18(北から)



E18・19(北から)



E19-22(北から)



SK403(南から)



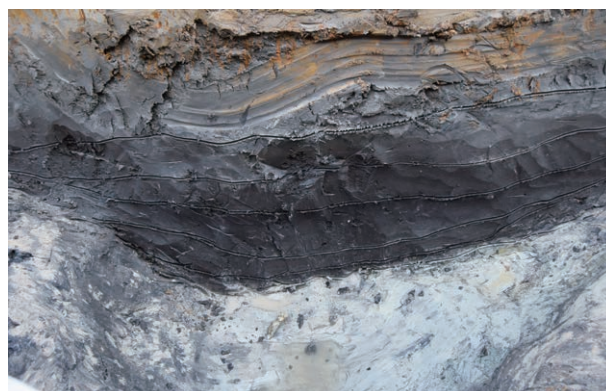
SK404 (南から)



SK406 (東から)



SK404 (東から)



SK406 (西から)



SD407 (東から)



SD408 (南東から)



SD407 (西から)



SK409 (西から)



SD410 (北から)



SD411 (北から)



SD410 (北西から)



SD411 (南から)



SD411 (南東から)



SD412 (南東から)



E18 包含層遺物出土状況(東から)



SD416(東から)



SD415(東から)



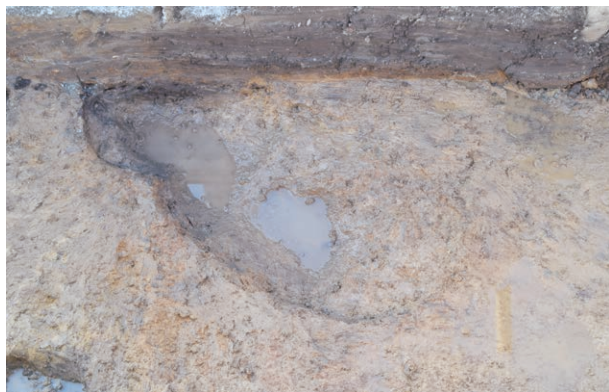
SD417(南東から)



SD419(東から)



SK420(東から)



SK421(西から)



SK422(東から)



F区全景(西から)



F区全景(東から)



G1-2 (北から)



G2-3 (南から)



G3-5 (南から)



G5-8 (北から)



G8-10(南から)



G11-14(北から)



G14-18(南から)



G14-18(北から)



G19-24(南から)



G19-24(北から)



G23・24(北から)



SD601 (西から)



SD602 (北西から)



SD603・604 (南東から)



SK605 (南から)



SD606 (北から)



SK605 (南東から)



SK607 (東から)



SK608 (西から)



SK609 (南から)



SK608 (北西から)



SK609 (南から)



SK610 (南東から)



SK612 (南西から)



SK611 (南東から)



SE613 (東から)



H1・2 (西から)



H3-5 (南西から)



H5-7 (西から)



H9・10(東から)



H10・11(南西から)



H11・12(西から)



H11-13(西から)



H16-18(西から)



H18-21 (西から)



H21-24 (西から)



H26-28 (西から)



H29・30 (西から)



H30-32 (西から)



H33-35 (西から)



SD707 (南東から)



SD708 (西から)



SD708 (南から)



A・B区出土遺物



B・C区出土遺物



C区出土遺物





D区出土遺物 1



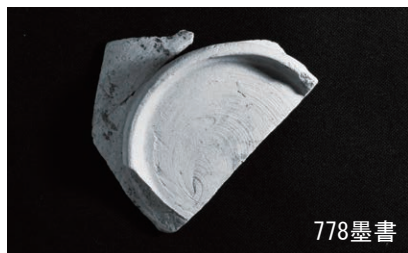
D区出土遺物 2



D・E区出土遺物



E・F区出土遺物





a1-6(北から)



a5-13(北から)



a13-18(南から)



SD 2・3 (北から)



SK 4 (北東から)



SK 4 (南西から)



SK 4 (北西から)



SK 4 (東から)



SK 4～7 (北東から)



SZ 9 (北東から)



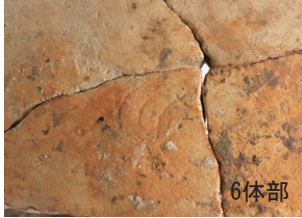
a11 Pit(北東から)



b区全景(南から)



1



6体部



3



4



6



5



8



9



7



10



13



18



11

a区出土遺物 1



12



14



15



16



20



27



28



30



36



39口縁部



40体部下半



39台部



44



40

a区出土遺物2



a区出土遺物 3



A1区全景(東から)



A1区SK1断面(東から)



A2区全景(東から)



A3区全景(東から)



A4・5区全景(南西から)



A6区全景(西から)



A7区全景(東から)



A8区全景(東から)



A9区全景(東から)



B1区全景(東から)



B2区全景(東から)



B3区全景(東から)



B4・5区全景(西から)



B6・7区全景(東から)



B8区全景(東から)



B9・10区全景(東から)



B11・12区全景(東から)



B13・14区全景(西から)



B15区全景(東から)



B16・17区全景(東から)



B16区SF26断面(南から)



B16区SF26(東から)



B18・19区全景・SK28(南東から)



C1～5区全景(西から)



C1～5区全景(東から)



C1区SD30・SK32(東から)



C1区SK31(北から)



C1区SK32南側断面(北から)



C3区SK29南側断面(北から)



1-1区全景(西から)



1-3区全景(西から)



1-5区全景(西から)



1-9区全景(南から)



1-10区全景(西から)



1-12区全景(西から)



1-14区SK48遺物出土状況(北から)



1-16区全景(西から)



1-19区全景(北から)



1-24区全景(北西から)



1-25区全景(北西から)



1-26区全景(北西から)



1-28区全景(北西から)



2-1区全景(北西から)



2-2区全景(北西から)



2-3区全景(南東から)



2-5区全景(西から)



2-6区全景(西から)



2-4区全景(南東から)



2-8区全景(西から)



2-11区全景(西から)



2-7区全景(西から)



2-12区全景(西から)



2-13区全景(西から)



2-21区全景(南から)



2-22区全景(南から)



2-24区全景(南から)



2-25区全景(南から)



3-9区全景(北東から)



3-10区全景(北から)



3-11区全景(南東から)



3-12区全景(北東から)



3区SX80遺物出土状況(東から)



3区SX80(南から)



3区SK86遺物出土状況(南から)



3区SK89(南から)



3-16区全景(西から)



3-17区全景(西から)



4-10区全景(西から)



5-1区全景(西から)



5-2区東半全景(西から)



5-2区西半全景(西から)



6-0区Pit2円面硯出土状況(東から)



6-3区Pit32柱根出土状況(東から)



6区SK108(東から)



6-3区全景(北から)



6-2区全景(北から)



6-4区全景(北から)



6-5区全景(北から)



6-6区全景(北から)



7-1区全景(西から)



7-3区全景(西から)



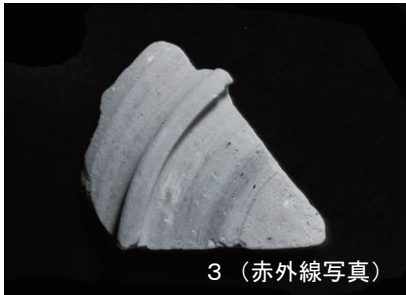
7-4区全景(西から)



8-5区全景(東から)



8-6区全景(西から)



出土遺物 1



出土遺物 2



34



35



36



37



40



41



42



39



43

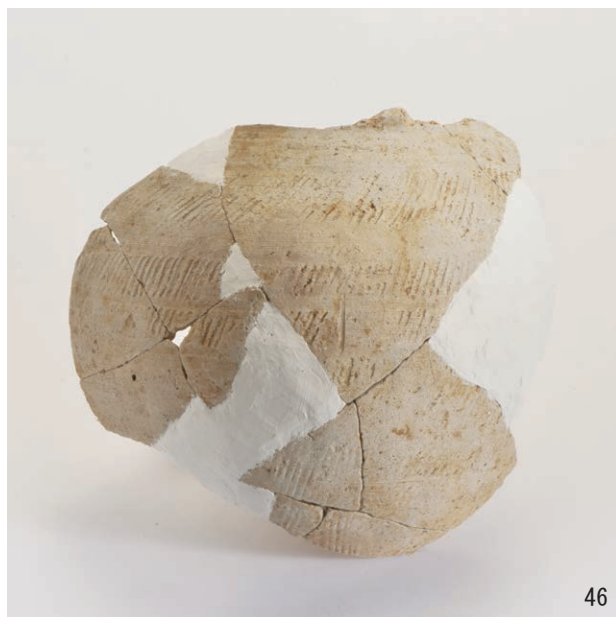


38外面



38内面

出土遺物 3



出土遺物 4



55



56



57



60



59



58



63



62



61



64

出土遺物5



65



68



70



66



69



71



72



67



73



74

出土遺物6



出土遺物 7



出土遺物 8



出土遺物9



出土遺物10



出土遺物11



179



177



176



180



178



181



184



185



183



182



186



188



187



189



191



192



190



193



報告書抄録

ふりがな	ふかだこふんぐん ふかだいせき (だいに・さんじ) ふたつづかせいほういせき なかしまいせき ふたつづかいせき (だいさんじ) かなさいがわいせき (だいいち・にじ) はつくつちょうさほうこく							
書名	深田古墳群 深田遺跡 (第2・3次) 双ツ塚西方遺跡 中島遺跡 双ツ塚遺跡 (第3次) 金沢川遺跡 (第1・2次) 発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	413							
編著者名	穂積裕昌 原田恵理子 土橋明梨紗							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596-52-1732							
発行年月日	2023年3月9日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふかだこふんぐん 深田古墳群	すずかし ひがしたまがきちやう 鈴鹿市 東玉垣町	24207	1350 1351 1352	34度51分53秒	136度35分44秒	20181015 ~ 20181218 20191105 ~ 20200110	1,265㎡ 504㎡ 1,890㎡ 228.06㎡ 2,710㎡	農地整備 事業 (経 営体育成 型) 鈴鹿 川沿岸6 期地区
ふかだいせき 深田遺跡	すずかし ひがしたまがきちやう 鈴鹿市 東玉垣町	24207	815	34度51分52秒	136度35分50秒			
ふたつづかせいほういせき 双ツ塚西方遺跡	すずかし ひがしたまがきちやう 鈴鹿市 東玉垣町	24207	691	34度51分48秒	136度35分52秒	20181219 ~ 20190222		
なかしまいせき 中島遺跡	すずかし やなまらちなかしま 鈴鹿市 柳町 中島	24207	874	34度51分53秒	136度36分11秒	20190902 ~ 20200120		
ふたつづかいせき 双ツ塚遺跡	すずかし やなまらちふたつづか 鈴鹿市 柳町 双ツ塚	24207	690	34度51分46秒	136度36分15秒	20200114 ~ 20200127		
かなさいがわいせき 金沢川遺跡	すずかし きしおからちやう 鈴鹿市 岸岡町	24207	714	34度51分33秒	136度36分21秒	20190716 ~ 20190903 20200804 ~ 20210204		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
深田古墳群	古墳	古墳	周溝	土師器、須恵器、埴輪				
深田遺跡	集落跡	弥生～中世	竪穴建物、土坑、溝	弥生土器、土師器、須恵器、埴輪、陶器、磁器、木製品 (斎串)、砥石				
双ツ塚西方遺跡	散布地	弥生～中世	土坑、溝	弥生土器、土師器、須恵器、埴輪、陶器、犬形土製品、瓦、金属製品 (葉莢)				
中島遺跡	集落跡	弥生～中世	竪穴建物、土坑、溝	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、瓦、砥石				
双ツ塚遺跡	集落跡	弥生～中世	土坑、溝	弥生土器、土師器、須恵器、陶器				
金沢川遺跡	集落跡	弥生～中世	柱穴、土坑、	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、瓦、槍鉋、鉄滓、木製品 (鋤)				
要旨	<p>今回の発掘調査は、標高4.6～6m程度の金沢川下流沖積地に立地し、金沢川遺跡付近まで入り江であったとみられている所で複数の遺跡を対象に行われた。</p> <p>深田古墳群は、造出をもつ方墳である1号墳、周溝内埋葬を伴う2号墳、方墳である3号墳で構成され、5世紀末～6世紀初頭を契機に築造された。1号墳は周溝から多数の埴輪が出土した。</p> <p>深田遺跡・中島遺跡・双ツ塚遺跡では、弥生時代終末～古墳時代初頭の集落を確認した。当時の微高地に居住域が認められ、微地形にあわせて土地利用をしていた様子がうかがえる。古墳時代後期もほぼ同じ範囲で集落が形成された。</p> <p>金沢川遺跡では、古墳時代後期の土壇墓、古代の溝・土坑・柱穴などを確認した。大型食器や硯、鉄滓出土もあり、南側台地上に、公的機関にかかる港湾施設と想定される天王遺跡が所在し、天王遺跡との関連が考えられる。</p> <p>双ツ塚西方遺跡は、微凹地で古代とみられる溝を確認した。出土遺物は、犬形土製品、葉莢が特筆される。</p>							

三重県埋蔵文化財調査報告413

深田古墳群 深田遺跡 (第2・3次)
双ツ塚西方遺跡 中島遺跡 双ツ塚遺跡 (第3次)
金沢川遺跡 (第1・2次) 発掘調査報告
～鈴鹿市東玉垣町・柳町・岸岡町所在～

2023 (令和5)年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター
 印刷 共立印刷株式会社

